

#### 4. モニタリング調査としての継続性に関する考察

2002年度より実施している「モニタリング調査」は、2001年度以前に実施していた「生物モニタリング」、「水質・底質モニタリング」、「指定化学物質等検討調査」、「非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査」及び「指定化学物質等検討調査」等の調査を包括した新たな体系として調査を実施している。

ここでは2002年度以降に実施しているモニタリング調査について記述する。

##### (1) 調査対象物質及び媒体の推移

参考として示した物質（群）を含めて本書に掲載しているモニタリング調査対象物質の年度別実施状況は表4のとおりである。

2002年度に、PCB類、HCB（ヘキサクロロベンゼン）、アルドリン、ディルドリン、エンドリン、DDT類、クロルデン類及びヘプタクロルについて全媒体で、 $\alpha$ -HCH及び $\beta$ -HCHについて水質、底質及び生物でそれぞれ調査対象物質として調査を開始した。2003年度からは、*cis*-ヘプタクロルエポキシド、*trans*-ヘプタクロルエポキシド、トキサフェン類、マイレックス、 $\gamma$ -HCH（別名：リンデン）及び $\delta$ -HCHについて全媒体で、 $\alpha$ -HCH及び $\beta$ -HCHについて大気それぞれ調査対象物質に追加し、2009年度までこれらの物質について全媒体での調査を継続した。

2004年度には、表3には示していないその他の調査対象物質としてHBB（全媒体）及びジオクチルスズ化合物（水質、底質及び生物）について調査を実施した。2005年度には、表4には示していないその他の調査対象物質としてBHT（底質、生物及び大気）並びにジベンゾチオフェン及び有機スズ化合物（水質、底質及び生物）について調査を実施した。2006年度は、ポリ塩化ナフタレン類（生物）並びに表4には示していないその他の調査対象物質として2,4,6-トリ-*tert*-ブチルフェノール（生物及び大気）、2-クロロ-4-エチルアミノ-6-イソプロピルアミノ-1,3,5-トリアジン（別名：アトラジン）、2,2,2-トリクロロ-1,1-ビス(4-クロロフェニル)エタノール（別名：ケルセン又はジコホル）、フタル酸ジ-*n*-ブチル、ジオクチルスズ化合物及びりん酸トリ-*n*-ブチル（生物）について調査を実施した。2007年度には、ペンタクロロベンゼン（全媒体）及びヘキサクロロブタ-1,3-ジエン（水質、底質及び生物）並びに表4には示していないその他の調査対象物質としてアクリルアミド、テトラブロモビスフェノールA及びヘキサブロモベンゼン（水質、底質及び生物）並びにトリクロロベンゼン類及びテトラクロロベンゼン類（大気）について調査を実施した。2008年度には、クロルデコン（水質、底質及び生物）、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）（生物）及びポリ塩化ナフタレン類（全媒体）並びに表4には示していないその他の物質としてジオクチルスズ化合物、ジベンゾチオフェン、2,2,2-トリクロロ-1,1-ビス(4-クロロフェニル)エタノール（別名：ケルセン又はジコホル）、フタル酸ジ-*n*-ブチル及びりん酸トリ-*n*-ブチル（水質、底質及び生物）、2-クロロ-4-エチルアミノ-6-イソプロピルアミノ-1,3,5-トリアジン（別名：アトラジン）（水質及び底質）、*N,N'*-ジフェニル-*p*-フェニレンジアミン類（水質）、2,6-ジ-*tert*-ブチル-4-メチルフェノール（別名：BHT）及び2,4,6-トリ-*tert*-ブチルフェノール（全媒体）について調査を実施した。2009年度には、ヘキサブロモビフェニル類、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びペルフルオロオクタン酸（PFOA）（水質、底質及び生物）、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）（水質、底質及び大気）並びにペンタクロロベンゼン（大気）並びに表4には示していないその他の物質としてテトラクロロベンゼン類（大気）について調査を実施した。

このような中、2009年5月にCOP4が開催され、HCH類、クロルデコン、ヘキサブロモビフェニル類、ポリ

ブロモジフェニルエーテル類、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びペンタクロロベンゼンが新規にPOPs条約対象物質として採択された。これを受けて調査頻度の見直しを行い、それらPOPs条約対象物質については毎年度の調査とすることとした一方で、2002年度又は2003年度から毎年度の調査が行われていた従前のPOPs条約対象物質であるPCB類、HCB（ヘキサクロロベンゼン）、アルドリン、ディルドリン、エンドリン、DDT類、クロルデン類、ヘプタクロル類、トキサフェン類及びマイレックスのうち、アルドリン、ディルドリン、エンドリン、DDT類、トキサフェン類及びマイレックスについては、数年おきの調査とすることとした。

2010年度は、POPs条約の発効当初から指定される物質のうちPCB類、HCB（ヘキサクロロベンゼン）、DDT類、クロルデン類及びヘプタクロル類の5物質（群）並びに新規にPOPs条約対象物質として採択されたHCH類、クロルデコン、ヘキサブロモビフェニル類、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びペンタクロロベンゼンの6物質（群）について全媒体の調査を実施したほか、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）（全媒体）並びに表4には示していないその他の物質としてトリブチルスズ化合物、トリフェニルスズ化合物（水質、底質及び生物）及び*N,N'*-ジフェニル-*p*-フェニレンジアミン類（大気）について調査を実施した。

2011年度は、POPs条約対象物質のうちPCB類、HCB（ヘキサクロロベンゼン）、ディルドリン、エンドリン、クロルデン類、ヘプタクロル類、マイレックスの7物質（群）、HCH類、クロルデコン、ヘキサブロモビフェニル類、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びペンタクロロベンゼン並びに2011年4月に開催されたCOP5で新規にPOPs条約対象物質として採択されたエンドスルファン類について全媒体の調査を実施したほか、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）（全媒体）及び1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類（水質、底質及び生物）並びに表4には示していないその他の物質として*N,N*-ジメチルホルムアミド（水質、底質及び大気）について調査を実施した。

2012年度は、POPs条約対象物質のうちPCB類、HCB（ヘキサクロロベンゼン）、クロルデン類、HCH類、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）、ペンタクロロベンゼン及びエンドスルファン類について全媒体で、ヘプタクロル類について生物及び大気で、1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類について底質、生物及び大気で調査を実施したほか、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）（全媒体）及び表3には示していないその他の物質として2-(2*H*-1,2,3-ベンゾトリアゾール-2-イル)-4,6-ジ-*tert*-ブチルフェノール（水質、底質及び生物）について調査を実施した。

2013年度は、POPs条約対象物質のうちPCB類、HCB（ヘキサクロロベンゼン）、クロルデン類、HCH類及びペンタクロロベンゼンについて全媒体で、DDT類及びヘプタクロル類について生物及び大気で、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）について大気で調査を実施したほか、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）（大気）及びヘキサクロロブタ-1,3-ジエン（水質、底質及び生物）について調査を実施した。

2014年度は、従前のPOPs条約対象物質のうちPCB類、HCB（ヘキサクロロベンゼン）、HCH類、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びペンタクロロベンゼンについて全媒体で、アルドリン及びエンドスルファン類について生物及び大気で、ディルドリン、エンドリンについて水質、生物及び大気で、DDT類及びヘプタクロル類について水質及び底質で、COP6で新規にPOPs条約対象物質として採択された1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類について水質、生物及び大気で調査を実施したほか、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）（全媒体）及びポリ塩化ナフ

タレン類（大気）について調査を実施した。

2015年度は、従前のPOPs条約対象物質のうちPCB類、HCB（ヘキサクロロベンゼン）、HCH類、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及びペンタクロロベンゼンについて全媒体で、DDT類について大気で、ヘプタクロル類及びエンドスルファン類について生物及び大気で、トキサフェン類について生物で、ヘキサブロモビフェニル類及び1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類について底質、生物及び大気で、COP7で新規にPOPs条約対象物質として採択されたポリ塩化ナフタレン類について生物で、ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンについて大気で、ペンタクロロフェノールについて水質で調査を実施したほか、POPs条約対象物質とする必要性について検討されているペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOA）について全媒体で調査を実施した。

2016年度は、従前のPOPs条約対象物質のうちPCB類、HCB（ヘキサクロロベンゼン）、HCH類、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）及びペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）について全媒体で、クロルデン類、ヘプタクロル類及びペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類について生物及び大気で、ペンタクロロベンゼン、1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類（ $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン）及びポリ塩化ナフタレン類について底質、生物及び大気で、エンドスルファン類及びヘキサクロロブタ-1,3-ジエンについて大気で、COP8で新規にPOPs条約対象物質として採択された短鎖塩素化パラフィン類について生物及び大気で調査を実施したほか、POPs条約対象物質とする必要性について検討されているペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOA）について全媒体で、ジコホルについて大気で調査を実施した。

2017年度は、POPs条約対象物質のうちPCB類、HCB（ヘキサクロロベンゼン）、HCH類、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）、ペンタクロロベンゼン、ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類及び短鎖塩素化パラフィン類について全媒体で、クロルデン類及びヘプタクロル類について水質及び底質で、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）及び1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類（ $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン）について生物及び大気で、ポリ塩化ナフタレン類について底質、生物及び大気で、ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンについて大気で調査を実施したほか、POPs条約対象物質とする必要性について検討されているペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOA）について生物及び大気で調査を実施した。

2018年度は、POPs条約対象物質のうちPCB類、HCB（ヘキサクロロベンゼン）、トキサフェン類、マイレックス、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）、ペンタクロロベンゼン、ポリ塩化ナフタレン類、ペンタクロロフェノールとその塩及びエステル類並びに短鎖塩素化パラフィン類について全媒体で、アルドリル、ディルドリン及びエンドリンについて底質で、DDT類について生物及び大気で、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOA）及びエンドスルファン類について水質及び底質で、1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類（ $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン）及びジコホルについて生物で、ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンについて大気で調査を実施したほか、POPs条約対象物質とする必要性について検討されているペルフルオロヘキサンスルホン酸（PFHxS）について水質及び底質で調査を実施した。

なお、HCH類の大気については、2003年度から2008年度に用いた大気試料採取装置の一部からHCH類が検出され、HCH類の測定に影響を及ぼすことが判明したが、個別のデータについて影響の有無を遡って判断することが困難であるため、この期間の全てのデータについて欠測扱いとすることとした。

## (2) 調査地点の推移

モニタリング調査の年度別調査地点の状況は表5-1から表5-4のとおりである。

### 1) 水質

2002年度及び2003年度は38地点、2004年度は40地点、2005年度は47地点、2006年度から2008年度は48地点、2009年度から2011年度は49地点、2012年度から2016年度は48地点、2017年度は47地点における調査であった。

2018年度は、2017年度と同一の47地点において調査を実施した。

### 2) 底質

2002年度は63地点、2003年度は62地点、2004年度及び17年度は63地点、2006年度から2011年度は64地点、2012年度から2014年度は63地点、2015年度から2017年度は62地点における調査であった。

2018年度は、天塩川恩根内大橋上流カヌー乗り場（美深町）が外れ、61地点において調査を実施した。

### 3) 生物

2002年度は23地点（うち1地点は2生物種を調査）、2003年度は三浦半島のムラサキイガイ及び萩市見島のムラサキインコガイの2地点が外れ21地点、2004年度には高松港のムラサキイガイが新規追加され、洞海湾のムラサキイガイがムラサキインコガイに変更され22地点、2005年度は釧路沖のシロサケ及び姫路沖のスズキが新規追加され、高松港のムラサキイガイがイガイに、洞海湾のムラサキインコガイがムラサキイガイに変更され23地点（うち2地点は2生物種を調査）、2006年度及び2007年度も2005年度と同一の23地点、2008年度は大分川河口（大分市）のスズキが新規追加され24地点（うち2地点は2生物種を調査）、2009年度は、名古屋港のボラが新規追加され、洞海湾のムラサキイガイがムラサキインコガイに変更され25地点（うち2地点は2生物種を調査）、2010年度は、能登半島沿岸のムラサキイガイが外れ、横浜港のムラサキイガイがミドリイガイに、洞海湾のムラサキインコガイがムラサキイガイに変更され24地点（うち2地点は2生物種を調査）における調査であった。2011年度は、能登半島沿岸のムラサキイガイが再追加され、蕪島のウミネコ、山田湾のムラサキイガイ及びアイナメ並びに鳴門のイガイが外れ、サンマが常磐沖から三陸沖に変更され、仙台湾（松島湾）のスズキがアイナメに、横浜港のミドリイガイがムラサキイガイに、高松港のムラサキイガイがボラに変更され22地点（うち1地点は2生物種を調査）、2012年度は、蕪島のウミネコ並びに山田湾のムラサキイガイ及びアイナメが再追加され、サンマが三陸沖から常磐沖に再変更され24地点（うち2地点は2生物種を調査）において調査を実施した。2013年度は、蕪島のウミネコ並びに盛岡市郊外のムクドリの調査が廃止され、琵琶湖北湖（竹生島沖）及び天神川（倉吉市）のカワウが追加され、24地点（うち2地点は2生物種を調査）において調査を実施した。2014年度は、サンマが常磐沖から三陸沖に再変更され、島根半島沿岸七瀬湾並びに洞海湾のムラサキイガイの調査が廃止され、22地点（うち2地点は2生物種を調査）において調査を実施した。2015年度は、サンマが三陸沖から小名浜沖に再変更され、琵琶湖北湖（竹生島沖）のカワウの調査が外れ、21地点（うち2地点は2生物種を調査）において調査を実施した。2016年度は、サンマが小名浜沖から常磐沖に再変更され、琵琶湖北湖（竹生島沖）のカワウが再

追加され、22地点（うち2地点は2生物種を調査）において調査を実施した。2017年度は、2016年度と同一の22地点（うち2地点は2生物種を調査）において調査を実施した。

2018年度は、日本海沖のアイナメが外れ、21地点（うち2地点は2生物種を調査）において調査を実施した。

なお、参考として笛吹川下曾根橋（甲府市）のカワウの卵についても2013年度から2017年度に調査を実施しており、2017年度には昆陽池（伊丹市）が追加され、2地点においてカワウの卵の調査を実施した。2018年度は、2017年度と同一の2地点においてカワウの卵の調査を実施した。

#### 4) 大気

2002年度は34地点、2003年度は小笠原父島が追加され、釧路市立春採中学校（釧路市）が北海道渡島支庁庁舎（函館市）に変更され35地点、2004年度は兵庫県環境研究センター（神戸市）及び鹿児島県環境保健センター（鹿児島市）が追加され、北海道渡島支庁庁舎（函館市）が上川保健福祉事務所（名寄市）に変更され37地点、2005年度は上川保健福祉事務所（名寄市）が釧路市立春採中学校（釧路市）に変更され37地点、2006年度には釧路市立春採中学校（釧路市）が北海道渡島支庁庁舎（函館市）に変更され37地点、2007年度は北海道渡島支庁庁舎（函館市）が上川保健福祉事務所（名寄市）、茨城県環境監視センター（水戸市）が茨城県霞ヶ浦環境科学センター（土浦市）に変更され、天理一般環境大気測定局（天理市）が廃止され36地点、2008年度は上川保健福祉事務所（名寄市）が北海道釧路支庁（釧路市）に変更され、天理一般環境大気測定局（天理市）が再度追加され37地点においての調査であった。2009年度は北海道釧路支庁（釧路市）が北海道渡島支庁庁舎（函館市）に変更され37地点においての調査であった。2010年度は、北海道渡島支庁庁舎（函館市）が北海道上川合同庁舎（旭川市）に、富士吉田合同庁舎（富士吉田市）が山梨県衛生環境研究所（甲府市）に変更され37地点においての調査であった。2011年度は、北海道上川総合振興局（旭川市）が北海道釧路総合振興局（釧路市）に、萩市役所見島支所（萩市）が萩市見島ふれあい交流センター（萩市）に、徳島県保健環境センター（徳島市）が徳島県立保健製薬環境センター（徳島市）に変更され、37地点において調査が実施された。2012年度は、北海道釧路総合振興局（釧路市）が北海道渡島総合振興局（函館市）に、宮城県保健環境センター（仙台市）が宮城県消防学校（仙台市）に、葦合一般環境大気測定局（神戸市）が神戸市役所（神戸市）に変更され、京都府立城陽高等学校（城陽市）が外れ36地点において調査が実施された。2013年度は、北海道渡島総合振興局（函館市）が北海道上川総合振興局（旭川市）に変更され36地点において調査が実施された。2014年度は、北海道上川総合振興局（旭川市）が北海道釧路総合振興局（釧路市）に、宮城県消防学校（仙台市）が宮城県仙台土木事務所（仙台市）に変更され36地点において調査が実施された。2015年度は、北海道釧路総合振興局（釧路市）が北海道渡島総合振興局（函館市）に、宮城県仙台土木事務所（仙台市）が宮城県消防学校（仙台市）に、香川県高松合同庁舎（高松市）が香川県立総合水泳プール（高松市）に変更され、横浜市環境科学研究所（横浜市）が移転に伴い横浜市磯子区から横浜市神奈川区に位置が変更され、群馬県衛生環境研究所（前橋市）が廃止され、35地点において調査が実施された。2016年度は、北海道渡島総合振興局（函館市）が北海道上川総合振興局（旭川市）に、網張スキー場（雫石市）が巣子一般環境大気測定局（滝沢市）に、宮城県消防学校（仙台市）が宮城県保健環境センター（仙台市）に、地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所（大阪市）が大阪合同庁舎2号館別館（大阪市）に、萩市見島ふれあい交流センター（萩市）が萩

健康福祉センター（萩市）に変更され、山形県環境科学研究センター（村山市）が追加され、京都府立城陽高等学校（城陽市）が再追加され、37地点において調査が実施された。2017年度は、北海道上川総合振興局（旭川市）が北海道釧路総合振興局（釧路市）に、萩健康福祉センター（萩市）が山口県立萩美術館・浦上記念館（萩市）に変更され、37地点において調査が実施された。

2018年度は、北海道釧路総合振興局（釧路市）が北海道渡島総合振興局（函館市）に、山口県立萩美術館・浦上記念館（萩市）が萩健康福祉センター（萩市）に再変更され、37地点において調査が実施された。

### (3) 定量（検出）下限値の推移

モニタリング調査における検出下限値を表6-1から表6-4に、定量下限値を表7-1から表7-4に示す。2002年度の水質及び底質は装置検出下限値（IDL）を、2003年度以降の水質及び底質並びに2002年度以降の生物及び大気は分析方法の検出下限値（MDL）をそれぞれ検出下限値として扱っている。

表6-1から表6-4にあるとおり、検出下限値については年度によって変動はあるものの、分析機関が媒体ごとに一機関になっていることに加え、高感度のGC/HRMS等を用いた分析を実施しており、継続的に高感度かつほぼ同等の検出下限値及び定量下限値で測定がされている。

モニタリング調査では測定値の推移を定量的に評価できることが重要であるため、2002年度調査結果からは原則として次のとおり定量下限値を示すことで数値の信頼性を確保することとした。

- ・ 検出下限値の約3倍を定量下限値とする。
- ・ 検出頻度（検出数/検体数等）は検出下限値により判定する。
- ・ 幾何平均値の算出においては、検出下限値以上の測定値はそのまま用い、検出下限値未満の測定値は検出下限値の1/2を用いる。
- ・ 幾何平均値、中央値等の表記に当たっては、その数値が検出下限値以上定量下限値未満の場合においてはトレース値とし、検出下限値未満であった場合においては不検出とする。

### (4) まとめ

(1)～(3)の検討結果より、調査結果の評価を行うに当たっては以下の点を考慮する必要がある。

PCB類、HCBについては水質、底質、生物及び大気、 $\alpha$ -HCH及び $\beta$ -HCHについては水質、底質及び生物において2002年度から2018年度調査まで継続的に実施している。その他の物質についても数年おきに実施し、現在まで継続的な調査を行っている。

また、調査地点のうち水質、底質及び大気並びに生物の貝類及び魚類に係る地点については、一部の地点では地点が入れ替わってはいるものの、概ね継続的に調査を実施している。他方、鳥類に係る調査地点については、2012年度まで鳥類でウミネコ及びムクドリを調査対象生物としていたものをカワウに入れ替えている。これに伴い、従来調査を実施していた地点を変更して調査を実施しており2012年度までとの継続性がない。

このため、鳥類について化学物質の残留状況を経年的に評価する場合には、2013年度以降とそれ以前とに継続性がないことに留意する必要がある。

PCB類及びHCBの大気では、2007年度の温暖期及び寒冷期並びに2008年度の温暖期に用いた大気試料採取装置の一部からPCB類及びHCHが検出され、PCB類及びHCHの測定に影響を及ぼすことが判明したため、それぞれ3分の1程度の地点で欠測としており、大気についてこれらの化学物質の残留状況を経年的に評価する場合には、この点に留意する必要がある。

定量（検出）下限値については、水質、底質、生物及び大気ともに2002年度から2018年度調査までの値はほぼ同等であり、高感度で測定が行われている。

以上より、モニタリング調査の対象物質については一部において留意が必要な点があるものの、概ね経年的な評価が可能であると判断される。

表4 モニタリング調査の年度別実施状況

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[1]	水質	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	底質	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	貝類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	魚類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鳥類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
大気	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[2]	水質	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	底質	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	貝類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	魚類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鳥類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	大気	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[3]	水質	■	■	■	■	■	■	■										
	底質	■	■	■	■	■	■	■										■
	貝類	■	■	■	■	■	■	■						■				
	魚類	■	■	■	■	■	■	■						■				
	鳥類	■	■	■	■	■	■	■						■				
	大気	■	■	■	■	■	■	■						■				

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[4]	水質	■	■	■	■	■	■	■		■				■				
	底質	■	■	■	■	■	■	■										■
	貝類	■	■	■	■	■	■	■			■			■				
	魚類	■	■	■	■	■	■	■			■			■				
	鳥類	■	■	■	■	■	■	■						■				
	大気	■	■	■	■	■	■	■			■			■				

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[5]	水質	■	■	■	■	■	■	■			■			■				
	底質	■	■	■	■	■	■	■			■							■
	貝類	■	■	■	■	■	■	■			■			■				
	魚類	■	■	■	■	■	■	■			■			■				
	鳥類	■	■	■	■	■	■	■			■			■				
	大気	■	■	■	■	■	■	■			■			■				

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[6-1]	水質	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■					
[6-2]	底質	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■					
[6-3]	貝類	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■					■
[6-4]	魚類	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■					■
[6-5]	鳥類	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■					■
[6-6]	大気	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■		■			■

(注) ■ : モニタリング調査において実施したことを意味する (以下同じ。)

[1] 総 PCB、[2] HCB、[3] アルドリン、[4] デイルドリン、[5] エンドリン、[6-1] *p,p'*-DDT、[6-2] *p,p'*-DDE、[6-3] *p,p'*-DDD、[6-4] *o,p'*-DDT、[6-5] *o,p'*-DDE、[6-6] *o,p'*-DDD

物質調査番号	調査媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[7-1] [7-2] [7-3] [7-4] [7-5]	水質	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	底質	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	貝類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	魚類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鳥類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
大気	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

物質調査番号	調査媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[8-1]	水質	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	底質	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	貝類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	魚類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鳥類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
大気	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
[8-2] [8-3]	水質		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	底質		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	貝類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	魚類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鳥類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
大気		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

物質調査番号	調査媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[9-1] [9-2] [9-3]	水質		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	底質		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	貝類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	魚類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鳥類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
大気		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

物質調査番号	調査媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[10]	水質		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	底質		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	貝類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	魚類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鳥類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
大気		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

物質調査番号	調査媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[11-1] [11-2]	水質	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	底質	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	貝類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	魚類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鳥類	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
大気		□	□	□	□	□	□	□	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
[11-3] [11-4]	水質		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	底質		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	貝類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	魚類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鳥類		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
大気		□	□	□	□	□	□	□	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

(注) □ : HCH 類の大気については、2003 年度から 2008 年度に用いた大気試料採取装置の一部から HCH 類が検出され、HCH 類の測定に影響を及ぼすことが判明したが、個別のデータについて影響の有無を遡って判断することが困難であるため、この期間の全てのデータについて欠測扱いとすることとした。

[7-1] *cis*-クロルデン (参考)、[7-2] *trans*-クロルデン (参考)、[7-3] オキシクロルデン (参考)、[7-4] *cis*-ノナクロル (参考)、[7-5] *trans*-ノナクロル (参考)、[8-1] ヘプタクロル (参考)、[8-2] *cis*-ヘプタクロルエポキシド (参考)、[8-3] *trans*-ヘプタクロルエポキシド (参考)、[9-1] Parlar-26、[9-2] Parlar-50、[9-3] Parlar-62、[10] マイレックス、[11-1]  $\alpha$ -HCH (参考)、[11-2]  $\beta$ -HCH (参考)、[11-3]  $\gamma$ -HCH (別名：リンデン) (参考)、[11-4]  $\delta$ -HCH (参考)

物質調査番号	調査媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[12]	水質							■		■	■							
	底質							■		■	■							
	貝類							■		■	■							
	魚類							■		■	■							
	鳥類							■		■	■							
	大気		△							■	■							

物質調査番号	調査媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[13]	水質		△						■	■	■							
	底質		△						■	■	■				■			
	貝類								■	■	■				■			
	魚類								■	■	■				■			
	鳥類								■	■	■				■			
	大気			△						■	■				■			

物質調査番号	調査媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[14-1] [14-4]	水質				△				■	■	■	■		■	■	■	■	■
	底質								■	■	■	■		■	■	■	■	■
	貝類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	魚類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	鳥類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	大気			△					■	■	■	■		■	■	■	■	■
[14-2]	水質				△				■	■	■	■		■	■	■	■	■
	底質			△					■	■	■	■		■	■	■	■	■
	貝類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	魚類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	鳥類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	大気			△					■	■	■	■		■	■	■	■	■
[14-3]	水質		△		△				■	■	■	■		■	■	■	■	■
	底質		△						■	■	■	■		■	■	■	■	■
	貝類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	魚類		△					■		■	■	■		■	■	■	■	■
	鳥類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	大気			△					■	■	■	■		■	■	■	■	■
[14-5]	水質		△						■	■	■	■		■	■	■	■	■
	底質								■	■	■	■		■	■	■	■	■
	貝類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	魚類		△					■		■	■	■		■	■	■	■	■
	鳥類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	大気								■	■	■	■		■	■	■	■	■
[14-6]	水質				△				■	■	■	■		■	■	■	■	■
	底質								■	■	■	■		■	■	■	■	■
	貝類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	魚類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	鳥類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	大気								■	■	■	■		■	■	■	■	■
[14-7]	水質	△			△				■	■	■	■		■	■	■	■	■
	底質	△	△						■	■	■	■		■	■	■	■	■
	貝類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	魚類	△	△					■		■	■	■		■	■	■	■	■
	鳥類							■		■	■	■		■	■	■	■	■
	大気								■	■	■	■		■	■	■	■	■

(注) △：継続的調査以外の調査において実施したことを意味する（以下同じ。）。

[12] クロルデコン（参考）、[13] ヘキサプロモビフェニル類（参考）、[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類、[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類、[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類、[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類、[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類、[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類、[14-7] デカプロモジフェニルエーテル

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[15]	水質	△			△				■	■	■	■		■	■	■		■
	底質		△		△				■	■	■	■		■	■	■		■
	貝類				△				■	■	■	■		■	■	■	■	
	魚類		△		△				■	■	■	■		■	■	■	■	
	鳥類								■	■	■	■		■	■	■	■	
	大気			△						■	■	■	■	■	■	■	■	■

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[16]	水質	△			△				■	■	■	■		■	■	■		■
	底質		△		△				■	■	■	■		■	■	■		■
	貝類				△				■	■	■	■		■	■	■	■	
	魚類		△		△				■	■	■	■		■	■	■	■	
	鳥類								■	■	■	■		■	■	■	■	
	大気			△						■	■	■	■	■	■	■	■	■

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[17]	水質							■		■	■	■	■	■	■	■	■	■
	底質							■		■	■	■	■	■	■	■	■	■
	貝類							■		■	■	■	■	■	■	■	■	■
	魚類							■		■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鳥類							■		■	■	■	■	■	■	■	■	■
	大気							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[18-1] [18-2]	水質										■	■						■
	底質										■	■						■
	貝類										■	■		■	■			
	魚類										■	■		■	■			
	鳥類										■	■		■	■			
	大気										■	■		■	■	■		

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[19-1] [19-2] [19-3]	水質		△								■			■				
	底質		△								■	■			■	■		
	貝類										■	■		■	■	■	■	■
	魚類			△							■	■		■	■	■	■	■
	鳥類										■	■		■	■	■	■	■
	大気										■	■	■	■	■	■	■	■
[19-4] [19-5]	水質		△								■			■				
	底質		△								■	■			■			
	貝類										■	■		■	■			
	魚類			△							■	■		■	■			
	鳥類										■	■		■	■			
	大気										■	■	■	■	■	■	■	■

(注) 2003年度及び2004年度は総1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類

[15] ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) 、 [16] ペルフルオロオクタン酸 (PFOA) 、 [17] ペンタクロロベンゼン、 [18-1]  $\alpha$ -エンドスルファン、 [18-2]  $\beta$ -エンドスルファン、 [19-1]  $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 [19-2]  $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 [19-3]  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 [19-4]  $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン (参考) 、 [19-5]  $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン (参考)

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[20]	水質						■											■
	底質						■									■	■	■
	貝類					■	■								■	■	■	■
	魚類	△				■	■								■	■	■	■
	鳥類					■	■								■	■	■	■
	大気	△					■	■						■		■	■	■

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[21]	水質						■ △						■					
	底質						■ △						■					
	貝類						■						■					
	魚類												■					
	鳥類												■					
	大気														■	■	■	■

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[22-1]	水質				△										■		■	■
	底質																■	■
	貝類															■	■	■
	魚類															■	■	■
	鳥類															■	■	■
	大気															■	■	■
[22-2]	水質																■	■
	底質																■	■
	貝類															■	■	■
	魚類															■	■	■
	鳥類															■	■	■
	大気															■	■	■

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[23-1] [23-2] [23-3] [23-4]	水質			△	△												■	■
	底質			△	△												■	■
	貝類				△											■	■	■
	魚類			△	△											■	■	■
	鳥類															■	■	■
	大気															■	■	■

(注) 2005年度の水質及び底質では[23-1] 塩素化デカン類は塩素数が5のもの、[23-2] 塩素化ウンデカン類、[23-3] 塩素化ドデカン類及び[23-1] 塩素化トリデカン類は塩素数が6のものを、貝類及び魚類では[23-1] 塩素化デカン類は塩素数が4から6までのもの、[23-2] 塩素化ウンデカン類、[23-3] 塩素化ドデカン類及び[23-4] 塩素化トリデカン類は塩素数が5から7までのものをそれぞれ対象とした。2006年度の水質、魚類及び鳥類では塩素数が5から9までのものを、大気では[23-1] 塩素化デカン類は塩素数が4から6までのもの、[23-2] 塩素化ウンデカン類、[23-3] 塩素化ドデカン類及び[23-4] 塩素化トリデカン類は塩素数が4から7までのものをそれぞれ対象とした。

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[24]	水質							■										
	底質			△				■										
	貝類					■		■										■
	魚類					■		■										■
	鳥類					■		■										■
	大気															■		

[20] ポリ塩化ナフタレン類、[21] ヘキサクロロブタ-1,3-ジエン、[22-1] ペンタクロロフェノール、[22-2] ペンタクロロアニソール、[23-1] 塩素化デカン類、[23-2] 塩素化ウンデカン類、[23-3] 塩素化ドデカン類、[23-4] 塩素化トリデカン類、[24] ジコホル

物質 調査 番号	調査 媒体	年度																
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[25]	水質																	■
	底質																	■
	貝類																	
	魚類																	
	鳥類																	
	大気																	

[25] ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS)

表5-1 モニタリング調査の年度別調査地点の一覧（水質）

地方 公共団体	調査地点	年度																	分析
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	
北海道	十勝川すずらん大橋（帯広市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	石狩川河口石狩河口橋（石狩市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
青森県	十三湖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
岩手県	豊沢川（花巻市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
宮城県	仙台湾（松島湾）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
秋田県	八郎湖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
山形県	最上川河口（酒田市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
福島県	小名浜港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
茨城県	利根川河口かもめ大橋（神栖市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
	利根川河口利根川大橋（波崎町）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
栃木県	田川給分地区頭首工（宇都宮市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
埼玉県	荒川秋ヶ瀬取水堰（志木市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
千葉県	花見川河口（千葉市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
	荒川河口（江東区）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
東京都	隅田川河口（港区）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
	横浜港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
横浜市	川崎港京浜運河	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
新潟県	信濃川下流（新潟市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
富山県	神通川河口萩浦橋（富山市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
石川県	犀川河口（金沢市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
福井県	笙の川三島橋（敦賀市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
長野県	諏訪湖湖心	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
静岡県	天竜川（磐田市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
愛知県	名古屋港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
三重県	四日市港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
滋賀県	琵琶湖唐崎沖中央	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
京都府	宮津港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
京都市	桂川宮前橋（京都市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
大阪府	大和川河口（堺市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
大阪市	大阪港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
兵庫県	姫路沖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
神戸市	神戸港中央	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
和歌山県	紀の川河口紀の川大橋（和歌山市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
岡山県	水島沖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
広島県	呉港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
	広島湾	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
山口県	徳山湾	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
	宇部沖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
	萩沖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
徳島県	吉野川河口（徳島市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
香川県	高松港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
高知県	四万十川河口（四万十市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
北九州市	洞海湾	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
佐賀県	伊万里湾	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
長崎県	大村湾	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
熊本県	緑川平木橋（宇土市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
宮崎県	大淀川河口（宮崎市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
鹿児島県	天降川（霧島市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
	五反田川五反田橋（いちき串木野市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	
沖縄県	那覇港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇	

(注1) ■：モニタリング調査において実施したことを意味する。

(注2) 「地方公共団体」は、試料採取を実施した地方公共団体の名称であり、複数年度実施している地点にあっては直近の年度に試料採取を実施した地方公共団体の名称を示した。

(注3) 「分析」の列に◇を付した調査地点は、統計学的な手法を用いた経年分析を実施した地点であることを意味する。また、分析対象とする地点とは、2018年度に調査が実施されている地点であり、かつ、それぞれの調査対象物質の調査を開始してから2018年度までの期間内において2か年以上測定されていない地点を除いたものを分析対象地点とした。

表5-2 モニタリング調査の年度別調査地点の一覧（底質）

地方 公共団体	調査地点	年度																分析	
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17		'18
北海道	天塩川恩根内大橋（美深町）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	天塩川恩根内大橋上流カヌー乗り場 （美深町）																■		
	十勝川すずらん大橋（帯広市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	石狩川河口石狩河口橋（石狩市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	苫小牧港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
青森県	十三湖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
岩手県	豊沢川（花巻市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
宮城県	仙台湾（松島湾）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
仙台市	広瀬川広瀬大橋（仙台市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
秋田県	八郎湖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
山形県	最上川河口（酒田市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
福島県	小名浜港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
茨城県	利根川河口かもめ大橋（神栖市）		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	利根川河口利根川大橋（波崎町）	■																	
栃木県	田川給分地区頭首工（宇都宮市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
千葉県	市原・姉崎海岸	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
千葉市	花見川河口（千葉市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
東京都	荒川河口（江東区）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	隅田川河口（港区）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
横浜市	横浜港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
川崎市	多摩川河口（川崎市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	川崎港京浜運河	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
新潟県	信濃川下流（新潟市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
富山県	神通川河口萩浦橋（富山市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
石川県	犀川河口（金沢市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
福井県	笙の川三島橋（敦賀市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
山梨県	荒川千秋橋（甲府市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
長野県	諏訪湖湖心	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
静岡県	清水港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	天竜川（磐田市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
愛知県	衣浦港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	名古屋港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
三重県	四日市港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	鳥羽港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
滋賀県	琵琶湖早崎港沖	■																	
	琵琶湖南比良沖中央		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	琵琶湖唐崎沖中央	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
京都府	宮津港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
京都市	桂川宮前橋（京都市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
大阪府	大和川河口（堺市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
大阪市	大阪港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	大阪港外	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	淀川河口（大阪市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	淀川（大阪市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
兵庫県	姫路沖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
神戸市	神戸港中央	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
奈良県	大和川（王寺町）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
和歌山県	紀の川河口紀の川大橋（和歌山市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
岡山県	水島沖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
広島県	呉港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	広島湾	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
山口県	徳山湾	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	宇部沖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	萩沖	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
徳島県	吉野川河口（徳島市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
香川県	高松港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
愛媛県	新居浜港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
高知県	四万十川河口（四万十市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
北九州市	洞海湾	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
福岡市	博多湾	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
佐賀県	伊万里湾	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇

地方 公共団体	調査地点	年度																分 析	
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17		'18
長崎県	大村湾					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
大分県	大分川河口（大分市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
宮崎県	大淀川河口（宮崎市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
鹿児島県	天降川（霧島市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	五反田川五反田橋（いちき串木野市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
沖縄県	那覇港	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇

(注1) ■：モニタリング調査において実施したことを意味する。

(注2) 「地方公共団体」は、試料採取を実施した地方公共団体の名称であり、複数年度実施している地点にあつては直近の年度に試料採取を実施した地方公共団体の名称を示した。

(注3) 「分析」の列に◇を付した調査地点は、統計学的手法を用いた経年分析を実施した地点であることを意味する。また、分析対象とする地点とは、2018年度に調査が実施されている地点であり、かつ、それぞれの調査対象物質の調査を開始してから2018年度までの期間内において2か年以上測定されていない地点を除いたものを分析対象地点とした。

表5-3 モニタリング調査の年度別調査地点の一覧（生物）

地方 公共団体	調査地点	生物種	年度																分 析
			'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	
		(貝類)																	
岩手県	山田湾	ムラサキイガイ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
神奈川県	三浦半島	ムラサキイガイ	■																
横浜市	横浜港	ムラサキイガイ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
		ミドリイガイ									■								
石川県	能登半島沿岸	ムラサキイガイ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
島根県	島根半島沿岸七類湾	ムラサキイガイ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
山口県	見島	ムラサキイガイ	■																
徳島県	鳴門	イガイ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
香川県	高松港	ムラサキイガイ			■														
		イガイ				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
北九州市	洞海湾	ムラサキイガイ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
		ムラサキイガイ			■														
		(魚類)																	
北海道	釧路沖	ウサギアイナメ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
		シロサケ				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	日本海沖（岩内沖）	アイナメ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
岩手県	山田湾	アイナメ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
宮城県	仙台湾（松島湾）	スズキ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
		アイナメ										■	■	■	■	■	■	■	■
茨城県	常磐沖	サンマ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	三陸沖	サンマ										■							
	小名浜沖	サンマ														■			
東京都	東京湾	スズキ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
川崎市	川崎港扇島沖	スズキ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
名古屋市	名古屋港	ボラ																	
滋賀県	琵琶湖安曇川（高島市）	ウグイ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
大阪府	大阪湾	スズキ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
兵庫県	姫路沖	スズキ				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
鳥取県	中海	スズキ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
広島市	広島湾	スズキ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
香川県	高松港	ボラ																	
高知県	四万十川河口（四万十市）	スズキ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
大分県	大分川河口	スズキ																	
鹿児島県	薩摩半島西岸	スズキ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
沖縄県	中城湾	ミナミクロダイ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
		(鳥類)																	
青森県	蕪島（八戸市）	ウミネコ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
岩手県	盛岡市郊外	ムクドリ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
滋賀県	琵琶湖北湖（竹生島）	カワウ																	
鳥取県	天神川（倉吉市）	カワウ																	

(注1) ■：モニタリング調査において実施したことを意味する。

(注2) 「地方公共団体」は、試料採取を実施した地方公共団体の名称であり、複数年度実施している地点にあつては直近の年度に試料採取を実施した地方公共団体の名称を示した。

(注3) 「分析」の列に◇を付した調査地点は、統計学的手法を用いた経年分析を実施した地点であることを意味する。また、分析対象とする地点とは、2018年度に調査が実施されている地点であり、かつ、それぞれの調査対象物質の調査を開始してから2018年度までの期間内において2年以上測定されていない地点を除いたものを分析対象地点とした。

表5-4 モニタリング調査の年度別調査地点の一覧（大気）

地方 公共団体	調査地点	年度																分析
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	
北海道	上川保健福祉事務所（名寄市）			■			■											
	釧路市立春採中学校（釧路市）	■			■													
	北海道釧路総合振興局（釧路市）							■						■			■	
	北海道渡島総合振興局（函館市）		■			■			■			■			■			■
札幌市	北海道上川総合振興局（旭川市）								■			■			■			
	札幌芸術の森（札幌市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	岩手県	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	網張スキー場（雫石町）																	
宮城県	巢子一般環境大気測定局（滝沢市）														■	■	■	
	宮城県保健環境センター（仙台市）		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	国設仙台測定局（仙台市）	■																
	宮城県消防学校（仙台市）											■	■	■	■			
山形県	宮城県仙台土木事務所（仙台市）												■					
	山形県環境科学研究所センター（村山市）														■	■	■	
茨城県	茨城県環境監視センター（水戸市）	■	■	■	■													
	茨城県霞ヶ浦環境科学センター（土浦市）						■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
群馬県	群馬県衛生環境研究所（前橋市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
千葉県	市原松崎一般環境大気測定局（市原市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
東京都	東京都環境科学研究所（江東区）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	東京都立衛生研究所（調査当時）（新宿区）	■																
	小笠原父島（小笠原村）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
神奈川県	神奈川県環境科学センター（平塚市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
横浜市	旧横浜市環境科学研究所（横浜市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	横浜市環境科学研究所（横浜市）														■	■	■	
新潟県	大山一般環境大気測定局（新潟市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
富山県	砺波一般環境大気測定局（砺波市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
石川県	石川県保健環境センター（金沢市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
山梨県	富士吉田合同庁舎（富士吉田市）	■	■	■	■	■	■	■										
	山梨県衛生環境研究所（甲府市）								■	■	■	■	■	■	■	■	■	
長野県	長野県環境保全研究所（長野市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
岐阜県	岐阜県保健環境研究所（各務原市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
名古屋市	千種区平和公園（名古屋市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
三重県	三重県保健環境研究所（四日市市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
京都府	京都府立城陽高等学校（城陽市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
大阪府	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所（大阪市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	大阪合同庁舎2号館別館（大阪市）														■	■	■	
兵庫県	兵庫県環境研究センター（神戸市）		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
神戸市	葺合一般環境大気測定局（神戸市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	神戸市役所（神戸市）														■	■	■	
奈良県	天理一般環境大気測定局（天理市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
島根県	国設隠岐酸性雨測定所（隠岐の島町）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
広島市	広島市立国泰寺中学校（広島市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
山口県	山口県環境保健センター（山口市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
	萩市役所見島支所（萩市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	萩市見島ふれあい交流センター（萩市）																	
	萩健康福祉センター（萩市）																	
	山口県立萩美術館・浦上記念館（萩市）																■	
徳島県	徳島県保健環境センター（徳島市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	徳島県立保健製薬環境センター（徳島市）														■	■	■	
香川県	香川県高松合同庁舎（高松市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	香川県立総合水泳プール（高松市）																	
愛媛県	愛媛県南予地方局（宇和島市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
福岡県	大牟田市役所（大牟田市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
佐賀県	佐賀県環境センター（佐賀市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
熊本県	熊本県保健環境科学研究所（宇土市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
宮崎県	宮崎県衛生環境研究所（宮崎市）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇
鹿児島県	鹿児島県環境保健センター（鹿児島市）		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
沖縄県	辺戸岬（国頭村）	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	◇

(注1) ■：モニタリング調査において実施したことを意味する。

(注2) 「地方公共団体」は、試料採取を実施した地方公共団体の名称であり、複数年度実施している地点にあっては直近の年度に試料採取を実施した地方公共団体の名称を示した。

(注3) 「分析」の列に◇を付した調査地点は、統計学的な手法を用いた経年分析を実施した地点であることを意味する。また、分析対象とする地点とは、2018年度に調査が実施されている地点であり、かつ、それぞれの調査対象物質の調査を開始してから2018年度までの期間内において2年以上測定されていない地点を除いたものを分析対象地点とした。

表6-1 モニタリング調査における検出下限値の比較（水質）

物質調査番号	調査対象物質	水質 (pg/L)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[1]	総PCB※	2.5	2.5	5.0	3.2	3	2.9	3.0	4	24	1.7	15	8	2.9	7.3	2.8	5.5	5
[2]	HCB	0.2	2	8	5	5	3	1	0.2	4	2	0.7	2	0.4	0.6	0.3	0.8	0.6
[3]	アルドリン (参考)	0.2	0.2	0.4	0.3	0.6	0.3	0.6	0.3	---	---	---	---	---	---	---	---	---
[4]	ディルドリン (参考)	0.6	0.3	0.5	0.3	1	0.7	0.6	0.2	---	0.6	---	---	0.2	---	---	---	---
[5]	エンドリン (参考)	2	0.3	0.5	0.4	0.4	0.6	1	0.3	---	0.6	---	---	0.2	---	---	---	---
[6]	DDT類 (参考)																	
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT (参考)	0.2	0.9	2	1	0.6	0.5	0.5	0.06	0.8	---	---	---	0.1	---	---	---	---
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE (参考)	0.2	2	3	2	2	0.4	0.4	0.4	0.8	---	---	---	0.2	---	---	---	---
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD (参考)	0.08	0.5	0.8	0.6	0.5	0.2	0.2	0.2	0.08	---	---	---	0.4	---	---	---	---
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT (参考)	0.4	0.7	2	1	0.8	0.5	0.5	0.06	0.5	---	---	---	0.2	---	---	---	---
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE (参考)	0.3	0.3	0.5	0.4	0.9	0.3	0.3	0.09	0.09	---	---	---	0.1	---	---	---	---
[6-6] <i>o,p'</i> -DDD (参考)	0.20	0.3	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3	0.09	0.2	---	---	---	0.08	---	---	---	---	
[7]	クロルデン類 (参考)																	
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン (参考)	0.3	0.9	2	1	2	2	0.6	0.4	4	0.6	0.6	0.9	---	---	---	1	---
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン (参考)	0.5	2	2	1	2	0.8	1	0.3	4	0.4	0.8	1	---	---	---	1	---
	[7-3] オキシクロルデン (参考)	0.4	0.5	0.5	0.4	0.9	2	0.7	0.4	0.3	0.5	0.4	0.4	---	---	---	2	---
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル (参考)	0.6	0.1	0.5	0.2	0.3	0.8	0.3	0.1	0.4	0.2	0.3	0.3	---	---	---	0.6	---
[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル (参考)	0.4	0.5	2	0.8	1.0	2	0.6	0.4	3	0.5	0.6	0.6	---	---	---	1	---	
[8]	ヘプタクロル類 (参考)																	
	[8-1] ヘプタクロル (参考)	0.5	0.5	2	1	2	0.8	0.8	0.3	0.7	0.5	---	---	0.2	---	---	1	---
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	0.2	0.4	0.2	0.7	0.4	0.2	0.2	0.2	0.3	---	---	0.2	---	---	0.6	---
[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	0.4	0.3	0.2	0.6	0.7	0.7	0.3	0.5	0.3	---	---	0.3	---	---	0.9	---	
[9]	トキサフェン類																	
	[9-1] Parlar-26	---	20	3	4	5	5	3	2	---	---	---	---	---	---	---	---	2
	[9-2] Parlar-50	---	30	7	5	5	3	3	3	---	---	---	---	---	---	---	---	2
[9-3] Parlar-62	---	90	30	30	20	30	20	20	---	---	---	---	---	---	---	---	---	20
[10]	マイレックス	---	0.09	0.2	0.1	0.5	0.4	0.2	0.2	---	0.2	---	---	---	---	---	---	0.3
[11]	HCH類 (参考)																	
	[11-1] $\alpha$ -HCH (参考)	0.3	0.9	2	1	1	0.6	2	0.4	1	3	0.5	2	1.5	0.4	0.4	0.4	---
	[11-2] $\beta$ -HCH (参考)	0.3	0.7	2	0.9	0.6	0.9	0.4	0.2	0.7	0.8	0.5	2	0.4	0.4	0.4	0.7	---
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名:リンデン) (参考)	---	2	7	5	6	0.7	1	0.2	2	1	0.4	0.8	0.4	0.3	0.3	0.5	---
[11-4] $\delta$ -HCH (参考)	---	0.5	0.7	0.5	0.8	0.4	0.9	0.4	0.3	0.2	0.4	0.4	0.2	0.1	0.3	0.4	---	
[12]	クロルデコン (参考)	---	---	---	---	---	0.05	---	0.04	0.05	---	---	---	---	---	---	---	---
[13]	ヘキサプロモビフェニル類 (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.19 ~ 0.78	1	0.9	---	---	---	---	---	---	---
[14]	ポリプロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)																	
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	3	3	2	1	---	3	1.2	2	3	5
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	4	1	1	1	---	2	2.1	0.9	1	3
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.6	2	1	1	---	1	0.6	0.8	3	1
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	2	1	2	1	---	3	0.8	3	5	3
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.6	1	1	2	---	0.6	0.6	0.3	1	1
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	30	7	4	13	---	2	2	1	3	2
[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	---	---	---	---	---	---	---	200	100	20	220	---	9	7	6	8	4	
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	---	---	---	---	---	---	---	14	20	20	12	---	20	11	20	---	30
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA)	---	---	---	---	---	---	---	23	20	20	55	---	20	22	20	---	30
[17]	ペンタクロロベンゼン	---	---	---	---	---	1,300	---	---	1	0.9	1	1	0.3	0.5	---	0.6	0.5

物質調査番号	調査対象物質	水質 (pg/L)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[18]	エンドスルファン類																	
	[18-1] $\alpha$ -エンドスルファン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	50	10	---	---	---	---	---	40
	[18-2] $\beta$ -エンドスルファン	---	---	---	---	---	---	---	---	9	9	---	---	---	---	---	10	
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロシクロドデカン類 (参考)																	
	[19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサ ブシクロドデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	600	---	---	600	---	---	---	---	---
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサ ブシクロドデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	500	---	---	200	---	---	---	---	---
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサ ブシクロドデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	500	---	---	300	---	---	---	---	---
	[19-4] $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサ ブシクロドデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	300	---	---	200	---	---	---	---	---
	[19-5] $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサ ブシクロドデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	300	---	---	200	---	---	---	---	---
[20]	総ポリ塩化ナフタレン (参 考) ※	---	---	---	---	---	30	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
[21]	ヘキサクロブタ-1,3-ジエ ン (参考)	---	---	---	---	340	---	---	---	---	---	37	---	---	---	---	---	---
[22]	ペンタクロロフェノール並 びにその塩及びエステル類																	
	[22-1] ペンタクロロフェノ ール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	85	---	---	10	9	
	[22-2] ペンタクロロアニソ ール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	5	6	
[23]	短鎖塩素化パラフィン類																	
	[23-1] 塩素化デカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	1,100	400	
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	500	800	
	[23-3] 塩素化ドデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	1,100	1,000	
	[23-4] 塩素化トリデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	1,200	1,500		
[24]	ジコホル (参考)	---	---	---	---	---	10	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
[25]	ペルフルオロヘキサンスル ホン酸 (PFHxS)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	50

(注1) 「---」は比較対象なしを意味する。

(注2) ※：検出下限値は、同族体ごとの検出下限値の合計とした。

表6-2 モニタリング調査における検出下限値の比較（底質）

物質調査番号	調査対象物質	底質 (pg/g-dry)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[1]	総PCB※	3.5	3.2	2.6	2.1	1	1.5	1.2	2.1	220	4.5	18	13	21	22	18	5.0	55
[2]	HCB	0.3	2	3	1	1.0	2	0.8	0.7	1	3	1	1.8	2	1	1	1	0.5
[3]	アルドリン	2	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	1	0.2	---	---	---	---	---	---	---	---	0.6
[4]	ディルドリン	1	2	0.9	1	1.0	0.9	0.5	0.3	---	2	---	---	---	---	---	---	0.6
[5]	エンドリン	2	2	0.9	0.9	1	2	0.7	0.6	---	0.4	---	---	---	---	---	---	0.9
[6]	DDT類 (参考)																	
	[6-1] p,p'-DDT (参考)	2	0.4	0.5	0.3	0.5	0.5	0.5	0.4	0.9	---	---	---	0.2	---	---	---	---
	[6-2] p,p'-DDE (参考)	0.9	0.3	0.8	0.9	0.3	0.4	0.7	0.3	2	---	---	---	0.6	---	---	---	---
	[6-3] p,p'-DDD (参考)	0.8	0.3	0.7	0.6	0.2	0.4	0.4	0.2	0.5	---	---	---	1.4	---	---	---	---
	[6-4] o,p'-DDT (参考)	2	0.3	0.6	0.3	0.4	0.6	0.6	0.5	0.4	---	---	---	0.2	---	---	---	---
	[6-5] o,p'-DDE (参考)	1	0.2	0.8	0.9	0.4	0.4	0.6	0.2	0.5	---	---	---	0.3	---	---	---	---
[6-6] o,p'-DDD (参考)	2	0.5	0.5	0.3	0.2	0.4	0.1	0.2	0.4	---	---	---	0.5	---	---	---	---	
[7]	クロルデン類 (参考)																	
	[7-1] cis-クロルデン (参考)	0.3	2	2	0.6	0.8	2	0.9	0.3	2	0.4	1.0	0.8	---	---	---	1.6	---
	[7-2] trans-クロルデン (参考)	0.6	2	0.9	0.8	0.4	0.8	0.8	0.7	4	0.5	1.3	0.7	---	---	---	1	---
	[7-3] オキシクロルデン (参考)	0.5	0.4	0.8	0.7	1.0	0.9	1	1	0.4	0.9	0.7	0.5	---	---	---	1	---
	[7-4] cis-ノナクロル (参考)	0.7	0.9	0.6	0.6	0.4	0.6	0.2	0.4	0.3	0.4	1	0.3	---	---	---	0.7	---
[7-5] trans-ノナクロル (参考)	0.5	0.6	0.6	0.5	0.4	0.6	0.8	0.3	2	0.3	0.8	0.4	---	---	---	2	---	
[8]	ヘプタクロル類 (参考)																	
	[8-1] ヘプタクロル (参考)	0.6	1.0	0.9	0.8	0.6	0.7	1	0.4	0.4	0.7	---	---	0.5	---	---	0.3	---
	[8-2] cis-ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	1	2	2	1.0	1	1	0.3	0.3	0.2	---	---	0.2	---	---	0.5	---
[8-3] trans-ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	3	2	2	2	4	0.7	0.6	1	0.9	---	---	0.3	---	---	0.8	---	
[9]	トキサフェン類																	
	[9-1] Parlar-26	---	30	20	30	4	3	5	4	---	---	---	---	---	---	---	---	3
	[9-2] Parlar-50	---	50	40	40	7	10	6	5	---	---	---	---	---	---	---	---	3
[9-3] Parlar-62	---	2,000	400	700	60	70	40	30	---	---	---	---	---	---	---	---	---	20
[10]	マイレックス	---	0.4	0.5	0.3	0.2	0.3	0.3	0.4	---	0.4	---	---	---	---	---	---	0.3
[11]	HCH類 (参考)																	
	[11-1] α-HCH (参考)	0.4	0.5	0.6	0.6	2	0.6	0.6	0.4	0.8	0.6	0.5	0.5	0.8	0.3	0.3	0.2	---
	[11-2] β-HCH (参考)	0.3	0.7	0.8	0.9	0.4	0.3	0.3	0.5	0.8	1	0.6	0.1	0.3	0.3	0.3	0.6	---
	[11-3] γ-HCH (別名:リンデン) (参考)	---	0.4	0.5	0.7	0.7	0.4	0.4	0.2	0.7	1	0.4	0.2	0.9	0.2	0.3	0.4	---
[11-4] δ-HCH (参考)	---	0.7	0.5	0.3	0.6	2	1	0.5	0.5	0.5	0.3	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	---	
[12]	クロルデコン (参考)	---	---	---	---	---	---	0.16	---	0.2	0.20	---	---	---	---	---	---	
[13]	ヘキサプロモビフェニル類 (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.04 2 ~ 0.14	0.6	1.4	---	---	---	0.3	---	---	
[14]	ポリプロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)																	
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	23	2	10	1	---	9	7	11	4	6
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	8	2	2	0.9	---	2	6	4	4	2
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	2	2	3	1	---	2	1	3	2	1
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	4	2	3	2	---	6	1	2	6	5
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.5	4	4	6	---	4	16	2	2	0.5
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	4	9	9	11	---	20	8	9	5	2
[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	---	---	---	---	---	---	---	20	80	20	89	---	80	20	41	10	14	
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	---	---	---	---	---	---	---	3.7	2	2	4	---	2	1	2	---	3
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA)	---	---	---	---	---	---	---	3.3	5	2	2	---	5	1	4	---	4
[17]	ペンタクロロベンゼン	---	---	---	---	---	33	---	---	0.3	2	0.8	0.7	0.8	0.5	0.6	0.5	0.3

物質調査番号	調査対象物質	底質 (pg/g-dry)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[18]	エンドスルファン類																	
	[18-1] $\alpha$ -エンドスルファン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	10	5	---	---	---	---	---	2
	[18-2] $\beta$ -エンドスルファン	---	---	---	---	---	---	---	---	4	5	---	---	---	---	---	2	
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロシクロドデカン類 (参考)																	
	[19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロシクロドデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	280	70	---	---	60	60	---	---	
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロシクロドデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	170	60	---	---	60	50	---	---	
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロシクロドデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	260	60	---	---	42	60	---	---	
	[19-4] $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロシクロドデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	250	100	---	---	70	---	---	---	
	[19-5] $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロシクロドデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	210	60	---	---	51	---	---	---	
[20]	総ポリ塩化ナフタレン※	---	---	---	---	---	30	---	---	---	---	---	---	---	20	9.1	3.2	
[21]	ヘキサクロロブタ-1,3-ジエ ン (参考)	---	---	---	---	8.5	---	---	---	---	---	3.8	---	---	---	---	---	
[22]	ペンタクロロフェノール並 びにその塩及びエステル類																	
	[22-1] ペンタクロロフェノ ール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	2	6	
	[22-2] ペンタクロロアニソ ール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	2	9	
[23]	短鎖塩素化パラフィン類																	
	[23-1] 塩素化デカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	4,000	2,000	
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	4,000	5,000	
	[23-3] 塩素化ドデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	4,000	2,000	
	[23-4] 塩素化トリデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	5,000	3,000		
[24]	ジコホル (参考)	---	---	---	---	---	63	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
[25]	ペルフルオロヘキサンスル ホン酸 (PFHxS) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	5	

(注1) 「---」は比較対象なしを意味する。

(注2) ※：検出下限値は、同族体ごとの検出下限値の合計とした。

表6-3 モニタリング調査における検出下限値の比較（生物）

物質調査番号	調査対象物質	生物 (pg/g-wet)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[1]	総 PCB※	8.4	17	29	23	14	18	17	11	20	74	11	14	31	17	20	23	21
[2]	HCB	0.06	7.5	4.6	3.8	1	3	3	2	2	1	2.8	10	3	6.5	2.7	1.3	1.1
[3]	アルドリン (参考)	1.4	0.84	1.3	1.2	2	2	2	0.8	---	---	---	---	0.7	---	---	---	---
[4]	ディルドリン (参考)	4	1.6	10	3	3	3	3	2	---	1	---	---	1	---	---	---	---
[5]	エンドリン (参考)	6	1.6	4.2	5.5	4	3	3	3	---	2	---	---	1	---	---	---	---
[6]	DDT 類																	
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	1.4	3.5	1.1	1.7	2	2	2	1	1	---	---	1.1	---	---	---	---	1
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	0.8	1.9	2.7	2.8	0.7	1	1	1	1	---	---	1.4	---	---	---	---	1
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	1.8	3.3	0.70	0.97	0.9	1	1	0.9	0.5	---	---	0.7	---	---	---	---	0.6
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	4	0.97	0.61	0.86	1	1	1	0.8	1	---	---	1	---	---	---	---	0.9
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	1.2	1.2	0.69	1.1	1	0.9	1	1	0.6	---	---	1	---	---	---	---	1
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	4	2.0	1.9	1.1	1	1	2	1	0.2	---	---	0.7	---	---	---	---	0.9
[7]	クロルデン類 (参考)																	
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン (参考)	0.8	1.3	5.8	3.9	1	2	2	2	2	1	2	4	---	---	1	---	---
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン (参考)	0.8	2.4	16	3.5	2	2	3	1	1	1	2	5.2	---	---	2	---	---
	[7-3] オキシクロルデン (参考)	1.2	2.8	3.1	3.1	3	2	2	1	3	1	1	1	---	---	1	---	---
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル (参考)	0.4	1.6	1.1	1.5	1	1	1	1	1	0.7	1	0.7	---	---	0.6	---	---
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル (参考)	0.8	1.2	4.2	2.1	1	3	2	1	2	1	1	3.4	---	---	1	---	---
[8]	ヘプタクロル類 (参考)																	
	[8-1] ヘプタクロル (参考)	1.4	2.2	1.4	2.0	2	2	2	2	1	1	1	1	---	1	0.9	---	---
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	1.4	2.2	1.4	2.0	2	2	2	2	1	1	1	1	---	0.8	0.7	---	---
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	4.4	4.0	7.5	5	5	4	3	1	3	3	3	---	3	3	---	---
[9]	トキサフェン類																	
	[9-1] Parlar-26	---	15	14	16	7	4	3	3	---	---	---	---	---	9	---	---	8
	[9-2] Parlar-50	---	11	15	18	5	3	4	3	---	---	---	---	---	10	---	---	6
	[9-3] Parlar-62	---	40	33	34	30	30	30	20	---	---	---	---	---	60	---	---	40
[10]	マイレックス	---	0.81	0.82	0.99	1	1	1	0.8	---	0.8	---	---	---	---	---	---	0.5
[11]	HCH 類 (参考)																	
	[11-1] $\alpha$ -HCH (参考)	1.4	0.61	4.3	3.6	1	2	2	2	1	1	1.2	1	1	1.0	1	1	---
	[11-2] $\beta$ -HCH (参考)	4	3.3	2	0.75	1	3	2	2	1	1	0.8	0.8	0.9	1.0	1	1	---
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン) (参考)	---	1.1	10	2.8	2	3	3	3	1	1	0.9	0.9	0.8	1.6	1	1	---
	[11-4] $\delta$ -HCH (参考)	---	1.3	1.5	1.7	1	2	2	2	1	1	1	1	1	0.8	1	0.9	---
[12]	クロルデコン (参考)	---	---	---	---	---	---	2.2	---	2.3	0.2	---	---	---	---	---	---	
[13]	ヘキサプロモビフェニル類 (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.087 ~0.13	0.7 ~3	1	---	---	---	5	---	---	
[14]	ポリプロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)																	
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	2.2	---	16	6	7	---	6	6	5	6	5
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	5.9	---	6	6	6	---	5	5	4	5	4
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	5.0	---	3	4	4	---	4	5	8	7	8
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	6.7	---	10	4	5	---	5	5	5	8	6
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	3.6	---	4	3	3	---	4	5	6	8	6
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	13	---	10	9	9	---	10	9	14	20	20
	[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	---	---	---	---	---	---	74	---	97	80	50	---	60	70	100	80	80
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	7.4	9.6	4	3	---	2	2	3	4	---
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	9.9	9.9	14	13	---	3	3.4	2	4	---
[17]	ペンタクロロベンゼン	---	---	---	---	---	61	---	---	0.7	1	2.7	26	3.1	4.0	5.1	1	5

物質調査番号	調査対象物質	生物 (pg/g-wet)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[18]	エンドスルファン類(参考) [18-1] $\alpha$ -エンドスルファン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	20	24	---	20	38	---	---	---
	[18-2] $\beta$ -エンドスルファン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	4	5	---	6	11	---	---	---
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン類 [19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	70	20	---	10	10	9	9	9
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	40	10	---	10	10	8	9	8
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	80	10	---	10	10	9	9	8
	[19-4] $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	60	20	---	10	10	---	---	---
	[19-5] $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	60	20	---	10	10	---	---	---
[20]	総ポリ塩化ナフタレン※	---	---	---	---	---	11	10	---	---	---	---	---	---	18	19	12	12
[21]	ヘキサクロロブタ-1,3-ジエン(参考)	---	---	---	---	---	12	---	---	---	---	---	3.7	---	---	---	---	---
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類 [22-1] ペンタクロロフェノール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	21	12	10
	[22-2] ペンタクロロアニソール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	1	1	2
[23]	短鎖塩素化パラフィン類 [23-1] 塩素化デカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	500	200	400
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	1,000	300	700
	[23-3] 塩素化ドデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	700	300	600
	[23-4] 塩素化トリデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	400	200	500
[24]	ジコホル	---	---	---	---	36	---	48	---	---	---	---	---	---	---	---	---	10
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(注1) 「---」は比較対象なしを意味する。

(注2) ※：検出下限値は、同族体ごとの検出下限値の合計とした。

表6-4 モニタリング調査における検出下限値の比較（大気）

物質調査番号	調査対象物質	大気 (pg/m <sup>3</sup> )																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[1]	総 PCB※	33	2.2	0.98	0.14	0.3	0.13	0.3	0.26	2.5	5.9	8.5	6.5	1.4	2.0	2.7	2.3	0.8
[2]	HCB	0.3	0.78	0.37	0.03	0.07	0.03	0.08	0.2	0.7	0.75	1.4	1.3	0.5	0.2	0.3	0.2	0.2
[3]	アルドリン (参考)	0.020	0.0077	0.05	0.03	0.05	0.02	0.02	0.02	---	---	---	---	4	---	---	---	---
[4]	ディルドリン (参考)	0.20	0.70	0.11	0.20	0.1	0.07	0.09	0.02	---	0.14	---	---	0.11	---	---	---	---
[5]	エンドリン (参考)	0.03	0.014	0.048	0.20	0.10	0.04	0.04	0.04	---	0.04	---	---	0.07	---	---	---	---
[6]	DDT 類																	
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	0.08	0.046	0.074	0.05	0.06	0.03	0.03	0.03	0.03	---	---	0.04	---	0.05	---	---	0.01
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	0.03	0.13	0.039	0.03	0.03	0.02	0.02	0.03	0.21	---	---	0.03	---	0.04	---	---	0.01
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	0.006	0.018	0.018	0.05	0.04	0.004	0.009	0.01	0.01	---	---	0.007	---	0.11	---	---	0.03
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	0.05	0.04	0.031	0.03	0.03	0.01	0.01	0.008	0.05	---	---	0.018	---	0.04	---	---	0.01
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	0.01	0.0068	0.012	0.02	0.03	0.007	0.009	0.006	0.01	---	---	0.009	---	0.06	---	---	0.02
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	0.007	0.014	0.048	0.03	0.03	0.02	0.01	0.01	0.01	---	---	0.02	---	0.07	---	---	0.03
[7]	クロルデン類 (参考)																	
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン (参考)	0.20	0.17	0.19	0.05	0.04	0.04	0.05	0.06	0.3	0.42	0.51	0.2	---	---	0.3	---	---
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン (参考)	0.20	0.29	0.23	0.1	0.06	0.05	0.06	0.05	0.4	0.53	0.7	0.3	---	---	0.3	---	---
	[7-3] オキシクロルデン (参考)	0.008	0.015	0.042	0.05	0.08	0.02	0.01	0.02	0.01	0.03	0.03	0.01	---	---	0.06	---	---
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル (参考)	0.010	0.0088	0.024	0.03	0.05	0.01	0.01	0.02	0.04	0.051	0.05	0.02	---	---	0.05	---	---
[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル (参考)	0.10	0.12	0.16	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.3	0.35	0.41	0.2	---	---	0.2	---	---	
[8]	ヘプタクロル類 (参考)																	
	[8-1] ヘプタクロル (参考)	0.04	0.085	0.078	0.05	0.04	0.03	0.02	0.01	0.04	0.099	0.14	0.05	---	0.06	0.08	---	---
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	0.0048	0.017	0.04	0.04	0.01	0.008	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	---	0.2	0.05	---	---
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	0.033	0.2	0.05	0.1	0.06	0.06	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05	---	0.01	0.1	---	---
[9]	トキサフェン類																	
	[9-1] Parlar-26	---	0.066	0.066	0.1	0.6	0.2	0.08	0.09	---	---	---	---	---	---	---	---	0.2
	[9-2] Parlar-50	---	0.27	0.4	0.2	0.5	0.1	0.09	0.1	---	---	---	---	---	---	---	---	0.2
[9-3] Parlar-62	---	0.52	0.81	0.4	3	0.6	0.6	0.6	---	---	---	---	---	---	---	---	0.2	
[10]	マイレックス	---	0.0028	0.017	0.03	0.04	0.01	0.01	0.006	---	0.01	---	---	---	---	---	---	0.01
[11]	HCH 類 (参考)																	
	[11-1] $\alpha$ -HCH (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.05	0.47	0.83	0.7	1.7	0.06	0.06	0.07	0.03	---
	[11-2] $\beta$ -HCH (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.03	0.09	0.13	0.12	0.07	0.08	0.08	0.1	0.04	---
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.02	0.12	0.52	0.32	0.7	0.06	0.06	0.07	0.04	---
[11-4] $\delta$ -HCH (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.02	0.02	0.021	0.03	0.03	0.06	0.05	0.08	0.03	---	
[12]	クロルデコン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.02	0.02	---	---	---	---	---	---	---	---
[13]	ヘキサプロモジフェニル類 (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.1	0.1	---	---	---	0.02	---	---	---	---
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)																	
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.04	0.05	0.47	0.1	---	0.09	0.1	0.2	0.05	0.02
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.06	0.05	0.06	0.06	---	0.09	0.2	0.2	0.04	0.08
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.09	0.06	0.05	0.1	---	0.1	0.4	0.2	0.1	0.06
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.1	0.1	0.1	0.2	---	0.2	0.4	0.4	0.2	0.08
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.1	0.06	0.08	0.1	---	0.1	0.4	0.2	0.07	0.04
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.6	1.2	0.4	0.4	---	1	1.1	0.5	0.2	0.2
[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	---	---	---	---	---	---	---	5	9.1	4.0	5	---	3	0.7	1	0.8	0.8	
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.1	0.2	0.2	0.1	0.06	0.06	0.2	0.1	---	
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.2	1.8	0.2	0.6	0.1	1.4	0.4	1.1	---	
[17]	ペンタクロロベンゼン	---	---	---	---	---	4.8	---	2.5	0.5	0.70	0.6	0.6	0.3	0.2	0.2	0.1	0.08

物質調査番号	調査対象物質	大気 (pg/m <sup>3</sup> )																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[18]	エンドスルファン類(参考) [18-1] α-エンドスルファン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	4.0	5.3	---	0.3	0.3	0.3	---	---
	[18-2] β-エンドスルファン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.39	0.4	---	0.4	0.2	0.3	---	---
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン類(参考) [19-1] α-1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.2	---	0.4	0.3	0.1	0.1	---
	[19-2] β-1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.1	---	0.3	0.3	0.1	0.1	---
	[19-3] γ-1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.1	---	0.4	0.3	0.1	0.1	---
	[19-4] δ-1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.2	---	0.6	0.6	---	---	---
	[19-5] ε-1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.2	---	0.3	0.3	---	---	---
[20]	総ポリ塩化ナフタレン※	---	---	---	---	---	---	1.3	---	---	---	---	---	1.0	---	0.28	0.24	0.2
[21]	ヘキサクロブタ-1,3-ジエン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	11	20	20	10
[22]	ペンタクロフェノール並びにその塩及びエステル類 [22-1] ペンタクロフェノール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.2	0.2	0.2
	[22-2] ペンタクロアニソール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.4	0.5	0.4
[23]	短鎖塩素化パラフィン類 [23-1] 塩素化デカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	110	50	60
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	240	60	40
	[23-3] 塩素化ドデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	170	30	40
	[23-4] 塩素化トリデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	120	40	70
[24]	ジコホル(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.2	---	---	
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸(PFHxS)(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(注1) 「---」は比較対象なしを意味する。

(注2) ※：検出下限値は、同族体ごとの検出下限値の合計とした。

表 7-1 モニタリング調査における定量下限値の比較 (水質)

物質調査番号	調査対象物質	水質 (pg/L)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[1]	総 PCB※	7.4	9.4	9.4	10	9	7.6	7.8	10	73	4.5	44	25	8.2	21	8.4	16	14
[2]	HCB	0.6	5	30	15	16	8	3	0.5	13	5	2.2	7	0.9	1.8	0.9	2.1	1.5
[3]	アルドリン (参考)	0.6	0.6	2	0.9	1.7	1.0	1.4	0.7	---	---	---	---	---	---	---	---	---
[4]	ディルドリン (参考)	1.8	0.7	2	1.0	3	2.1	1.5	0.6	---	1.6	---	---	0.5	---	---	---	---
[5]	エンドリン (参考)	6.0	0.7	2	1.1	1.3	1.9	3	0.7	---	1.6	---	---	0.5	---	---	---	---
[6]	DDT 類 (参考)																	
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT (参考)	0.6	3	6	4	1.9	1.7	1.2	0.15	2.4	---	---	---	0.4	---	---	---	---
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE (参考)	0.6	4	8	6	7	4	1.1	1.1	2.3	---	---	---	0.5	---	---	---	---
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD (参考)	0.24	2	3	1.9	1.6	1.7	0.6	0.4	0.20	---	---	---	1.0	---	---	---	---
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT (参考)	1.2	3	5	3	2.3	2.5	1.4	0.16	1.5	---	---	---	0.4	---	---	---	---
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE (参考)	0.9	0.8	2	1.2	2.6	2.3	0.7	0.22	0.24	---	---	---	0.3	---	---	---	---
[6-6] <i>o,p'</i> -DDD (参考)	0.60	0.8	2	1.2	0.8	0.8	0.8	0.22	0.6	---	---	---	0.20	---	---	---	---	
[7]	クロルデン類 (参考)																	
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン (参考)	0.9	3	6	4	5	4	1.6	1.1	11	1.4	1.6	2.7	---	---	---	2	---
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン (参考)	1.5	5	5	4	7	2.4	3	0.8	13	1.0	2.5	3	---	---	---	3	---
	[7-3] オキシクロルデン (参考)	1.2	2	2	1.1	2.8	6	1.9	1.1	0.7	1.3	0.9	0.9	---	---	---	4	---
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル (参考)	1.8	0.3	0.6	0.5	0.8	2.4	0.9	0.3	1.3	0.6	0.8	0.8	---	---	---	1.5	---
[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル (参考)	1.2	2	4	2.5	3.0	5	1.6	1.0	8	1.3	1.5	1.5	---	---	---	3	---	
[8]	ヘプタクロル類 (参考)																	
	[8-1] ヘプタクロル (参考)	1.5	2	5	3	5	2.4	2.1	0.8	2.2	1.3	---	---	0.5	---	---	3	---
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	0.7	2	0.7	2.0	1.3	0.6	0.5	0.4	0.7	---	---	0.5	---	---	1.6	---
[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	2	0.9	0.7	1.8	2.0	1.9	0.7	1.3	0.8	---	---	0.8	---	---	2.3	---	
[9]	トキサフェン類																	
	[9-1] Parlar-26	---	40	9	10	16	20	8	5	---	---	---	---	---	---	---	---	4
	[9-2] Parlar-50	---	70	20	20	16	9	7	7	---	---	---	---	---	---	---	---	6
[9-3] Parlar-62	---	300	90	70	60	70	40	40	---	---	---	---	---	---	---	---	---	40
[10]	マイレックス	---	0.3	0.4	0.4	1.6	1.1	0.6	0.4	---	0.5	---	---	---	---	---	---	0.7
[11]	HCH 類 (参考)																	
	[11-1] $\alpha$ -HCH (参考)	0.9	3	6	4	3	1.9	4	1.2	4	7	1.4	7	4.5	1.2	1.1	0.9	---
	[11-2] $\beta$ -HCH (参考)	0.9	3	4	2.6	1.7	2.7	1.0	0.6	2.0	2.0	1.4	7	1.0	1.2	1.2	1.8	---
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン) (参考)	---	7	20	14	18	2.1	3	0.6	6	3	1.3	2.7	1.2	0.9	0.8	1.4	---
[11-4] $\delta$ -HCH (参考)	---	2	2	1.5	2.0	1.2	2.3	0.9	0.8	0.4	1.1	1.1	0.4	0.3	0.8	1.0	---	
[12]	クロルデコン (参考)	---	---	---	---	---	---	0.14	---	0.09	0.20	---	---	---	---	---	---	---
[13]	ヘキサプロモビフェニル類 (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.51 ~2.1	3	2.2	---	---	---	---	---	---	---
[14]	ポリプロモジフェニルエーテル類 (臭素数が 4 から 10 までのもの)																	
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	8	9	4	4	---	8	3.6	5	9	13
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	11	3	3	2	---	4	6.3	2.4	3	9
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	1.4	4	3	3	---	4	1.5	2.1	7	3
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	4	3	6	4	---	8	2.0	7	14	8
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	1.4	3	2	4	---	1.6	1.5	0.8	2	3
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	91	21	10	40	---	6	6	4	7	6
[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	---	---	---	---	---	---	---	600	300	60	660	---	22	18	14	24	11	
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	---	---	---	---	---	---	---	37	50	50	31	---	50	29	50	---	70
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA)	---	---	---	---	---	---	---	59	60	50	170	---	50	56	50	---	70
[17]	ペンタクロロベンゼン	---	---	---	---	---	3,300	---	---	4	2.4	3	4	0.8	1.5	---	1.4	1.3

物質 調査 番号	調査対象物質	水質 (pg/L)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[18]	エンドスルファン類																	
	[18-1] $\alpha$ -エンドスルファン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	120	27	---	---	---	---	120	
	[18-2] $\beta$ -エンドスルファン	---	---	---	---	---	---	---	---	22	24	---	---	---	---	30		
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン類 (参考)																	
	[19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	1,500	---	---	1,500	---	---	---		
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	1,300	---	---	500	---	---	---		
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	1,200	---	---	700	---	---	---		
	[19-4] $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	790	---	---	600	---	---	---		
	[19-5] $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	740	---	---	400	---	---	---		
[20]	総ポリ塩化ナフタレン (参考) ※	---	---	---	---	---	85	---	---	---	---	---	---	---	---	---		
[21]	ヘキサクロロプタ-1,3-ジエン (参考)	---	---	---	---	870	---	---	---	---	---	94	---	---	---	---		
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類																	
	[22-1] ペンタクロロフェノール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	260	---	30	24		
	[22-2] ペンタクロロアニソール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	14	16			
[23]	短鎖塩素化パラフィン類																	
	[23-1] 塩素化デカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	3,300	1,000		
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	1,500	2,000		
	[23-3] 塩素化ドデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	3,300	3,000		
	[23-4] 塩素化トリデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	3,600	4,500			
[24]	ジコホル (参考)	---	---	---	---	---	25	---	---	---	---	---	---	---	---	---		
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	120		

(注1) 2002年度の定量下限値はIDLの3倍、2003年度から2005年度の定量下限値はMDLの3倍、2006年度以降の定量下限値はMDL測定時に得られた標準偏差の10倍である。

(注2) 「---」は比較対象なしを意味する。

(注3) ※：定量下限値は、同族体ごとの検出下限値の合計とした。

表 7-2 モニタリング調査における定量下限値の比較 (底質)

物質調査番号	調査対象物質	底質 (pg/g-dry)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[1]	総 PCB※	10	10	7.9	6.3	4	4.7	3.3	5.1	660	12	51	44	61	62	53	14	170
[2]	HCB	0.9	4	7	3	2.9	5	2.0	1.8	3	7	3	5.3	6	3	3	3	1.3
[3]	アルドリン	6	2	2	1.4	1.9	1.8	3	0.5	---	---	---	---	---	---	---	---	1.6
[4]	ディルドリン	3	4	3	3	2.9	2.7	1.2	0.8	---	5	---	---	---	---	---	---	1.6
[5]	エンドリン	6	5	3	2.6	4	5	1.9	1.6	---	1.1	---	---	---	---	---	---	2.4
[6]	DDT 類 (参考)																	
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT (参考)	6	2	2	1.0	1.4	1.3	1.2	1.0	2.8	---	---	---	0.4	---	---	---	---
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE (参考)	2.7	0.9	3	2.7	1.0	1.1	1.7	0.8	5	---	---	---	1.8	---	---	---	---
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD (参考)	2.4	0.9	2	1.7	0.7	1.0	1.0	0.4	1.4	---	---	---	4.2	---	---	---	---
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT (参考)	6	0.8	2	0.8	1.2	1.8	1.5	1.2	1.1	---	---	---	0.4	---	---	---	---
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE (参考)	3	0.6	3	2.6	1.1	1.2	1.4	0.6	1.2	---	---	---	0.8	---	---	---	---
[6-6] <i>o,p'</i> -DDD (参考)	6	2	2	1.0	0.5	1.0	0.3	0.5	0.9	---	---	---	1.2	---	---	---	---	
[7]	クロルデン類 (参考)																	
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン (参考)	0.9	4	4	1.9	2.4	5	2.4	0.7	6	1.1	2.9	2.0	---	---	---	4.8	---
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン (参考)	1.8	4	3	2.3	1.1	2.2	2.0	1.7	11	1.3	4.0	1.8	---	---	---	4	---
	[7-3] オキシクロルデン (参考)	1.5	1	3	2.0	2.9	2.5	3	2	1.0	2.2	1.7	1.3	---	---	---	3	---
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル (参考)	2.1	3	2	1.9	1.2	1.6	0.6	1.0	0.9	1.1	3	0.7	---	---	---	1.7	---
[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル (参考)	1.5	2	2	1.5	1.2	1.7	2.2	0.9	6	0.8	2.4	1.2	---	---	---	6	---	
[8]	ヘプタクロル類 (参考)																	
	[8-1] ヘプタクロル (参考)	1.8	3	3	2.5	1.9	3.0	4	1.1	1.1	1.8	---	---	1.5	---	---	0.9	---
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	3	6	7	3.0	3	2	0.7	0.8	0.6	---	---	0.5	---	---	1.2	---
[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	9	4	5	7	10	1.7	1.4	3	2.3	---	---	0.7	---	---	2.0	---	
[9]	トキサフエン類																	
	[9-1] Parlar-26	---	90	60	60	12	7	12	10	---	---	---	---	---	---	---	---	8
	[9-2] Parlar-50	---	200	60	90	24	30	17	12	---	---	---	---	---	---	---	---	8
[9-3] Parlar-62	---	4,000	2,000	2,000	210	300	90	80	---	---	---	---	---	---	---	---	50	
[10]	マイレックス	---	2	2	0.9	0.6	0.9	0.7	1.0	---	0.9	---	---	---	---	---	---	0.8
[11]	HCH 類 (参考)																	
	[11-1] $\alpha$ -HCH (参考)	1.2	2	2	1.7	5	1.8	1.6	1.1	2.0	1.5	1.6	1.5	2.4	0.7	0.9	0.5	---
	[11-2] $\beta$ -HCH (参考)	0.9	2	3	2.6	1.3	0.9	0.8	1.3	2.4	3	1.5	0.4	0.9	0.8	0.9	1.5	---
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン) (参考)	---	2	2	2.0	2.1	1.2	0.9	0.6	2.0	3	1.3	0.6	2.7	0.5	0.8	1.0	---
[11-4] $\delta$ -HCH (参考)	---	2	2	1.0	1.7	5	2	1.2	1.2	1.4	0.8	0.3	0.4	0.5	0.5	0.6	---	
[12]	クロルデコン (参考)	---	---	---	---	---	---	0.42	---	0.4	0.40	---	---	---	---	---	---	---
[13]	ヘキサプロモビフェニル類 (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.11 ~0.38	1.5	3.6	---	---	---	0.8	---	---	---
[14]	ポリプロモジフェニルエーテル類 (臭素数が 4 から 10 までのもの)																	
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	69	6	30	2	---	27	21	33	9	18
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	24	5	5	2.4	---	6	18	12	9	4
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	5	4	9	3	---	5	3	8	6	3
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	9	4	7	4	---	16	3	6	15	14
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	1.2	10	10	19	---	12	48	6	5	1.2
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	9	24	23	34	---	60	24	27	15	5
[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	---	---	---	---	---	---	---	60	220	40	270	---	240	40	120	30	42	
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	---	---	---	---	---	---	---	9.6	5	5	9	---	5	3	5	---	7
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA)	---	---	---	---	---	---	---	8.3	12	5	4	---	11	3	9	---	9
[17]	ペンタクロロベンゼン	---	---	---	---	---	86	---	---	0.9	5	2.5	2.1	2.4	1.5	1.8	1.5	0.9

物質 調査 番号	調査対象物質	底質 (pg/g-dry)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[18]	エンドスルファン類																	
	[18-1] $\alpha$ -エンドスルファン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	30	13	---	---	---	---	---	5
	[18-2] $\beta$ -エンドスルファン	---	---	---	---	---	---	---	---	9	13	---	---	---	---	---	5	
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン類 (参考)																	
	[19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	280	180	---	---	150	130	---	---
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	170	150	---	---	150	130	---	---
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	260	160	---	---	110	150	---	---
	[19-4] $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	250	300	---	---	180	---	---	---
	[19-5] $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	210	150	---	---	130	---	---	---
[20]	総ポリ塩化ナフタレン※	---	---	---	---	---	---	84	---	---	---	---	---	---	---	59	27	8.5
[21]	ヘキサクロブタ-1,3-ジエン (参考)	---	---	---	---	---	22	---	---	---	---	---	9.9	---	---	---	---	---
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類																	
	[22-1] ペンタクロロフェノール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	4	18
	[22-2] ペンタクロロアニソール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	5	27
[23]	短鎖塩素化パラフィン類																	
	[23-1] 塩素化デカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	10,000	6,000
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	10,000	15,000
	[23-3] 塩素化ドデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	11,000	6,000
	[23-4] 塩素化トリデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	12,000	9,000	
[24]	ジコホル (参考)	---	---	---	---	---	---	160	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	11

(注1) 2002年度の定量下限値はIDLの3倍、2003年度から2005年度の定量下限値はMDLの3倍、2006年度以降の定量下限値はMDL測定時に得られた標準偏差の10倍である。

(注2) 「---」は比較対象なしを意味する。

(注3) ※：定量下限値は、同族体ごとの検出下限値の合計とした。

表 7-3 モニタリング調査における定量下限値の比較 (生物)

物質調査番号	調査対象物質	生物 (pg/g-wet)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[1]	総 PCB※	25	50	85	69	42	46	47	32	52	220	34	44	95	52	60	68	63
[2]	HCB	0.18	23	14	11	3	7	7	4	5	4	8.4	31	10	20	8.1	3.9	3.3
[3]	アルドリン (参考)	4.2	2.5	4.0	3.5	4	5	5	2.1	---	---	---	---	1.8	---	---	---	---
[4]	ディルドリン (参考)	12	4.8	31	9	7	9	9	7	---	3	---	---	3	---	---	---	---
[5]	エンドリン (参考)	18	4.8	12	17	11	9	8	7	---	4	---	---	3	---	---	---	---
[6]	DDT 類																	
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	4.2	11	3.2	5.1	6	5	5	3	3	---	---	3.3	---	---	---	---	3
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	2.4	5.7	8.2	8.5	1.9	3	3	4	3	---	---	4.3	---	---	---	---	3
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	5.4	9.9	2.2	2.9	2.4	3	3	2.4	1.3	---	---	1.9	---	---	---	---	1.4
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	12	2.9	1.8	2.6	3	3	3	2.2	3	---	---	3	---	---	---	---	2.7
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	3.6	3.6	2.1	3.4	3	2.3	3	3	1.5	---	---	4	---	---	---	---	3
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	12	6	5.7	3.3	4	3	4	3	0.6	---	---	1.8	---	---	---	---	2.4
[7]	クロルデン類 (参考)																	
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン (参考)	2.4	3.9	18	12	4	5	5	4	4	3	5	13	---	---	3	---	---
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン (参考)	2.4	7.2	48	10	4	6	7	4	3	4	7	16	---	---	6	---	---
	[7-3] オキシクロルデン (参考)	3.6	8.4	9.2	9.3	7	6	7	4	8	3	3	3	---	---	3	---	---
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル (参考)	1.2	4.8	3.4	4.5	3	3	4	3	3	1.8	2	2.2	---	---	1.4	---	---
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル (参考)	2.4	3.6	13	6.2	3	7	6	3	4	3	4	10	---	---	3	---	---
[8]	ヘプタクロル類 (参考)																	
	[8-1] ヘプタクロル (参考)	4.2	6.6	4.1	6.1	6	6	6	5	3	3	4	3	---	3.0	2.4	---	---
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	6.9	9.9	3.5	4	4	5	3	2.4	2.0	1.5	2.1	---	2.1	1.9	---	---
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	13	12	23	13	13	10	8	3	7	8	7	---	7	9	---	---
[9]	トキサフェン類																	
	[9-1] Parlar-26	---	45	42	47	18	10	9	7	---	---	---	---	---	23	---	---	21
	[9-2] Parlar-50	---	33	46	54	14	9	10	8	---	---	---	---	---	30	---	---	16
	[9-3] Parlar-62	---	120	98	100	70	70	80	70	---	---	---	---	---	150	---	---	100
[10]	マイレックス	---	2.4	2.5	3.0	3	3	4	2.1	---	1.9	---	---	---	---	---	1.4	
[11]	HCH 類 (参考)																	
	[11-1] $\alpha$ -HCH (参考)	4.2	1.8	13	11	3	7	6	5	3	3	3.7	3	3	3.0	3	3	---
	[11-2] $\beta$ -HCH (参考)	12	9.9	6.1	2.2	3	7	6	6	3	3	2	2.2	2.4	3.0	3	3	---
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン) (参考)	---	3.3	31	8.4	4	9	9	7	3	3	2.3	2.4	2.2	4.8	3	3	---
	[11-4] $\delta$ -HCH (参考)	---	3.9	4.6	5.1	3	4	6	5	3	3	3	3	3	2.1	3	2.3	---
[12]	クロルデコン (参考)	---	---	---	---	---	---	5.6	---	5.9	0.5	---	---	---	---	---	---	
[13]	ヘキサプロモジフェニル類 (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.26 ~0.38	1.9 ~8	3	---	---	14	---	---	---	
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類 (臭素数が 4 から 10 までのもの)																	
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	5.9	---	43	16	19	---	15	15	13	16	14
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	16	---	14	15	18	---	12	13	9	12	11
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	14	---	8	10	10	---	10	12	21	17	21
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	18	---	30	11	12	---	12	12	13	22	15
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	9.6	---	11	7	8	---	11	14	16	20	16
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	35	---	30	22	24	---	30	23	36	50	40
	[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	---	---	---	---	---	---	220	---	270	230	120	---	170	170	300	210	240
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	19	25	10	7	---	5	4	9	12	---
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	25	26	41	38	---	10	10	4	12	---
[17]	ペンタクロロベンゼン	---	---	---	---	---	180	---	---	1.9	4	8.1	78	9.3	12	15	4	15

物質 調査 番号	調査対象物質	生物 (pg/g-wet)																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[18]	エンドスルファン類(参考) [18-1] $\alpha$ -エンドスルファン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	50	71	---	60	120	---	---	---
	[18-2] $\beta$ -エンドスルファン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	11	14	---	19	32	---	---	---
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモ シクロドデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	[19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサ プロモシクロドデカン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	170	50	---	30	30	22	24	23
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサ プロモシクロドデカン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	98	40	---	30	30	21	23	22
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサ プロモシクロドデカン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	210	30	---	30	30	24	24	21
	[19-4] $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサ プロモシクロドデカン(参 考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	140	50	---	30	30	---	---	---
[19-5] $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサ プロモシクロドデカン(参 考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	140	40	---	30	30	---	---	---	
[20]	総ポリ塩化ナフタレン※	---	---	---	---	---	27	26	---	---	---	---	---	---	54	57	33	36
[21]	ヘキサクロロブタ-1,3-ジエ ン(参考)	---	---	---	---	---	36	---	---	---	---	---	9.4	---	---	---	---	---
[22]	ペンタクロロフェノール並 びにその塩及びエステル類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	[22-1] ペンタクロロフェノ ール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	63	36	30
[22-2] ペンタクロロアニソ ール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	3	4	6	
[23]	短鎖塩素化パラフィン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	[23-1] 塩素化デカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	1,300	500	1,200
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	3,000	800	1,800
	[23-3] 塩素化ドデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	2,100	900	1,500
[23-4] 塩素化トリデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	1,100	500	1,400	
[24]	ジコホル	---	---	---	---	92	---	120	---	---	---	---	---	---	---	---	---	30
[25]	ペルフルオロヘキサンスル ホン酸 (PFHxS) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(注1) 2002年度の定量下限値はIDLの3倍、2003年度から2005年度の定量下限値はMDLの3倍、2006年度以降の定量下限値はMDL測定時に得られた標準偏差の10倍である。

(注2) 「---」は比較対象なしを意味する。

(注3) ※：定量下限値は、同族体ごとの検出下限値の合計とした。

表 7-4 モニタリング調査における定量下限値の比較 (大気)

物質調査番号	調査対象物質	大気 (pg/m <sup>3</sup> )																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[1]	総 PCB※	99	6.6	2.9	0.38	0.8	0.37	0.8	0.75	7.3	18	26	20	4.1	5.9	7.8	7	2.4
[2]	HCB	0.9	2.3	1.1	0.1	0.21	0.09	0.22	0.6	1.8	2.3	4.3	3.8	1.4	0.5	0.8	0.5	0.4
[3]	アルドリン (参考)	0.060	0.023	0.15	0.08	0.14	0.05	0.04	0.04	---	---	---	---	12	---	---	---	---
[4]	ディルドリン (参考)	0.60	2.1	0.33	0.5	0.3	0.18	0.24	0.06	---	0.42	---	---	0.34	---	---	---	---
[5]	エンドリン (参考)	0.090	0.042	0.14	0.5	0.30	0.09	0.10	0.09	---	0.09	---	---	0.2	---	---	---	---
[6]	DDT 類																	
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	0.24	0.14	0.22	0.16	0.17	0.03	0.07	0.07	0.10	---	---	0.11	---	0.15	---	---	0.03
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	0.09	0.40	0.12	0.1	0.10	0.04	0.04	0.08	0.62	---	---	0.10	---	0.12	---	---	0.03
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	0.018	0.054	0.053	0.16	0.13	0.011	0.025	0.03	0.02	---	---	0.018	---	0.33	---	---	0.07
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	0.15	0.12	0.093	0.10	0.09	0.03	0.03	0.019	0.14	---	---	0.054	---	0.12	---	---	0.03
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	0.03	0.020	0.037	0.07	0.09	0.013	0.025	0.016	0.04	---	---	0.023	---	0.18	---	---	0.05
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	0.021	0.042	0.14	0.10	0.10	0.024	0.04	0.03	0.03	---	---	0.05	---	0.20	---	---	0.07
[7]	クロルデン類 (参考)																	
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン (参考)	0.60	0.51	0.57	0.16	0.13	0.1	0.14	0.16	0.9	1.3	1.5	0.7	---	---	0.9	---	---
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン (参考)	0.60	0.86	0.69	0.3	0.17	0.12	0.17	0.12	1.2	1.6	2.1	0.8	---	---	1.0	---	---
	[7-3] オキシクロルデン (参考)	0.024	0.045	0.13	0.16	0.23	0.1	0.04	0.04	0.03	0.07	0.08	0.03	---	---	0.16	---	---
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル (参考)	0.030	0.026	0.072	0.08	0.15	0.03	0.03	0.04	0.11	0.15	0.12	0.07	---	---	0.14	---	---
[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル (参考)	0.30	0.35	0.48	0.13	0.10	0.09	0.09	0.07	0.8	1.1	1.2	0.5	---	---	0.7	---	---	
[8]	ヘプタクロル類 (参考)																	
	[8-1] ヘプタクロル (参考)	0.12	0.25	0.23	0.16	0.11	0.03	0.06	0.04	0.11	0.30	0.41	0.16	---	0.19	0.22	---	---
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	0.015	0.052	0.12	0.11	0.03	0.022	0.03	0.02	0.04	0.05	0.03	---	0.5	0.12	---	---
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド (参考)	---	0.099	0.6	0.16	0.3	0.14	0.16	0.14	0.16	0.13	0.12	0.12	---	0.03	0.3	---	---
[9]	トキサフェン類																	
	[9-1] Parlar-26	---	0.20	0.2	0.3	1.8	0.6	0.22	0.23	---	---	---	---	---	---	---	---	0.4
	[9-2] Parlar-50	---	0.81	1.2	0.6	1.6	0.3	0.25	0.3	---	---	---	---	---	---	---	---	0.5
[9-3] Parlar-62	---	1.6	2.4	1.2	8	1.3	1.6	1.6	---	---	---	---	---	---	---	---	0.4	
[10]	マイレックス	---	0.0084	0.05	0.10	0.13	0.03	0.03	0.015	---	0.04	---	---	---	---	---	---	0.03
[11]	HCH 類 (参考)																	
	[11-1] $\alpha$ -HCH (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.12	1.4	2.5	2.1	5.2	0.19	0.17	0.17	0.08	---
	[11-2] $\beta$ -HCH (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.09	0.27	0.39	0.36	0.21	0.24	0.25	0.3	0.11	---
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名:リンデン) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.06	0.35	1.6	0.95	2.2	0.17	0.19	0.18	0.10	---
[11-4] $\delta$ -HCH (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.04	0.05	0.063	0.07	0.08	0.19	0.15	0.20	0.08	---	
[12]	クロルデコン (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.04	0.04	---	---	---	---	---	---	---	---
[13]	ヘキサプロモジフェニル類 (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.3	0.3	---	---	---	0.06	---	---	---	---
[14]	ポリプロモジフェニルエーテル類 (臭素数が 4 から 10 までのもの)																	
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.11	0.12	0.18	0.3	---	0.28	0.4	0.4	0.15	0.05
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.16	0.12	0.16	0.14	---	0.28	0.6	0.4	0.10	0.20
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.22	0.16	0.14	0.3	---	0.4	1.1	0.6	0.3	0.17
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.3	0.3	0.3	0.5	---	0.7	1.3	1.1	0.4	0.20
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	0.3	0.15	0.20	0.3	---	0.4	1.1	0.6	0.21	0.11
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	---	---	---	---	---	---	---	1.8	3.7	0.9	1.2	---	4	3.2	1.4	0.6	0.4
[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	---	---	---	---	---	---	---	16	27	12	16	---	9	2.2	3	2.4	2.0	
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.4	0.5	0.5	0.3	0.17	0.19	0.6	0.3	---	
[16]	ペルフルオロオクタ酸 (PFOA) (参考)	---	---	---	---	---	---	---	0.5	5.4	0.7	1.8	0.4	4.2	1.3	3.3	---	
[17]	ペンタクロロベンゼン	---	---	---	---	12	---	6.4	1.2	2.1	1.8	1.7	1.9	0.6	0.5	0.3	0.22	

物質調査番号	調査対象物質	大気 (pg/m <sup>3</sup> )																
		'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
[18]	エンドスルファン類(参考) [18-1] $\alpha$ -エンドスルファン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	12	16	---	0.8	1.0	0.8	---	---
	[18-2] $\beta$ -エンドスルファン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	1.2	1.2	---	1.2	0.5	0.8	---	---
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン類(参考) [19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.6	---	1.2	0.9	0.3	0.3	---
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.3	---	1.0	0.8	0.3	0.3	---
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.3	---	1.3	0.8	0.3	0.3	---
	[19-4] $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.4	---	1.8	1.9	---	---	---
	[19-5] $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.6	---	0.9	0.9	---	---	---
[20]	総ポリ塩化ナフタレン※	---	---	---	---	---	4.0	---	---	---	---	---	---	2.8	---	0.79	0.67	0.5
[21]	ヘキサクロロプタ-1,3-ジエン	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	29	60	60	30
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類 [22-1] ペンタクロロフェノール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.5	0.6	0.5
	[22-2] ペンタクロロアニソール	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	1.0	1.2	1.1
[23]	短鎖塩素化パラフィン類 [23-1] 塩素化デカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	290	140	150
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	610	190	110
	[23-3] 塩素化ドデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	430	100	110
	[23-4] 塩素化トリデカン類	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	320	120	180
[24]	ジコホル(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.5	---	---	
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸(PFHxS)(参考)	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(注1) 2002年度の定量下限値はIDLの3倍、2003年度から2005年度の定量下限値はMDLの3倍、2006年度以降の定量下限値はMDL測定時に得られた標準偏差の10倍である。

(注2) 「---」は比較対象なしを意味する。

(注3) ※：定量下限値は、同族体ごとの検出下限値の合計とした。

## 5. 経年分析の方法

2002年度から（調査開始の年度が異なるため物質・媒体により2003年度以降から）の調査結果が経年的な傾向が統計学的な有意差をもっているか、図2に示す手順の分析及びその分析結果に対する評価を、以下に示す方法により行った。

経年分析の対象とする地点とは、2018年度に調査が実施されている地点であり、かつ、それぞれの調査物質において調査を開始してから2018年度までの期間内において2年以上調査を実施していない地点を除いたものを分析対象地点とした。

また、水質においては、2002年度は、1調査地点当たり3点で試料を採取し、それぞれを測定している。一方で、2003年度以降は、1調査地点当たり1点で採取した試料を測定している。このため、2002年度は、各調査地点とも、3検体の結果のうちで2003年度以降も継続して試料の採取が行われている点における1検体の測定結果のみ経年分析に用いることとした。

底質においては、2009年度以前は、1地点当たり3点で試料を採取し、それぞれを測定している。一方で、2010年度以降は、1地点当たり3点で採取した試料を、調査地点毎に等量ずつ混合して1検体/地点として測定している。このため、2009年度以前は、調査地点毎に3つの測定結果を算術平均することで得られる値を経年分析に用いることとした。

生物においては、2009年度以前は、原則として1地点当たり5試料を調整し、それぞれを測定している。一方で、2010年度は原則として1地点当たり5試料から中間的な大きさの試料として3試料を選択して調整し、これを混合して1検体/地点として測定している。2011年度以降は原則として1地点当たり3試料をそれぞれ調整し、調査地点毎に等量ずつ混合して1検体/地点として測定している。このため、2009年度以前は、測定地点毎に5つの測定結果を算術平均することで得られる値を経年分析に用いることとした。

また、生物のうち鳥類に関しては、2013年度の調査から調査対象生物をカワウに変更したが、それに伴い調査地点を変更したことから2012年度までの結果と継続性がないため、経年分析の対象外とした。

- ① 2002年度以降の調査において継続的に調査を行っている地点（複数年度で欠測が生じていない地点）であり、かつ調査の最新年度である2015年度に調査が行われている地点での調査結果（具体的な調査地点名は前掲の表5-1から表5-4を参照のこと。）において、いずれかの年度の調査結果に検出下限値未満（nd）が検体の1/3以上存在する場合には、濃度の最多頻度が検出下限値未満（nd）となる場合があることから、検出下限値未満（nd）が検体の1/3を超える年度がない調査結果について、経年分析を行うこととした。
- ② 経年分析は、年度と対数濃度との回帰直線（対数線形回帰モデル※）を作成し、その回帰直線の傾きから増減傾向を判断することとした。回帰直線を作成する際には、測定結果の残差分布に従って各測定値の尤度の総積を最大とする方法（パラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法※）を利用して直線を選択した。なお、残差分布に複数のピークが存在する場合、又は各地点の減少傾向と2002年度（又は2003年度）の濃度に関連性があると示唆された場合には、地点を高濃度群及び低濃度群の2群に分け経年分析を行い、全体の傾向と矛盾が生じないか別途検討した。また、地点毎の検体数が異なる場合には、地点毎のデータの重みが等価となるよう重み付けを行った。

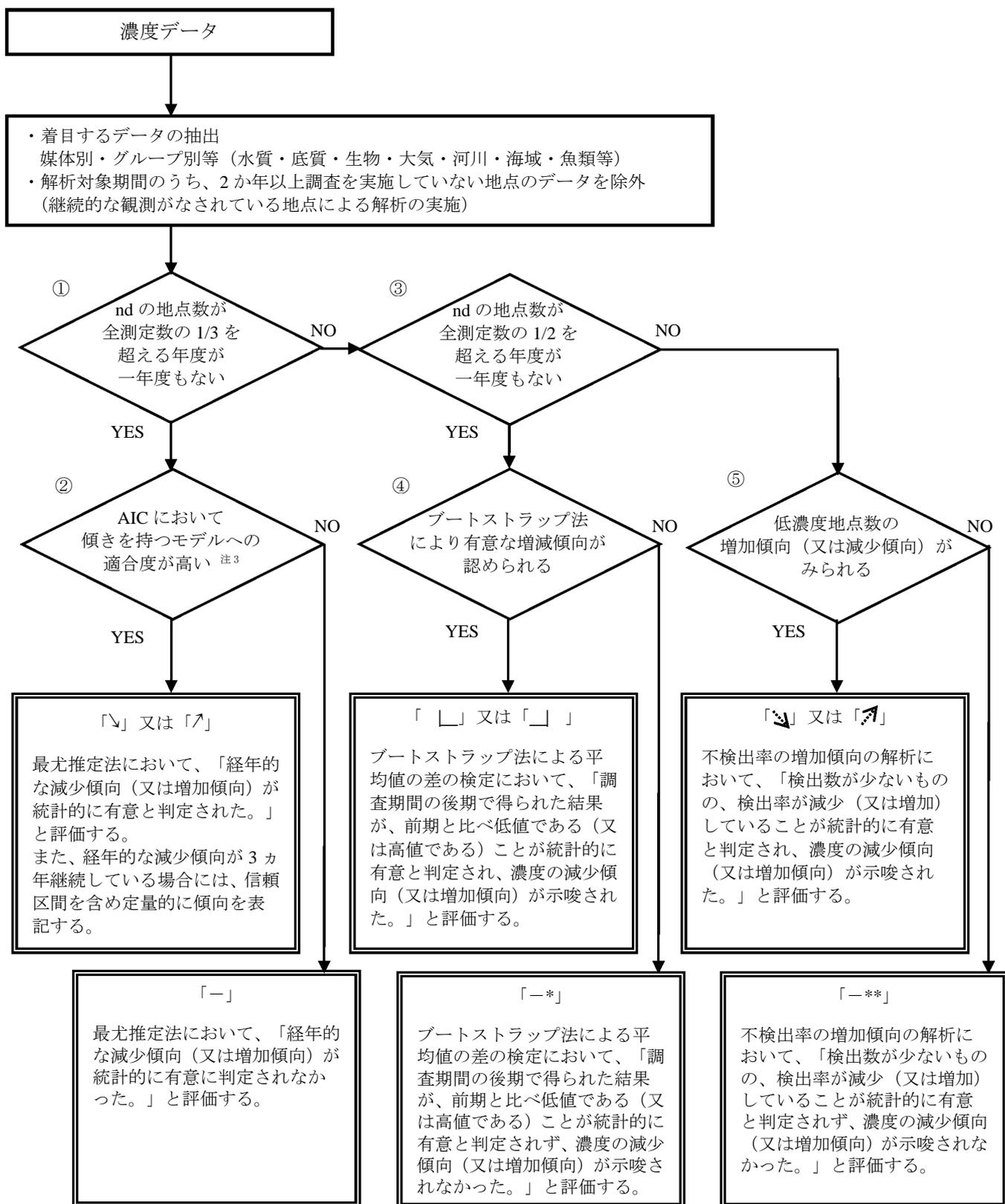
さらに、回帰直線「経年変化のあるモデル」のAIC（赤池情報量規準）※を求め、傾きを0とした回帰直線「経年変化のないモデル」のAICと比較し、モデルの適合度を評価した。「経年変化のあるモデル」が適合と判断したものについて、①で得られた回帰直線の傾きが負である（又は正である）場合に、「減

少傾向（又は増加傾向）が統計的に有意と判定された。」と評価し、後述の6. 調査結果の概要で示す表10においては「↓」（又は「↑」）と表記した。また、3か年以上継続して減少傾向が続く場合には、定量的な情報として調査結果に基づく環境中における半減期を表10に併記することとした。

- ③ 検出下限値未満（nd）が検体の1/3以上存在する調査結果においては、①で述べたとおりパラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法による回帰直線での経年変化の分析を行うことは適切ではないとされたため、ブートストラップ法を用いた平均値の差の検定※を適用した。本検定では、調査を実施した2018年度まで調査結果のうち、各物質においてモニタリング調査開始から6か年を前期、直近の2013年度から2018年度までを後期とし、前期及び後期の各年度で検出下限値未満（nd）が1/2以上存在していない調査結果において、前期の濃度と後期の濃度に有意に差が生じているか判定をすることとした。なお、調査年度が少ないポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）、ペルフルオロオクタタン酸（PFOA）及びペンタクロロベンゼンについては、解析する媒体によっては前期及び後期の対象年数が6か年未満になる場合がある。
- ④ ブートストラップ法を用いた平均値の差の検定を行い、P値が5%未満のものについて差があると判断し、かつ、その差が後期の濃度群より前期の濃度群が低値である（又は高値である）場合には、「調査期間の後期で得られた結果が、前期と比べて低値である（又は高値である）ことが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆された。」と評価し、表10においては「 ↓ 」 （又は「 ↑ 」 ）と表記した。
- ⑤ 検出下限値未満（nd）が検体の1/2以上存在し、パラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法による回帰直線での経年変化の分析及びブートストラップ法を用いた平均値の差の検定による分析が適切ではない場合には、解析の対象とした期間における最も高い検出下限値に着目し、その検出下限値を下回る地点を「低濃度地点」と定義し、低濃度地点数が有意に増加（又は減少）した場合には、「調査期間における低濃度地点数の増加傾向（または減少傾向）が統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆された。」と評価し、表10においては「 ↓ 」 （又は「 ↑ 」 ）と表記した。なお、各年度における検出下限値の違いによる影響を回避するため、解析する際には解析対象年度内で最も高い検出下限値を用いて二項分布を想定したロジットモデルで最尤推定法を実施し、低濃度地点の割合を算出することとした。

なお、②の判断において減少傾向（又は増加傾向）が統計的に有意と判定されない場合には、表10において「 — 」と表記した。また、④の判断において差があると判断されない場合は、ブートストラップ法において調査期間の前期と後期との差が統計的に有意と判定されない場合として「 —\* 」と表記した。また、⑤で検出した検体数の割合が有意に減少していない場合においては、検出率の減少（又は増加）が統計的に有意と判定されない場合として、表10において「 —\*\* 」と表記した。

※ 経年変化解析の詳細な解析手法はそれぞれ章末に参考資料2として記載した。



(注1) 図中の①～⑤の番号は、前述した経年分析の方法の項目番号と対応する。

(注2) 濃度データが検出下限値未満（nd）の場合には、図中の⑤の分析を除き、検出下限値の1/2として解析を実施している。

(注3) ②において、AICにおいて傾きを持つモデルへの適合度が高い場合、回帰直線の傾きが負であれば「経年的な減少傾向が統計的に有意に判定された。」と評価し、回帰直線の傾きが正であれば「経年的な増加傾向が統計的に有意に判定された。」と評価する。

(注4) ブートストラップ法の対象となる年度は、各物質においてモニタリング調査開始から6か年及び直近の2013年度から2018年度までの6か年としている。なお、ポリプロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）及びペンタクロロベンゼンについては、解析する媒体によっては前期及び後期の対象年数が6か年未満になる場合がある。

図2 経年分析の手順及び分析結果に対する評価方法

## 6. 調査結果の概要

モニタリング調査の検出状況一覧を表8-1及び表8-2に、検出下限値一覧を表9に、幾何平均値の経年変化については図3として物質ごとに示した。

また、2018年度の調査も2002年度（物質・媒体により調査開始年度が2003年度以降）から継続的に調査を実施している地点と概ね同一地点で実施しており、2018年度に調査を実施し、かつ、これまでに7か年度分以上の調査結果の蓄積がある物質（群）については、調査対象期間を通じた経年的な傾向について統計的な分析を行った。経年分析の結果を表10-1～表10-4に示した。

○調査結果についての留意事項は以下のとおりである。

- ・底質

各調査地点とも3試料/地点の採取を行い、調査地点毎に3試料を等量ずつ混合して1検体/地点として測定した。

- ・生物

各調査地点とも原則として3試料/地点の採取を行い、調査地点毎に3試料を等量ずつ混合して1検体/地点として測定した。

- ・大気

各地点ともに、温暖期（2018年8月21日～2018年10月19日）調査として実施した。

表 8-1 2018 年度モニタリング調査 検出状況一覧表（水質及び底質）

物質 調査 番号	調査対象物質	水質 (pg/L)		底質 (pg/g-dry)	
		範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値
[1]	総 PCB	tr(11)~2,600 (47/47)	150	nd~720,000 (58/61)	5,900
[2]	HCB	4.0~380 (47/47)	16	3.1~8,900 (61/61)	100
[3]	アルドリン			nd~270 (50/61)	3.7
[4]	ディルドリン			nd~860 (60/61)	33
[5]	エンドリン			nd~7,500 (48/61)	6.4
[6]	DDT 類				
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT				
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE				
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD				
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT				
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE				
[7]	クロルデン類				
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン				
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン				
	[7-3] オキソクロルデン				
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル				
[8]	ヘプタクロル類				
	[8-1] ヘプタクロル				
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド				
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド				
[9]	トキサフェン類				
	[9-1] Parlar-26	nd~5 (7/47)	nd	nd (0/61)	nd
	[9-2] Parlar-50	nd~tr(2) (1/47)	nd	nd~tr(3) (1/61)	nd
	[9-3] Parlar-62	nd (0/47)	nd	nd~tr(20) (1/61)	nd
[10]	マイレックス	nd~1.0 (3/47)	nd	nd~240 (44/61)	1.1
[11]	HCH 類				
	[11-1] $\alpha$ -HCH				
	[11-2] $\beta$ -HCH				
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)				
	[11-4] $\delta$ -HCH				
[12]	クロルデコン				
[13]	ヘキサブロモビフェニル類				

(注1) 「平均値」は幾何平均値を意味する。nd (検出下限値未満)は検出下限値の1/2として算出した。

(注2) は調査対象外であることを意味する。

(注3) tr(X)は、Xの値が定量下限値未満、検出下限値以上であることを意味する。

物質 調査 番号	調査対象物質	水質 (pg/L)		底質 (pg/g-dry)	
		範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)				
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	nd~72 (22/47)	nd	nd~3,100 (43/61)	21
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	nd~110 (13/47)	nd	nd~2,800 (53/61)	19
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	nd~54 (15/47)	nd	nd~1,300 (52/61)	29
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	nd~65 (3/47)	nd	nd~1,900 (46/61)	44
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	nd~69 (35/47)	tr(2)	nd~5,500 (57/61)	100
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	nd~170 (46/47)	12	nd~56,000 (60/61)	690
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	12~2,700 (47/47)	120	tr(14)~520,000 (61/61)	5,100
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	nd~4,100 (42/47)	310	nd~700 (55/61)	43
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA)	160~28,000 (47/47)	1,100	nd~190 (58/61)	23
[17]	ペンタクロロベンゼン	2.7~320 (47/47)	12	1.2~3,400 (61/61)	72
[18]	エンドスルファン類				
	[18-1] $\alpha$ -エンドスルファン	nd~tr(50) (1/47)	nd	nd~30 (21/61)	nd
	[18-2] $\beta$ -エンドスルファン	nd~tr(20) (3/47)	nd	nd~41 (11/61)	nd
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン類				
	[19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン				
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン				
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン				
	[19-4] $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン				
	[19-5] $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン				
[20]	総ポリ塩化ナフタレン	nd~260 (39/47)	tr(32)	9.9~34,000 (61/61)	680
[21]	ヘキサクロロブタ-1,3-ジエン				
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類 ペンタクロロフェノール				
	[22-1] ペンタクロロフェノール	nd~4,400 (44/47)	50	nd~3,900 (59/61)	220
	[22-2] ペンタクロロアニソール	nd~230 (30/47)	tr(10)	nd~160 (53/61)	tr(23)
[23]	短鎖塩素化パラフィン類				
	[23-1] 塩素化デカン類	nd~1,600 (8/47)	nd	nd~7,000 (7/61)	nd
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	nd~3,500 (6/47)	nd	nd~tr(13,000) (7/61)	nd
	[23-3] 塩素化ドデカン類	nd~3,000 (16/47)	nd	nd~38,000 (28/61)	tr(2,000)
	[23-4] 塩素化トリデカン類	nd~11,000 (18/47)	nd	nd~36,000 (24/61)	nd
[24]	ジコホル				
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS)	nd~2,600 (44/47)	190	nd~27 (15/61)	nd

(注1) 「平均値」は幾何平均値を意味する。nd (検出下限値未満)は検出下限値の1/2として算出した。

(注2) は調査対象外であることを意味する。

(注3) tr(X)は、Xの値が定量下限値未満、検出下限値以上であることを意味する。

(注4) 短鎖塩素化パラフィン類のうち、水質においては塩素数が5から9までのものを測定の対象とした。

また、短鎖塩素化パラフィン類の結果は、測定法に様々な課題がある中での試行において得られた暫定的な値である。

表 8-2 2018 年度モニタリング調査 検出状況一覧表 (生物及び大気)

物質 調査 番号	調査対象物質	生物 (pg/g-wet)						大気 (pg/m <sup>3</sup> )	
		貝類		魚類		鳥類		温暖期	
		範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値
[1]	総 PCB	740~12,000 (3/3)	2,000	1,200~280,000 (18/18)	12,000	85,000~130,000 (2/2)	110,000	20~750 (37/37)	110
[2]	HCB	14~28 (3/3)	21	25~900 (18/18)	140	2,600~3,100 (2/2)	2,800	72~140 (37/37)	100
[3]	アルドリン								
[4]	ディルドリン								
[5]	エンドリン								
[6]	DDT 類								
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	32~280 (3/3)	70	tr(2)~4,800 (18/18)	150	29~63 (2/2)	43	0.15~14 (37/37)	1.6
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	150~2,200 (3/3)	420	290~16,000 (18/18)	1,900	22,000~290,000 (2/2)	80,000	0.31~49 (37/37)	2.6
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	17~830 (3/3)	110	40~3,100 (18/18)	280	210~260 (2/2)	230	nd~0.72 (36/37)	0.13
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	10~120 (3/3)	24	tr(1.1)~1,500 (18/18)	34	nd~tr(2.5) (1/2)	tr(1.1)	0.08~6.3 (37/37)	1.0
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	tr(2)~250 (3/3)	20	nd~2,000 (17/18)	32	tr(1) (2/2)	tr(1)	tr(0.04)~1.2 (37/37)	0.24
[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	4.9~720 (3/3)	46	nd~1,100 (17/18)	40	3.7~9.9 (2/2)	6.1	nd~0.38 (36/37)	0.10	
[7]	クロルデン類								
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン								
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン								
	[7-3] オキシクロルデン								
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル								
[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル									
[8]	ヘプタクロル類								
	[8-1] ヘプタクロル								
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド [8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド								
[9]	トキサフェン類								
	[9-1] Parlar-26	nd~tr(15) (2/3)	tr(10)	nd~280 (12/18)	tr(17)	53~54 (2/2)	53	nd~tr(0.3) (12/37)	nd
	[9-2] Parlar-50	nd~17 (2/3)	tr(9)	nd~300 (16/18)	22	tr(11)~tr(13) (2/2)	tr(12)	nd~tr(0.2) (2/37)	nd
[9-3] Parlar-62	nd (0/3)	nd	nd~150 (3/18)	nd	nd (0/2)	nd	nd (0/37)	nd	
[10]	マイレックス	1.8~20 (3/3)	4.9	1.9~70 (18/18)	8.2	47~260 (2/2)	110	0.05~0.20 (37/37)	0.09
[11]	HCH 類								
	[11-1] $\alpha$ -HCH								
	[11-2] $\beta$ -HCH								
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)								
[11-4] $\delta$ -HCH									
[12]	クロルデコン								
[13]	ヘキサブromobフェニル類								

(注1) 「平均値」は幾何平均値を意味する。nd (検出下限値未達) は検出下限値の1/2として算出した。

(注2)  は調査対象外であることを意味する。

(注3) tr(X)は、Xの値が定量下限値未達、検出下限値以上であることを意味する。

物質 調査 番号	調査対象物質	生物 (pg/g-wet)						大気 (pg/m <sup>3</sup> )	
		貝類		魚類		鳥類		温暖期	
		範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)								
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	26~68 (3/3)	36	tr(13)~440 (18/18)	79	280~310 (2/2)	290	0.05~3.9 (37/37)	0.28
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	tr(5)~23 (3/3)	13	nd~100 (17/18)	21	140~240 (2/2)	180	nd~4.1 (18/37)	tr(0.08)
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	nd~34 (2/3)	tr(12)	nd~190 (17/18)	44	330~1,300 (2/2)	650	nd~1.5 (9/37)	nd
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	nd~tr(10) (1/3)	nd	nd~58 (11/18)	tr(9)	110~480 (2/2)	230	nd~1.3 (16/37)	tr(0.09)
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	nd (0/3)	nd	nd~74 (8/18)	tr(7)	61~580 (2/2)	190	nd~1.3 (34/37)	0.15
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	46~53 (2/2)	49	nd~3 (31/37)	0.51
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	nd (0/3)	nd	nd~tr(110) (2/18)	nd	tr(90)~500 (2/2)	tr(210)	nd~19 (31/37)	2.6
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)								
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA)								
[17]	ペンタクロベンゼン	tr(5)~ tr(13) (3/3)	tr(8)	nd~70 (15/18)	19	280~480 (2/2)	370	30~100 (37/37)	59
[18]	エンドスルファン類								
	[18-1] α-エンドスルファン [18-2] β-エンドスルファン								
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン類								
	[19-1] α-1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン	76~270 (3/3)	120	nd~530 (17/18)	89	590~610 (2/2)	600		
	[19-2] β-1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	nd (0/2)	nd		
	[19-3] γ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン	nd~46 (2/3)	tr(19)	nd~130 (10/18)	tr(11)	nd (0/2)	nd		
	[19-4] δ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン								
	[19-5] ε-1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン								
[20]	総ポリ塩化ナフタレン	tr(13)~700 (3/3)	58	nd~520 (16/18)	41	220~250 (2/2)	230	5.3~590 (37/37)	86
[21]	ヘキサクロブタ-1,3-ジエン							150~8,500 (37/37)	3,600
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類 ペンタクロロフェノール								
	[22-1] ペンタクロロフェノール	tr(10)~30 (3/3)	tr(20)	nd~80 (13/18)	tr(10)	180~1,200 (2/2)	460	0.9~30 (37/37)	5.1
	[22-2] ペンタクロロアニソール	tr(2)~21 (3/3)	6	nd~73 (16/18)	8	11~20 (2/2)	15	4.6~110 (37/37)	34
[23]	短鎖塩素化パラフィン類								
	[23-1] 塩素化デカン類	nd~tr(400) (2/3)	nd	nd~tr(800) (1/18)	nd	nd~tr(600) (1/2)	nd	tr(130)~1,700 (37/37)	370
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	nd (0/3)	nd	nd~tr(700) (1/18)	nd	nd (0/2)	nd	tr(100)~2,600 (37/37)	450
	[23-3] 塩素化ドデカン類	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	nd (0/2)	nd	tr(60)~880 (37/37)	190
	[23-4] 塩素化トリデカン類	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	nd (0/2)	nd	nd~470 (26/37)	tr(100)
[24]	ジコanol	nd~30 (1/3)	nd	nd~280 (9/18)	tr(10)	nd (0/2)	nd		
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS)								

(注1) 「平均値」は幾何平均値を意味する。nd (検出下限値未満) は検出下限値の1/2として算出した。

(注2)  は調査対象外であることを意味する

(注3) tr(X)は、Xの値が定量下限値未満、検出下限値以上であることを意味する。

(注4) ヘキサクロブタ-1,3-ジエンの大気については3検体/地点の測定を行っており、範囲は全ての検体における最小値から最大値の範囲で示し、検出頻度は全測定地点に対して検出した地点数で示した。

(注5) 短鎖塩素化パラフィン類のうち、生物においては塩素数が5から9までのものを測定の対象とし、大気において塩素化デカン類は塩素数が4から6までのものを、塩素化ウンデカン類、塩素化ドデカン類及び塩素化トリデカン類は塩素数が4から7までのものを測定の対象とした。また、短鎖塩素化パラフィン類の結果は、測定法に様々な課題がある中での試行において得られた暫定的な値である。

表9 2018年度モニタリング調査 定量[検出]下限値一覧表

物質 調査 番号	調査対象物質	水質 (pg/L)	底質 (pg/g-dry)	生物 (pg/g-wet)	大気 (pg/m <sup>3</sup> )
[1]	総 PCB※	※14 ※[5]	※170 ※[55]	※63 ※[21]	※2.4 ※[0.8]
[2]	HCB	1.5 [0.6]	1.3 [0.5]	3.3 [1.1]	0.4 [0.2]
[3]	アルドリン		1.6 [0.6]		
[4]	ディルドリン		1.6 [0.6]		
[5]	エンドリン		2.4 [0.9]		
	DDT 類				
[6]	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT			3 [1]	0.03 [0.01]
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE			3 [1]	0.03 [0.01]
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD			1.4 [0.6]	0.07 [0.03]
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT			2.7 [0.9]	0.03 [0.01]
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE			3 [1]	0.05 [0.02]
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD			2.4 [0.9]	0.07 [0.03]
		クロルデン類			
[7]	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン				
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン				
	[7-3] オキシクロルデン				
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル				
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル				
	ヘプタクロル類				
[8]	[8-1] ヘプタクロル				
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド				
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド				
	トキサフェン類				
[9]	[9-1] Parlar-26	4 [2]	8 [3]	21 [8]	0.4 [0.2]
	[9-2] Parlar-50	6 [2]	8 [3]	16 [6]	0.5 [0.2]
	[9-3] Parlar-62	40 [20]	50 [20]	100 [40]	0.4 [0.2]
[10]	マイレックス	0.7 [0.3]	0.8 [0.3]	1.4 [0.5]	0.03 [0.01]
	HCH 類				
[11]	[11-1] $\alpha$ -HCH				
	[11-2] $\beta$ -HCH				
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)				
	[11-4] $\delta$ -HCH				
[12]	クロルデコン				
[13]	ヘキサプロモビフェニル類				

(注1) 上段は定量下限値、下段は検出下限値。

(注2) ※は同族体又は該当物質ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

(注3) 生物の定量下限値及び検出下限値は、貝類、魚類及び鳥類で共通であった。

(注4) は調査対象外であることを意味する。

物質調査番号	調査対象物質	水質 (pg/L)	底質 (pg/g-dry)	生物 (pg/g-wet)	大気 (pg/m <sup>3</sup> )
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)				
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	13 [5]	18 [6]	14 [5]	0.05 [0.02]
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	9 [3]	4 [2]	11 [4]	0.20 [0.08]
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	3 [1]	3 [1]	21 [8]	0.17 [0.06]
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	8 [3]	14 [5]	15 [6]	0.20 [0.08]
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	3 [1]	1.2 [0.5]	16 [6]	0.11 [0.04]
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	6 [2]	5 [2]	40 [20]	0.4 [0.2]
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	11 [4]	42 [14]	240 [80]	2.0 [0.8]
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	70 [30]	7 [3]		
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA)	70 [30]	9 [4]		
[17]	ペンタクロロベンゼン	1.3 [0.5]	0.9 [0.3]	15 [5]	0.22 [0.08]
[18]	エンドスルファン類				
	[18-1] $\alpha$ -エンドスルファン	120 [40]	5 [2]		
	[18-2] $\beta$ -エンドスルファン	30 [10]	5 [2]		
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類				
	[19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン			23 [9]	
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン			22 [8]	
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン			21 [8]	
	[19-4] $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン				
	[19-5] $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン				
[20]	総ポリ塩化ナフタレン※	35 [12]	8.5 [3.2]	36 [12]	0.5 [0.2]
[21]	ヘキサクロロプタ-1,3-ジエン				30 [10]
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類 ペンタクロロフェノール				
	[22-1] ペンタクロロフェノール	24 [9]	18 [6]	30 [10]	0.5 [0.2]
	[22-2] ペンタクロロアニソール	16 [6]	27 [9]	6 [2]	1.1 [0.4]
[23]	短鎖塩素化パラフィン類				
	[23-1] 塩素化デカン類	1,000 [400]	6,000 [2,000]	1,200 [400]	150 [60]
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	2,000 [800]	15,000 [5,000]	1,800 [700]	110 [40]
	[23-3] 塩素化ドデカン類	3,000 [1,000]	6,000 [2,000]	1,500 [600]	110 [40]
	[23-4] 塩素化トリデカン類	4,500 [1,500]	9,000 [3,000]	1,400 [500]	180 [70]
[24]	ジコホル			30 [10]	
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS)	120 [50]	11 [5]		

(注1) 上段は定量下限値、下段は検出下限値。

(注2) ※は同族体又は該当物質ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

(注3) 生物の定量下限値及び検出下限値は、貝類、魚類及び鳥類で共通であった。

(注4) は調査対象外であることを意味する。

表 10-1 2002 年度から 2018 年度における経年分析結果（水質）

物質 調査 番号	調査対象物質	水質				
		河川域	湖沼域	河口域	海域	
[1]	総 PCB	半減期 7 年 [6~10 年]	半減期 8 年 [7~10 年]	半減期 7 年 [5~12 年]	半減期 10 年 [7~17 年]	—
[2]	HCB	半減期 14 年 [10~20 年]	—	—	半減期 8 年 [7~11 年]	└
[3]	アルドリン					
[4]	ディルドリン					
[5]	エンドリン					
[6]	DDT 類					
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT					
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE					
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD					
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT					
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE					
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD					
[7]	クロルデン類					
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン					
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン					
	[7-3] オキシクロルデン					
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル					
[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル						
[8]	ヘプタクロル類					
	[8-1] ヘプタクロル					
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド					
[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド						
[9]	トキサフェン類					
	[9-1] Parlar-26	—**	—**	—**	—**	—**
	[9-2] Parlar-50	—**	—**	—**	—**	—**
	[9-3] Parlar-62	—**	—**	—**	—**	—**
[10]	マイレックス	—**	—**	—**	—**	—**
[11]	HCH 類					
	[11-1] $\alpha$ -HCH					
	[11-2] $\beta$ -HCH					
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)					
[11-4] $\delta$ -HCH						

(注 1) AIC での増減傾向の判定では、一次モデルの事後確率において 95%を閾値としている。

(注 2) 「 $\searrow$ 」は経年的な減少傾向が統計的に有意と判定されたことを、「└」は調査期間の後期で得られた結果が前期と比べ低値であることが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたことを、「—」は経年的な減少傾向もしくは増加傾向が統計的に有意と判定されなかったことを、「—\*\*」は不検出率の増加傾向の解析において検出数が少ないものの、検出率が減少（又は増加）していることが統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを意味する。

(注 3) 河川域、湖沼域、河口域及び海域の分類は表 11 に示すとおりである。

(注 4)  $\square$  は 2018 年度の調査を実施しておらず、経年分析を行っていない。

(注 5) 半減期は、パラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法で減少傾向が 3 年以上継続している場合において、調査結果に基づく環境中における半減期を記載している。[ ] 内の結果は、95%信頼区間における値を示す。

物質 調査 番号	調査対象物質	水質			
		河川域	湖沼域	河口域	海域
	ポリプロモジフェニルエーテル類				
	[14-1]テトラプロモジフェニルエーテル類	—**	—**	—**	—
	[14-2]ペンタプロモジフェニルエーテル類	↘	↘	—**	—*
	[14-3]ヘキサプロモジフェニルエーテル類	—**	—**	—**	—**
[14]	[14-4]ヘプタプロモジフェニルエーテル類	—**	—**	—**	—**
	[14-5]オクタプロモジフェニルエーテル類	—**	—**	—**	—
	[14-6]ノナプロモジフェニルエーテル類	—*	—*	—**	—**
	[14-7]デカプロモジフェニルエーテル類	—*	—*	—**	—**
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	—	—	↘ 半減期 10 年 [6~22 年]	—
[16]	ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	—	—	—	↘ 半減期 9 年 [7~14 年]
[17]	ペンタクロロベンゼン	—	—	—	—

(注 1) AIC での増減傾向の判定では、一次モデルの事後確率において 95%を閾値としている。

(注 2) 「↘」は経年的な減少傾向が統計的に有意と判定されたことを、「↘」は検出数が少ないものの、検出率が減少していることが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたことを、「—」は経年的な減少傾向もしくは増加傾向が統計的に有意と判定されなかったことを、「—\*」はブートストラップ法において調査期間の後期で得られた結果が、前期と比べ低値であること（又は高値であること）が統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを、「—\*\*」は不検出率の増加傾向の解析において検出数が少ないものの、検出率が減少（又は増加）していることが統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを意味する。

(注 3) 河川域、湖沼域、河口域及び海域の分類は表 11 に示すとおりである。

(注 4) ポリプロモジフェニルエーテル類は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(注 5) 半減期は、パラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法で減少傾向が 3 か年以上継続している場合において、調査結果に基づく環境中における半減期を記載している。[ ] 内の結果は、95%信頼区間における値を示す。

表 10-2 2002 年度から 2018 年度における経年分析結果（底質）

物質調査番号	調査対象物質	底質				
			河川域	湖沼域	河口域	海域
[1]	総 PCB	↓ 半減期 17 年 [12~30 年]	↓ 半減期 11 年 [9~17 年]	—	—	↓ 半減期 22 年 [15~43 年]
[2]	HCB	↓ 半減期 17 年 [11~33 年]	↓	—	—	—
[3]	アルドリソ	↓	—*	—	—	↓
[4]	ディルドリン	↓	↓	—	—	—
[5]	エンドリン	—	—**	—	—	—
[6]	DDT 類					
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT					
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE					
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD					
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT					
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE					
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD					
[7]	クロルデン類					
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン					
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン					
	[7-3] オキシクロルデン					
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル					
[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル						
[8]	ヘプタクロル類					
	[8-1] ヘプタクロル					
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド					
[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド						
[9]	トキサフェン類					
	[9-1] Parlar-26	—**	—**	—**	—**	—**
	[9-2] Parlar-50	—**	—**	—**	—**	—**
	[9-3] Parlar-62	—**	—**	—**	—**	—**
[10]	マイレックス	—**	—**	—**	—**	—**
[11]	HCH 類					
	[11-1] $\alpha$ -HCH					
	[11-2] $\beta$ -HCH					
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)					
[11-4] $\delta$ -HCH						

(注 1) AIC での増減傾向の判定では、一次モデルの事後確率において 95%を閾値としている。

(注 2) 「↓」は経年的な減少傾向が統計的に有意と判定されたことを、「—」は経年的な減少傾向もしくは増加傾向が統計的に有意と判定されなかったことを、「—\*」はブートストラップ法において調査期間の後期で得られた結果が、前期と比べ低値であること（又は高値であること）が統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを、「—\*\*」は不検出率の増加傾向の解析において検出数が少ないものの、検出率が減少（又は増加）していることが統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを意味する。

(注 3) 河川域、湖沼域、河口域及び海域の分類は表 11 に示すとおりである。

(注 4) ■は 2018 年度の調査を実施しておらず、経年分析を行っていない。

(注 5) 半減期は、パラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法で減少傾向が 3 年以上継続している場合において、調査結果に基づく環境中における半減期を記載している。[ ] 内の結果は、95%信頼区間における値を示す。

物質 調査 番号	調査対象物質	底質			
		河川域	湖沼域	河口域	海域
	ポリプロモジフェニルエーテル類				
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	—*	↘	—	—*
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	—*	↘	—	—
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	—*	—**	—	—
[14]	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	└	—**	—*	—*
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	—*	—**	—	—
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	—	—*	—	—
	[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	—	—	—	—
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	—	—	—	↘
[16]	ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	—	↘ 半減期 21 年 [12~75 年]	—	↘
[17]	ペンタクロロベンゼン	—	—	—	—

(注 1) AIC での増減傾向の判定では、一次モデルの事後確率において 95%を閾値としている。

(注 2) 「↘」は経年的な減少傾向が統計的に有意と判定されたことを、「└」は調査期間の後期で得られた結果が前期と比べ低値であることが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたことを、「↘」は検出数が少ないものの、検出率が減少していることが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたことを、「—」は経年的な減少傾向もしくは増加傾向が統計的に有意と判定されなかったことを、「—\*」はブートストラップ法において調査期間の後期で得られた結果が、前期と比べ低値であること（又は高値であること）が統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを、「—\*\*」は不検出率の増加傾向の解析において検出数が少ないものの、検出率が減少（又は増加）していることが統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを意味する。

(注 3) 河川域、湖沼域、河口域及び海域の分類は表 11 に示すとおりである。

(注 4) ポリプロモジフェニルエーテル類は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(注 5) 半減期は、パラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法で減少傾向が 3 か年以上継続している場合において、調査結果に基づく環境中における半減期を記載している。[ ] 内の結果は、95%信頼区間における値を示す。

表 10-3 2002 年度から 2018 年度における経年分析結果（生物）

物質調査番号	調査対象物質	貝類	魚類
[1]	総 PCB	↓	—
[2]	HCB	—	—
[3]	アルドリノ		
[4]	ディルドリン		
[5]	エンドリン		
[6]	DDT 類		
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	—	↓
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	—	—
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	↓	—
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	↓	半減期 7 年 [5~11 年]
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	半減期 5 年 [4~7 年]	半減期 11 年 [8~18 年]
[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	↓	—	
[7]	クロルデン類		
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン		
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン		
	[7-3] オキシクロルデン		
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル		
[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル			
[8]	ヘプタクロル類		
	[8-1] ヘプタクロル		
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド		
[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド			
[9]	トキサフェン類		
	[9-1] Parlar-26	—※	—*
	[9-2] Parlar-50	—	—
[9-3] Parlar-62	—**	—**	
[10]	マイレックス	—	—
[11]	HCH 類		
	[11-1] $\alpha$ -HCH		
	[11-2] $\beta$ -HCH		
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)		
[11-4] $\delta$ -HCH			

(注 1) AIC での増減傾向の判定では、一次モデルの事後確率において 95%を閾値としている。

(注 2) 「↓」は経年的な減少傾向が統計的に有意と判定されたことを、「—」は経年的な減少傾向もしくは増加傾向が統計的に有意と判定されなかったことを、「—\*」はブートストラップ法において調査期間の後期で得られた結果が、前期と比べ低値であること（又は高値であること）が統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを、「—\*\*」は不検出率の増加傾向の解析において検出数が少ないものの、検出率が減少（又は増加）していることが統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを意味する。

(注 3) ■は 2018 年度の調査を実施しておらず、経年分析を行っていない。

(注 4) 半減期は、パラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法で減少傾向が 3 か年以上継続している場合において、調査結果に基づく環境中における半減期を記載している。[ ] 内の結果は、95%信頼区間における値を示す。

(注 5) ※解析した一部の調査地点は、継続的に不検出であることから除外して解析した。

物質調査番号	調査対象物質	貝類	魚類
	ポリプロモジフェニルエーテル類		
[14]	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	↓ 半減期 7 年 [6~9 年]	—
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	—	—
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	— **	—
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	— **	— **
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	— **	— **
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	— **	— **
	[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	— **	— **
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)		
[16]	ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)		
[17]	ペンタクロロベンゼン	— **	— *
	1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン類		
[19]	[19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン	↓	↓
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン	— **	— **
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン	↓	— *

(注 1) AIC での増減傾向の判定では、一次モデルの事後確率において 95%を閾値としている。

(注 2) 「↓」は経年的な減少傾向が統計的に有意と判定されたことを、「—」は経年的な減少傾向もしくは増加傾向が統計的に有意と判定されなかったことを、「—\*」はブートストラップ法において調査期間の後期で得られた結果が、前期と比べ低値であること（又は高値であること）が統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを、「—\*\*」は不検出率の増加傾向の解析において検出数が少ないものの、検出率が減少（又は増加）していることが統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを意味する。

(注 3) ポリプロモジフェニルエーテル類は 2008 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) 及びペルフルオロオクタン酸 (PFOA) は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(注 4) 半減期は、パラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法で減少傾向が 3 年以上継続している場合において、調査結果に基づく環境中における半減期を記載している。[ ] 内の結果は、95%信頼区間における値を示す。

表 10-4 2003 年度から 2018 年度における経年分析結果（大気）

物質調査番号	調査対象物質	大気	
		温暖期	
[1]	総 PCB		半減期 14 年 [10~25 年]
[2]	HCB		—
[3]	アルドリン		
[4]	ディルドリン		
[5]	エンドリン		
DDT 類			
[6]	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT		半減期 8 年 [6~12 年]
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE		半減期 9 年 [7~14 年]
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD		— **
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT		半減期 6 年 [4~7 年]
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE		半減期 5 年 [4~6 年]
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD		
クロルデン類			
[7]	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン		
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン		
	[7-3] オキシクロルデン		
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル		
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル		
ヘプタクロル類			
[8]	[8-1] ヘプタクロル		
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド		
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド		
トキサフェン類			
[9]	[9-1] Parlar-26		— **
	[9-2] Parlar-50		— **
	[9-3] Parlar-62		— **
[10]	マイレックス		—
HCH 類			
[11]	[11-1] $\alpha$ -HCH		
	[11-2] $\beta$ -HCH		
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)		
	[11-4] $\delta$ -HCH		

(注 1) AIC での増減傾向の判定では、一次モデルの事後確率において 95%を閾値としている。

(注 2) 「↓」は経年的な減少傾向が統計的に有意と判定されたことを、「—」は経年的な減少傾向もしくは増加傾向が統計的に有意と判定されなかったことを、「—\*\*」は不検出率の増加傾向の解析において検出数が少ないものの、検出率が減少（又は増加）していることが統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを意味する。

(注 3) □ は 2018 年度の調査を実施しておらず、経年分析を行っていない。

(注 4) 半減期は、パラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法で減少傾向が 3 年以上継続している場合において、調査結果に基づく環境中における半減期を記載している。[ ] 内の結果は、95%信頼区間における値を示す。

物質 調査 番号	調査対象物質	大気
		温暖期
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類	
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	↓ 半減期 7 年 [5~10 年]
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	— **
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	— **
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	— **
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	— **
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	— **
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	— **
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	
[16]	ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	
[17]	ペンタクロロベンゼン	—

(注 1) AIC での増減傾向の判定では、一次モデルの事後確率において 95%を閾値としている。

(注 2) 「↓」は経年的な減少傾向が統計的に有意と判定されたことを、「—」は経年的な減少傾向もしくは増加傾向が統計的に有意と判定されなかったことを、「—\*\*」は不検出率の増加傾向の解析において検出数が少ないものの、検出率が減少（又は増加）していることが統計的に有意と判定されず、濃度の減少傾向（又は増加傾向）が示唆されなかったことを意味する。

(注 3) ポリブロモジフェニルエーテル類は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)、ペルフルオロオクタン酸 (PFOA) 及びは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2007 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(注 4) 半減期は、パラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法で減少傾向が 3 か年以上継続している場合において、調査結果に基づく環境中における半減期を記載している。[ ] 内の結果は、95%信頼区間における値を示す。

表 11 2002 年度から 2018 年度における経年分析の水域分類

分類	地方公共団体	調査地点	調査の実施		
			水質	底質	
河川域	北海道	十勝川すずらん大橋 (帯広市)	○		
		石狩川河口石狩河口橋 (石狩市)	○	○	
	岩手県	豊沢川 (花巻市)	○	○	
	仙台市	広瀬川広瀬大橋 (仙台市)		○	
	山形県	最上川河口 (酒田市)	○	○	
	茨城県	利根川河口かもめ大橋 (神栖市)	○	○	
	栃木県	田川給分地区頭首工 (宇都宮市)		○	
	埼玉県	荒川秋ヶ瀬取水堰 (志木市)	○		
	新潟県	信濃川下流 (新潟市)	○	○	
	富山県	神通川河口菘浦橋 (富山市)	○	○	
	福井県	笙の川三島橋 (敦賀市)	○	○	
	山梨県	荒川千秋橋 (甲府市)		○	
	静岡県	天竜川 (磐田市)	○	○	
	京都市	桂川宮前橋 (京都市)	○	○	
	大阪市	大阪港	○	○	
		淀川 (大阪市)		○	
	奈良県	大和川 (王寺町)		○	
	和歌山県	紀の川河口紀の川大橋 (和歌山市)	○	○	
	高知県	四万十川河口 (四万十市)	○	○	
	熊本県	緑川平木橋 (宇土市)	○	○	
	宮崎県	大淀川河口 (宮崎市)	○	○	
	鹿児島県	天降川 (霧島市)	○	○	
		五反田川五反田橋 (いちき串木野市)	○	○	
	湖沼域	秋田県	八郎湖	○	○
		長野県	諏訪湖湖心	○	○
		滋賀県	琵琶湖南比良沖中央		○
	河口域	千葉県	花見川河口 (千葉市)	○	○
荒川河口 (江東区)			○	○	
東京都		隅田川河口 (港区)	○	○	
		多摩川河口 (川崎市)		○	
石川県		犀川河口 (金沢市)	○	○	
愛知県		衣浦港		○	
三重県		鳥羽港		○	
大阪府		大和川河口 (堺市)	○	○	
大阪市		淀川河口 (大阪市)		○	
徳島県		吉野川河口 (徳島市)	○	○	
香川県		高松港	○	○	
北九州市		洞海湾	○	○	
大分県		大分川河口 (大分市)		○	
沖縄県		那覇港	○	○	
海域		北海道	苫小牧港		○
		宮城県	仙台湾 (松島湾)	○	○
		福島県	小名浜港	○	○
		千葉県	市原・姉崎海岸		○
	横浜市	横浜港	○	○	
	川崎市	川崎港京浜運河	○	○	
	静岡県	清水港		○	
	愛知県	名古屋港	○	○	
	三重県	四日市港	○	○	
	京都府	宮津港	○	○	
	大阪市	大阪港外		○	
	兵庫県	姫路沖	○	○	
	神戸市	神戸港中央	○	○	
	岡山県	水島沖	○	○	
	広島県	呉港	○	○	
		広島湾	○	○	
		山口県	徳山湾	○	○
		宇部沖	○	○	
		萩沖	○	○	
	愛媛県	新居浜港		○	
	福岡市	博多湾		○	
佐賀県	伊万里湾	○	○		
長崎県	大村湾	○	○		

(注) 調査地点の名称として河口としている地点の一部は、調査地点の状況から河川域及び海域に分類した。

2018年度調査においては、2002年度又は2003年度から継続的な分析が行われているPCB類及びHCBについて、全て検出された。

また、アルドリン、ディルドリン、エンドリン、DDT類、トキサフェン類、マイレックス、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）、ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）、ペルフルオロオクタン酸（PFOA）、ペンタクロロベンゼン、 $\alpha$ -エンドスルファン、 $\beta$ -エンドスルファン、1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類のうち $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、ポリ塩化ナフタレン類、ヘキサクロロブタ-1,3-ジエン、ペンタクロロフェノールとその塩及びエステル類、短鎖塩素化パラフィン類並びにジコホルについても分析が行われ、トキサフェン類のうちParlar-26が底質で、Parlar-62が水質、生物のうち貝類、鳥類及び大気で、ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）のうちヘキサブロモジフェニルエーテル類が生物のうち貝類で、オクタブロモジフェニルエーテル類が生物のうち貝類で、ノナブロモジフェニルエーテル類が大気で、デカブロモジフェニルエーテル類が生物のうち貝類、魚類で、1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類の $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンが生物のすべてで、 $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンが生物のうち鳥類で、短鎖塩素化パラフィン類のうち塩素化ウンデカン類が生物のうち貝類、鳥類で、塩素化ドデカン類が生物のすべてで、塩素化トリデカン類が生物のすべてで、それぞれ不検出であった以外は全て検出された。

物質（群）別の調査結果は、次のとおりである。

## [1] PCB 類

### ・調査の経緯及び実施状況

PCB（ポリ塩化ビフェニル）は、絶縁油等に利用されていた。難分解性で、生物に蓄積しやすくかつ慢性毒性を有するため、1974年6月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、POPs条約においては、2004年に条約が発効された当初から条約対象物質に指定されている。

2001年度までの継続的調査においては、「生物モニタリング」<sup>ii)</sup>で1978年度から2001年度の全期間にわたって生物（貝類、魚類及び鳥類）について調査しており、「非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査」<sup>iii)</sup>で1996年度及び1997年度に底質及び生物（魚類）、2000年度及び2001年度に水質、底質、生物（魚類）及び大気の調査を実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を毎年度実施している。

### ・調査結果

#### <水質>

水質については、47地点を調査し、検出下限値 5 pg/L において 47 地点全てで検出され、検出濃度は tr(11)~2,600 pg/L の範囲であった。2002年度から2018年度における経年分析の結果、河川域、湖沼域及び河口域の減少傾向が統計的に有意と判定された。また、水質全体としても減少傾向が統計的に有意と判定された。

#### ○2002年度から2018年度における水質についての総 PCB の検出状況

総 PCB	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※※	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	470	330	11,000	60	7.4 [2.5]	114/114	38/38
	2003	530	450	3,100	230	9.4 [2.5]	36/36	36/36
	2004	630	540	4,400	140	14 [5.0]	38/38	38/38
	2005	520	370	7,800	140	10 [3.2]	47/47	47/47
	2006	240	200	4,300	15	9 [3]	48/48	48/48
	2007	180	140	2,700	12	7.6 [2.9]	48/48	48/48
	2008	260	250	4,300	27	7.8 [3.0]	48/48	48/48
	2009	210	170	3,900	14	10 [4]	48/48	48/48
	2010	120	99	2,200	nd	73 [24]	41/49	41/49
	2011	150	130	2,100	16	4.5 [1.7]	49/49	49/49
	2012	400	280	6,500	72	44 [15]	48/48	48/48
	2013	140	110	2,600	tr(13)	25 [8]	48/48	48/48
	2014	150	120	4,800	16	8.2 [2.9]	48/48	48/48
	2015	200	160	4,200	34	21 [7.3]	48/48	48/48
	2016	140	120	3,100	tr(7.2)	8.4 [2.8]	48/48	48/48
	2017	84	79	2,400	nd	16 [5.5]	46/47	46/47
	2018	150	140	2,600	tr(11)	14 [5]	47/47	47/47

(注1) ※：2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：定量[検出]下限値は、同族体ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

#### <底質>

底質については、61地点を調査し、検出下限値 55 pg/g-dry において 61 地点中 58 地点で検出され、検出濃度は 720,000 pg/g-dry までの範囲であった。2002年度から2018年度における経年分析の結果、河川域及び海域の減少傾向が統計的に有意と判定された。また、底質全体としても減少傾向が統計的に有意と判定された。

○2002年度から2018年度における底質についての総PCBの検出状況

総 PCB	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※※	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	11,000	11,000	630,000	39	10 [3.5]	189/189	63/63
	2003	9,400	9,500	5,600,000	39	10 [3.2]	186/186	62/62
	2004	8,400	7,600	1,300,000	38	7.9 [2.6]	189/189	63/63
	2005	8,600	7,100	690,000	42	6.3 [2.1]	189/189	63/63
	2006	8,800	6,600	690,000	36	4 [1]	192/192	64/64
	2007	7,400	6,800	820,000	19	4.7 [1.5]	192/192	64/64
	2008	8,700	8,900	630,000	22	3.3 [1.2]	192/192	64/64
	2009	7,600	7,100	1,700,000	17	5.1 [2.1]	192/192	64/64
	2010	6,500	7,800	710,000	nd	660 [220]	56/64	56/64
	2011	6,300	7,400	950,000	24	12 [4.5]	64/64	64/64
	2012	5,700	6,700	640,000	tr(32)	51 [18]	63/63	63/63
	2013	6,200	8,000	650,000	tr(43)	44 [13]	62/62	62/62
	2014	4,900	5,500	440,000	tr(35)	61 [21]	63/63	63/63
	2015	6,400	7,500	1,100,000	nd	62 [22]	61/62	61/62
	2016	5,300	5,300	770,000	tr(21)	53 [18]	62/62	62/62
	2017	4,600	6,200	610,000	nd	14 [5.0]	61/62	61/62
	2018	5,900	6,500	720,000	nd	170 [55]	58/61	58/61

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：定量[検出]下限値は、同族体ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

<生物>

生物のうち貝類については、3地点を調査し、検出下限値 21pg/g-wet において3地点全てで検出され、検出濃度は740~12,000pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18地点を調査し、検出下限値 21pg/g-wet において18地点全てで検出され、検出濃度は1,200~280,000pg/g-wet の範囲であった。鳥類については、2地点を調査し、検出下限値 21pg/g-wet において2地点全てで検出され、検出濃度は85,000~130,000pg/g-wet の範囲であった。2002年度から2018年度における経年分析の結果、貝類の減少傾向が統計的に有意と判定された。

○2002年度から2018年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての総PCBの検出状況

総 PCB	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※※	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2002	8,800	28,000	160,000	200	25 [8.4]	38/38	8/8
	2003	11,000	9,600	130,000	1,000	50 [17]	30/30	6/6
	2004	11,000	11,000	150,000	1,500	85 [29]	31/31	7/7
	2005	11,000	13,000	85,000	920	69 [23]	31/31	7/7
	2006	8,500	8,600	77,000	690	42 [14]	31/31	7/7
	2007	9,000	11,000	66,000	980	46 [18]	31/31	7/7
	2008	8,600	8,600	69,000	870	47 [17]	31/31	7/7
	2009	8,700	11,000	62,000	780	32 [11]	31/31	7/7
	2010	9,200	11,000	46,000	1,500	52 [20]	6/6	6/6
	2011	8,900	17,000	65,000	820	220 [74]	4/4	4/4
	2012	6,600	12,000	34,000	680	34 [11]	5/5	5/5
	2013	5,200	7,800	44,000	730	44 [14]	5/5	5/5
	2014	2,900	2,600	15,000	600	95 [31]	3/3	3/3
	2015	2,400	2,500	9,600	580	52 [17]	3/3	3/3
	2016	2,300	2,300	12,000	420	60 [20]	3/3	3/3
	2017	2,500	1,600	19,000	500	68 [23]	3/3	3/3
	2018	2,000	900	12,000	740	63 [21]	3/3	3/3

総 PCB	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※※	検出頻度	
魚類 (pg/g-wet)	2002	17,000	8,100	550,000	1,500	25 [8.4]	70/70	14/14
	2003	11,000	9,600	150,000	870	50 [17]	70/70	14/14
	2004	15,000	10,000	540,000	990	85 [29]	70/70	14/14
	2005	14,000	8,600	540,000	800	69 [23]	80/80	16/16
	2006	13,000	9,000	310,000	990	42 [14]	80/80	16/16
	2007	11,000	6,200	530,000	790	46 [18]	80/80	16/16
	2008	12,000	9,100	330,000	1,200	47 [17]	85/85	17/17
	2009	12,000	12,000	290,000	840	32 [11]	90/90	18/18
	2010	13,000	10,000	260,000	880	52 [20]	18/18	18/18
	2011	14,000	12,000	250,000	900	220 [74]	18/18	18/18
	2012	13,000	14,000	130,000	920	34 [11]	19/19	19/19
	2013	14,000	13,000	270,000	1,000	44 [14]	19/19	19/19
	2014	13,000	10,000	230,000	940	95 [31]	19/19	19/19
	2015	11,000	7,700	180,000	1,300	52 [17]	19/19	19/19
	2016	11,000	8,400	150,000	1,200	60 [20]	19/19	19/19
	2017	10,000	8,300	160,000	860	68 [23]	19/19	19/19
	2018	12,000	12,000	280,000	1,200	63 [21]	18/18	18/18
	鳥類 (pg/g-wet)	2002	12,000	14,000	22,000	4,800	25 [8.4]	10/10
2003		19,000	22,000	42,000	6,800	50 [17]	10/10	2/2
2004		9,000	9,400	13,000	5,900	85 [29]	10/10	2/2
2005		10,000	9,700	19,000	5,600	69 [23]	10/10	2/2
2006		12,000	9,800	48,000	5,600	42 [14]	10/10	2/2
2007		7,600	7,800	15,000	3,900	46 [18]	10/10	2/2
2008		9,700	7,400	56,000	3,000	47 [17]	10/10	2/2
2009		5,900	5,700	9,500	3,900	32 [11]	10/10	2/2
2010		7,700	---	9,100	6,600	52 [20]	2/2	2/2
2011		---	---	5,400	5,400	220 [74]	1/1	1/1
2012		5,900	---	6,200	5,600	34 [11]	2/2	2/2
2013※※※		360,000	---	510,000	250,000	44 [14]	2/2	2/2
2014※※※	46,000	---	140,000	15,000	95 [31]	2/2	2/2	
2015※※※	---	---	5,000	5,000	52 [17]	1/1	1/1	
2016※※※	31,000	---	100,000	9,800	60 [20]	2/2	2/2	
2017※※※	39,000	---	380,000	4,000	68 [23]	2/2	2/2	
2018※※※	110,000	---	130,000	85,000	63 [21]	2/2	2/2	

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：定量[検出]下限値は、同族体ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

(注3) ※※※：鳥類の2013年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と継続性がない。

## <大気>

大気については、37地点を調査し、検出下限値 0.8 pg/m<sup>3</sup>において37地点全てで検出され、検出濃度は20~750pg/m<sup>3</sup>の範囲であった。2003年度から2018年度における経年分析の結果、温暖期の減少傾向が統計的に有意と判定された。

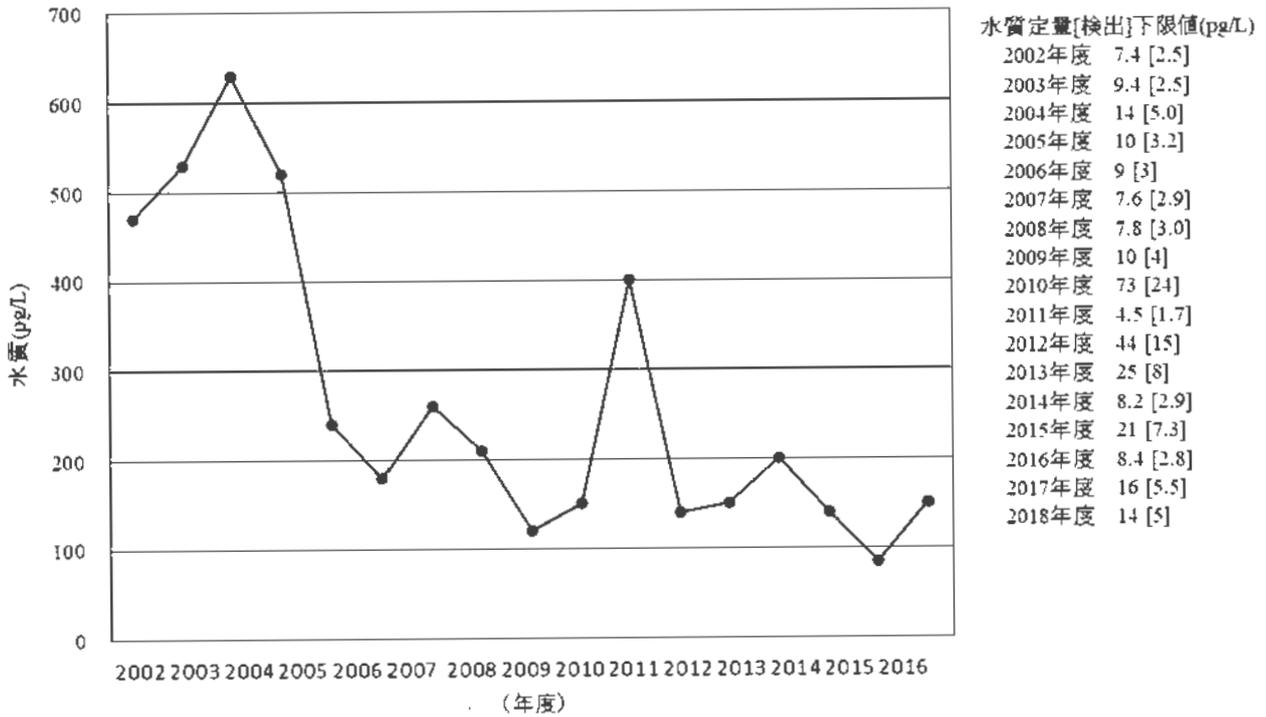
○2002年度から2018年度における大気についての総PCBの検出状況

総 PCB	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002※※	100	100	880	16	99 [33]	102/102	34/34
	2003 温暖期	260	340	2,600	36	6.6 [2.2]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	110	120	630	17		34/34	34/34
	2004 温暖期	240	250	3,300	25	2.9 [0.98]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	130	130	1,500	20		37/37	37/37
	2005 温暖期	190	210	1,500	23	0.38 [0.14]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	66	64	380	20		37/37	37/37
	2006 温暖期	170	180	1,500	21	0.8 [0.3]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	82	90	450	19		37/37	37/37
	2007 温暖期	250	290	980	37	0.37 [0.13]	24/24	24/24
	2007 寒冷期	72	76	230	25		22/22	22/22
	2008 温暖期	200	170	960	52	0.8 [0.3]	22/22	22/22
	2008 寒冷期	93	86	1,500	21		36/36	36/36
	2009 温暖期	200	190	1,400	43	0.75 [0.26]	34/34	34/34
	2009 寒冷期	85	78	380	20		34/34	34/34
	2010 温暖期	160	150	970	36	7.3 [2.5]	35/35	35/35
	2010 寒冷期	84	86	630	19		35/35	35/35
	2011 温暖期	150	160	660	32	18 [5.9]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	76	66	320	tr(17)		37/37	37/37
	2012 温暖期	130	130	840	27	26 [8.5]	35/35	35/35
2012 寒冷期	54	62	280	tr(16)	35/35		35/35	
2013 温暖期	140	130	1,100	24	20 [6.5]	35/35	35/35	
2013 寒冷期	57	55	300	tr(19)		35/35	35/35	
2014 温暖期	140	150	1,300	28	4.1 [1.4]	36/36	36/36	
2015 温暖期	98	110	950	17	5.9 [2.0]	35/35	35/35	
2016 温暖期	130	140	1,300	16	7.8 [2.7]	37/37	37/37	
2017 温暖期	120	110	3,300	26	7.0 [2.3]	37/37	37/37	
2018 温暖期	110	100	750	20	2.4 [0.8]	37/37	37/37	

(注1) ※：定量[検出]下限値は、同族体ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

(注2) ※※：2002年度の調査においては、特に低塩素化同族体の測定方法に技術的問題があったため、参考値として扱う。

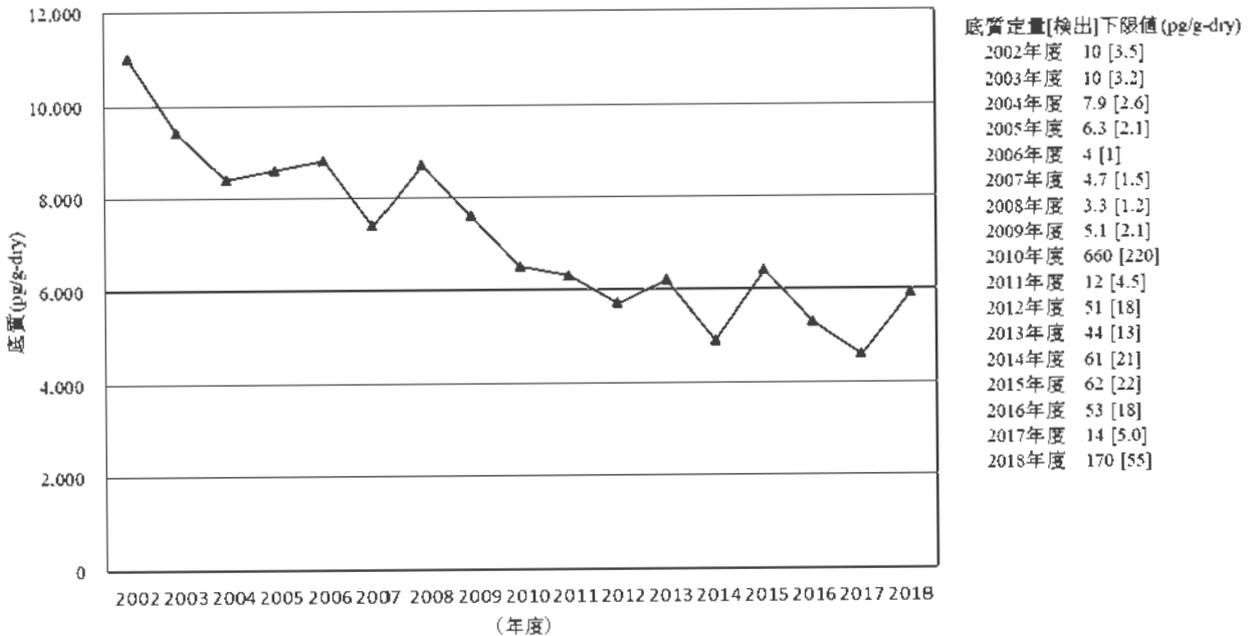
[1] 総PCB



(注) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

図 3-1-1 総 PCB の水質の経年変化 (幾何平均値)

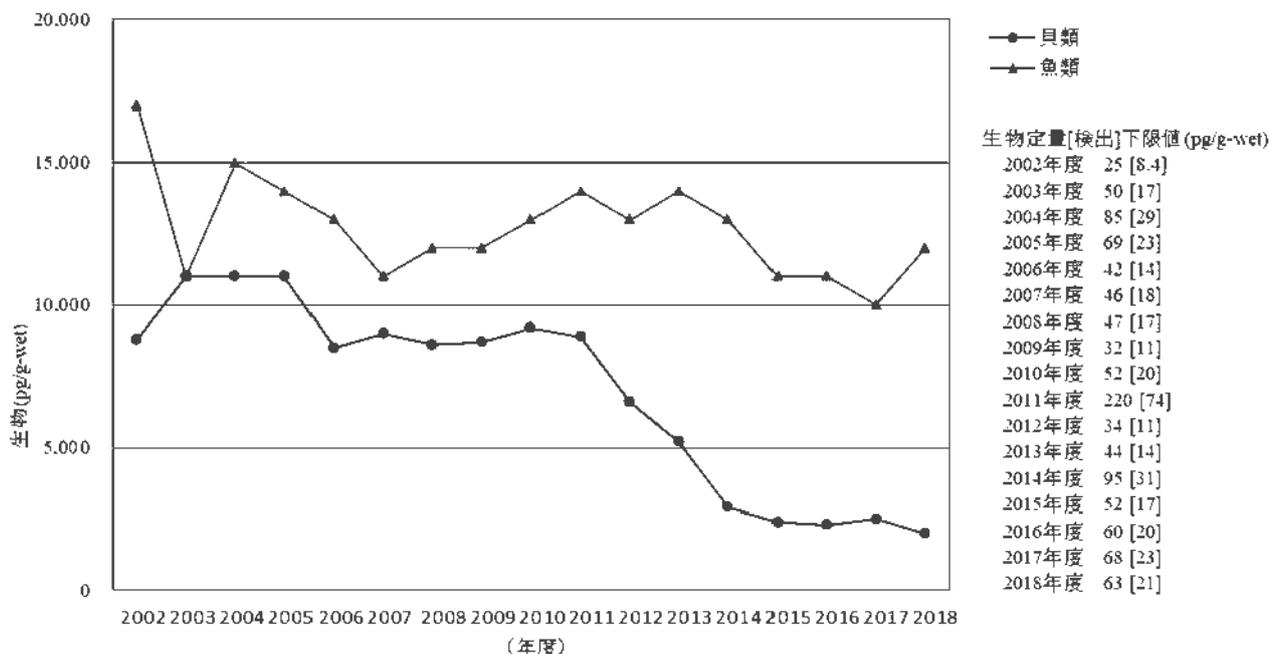
[1] 総PCB



(注) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

図 3-1-2 総 PCB の底質の経年変化 (幾何平均値)

[1] 総PCB



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

図 3-1-3 総 PCB の生物の経年変化 (幾何平均値)

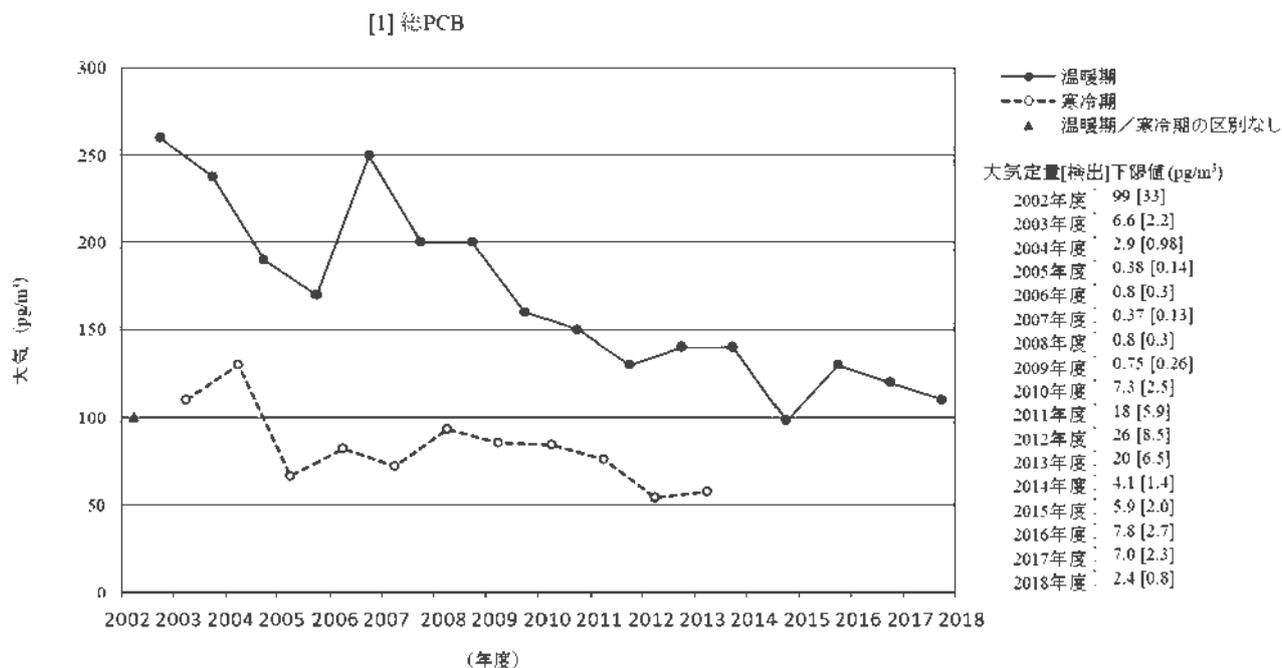


図 3-1-4 総 PCB の大気の大気経年変化 (幾何平均値)

## [2] HCB

### ・調査の経緯及び実施状況

HCBは、殺虫剤等の原料に利用されていた。1979年8月に、化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、POPs条約においては、2004年に条約が発効された当初から条約対象物質に指定されている。

2001年度までの継続的調査においては、「生物モニタリング」<sup>ii)</sup>で1978年度から1996年度までの毎年度と1998年度、2000年度及び2001年度に生物（貝類、魚類及び鳥類）について調査を実施し、「水質・底質モニタリング」<sup>i)</sup>で水質は1986年度から1998年度まで、底質は1986年度から2001年度の全期間にわたって調査を実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を毎年度実施している。

### ・調査結果

#### <水質>

水質については、47地点を調査し、検出下限値0.6 pg/Lにおいて47地点全てで検出され、検出濃度は4.0～380 pg/Lの範囲であった。2002年度から2018年度における経年分析の結果、河口域の減少傾向が統計的に有意と判定され、海域の調査期間の後期6か年で得られた結果が前期6か年と比べ低値であることが統計的に有意と判定され、減少傾向が示唆された。また、水質全体としても減少傾向が統計的に有意と判定された。

#### ○2002年度から2018年度における水質についてのHCBの検出状況

HCB	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	37	28	1,400	9.8	0.6 [0.2]	114/114	38/38
	2003	29	24	340	11	5 [2]	36/36	36/36
	2004	30	tr(29)	180	tr(11)	30 [8]	38/38	38/38
	2005	21	17	210	tr(6)	15 [5]	47/47	47/47
	2006	16	tr(12)	190	nd	16 [5]	46/48	46/48
	2007	17	14	190	tr(4)	8 [3]	48/48	48/48
	2008	16	13	480	4	3 [1]	48/48	48/48
	2009	15	17	180	2.4	0.5 [0.2]	49/49	49/49
	2010	tr(10)	tr(8)	120	nd	13 [4]	39/49	39/49
	2011	13	12	140	tr(3)	5 [2]	49/49	49/49
	2012	29	23	330	8.1	2.2 [0.7]	48/48	48/48
	2013	14	11	260	tr(4)	7 [2]	48/48	48/48
	2014	12	9.7	200	2.7	0.9 [0.4]	48/48	48/48
	2015	15	13	140	4.2	1.8 [0.6]	48/48	48/48
	2016	13	11	130	4.2	0.9 [0.3]	48/48	48/48
	2017	12	10	180	2.9	2.1 [0.8]	47/47	47/47
	2018	16	11	380	4.0	1.5 [0.6]	47/47	47/47

(注) ※：2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

#### <底質>

底質については、61地点を調査し、検出下限値0.5 pg/g-dryにおいて61地点全てで検出され、検出濃度は3.1～8,900 pg/g-dryの範囲であった。2002年度から2018年度における経年分析の結果、河川域の減少傾向が統計的に有意と判定された。また、底質全体としても減少傾向が統計的に有意と判定された。

○2002年度から2018年度における底質についての HCB の検出状況

HCB	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	240	200	19,000	7.6	0.9 [0.3]	189/189	63/63
	2003	160	120	42,000	5	4 [2]	186/186	62/62
	2004	140	100	25,000	tr(6)	7 [3]	189/189	63/63
	2005	170	130	22,000	13	3 [1]	189/189	63/63
	2006	180	120	19,000	10	2.9 [1.0]	192/192	64/64
	2007	140	110	65,000	nd	5 [2]	191/192	64/64
	2008	160	97	29,000	4.4	2.0 [0.8]	192/192	64/64
	2009	150	120	34,000	nd	1.8 [0.7]	190/192	64/64
	2010	130	96	21,000	4	3 [1]	64/64	64/64
	2011	150	110	35,000	11	7 [3]	64/64	64/64
	2012	100	110	12,000	3	3 [1]	63/63	63/63
	2013	120	91	6,600	7.2	5.3 [1.8]	63/63	63/63
	2014	95	85	5,600	tr(4)	6 [2]	63/63	63/63
	2015	100	90	17,000	4	3 [1]	62/62	62/62
	2016	84	74	6,400	4	3 [1]	62/62	62/62
	2017	82	65	11,000	3	3 [1]	62/62	62/62
	2018	100	79	8,900	3.1	1.3 [0.5]	61/61	61/61

(注) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

<生物>

生物のうち貝類については、3地点を調査し、検出下限値 1.1pg/g-wet において3地点全てで検出され、検出濃度は 14~28pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18地点を調査し、検出下限値 1.1pg/g-wet において18地点全てで検出され、検出濃度は 25~900pg/g-wet の範囲であった。鳥類については、2地点を調査し、検出下限値 1.1pg/g-wet において2地点全てで検出され、検出濃度は 2,600~3,100pg/g-wet の範囲であった。

○2002年度から2018年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての HCB の検出状況

HCB	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2002	21	22	330	2.4	0.18 [0.06]	38/38	8/8
	2003	44	27	660	tr(21)	23 [7.5]	30/30	6/6
	2004	32	31	80	14	14 [4.6]	31/31	7/7
	2005	51	28	450	19	11 [3.8]	31/31	7/7
	2006	46	28	340	11	3 [1]	31/31	7/7
	2007	37	22	400	11	7 [3]	31/31	7/7
	2008	38	24	240	13	7 [3]	31/31	7/7
	2009	34	32	200	12	4 [2]	31/31	7/7
	2010	34	48	210	tr(4)	5 [2]	6/6	6/6
	2011	45	34	920	4	4 [1]	4/4	4/4
	2012	39	38	340	10	8.4 [2.8]	5/5	5/5
	2013	32	39	250	nd	31 [10]	4/5	4/5
	2014	34	26	100	15	10 [3]	3/3	3/3
	2015	35	26	120	tr(14)	20 [6.5]	3/3	3/3
	2016	38	22	150	17	8.1 [2.7]	3/3	3/3
	2017	41	26	99	26	3.9 [1.3]	3/3	3/3
	2018	21	23	28	14	3.3 [1.1]	3/3	3/3

HCB	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
魚類 (pg/g-wet)	2002	140	180	910	19	0.18 [0.06]	70/70	14/14
	2003	180	170	1,500	28	23 [7.5]	70/70	14/14
	2004	230	210	1,800	26	14 [4.6]	70/70	14/14
	2005	180	160	1,700	29	11 [3.8]	80/80	16/16
	2006	180	220	1,400	25	3 [1]	80/80	16/16
	2007	160	140	1,500	17	7 [3]	80/80	16/16
	2008	170	210	1,500	25	7 [3]	85/85	17/17
	2009	210	180	30,000	29	4 [2]	90/90	18/18
	2010	240	280	1,700	36	5 [2]	18/18	18/18
	2011	260	320	1,500	34	4 [1]	18/18	18/18
	2012	200	300	1,100	33	8.4 [2.8]	19/19	19/19
	2013	240	220	1,500	36	31 [10]	19/19	19/19
	2014	280	340	1,900	37	10 [3]	19/19	19/19
	2015	170	150	1,700	43	20 [6.5]	19/19	19/19
	2016	150	150	1,300	24	8.1 [2.7]	19/19	19/19
	2017	190	180	1,100	33	3.9 [1.3]	19/19	19/19
	2018	140	150	900	25	3.3 [1.1]	18/18	18/18
	鳥類 (pg/g-wet)	2002	1,000	1,200	1,600	560	0.18 [0.06]	10/10
2003		1,800	2,000	4,700	790	23 [7.5]	10/10	2/2
2004		980	1,300	2,200	410	14 [4.6]	10/10	2/2
2005		1,000	1,100	2,500	400	11 [3.8]	10/10	2/2
2006		970	1,100	2,100	490	3 [1]	10/10	2/2
2007		960	1,100	2,000	420	7 [3]	10/10	2/2
2008		880	1,100	2,500	240	7 [3]	10/10	2/2
2009		850	910	1,500	400	4 [2]	10/10	2/2
2010		970	---	1,900	500	5 [2]	2/2	2/2
2011		---	---	460	460	4 [1]	1/1	1/1
2012		840	---	1,500	470	8.4 [2.8]	2/2	2/2
2013※※		3,900	---	5,200	2,900	31 [10]	2/2	2/2
2014※※		420	---	5,600	32	10 [3]	2/2	2/2
2015※※		---	---	760	760	20 [6.5]	1/1	1/1
2016※※	1,700	---	5,300	550	8.1 [2.7]	2/2	2/2	
2017※※	1,100	---	4,900	230	3.9 [1.3]	2/2	2/2	
2018※※	2,800	---	3,100	2,600	3.3 [1.1]	2/2	2/2	

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2013年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と継続性がない。

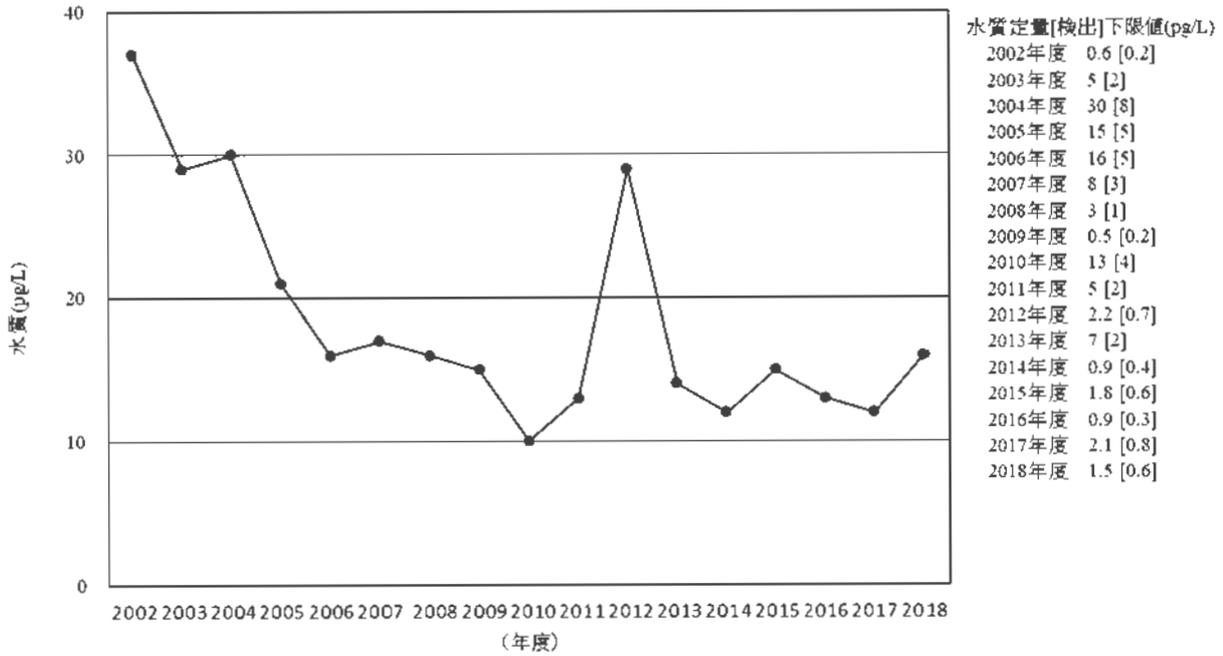
<大気>

大気については、37 地点を調査し、検出下限値 0.2pg/m<sup>3</sup> において 37 地点全てで検出され、検出濃度は 72~140pg/m<sup>3</sup> の範囲であった。

○2002 年度から 2018 年度における大気についての HCB の検出状況

HCB	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	99	93	3,000	57	0.9 [0.3]	102/102	34/34
	2003 温暖期	150	130	430	81	2.3 [0.78]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	94	90	320	64		34/34	34/34
	2004 温暖期	130	130	430	47	1.1 [0.37]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	98	89	390	51		37/37	37/37
	2005 温暖期	88	90	250	27	0.14 [0.034]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	77	68	180	44		37/37	37/37
	2006 温暖期	83	89	210	23	0.21 [0.07]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	65	74	170	8.2		37/37	37/37
	2007 温暖期	110	100	230	72	0.09 [0.03]	24/24	24/24
	2007 寒冷期	77	72	120	55		22/22	22/22
	2008 温暖期	120	110	260	78	0.22 [0.08]	22/22	22/22
	2008 寒冷期	87	83	160	58		36/36	36/36
	2009 温暖期	110	110	210	78	0.6 [0.2]	34/34	34/34
	2009 寒冷期	87	87	150	59		34/34	34/34
	2010 温暖期	120	120	160	73	1.8 [0.7]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	100	96	380	56		37/37	37/37
	2011 温暖期	120	110	180	87	2.3 [0.75]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	96	96	160	75		37/37	37/37
	2012 温暖期	120	110	150	84	4.3 [1.4]	36/36	36/36
2012 寒冷期	97	95	150	68	36/36		36/36	
2013 温暖期	110	110	180	52	3.8 [1.3]	36/36	36/36	
2013 寒冷期	97	97	180	73		36/36	36/36	
2014 温暖期	150	160	240	84	1.4 [0.5]	36/36	36/36	
2015 温暖期	120	130	170	74	0.5 [0.2]	35/35	35/35	
2016 温暖期	130	130	220	79	0.8 [0.3]	37/37	37/37	
2017 温暖期	130	120	550	73	0.5 [0.2]	37/37	37/37	
2018 温暖期	100	100	140	72	0.4 [0.2]	37/37	37/37	

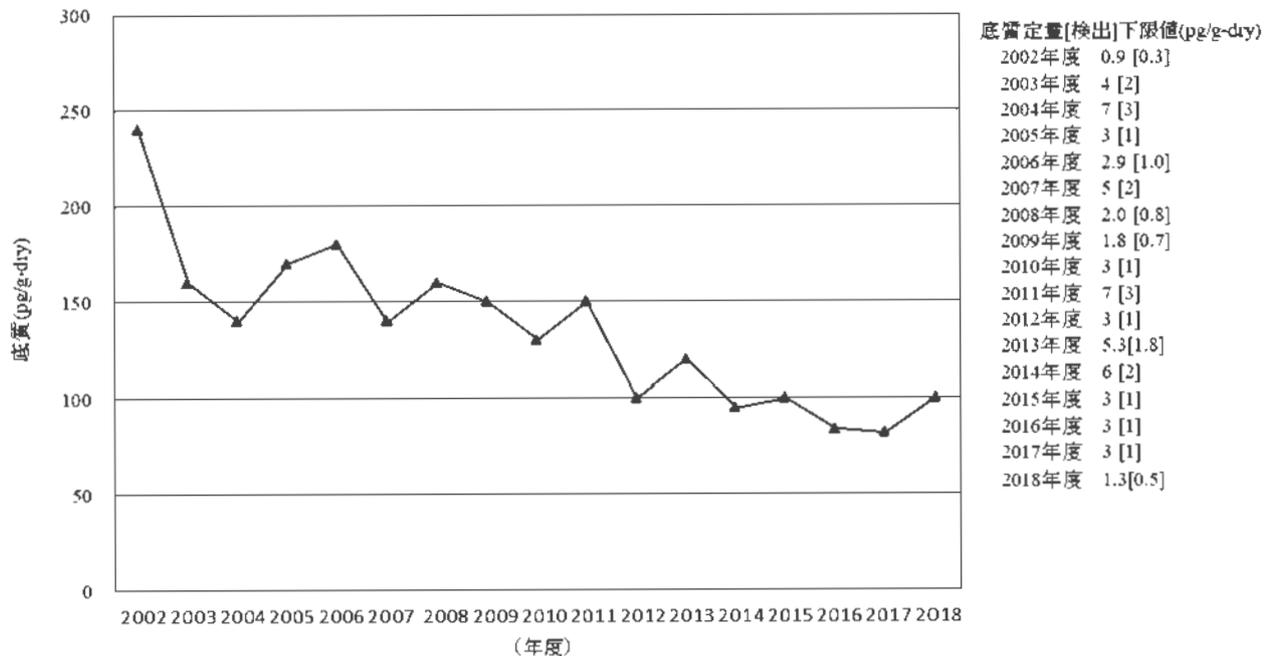
[2] HCB



(注) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

図 3-2-1 HCB の水質の経年変化 (幾何平均値)

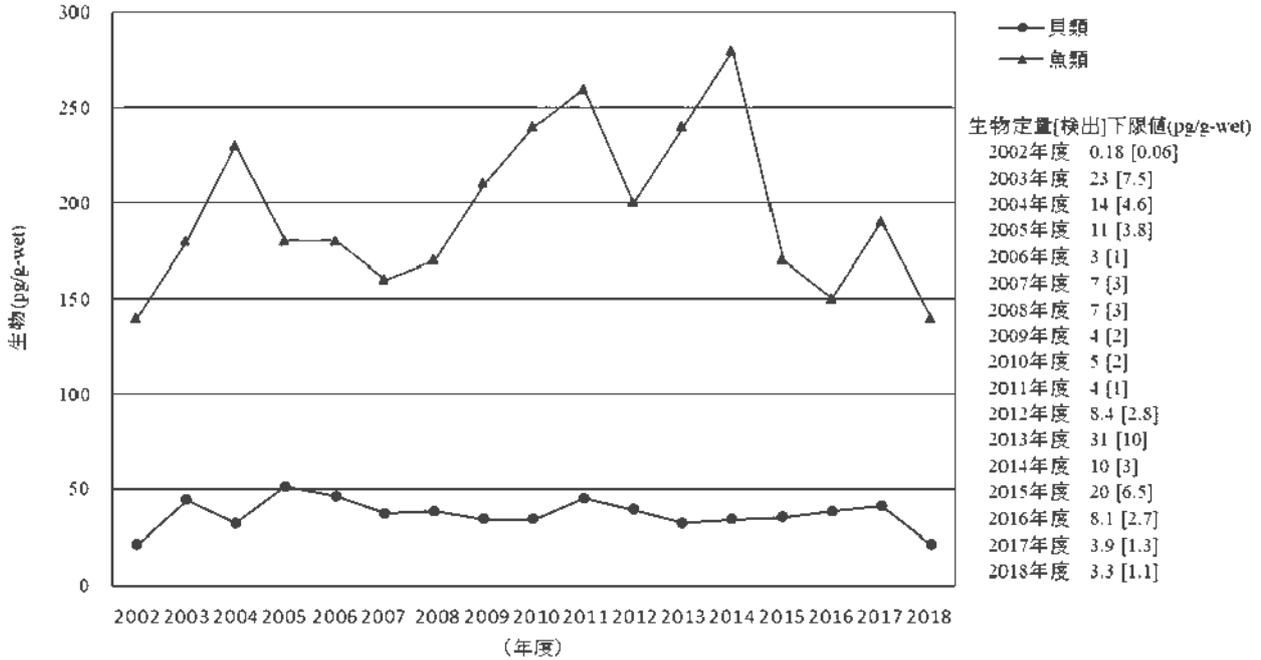
[2] HCB



(注) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

図 3-2-2 HCB の底質の経年変化 (幾何平均値)

[2] HCB



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

図 3-2-3 HCB の生物の経年変化 (幾何平均値)

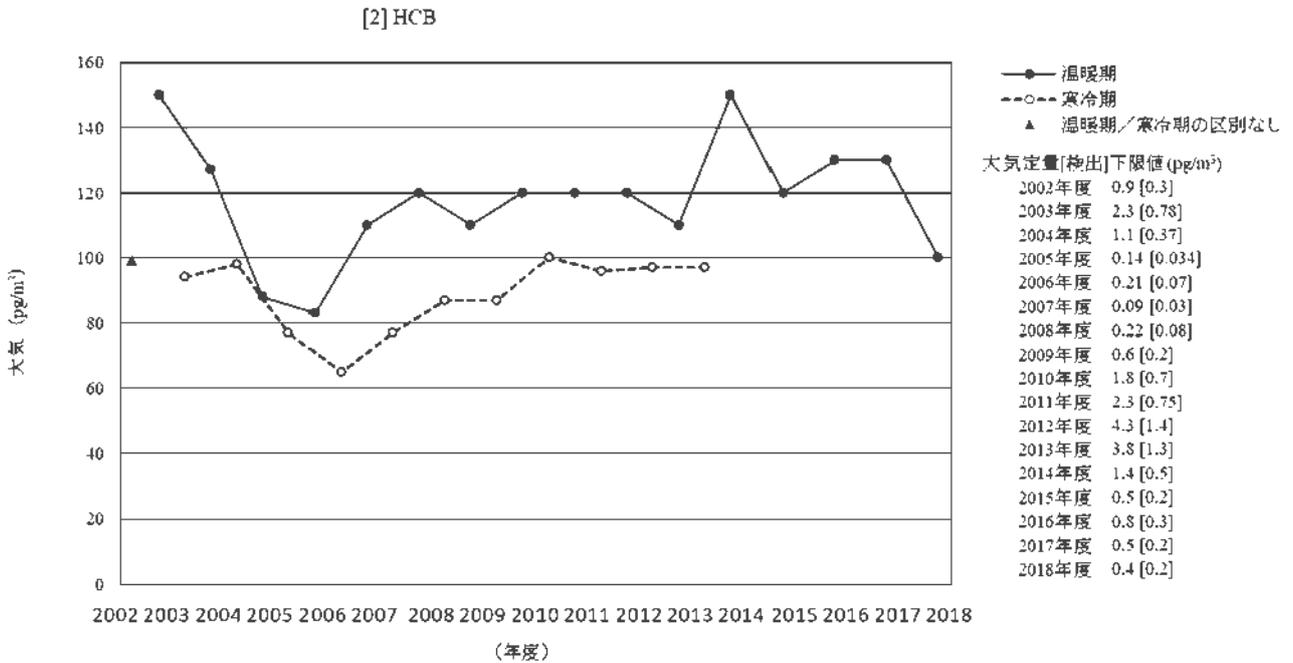


図 3-2-4 HCB の大気の大気経年変化 (幾何平均値)

### [3] アルドリン

#### ・調査の経緯及び実施状況

アルドリンは、日本では土壌害虫の駆除に使用されていたが、1971年以降実質的に使用は中止された。農薬取締法に基づく登録は1975年に失効し、1981年10月には化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、POPs条約においては、2004年に条約が発効された当初から条約対象物質に指定されている。

2001年度までの継続的調査においては、「生物モニタリング」<sup>ii)</sup>で1978年度から1989年度並びに1991年度及び1993年度にて生物（貝類、魚類及び鳥類）について調査している。

2002年度以降のモニタリング調査においては、2002年度から2009年度の毎年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の影響調査を、2014年度に生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の影響調査を、2018年度に底質の影響調査を実施している。

#### ・調査結果

##### <底質>

底質については、61地点を調査し、検出下限値0.6 pg/g-dryにおいて61地点中50地点で検出され、検出濃度は270 pg/g-dryまでの範囲であった。2002年度から2018年度における経年分析の結果、海域の減少傾向が統計的に有意と判定された。また、底質全体としても減少傾向が統計的に有意と判定された。

#### ○2002年度から2018年度における底質についてのアルドリンの検出状況

アルドリン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	14	12	570	nd	6 [2]	149/189	56/63
	2003	19	18	1,000	nd	2 [0.6]	178/186	60/62
	2004	10	10	390	nd	2 [0.6]	170/189	62/63
	2005	8.4	7.1	500	nd	1.4 [0.5]	173/189	62/63
	2006	10	9.3	330	nd	1.9 [0.6]	184/192	64/64
	2007	7.5	6.7	330	nd	1.8 [0.6]	172/192	60/64
	2008	6	6	370	nd	3 [1]	153/192	56/64
	2009	8.9	7.8	540	nd	0.5 [0.2]	180/192	64/64
	2018	3.7	3.8	270	nd	1.6 [0.6]	50/61	50/61

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度から2017年度は調査を実施していない。

・2017年度までの水質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査結果（参考）

<水質>

○2002年度から2009年度における水質についてのアルドリンの検出状況

アルドリン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	0.8	0.9	18	nd	0.6 [0.2]	93/114	37/38
	2003	0.9	0.9	3.8	nd	0.6 [0.2]	34/36	34/36
	2004	tr(1.5)	tr(1.8)	13	nd	2 [0.4]	33/38	33/38
	2005	tr(0.6)	tr(0.7)	5.7	nd	0.9 [0.3]	32/47	32/47
	2006	nd	nd	4.4	nd	1.7 [0.6]	18/48	18/48
	2007	tr(0.6)	tr(0.6)	9.5	nd	1.0 [0.3]	34/48	34/48
	2008	tr(0.8)	tr(0.7)	21	nd	1.4 [0.6]	26/48	26/48
	2009	0.7	0.9	22	nd	0.7 [0.3]	32/49	32/49

(注) ※：2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

<生物>

○2002年度から2014年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についてのアルドリンの検出状況

アルドリン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2002	tr(1.6)	nd	34	nd	4.2 [1.4]	12/38	4/8
	2003	tr(1.7)	tr(0.85)	51	nd	2.5 [0.84]	15/30	3/6
	2004	tr(2.5)	tr(1.6)	46	nd	4.0 [1.3]	16/31	4/7
	2005	tr(1.8)	nd	84	nd	3.5 [1.2]	11/31	3/7
	2006	tr(2)	nd	19	nd	4 [2]	11/31	3/7
	2007	tr(2)	nd	26	nd	5 [2]	5/31	2/7
	2008	tr(2)	nd	20	nd	5 [2]	5/31	3/7
	2009	tr(1.6)	tr(0.8)	89	nd	2.1 [0.8]	16/31	6/7
	2014	nd	nd	nd	nd	1.8 [0.7]	0/3	0/3
	魚類 (pg/g-wet)	2002	nd	nd	tr(2.0)	nd	4.2 [1.4]	1/70
2003		nd	nd	tr(1.9)	nd	2.5 [0.84]	16/70	7/14
2004		nd	nd	tr(2.4)	nd	4.0 [1.3]	5/70	2/14
2005		nd	nd	6.4	nd	3.5 [1.2]	11/80	5/16
2006		nd	nd	tr(2)	nd	4 [2]	2/80	2/16
2007		nd	nd	tr(2)	nd	5 [2]	2/80	2/16
2008		nd	nd	tr(2)	nd	5 [2]	1/85	1/17
2009		nd	nd	3.1	nd	2.1 [0.8]	22/90	7/18
2014		nd	nd	2.4	nd	1.8 [0.7]	4/19	4/19
鳥類 (pg/g-wet)	2002	nd	nd	nd	nd	4.2 [1.4]	0/10	0/2
	2003	nd	nd	nd	nd	2.5 [0.84]	0/10	0/2
	2004	nd	nd	nd	nd	4.0 [1.3]	0/10	0/2
	2005	nd	nd	nd	nd	3.5 [1.2]	0/10	0/2
	2006	nd	nd	nd	nd	4 [2]	0/10	0/2
	2007	nd	nd	nd	nd	5 [2]	0/10	0/2
	2008	nd	nd	nd	nd	5 [2]	0/10	0/2
	2009	nd	nd	nd	nd	2.1 [0.8]	0/10	0/2
	2014※※	nd	---	nd	nd	1.8 [0.7]	0/2	0/2

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2014年度における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2010年度から2013年度は調査を実施していない。

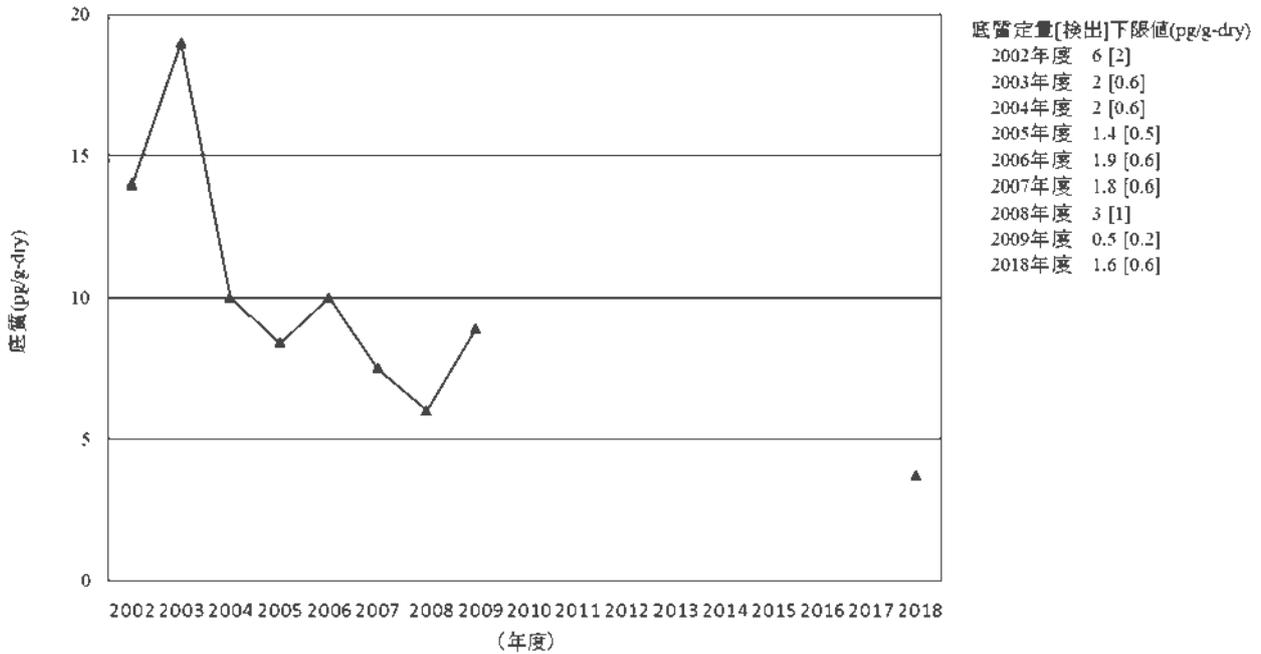
<大気>

○2002年度から2014年度における大気についてのアルドリンの検出状況

アルドリン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	tr(0.030)	nd	3.2	nd	0.060 [0.020]	41/102	19/34
	2003 温暖期	1.5	1.9	28	nd	0.023 [0.0077]	34/35	34/35
	2003 寒冷期	0.55	0.44	6.9	0.030		34/34	34/34
	2004 温暖期	tr(0.12)	nd	14	nd	0.15 [0.05]	15/37	15/37
	2004 寒冷期	tr(0.08)	nd	13	nd		14/37	14/37
	2005 温暖期	0.33	0.56	10	nd	0.08 [0.03]	29/37	29/37
	2005 寒冷期	tr(0.04)	nd	1.8	nd		9/37	9/37
	2006 温暖期	0.30	0.35	8.5	nd	0.14 [0.05]	31/37	31/37
	2006 寒冷期	tr(0.05)	nd	1.1	nd		16/37	16/37
	2007 温暖期	0.58	0.48	19	nd	0.05 [0.02]	35/36	35/36
	2007 寒冷期	0.14	0.15	2.1	nd		34/36	34/36
	2008 温暖期	0.27	0.30	9.4	tr(0.02)	0.04 [0.02]	25/25	25/25
	2008 寒冷期	0.09	0.08	1.3	nd		22/25	22/25
	2009 温暖期	0.07	nd	10	nd	0.04 [0.02]	10/25	10/25
2009 寒冷期	tr(0.03)	nd	1.8	nd	8/24		8/24	
2014 温暖期	nd	nd	17	nd	12 [4]	6/34	6/34	

(注) 2010年度から2013年度は調査を実施していない。

[3] アルドリン



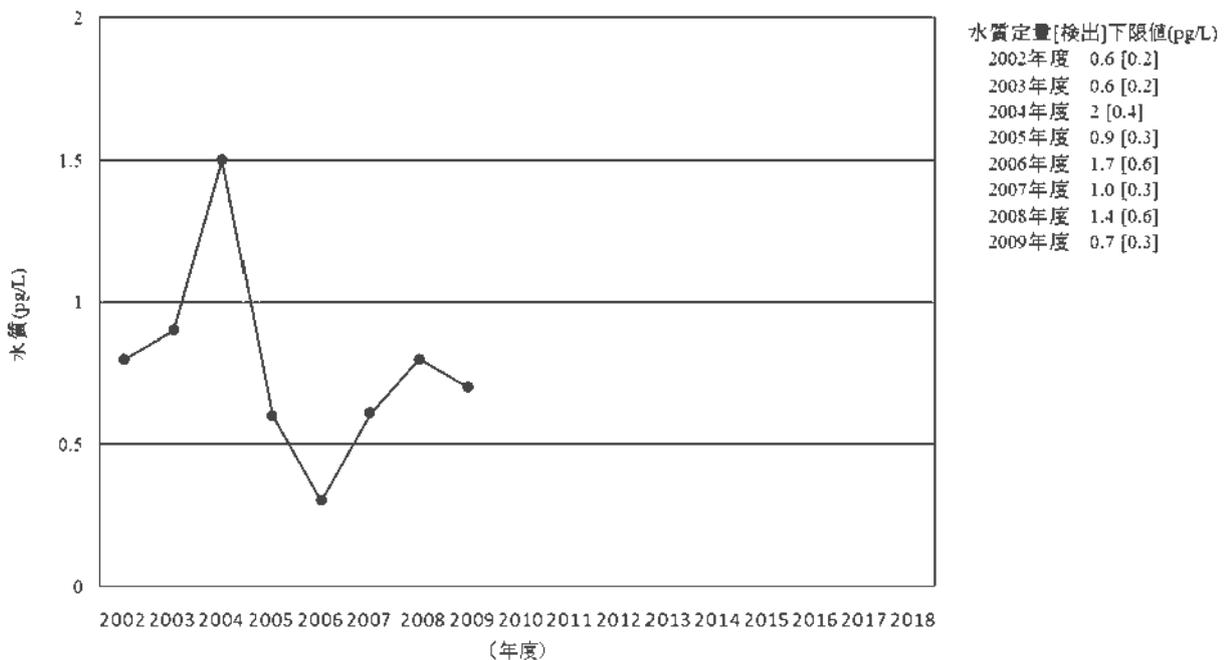
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度から2017年度は調査を実施していない。

図 3-3-1 アルドリンの底質の経年変化（幾何平均値）

(参考)

[3] アルドリン



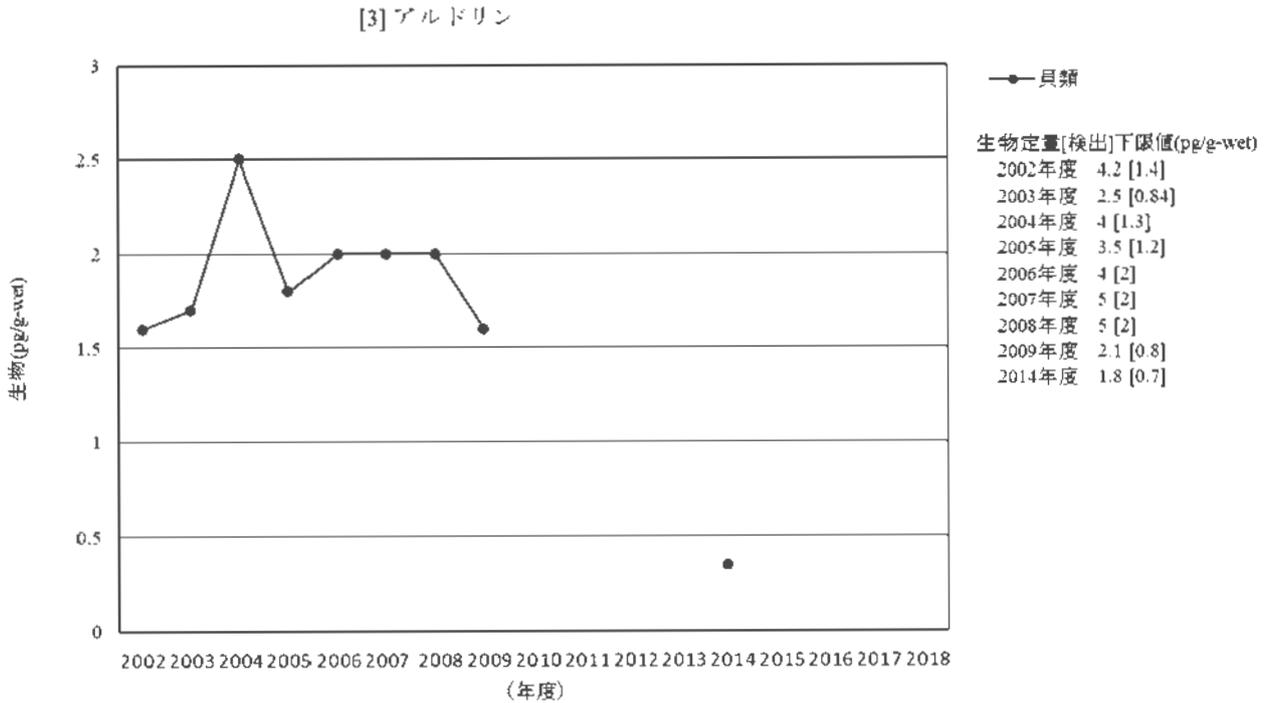
(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度から2018年度は調査を実施していない。

(注3) 2006年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-3-2 アルドリンの水質の経年変化（幾何平均値）

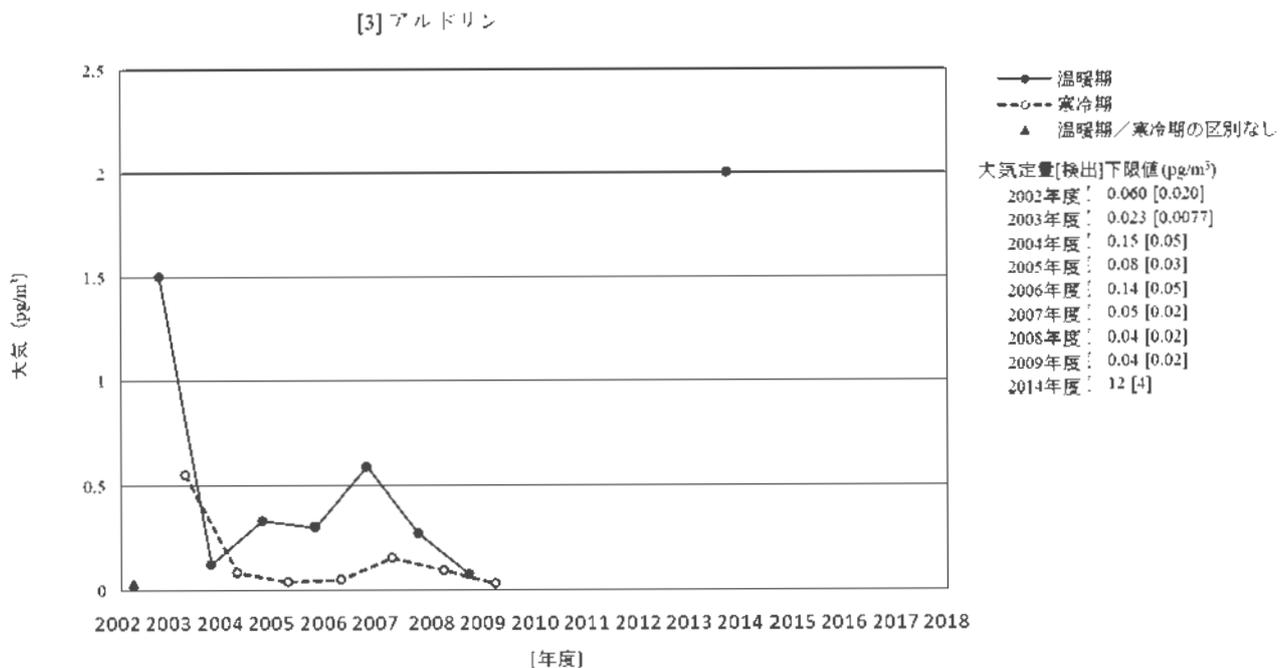
(参考)



- (注 1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注 2) 魚類については、全ての年度において幾何平均値が検出下限値未満であったため、経年変化は示していない。
- (注 3) 鳥類は 2014 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから 2009 年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注 4) 2010 年度から 2013 年度及び 2015 年度から 2018 年度は調査を実施していない。
- (注 5) 2014 年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の 1/2 の値を図示した。

図 3-3-3 アルドリンの生物の経年変化（幾何平均値）

(参考)



- (注 1) 2010 年度から 2013 年度及び 2015 年度から 2018 年度は調査を実施していない。
- (注 2) 2014 年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の 1/2 の値を図示した。

図 3-3-4 アルドリンの大気経年変化（幾何平均値）（参考）

#### [4] デイルドリン

##### ・調査の経緯及び実施状況

デイルドリンの農薬としての使用は、1955年から1964年がピークであったといわれ、1971年に農薬取締法に基づく土壌残留性農薬に指定され、1975年には同法に基づく登録が失効した。しかし、デイルドリンはその後もシロアリ防除剤として使われていた。1981年10月、化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、POPs条約においては、2004年に条約が発効された当初から条約対象物質に指定されている。

2001年度までの継続的調査においては、「生物モニタリング」<sup>ii)</sup>で1978年度から1996年度までの毎年度と1998年度、2000年度及び2001年度に生物（貝類、魚類及び鳥類）について調査を実施し、「水質・底質モニタリング」<sup>i)</sup>で水質は1986年度から1998年度まで、底質は1986年度から2001年度の全期間にわたって調査を実施している。

2002年度以降のモニタリング調査においては、2002年度から2009年度の毎年度及び2011年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2014年度に水質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2018年度は底質の調査を実施している。

##### ・調査結果

###### <底質>

底質については、61地点を調査し、検出下限値0.6 pg/g-dryにおいて61地点中60地点で検出され、検出濃度は860 pg/g-dryまでの範囲であった。2002年度から2018年度における経年分析の結果、河川域の減少傾向が統計的に有意と判定された。また、底質全体としても減少傾向が統計的に有意と判定された。

##### ○2002年度から2018年度における底質についてのデイルドリンの検出状況

デイルドリン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	70	51	2,300	4	3 [1]	189/189	63/63
	2003	66	56	9,100	nd	4 [2]	184/186	62/62
	2004	65	62	3,700	tr(1.9)	3 [0.9]	189/189	63/63
	2005	61	55	4,200	tr(2)	3 [1]	189/189	63/63
	2006	61	54	1,500	tr(1.7)	2.9 [1.0]	192/192	64/64
	2007	49	40	2,700	tr(1.2)	2.7 [0.9]	192/192	64/64
	2008	48	43	2,900	tr(0.7)	1.2 [0.5]	192/192	64/64
	2009	51	47	3,000	1.1	0.8 [0.3]	192/192	64/64
	2011	47	44	2,200	2	5 [2]	64/64	64/64
	2018	33	33	860	nd	1.6[0.6]	60/61	60/61

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度及び2012年度から2017年度は調査を実施していない。

・2017年度までの水質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査結果（参考）

<水質>

○2002年度から2014年度における水質についてのディルドリンの検出状況

ディルドリン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	42	41	940	3.3	1.8 [0.6]	114/114	38/38
	2003	57	57	510	9.7	0.7 [0.3]	36/36	36/36
	2004	55	51	430	9	2 [0.5]	38/38	38/38
	2005	39	49	630	4.5	1.0 [0.34]	47/47	47/47
	2006	36	32	800	6	3 [1]	48/48	48/48
	2007	38	36	750	3.1	2.1 [0.7]	48/48	48/48
	2008	36	37	450	3.6	1.5 [0.6]	48/48	48/48
	2009	36	32	650	2.7	0.6 [0.2]	49/49	49/49
	2011	33	38	300	2.1	1.6 [0.6]	49/49	49/49
	2014	28	27	200	2.7	0.5 [0.2]	48/48	48/48

(注1) ※：2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度、2012年度及び2013年度は調査を実施していない。

<生物>

○2002年度から2014年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についてのディルドリンの検出状況

ディルドリン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2002	440	390	190,000	tr(7)	12 [4]	38/38	8/8
	2003	440	160	78,000	46	4.8 [1.6]	30/30	6/6
	2004	630	270	69,000	42	31 [10]	31/31	7/7
	2005	500	140	39,000	34	9.4 [3.4]	31/31	7/7
	2006	450	120	47,000	30	7 [3]	31/31	7/7
	2007	380	110	77,000	37	9 [3]	31/31	7/7
	2008	430	150	24,000	47	9 [3]	31/31	7/7
	2009	490	230	28,000	48	7 [2]	31/31	7/7
	2011	390	690	3,800	16	3 [1]	4/4	4/4
	2014	180	300	490	41	3 [1]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2002	290	270	2,400	46	12 [4]	70/70	14/14
	2003	220	200	1,000	29	4.8 [1.6]	70/70	14/14
	2004	250	230	2,800	tr(23)	31 [10]	70/70	14/14
	2005	230	250	1,400	21	9.4 [3.4]	80/80	16/16
	2006	230	220	1,400	19	7 [3]	80/80	16/16
	2007	250	210	1,900	23	9 [3]	80/80	16/16
	2008	240	240	1,300	15	9 [3]	85/85	17/17
	2009	240	190	1,400	29	7 [2]	90/90	18/18
	2011	270	340	1,100	17	3 [1]	18/18	18/18
	2014	270	310	1,000	27	3 [1]	19/19	19/19
鳥類 (pg/g-wet)	2002	1,100	1,100	1,700	820	12 [4]	10/10	2/2
	2003	1,300	1,400	2,200	790	4.8 [1.6]	10/10	2/2
	2004	600	610	960	370	31 [10]	10/10	2/2
	2005	830	740	1,800	500	9.4 [3.4]	10/10	2/2
	2006	700	690	1,300	440	7 [3]	10/10	2/2
	2007	710	710	910	560	9 [3]	10/10	2/2
	2008	680	620	1,300	260	9 [3]	10/10	2/2
	2009	470	420	890	330	7 [2]	10/10	2/2
2011	---	---	770	770	3 [1]	1/1	1/1	
2014※※	320	---	530	190	3 [1]	2/2	2/2	

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2014年度における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2011年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2010年度、2012年度及び2013年度は調査を実施していない。

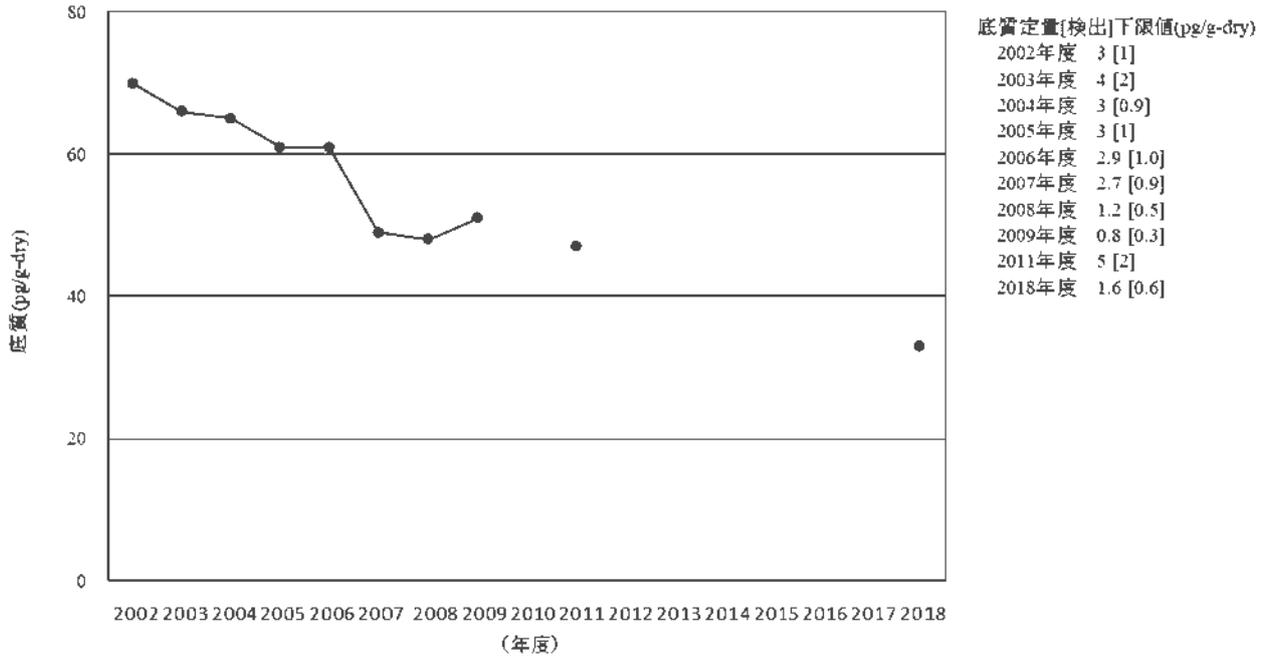
<大気>

○2002年度から2014年度における大気についてのディルドリンの検出状況

ディルドリン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	5.6	5.4	110	0.73	0.60 [0.20]	102/102	34/34
	2003 温暖期	19	22	260	2.1	2.1 [0.70]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	5.7	5.2	110	tr(0.82)		34/34	34/34
	2004 温暖期	17	22	280	1.1	0.33 [0.11]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	5.5	6.9	76	0.81		37/37	37/37
	2005 温暖期	14	12	200	1.5	0.54 [0.24]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	3.9	3.6	50	0.88		37/37	37/37
	2006 温暖期	15	14	290	1.5	0.3 [0.1]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	4.5	4.2	250	0.7		37/37	37/37
	2007 温暖期	19	22	310	1.3	0.18 [0.07]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	4.5	3.7	75	0.96		36/36	36/36
	2008 温暖期	14	16	220	1.6	0.24 [0.09]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	4.9	3.8	72	0.68		37/37	37/37
	2009 温暖期	13	13	150	0.91	0.06 [0.02]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	4.5	4.0	80	0.52		37/37	37/37
	2011 温暖期	12	15	230	0.80	0.42 [0.14]	35/35	35/35
2011 寒冷期	4.3	4.9	96	0.52	37/37		37/37	
2014 温暖期	11	9.9	160	0.89	0.34 [0.11]	36/36	36/36	

(注) 2010年度、2012年度及び2013年度は調査を実施していない。

[4] デイルドリン

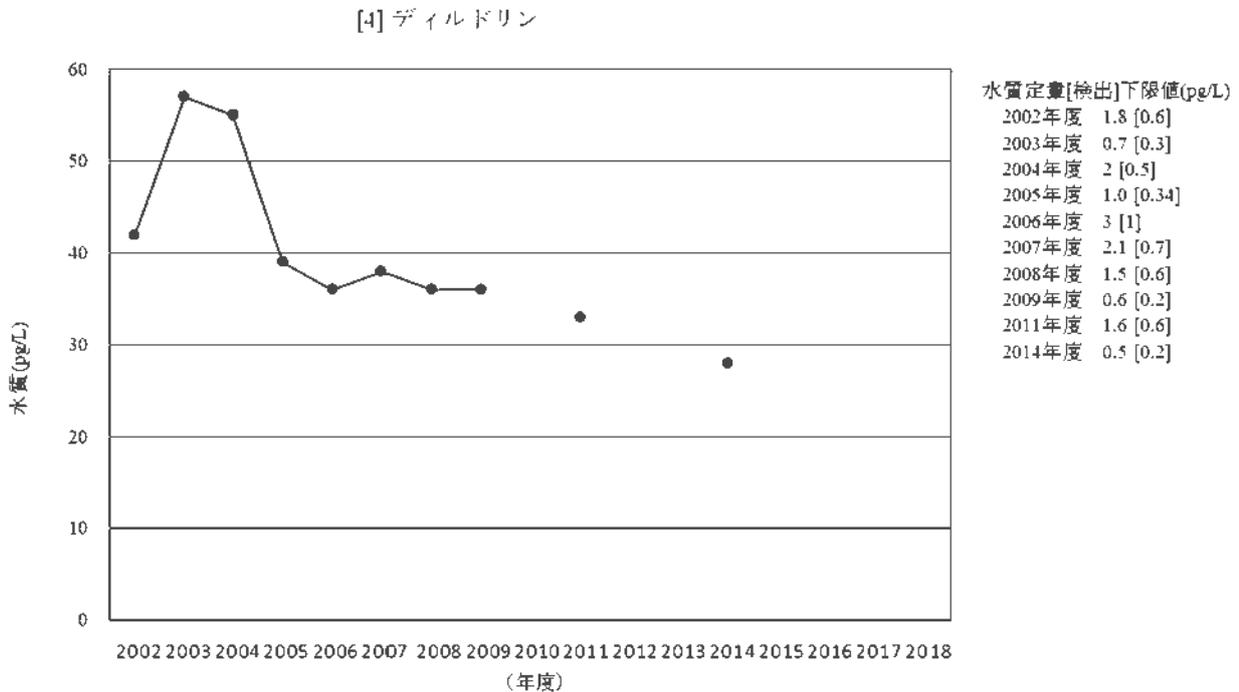


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度及び2012年度から2017年度は調査を実施していない。

図 3-4-1 デイルドリンの底質の経年変化（幾何平均値）

(参考)



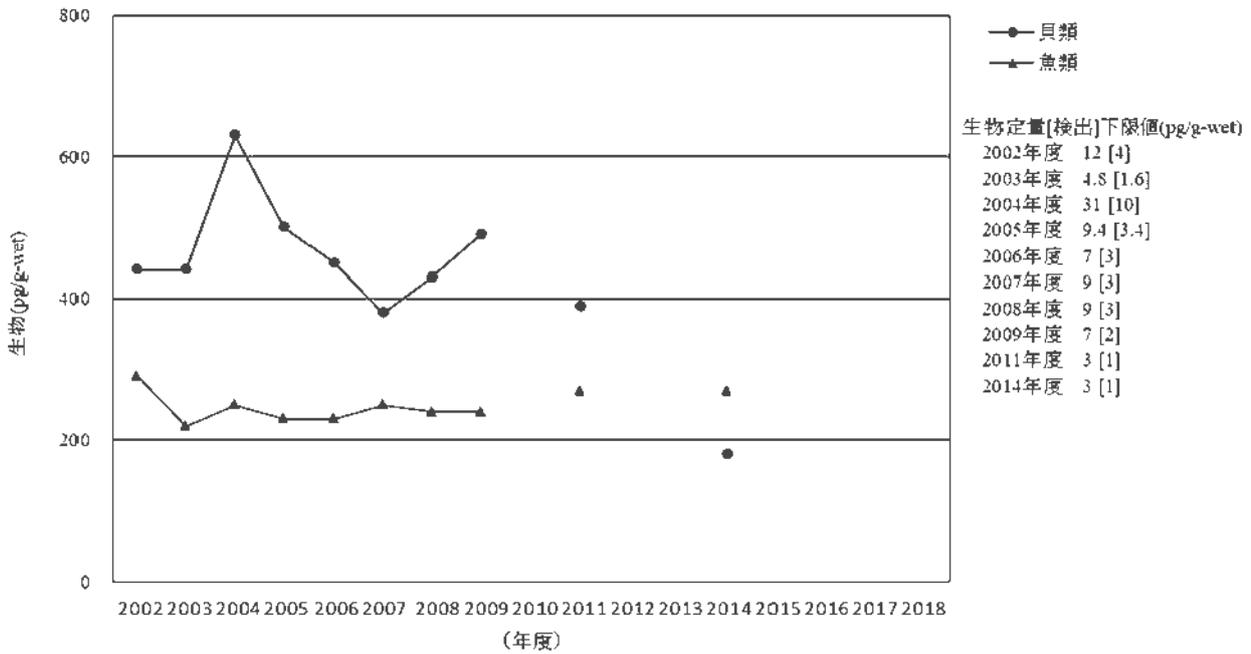
(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度、2012年度、2013年度、2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-4-2 デイルドリンの水質の経年変化（幾何平均値）

(参考)

[4] デイルドリン

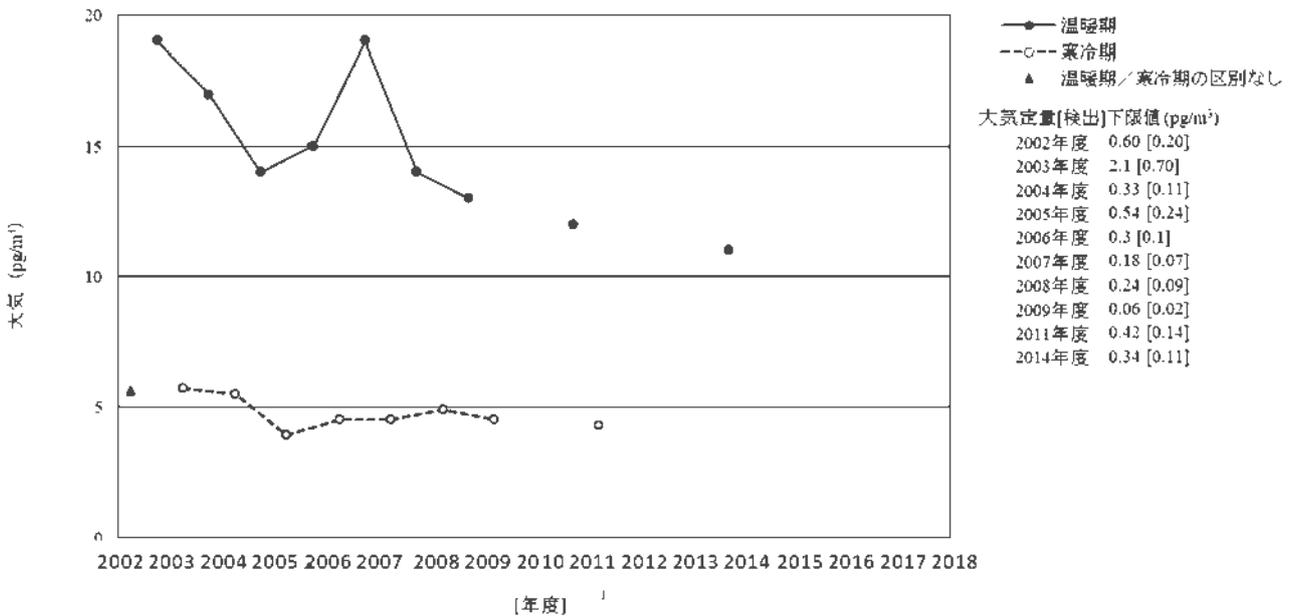


- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2014年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2011年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2010年度、2012年度、2013年度、2015年度から2017年度は調査を実施していない。

図 3-4-3 デイルドリンの生物の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

[4] デイルドリン



- (注) 2010年度、2012年度、2013年度、2015年度から2017年度は調査を実施していない。

図 3-4-4 デイルドリンの大気の経年変化 (幾何平均値)

## [5] エンドリン

### ・調査の経緯及び実施状況

エンドリンは、殺虫剤、殺鼠剤として利用されたが、1975年に農薬取締法に基づく登録は失効し、1981年10月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、POPs条約においては、2004年に条約が発効された当初から条約対象物質に指定されている。

2001年度までの継続的調査においては、「生物モニタリング」<sup>ii)</sup>で1978年度から1989年度並びに1991年度及び1993年度にて生物（貝類、魚類及び鳥類）について調査している。

2002年度以降のモニタリング調査においては、2002年度から2009年度の毎年度及び2011年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2014年度は水質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2018年度は底質の調査を実施している。

### ・調査結果

#### <底質>

底質については、61地点を調査し、検出下限値0.9 pg/g-dryにおいて61地点中48地点で検出され、検出濃度は7,500 pg/g-dryまでの範囲であった。

○2002年度から2018年度における底質についてのエンドリンの検出状況

エンドリン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	10	10	19,000	nd	6 [2]	141/189	54/63
	2003	12	11	29,000	nd	5 [2]	150/186	53/62
	2004	15	13	6,900	nd	3 [0.9]	182/189	63/63
	2005	12	11	19,000	nd	2.6 [0.9]	170/189	61/63
	2006	12	10	61,000	nd	4 [1]	178/192	63/64
	2007	11	9	61,000	nd	5 [2]	151/192	55/64
	2008	11	11	38,000	nd	1.9 [0.7]	168/192	61/64
	2009	9.6	8.4	11,000	nd	1.6 [0.6]	168/192	63/64
	2011	8.8	14	1,100	nd	1.1 [0.4]	59/64	59/64
	2018	6.4	5.9	7,500	nd	2.4 [0.9]	48/61	48/61

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度及び2012年度から2017年度は調査を実施していない。

・2017年度までの水質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査結果（参考）

<水質>

○2002年度から2014年度における水質についてのエンドリンの検出状況

エンドリン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	tr(4.8)	tr(5.5)	31	nd	6.0 [2.0]	101/114	36/38
	2003	5.7	6.0	78	0.7	0.7 [0.3]	36/36	36/36
	2004	7	7	100	tr(0.7)	2 [0.5]	38/38	38/38
	2005	4.0	4.5	120	nd	1.1 [0.4]	45/47	45/47
	2006	3.1	3.5	26	nd	1.3 [0.4]	44/48	44/48
	2007	3.5	3.4	25	nd	1.9 [0.6]	46/48	46/48
	2008	3	4	20	nd	3 [1]	45/48	45/48
	2009	2.0	2.3	67	nd	0.7 [0.3]	39/49	39/49
	2011	3.8	4.6	71	nd	1.6 [0.6]	47/49	47/49
	2014	2.5	2.2	25	tr(0.4)	0.5 [0.2]	48/48	48/48

(注1) ※：2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度、2012年度及び2013年度は調査を実施していない。

<生物>

○2002年度から2014年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についてのエンドリンの検出状況

エンドリン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2002	42	27	12,000	nd	18 [6]	35/38	7/8
	2003	38	21	5,000	6.3	4.8 [1.6]	30/30	6/6
	2004	65	25	4,600	tr(5.7)	12 [4.2]	31/31	7/7
	2005	39	19	2,100	nd	17 [5.5]	27/31	7/7
	2006	40	15	3,100	tr(5)	11 [4]	31/31	7/7
	2007	28	12	3,000	tr(6)	9 [3]	31/31	7/7
	2008	30	10	1,500	tr(6)	8 [3]	31/31	7/7
	2009	38	19	1,400	tr(5)	7 [3]	31/31	7/7
	2011	33	62	110	tr(3)	4 [2]	4/4	4/4
	2014	23	17	84	8	3 [1]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2002	20	24	180	nd	18 [6]	54/70	13/14
	2003	14	10	180	nd	4.8 [1.6]	67/70	14/14
	2004	18	24	220	nd	12 [4.2]	57/70	13/14
	2005	19	tr(16)	2,100	nd	17 [5.5]	58/80	12/16
	2006	13	tr(10)	150	nd	11 [4]	66/80	16/16
	2007	13	12	170	nd	9 [3]	69/80	15/16
	2008	11	10	200	nd	8 [3]	63/85	14/17
	2009	17	12	270	nd	7 [3]	86/90	18/18
	2011	18	19	160	nd	4 [2]	16/18	16/18
	2014	16	16	140	nd	3 [1]	18/19	18/19
鳥類 (pg/g-wet)	2002	28	52	99	nd	18 [6]	7/10	2/2
	2003	22	30	96	5.4	4.8 [1.6]	10/10	2/2
	2004	tr(11)	25	62	nd	12 [4.2]	5/10	1/2
	2005	18	28	64	nd	17 [5.5]	7/10	2/2
	2006	16	23	57	tr(4)	11 [4]	10/10	2/2
	2007	17	28	55	nd	9 [3]	9/10	2/2
	2008	10	26	83	nd	8 [3]	5/10	1/2
	2009	11	17	43	tr(3)	7 [3]	10/10	2/2
	2011	---	---	tr(3)	tr(3)	4 [2]	1/1	1/1
	2014※※	4	---	5	4	3 [1]	2/2	2/2

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度、2012年度及び2013年度は調査を実施していない。

(注3) ※※：鳥類の2014年度における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2011年度までの結果と継続性がない。

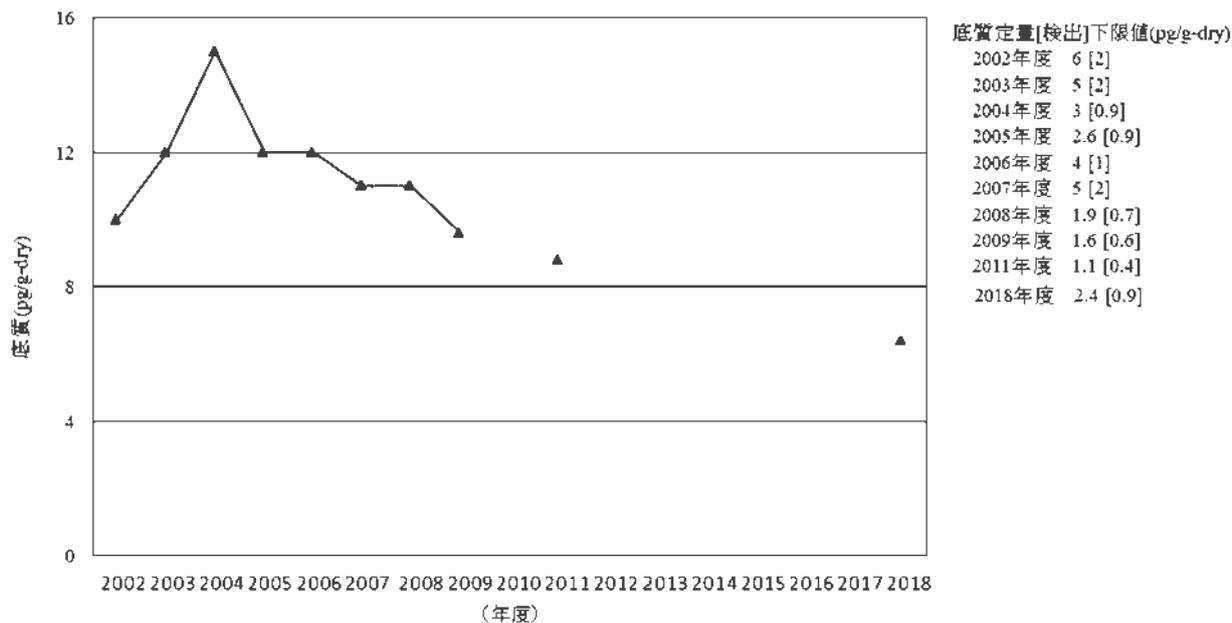
<大気>

○2002年度から2014年度における大気についてのエンドリンの検出状況

エンドリン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	0.22	0.28	2.5	nd	0.090 [0.030]	90/102	32/34
	2003 温暖期	0.74	0.95	6.2	0.081	0.042 [0.014]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	0.23	0.20	2.1	0.042		34/34	34/34
	2004 温暖期	0.64	0.68	6.5	tr(0.054)	0.14 [0.048]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	0.23	0.26	1.9	nd		36/37	36/37
	2005 温暖期	tr(0.4)	tr(0.3)	2.9	nd	0.5 [0.2]	27/37	27/37
	2005 寒冷期	nd	nd	0.7	nd		8/37	8/37
	2006 温暖期	0.31	0.32	5.4	nd	0.30 [0.10]	32/37	32/37
	2006 寒冷期	nd	nd	5.0	nd		7/37	7/37
	2007 温暖期	0.69	0.73	6.3	tr(0.06)	0.09 [0.04]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	0.16	0.13	1.5	nd		33/36	33/36
	2008 温暖期	0.53	0.68	4.6	tr(0.06)	0.10 [0.04]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	0.18	0.18	1.8	nd		35/37	35/37
	2009 温暖期	0.49	0.51	3.4	nd	0.09 [0.04]	36/37	36/37
	2009 寒冷期	0.17	0.15	1.8	nd		36/37	36/37
	2011 温暖期	0.46	0.62	5.1	nd	0.09 [0.04]	34/35	34/35
2011 寒冷期	0.16	0.16	1.8	nd	33/37		33/37	
2014 温暖期	0.39	0.48	2.9	nd	0.20 [0.07]	32/36	32/36	

(注) 2010年度、2012年度及び2013年度は調査を実施していない。

[5] エンドリン



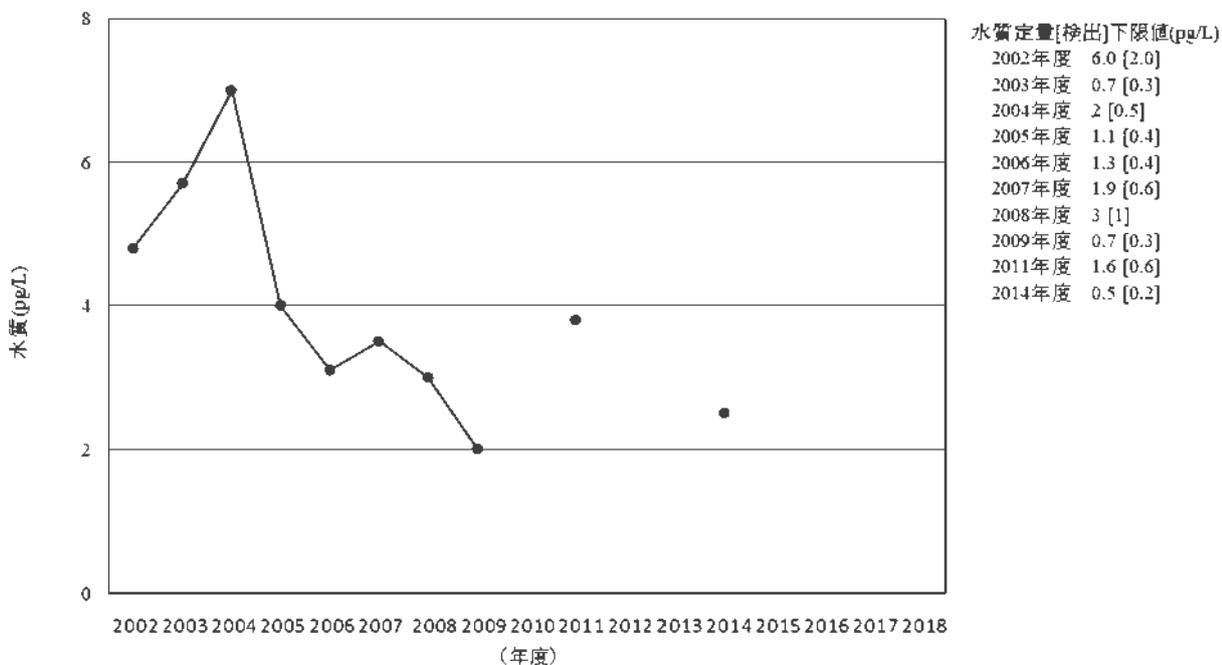
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度及び2012年度から2017年度は調査を実施していない。

図 3-5-1 エンドリンの底質の経年変化（幾何平均値）

(参考)

[5] エンドリン

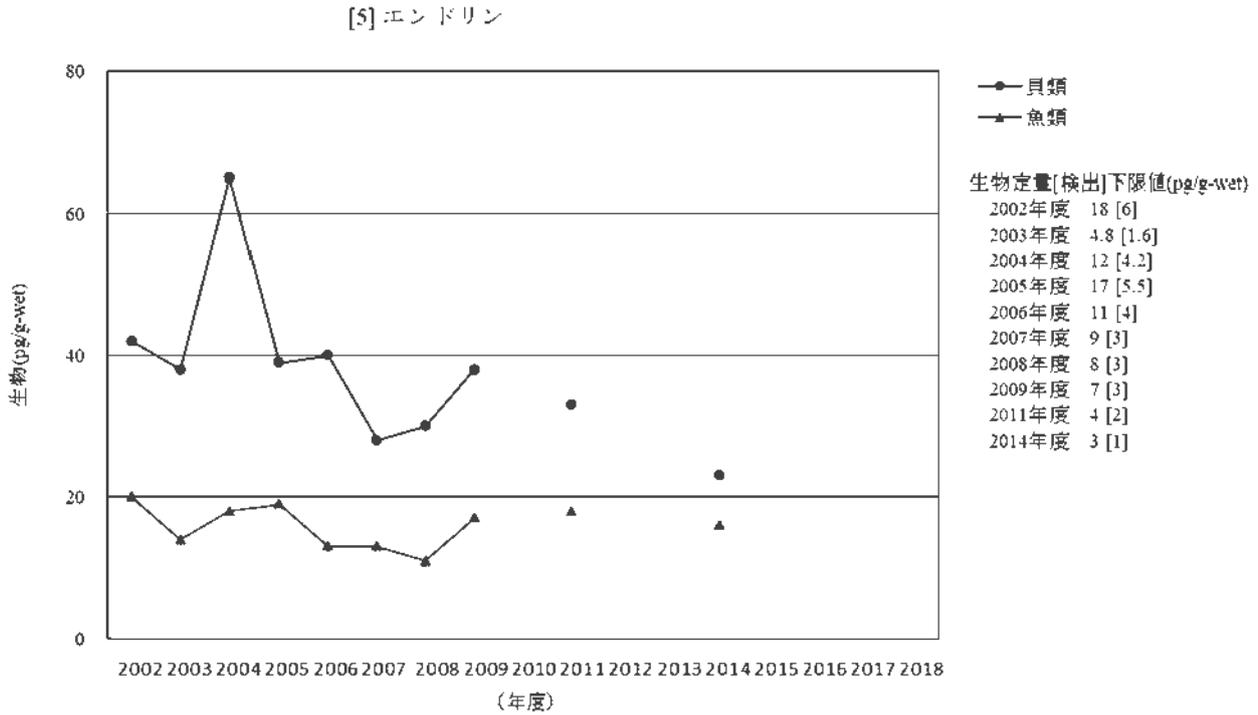


(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度、2012年度、2013年度、2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-5-2 エンドリンの水質の経年変化（幾何平均値）（参考）

(参考)

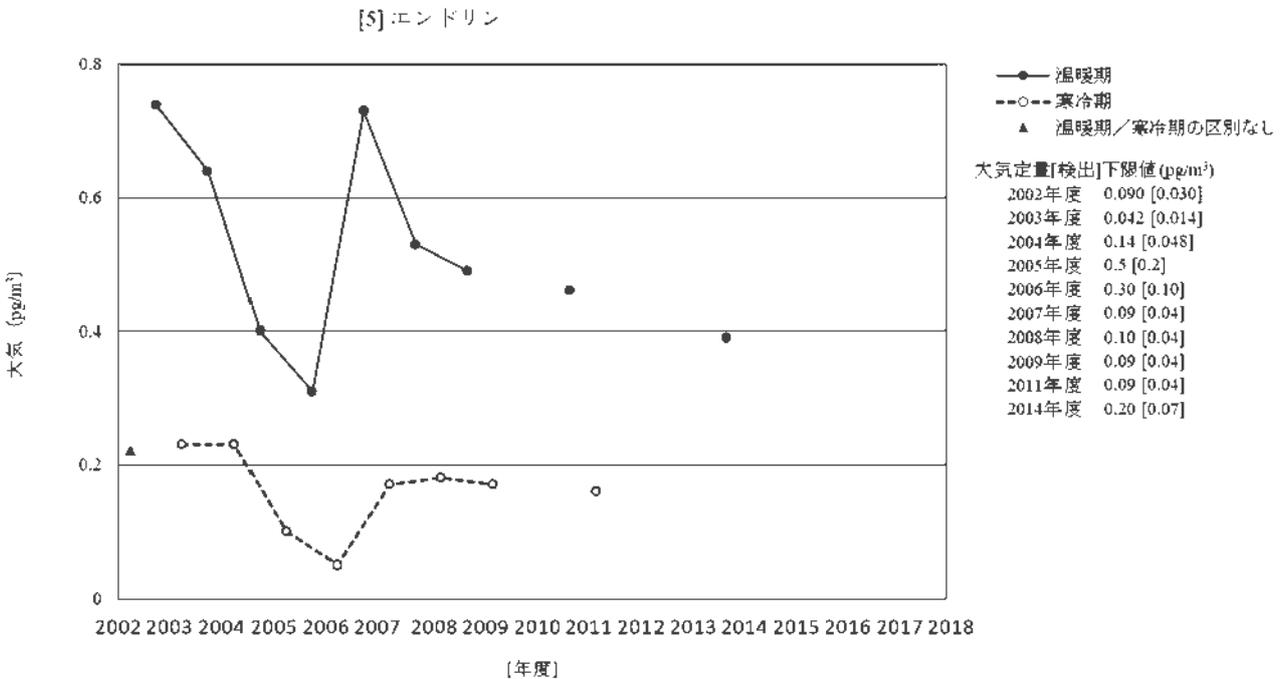


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度、2012年度、2013年度、2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-5-3 エンドリンの生物の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



(注1) 2010年度、2012年度、2013年度、2015年度から2018年度は調査を実施していない。

(注2) 2005年度の寒冷期及び2006年度の寒冷期は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-5-4 エンドリンの大気経年変化 (幾何平均値)

## [6] DDT 類

### ・調査の経緯及び実施状況

DDT は、ヘキサクロロシクロヘキサン (HCH) やドリノ類とともに多用された殺虫剤である。1971 年に農薬取締法に基づく登録は失効し、1981 年 10 月に化審法に基づく第一種特定化学物質に *p,p'*-DDT が指定されている。また、POPs 条約においては、2004 年に条約が発効された当初から DDT が条約対象物質に指定されている。

DDT には芳香環に置換している塩素の位置によっていくつかの異性体があるが、継続的調査においては、殺虫剤の主な有効成分である *p,p'*-DDT に加えて *o,p'*-DDT を、また、DDT の環境中での分解産物である *p,p'*-DDE、*o,p'*-DDE、*p,p'*-DDD 及び *o,p'*-DDD も含めて 1978 年度からモニタリング調査を実施している。

2001 年度以前の継続的調査において、*p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE 及び *p,p'*-DDD は「生物モニタリング」<sup>ii)</sup> で 1978 年度から 2001 年度の全期間にわたって生物（貝類、魚類及び鳥類）について調査を実施し、「水質・底質モニタリング」<sup>i)</sup> で水質は 1986 年度から 1998 年度まで、底質は 1986 年度から 2001 年度の全期間にわたって調査を実施している。また、*o,p'*-DDT、*o,p'*-DDE 及び *o,p'*-DDD は「生物モニタリング」<sup>ii)</sup> で 1978 年度から 1996 年度の毎年と 1998 年度、2000 年度及び 2001 年度に生物（貝類、魚類及び鳥類）について調査を実施している。

2002 年度以降のモニタリング調査においては、*p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*o,p'*-DDT、*o,p'*-DDE 及び *o,p'*-DDD について、2002 年度から 2010 年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2013 年度も生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2014 年度に水質及び底質の調査を、2015 年度に大気の調査を、2018 年度に生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を実施している。

・調査結果

【*p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE 及び *p,p'*-DDD】

<生物>

*p,p'*-DDT：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 1pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は 32～280pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 1pg/g-wet において 18 地点全てで検出され、検出濃度は tr(2)～4,800pg/g-wet の範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 1pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 29～63pg/g-wet の範囲であった。2002 年度から 2018 年度における経年分析の結果、魚類の減少傾向が統計的に有意と判定された。

*p,p'*-DDE：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 1pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は 150～2,200pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 1pg/g-wet において 18 地点全てで検出され、検出濃度は 290～16,000pg/g-wet の範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 1pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 22,000～290,000pg/g-wet の範囲であった。

*p,p'*-DDD：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 0.6pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は 17～830pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 0.6pg/g-wet において 18 地点全てで検出され、検出濃度は 40～3,100pg/g-wet の範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 0.6pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 210～260pg/g-wet の範囲であった。2002 年度から 2018 年度における経年分析の結果、貝類の減少傾向が統計的に有意と判定された。

○2002 年度から 2018 年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての *p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE 及び *p,p'*-DDD の検出状況

<i>p,p'</i> -DDT	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2002	200	200	1,200	38	4.2 [1.4]	38/38	8/8
	2003	290	290	1,800	49	11 [3.5]	30/30	6/6
	2004	360	340	2,600	48	3.2 [1.1]	31/31	7/7
	2005	240	170	1,300	66	5.1 [1.7]	31/31	7/7
	2006	250	220	1,100	56	6 [2]	31/31	7/7
	2007	240	150	1,200	49	5 [2]	31/31	7/7
	2008	160	100	1,400	12	5 [2]	31/31	7/7
	2009	240	170	9,600	46	3 [1]	31/31	7/7
	2010	180	280	470	43	3 [1]	6/6	6/6
	2013	190	210	890	46	3.3 [1.1]	5/5	5/5
	2018	70	39	280	32	3 [1]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2002	430	450	24,000	6.8	4.2 [1.4]	70/70	14/14
	2003	220	400	1,900	tr(3.7)	11 [3.5]	70/70	14/14
	2004	410	330	53,000	5.5	3.2 [1.1]	70/70	14/14
	2005	280	330	8,400	tr(3.8)	5.1 [1.7]	80/80	16/16
	2006	300	340	3,000	tr(5)	6 [2]	80/80	16/16
	2007	260	320	1,800	9	5 [2]	80/80	16/16
	2008	280	310	2,900	7	5 [2]	85/85	17/17
	2009	250	300	2,000	4	3 [1]	90/90	18/18
	2010	240	280	2,100	7	3 [1]	18/18	18/18
	2013	280	250	3,300	5.2	3.3 [1.1]	19/19	19/19
	2018	150	150	4,800	tr(2)	3 [1]	18/18	18/18

<i>p,p'</i> -DDT	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
鳥類 (pg/g-wet)	2002	440	510	1,300	76	4.2 [1.4]	10/10	2/2
	2003	610	620	1,400	180	11 [3.5]	10/10	2/2
	2004	340	320	700	160	3.2 [1.1]	10/10	2/2
	2005	430	550	900	180	5.1 [1.7]	10/10	2/2
	2006	580	490	1,800	110	6 [2]	10/10	2/2
	2007	480	350	1,900	160	5 [2]	10/10	2/2
	2008	160	170	270	56	5 [2]	10/10	2/2
	2009	300	190	2,900	85	3 [1]	10/10	2/2
	2010	3	---	15	nd	3 [1]	1/2	1/2
	2013※※	14	---	46	4.3	3.3 [1.1]	2/2	2/2
2018※※	43	---	63	29	3[1]	2/2	2/2	
<i>p,p'</i> -DDE	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
貝類 (pg/g-wet)	2002	1,000	1,700	6,000	140	2.4 [0.8]	38/38	8/8
	2003	1,200	1,000	6,500	190	5.7 [1.9]	30/30	6/6
	2004	1,300	1,400	8,400	220	8.2 [2.7]	31/31	7/7
	2005	1,200	1,600	6,600	230	8.5 [2.8]	31/31	7/7
	2006	1,000	1,200	6,000	160	1.9 [0.7]	31/31	7/7
	2007	1,100	1,200	5,600	180	3 [1]	31/31	7/7
	2008	900	1,100	5,800	120	3 [1]	31/31	7/7
	2009	940	1,100	6,400	150	4 [1]	31/31	7/7
	2010	1,100	1,300	6,300	230	3 [1]	6/6	6/6
	2013	790	1,600	3,000	170	4.3 [1.4]	5/5	5/5
2018	420	230	2,200	150	3 [1]	3/3	3/3	
魚類 (pg/g-wet)	2002	2,900	2,200	98,000	510	2.4 [0.8]	70/70	14/14
	2003	2,000	2,200	12,000	180	5.7 [1.9]	70/70	14/14
	2004	3,000	2,100	52,000	390	8.2 [2.7]	70/70	14/14
	2005	2,400	2,400	73,000	230	8.5 [2.8]	80/80	16/16
	2006	2,200	2,600	28,000	280	1.9 [0.7]	80/80	16/16
	2007	2,200	2,000	22,000	160	3 [1]	80/80	16/16
	2008	2,500	2,000	53,000	320	3 [1]	85/85	17/17
	2009	2,300	2,100	20,000	260	4 [1]	90/90	18/18
	2010	2,300	2,100	13,000	260	3 [1]	18/18	18/18
	2013	2,900	2,800	16,000	430	4.3 [1.4]	19/19	19/19
2018	1,900	1,700	16,000	290	3 [1]	18/18	18/18	
鳥類 (pg/g-wet)	2002	36,000	60,000	170,000	8,100	2.4 [0.8]	10/10	2/2
	2003	66,000	76,000	240,000	18,000	5.7 [1.9]	10/10	2/2
	2004	34,000	65,000	200,000	6,800	8.2 [2.7]	10/10	2/2
	2005	44,000	86,000	300,000	7,100	8.5 [2.8]	10/10	2/2
	2006	38,000	57,000	160,000	5,900	1.9 [0.7]	10/10	2/2
	2007	40,000	56,000	320,000	6,700	3 [1]	10/10	2/2
	2008	51,000	79,000	160,000	7,500	3 [1]	10/10	2/2
	2009	30,000	64,000	220,000	4,300	4 [1]	10/10	2/2
	2010	32,000	---	160,000	6,300	3 [1]	2/2	2/2
	2013※※	170,000	---	170,000	170,000	4.3 [1.4]	2/2	2/2
2018※※	80,000	---	290,000	22,000	3 [1]	2/2	2/2	
<i>p,p'</i> -DDD	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
貝類 (pg/g-wet)	2002	340	710	3,200	11	5.4 [1.8]	38/38	8/8
	2003	390	640	2,600	tr(7.5)	9.9 [3.3]	30/30	6/6
	2004	440	240	8,900	7.8	2.2 [0.70]	31/31	7/7
	2005	370	800	1,700	13	2.9 [0.97]	31/31	7/7
	2006	300	480	1,400	7.3	2.4 [0.9]	31/31	7/7
	2007	310	360	1,500	7	3 [1]	31/31	7/7
	2008	280	280	1,300	6	3 [1]	31/31	7/7
	2009	220	170	2,400	5.8	2.4 [0.9]	31/31	7/7
	2010	180	330	960	11	1.3 [0.5]	6/6	6/6
	2013	270	520	1,300	19	1.9 [0.7]	5/5	5/5
2018	110	93	830	17	1.4 [0.6]	3/3	3/3	
魚類 (pg/g-wet)	2002	750	680	14,000	80	5.4 [1.8]	70/70	14/14
	2003	510	520	3,700	43	9.9 [3.3]	70/70	14/14
	2004	770	510	9,700	56	2.2 [0.70]	70/70	14/14
	2005	510	650	6,700	29	2.9 [0.97]	80/80	16/16
	2006	520	580	4,300	60	2.4 [0.9]	80/80	16/16
	2007	470	490	4,100	36	3 [1]	80/80	16/16
	2008	460	440	4,100	33	3 [1]	85/85	17/17
	2009	440	460	2,500	57	2.4 [0.9]	90/90	18/18
	2010	560	610	2,900	57	1.3 [0.5]	18/18	18/18
	2013	500	500	4,700	68	1.9 [0.7]	19/19	19/19
2018	280	250	3,100	40	1.4 [0.6]	18/18	18/18	

<i>p,p'</i> -DDD	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
鳥類 (pg/g-wet)	2002	580	740	3,900	140	5.4 [1.8]	10/10	2/2
	2003	640	860	3,900	110	9.9 [3.3]	10/10	2/2
	2004	330	520	1,400	52	2.2 [0.70]	10/10	2/2
	2005	310	540	1,400	45	2.9 [0.97]	10/10	2/2
	2006	410	740	1,800	55	2.4 [0.9]	10/10	2/2
	2007	440	780	2,300	70	3 [1]	10/10	2/2
	2008	240	490	1,100	35	3 [1]	10/10	2/2
	2009	280	430	3,400	31	2.4 [0.9]	10/10	2/2
	2010	440	---	1,600	120	1.3 [0.5]	2/2	2/2
	2013※※	140	---	270	70	1.9 [0.7]	2/2	2/2
	2018※※	230	---	260	210	1.4 [0.6]	2/2	2/2

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2013年度における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2011年度、2012年度、2014年度から2017年度は調査を実施していない。

## <大気>

*p,p'*-DDT：大気については、37地点を調査し、検出下限値0.01pg/m<sup>3</sup>において37地点全てで検出され、検出濃度は0.15～14pg/m<sup>3</sup>の範囲であった。2003年度から2018年度における経年分析の結果、温暖期の減少傾向が統計的に有意と判定された。

*p,p'*-DDE：大気については、37地点を調査し、検出下限値0.01pg/m<sup>3</sup>において37地点全てで検出され、検出濃度は0.31～49pg/m<sup>3</sup>の範囲であった。2003年度から2018年度における経年分析の結果、温暖期の減少傾向が統計的に有意と判定された。

*p,p'*-DDD：大気については、37地点を調査し、検出下限値0.03pg/m<sup>3</sup>において37地点中36地点で検出され、検出濃度は0.72pg/m<sup>3</sup>までの範囲であった。

## ○2002年度から2018年度における大気についての*p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE及び*p,p'*-DDDの検出状況

<i>p,p'</i> -DDT	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	1.9	1.8	22	0.25	0.24 [0.08]	102/102	34/34
	2003温暖期	5.8	6.6	24	0.75	0.14 [0.046]	35/35	35/35
	2003寒冷期	1.7	1.6	11	0.31		34/34	34/34
	2004温暖期	4.7	5.1	37	0.41	0.22 [0.074]	37/37	37/37
	2004寒冷期	1.8	1.7	13	0.29		37/37	37/37
	2005温暖期	4.1	4.2	31	0.44	0.16 [0.054]	37/37	37/37
	2005寒冷期	1.1	0.99	4.8	0.25		37/37	37/37
	2006温暖期	4.2	3.8	51	0.35	0.17 [0.06]	37/37	37/37
	2006寒冷期	1.4	1.2	7.3	0.29		37/37	37/37
	2007温暖期	4.9	5.2	30	0.6	0.07 [0.03]	36/36	36/36
	2007寒冷期	1.2	1.2	8.8	0.23		36/36	36/36
	2008温暖期	3.6	3.0	27	0.76	0.07 [0.03]	37/37	37/37
	2008寒冷期	1.2	1.0	15	0.22		37/37	37/37
	2009温暖期	3.6	3.6	28	0.44	0.07 [0.03]	37/37	37/37
	2009寒冷期	1.1	1.0	8.0	0.20		37/37	37/37
	2010温暖期	3.5	3.1	56	0.28	0.10 [0.03]	37/37	37/37
	2010寒冷期	1.3	0.89	16	0.30		37/37	37/37
	2013温暖期	2.8	3.6	17	0.20	0.11 [0.04]	36/36	36/36
	2013寒冷期	0.65	0.53	4.5	0.18		36/36	36/36
	2015温暖期	1.5	1.8	13	0.18	0.15 [0.05]	35/35	35/35
2018温暖期	1.6	2	14	0.15	0.03 [0.01]		37/37	37/37

<i>p,p'</i> -DDE	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	2.8	2.7	28	0.56	0.09 [0.03]	102/102	34/34
	2003 温暖期	7.2	7.0	51	1.2	0.40 [0.13]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	2.8	2.4	22	1.1		34/34	34/34
	2004 温暖期	6.1	6.3	95	0.62	0.12 [0.039]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	2.9	2.6	43	0.85		37/37	37/37
	2005 温暖期	5.0	5.7	42	1.2	0.14 [0.034]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	1.7	1.5	9.9	0.76		37/37	37/37
	2006 温暖期	5.0	4.7	49	1.7	0.10 [0.03]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	1.9	1.7	9.5	0.52		37/37	37/37
	2007 温暖期	6.4	6.1	120	0.54	0.04 [0.02]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	2.1	1.9	39	0.73		36/36	36/36
	2008 温暖期	4.8	4.4	96	0.98	0.04 [0.02]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	2.2	2.0	22	0.89		37/37	37/37
	2009 温暖期	4.9	4.8	130	0.87	0.08 [0.03]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	2.1	1.9	100	0.60		37/37	37/37
	2010 温暖期	4.9	4.1	200	tr(0.41)	0.62 [0.21]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	2.2	1.8	28	tr(0.47)		37/37	37/37
	2013 温暖期	4.1	4.3	37	0.2	0.10 [0.03]	36/36	36/36
2013 寒冷期	1.6	1.5	11	0.6	36/36		36/36	
2015 温暖期	2.4	2.6	34	0.31	0.12 [0.04]	35/35	35/35	
2018 温暖期	2.6	2.5	49	0.31	0.03 [0.01]	37/37	37/37	
<i>p,p'</i> -DDD	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	0.12	0.13	0.76	nd	0.018 [0.006]	101/102	34/34
	2003 温暖期	0.30	0.35	1.4	0.063	0.054 [0.018]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	0.13	0.14	0.52	tr(0.037)		34/34	34/34
	2004 温暖期	0.24	0.27	1.4	tr(0.036)	0.053 [0.018]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	0.12	0.12	0.91	tr(0.025)		37/37	37/37
	2005 温暖期	0.24	0.26	1.3	tr(0.07)	0.16 [0.05]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	tr(0.06)	tr(0.07)	0.29	nd		28/37	28/37
	2006 温暖期	0.28	0.32	1.3	nd	0.13 [0.04]	36/37	36/37
	2006 寒冷期	0.14	tr(0.12)	0.99	nd		36/37	36/37
	2007 温暖期	0.26	0.27	1.4	0.046	0.011 [0.004]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	0.093	0.087	0.5	0.026		36/36	36/36
	2008 温暖期	0.17	0.17	1.1	0.037	0.025 [0.009]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	0.091	0.081	0.31	0.036		37/37	37/37
	2009 温暖期	0.17	0.18	0.82	0.03	0.03 [0.01]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	0.08	0.08	0.35	tr(0.02)		37/37	37/37
	2010 温暖期	0.20	0.17	1.7	0.04	0.02 [0.01]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	0.10	0.09	0.41	0.02		37/37	37/37
	2013 温暖期	0.16	0.18	0.80	0.027	0.018 [0.007]	36/36	36/36
2013 寒冷期	0.056	0.054	0.14	tr(0.015)	36/36		36/36	
2015 温暖期	nd	nd	tr(0.31)	nd	0.33 [0.11]	17/35	17/35	
2018 温暖期	0.13	0.16	0.72	nd	0.07 [0.03]	36/37	36/37	

(注) 2011 年度、2012 年度、2014 年度、2016 年度及び 2017 年度は調査を実施していない。

【*o,p'*-DDT、*o,p'*-DDE 及び *o,p'*-DDD】

<生物>

*o,p'*-DDT：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 0.9pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は 10~120pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 0.9pg/g-wet において 18 地点全てで検出され、検出濃度は tr(1.1)~1,500pg/g-wet の範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 0.9pg/g-wet において 2 地点中 1 地点で検出され、検出濃度は tr(2.5)pg/g-wet であった。2002 年度から 2018 年度における経年分析の結果、貝類及び魚類の減少傾向が統計的に有意と判定された。

*o,p'*-DDE：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 1pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は tr(2)~250pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 1pg/g-wet において 18 地点中 17 地点で検出され、検出濃度は 2,000pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 1pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は tr(1)pg/g-wet であった。2002 年度から 2018 年度における経年分析の結果、貝類及び魚類の減少傾向が統計的に有意と判定された。

*o,p'*-DDD：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 0.9pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は 4.9~720pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 0.9pg/g-wet において 18 地点中 17 地点で検出され、検出濃度は 1,100pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 0.9pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 3.7~9.9pg/g-wet の範囲であった。2002 年度から 2018 年度における経年分析の結果、貝類の減少傾向が統計的に有意と判定された。

○2002 年度から 2018 年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての *o,p'*-DDT、*o,p'*-DDE 及び *o,p'*-DDD の検出状況

<i>o,p'</i> -DDT	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度		
							検体	地点	
貝類 (pg/g-wet)	2002	110	83	480	22	12 [4]	38/38	8/8	
	2003	130	120	480	35	2.9 [0.97]	30/30	6/6	
	2004	160	140	910	20	1.8 [0.61]	31/31	7/7	
	2005	98	57	440	29	2.6 [0.86]	31/31	7/7	
	2006	92	79	380	24	3 [1]	31/31	7/7	
	2007	79	52	350	20	3 [1]	31/31	7/7	
	2008	58	37	330	5	3 [1]	31/31	7/7	
	2009	74	48	2,500	17	2.2 [0.8]	31/31	7/7	
	2010	51	67	160	15	3 [1]	6/6	6/6	
	2013	49	51	180	12	3 [1]	5/5	5/5	
	2018	24	12	120	10	2.7 [0.9]	3/3	3/3	
	魚類 (pg/g-wet)	2002	130	130	2,300	tr(6)	12 [4]	70/70	14/14
		2003	85	120	520	2.9	2.9 [0.97]	70/70	14/14
2004		160	140	1,800	3.7	1.8 [0.61]	70/70	14/14	
2005		100	110	1,500	5.8	2.6 [0.86]	80/80	16/16	
2006		100	110	700	6	3 [1]	80/80	16/16	
2007		69	90	430	3	3 [1]	80/80	16/16	
2008		72	92	720	3	3 [1]	85/85	17/17	
2009		61	73	470	2.4	2.2 [0.8]	90/90	18/18	
2010		58	71	550	5	3 [1]	18/18	18/18	
2013		58	76	310	4	3 [1]	19/19	19/19	
2018		34	34	1,500	tr(1.1)	2.7 [0.9]	18/18	18/18	

<i>o,p'</i> -DDT	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
鳥類 (pg/g-wet)	2002	12	tr(10)	58	nd	12 [4]	8/10	2/2
	2003	24	16	66	8.3	2.9 [0.97]	10/10	2/2
	2004	8.5	13	43	tr(0.87)	1.8 [0.61]	10/10	2/2
	2005	11	14	24	3.4	2.6 [0.86]	10/10	2/2
	2006	14	10	120	3	3 [1]	10/10	2/2
	2007	9	9	26	tr(2)	3 [1]	10/10	2/2
	2008	4	6	16	nd	3 [1]	8/10	2/2
	2009	6.3	7.6	12	tr(1.4)	2.2 [0.8]	10/10	2/2
	2010	nd	---	nd	nd	3 [1]	0/2	0/2
	2013※※	nd	---	tr(1)	nd	3 [1]	1/2	1/2
2018※※	tr(1.1)	---	tr(2.5)	nd	2.7 [0.9]	1/2	1/2	
<i>o,p'</i> -DDE	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
貝類 (pg/g-wet)	2002	83	66	1,100	13	3.6 [1.2]	38/38	8/8
	2003	85	100	460	17	3.6 [1.2]	30/30	6/6
	2004	86	69	360	19	2.1 [0.69]	31/31	7/7
	2005	70	89	470	12	3.4 [1.1]	31/31	7/7
	2006	62	81	340	12	3 [1]	31/31	7/7
	2007	56	69	410	8.9	2.3 [0.9]	31/31	7/7
	2008	49	52	390	8	3 [1]	31/31	7/7
	2009	46	58	310	8	3 [1]	31/31	7/7
	2010	46	58	160	7.8	1.5 [0.6]	6/6	6/6
	2013	28	31	260	4	4 [1]	5/5	5/5
	2018	20	15	250	tr(2)	3 [1]	3/3	3/3
	魚類 (pg/g-wet)	2002	91	50	13,000	3.6	3.6 [1.2]	70/70
2003		51	54	2,500	nd	3.6 [1.2]	67/70	14/14
2004		76	48	5,800	tr(0.89)	2.1 [0.69]	70/70	14/14
2005		54	45	12,000	tr(1.4)	3.4 [1.1]	80/80	16/16
2006		56	43	4,800	tr(1)	3 [1]	80/80	16/16
2007		45	29	4,400	nd	2.3 [0.9]	79/80	16/16
2008		50	37	13,000	tr(1)	3 [1]	85/85	17/17
2009		46	33	4,300	tr(1)	3 [1]	90/90	18/18
2010		47	37	2,800	tr(1.2)	1.5 [0.6]	18/18	18/18
2013		51	40	3,000	tr(1)	4 [1]	19/19	19/19
2018		32	27	2,000	nd	3 [1]	17/18	17/18
鳥類 (pg/g-wet)		2002	28	26	49	20	3.6 [1.2]	10/10
	2003	tr(2.3)	tr(2.0)	4.2	nd	3.6 [1.2]	9/10	2/2
	2004	tr(1.0)	tr(1.1)	3.7	nd	2.1 [0.69]	5/10	1/2
	2005	tr(1.2)	tr(1.9)	tr(2.9)	nd	3.4 [1.1]	7/10	2/2
	2006	tr(1)	tr(2)	3	tr(1)	3 [1]	10/10	2/2
	2007	tr(1.0)	tr(1.4)	2.8	nd	2.3 [0.9]	6/10	2/2
	2008	tr(1)	nd	3	nd	3 [1]	5/10	1/2
	2009	nd	tr(1)	tr(2)	nd	3 [1]	6/10	2/2
	2010	tr(1.1)	---	3.7	nd	1.5 [0.6]	1/2	1/2
	2013※※	nd	---	tr(1)	nd	4 [1]	1/2	1/2
2018※※	tr(1)	---	tr(1)	tr(1)	3 [1]	2/2	2/2	
<i>o,p'</i> -DDD	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
貝類 (pg/g-wet)	2002	120	190	2,900	tr(9)	12 [4]	38/38	8/8
	2003	200	220	1,900	6.5	6.0 [2.0]	30/30	6/6
	2004	220	130	2,800	6.0	5.7 [1.9]	31/31	7/7
	2005	170	280	1,800	10	3.3 [1.1]	31/31	7/7
	2006	150	200	1,000	7	4 [1]	31/31	7/7
	2007	150	200	1,200	6	3 [1]	31/31	7/7
	2008	130	140	1,100	5	4 [2]	31/31	7/7
	2009	95	51	1,000	5	3 [1]	31/31	7/7
	2010	57	50	400	5.8	0.6 [0.2]	6/6	6/6
	2013	100	74	1,800	7.8	1.8 [0.7]	5/5	5/5
	2018	46	27	720	4.9	2.4 [0.9]	3/3	3/3

<i>o,p'</i> -DDD	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
魚類 (pg/g-wet)	2002	95	90	1,100	nd	12 [4]	66/70	14/14
	2003	75	96	920	nd	6.0 [2.0]	66/70	14/14
	2004	120	96	1,700	nd	5.7 [1.9]	68/70	14/14
	2005	83	81	1,400	nd	3.3 [1.1]	79/80	16/16
	2006	80	86	1,100	tr(1)	4 [1]	80/80	16/16
	2007	66	62	1,300	nd	3 [1]	78/80	16/16
	2008	65	74	1,000	nd	4 [2]	80/85	16/17
	2009	63	64	760	nd	3 [1]	87/90	18/18
	2010	75	99	700	2.6	0.6 [0.2]	18/18	18/18
	2013	70	85	940	nd	1.8 [0.7]	18/19	18/19
	2018	40	39	1,100	nd	2.4 [0.9]	17/18	17/18
鳥類 (pg/g-wet)	2002	15	15	23	tr(8)	12 [4]	10/10	2/2
	2003	15	14	36	tr(5.0)	6.0 [2.0]	10/10	2/2
	2004	6.1	5.7	25	nd	5.7 [1.9]	9/10	2/2
	2005	7.3	7.5	9.7	4.7	3.3 [1.1]	10/10	2/2
	2006	8	8	19	5	4 [1]	10/10	2/2
	2007	7	7	10	5	3 [1]	10/10	2/2
	2008	4	tr(3)	14	tr(2)	4 [2]	10/10	2/2
	2009	6	5	13	3	3 [1]	10/10	2/2
	2010	6.3	---	11	3.6	0.6 [0.2]	2/2	2/2
	2013※※	5.4	---	12	2.4	1.8 [0.7]	2/2	2/2
2018※※	6.1	---	9.9	3.7	2.4 [0.9]	2/2	2/2	

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2013年度における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2011年度、2012年度、2014年度から2017年度は調査を実施していない。

#### <大気>

*o,p'*-DDT：大気については、37地点を調査し、検出下限値  $0.01\text{pg}/\text{m}^3$  において37地点全てで検出され、検出濃度は  $0.08\sim 6.3\text{pg}/\text{m}^3$  の範囲であった。2003年度から2018年度における経年分析の結果、温暖期の減少傾向が統計的に有意と判定された。

*o,p'*-DDE：大気については、37地点を調査し、検出下限値  $0.02\text{pg}/\text{m}^3$  において37地点全てで検出され、検出濃度は  $\text{tr}(0.04)\sim 1.2\text{pg}/\text{m}^3$  の範囲であった。2003年度から2018年度における経年分析の結果、温暖期の減少傾向が統計的に有意と判定された。

*o,p'*-DDD：大気については、37地点を調査し、検出下限値  $0.03\text{pg}/\text{m}^3$  において37地点中36地点で検出され、検出濃度は  $0.38\text{pg}/\text{m}^3$  までの範囲であった。2003年度から2018年度における経年分析の結果、温暖期の減少傾向が統計的に有意と判定された。

○2002年度から2018年度における大気についての *o,p'*-DDT、*o,p'*-DDE 及び *o,p'*-DDD の検出状況

<i>o,p'</i> -DDT	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	2.2	2.0	40	0.41	0.15 [0.05]	102/102	34/34
	2003 温暖期	6.9	7.7	38	0.61	0.12 [0.040]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	1.6	1.4	6.4	0.43		34/34	34/34
	2004 温暖期	5.1	5.4	22	0.54	0.093 [0.031]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	1.5	1.4	9.4	0.35		37/37	37/37
	2005 温暖期	3.0	3.1	14	0.67	0.10 [0.034]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	0.76	0.67	3.0	0.32		37/37	37/37
	2006 温暖期	2.5	2.4	20	0.55	0.09 [0.03]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	0.90	0.79	3.9	0.37		37/37	37/37
	2007 温暖期	2.9	2.6	19	0.24	0.03 [0.01]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	0.77	0.63	3.4	0.31		36/36	36/36
	2008 温暖期	2.3	2.1	18	0.33	0.03 [0.01]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	0.80	0.62	6.5	0.32		37/37	37/37
	2009 温暖期	2.3	2.2	14	0.33	0.019 [0.008]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	0.80	0.71	3.7	0.20		37/37	37/37
	2010 温暖期	2.2	1.9	26	0.19	0.14 [0.05]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	0.81	0.69	5.5	0.22		37/37	37/37
	2013 温暖期	1.7	1.7	12	0.15	0.054 [0.018]	36/36	36/36
2013 寒冷期	0.47	0.44	2.4	0.20	36/36		36/36	
2015 温暖期	0.99	1.2	6.8	0.14	0.12 [0.04]	35/35	35/35	
2018 温暖期	1.0	1.1	6.3	0.08	0.03 [0.01]	37/37	37/37	
<i>o,p'</i> -DDE	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	0.60	0.56	8.5	0.11	0.03 [0.01]	102/102	34/34
	2003 温暖期	1.4	1.5	7.5	0.17	0.020 [0.0068]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	0.50	0.47	1.7	0.18		34/34	34/34
	2004 温暖期	1.1	1.2	8.9	0.14	0.037 [0.012]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	0.53	0.49	3.9	0.14		37/37	37/37
	2005 温暖期	1.6	1.5	7.9	0.33	0.074 [0.024]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	0.62	0.59	2.0	0.24		37/37	37/37
	2006 温暖期	1.1	1.1	7.4	nd	0.09 [0.03]	36/37	36/37
	2006 寒冷期	0.65	0.56	2.6	0.19		37/37	37/37
	2007 温暖期	0.66	0.67	7	0.096	0.017 [0.007]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	0.3	0.29	3.7	0.12		36/36	36/36
	2008 温暖期	0.48	0.52	5.0	0.11	0.025 [0.009]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	0.30	0.24	1.1	0.15		37/37	37/37
	2009 温暖期	0.51	0.46	6.7	0.098	0.016 [0.006]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	0.27	0.24	23	0.072		37/37	37/37
	2010 温暖期	0.49	0.41	9.0	0.09	0.04 [0.01]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	0.27	0.23	2.3	0.08		37/37	37/37
	2013 温暖期	0.38	0.35	3.3	0.051	0.023 [0.009]	36/36	36/36
2013 寒冷期	0.21	0.19	0.65	0.097	36/36		36/36	
2015 温暖期	0.25	0.24	1.1	nd	0.18 [0.06]	34/35	34/35	
2018 温暖期	0.24	0.26	1.2	tr(0.04)	0.05 [0.02]	37/37	37/37	
<i>o,p'</i> -DDD	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	0.14	0.18	0.85	nd	0.021 [0.007]	97/102	33/34
	2003 温暖期	0.37	0.42	1.3	0.059	0.042 [0.014]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	0.15	0.14	0.42	0.062		34/34	34/34
	2004 温暖期	0.31	0.33	2.6	tr(0.052)	0.14 [0.048]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	0.14	tr(0.13)	0.86	nd		35/37	35/37
	2005 温暖期	0.22	0.19	0.90	tr(0.07)	0.10 [0.03]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	tr(0.07)	tr(0.07)	0.21	nd		35/37	35/37
	2006 温暖期	0.28	0.28	1.4	tr(0.05)	0.10 [0.03]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	0.12	0.11	0.79	nd		34/37	34/37
	2007 温暖期	0.28	0.29	1.9	0.05	0.05 [0.02]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	0.095	0.09	0.33	tr(0.03)		36/36	36/36
	2008 温暖期	0.19	0.16	1.6	0.05	0.04 [0.01]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	0.10	0.09	0.26	0.04		37/37	37/37
	2009 温暖期	0.20	0.19	0.90	0.04	0.03 [0.01]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	0.08	0.08	0.28	tr(0.02)		37/37	37/37
	2010 温暖期	0.21	0.19	1.8	0.04	0.03 [0.01]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	0.10	0.09	0.48	tr(0.02)		37/37	37/37
	2013 温暖期	0.17	0.18	1.2	tr(0.03)	0.05 [0.02]	36/36	36/36
2013 寒冷期	0.06	0.06	0.17	nd	35/36		35/36	
2015 温暖期	tr(0.09)	tr(0.10)	0.37	nd	0.20 [0.07]	25/35	25/35	
2018 温暖期	0.10	0.11	0.38	nd	0.07 [0.03]	36/37	36/37	

(注) 2011年度、2012年度、2014年度、2016年度、2017年度は調査を実施していない。

・2017年度までの水質及び底質の調査結果（参考）

【*p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE 及び *p,p'*-DDD】

<水質>

○2002年度から2014年度における水質についての *p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE 及び *p,p'*-DDD の検出状況

<i>p,p'</i> -DDT	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	13	11	440	0.25	0.6 [0.2]	114/114	38/38
	2003	14	12	740	tr(2.8)	3 [0.9]	36/36	36/36
	2004	15	14	310	nd	6 [2]	36/38	36/38
	2005	8	9	110	1	4 [1]	47/47	47/47
	2006	9.1	9.2	170	tr(1.6)	1.9 [0.6]	48/48	48/48
	2007	7.3	9.1	670	nd	1.7 [0.6]	46/48	46/48
	2008	11	11	1,200	nd	1.2 [0.5]	47/48	47/48
	2009	9.2	8.4	440	0.81	0.15 [0.06]	49/49	49/49
	2010	8.5	7.6	7,500	tr(1.0)	2.4 [0.8]	49/49	49/49
	2014	4.4	3.9	380	nd	0.4 [0.1]	47/48	47/48
<i>p,p'</i> -DDE	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	25	26	760	1.3	0.6 [0.2]	114/114	38/38
	2003	26	22	380	5	4 [2]	36/36	36/36
	2004	36	34	680	tr(6)	8 [3]	38/38	38/38
	2005	26	24	410	4	6 [2]	47/47	47/47
	2006	24	24	170	tr(4)	7 [2]	48/48	48/48
	2007	22	23	440	tr(2)	4 [2]	48/48	48/48
	2008	27	28	350	2.5	1.1 [0.4]	48/48	48/48
	2009	23	23	240	3.4	1.1 [0.4]	49/49	49/49
	2010	14	12	1,600	2.4	2.3 [0.8]	49/49	49/49
	2014	16	17	610	1.9	0.5 [0.2]	48/48	48/48
<i>p,p'</i> -DDD	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	16	18	190	0.57	0.24 [0.08]	114/114	38/38
	2003	19	18	410	4	2 [0.5]	36/36	36/36
	2004	19	18	740	tr(2.4)	3 [0.8]	38/38	38/38
	2005	17	16	130	tr(1.8)	1.9 [0.64]	47/47	47/47
	2006	16	17	99	2.0	1.6 [0.5]	48/48	48/48
	2007	15	12	150	tr(1.5)	1.7 [0.6]	48/48	48/48
	2008	22	20	850	2.0	0.6 [0.2]	48/48	48/48
	2009	14	13	140	1.4	0.4 [0.2]	49/49	49/49
	2010	12	10	970	1.6	0.20 [0.08]	49/49	49/49
	2014	9.0	8.7	87	1.0	1.0 [0.4]	48/48	48/48

(注1) ※：2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2011年度から2013年度は調査を実施していない。

<底質>

○2002年度から2014年度における底質についての *p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE 及び *p,p'*-DDD の検出状況

<i>p,p'</i> -DDT	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	380	240	97,000	tr(5)	6 [2]	189/189	63/63
	2003	290	220	55,000	3	2 [0.4]	186/186	62/62
	2004	460	230	98,000	7	2 [0.5]	189/189	63/63
	2005	360	230	1,700,000	5.1	1.0 [0.34]	189/189	63/63
	2006	310	240	130,000	4.5	1.4 [0.5]	192/192	64/64
	2007	210	150	130,000	3	1.3 [0.5]	192/192	64/64
	2008	270	180	1,400,000	4.8	1.2 [0.5]	192/192	64/64
	2009	250	170	2,100,000	1.9	1.0 [0.4]	192/192	64/64
	2010	230	200	220,000	9.3	2.8 [0.9]	64/64	64/64
	2014	140	140	12,000	tr(0.2)	0.4 [0.2]	63/63	63/63

<i>p,p'</i> -DDE	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	780	630	23,000	8.4	2.7 [0.9]	189/189	63/63
	2003	790	780	80,000	9.5	0.9 [0.3]	186/186	62/62
	2004	720	700	39,000	8	3 [0.8]	189/189	63/63
	2005	710	730	64,000	8.4	2.7 [0.94]	189/189	63/63
	2006	710	820	49,000	5.8	1.0 [0.3]	192/192	64/64
	2007	670	900	61,000	3.2	1.1 [0.4]	192/192	64/64
	2008	920	940	96,000	9.0	1.7 [0.7]	192/192	64/64
	2009	700	660	50,000	6.7	0.8 [0.3]	192/192	64/64
	2010	680	790	40,000	11	5 [2]	64/64	64/64
	2014	530	610	64,000	11	1.8 [0.6]	63/63	63/63

<i>p,p'</i> -DDD	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	640	690	51,000	tr(2.2)	2.4 [0.8]	189/189	63/63
	2003	670	580	32,000	3.7	0.9 [0.3]	186/186	62/62
	2004	650	550	75,000	4	2 [0.7]	189/189	63/63
	2005	600	570	210,000	5.2	1.7 [0.64]	189/189	63/63
	2006	560	540	53,000	2.2	0.7 [0.2]	192/192	64/64
	2007	520	550	80,000	3.5	1.0 [0.4]	192/192	64/64
	2008	740	660	300,000	2.8	1.0 [0.4]	192/192	64/64
	2009	540	560	300,000	3.9	0.4 [0.2]	192/192	64/64
	2010	510	510	78,000	4.4	1.4 [0.5]	64/64	64/64
	2014	330	410	21,000	4.9	4.2 [1.4]	63/63	63/63

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2011年度から2013年度は調査を実施していない。

### 【*o,p'*-DDT、*o,p'*-DDE 及び *o,p'*-DDD】

<水質>

○2002年度から2014年度における水質についての *o,p'*-DDT、*o,p'*-DDE 及び *o,p'*-DDD の検出状況

<i>o,p'</i> -DDT	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	5.4	4.6	77	0.19	1.2 [0.4]	114/114	38/38
	2003	6	5	100	tr(1.5)	3 [0.7]	36/36	36/36
	2004	tr(4.5)	5	85	nd	5 [2]	29/38	29/38
	2005	3	3	39	nd	3 [1]	42/47	42/47
	2006	2.8	2.4	52	0.51	2.3 [0.8]	48/48	48/48
	2007	tr(2.1)	tr(2.2)	86	nd	2.5 [0.8]	38/48	38/48
	2008	3.1	3.0	230	nd	1.4 [0.5]	44/48	44/48
	2009	2.4	2.4	100	0.43	0.16 [0.06]	49/49	49/49
	2010	1.5	tr(1.2)	700	nd	1.5 [0.5]	43/49	43/49
	2014	1.0	1.0	63	nd	0.4 [0.2]	42/48	42/48

<i>o,p'</i> -DDE	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	2.4	2.1	680	nd	0.9 [0.3]	113/114	38/38
	2003	2.2	2.0	170	tr(0.42)	0.8 [0.3]	36/36	36/36
	2004	3	2	170	tr(0.6)	2 [0.5]	38/38	38/38
	2005	2.5	2.1	410	0.4	1.2 [0.4]	47/47	47/47
	2006	tr(1.6)	tr(1.4)	210	nd	2.6 [0.9]	28/48	28/48
	2007	tr(1.5)	tr(1.1)	210	nd	2.3 [0.8]	29/48	29/48
	2008	1.5	1.8	260	nd	0.7 [0.3]	39/48	39/48
	2009	1.3	1.1	140	nd	0.22 [0.09]	47/49	47/49
	2010	0.97	0.65	180	tr(0.13)	0.24 [0.09]	49/49	49/49
	2014	0.6	0.6	560	nd	0.3 [0.1]	36/48	36/48

<i>o,p'</i> -DDD	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	5.6	6.0	110	nd	0.60 [0.20]	113/114	38/38
	2003	7.1	5.0	160	1.1	0.8 [0.3]	36/36	36/36
	2004	6	5	81	tr(0.7)	2 [0.5]	38/38	38/38
	2005	5.2	5.4	51	tr(0.5)	1.2 [0.4]	47/47	47/47
	2006	2.5	3.3	39	nd	0.8 [0.3]	40/48	40/48
	2007	4.6	3.9	41	tr(0.3)	0.8 [0.3]	48/48	48/48
	2008	6.7	7.2	170	nd	0.8 [0.3]	47/48	47/48
	2009	4.4	3.8	41	0.44	0.22 [0.09]	49/49	49/49
	2010	4.6	3.8	170	tr(0.5)	0.6 [0.2]	49/49	49/49
	2014	3.7	3.2	38	0.33	0.20 [0.08]	48/48	48/48

(注1) ※：2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2011年度から2013年度は調査を実施していない。

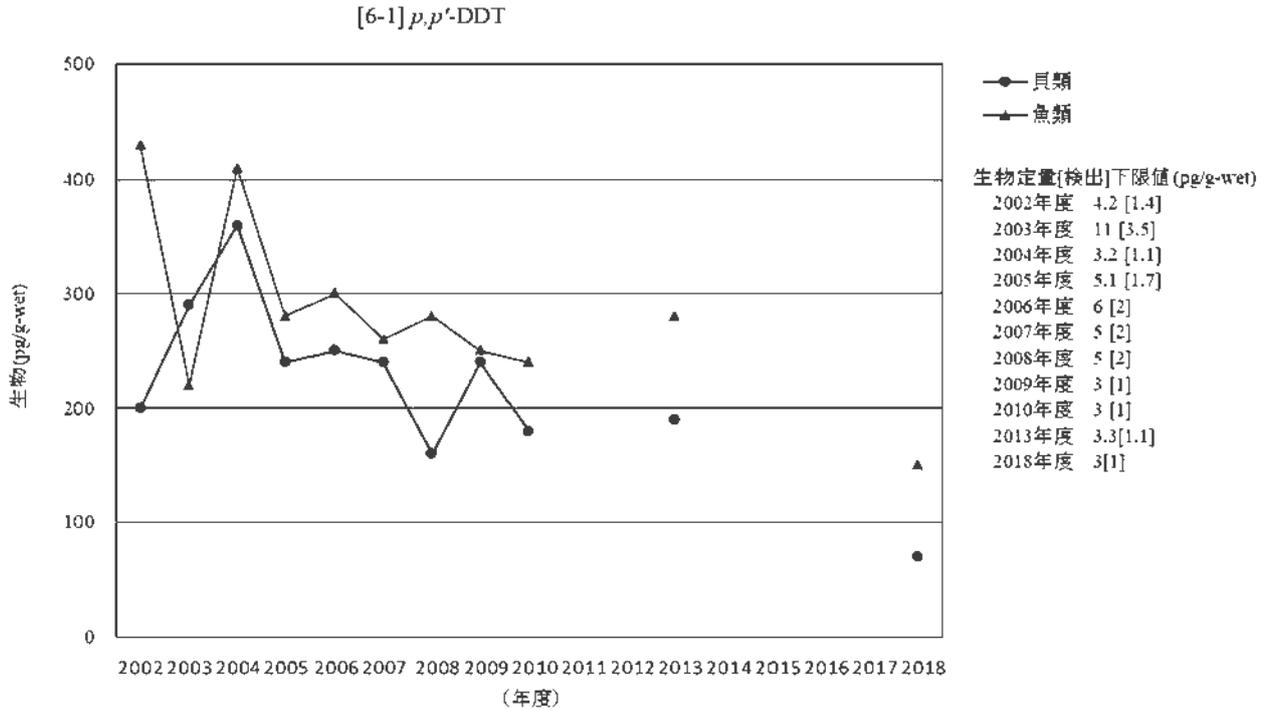
#### <底質>

#### ○2002年度から2014年度における底質についての*o,p'*-DDT、*o,p'*-DDE及び*o,p'*-DDDの検出状況

<i>o,p'</i> -DDT	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	76	47	27,000	nd	6 [2]	183/189	62/63
	2003	50	43	3,200	nd	0.8 [0.3]	185/186	62/62
	2004	69	50	17,000	tr(1.1)	2 [0.6]	189/189	63/63
	2005	58	46	160,000	0.8	0.8 [0.3]	189/189	63/63
	2006	57	52	18,000	tr(0.8)	1.2 [0.4]	192/192	64/64
	2007	38	31	27,000	nd	1.8 [0.6]	186/192	63/64
	2008	51	40	140,000	tr(0.7)	1.5 [0.6]	192/192	64/64
	2009	44	30	100,000	nd	1.2 [0.5]	190/192	64/64
	2010	40	33	13,000	1.4	1.1 [0.4]	64/64	64/64
	2014	26	24	2,400	nd	0.4 [0.2]	62/63	62/63
<i>o,p'</i> -DDE	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	54	37	16,000	nd	3 [1]	188/189	63/63
	2003	48	39	24,000	tr(0.5)	0.6 [0.2]	186/186	62/62
	2004	40	34	28,000	nd	3 [0.8]	184/189	63/63
	2005	40	32	31,000	nd	2.6 [0.9]	181/189	62/63
	2006	42	40	27,000	tr(0.4)	1.1 [0.4]	192/192	64/64
	2007	37	41	25,000	nd	1.2 [0.4]	186/192	63/64
	2008	50	48	37,000	nd	1.4 [0.6]	186/192	63/64
	2009	37	31	33,000	nd	0.6 [0.2]	191/192	64/64
	2010	37	32	25,000	tr(0.7)	1.2 [0.5]	64/64	64/64
	2014	30	32	41,000	tr(0.5)	0.8 [0.3]	63/63	63/63
<i>o,p'</i> -DDD	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	160	150	14,000	nd	6 [2]	184/189	62/63
	2003	160	130	8,800	tr(1.0)	2 [0.5]	186/186	62/62
	2004	140	120	16,000	tr(0.7)	2 [0.5]	189/189	63/63
	2005	130	110	32,000	tr(0.8)	1.0 [0.3]	189/189	63/63
	2006	120	110	13,000	tr(0.3)	0.5 [0.2]	192/192	64/64
	2007	110	130	21,000	tr(0.5)	1.0 [0.4]	192/192	64/64
	2008	170	150	50,000	0.5	0.3 [0.1]	192/192	64/64
	2009	120	120	24,000	0.5	0.5 [0.2]	192/192	64/64
	2010	130	130	6,900	tr(0.8)	0.9 [0.4]	64/64	64/64
	2014	74	85	3,200	tr(0.7)	1.2 [0.5]	63/63	63/63

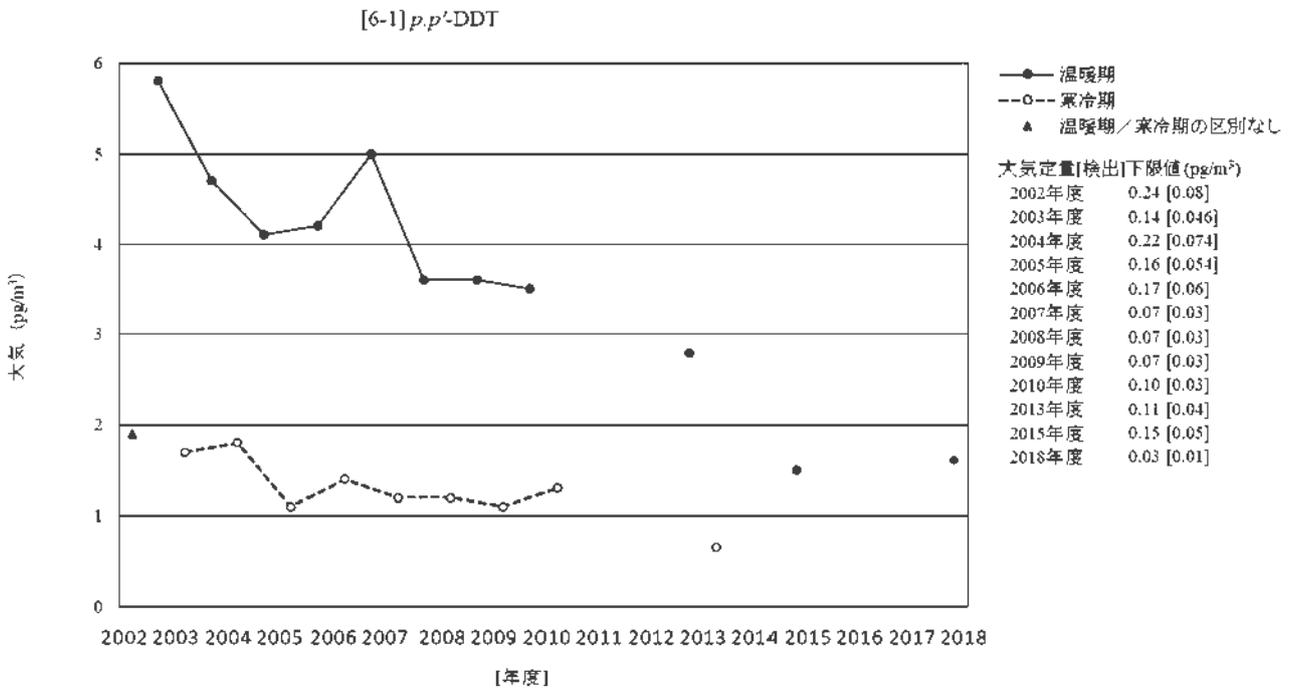
(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2011年度から2013年度は調査を実施していない。



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2010年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2011年度、2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

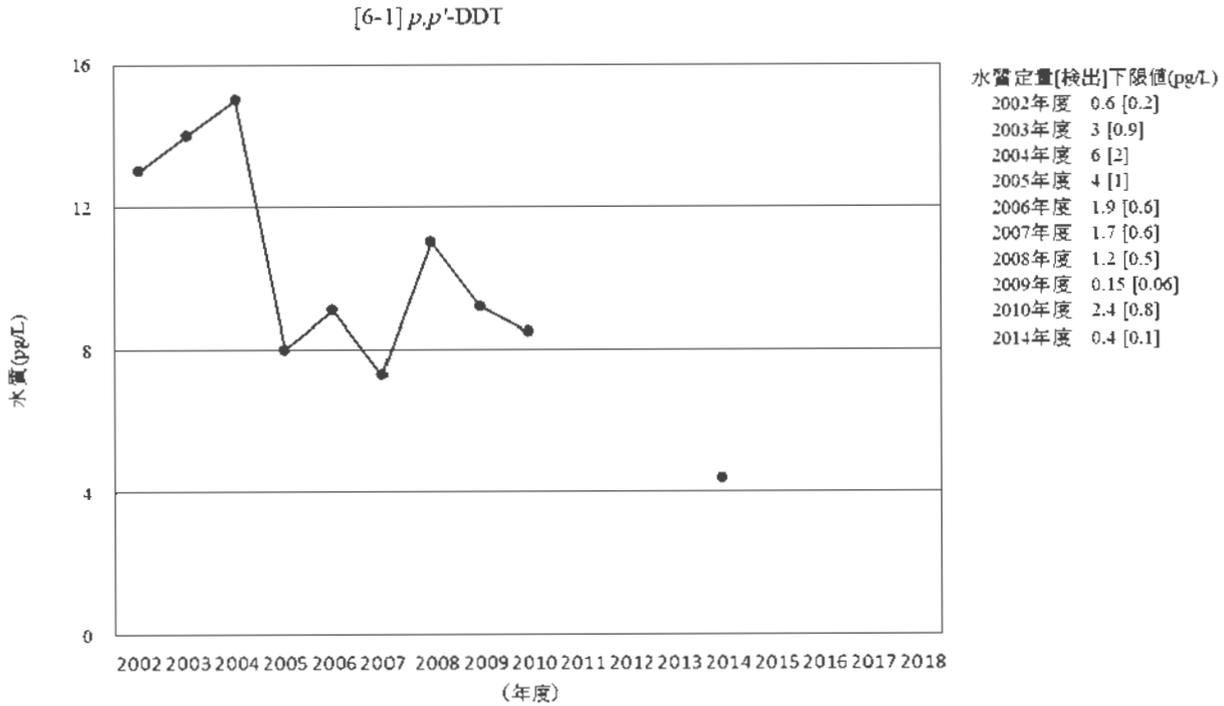
図 3-6-1-1 *p,p'*-DDT の生物の経年変化 (幾何平均値)



- (注) 2011年度、2012年度、2014年度、2016年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 3-6-1-2 *p,p'*-DDT の大気経年変化 (幾何平均値)

(参考)

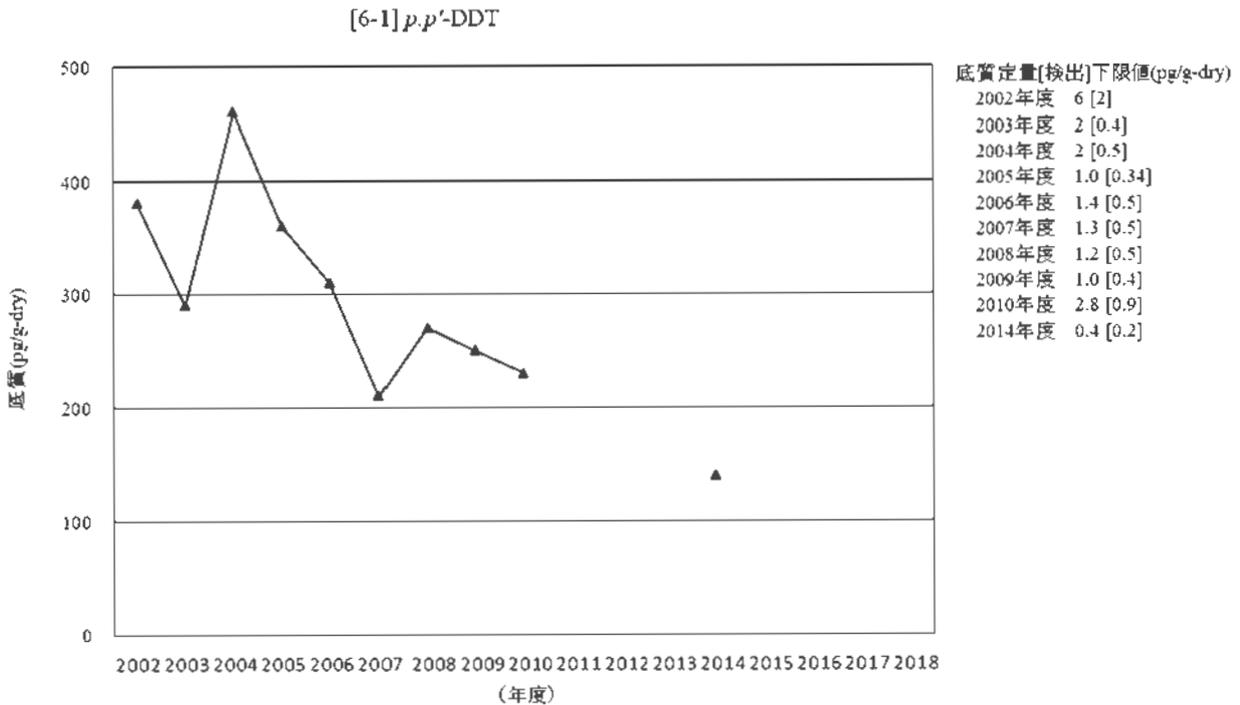


(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-6-1-3 *p,p'*-DDT の水質の経年変化 (幾何平均値)

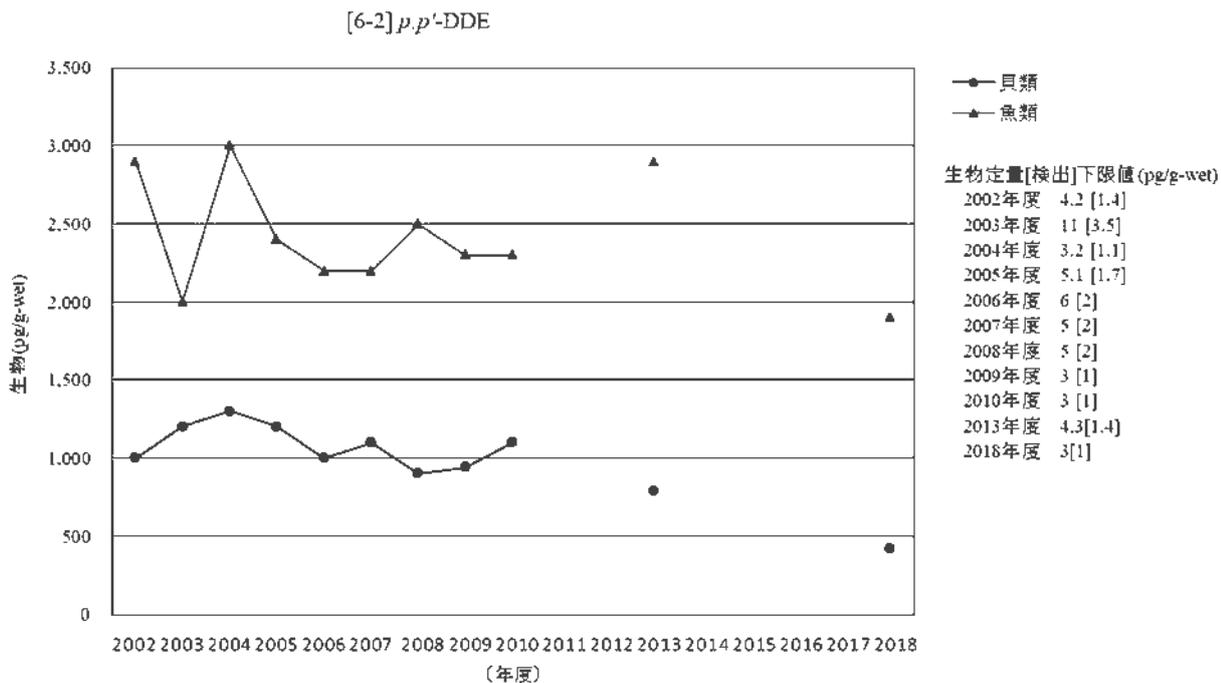
(参考)



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

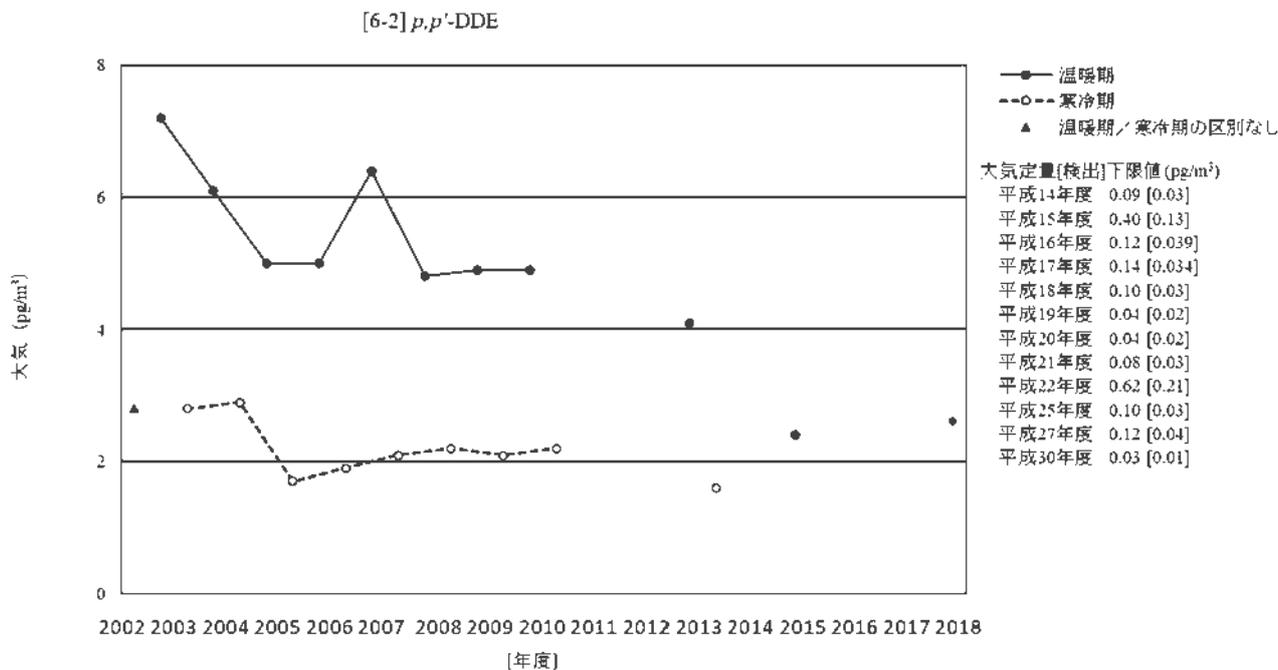
(注2) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-6-1-4 *p,p'*-DDT の底質の経年変化 (幾何平均値)



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2010年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2011年度、2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

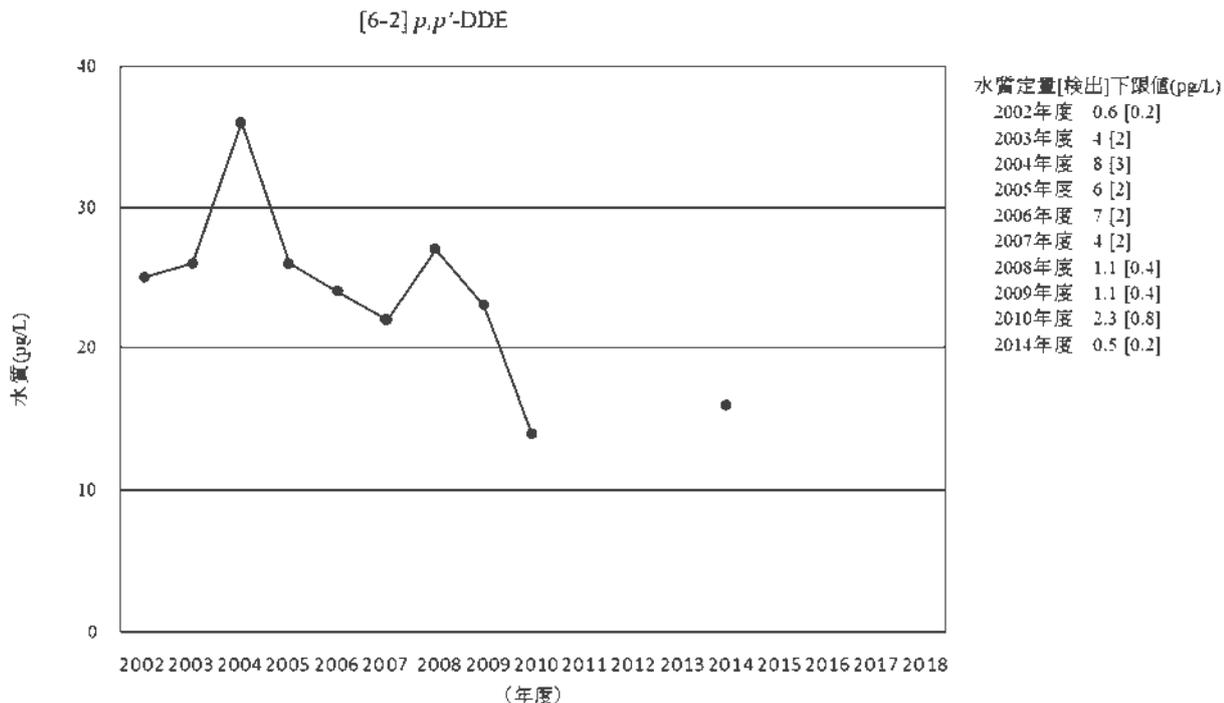
図 3-6-2-1 *p,p'*-DDE の生物の経年変化 (幾何平均値)



- (注) 2011年度、2012年度、2014年度、2016年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 3-6-2-2 *p,p'*-DDE の大気経年変化 (幾何平均値)

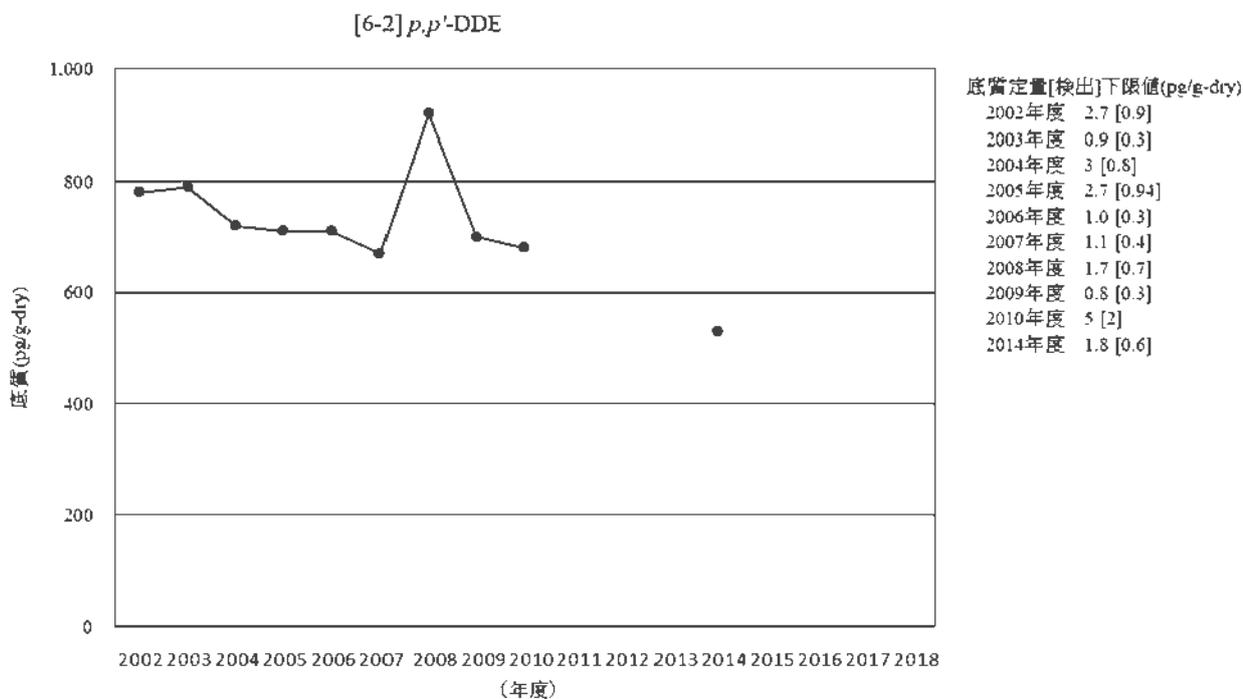
(参考)



(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

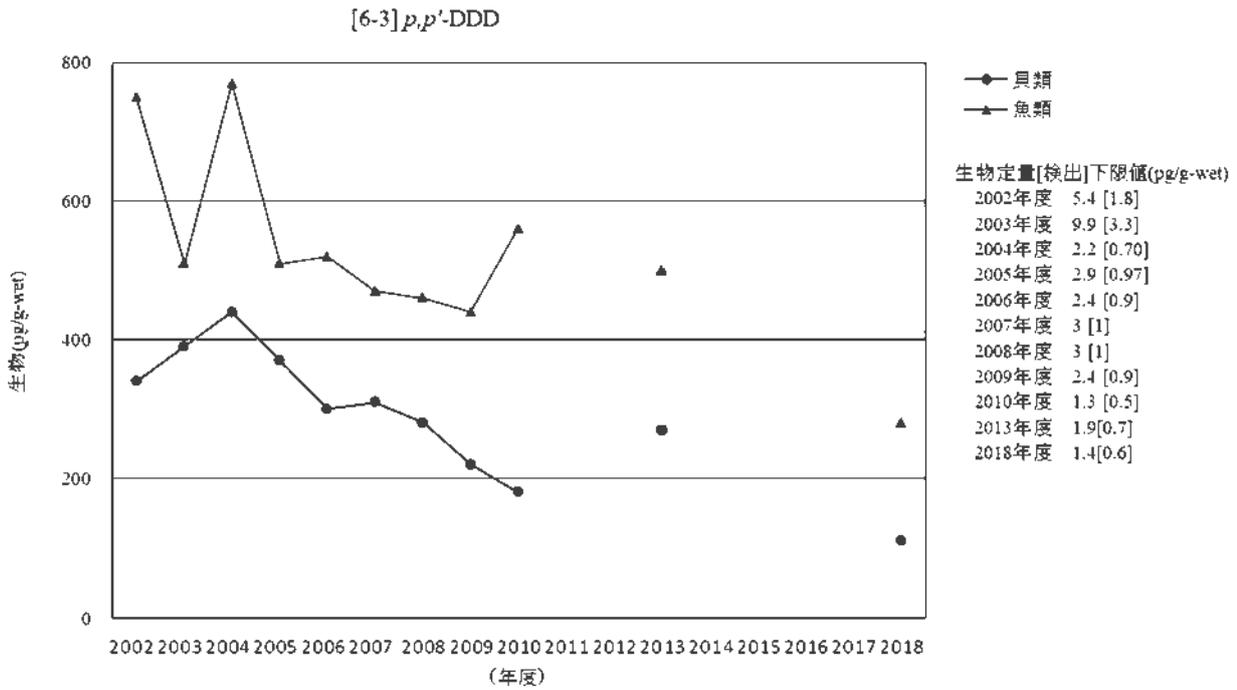
図 3-6-2-3 *p,p'*-DDE の水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



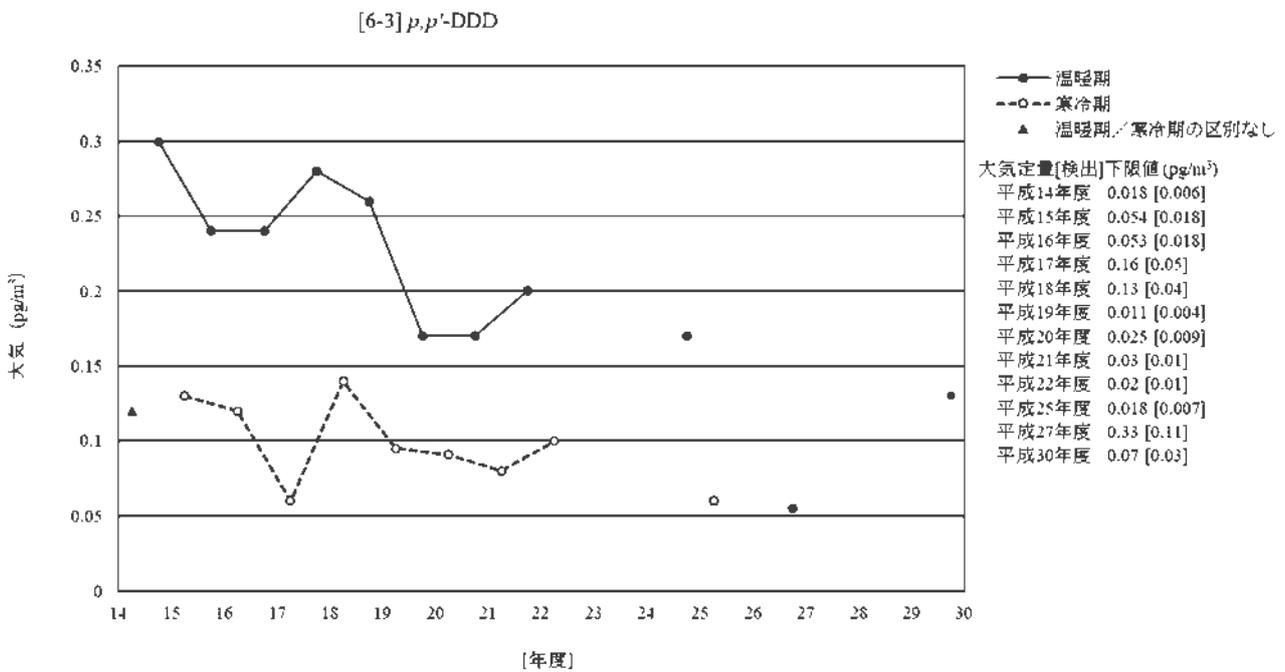
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-6-2-4 *p,p'*-DDE の底質の経年変化 (幾何平均値)



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2010年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2011年度、2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

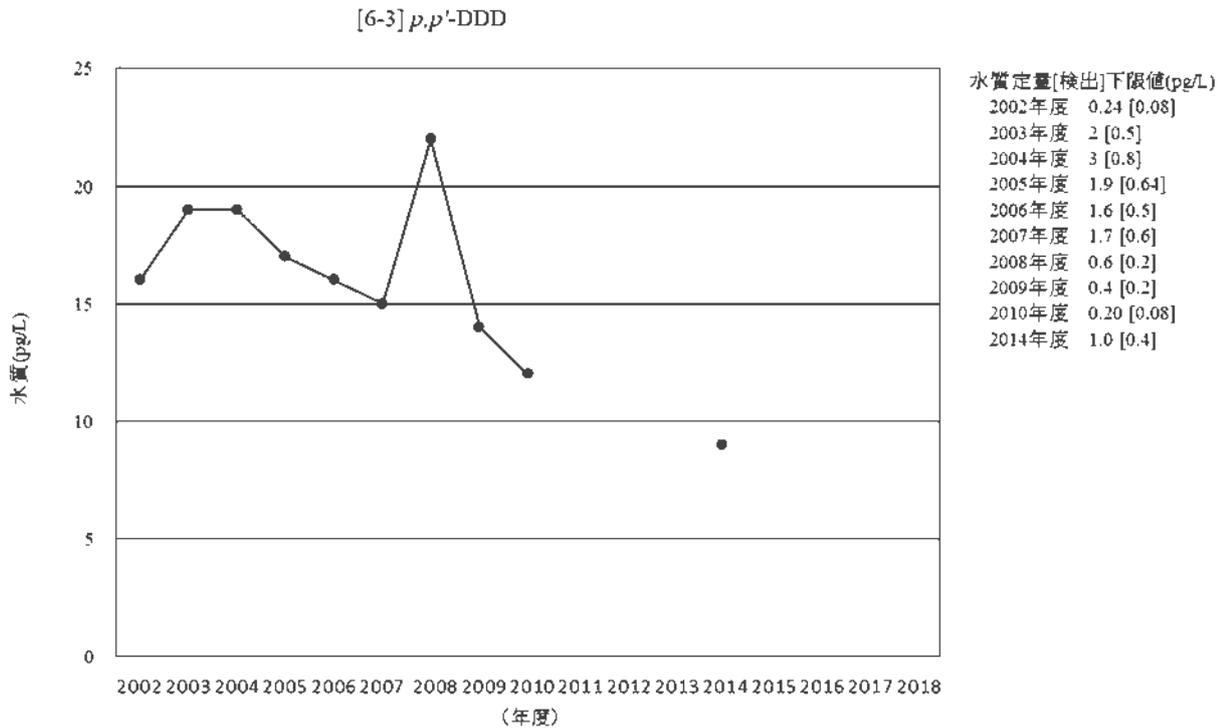
図 3-6-3-1 *p,p'*-DDD の生物の経年変化 (幾何平均値)



- (注1) 2011年度、2012年度、2014年度、2016年度及び2017年度は調査を実施していない。
- (注2) 2015年度の温暖期は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-6-3-2 *p,p'*-DDD の大気の経年変化 (幾何平均値)

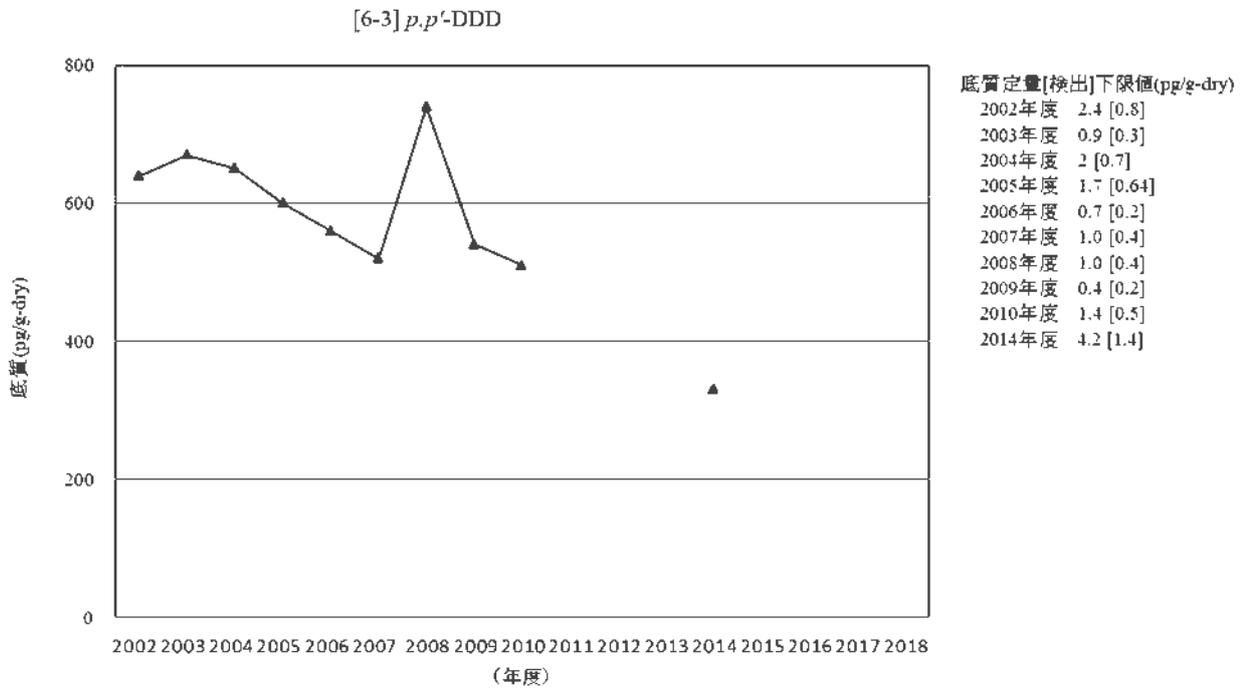
(参考)



(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

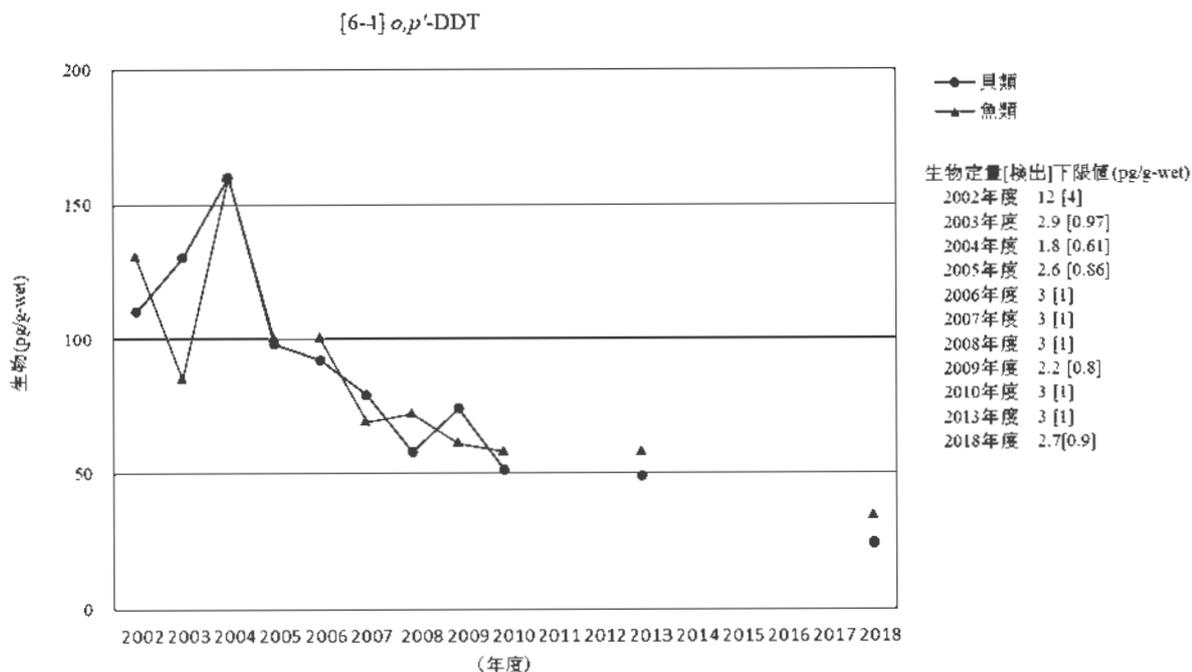
図 3-6-3-3 *p,p'*-DDD の水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



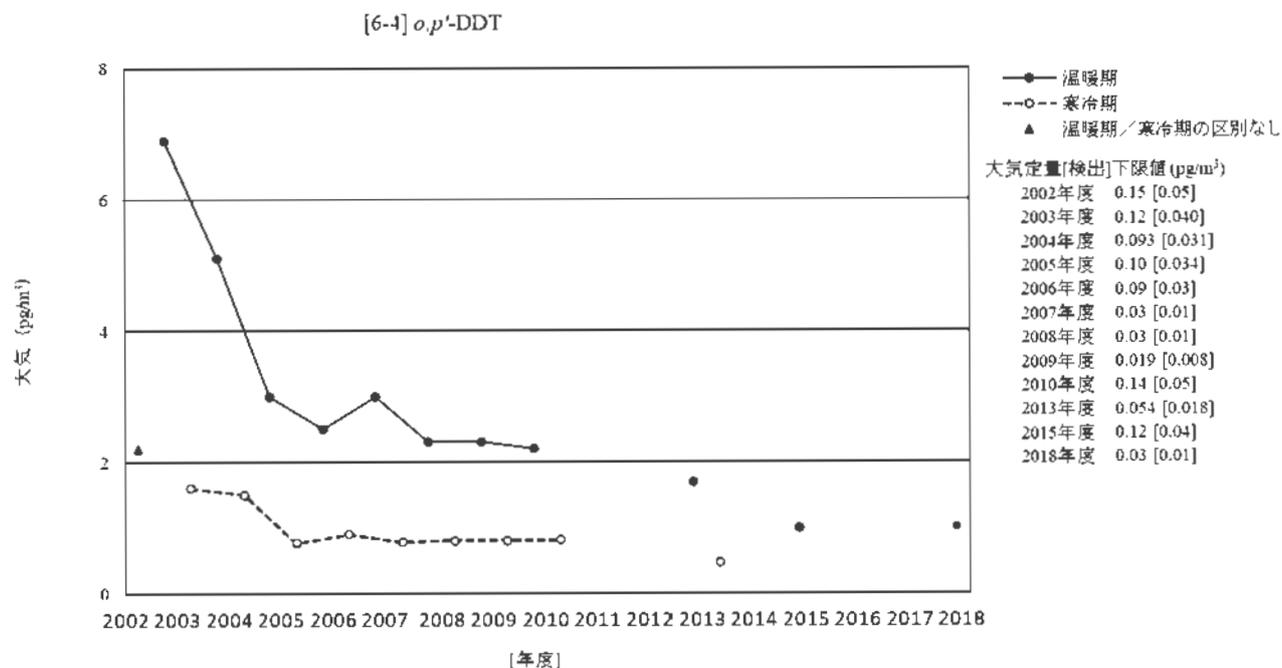
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-6-3-4 *p,p'*-DDD の底質の経年変化 (幾何平均値)



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2010年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2011年度、2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

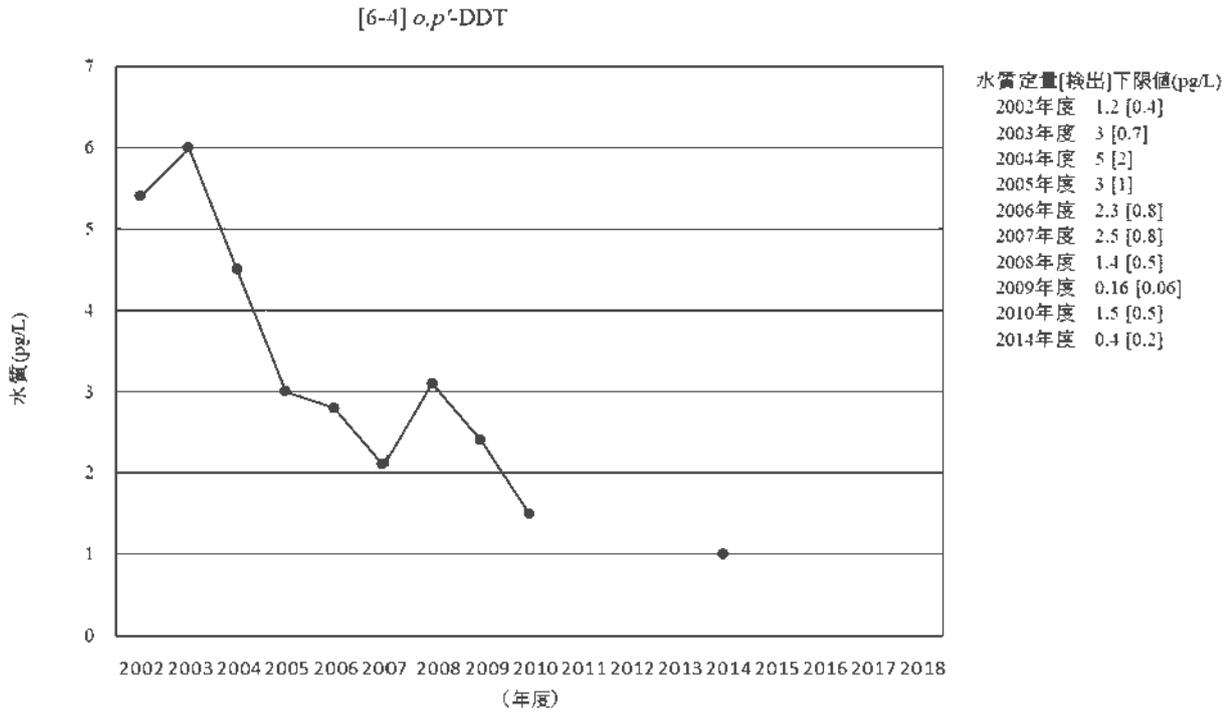
図 3-6-4-1 *o,p'*-DDT の生物の経年変化 (幾何平均値)



- (注) 2011年度、2012年度、2014年度、2016年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 3-6-4-2 *o,p'*-DDT の大気の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

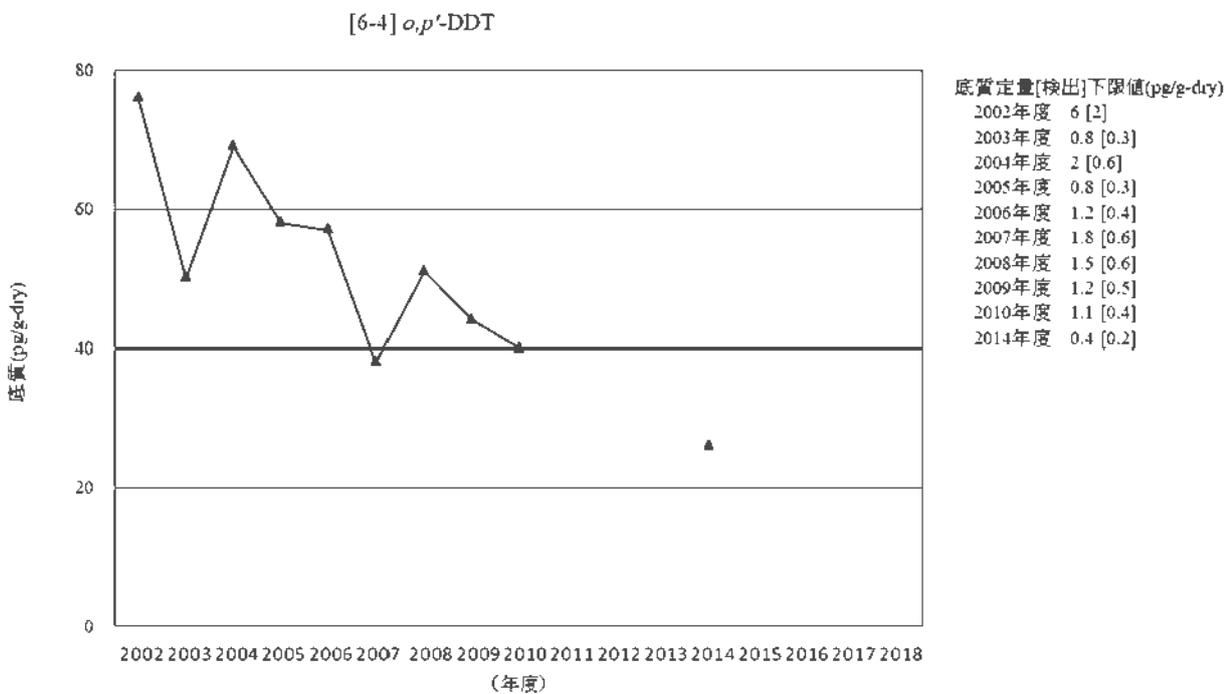


(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-6-4-3 *o,p'*-DDT の水質の経年変化 (幾何平均値)

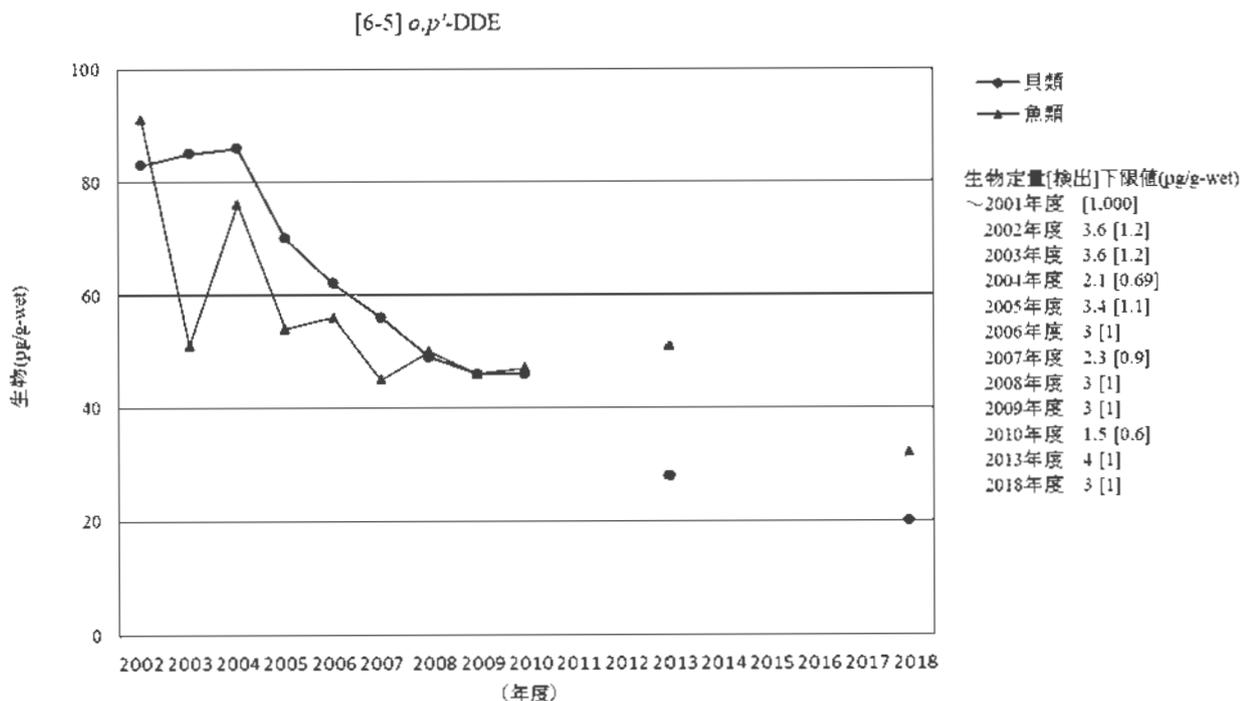
(参考)



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

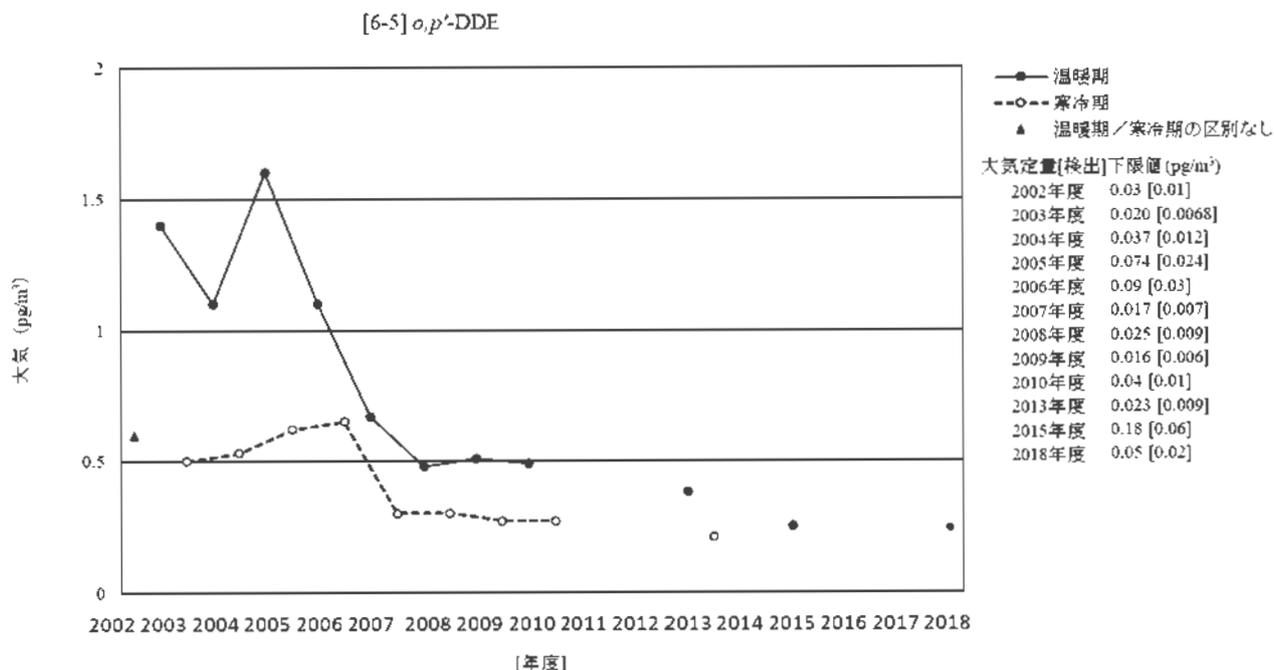
(注2) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-6-4-4 *o,p'*-DDT の底質の経年変化 (幾何平均値)



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2010年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2011年度、2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

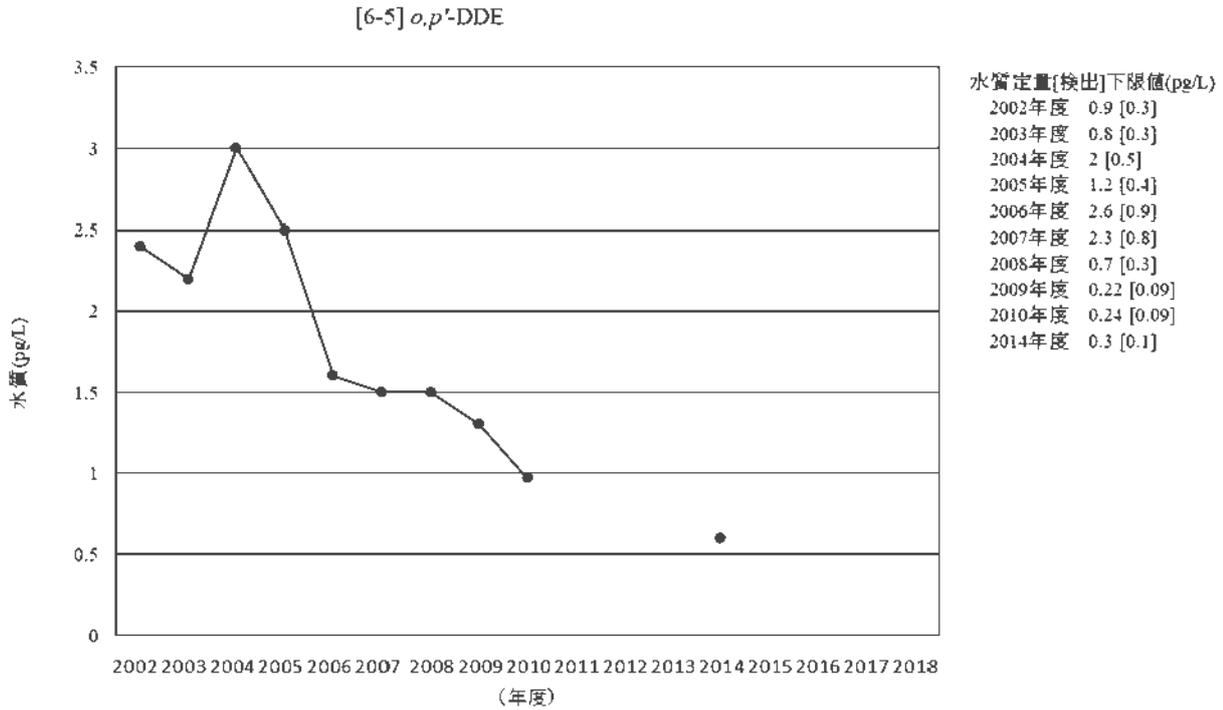
図 3-6-5-1 *o,p'*-DDE の生物の経年変化 (幾何平均値)



- (注) 2011年度、2012年度、2014年度、2016年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 3-6-5-2 *o,p'*-DDE の大気経年変化 (幾何平均値)

(参考)

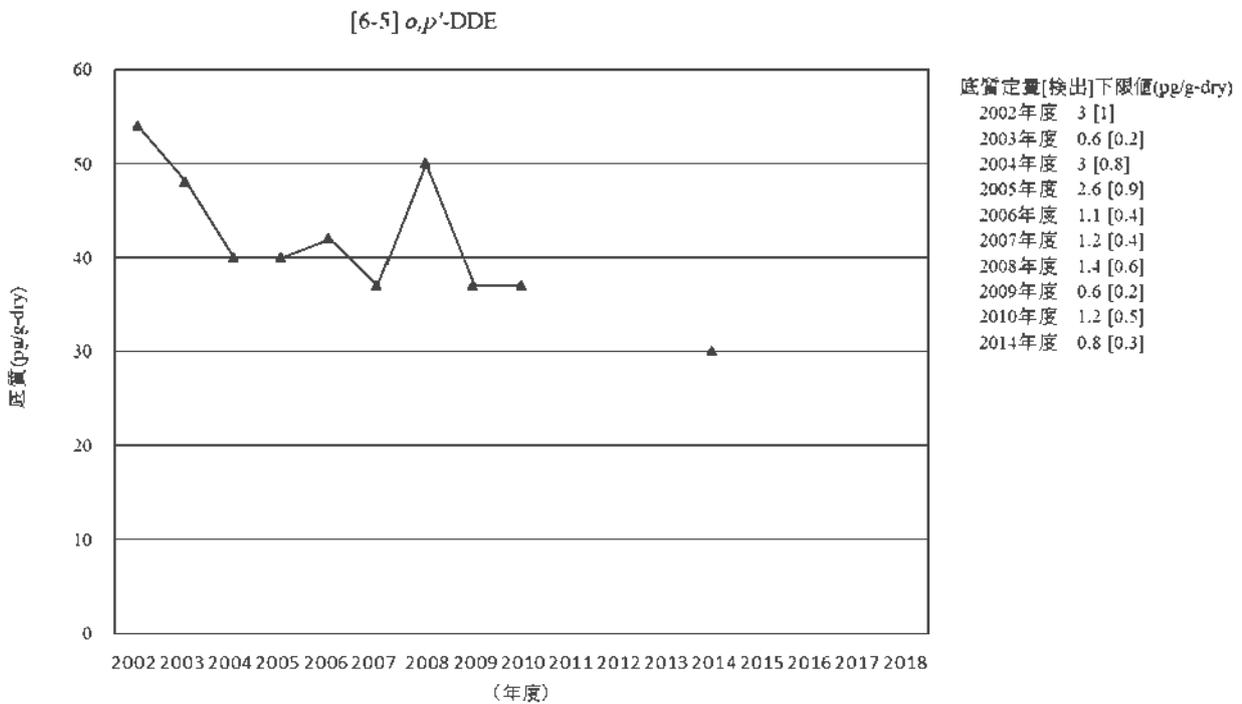


(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-6-5-3 *o,p'*-DDE の水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

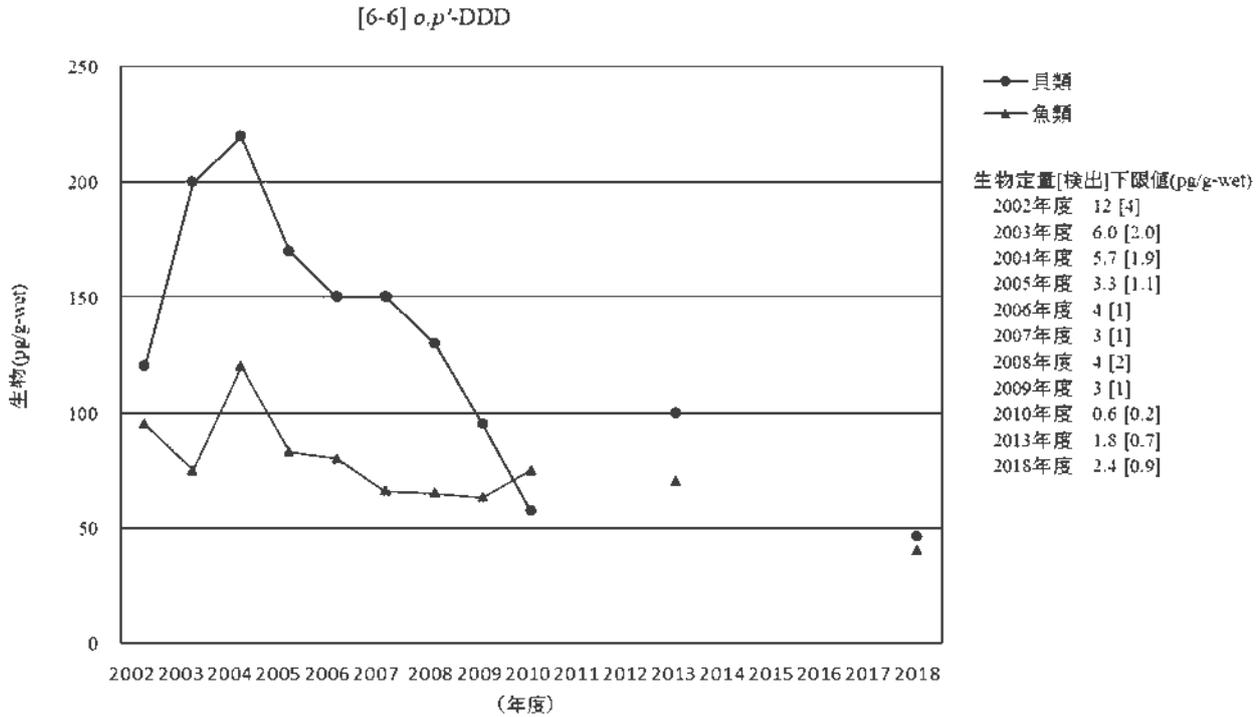


(注1) *o,p'*-DDT の底質については、継続的調査において2001年度以前の調査を実施していない。

(注2) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

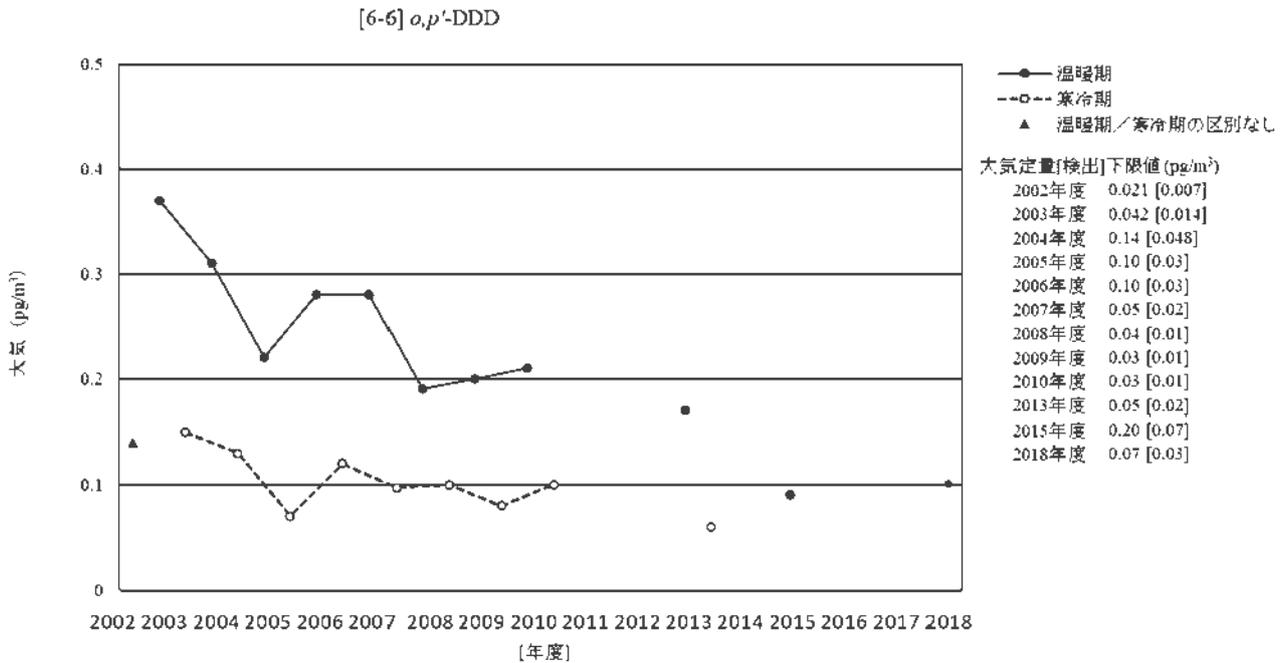
(注3) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-6-5-4 *o,p'*-DDE の底質の経年変化 (幾何平均値)



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2010年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2011年度、2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

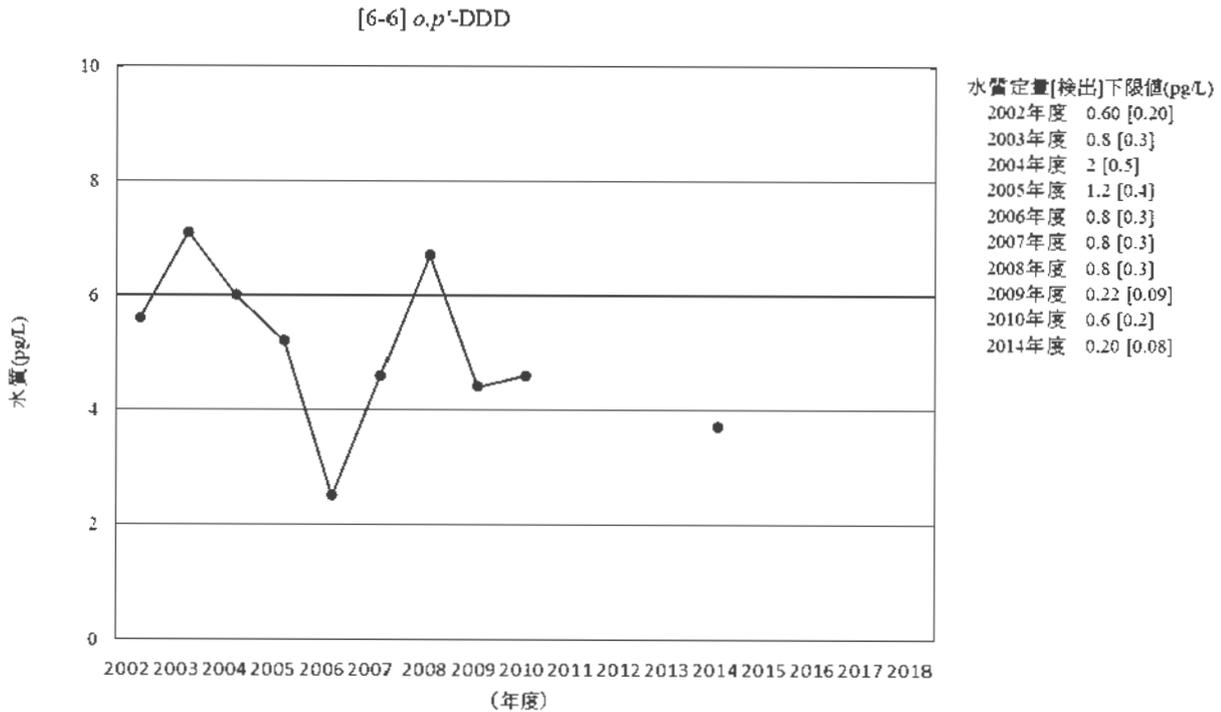
図 3-6-6-1 *o,p'*-DDD の生物の経年変化 (幾何平均値)



- (注) 2011年度、2012年度、2014年度、2016年度及び2017年度は調査を実施していない。

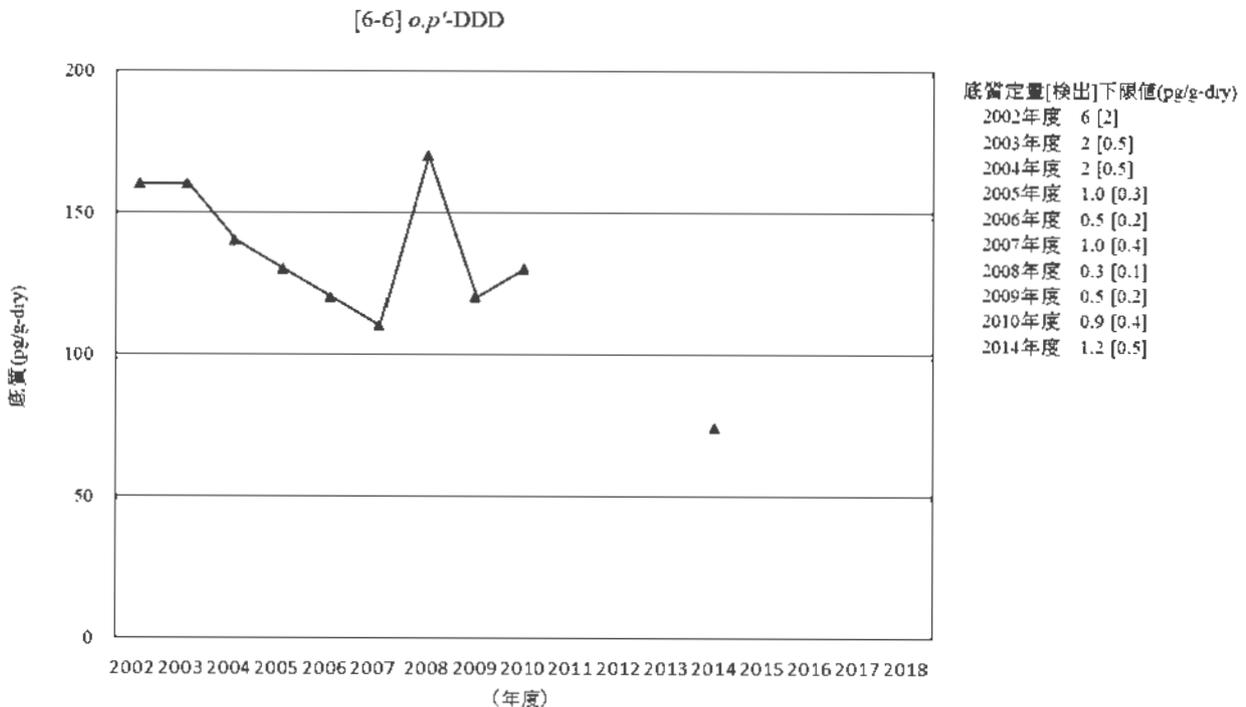
図 3-6-6-2 *o,p'*-DDD の大気の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-6-6-3 *o,p'*-DDD の水質の経年変化 (幾何平均値)



(注1) *o,p'*-DDD の底質については、継続的調査において2001年度以前の調査を実施していない。  
 (注2) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注3) 2011年度から2013年度及び2015年度から2018年度は調査を実施していない。

図 3-6-6-4 *o,p'*-DDD の底質の経年変化 (幾何平均値)

## [7] クロルデン類 (参考)

### ・調査の経緯及び実施状況

クロルデンは、殺虫剤として利用されたが、1968年に農薬取締法に基づく登録が失効した。しかし、クロルデン類はその後木材加工時に用いられ、シロアリ防除のために家屋等にも使用されていた。1986年9月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定された。また、POPs条約においては、2004年に条約が発効された当初から *cis*-クロルデン及び *trans*-クロルデンが条約対象物質に指定されている。

工業的に生産されたクロルデン類の組成は多岐にわたるが、継続的調査では、当初ヘプタクロル、 $\gamma$ -クロルディーン、ヘプタクロルエポキシド、*cis*-クロルデン、*trans*-クロルデン、オキシクロルデン（クロルデン代謝物）、*cis*-ノナクロル（農薬として未登録）及び *trans*-ノナクロル（農薬として未登録）の8種類を調査対象物質とした。1983年度以降は、1982年度精密環境調査において特に検出頻度が高かった5物質（*cis*-クロルデン、*trans*-クロルデン、オキシクロルデン、*cis*-ノナクロル及び *trans*-ノナクロル）を調査対象物質に選定し、調査を実施している。

2001年度までの継続的調査において、「生物モニタリング」<sup>ii)</sup>で1983年度から2001年度の全期間にわたって生物（貝類、魚類及び鳥類）について調査を実施している。また、「水質・底質モニタリング」<sup>i)</sup>で *cis*-クロルデン、*trans*-クロルデン、*cis*-ノナクロル及び *trans*-ノナクロルについて、水質は1986年度から1998年度まで、底質は1986年度から2001年度の全期間にわたって調査を実施している。

2002年度以降のモニタリング調査においては、*cis*-クロルデン、*trans*-クロルデン、オキシクロルデン、*cis*-ノナクロル及び *trans*-ノナクロルについて、2002年度から2013年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2016年度に生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2017年度に水質、底質の調査を実施している。

2018年度は調査を実施していないため、参考として以下に、2017年度までの調査結果を示す。

### ・2017年度までの調査結果 (参考)

#### 【*cis*-クロルデン及び *trans*-クロルデン】

##### <水質>

○2002年度から2017年度における水質についての *cis*-クロルデン及び *trans*-クロルデンの検出状況

<i>cis</i> -クロルデン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
水質 (pg/L)	2002	42	32	880	2.5	0.9 [0.3]	114/114	38/38
	2003	69	51	920	12	3 [0.9]	36/36	36/36
	2004	92	87	1,900	10	6 [2]	38/38	38/38
	2005	53	54	510	6	4 [1]	47/47	47/47
	2006	31	26	440	5	5 [2]	48/48	48/48
	2007	23	22	680	nd	4 [2]	47/48	47/48
	2008	29	29	480	2.9	1.6 [0.6]	48/48	48/48
	2009	29	26	710	4.4	1.1 [0.4]	49/49	49/49
	2010	19	14	170	nd	11 [4]	47/49	47/49
	2011	20	16	500	3.8	1.4 [0.6]	49/49	49/49
	2012	43	37	350	10	1.6 [0.6]	48/48	48/48
	2013	18	16	260	2.9	2.7 [0.9]	48/48	48/48
	2017	19	19	210	2	2 [1]	47/47	47/47

<i>trans</i> -クロルデン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	33	24	780	3.1	1.5 [0.5]	114/114	38/38
	2003	34	30	410	6	5 [2]	36/36	36/36
	2004	32	26	1,200	5	5 [2]	38/38	38/38
	2005	25	21	200	3	4 [1]	47/47	47/47
	2006	24	16	330	tr(4)	7 [2]	48/48	48/48
	2007	16	20	580	nd	2.4 [0.8]	47/48	47/48
	2008	23	22	420	3	3 [1]	48/48	48/48
	2009	23	18	690	3.0	0.8 [0.3]	49/49	49/49
	2010	15	tr(11)	310	nd	13 [4]	44/49	44/49
	2011	16	13	470	3.2	1.0 [0.4]	49/49	49/49
	2012	41	33	300	12	2.5 [0.8]	48/48	48/48
	2013	15	13	200	3	3 [1]	48/48	48/48
	2017	15	15	150	tr(2)	3 [1]	47/47	47/47

(注1) ※：2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2014年度から2016年度は調査を実施していない。

### <底質>

#### ○2002年度から2017年度における底質についての *cis*-クロルデン及び *trans*-クロルデンの検出状況

<i>cis</i> -クロルデン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	140	98	18,000	1.8	0.9 [0.3]	189/189	63/63
	2003	190	140	19,000	tr(3.6)	4 [2]	186/186	62/62
	2004	160	97	36,000	4	4 [2]	189/189	63/63
	2005	150	100	44,000	3.3	1.9 [0.64]	189/189	63/63
	2006	100	70	13,000	tr(0.9)	2.4 [0.8]	192/192	64/64
	2007	82	55	7,500	nd	5 [2]	191/192	64/64
	2008	100	63	11,000	tr(2.3)	2.4 [0.9]	192/192	64/64
	2009	84	61	8,600	2.0	0.7 [0.3]	192/192	64/64
	2010	82	62	7,200	tr(4)	6 [2]	64/64	64/64
	2011	70	58	4,500	1.7	1.1 [0.4]	64/64	64/64
	2012	69	61	11,000	tr(2.6)	2.9 [1.0]	63/63	63/63
	2013	65	55	5,400	tr(1.9)	2.0 [0.8]	63/63	63/63
	2017	47	36	2,800	nd	4.8 [1.6]	61/62	61/62
<i>trans</i> -クロルデン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
底質 (pg/g-dry)	2002	150	110	16,000	2.1	1.8 [0.6]	189/189	63/63
	2003	130	100	13,000	tr(2.4)	4 [2]	186/186	62/62
	2004	110	80	26,000	3	3 [0.9]	189/189	63/63
	2005	110	81	32,000	3.4	2.3 [0.84]	189/189	63/63
	2006	110	76	12,000	2.2	1.1 [0.4]	192/192	64/64
	2007	82	58	7,500	nd	2.2 [0.8]	191/192	64/64
	2008	110	66	10,000	2.4	2.0 [0.8]	192/192	64/64
	2009	91	68	8,300	2.1	1.7 [0.7]	192/192	64/64
	2010	95	69	8,000	tr(4)	11 [4]	64/64	64/64
	2011	73	64	4,300	3.2	1.3 [0.5]	64/64	64/64
	2012	80	71	13,000	tr(2.9)	4.0 [1.3]	63/63	63/63
	2013	74	65	5,600	2.5	1.8 [0.7]	63/63	63/63
	2017	53	41	3,000	tr(1)	4 [1]	62/62	62/62

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2014年度から2016年度は調査を実施していない。

<生物>

○2002年度から2016年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての *cis*-クロルデン及び *trans*-クロルデンの検出状況

<i>cis</i> -クロルデン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2002	730	1,200	26,000	24	2.4 [0.8]	38/38	8/8
	2003	1,100	1,400	14,000	110	3.9 [1.3]	30/30	6/6
	2004	1,300	1,600	14,000	91	18 [5.8]	31/31	7/7
	2005	1,000	960	13,000	78	12 [3.9]	31/31	7/7
	2006	970	1,100	18,000	67	4 [1]	31/31	7/7
	2007	870	590	19,000	59	5 [2]	31/31	7/7
	2008	750	560	11,000	85	5 [2]	31/31	7/7
	2009	1,200	1,100	16,000	83	4 [2]	31/31	7/7
	2010	1,600	2,300	15,000	67	4 [2]	6/6	6/6
	2011	790	880	3,400	160	3 [1]	4/4	4/4
	2012	710	500	3,500	180	5 [2]	5/5	5/5
	2013	410	410	2,000	75	13 [4]	5/5	5/5
	2016	220	260	500	80	3 [1]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2002	610	550	6,900	57	2.4 [0.8]	70/70	14/14
	2003	510	400	4,400	43	3.9 [1.3]	70/70	14/14
	2004	620	490	9,800	68	18 [5.8]	70/70	14/14
	2005	520	600	8,000	42	12 [3.9]	80/80	16/16
	2006	520	420	4,900	56	4 [1]	80/80	16/16
	2007	430	360	5,200	30	5 [2]	80/80	16/16
	2008	430	340	3,500	36	5 [2]	85/85	17/17
	2009	430	450	3,200	41	4 [2]	90/90	18/18
	2010	450	630	3,400	51	4 [2]	18/18	18/18
	2011	580	660	3,800	79	3 [1]	18/18	18/18
	2012	580	550	3,100	98	5 [2]	19/19	19/19
	2013	540	450	5,700	65	13 [4]	19/19	19/19
	2016	340	440	2,200	67	3 [1]	19/19	19/19
鳥類 (pg/g-wet)	2002	67	180	450	10	2.4 [0.8]	10/10	2/2
	2003	47	120	370	6.8	3.9 [1.3]	10/10	2/2
	2004	39	110	240	tr(5.8)	18 [5.8]	10/10	2/2
	2005	53	120	340	tr(5.8)	12 [3.9]	10/10	2/2
	2006	32	83	250	5	4 [1]	10/10	2/2
	2007	29	83	230	tr(4)	5 [2]	10/10	2/2
	2008	24	87	280	tr(3)	5 [2]	10/10	2/2
	2009	21	48	130	4	4 [2]	10/10	2/2
	2010	27	---	180	4	4 [2]	2/2	2/2
	2011	---	---	6	6	3 [1]	1/1	1/1
	2012	23	---	110	5	5 [2]	2/2	2/2
	2013※※	37	---	140	tr(10)	13 [4]	2/2	2/2
	2016※※	38	---	110	13	3 [1]	2/2	2/2
<i>trans</i> -クロルデン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
貝類 (pg/g-wet)	2002	390	840	2,300	33	2.4 [0.8]	38/38	8/8
	2003	550	840	2,800	69	7.2 [2.4]	30/30	6/6
	2004	560	770	2,800	53	48 [16]	31/31	7/7
	2005	470	660	2,400	40	10 [3.5]	31/31	7/7
	2006	470	580	2,800	41	4 [2]	31/31	7/7
	2007	440	460	1,500	34	6 [2]	31/31	7/7
	2008	360	410	1,300	52	7 [3]	31/31	7/7
	2009	540	560	16,000	48	4 [1]	31/31	7/7
	2010	520	640	5,500	31	3 [1]	6/6	6/6
	2011	490	470	2,900	150	4 [1]	4/4	4/4
	2012	390	310	1,300	140	7 [2]	5/5	5/5
	2013	280	230	1,700	58	16 [5.2]	5/5	5/5
	2016	120	99	330	56	6 [2]	3/3	3/3

<i>trans</i> -クロルデン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
魚類 (pg/g-wet)	2002	190	160	2,700	20	2.4 [0.8]	70/70	14/14
	2003	160	120	1,800	9.6	7.2 [2.4]	70/70	14/14
	2004	200	130	5,200	tr(17)	48 [16]	70/70	14/14
	2005	160	180	3,100	tr(9.8)	10 [3.5]	76/80	16/16
	2006	150	120	2,000	14	4 [2]	80/80	16/16
	2007	130	100	2,100	8	6 [2]	80/80	16/16
	2008	120	71	1,300	14	7 [3]	85/85	17/17
	2009	130	140	1,300	10	4 [1]	90/90	18/18
	2010	120	170	1,100	9	3 [1]	18/18	18/18
	2011	180	240	1,300	20	4 [1]	18/18	18/18
	2012	170	140	1,100	19	7 [2]	19/19	19/19
	2013	160	170	2,700	tr(14)	16 [5.2]	19/19	19/19
	2016	100	110	800	12	6 [2]	19/19	19/19
鳥類 (pg/g-wet)	2002	14	14	26	8.9	2.4 [0.8]	10/10	2/2
	2003	11	12	27	tr(5.9)	7.2 [2.4]	10/10	2/2
	2004	nd	nd	tr(26)	nd	48 [16]	5/10	1/2
	2005	11	12	30	tr(4.5)	10 [3.5]	10/10	2/2
	2006	7	8	17	tr(3)	4 [2]	10/10	2/2
	2007	7	8	19	tr(3)	6 [2]	10/10	2/2
	2008	tr(5)	9	27	nd	7 [3]	7/10	2/2
	2009	6	7	13	tr(3)	4 [1]	10/10	2/2
	2010	4	---	10	tr(2)	3 [1]	2/2	2/2
	2011	---	---	5	5	4 [1]	1/1	1/1
	2012	tr(6)	---	10	tr(4)	7 [2]	2/2	2/2
2013※※	26	---	68	tr(10)	16 [5.2]	2/2	2/2	
2016※※	18	---	46	7	6 [2]	2/2	2/2	

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2013年度以降の結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2014年度及び2015年度は調査を実施していない。

<大気>

○2002年度から2016年度における大気についての *cis*-クロルデン及び *trans*-クロルデンの検出状況

<i>cis</i> -クロルデン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	31	40	670	0.86	0.60 [0.20]	102/102	34/34
	2003 温暖期	110	120	1,600	6.4	0.51 [0.17]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	30	38	220	2.5		34/34	34/34
	2004 温暖期	92	160	1,000	2.3	0.57 [0.19]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	29	49	290	1.2		37/37	37/37
	2005 温暖期	92	120	1,000	3.4	0.16 [0.054]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	16	19	260	1.4		37/37	37/37
	2006 温暖期	82	110	760	2.9	0.13 [0.04]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	19	19	280	2.0		37/37	37/37
	2007 温暖期	90	120	1,100	3.3	0.10 [0.04]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	17	20	230	1.4		36/36	36/36
	2008 温暖期	75	120	790	1.9	0.14 [0.05]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	21	34	200	1.5		37/37	37/37
	2009 温暖期	67	110	790	2.7	0.16 [0.06]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	19	22	180	0.65		37/37	37/37
	2010 温暖期	68	100	700	1.8	0.17 [0.06]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	20	27	130	0.84		37/37	37/37
	2011 温暖期	66	95	700	1.5	1.3 [0.42]	35/35	35/35
2011 寒冷期	20	31	240	tr(0.88)	37/37		37/37	
2012 温暖期	61	98	650	2.9	1.5 [0.51]	36/36	36/36	
2012 寒冷期	10	14	74	nd		35/36	35/36	
2013 温暖期	58	97	580	1.5	0.7 [0.2]	36/36	36/36	
2013 寒冷期	11	15	86	tr(0.5)		36/36	36/36	
2016 温暖期	53	86	810	0.9	0.9 [0.3]	37/37	37/37	
<i>trans</i> -クロルデン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	36	48	820	0.62	0.60 [0.20]	102/102	34/34
	2003 温暖期	130	150	2,000	6.5	0.86 [0.29]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	37	44	290	2.5		34/34	34/34
	2004 温暖期	110	190	1,300	2.2	0.69 [0.23]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	35	60	360	1.5		37/37	37/37
	2005 温暖期	100	130	1,300	3.2	0.34 [0.14]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	19	23	310	1.9		37/37	37/37
	2006 温暖期	96	140	1,200	3.4	0.17 [0.06]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	22	21	350	2.0		37/37	37/37
	2007 温暖期	100	140	1,300	3.8	0.12 [0.05]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	20	24	300	1.5		36/36	36/36
	2008 温暖期	87	130	990	2.5	0.17 [0.06]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	25	41	250	1.8		37/37	37/37
	2009 温暖期	79	120	960	2.6	0.12 [0.05]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	23	30	210	0.68		37/37	37/37
	2010 温暖期	79	120	820	2.0	1.2 [0.4]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	24	34	150	tr(1.0)		37/37	37/37
	2011 温暖期	76	110	810	tr(1.4)	1.6 [0.53]	35/35	35/35
2011 寒冷期	24	37	290	tr(0.70)	37/37		37/37	
2012 温暖期	70	120	780	2.8	2.1 [0.7]	36/36	36/36	
2012 寒冷期	12	18	95	nd		35/36	35/36	
2013 温暖期	64	120	690	1.7	0.8 [0.3]	36/36	36/36	
2013 寒冷期	13	18	110	tr(0.4)		36/36	36/36	
2016 温暖期	61	95	1,100	tr(0.7)	1.0 [0.3]	37/37	37/37	

(注) 2014年度及び2015年度は調査を実施していない。

【オキシクロルデン、*cis*-ノナクロル及び*trans*-ノナクロル】

<水質>

○2002年度から2017年度における水質についてのオキシクロルデン、*cis*-ノナクロル及び*trans*-ノナクロルの検出状況

オキシクロルデン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	2.7	3.5	41	nd	1.2 [0.4]	96/114	35/38
	2003	3	2	39	tr(0.6)	2 [0.5]	36/36	36/36
	2004	3.2	2.9	47	tr(0.7)	2 [0.5]	38/38	38/38
	2005	2.6	2.1	19	nd	1.1 [0.4]	46/47	46/47
	2006	tr(2.5)	tr(2.4)	18	nd	2.8 [0.9]	43/48	43/48
	2007	tr(2)	nd	41	nd	6 [2]	25/48	25/48
	2008	1.9	1.9	14	nd	1.9 [0.7]	40/48	40/48
	2009	2.0	1.9	19	nd	1.1 [0.4]	45/49	45/49
	2010	1.5	1.3	45	nd	0.7 [0.3]	47/49	47/49
	2011	1.9	1.8	34	nd	1.3 [0.5]	44/49	44/49
	2012	2.2	2.3	17	nd	0.9 [0.4]	44/48	44/48
	2013	1.8	1.8	12	nd	0.9 [0.4]	41/48	41/48
2017	nd	nd	12	nd	4 [2]	19/47	19/47	
<i>cis</i> -ノナクロル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
水質 (pg/L)	2002	7.9	6.7	250	0.23	1.8 [0.6]	114/114	38/38
	2003	8.0	7.0	130	1.3	0.3 [0.1]	36/36	36/36
	2004	7.5	6.3	340	0.8	0.6 [0.2]	38/38	38/38
	2005	6.0	5.9	43	0.9	0.5 [0.2]	47/47	47/47
	2006	6.6	5.6	83	1.0	0.8 [0.3]	48/48	48/48
	2007	5.9	6.1	210	nd	2.4 [0.8]	43/48	43/48
	2008	6.5	5.9	130	0.9	0.9 [0.3]	48/48	48/48
	2009	7.1	5.5	210	1.4	0.3 [0.1]	49/49	49/49
	2010	5.4	3.9	40	tr(0.9)	1.3 [0.4]	49/49	49/49
	2011	5.0	4.3	130	0.8	0.6 [0.2]	49/49	49/49
	2012	6.4	5.9	58	1.1	0.8 [0.3]	48/48	48/48
	2013	5.1	4.6	74	tr(0.7)	0.8 [0.3]	48/48	48/48
2017	4.6	4.6	36	tr(0.6)	1.5 [0.6]	47/47	47/47	
<i>trans</i> -ノナクロル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
水質 (pg/L)	2002	30	24	780	1.8	1.2 [0.4]	114/114	38/38
	2003	26	20	450	4	2 [0.5]	36/36	36/36
	2004	25	19	1,100	tr(3)	4 [2]	38/38	38/38
	2005	20	17	150	2.6	2.5 [0.84]	47/47	47/47
	2006	21	16	310	3.2	3.0 [1.0]	48/48	48/48
	2007	17	17	540	tr(2)	5 [2]	48/48	48/48
	2008	18	17	340	1.9	1.6 [0.6]	48/48	48/48
	2009	20	17	530	2.7	1.0 [0.4]	49/49	49/49
	2010	12	11	93	nd	8 [3]	45/49	45/49
	2011	15	12	480	2.6	1.3 [0.5]	49/49	49/49
	2012	30	26	210	7.9	1.5 [0.6]	48/48	48/48
	2013	14	11	170	2.3	1.5 [0.6]	48/48	48/48
2017	13	14	120	tr(2)	3 [1]	47/47	47/47	

(注1) ※：2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2014年度から2016年度は調査を実施していない。

<底質>

○2002年度から2017年度における底質についてのオキシクロルデン、*cis*-ノナクロル及び*trans*-ノナクロルの検出状況

オキシクロルデン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	2.7	1.7	120	nd	1.5 [0.5]	153/189	59/63
	2003	2	2	85	nd	1 [0.4]	158/186	57/62
	2004	tr(2.1)	tr(1.3)	140	nd	3 [0.8]	129/189	54/63
	2005	2.3	tr(1.9)	160	nd	2.0 [0.7]	133/189	51/63
	2006	tr(2.5)	tr(1.7)	280	nd	2.9 [1.0]	141/192	54/64
	2007	tr(2.1)	tr(1.5)	76	nd	2.5 [0.9]	117/192	46/64
	2008	tr(2)	tr(1)	340	nd	3 [1]	110/192	48/64
	2009	2	tr(1)	150	nd	2 [1]	97/192	45/64
	2010	1.7	1.2	60	nd	1.0 [0.4]	56/64	56/64
	2011	tr(1.6)	tr(1.2)	83	nd	2.2 [0.9]	36/64	36/64
	2012	tr(1.4)	tr(1.0)	75	nd	1.7 [0.7]	38/63	38/63
	2013	1.5	1.3	54	nd	1.3 [0.5]	50/63	50/63
	2017	tr(1)	tr(1)	78	nd	3 [1]	41/62	41/62
<i>cis</i> -ノナクロル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
底質 (pg/g-dry)	2002	76	66	7,800	nd	2.1 [0.7]	188/189	63/63
	2003	66	50	6,500	nd	3 [0.9]	184/186	62/62
	2004	53	34	9,400	tr(0.8)	2 [0.6]	189/189	63/63
	2005	56	42	9,900	tr(1.1)	1.9 [0.64]	189/189	63/63
	2006	58	48	5,800	tr(0.6)	1.2 [0.4]	192/192	64/64
	2007	48	35	4,200	nd	1.6 [0.6]	191/192	64/64
	2008	57	42	5,100	1.1	0.6 [0.2]	192/192	64/64
	2009	53	38	4,700	1.4	1.0 [0.4]	192/192	64/64
	2010	53	45	3,600	2.3	0.9 [0.3]	64/64	64/64
	2011	41	38	2,900	nd	1.1 [0.4]	63/64	63/64
	2012	44	35	4,900	tr(1)	3 [1]	63/63	63/63
	2013	41	31	3,100	tr(0.6)	0.7 [0.3]	63/63	63/63
	2017	31	25	1,500	nd	1.7 [0.7]	61/62	61/62
<i>trans</i> -ノナクロル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
底質 (pg/g-dry)	2002	130	83	13,000	3.1	1.5 [0.5]	189/189	63/63
	2003	110	78	11,000	2	2 [0.6]	186/186	62/62
	2004	94	63	23,000	3	2 [0.6]	189/189	63/63
	2005	99	72	24,000	2.4	1.5 [0.54]	189/189	63/63
	2006	100	65	10,000	3.4	1.2 [0.4]	192/192	64/64
	2007	78	55	8,400	tr(1.6)	1.7 [0.6]	192/192	64/64
	2008	91	53	8,400	tr(1.6)	2.2 [0.8]	192/192	64/64
	2009	85	58	7,800	2.0	0.9 [0.3]	192/192	64/64
	2010	80	65	6,200	tr(3)	6 [2]	64/64	64/64
	2011	68	52	4,500	1.7	0.8 [0.3]	64/64	64/64
	2012	69	62	10,000	2.5	2.4 [0.8]	63/63	63/63
	2013	67	54	4,700	2.2	1.2 [0.4]	63/63	63/63
	2017	47	39	2,600	nd	6 [2]	61/62	61/62

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2014年度から2016年度は調査を実施していない。

<生物>

○2002年度から2016年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についてのオキシクロルデン、*cis*-ノナクロル及び*trans*-ノナクロルの検出状況

オキシクロルデン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2002	71	83	5,600	nd	3.6 [1.2]	37/38	8/8
	2003	93	62	1,900	11	8.4 [2.8]	30/30	6/6
	2004	110	100	1,700	14	9.2 [3.1]	31/31	7/7
	2005	99	79	1,400	12	9.3 [3.1]	31/31	7/7
	2006	91	90	2,400	7	7 [3]	31/31	7/7
	2007	70	43	2,200	8	6 [2]	31/31	7/7
	2008	64	55	1,100	7	7 [2]	31/31	7/7
	2009	100	89	820	10	4 [1]	31/31	7/7
	2010	240	390	3,300	11	8 [3]	6/6	6/6
	2011	68	100	260	8	3 [1]	4/4	4/4
	2012	66	80	450	12	3 [1]	5/5	5/5
	2013	42	44	210	8	3 [1]	5/5	5/5
	2016	27	40	43	11	3 [1]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2002	170	140	3,900	16	3.6 [1.2]	70/70	14/14
	2003	150	160	820	30	8.4 [2.8]	70/70	14/14
	2004	160	140	1,500	25	9.2 [3.1]	70/70	14/14
	2005	150	150	1,900	20	9.3 [3.1]	80/80	16/16
	2006	150	120	3,000	28	7 [3]	80/80	16/16
	2007	120	100	1,900	17	6 [2]	80/80	16/16
	2008	130	130	2,200	15	7 [2]	85/85	17/17
	2009	120	99	2,400	23	4 [1]	90/90	18/18
	2010	120	140	1,000	33	8 [3]	18/18	18/18
	2011	140	130	2,300	33	3 [1]	18/18	18/18
	2012	140	180	390	28	3 [1]	19/19	19/19
	2013	130	130	560	31	3 [1]	19/19	19/19
	2016	96	80	950	31	3 [1]	19/19	19/19
鳥類 (pg/g-wet)	2002	640	630	890	470	3.6 [1.2]	10/10	2/2
	2003	760	700	1,300	610	8.4 [2.8]	10/10	2/2
	2004	460	450	730	320	9.2 [3.1]	10/10	2/2
	2005	610	660	860	390	9.3 [3.1]	10/10	2/2
	2006	510	560	720	270	7 [3]	10/10	2/2
	2007	440	400	740	290	6 [2]	10/10	2/2
	2008	560	530	960	290	7 [2]	10/10	2/2
	2009	300	290	540	190	4 [1]	10/10	2/2
	2010	400	---	510	320	8 [3]	2/2	2/2
	2011	---	---	590	590	3 [1]	1/1	1/1
	2012	250	---	360	170	3 [1]	2/2	2/2
	2013※※	2,500	---	3,400	1,900	3 [1]	2/2	2/2
	2016※※	580	---	1,400	240	3 [1]	2/2	2/2
<i>cis</i> -ノナクロル	2002	170	300	870	8.6	1.2 [0.4]	38/38	8/8
	2003	290	260	1,800	48	4.8 [1.6]	30/30	6/6
	2004	320	380	1,800	43	3.4 [1.1]	31/31	7/7
	2005	270	220	1,300	27	4.5 [1.5]	31/31	7/7
	2006	270	180	1,500	31	3 [1]	31/31	7/7
	2007	250	250	1,000	26	3 [1]	31/31	7/7
	2008	210	210	780	33	4 [1]	31/31	7/7
	2009	300	310	10,000	31	3 [1]	31/31	7/7
	2010	280	310	1,300	35	3 [1]	6/6	6/6
	2011	250	280	1,300	77	1.8 [0.7]	4/4	4/4
	2012	200	190	670	52	2 [1]	5/5	5/5
	2013	150	140	900	38	2.2 [0.7]	5/5	5/5
	2016	72	46	220	37	1.4 [0.6]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2002	460	420	5,100	46	1.2 [0.4]	70/70	14/14
	2003	360	360	2,600	19	4.8 [1.6]	70/70	14/14
	2004	430	310	10,000	48	3.4 [1.1]	70/70	14/14
	2005	380	360	6,200	27	4.5 [1.5]	80/80	16/16
	2006	370	330	3,300	33	3 [1]	80/80	16/16
	2007	320	280	3,700	16	3 [1]	80/80	16/16
	2008	350	300	3,200	46	4 [1]	85/85	17/17
	2009	340	340	2,600	27	3 [1]	90/90	18/18
	2010	320	370	2,200	23	3 [1]	18/18	18/18
	2011	440	450	2,900	45	1.8 [0.7]	18/18	18/18
	2012	420	450	2,200	33	2 [1]	19/19	19/19
	2013	430	420	3,000	34	2.2 [0.7]	19/19	19/19
	2016	300	170	1,900	53	1.4 [0.6]	19/19	19/19

<i>cis</i> -ノナクロル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
鳥類 (pg/g-wet)	2002	200	240	450	68	1.2 [0.4]	10/10	2/2
	2003	200	260	660	68	4.8 [1.6]	10/10	2/2
	2004	140	150	240	73	3.4 [1.1]	10/10	2/2
	2005	160	180	370	86	4.5 [1.5]	10/10	2/2
	2006	120	130	270	60	3 [1]	10/10	2/2
	2007	130	140	300	42	3 [1]	10/10	2/2
	2008	140	150	410	37	4 [1]	10/10	2/2
	2009	81	85	160	44	3 [1]	10/10	2/2
	2010	100	---	190	57	3 [1]	2/2	2/2
	2011	---	---	76	76	1.8 [0.7]	1/1	1/1
	2012	75	---	100	56	2 [1]	2/2	2/2
	2013※※	270	---	970	74	2.2 [0.7]	2/2	2/2
2016※※	240	---	770	74	1.4 [0.6]	2/2	2/2	
<i>trans</i> -ノナクロル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
貝類 (pg/g-wet)	2002	450	1,100	1,800	21	2.4 [0.8]	38/38	8/8
	2003	800	700	3,800	140	3.6 [1.2]	30/30	6/6
	2004	780	870	3,400	110	13 [4.2]	31/31	7/7
	2005	700	650	3,400	72	6.2 [2.1]	31/31	7/7
	2006	660	610	3,200	85	3 [1]	31/31	7/7
	2007	640	610	2,400	71	7 [3]	31/31	7/7
	2008	510	510	2,000	94	6 [2]	31/31	7/7
	2009	780	680	33,000	79	3 [1]	31/31	7/7
	2010	790	870	6,000	84	4 [2]	6/6	6/6
	2011	640	680	3,000	200	3 [1]	4/4	4/4
	2012	530	400	1,800	190	4 [1]	5/5	5/5
	2013	380	370	2,000	98	10 [3.4]	5/5	5/5
	2016	200	150	520	97	3 [1]	3/3	3/3
	魚類 (pg/g-wet)	2002	1,000	900	8,300	98	2.4 [0.8]	70/70
2003		920	840	5,800	85	3.6 [1.2]	70/70	14/14
2004		1,100	760	21,000	140	13 [4.2]	70/70	14/14
2005		970	750	13,000	80	6.2 [2.1]	80/80	16/16
2006		940	680	6,900	120	3 [1]	80/80	16/16
2007		800	680	7,900	71	7 [3]	80/80	16/16
2008		860	750	6,900	87	6 [2]	85/85	17/17
2009		810	720	7,400	68	3 [1]	90/90	18/18
2010		800	1,000	4,700	110	4 [2]	18/18	18/18
2011		1,100	1,000	5,000	190	3 [1]	18/18	18/18
2012		1,100	1,300	4,200	140	4 [1]	19/19	19/19
2013	1,100	1,100	7,800	150	10 [3.4]	19/19	19/19	
2016	690	410	3,400	170	3 [1]	19/19	19/19	
鳥類 (pg/g-wet)	2002	890	980	1,900	350	2.4 [0.8]	10/10	2/2
	2003	1,100	1,400	3,700	350	3.6 [1.2]	10/10	2/2
	2004	690	780	1,200	390	13 [4.2]	10/10	2/2
	2005	870	880	2,000	440	6.2 [2.1]	10/10	2/2
	2006	650	620	1,500	310	3 [1]	10/10	2/2
	2007	590	680	1,400	200	7 [3]	10/10	2/2
	2008	740	850	2,600	180	6 [2]	10/10	2/2
	2009	400	430	730	220	3 [1]	10/10	2/2
	2010	510	---	880	290	4 [2]	2/2	2/2
	2011	---	---	400	400	3 [1]	1/1	1/1
	2012	360	---	480	270	4 [1]	2/2	2/2
	2013※※	55	---	170	18	10 [3.4]	2/2	2/2
2016※※	60	---	130	28	3 [1]	2/2	2/2	

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2013年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2014年度及び2015年度は調査を実施していない。

<大気>

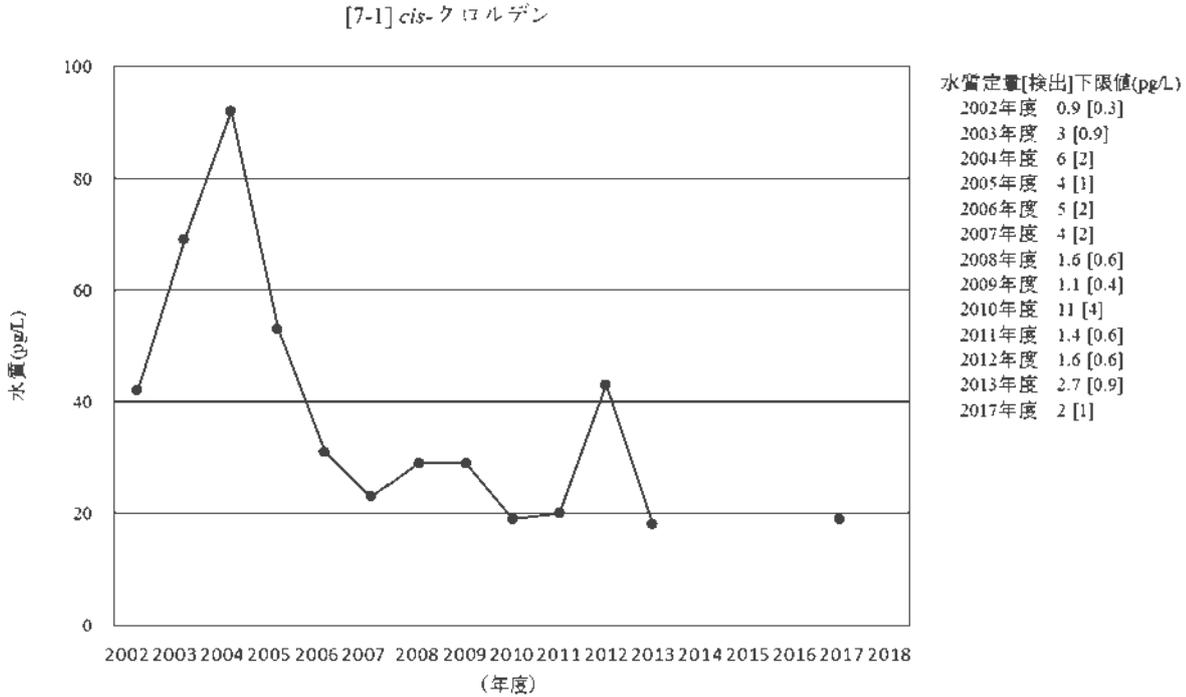
○2002年度から2016年度における大気についてのオキシクロルデン、*cis*-ノナクロル及び*trans*-ノナクロルの検出状況

オキシクロルデン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	0.96	0.98	8.3	nd	0.024 [0.008]	101/102	34/34
	2003 温暖期	2.5	2.7	12	0.41	0.045 [0.015]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	0.87	0.88	3.2	0.41		34/34	34/34
	2004 温暖期	1.9	2.0	7.8	0.41	0.13 [0.042]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	0.80	0.76	3.9	0.27		37/37	37/37
	2005 温暖期	1.9	2.0	8.8	0.65	0.16 [0.054]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	0.55	0.50	2.2	0.27		37/37	37/37
	2006 温暖期	1.8	1.9	5.7	0.47	0.23 [0.08]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	0.54	0.56	5.1	tr(0.13)		37/37	37/37
	2007 温暖期	1.9	1.8	8.6	0.56	0.05 [0.02]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	0.61	0.63	2.4	0.26		36/36	36/36
	2008 温暖期	1.7	1.7	7.1	0.50	0.04 [0.01]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	0.61	0.63	1.8	0.27		37/37	37/37
	2009 温暖期	1.7	1.8	6.5	0.38	0.04 [0.02]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	0.65	0.61	2.7	0.24		37/37	37/37
	2010 温暖期	1.5	1.5	6.2	0.44	0.03 [0.01]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	0.56	0.55	2.3	0.26		37/37	37/37
	2011 温暖期	1.5	1.5	5.2	0.28	0.07 [0.03]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	0.61	0.57	2.6	0.21		37/37	37/37
	2012 温暖期	1.4	1.6	6.7	0.34	0.08 [0.03]	36/36	36/36
2012 寒冷期	0.41	0.38	1.0	0.22	36/36		36/36	
2013 温暖期	1.4	1.5	4.7	0.36	0.03 [0.01]	36/36	36/36	
2013 寒冷期	0.43	0.41	1.0	0.20		36/36	36/36	
2016 温暖期	1.4	1.4	8.9	0.19	0.16 [0.06]	37/37	37/37	
<i>cis</i> -ノナクロル	2002	3.1	4.0	62	0.071	0.030 [0.010]	102/102	34/34
	2003 温暖期	12	15	220	0.81	0.026 [0.0088]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	2.7	3.5	23	0.18		34/34	34/34
	2004 温暖期	10	15	130	0.36	0.072 [0.024]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	2.7	4.4	28	0.087		37/37	37/37
	2005 温暖期	10	14	160	0.30	0.08 [0.03]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	1.6	1.6	34	0.08		37/37	37/37
	2006 温暖期	11	12	170	0.28	0.15 [0.05]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	2.4	2.0	41	tr(0.14)		37/37	37/37
	2007 温暖期	10	14	150	0.31	0.03 [0.01]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	1.6	1.7	22	0.09		36/36	36/36
	2008 温暖期	7.9	12	87	0.18	0.03 [0.01]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	2.0	2.7	19	0.16		37/37	37/37
	2009 温暖期	7.5	10	110	0.33	0.04 [0.02]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	1.9	2.1	18	0.07		37/37	37/37
	2010 温暖期	7.5	10	68	0.23	0.11 [0.04]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	1.8	2.1	13	tr(0.06)		37/37	37/37
	2011 温暖期	7.4	8.8	89	0.24	0.15 [0.051]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	1.9	2.9	28	nd		36/37	36/37
	2012 温暖期	6.9	11	89	0.29	0.12 [0.05]	36/36	36/36
2012 寒冷期	0.98	1.1	10	tr(0.05)	36/36		36/36	
2013 温暖期	6.4	10	72	0.15	0.07 [0.02]	36/36	36/36	
2013 寒冷期	1.0	1.4	12	tr(0.06)		36/36	36/36	
2016 温暖期	6.1	9.9	120	tr(0.13)	0.14 [0.05]	37/37	37/37	

<i>trans</i> -ノナクロル	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	24	30	550	0.64	0.30 [0.10]	102/102	34/34
	2003 温暖期	87	100	1,200	5.1	0.35 [0.12]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	24	28	180	2.1		34/34	34/34
	2004 温暖期	72	120	870	1.9	0.48 [0.16]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	23	39	240	0.95		37/37	37/37
	2005 温暖期	75	95	870	3.1	0.13 [0.044]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	13	16	210	1.2		37/37	37/37
	2006 温暖期	68	91	800	3.0	0.10 [0.03]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	16	15	240	1.4		37/37	37/37
	2007 温暖期	72	96	940	2.5	0.09 [0.03]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	13	15	190	1.1		36/36	36/36
	2008 温暖期	59	91	650	1.5	0.09 [0.03]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	17	25	170	1.3		37/37	37/37
	2009 温暖期	54	81	630	2.2	0.07 [0.03]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	16	19	140	0.75		37/37	37/37
	2010 温暖期	52	78	520	1.7	0.8 [0.3]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	15	17	89	tr(0.7)		37/37	37/37
	2011 温暖期	53	72	550	1.2	1.1 [0.35]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	16	24	210	tr(0.70)		37/37	37/37
	2012 温暖期	49	79	510	2.5	1.2 [0.41]	36/36	36/36
2012 寒冷期	8.1	10	61	tr(0.50)	36/36		36/36	
2013 温暖期	46	78	470	1.2	0.5 [0.2]	36/36	36/36	
2013 寒冷期	8.5	12	75	0.5		36/36	36/36	
2016 温暖期	42	69	650	0.8	0.7 [0.2]	37/37	37/37	

(注) 2014 年度及び 2015 年度は調査を実施していない。

(参考)

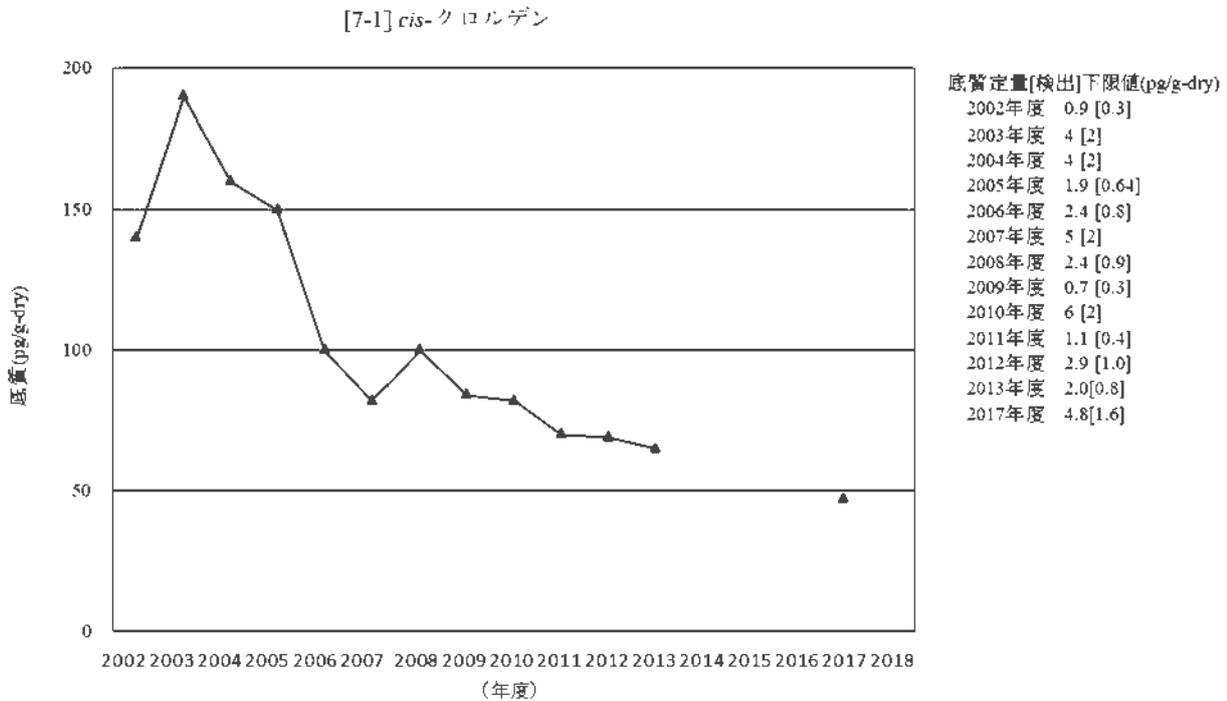


(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2014年度から2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-1-1 cis-クロルデンの水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

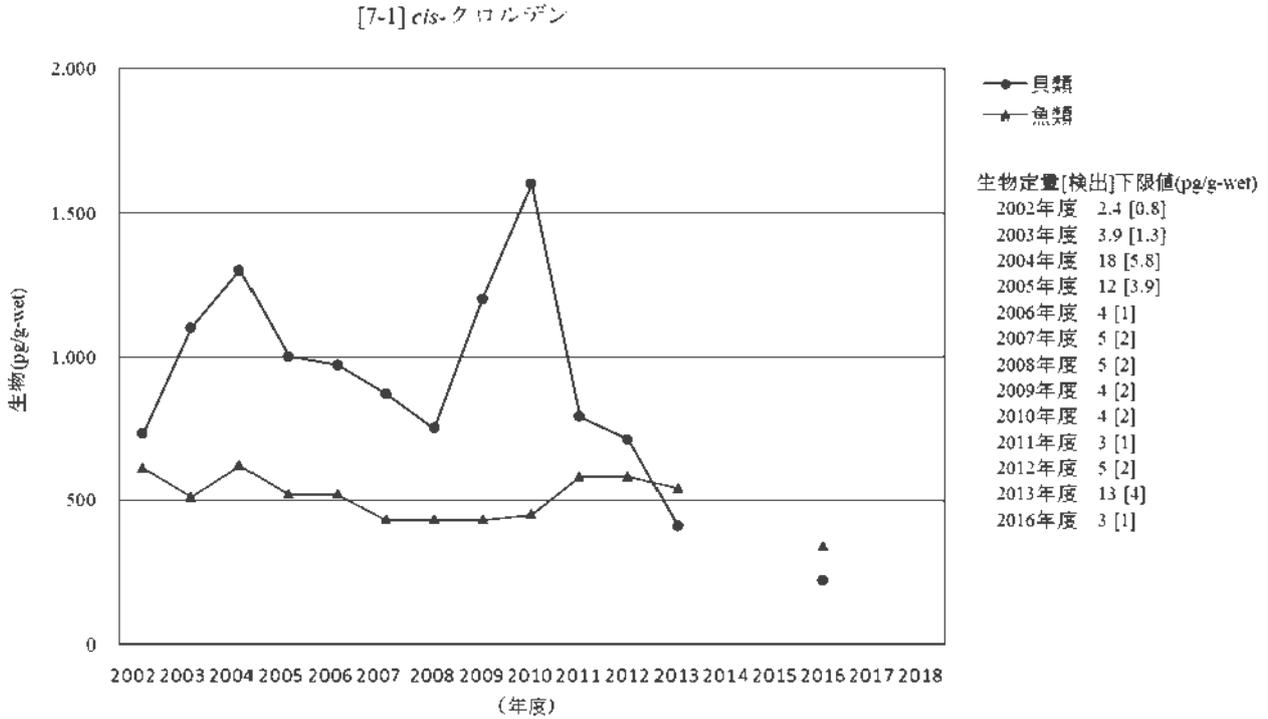


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2014年度から2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-1-2 cis-クロルデンの底質の経年変化 (幾何平均値)

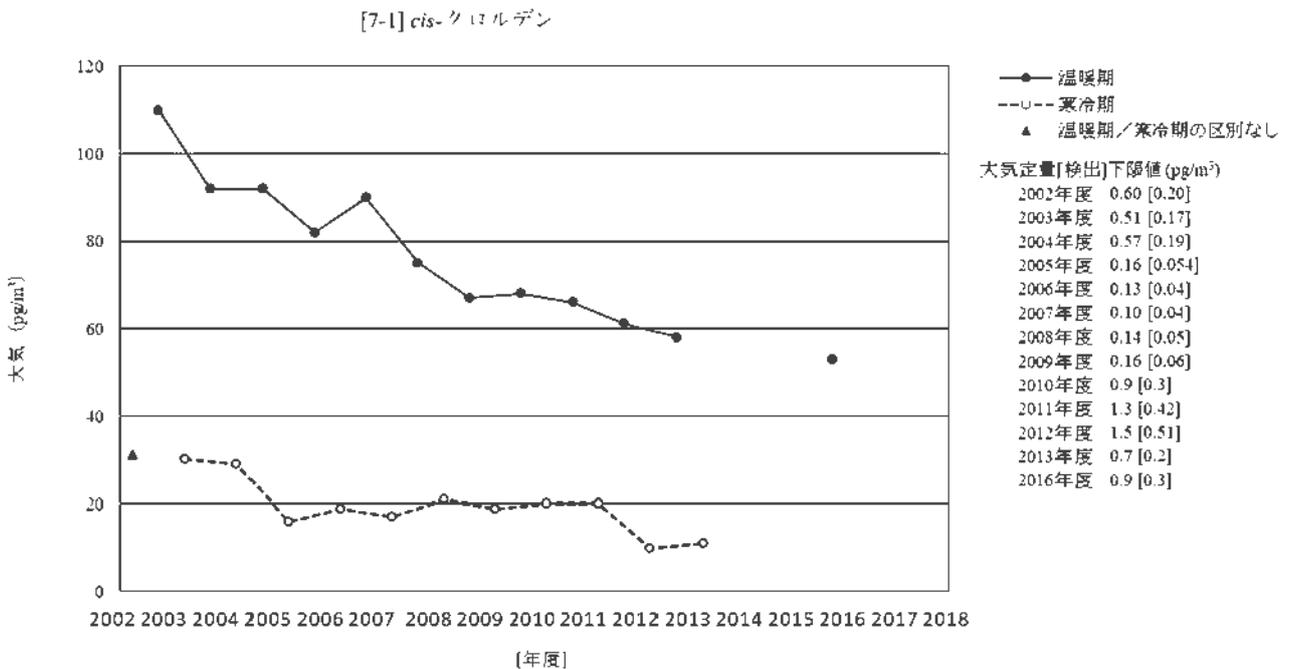
(参考)



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2014年度から2015年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-1-3 *cis*-クロルデンの生物の経年変化 (幾何平均値)

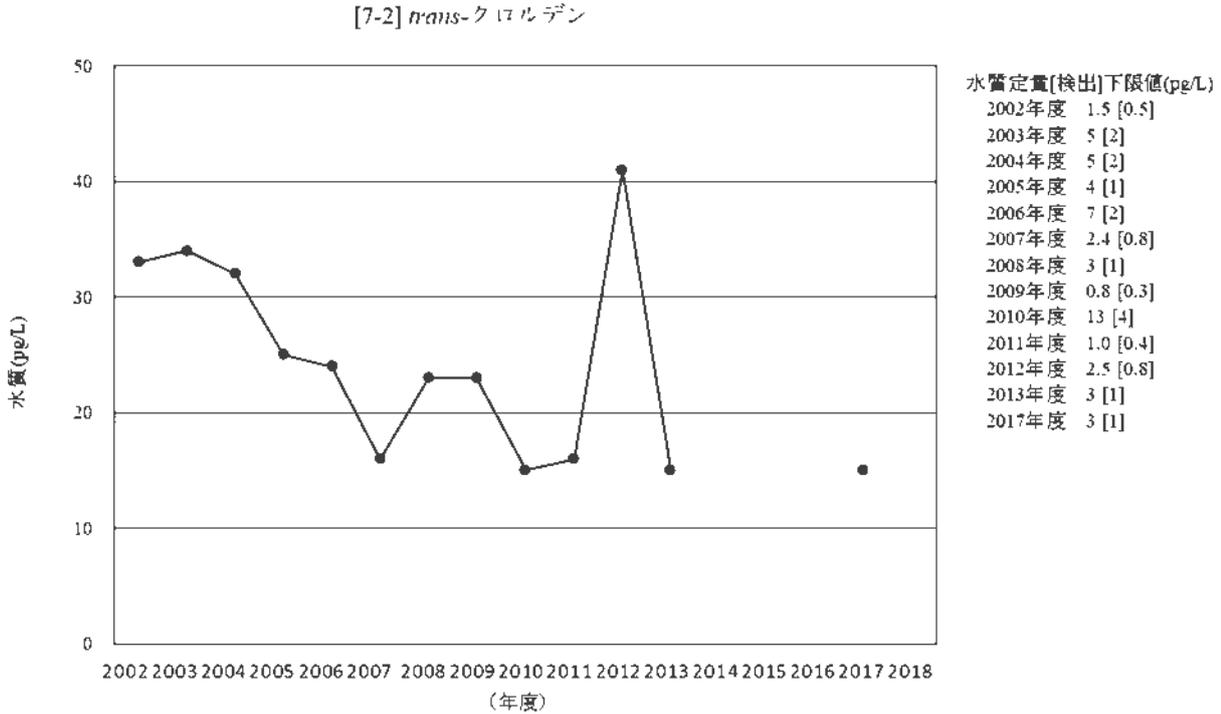
(参考)



- (注) 2014年度から2015年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-1-4 *cis*-クロルデンの大気経年変化 (幾何平均値)

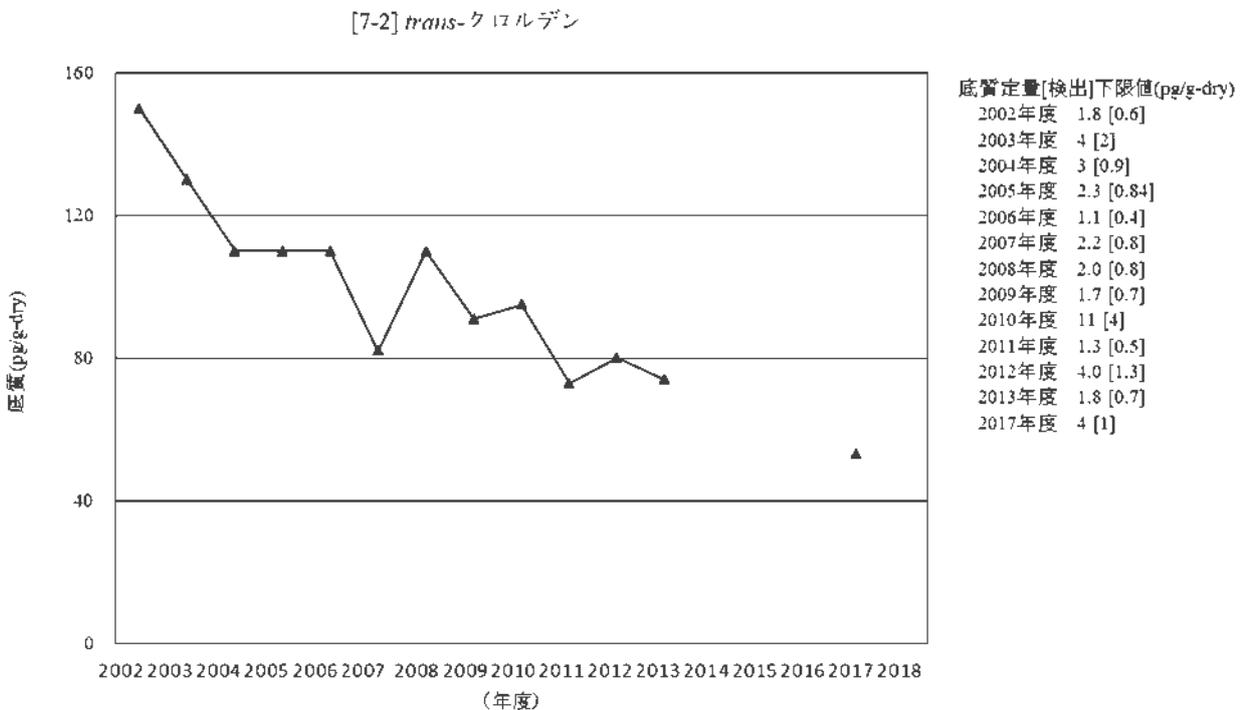
(参考)



(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
(注2) 2014年度から2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-2-1 *trans*-クロルデンの水質の経年変化 (幾何平均値)

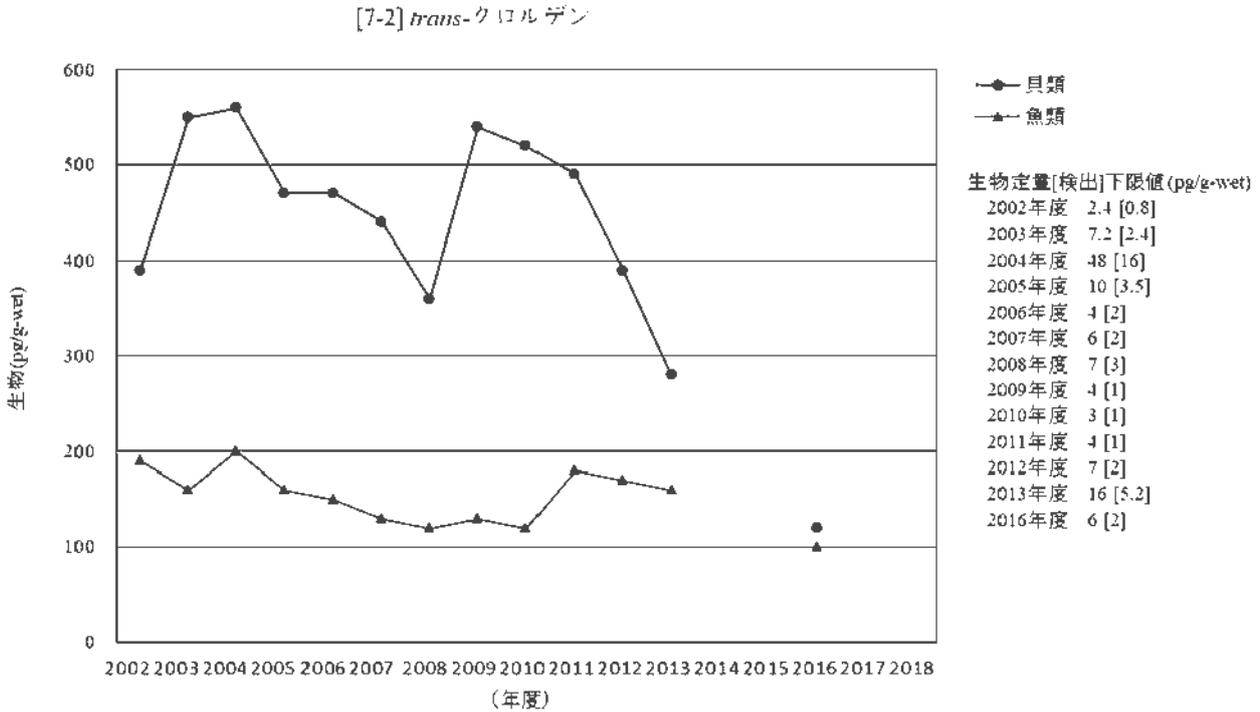
(参考)



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
(注2) 2014年度から2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-2-2 *trans*-クロルデンの底質の経年変化 (幾何平均値)

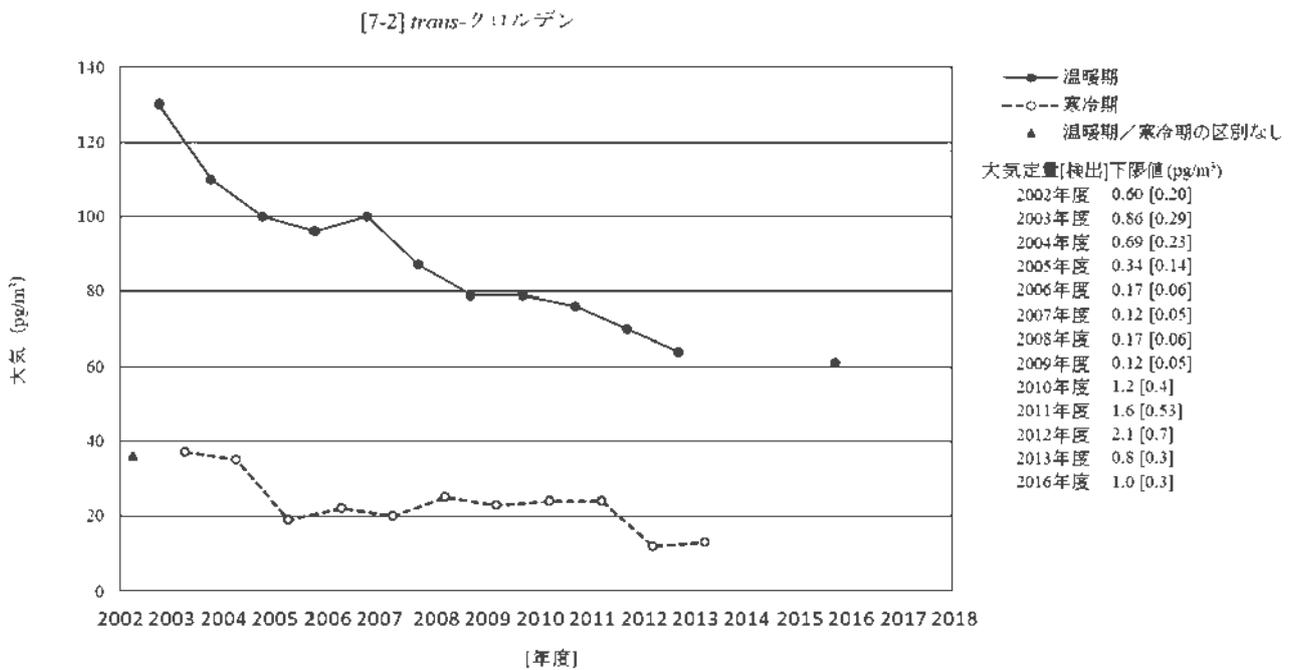
(参考)



- (注 1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注 2) 鳥類は 2013 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから 2012 年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注 3) 2014 年度から 2015 年度、2017 及び 2018 年度年度は調査を実施していない。

図 3-7-2-3 *trans*-クロロゲンの生物の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

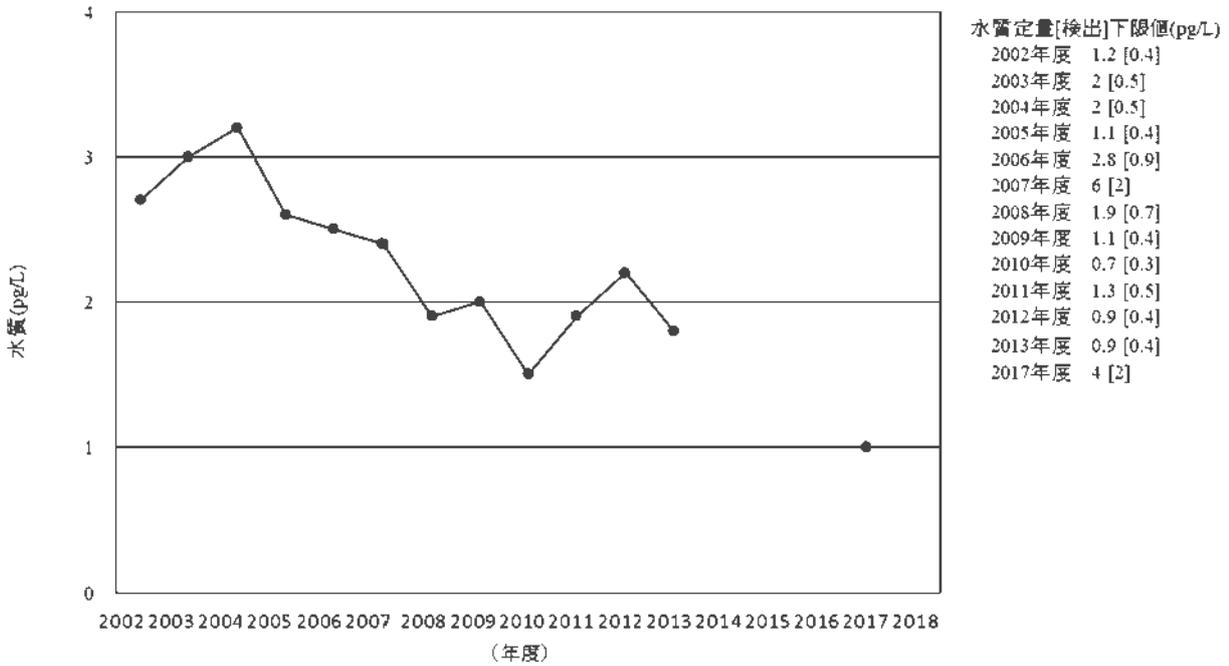


- (注) 2014 年度から 2015 年度、2017 年度及び 2018 年度は調査を実施していない。

図 3-7-2-4 *trans*-クロロゲンの大気の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

[7-3] オキシクロルデン



(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

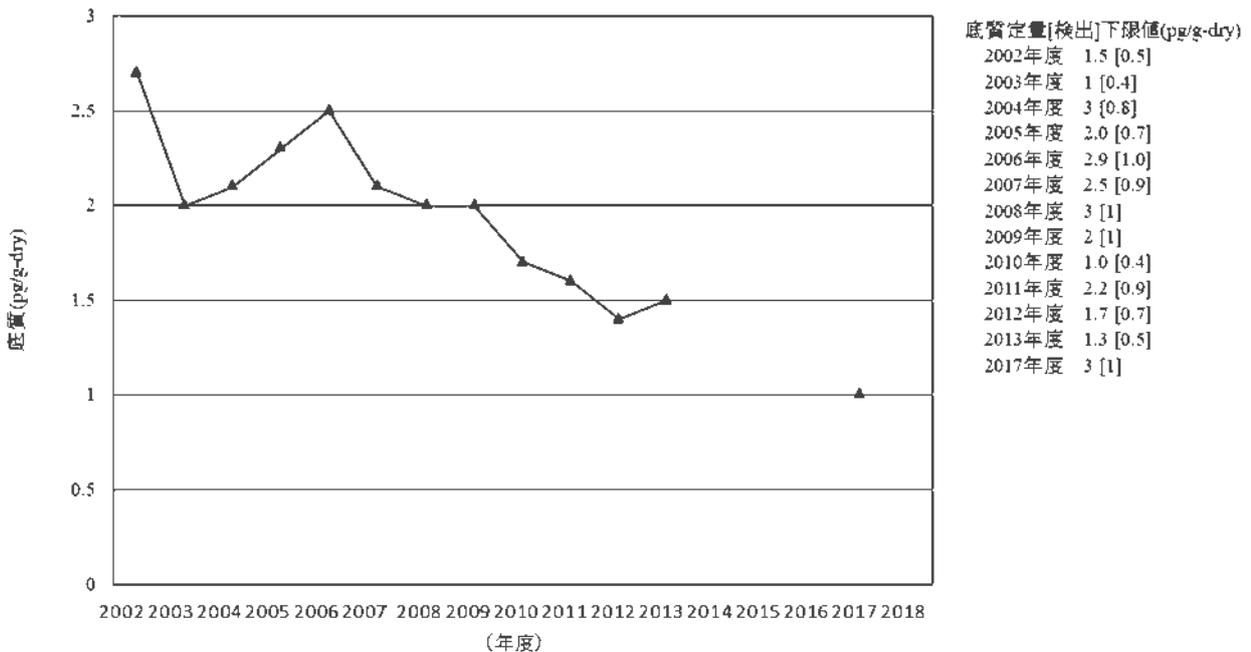
(注2) 2014年度から2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

(注3) 2017年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-7-3-1 オキシクロルデンの水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

[7-3] オキシクロルデン

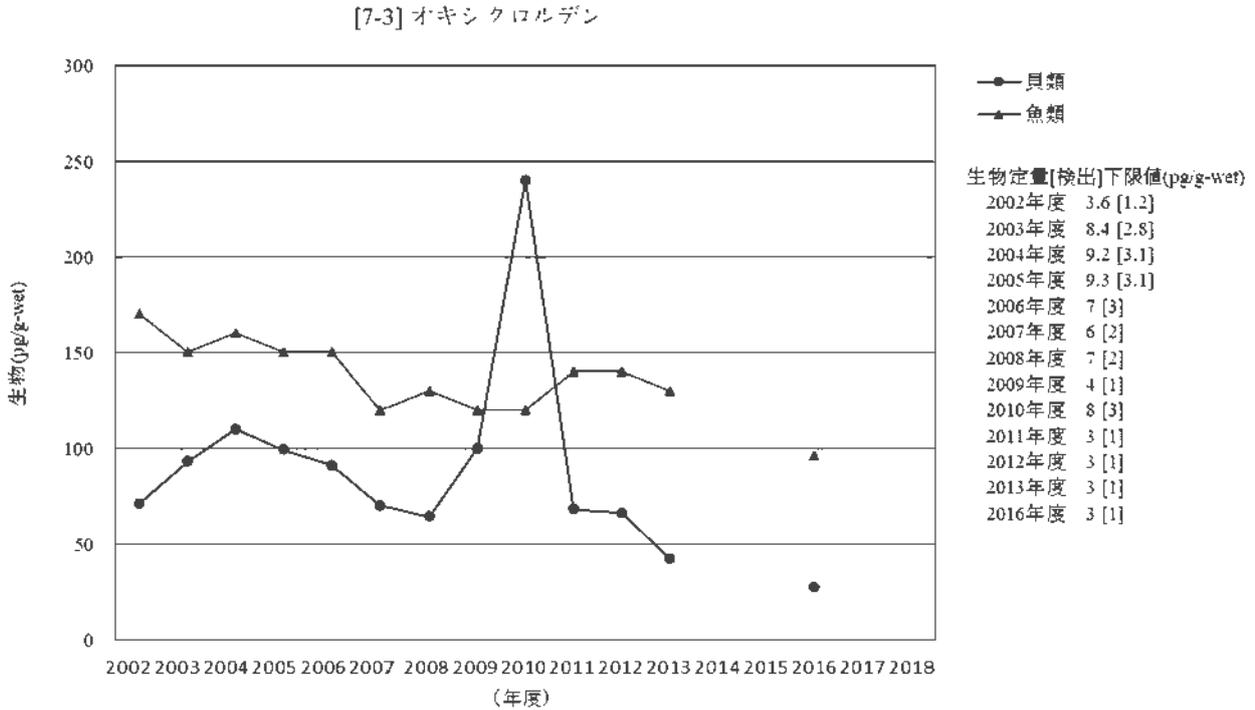


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2014年度から2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-3-2 オキシクロルデンの底質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



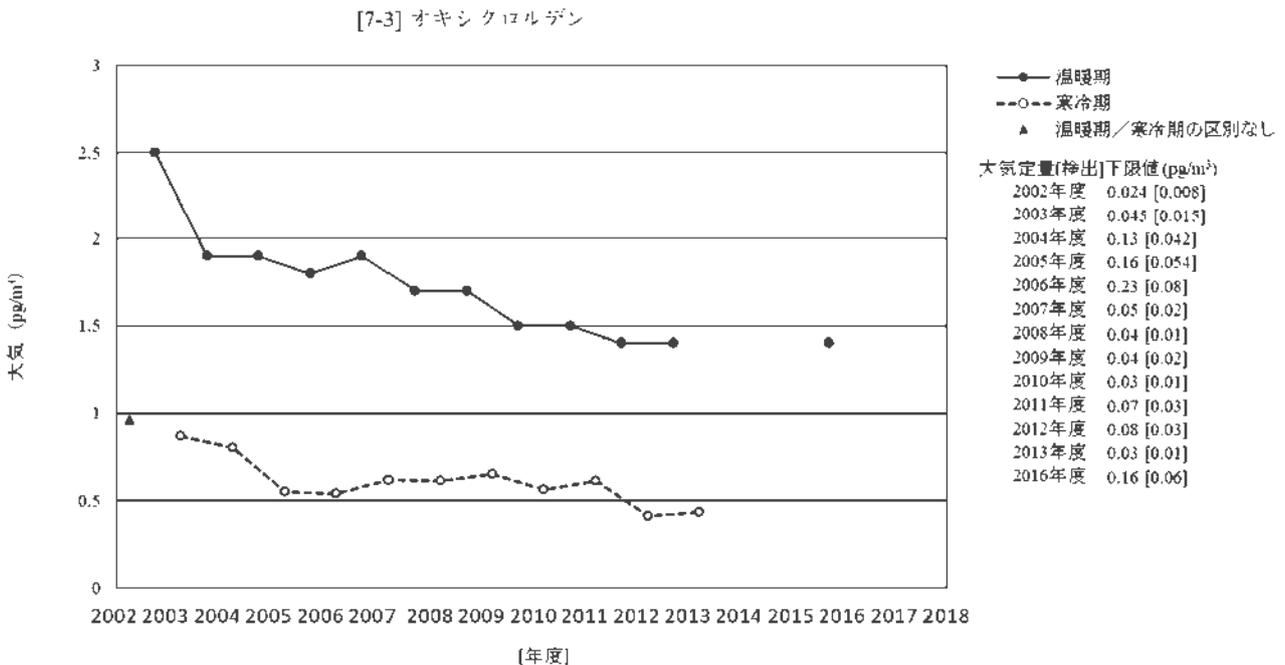
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注3) 2014年度から2015年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-3-3 オキシクロルデンの生物の経年変化 (幾何平均値)

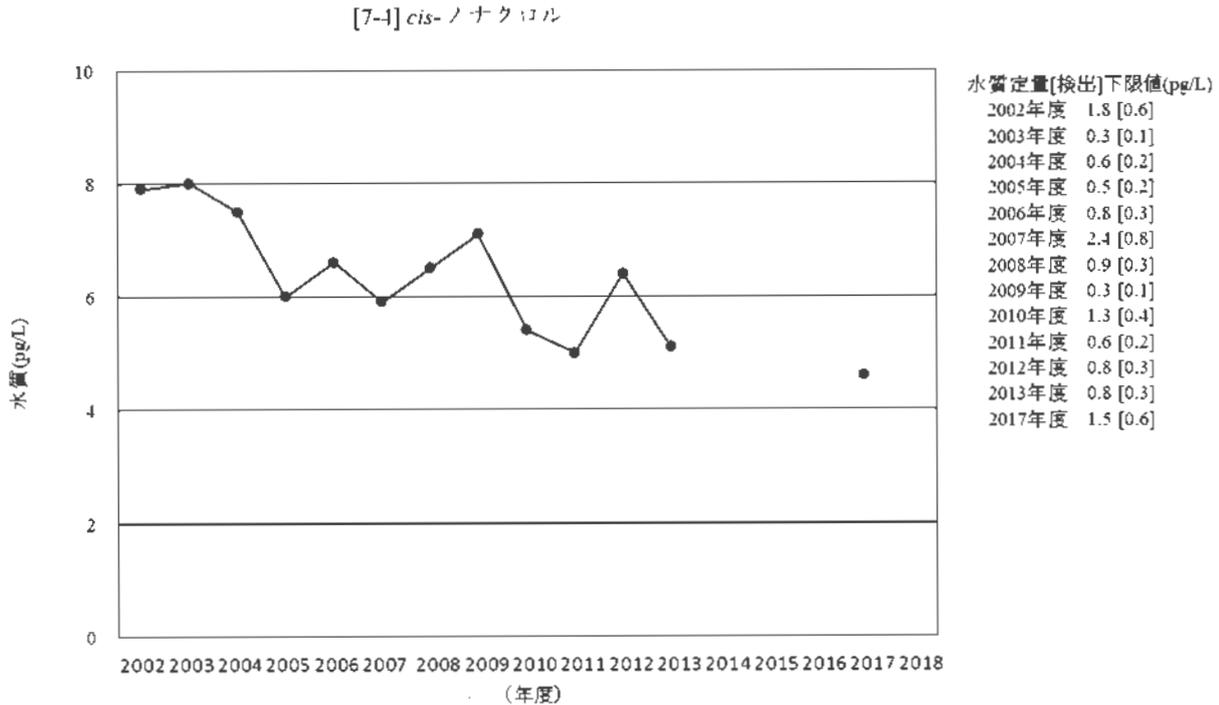
(参考)



(注) 2014年度から2015年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

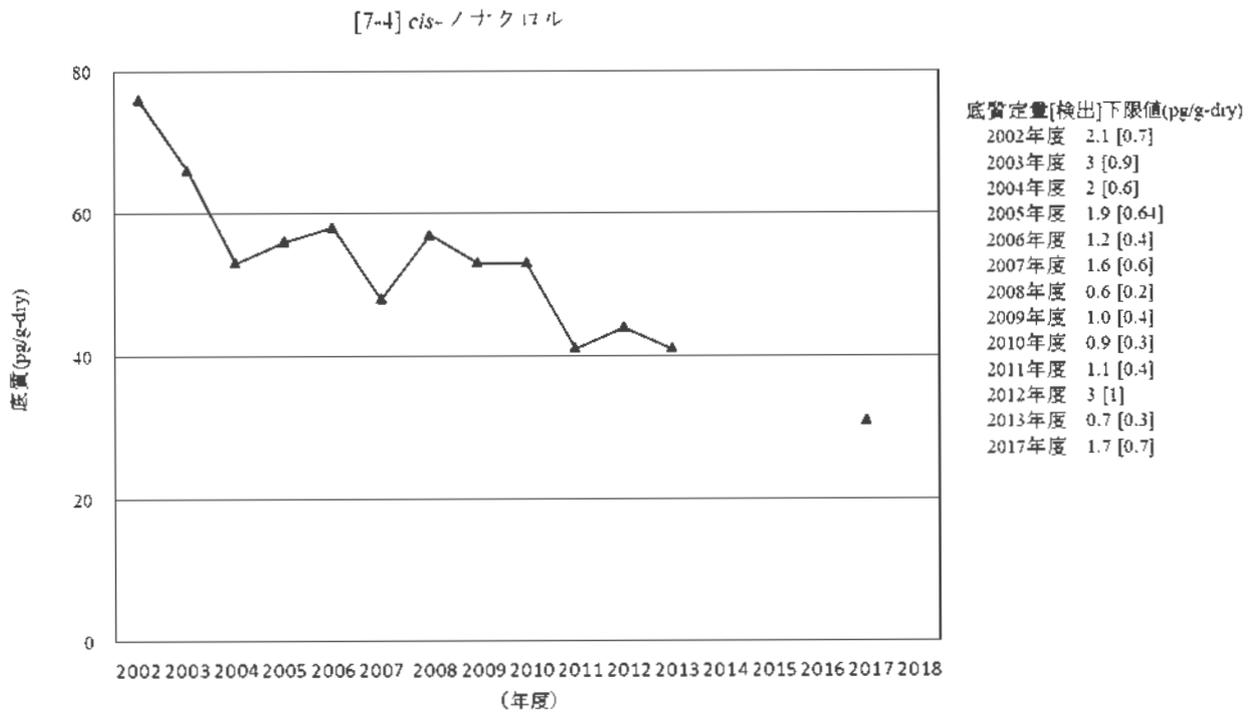
図 3-7-3-4 オキシクロルデンの大気経年変化 (幾何平均値)

(参考)



(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2014年度から2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

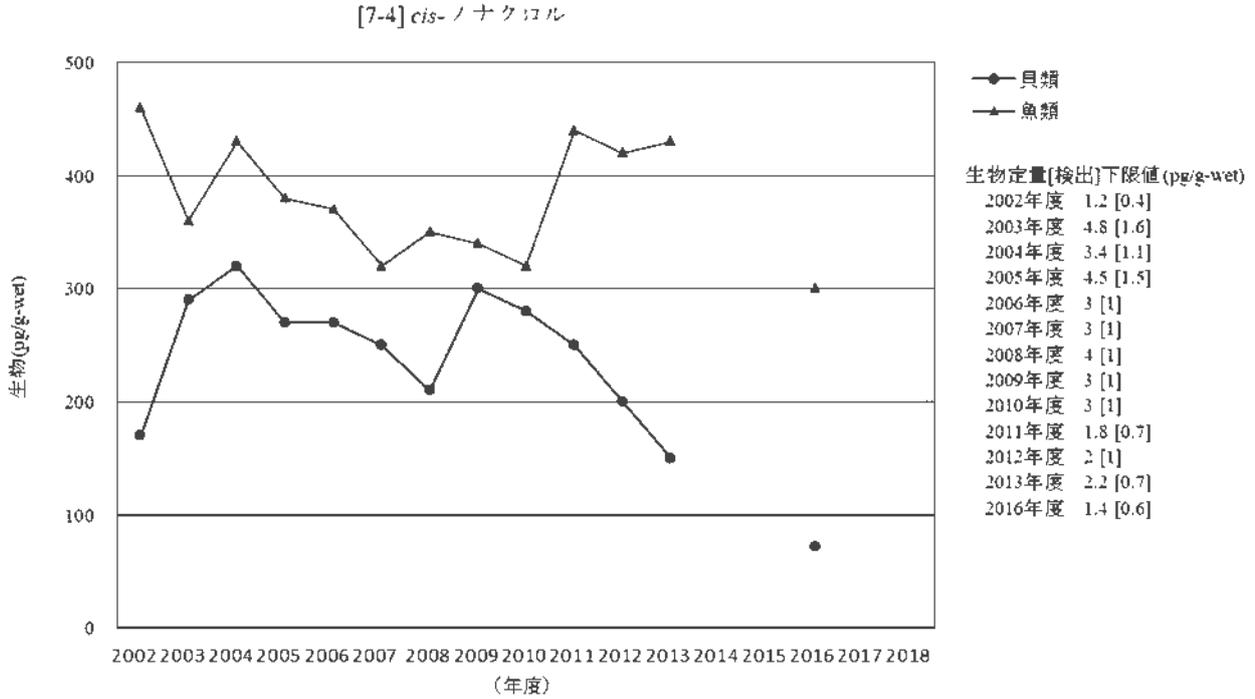
図 3-7-4-1 cis-ノナクロルの水質の経年変化 (幾何平均値)



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2014年度から2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-4-2 cis-ノナクロルの底質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



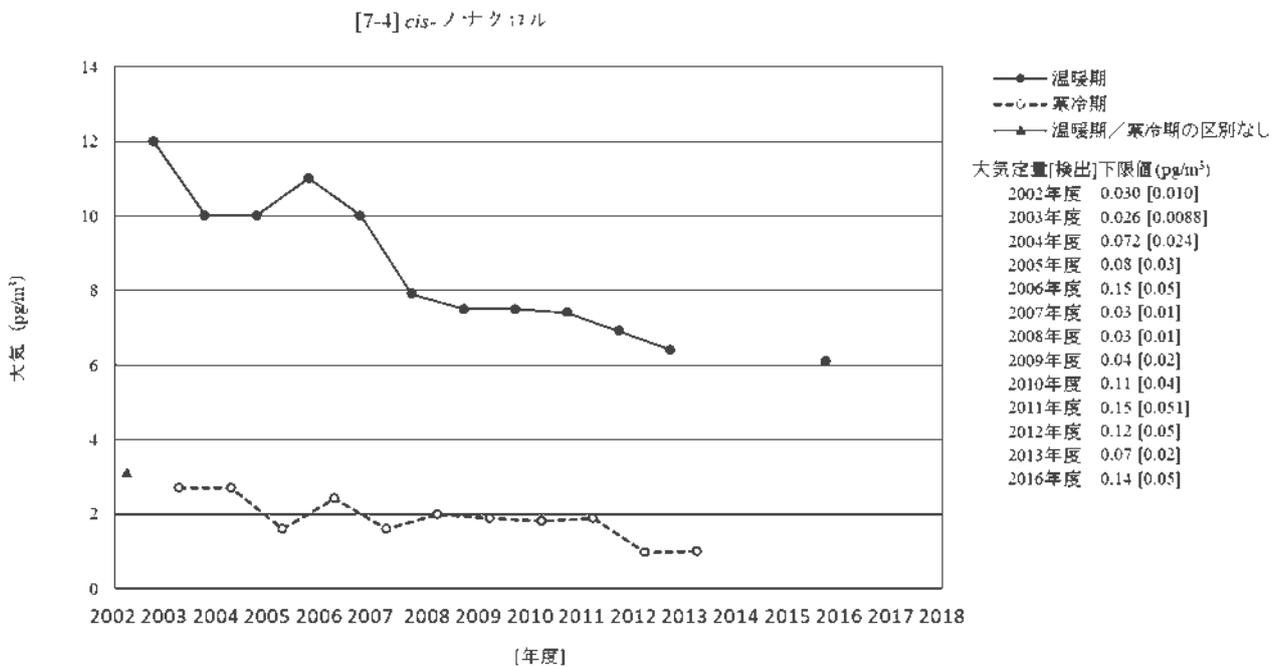
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注3) 2014年度から2015年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-4-3 *cis*-ノナクロルの生物の経年変化 (幾何平均値)

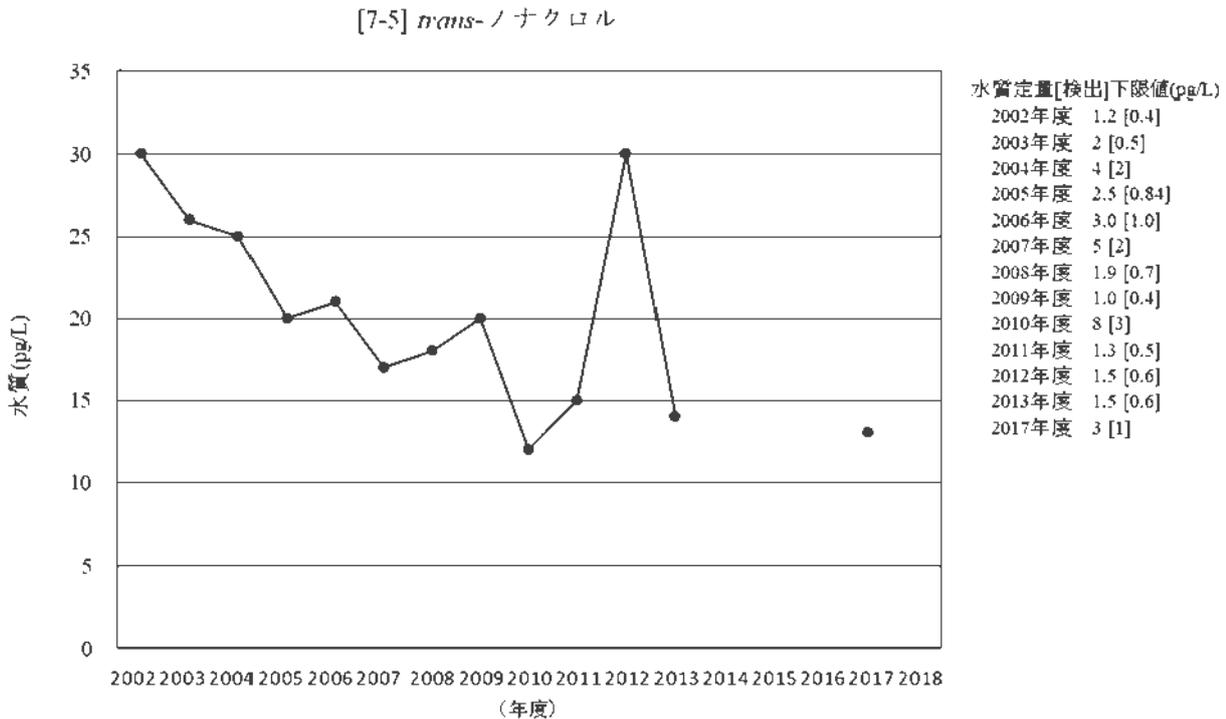
(参考)



(注) 2014年度から2015年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-4-4 *cis*-ノナクロルの大気経年変化 (幾何平均値)

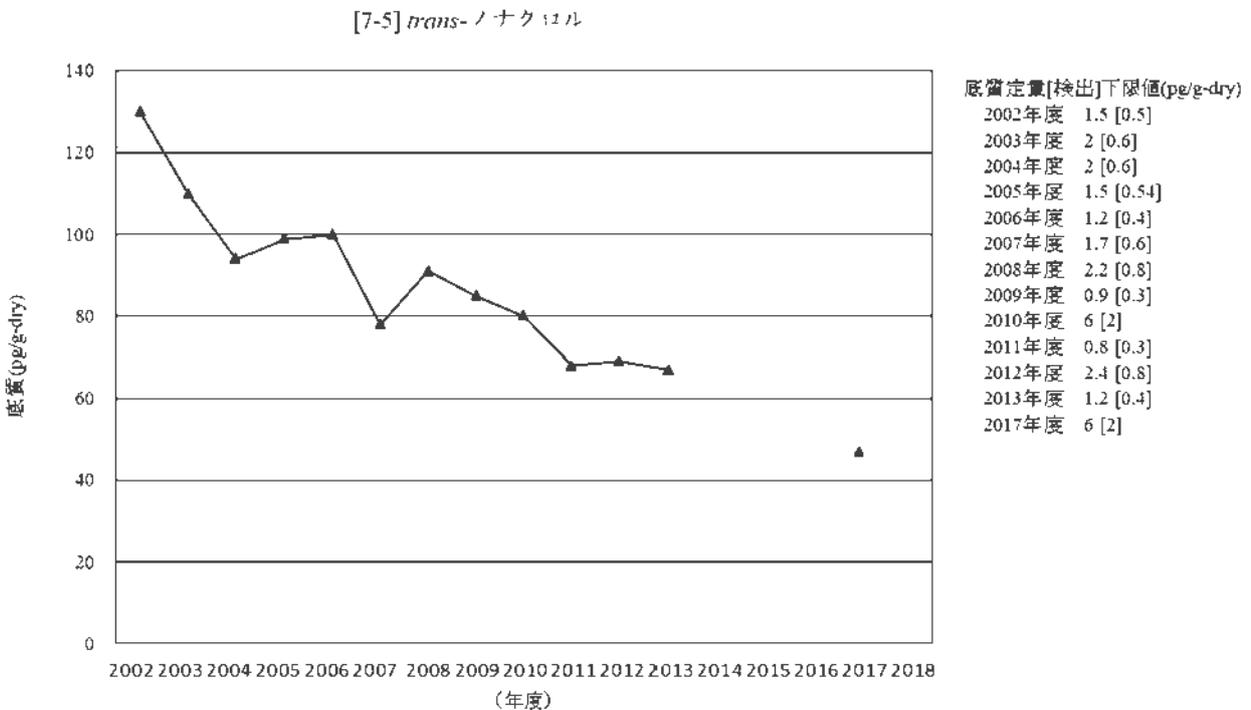
(参考)



(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
(注2) 2014年度から2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-5-1 *trans*-ノナクロルの水質の経年変化 (幾何平均値)

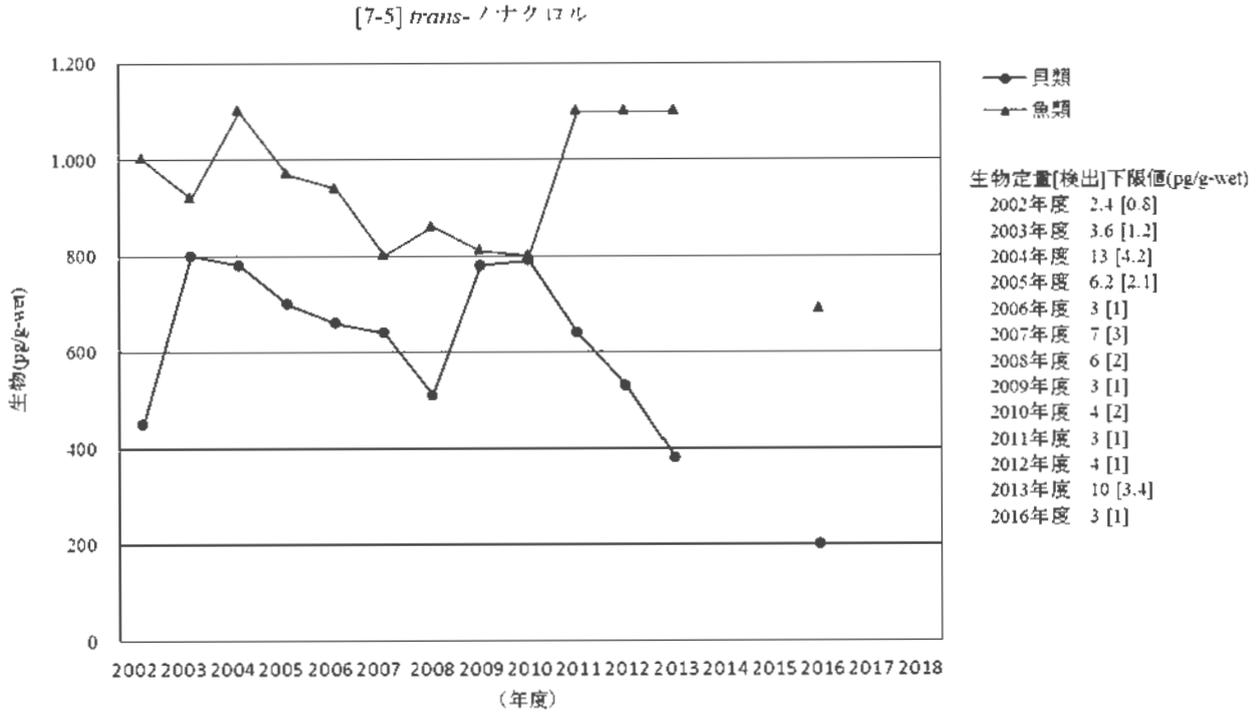
(参考)



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
(注2) 2014年度から2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-5-2 *trans*-ノナクロルの底質の経年変化 (幾何平均値)

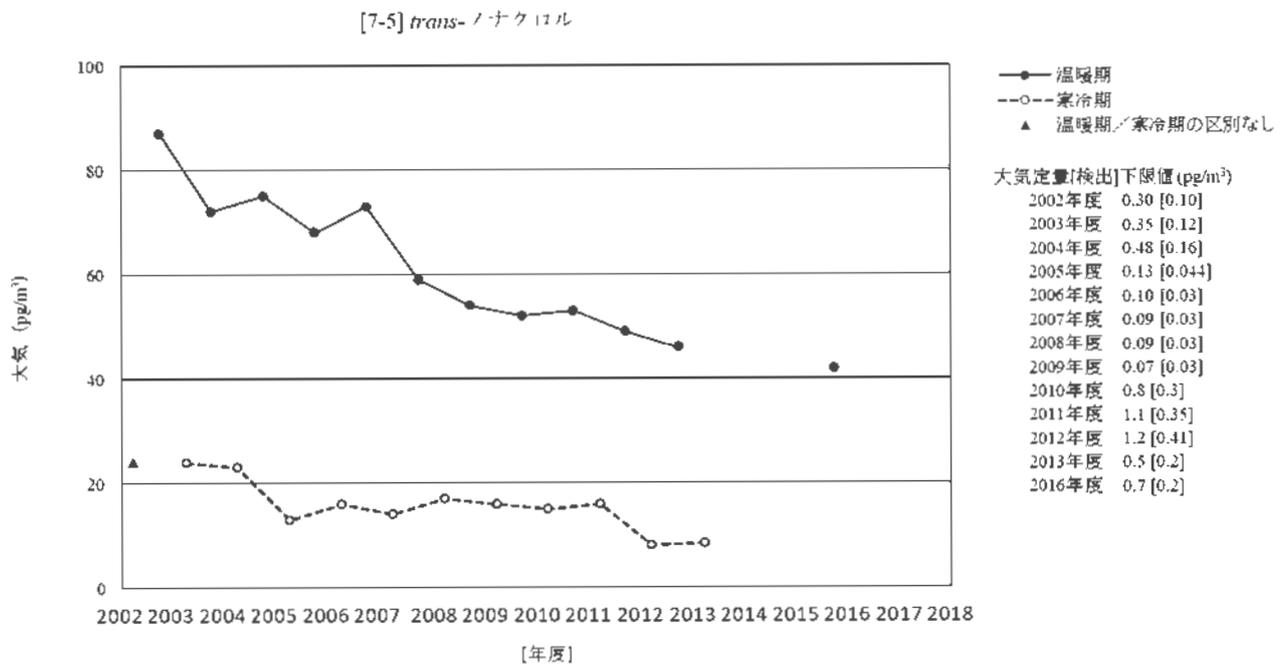
(参考)



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2014年度から2015年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-5-3 *trans*-ノナクロルの生物の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



- (注) 2014年度から2015年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-7-5-4 *trans*-ノナクロルの大気の経年変化 (幾何平均値)

## [8] ヘプタクロル類 (参考)

### ・調査の経緯及び実施状況

ヘプタクロルは、有機塩素系殺虫剤の一種である。稲、麦類、じゃがいも、さつまいも、たばこ、豆類、あぶらな科野菜、ネギ類、ウリ類、てんさい、ほうれん草等の殺虫剤として使用された。農薬取締法に基づく登録は1975年に失効した。工業用クロルデン（シロアリ防除剤）にも含まれており、1986年9月、化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、POPs条約においては、2004年に条約が発効された当初から条約対象物質に指定されている。

継続的調査としては2002年度が初めての調査であり、2001年度までの調査として「化学物質環境調査」<sup>iv)</sup>では、ヘプタクロル及びその代謝物のヘプタクロルエポキシドについて1982年度に水質、底質及び魚類を、1986年度に大気を調査している。

2002年度以降のモニタリング調査においては、ヘプタクロルについて2002年度から、*cis*-ヘプタクロルエポキシド及び*trans*-ヘプタクロルエポキシドについて2003年度からそれぞれ調査を開始し、2002年度から2011年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2012年度、2013年度、2015年度から2017年度に生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2014年度及び2017年度に水質及び底質の調査を実施している。

2018年度は調査を実施していないため、参考として以下に、2017年度までの調査結果を示す。

### ・2017年度までの調査結果 (参考)

#### <水質>

○2002年度から2017年度における水質についてのヘプタクロル、*cis*-ヘプタクロルエポキシド及び*trans*-ヘプタクロルエポキシドの検出状況

ヘプタクロル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
水質 (pg/L)	2002	tr(1.2)	tr(1.0)	25	nd	1.5 [0.5]	97/114	38/38
	2003	tr(1.8)	tr(1.6)	7	tr(1.0)	2 [0.5]	36/36	36/36
	2004	nd	nd	29	nd	5 [2]	9/38	9/38
	2005	nd	tr(1)	54	nd	3 [1]	25/47	25/47
	2006	nd	nd	6	nd	5 [2]	5/48	5/48
	2007	nd	nd	5.2	nd	2.4 [0.8]	12/48	12/48
	2008	nd	nd	4.6	nd	2.1 [0.8]	19/48	19/48
	2009	tr(0.5)	nd	17	nd	0.8 [0.3]	20/49	20/49
	2010	nd	nd	43	nd	2.2 [0.7]	4/49	4/49
	2011	nd	nd	22	nd	1.3 [0.5]	6/49	6/49
	2014	tr(0.2)	tr(0.2)	1.5	nd	0.5 [0.2]	28/48	28/48
	2017	nd	nd	6	nd	3 [1]	2/47	2/47
<i>cis</i> -ヘプタクロルエ ポキシド	実施 年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
	2003	9.8	11	170	1.2	0.7 [0.2]	36/36	36/36
	2004	10	10	77	2	2 [0.4]	38/38	38/38
	2005	7.1	6.6	59	1.0	0.7 [0.2]	47/47	47/47
	2006	7.6	6.6	47	1.1	2.0 [0.7]	48/48	48/48
	2007	6.1	5.8	120	tr(0.9)	1.3 [0.4]	48/48	48/48
	2008	4.7	5.0	37	nd	0.6 [0.2]	46/48	46/48
	2009	5.5	4.2	72	0.8	0.5 [0.2]	49/49	49/49
	2010	5.9	3.9	710	0.7	0.4 [0.2]	49/49	49/49
	2011	5.8	5.8	160	0.7	0.7 [0.3]	49/49	49/49
2014	4.9	3.4	56	0.7	0.5 [0.2]	48/48	48/48	
2017	4.7	3.5	83	nd	1.6 [0.6]	46/47	46/47	

<i>trans</i> -ヘプタクロル エポキシド	実施 年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
水質 (pg/L)	2003	nd	nd	2	nd	2 [0.4]	4/36	4/36
	2004	nd	nd	nd	nd	0.9 [0.3]	0/38	0/38
	2005	nd	nd	nd	nd	0.7 [0.2]	0/47	0/47
	2006	nd	nd	nd	nd	1.8 [0.6]	0/48	0/48
	2007	nd	nd	tr(0.9)	nd	2.0 [0.7]	2/48	2/48
	2008	nd	nd	nd	nd	1.9 [0.7]	0/48	0/48
	2009	nd	nd	nd	nd	0.7 [0.3]	0/49	0/49
	2010	nd	nd	8.0	nd	1.3 [0.5]	2/49	2/49
	2011	nd	nd	2.8	nd	0.8 [0.3]	3/49	3/49
	2014	nd	nd	nd	nd	0.8 [0.3]	0/48	0/48
2017	nd	nd	nd	nd	2.3 [0.9]	0/47	0/47	

(注1) ※：2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2012年度、2013年度、2015年度及び2016年度は調査を実施していない。

#### <底質>

○2002年度から2017年度における底質についてのヘプタクロル、*cis*-ヘプタクロルエポキシド及び*trans*-ヘプタクロルエポキシドの検出状況

ヘプタクロル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	4.1	3.2	120	nd	1.8 [0.6]	167/189	60/63
	2003	tr(2.7)	tr(2.2)	160	nd	3 [1.0]	138/186	53/62
	2004	tr(2.8)	tr(2.3)	170	nd	3 [0.9]	134/189	53/63
	2005	3.1	2.8	200	nd	2.5 [0.8]	120/189	48/63
	2006	5.2	3.9	230	nd	1.9 [0.6]	190/192	64/64
	2007	tr(1.8)	tr(1.5)	110	nd	3.0 [0.7]	143/192	57/64
	2008	tr(1)	nd	85	nd	4 [1]	59/192	27/64
	2009	1.6	1.3	65	nd	1.1 [0.4]	144/192	59/64
	2010	1.2	tr(0.8)	35	nd	1.1 [0.4]	51/64	51/64
	2011	tr(1.3)	tr(1.2)	48	nd	1.8 [0.7]	40/64	40/64
2014	tr(1.0)	tr(0.9)	49	nd	1.5 [0.5]	38/63	38/63	
2017	1.2	1.1	40	nd	0.9 [0.3]	53/62	53/62	
<i>cis</i> -ヘプタクロルエ ポキシド	実施 年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度 検体 地点	
	2003	4	3	160	nd	3 [1]	153/186	55/62
	2004	tr(5)	tr(3)	230	nd	6 [2]	136/189	52/63
	2005	tr(4)	tr(3)	140	nd	7 [2]	119/189	49/63
	2006	4.0	3.2	210	nd	3.0 [1.0]	157/192	58/64
	2007	3	tr(2)	270	nd	3 [1]	141/192	53/64
	2008	3	2	180	nd	2 [1]	130/192	51/64
	2009	2.7	1.9	290	nd	0.7 [0.3]	176/192	63/64
	2010	3.1	2.4	300	nd	0.8 [0.3]	62/64	62/64
	2011	2.8	2.5	160	nd	0.6 [0.2]	63/64	63/64
2014	2.1	1.7	310	nd	0.5 [0.2]	59/63	59/63	
2017	1.9	1.6	150	nd	1.2 [0.5]	51/62	51/62	
<i>trans</i> -ヘプタクロル エポキシド	実施 年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度 検体 地点	
	2003	nd	nd	nd	nd	9 [3]	0/186	0/62
	2004	nd	nd	tr(2.5)	nd	4 [2]	1/189	1/63
	2005	nd	nd	nd	nd	5 [2]	0/189	0/63
	2006	nd	nd	19	nd	7 [2]	2/192	2/64
	2007	nd	nd	31	nd	10 [4]	2/192	2/64
	2008	nd	nd	nd	nd	1.7 [0.7]	0/192	0/64
	2009	nd	nd	nd	nd	1.4 [0.6]	0/192	0/64
	2010	nd	nd	4	nd	3 [1]	1/64	1/64
	2011	nd	nd	2.4	nd	2.3 [0.9]	2/64	2/64
2014	nd	nd	3.6	nd	0.7 [0.3]	1/63	1/63	
2017	nd	nd	nd	nd	2.0 [0.8]	0/62	0/62	

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2012年度、2013年度、2015年度及び2016年度は調査を実施していない。

<生物>

○2002年度から2016年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についてのヘプタクロル、*cis*-ヘプタクロルエポキシド及び*trans*-ヘプタクロルエポキシドの検出状況

ヘプタクロル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2002	tr(3.5)	4.6	15	nd	4.2 [1.4]	28/38	6/8
	2003	tr(2.8)	tr(2.4)	14	nd	6.6 [2.2]	16/30	4/6
	2004	tr(3.4)	5.2	16	nd	4.1 [1.4]	23/31	6/7
	2005	tr(2.9)	tr(2.9)	24	nd	6.1 [2.0]	18/31	6/7
	2006	tr(4)	tr(4)	20	nd	6 [2]	23/31	6/7
	2007	tr(3)	tr(3)	12	nd	6 [2]	20/31	6/7
	2008	tr(2)	nd	9	nd	6 [2]	13/31	5/7
	2009	tr(4)	nd	120	nd	5 [2]	14/31	4/7
	2010	3	tr(2)	78	nd	3 [1]	5/6	5/6
	2011	4	4	51	nd	3 [1]	3/4	3/4
	2012	tr(3)	tr(3)	13	nd	4 [1]	4/5	4/5
	2013	3	tr(2)	19	nd	3 [1]	4/5	4/5
	2015	nd	nd	tr(1.7)	nd	3.0 [1.0]	1/3	1/3
	2016	nd	nd	tr(1.4)	nd	2.4 [0.9]	1/3	1/3
魚類 (pg/g-wet)	2002	4.2	4.8	20	nd	4.2 [1.4]	57/70	12/14
	2003	nd	nd	11	nd	6.6 [2.2]	29/70	8/14
	2004	tr(2.3)	tr(2.1)	460	nd	4.1 [1.4]	50/70	11/14
	2005	nd	nd	7.6	nd	6.1 [2.0]	32/80	8/16
	2006	tr(2)	nd	8	nd	6 [2]	36/80	8/16
	2007	tr(2)	nd	7	nd	6 [2]	28/80	6/16
	2008	nd	nd	9	nd	6 [2]	25/85	7/17
	2009	tr(2)	nd	8	nd	5 [2]	30/90	11/18
	2010	tr(2)	tr(2)	5	nd	3 [1]	12/18	12/18
	2011	tr(1)	tr(1)	7	nd	3 [1]	13/18	13/18
	2012	nd	tr(1)	5	nd	4 [1]	10/19	10/19
	2013	nd	nd	12	nd	3 [1]	9/19	9/19
	2015	nd	nd	9.2	nd	3.0 [1.0]	9/19	9/19
	2016	nd	nd	5.5	nd	2.4 [0.9]	8/19	8/19
鳥類 (pg/g-wet)	2002	tr(1.7)	tr(2.8)	5.2	nd	4.2 [1.4]	7/10	2/2
	2003	nd	nd	nd	nd	6.6 [2.2]	0/10	0/2
	2004	nd	nd	tr(1.5)	nd	4.1 [1.4]	1/10	1/2
	2005	nd	nd	nd	nd	6.1 [2.0]	0/10	0/2
	2006	nd	nd	nd	nd	6 [2]	0/10	0/2
	2007	nd	nd	nd	nd	6 [2]	0/10	0/2
	2008	nd	nd	nd	nd	6 [2]	0/10	0/2
	2009	nd	nd	nd	nd	5 [2]	0/10	0/2
	2010	nd	---	tr(1)	nd	3 [1]	1/2	1/2
	2011	---	---	nd	nd	3 [1]	0/1	0/1
	2012	nd	---	nd	nd	4 [1]	0/2	0/2
	2013※※	nd	---	nd	nd	3 [1]	0/2	0/2
2015※※	---	---	nd	nd	3.0 [1.0]	0/1	0/1	
2016※※	nd	---	nd	nd	2.4 [0.9]	0/2	0/2	
<i>cis</i> -ヘプタクロルエ ポキシド	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
	2003	44	29	880	9.7	6.9 [2.3]	30/30	6/6
	2004	64	34	840	tr(9.8)	9.9 [3.3]	31/31	7/7
	2005	49	20	590	7.4	3.5 [1.2]	31/31	7/7
	2006	56	23	1,100	8	4 [1]	31/31	7/7
	2007	37	20	1,100	8	4 [1]	31/31	7/7
	2008	37	19	510	8	5 [2]	31/31	7/7
	2009	59	33	380	10	3 [1]	31/31	7/7
	2010	170	260	1,800	9.0	2.4 [0.9]	6/6	6/6
	2011	55	110	320	3.9	2.0 [0.8]	4/4	4/4
	2012	48	120	180	6.2	1.5 [0.6]	5/5	5/5
	2013	28	29	110	4.4	2.1 [0.8]	5/5	5/5
	2015	21	14	91	7.2	2.1 [0.8]	3/3	3/3
	2016	23	18	75	9.4	1.9 [0.7]	3/3	3/3

cis-ヘプタクロルエ ポキシド	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
魚類 (pg/g-wet)	2003	43	43	320	7.0	6.9 [2.3]	70/70	14/14
	2004	51	49	620	tr(3.3)	9.9 [3.3]	70/70	14/14
	2005	41	45	390	4.9	3.5 [1.2]	80/80	16/16
	2006	42	48	270	4	4 [1]	80/80	16/16
	2007	43	49	390	4	4 [1]	80/80	16/16
	2008	39	46	350	tr(3)	5 [2]	85/85	17/17
	2009	41	50	310	4	3 [1]	90/90	18/18
	2010	39	49	230	5.0	2.4 [0.9]	18/18	18/18
	2011	50	62	540	3.2	2.0 [0.8]	18/18	18/18
	2012	41	62	120	6.9	1.5 [0.6]	19/19	19/19
	2013	42	46	190	7.3	2.1 [0.8]	19/19	19/19
	2015	33	43	190	3.2	2.1 [0.8]	19/19	19/19
	2016	29	28	130	3.6	1.9 [0.7]	19/19	19/19
	鳥類 (pg/g-wet)	2003	540	510	770	370	6.9 [2.3]	10/10
2004		270	270	350	190	9.9 [3.3]	10/10	2/2
2005		370	340	690	250	3.5 [1.2]	10/10	2/2
2006		330	310	650	240	4 [1]	10/10	2/2
2007		280	270	350	250	4 [1]	10/10	2/2
2008		370	370	560	180	5 [2]	10/10	2/2
2009		220	210	390	160	3 [1]	10/10	2/2
2010		290	---	360	240	2.4 [0.9]	2/2	2/2
2011		---	---	410	410	2.0 [0.8]	1/1	1/1
2012		160	---	170	150	1.5 [0.6]	2/2	2/2
2013※※	300	---	560	160	2.1 [0.8]	2/2	2/2	
2015※※	---	---	20	20	2.1 [0.8]	1/1	1/1	
2016※※	91	---	270	31	1.9 [0.7]	2/2	2/2	
trans-ヘプタクロル エポキシド	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2003	nd	nd	48	nd	13 [4.4]	5/30	1/6
	2004	nd	nd	55	nd	12 [4.0]	9/31	2/7
	2005	nd	nd	37	nd	23 [7.5]	5/31	1/7
	2006	nd	nd	45	nd	13 [5]	5/31	1/7
	2007	nd	nd	61	nd	13 [5]	5/31	1/7
	2008	nd	nd	33	nd	10 [4]	5/31	1/7
	2009	tr(3)	nd	24	nd	8 [3]	13/31	3/7
	2010	3	tr(2)	24	nd	3 [1]	3/6	3/6
	2011	nd	nd	tr(6)	nd	7 [3]	1/4	1/4
	2012	nd	nd	tr(4)	nd	8 [3]	1/5	1/5
	2013	nd	nd	nd	nd	7 [3]	0/5	0/5
	2015	nd	nd	nd	nd	7 [3]	0/3	0/3
	2016	nd	nd	nd	nd	9 [3]	0/3	0/3
	魚類 (pg/g-wet)	2003	nd	nd	nd	nd	13 [4.4]	0/70
2004		nd	nd	tr(10)	nd	12 [4.0]	2/70	2/14
2005		nd	nd	nd	nd	23 [7.5]	0/80	0/16
2006		nd	nd	nd	nd	13 [5]	0/80	0/16
2007		nd	nd	nd	nd	13 [5]	0/80	0/16
2008		nd	nd	nd	nd	10 [4]	0/85	0/17
2009		nd	nd	nd	nd	8 [3]	0/90	0/18
2010		nd	nd	nd	nd	3 [1]	0/18	0/18
2011		nd	nd	nd	nd	7 [3]	0/18	0/18
2012		nd	nd	nd	nd	8 [3]	0/19	0/19
2013		nd	nd	nd	nd	7 [3]	0/19	0/19
2015		nd	nd	10	nd	7 [3]	5/19	5/19
2016		nd	nd	nd	nd	9 [3]	0/19	0/19
鳥類 (pg/g-wet)		2003	nd	nd	nd	nd	13 [4.4]	0/10
	2004	nd	nd	nd	nd	12 [4.0]	0/10	0/2
	2005	nd	nd	nd	nd	23 [7.5]	0/10	0/2
	2006	nd	nd	nd	nd	13 [5]	0/10	0/2
	2007	nd	nd	nd	nd	13 [5]	0/10	0/2
	2008	nd	nd	nd	nd	10 [4]	0/10	0/2
	2009	nd	nd	nd	nd	8 [3]	0/10	0/2
	2010	nd	---	nd	nd	3 [1]	0/2	0/2
	2011	---	---	nd	nd	7 [3]	0/1	0/1
	2012	nd	---	nd	nd	8 [3]	0/2	0/2
	2013※※	nd	---	tr(5)	nd	7 [3]	1/2	1/2
	2015※※	---	---	nd	nd	7 [3]	0/1	0/1
2016※※	nd	---	nd	nd	9 [3]	0/2	0/2	

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2013年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2014年度は調査を実施していない。

<大気>

○2002 年度から 2016 年度における大気についてのヘプタクロル、*cis*-ヘプタクロルエポキシド及び *trans*-ヘプタクロルエポキシドの検出状況

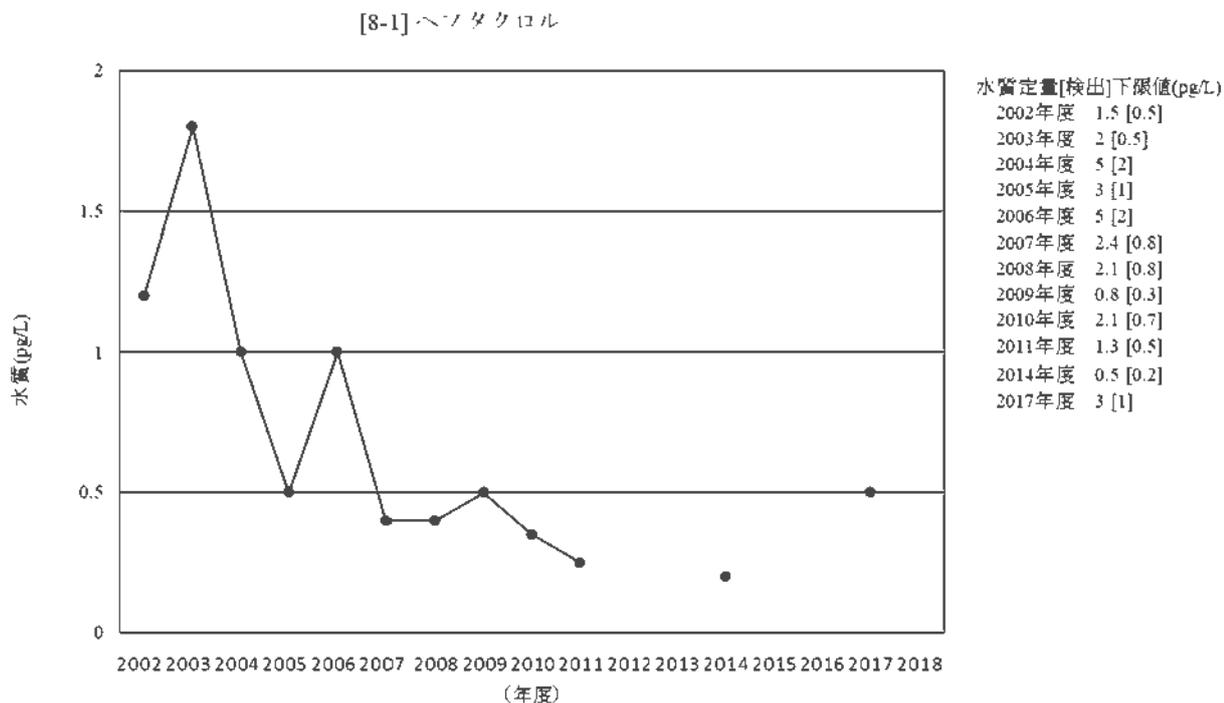
ヘプタクロル	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2002	11	14	220	0.20	0.12 [0.04]	102/102	34/34
	2003 温暖期	27	41	240	1.1	0.25 [0.085]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	10	16	65	0.39		34/34	34/34
	2004 温暖期	23	36	200	0.46	0.23 [0.078]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	11	18	100	0.53		37/37	37/37
	2005 温暖期	25	29	190	1.1	0.16 [0.054]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	6.5	7.9	61	0.52		37/37	37/37
	2006 温暖期	20	27	160	0.88	0.11 [0.04]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	6.8	7.2	56	0.32		37/37	37/37
	2007 温暖期	22	27	320	1.1	0.07 [0.03]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	6.3	8.0	74	0.42		36/36	36/36
	2008 温暖期	20	31	190	0.92	0.06 [0.02]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	7.5	12	60	0.51		37/37	37/37
	2009 温暖期	18	30	110	0.48	0.04 [0.01]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	6.3	7.8	48	0.15		37/37	37/37
	2010 温暖期	17	26	160	0.69	0.11 [0.04]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	7.2	9.5	53	0.22		37/37	37/37
	2011 温暖期	16	25	110	0.73	0.30 [0.099]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	6.1	10	56	tr(0.13)		37/37	37/37
	2012 温暖期	13	21	58	0.46	0.41 [0.14]	36/36	36/36
2012 寒冷期	3.2	4.9	20	nd	35/36		35/36	
2013 温暖期	11	21	43	0.46	0.16 [0.05]	36/36	36/36	
2013 寒冷期	3.1	4.6	22	tr(0.10)		36/36	36/36	
2015 温暖期	8.7	11	49	0.43	0.19 [0.06]	35/35	35/35	
2016 温暖期	12	14	120	tr(0.18)	0.22 [0.08]	37/37	37/37	
<i>cis</i> -ヘプタクロルエ ポキシド	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
	2003 温暖期	3.5	3.5	28	0.45	0.015 [0.0048]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	1.3	1.3	6.6	0.49		34/34	34/34
	2004 温暖期	2.8	2.9	9.7	0.65	0.052 [0.017]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	1.1	1.1	7.0	0.44		37/37	37/37
	2005 温暖期	1.5	1.7	11	tr(0.10)	0.12 [0.044]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	0.91	0.81	2.9	0.43		37/37	37/37
	2006 温暖期	1.7	2.0	6.7	0.13	0.11 [0.04]	37/37	37/37
	2006 寒冷期	0.74	0.88	3.2	nd		36/37	36/37
	2007 温暖期	2.9	2.8	13	0.54	0.03 [0.01]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	0.93	0.82	3.0	0.41		36/36	36/36
	2008 温暖期	2.4	2.2	9.9	0.53	0.022 [0.008]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	0.91	0.84	3.0	0.37		37/37	37/37
	2009 温暖期	2.5	2.6	16	0.37	0.03 [0.01]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	1.0	0.91	3.8	0.42		37/37	37/37
	2010 温暖期	2.3	2.3	10	0.38	0.02 [0.01]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	0.93	0.85	4.3	0.33		37/37	37/37
	2011 温暖期	2.0	2.3	6.0	0.29	0.04 [0.01]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	0.90	0.90	2.8	0.35		37/37	37/37
2012 温暖期	2.0	2.1	6.3	0.37	0.05 [0.02]	36/36	36/36	
2012 寒冷期	0.62	0.57	1.9	0.30		36/36	36/36	
2013 温暖期	2.0	2.1	7.7	0.43	0.03 [0.01]	36/36	36/36	
2013 寒冷期	0.66	0.63	1.4	0.32		36/36	36/36	
2015 温暖期	1.4	1.4	4.7	tr(0.4)	0.5 [0.2]	35/35	35/35	
2016 温暖期	1.9	1.9	9.1	0.30	0.12 [0.05]	37/37	37/37	

(注) 2014 年度は調査を実施していない。

trans-ヘプタクロル エポキシド	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2003 温暖期	tr(0.036)	tr(0.038)	0.30	nd	0.099 [0.033]	18/35	18/35
	2003 寒冷期	nd	nd	tr(0.094)	nd		3/34	3/34
	2004 温暖期	nd	nd	tr(0.38)	nd	0.6 [0.2]	4/37	4/37
	2004 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2005 温暖期	tr(0.10)	tr(0.12)	1.2	nd	0.16 [0.05]	27/37	27/37
	2005 寒冷期	nd	nd	0.32	nd		3/37	3/37
	2006 温暖期	nd	nd	0.7	nd	0.3 [0.1]	2/37	2/37
	2006 寒冷期	nd	nd	tr(0.1)	nd		1/37	1/37
	2007 温暖期	nd	nd	0.16	nd	0.14 [0.06]	8/36	8/36
	2007 寒冷期	nd	nd	tr(0.06)	nd		1/36	1/36
	2008 温暖期	nd	nd	0.17	nd	0.16 [0.06]	6/37	6/37
	2008 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2009 温暖期	nd	nd	0.18	nd	0.14 [0.05]	10/37	10/37
	2009 寒冷期	nd	nd	tr(0.06)	nd		1/37	1/37
	2010 温暖期	nd	nd	0.16	nd	0.16 [0.06]	6/37	6/37
	2010 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2011 温暖期	nd	nd	0.14	nd	0.13 [0.05]	5/35	5/35
	2011 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2012 温暖期	nd	nd	tr(0.08)	nd	0.12 [0.05]	8/36	8/36
	2012 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/36	0/36
2013 温暖期	nd	nd	tr(0.11)	nd	0.12 [0.05]	7/36	7/36	
2013 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/36	0/36	
2015 温暖期	nd	nd	nd	nd	0.03 [0.01]	0/35	0/35	
2016 温暖期	nd	nd	tr(0.2)	nd	0.3 [0.1]	1/37	1/37	

(注) 2014 年度は調査を実施していない。

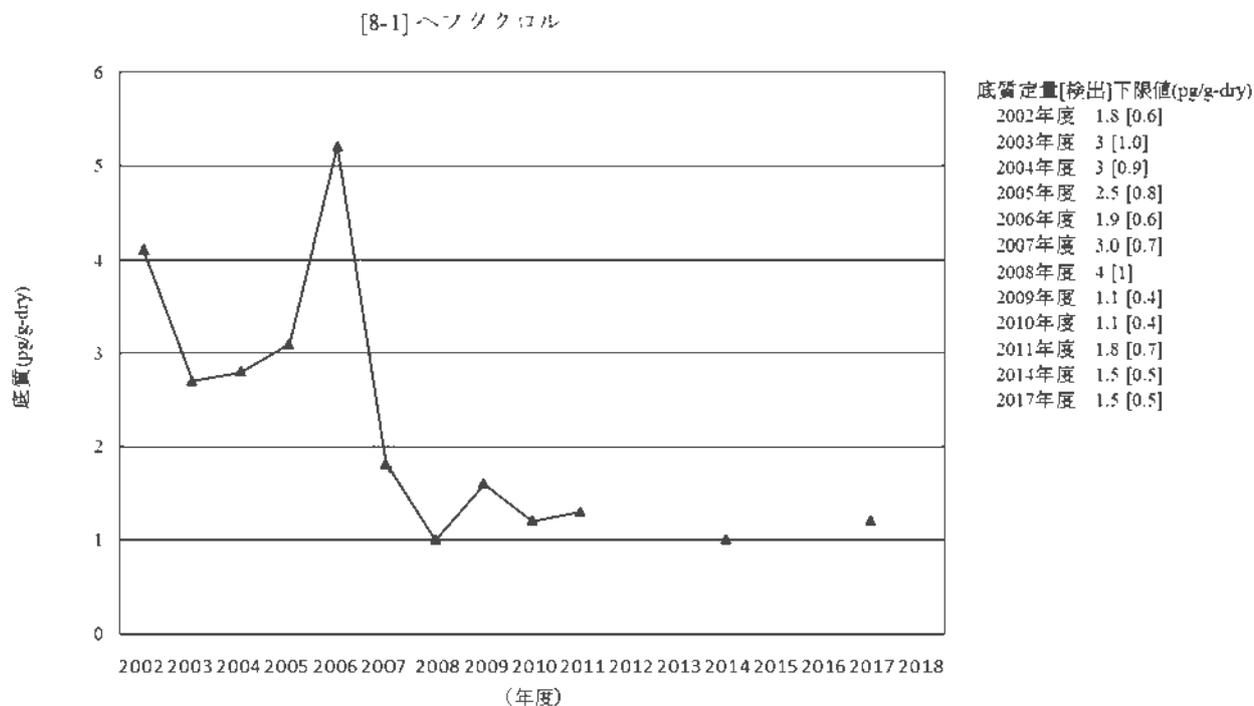
(参考)



(注) 2012年度、2013年度、2015年度、2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-8-1-1 ヘプタクロルの水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

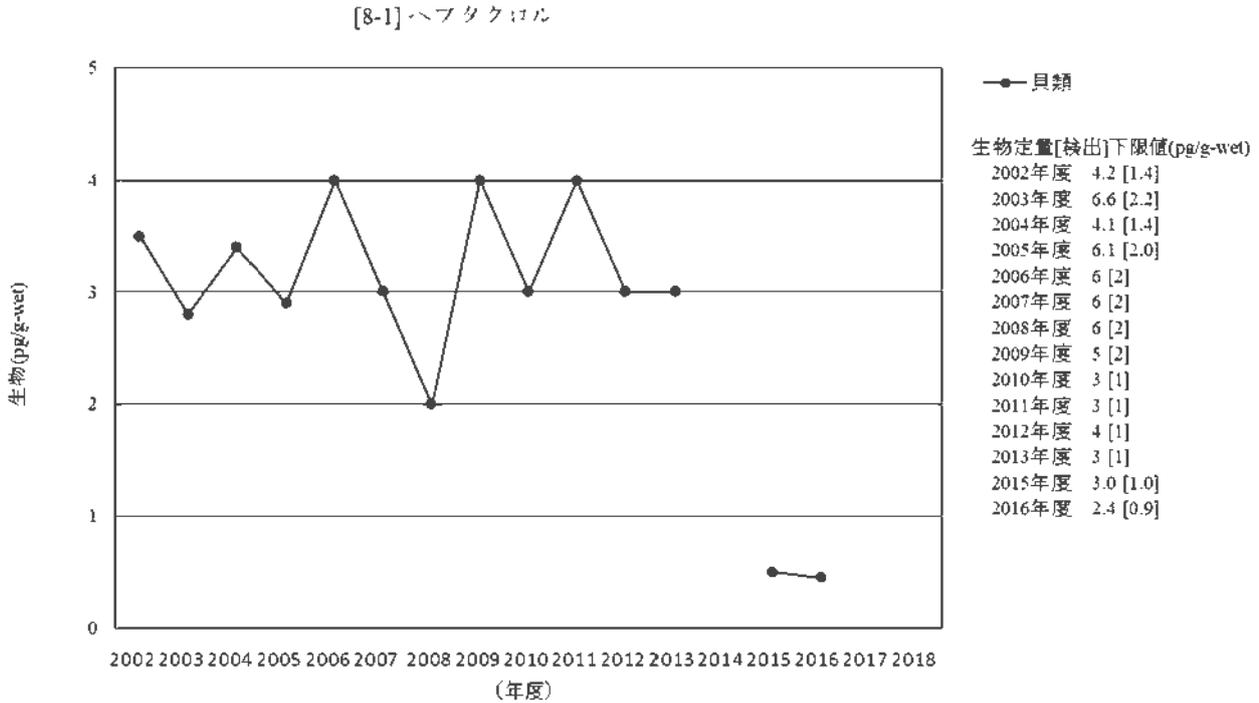


(注 1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注 2) 2012年度、2013年度、2015年度、2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-8-1-2 ヘプタクロルの底質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



(注 1) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注 2) 魚類については、多くの年度において幾何平均値が検出下限値未満であったため、経年変化は示していない。

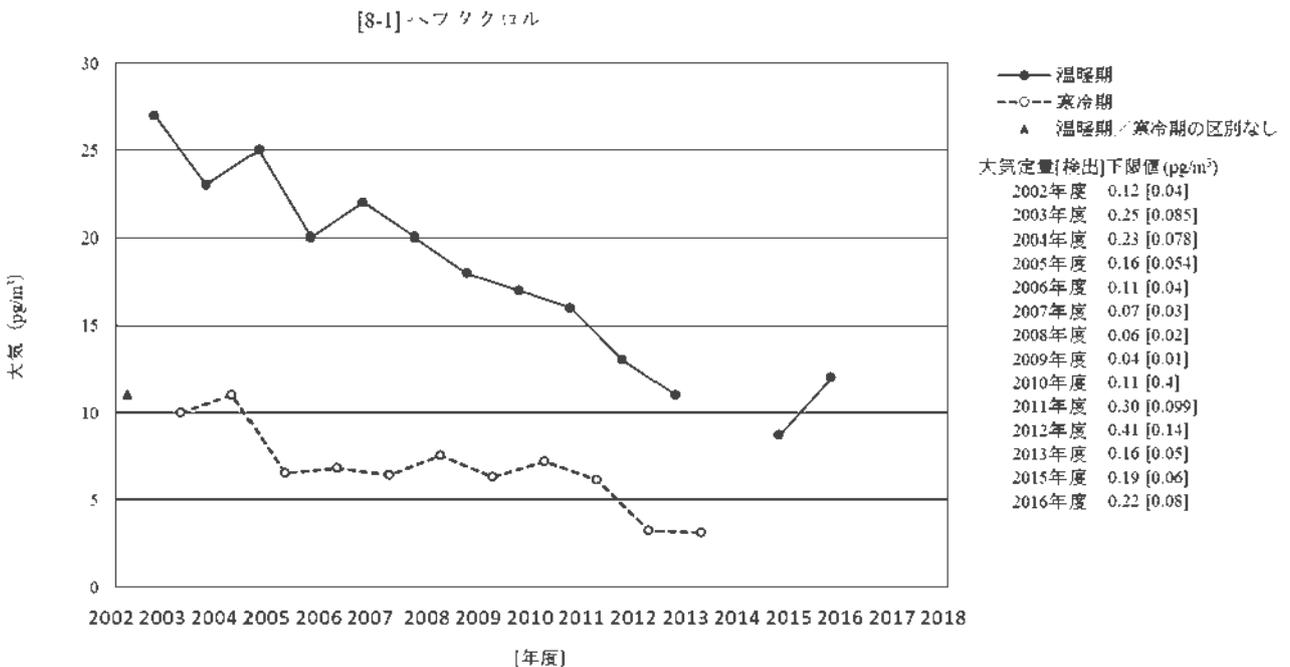
(注 3) 鳥類は 2013 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから 2012 年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注 4) 2014 年度、2017 年度及び 2018 年度は調査を実施していない。

(注 5) 2015 年度及び 2016 年度の貝類については幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の 1/2 の値を図示した。

図 3-8-1-3 ヘプタクロルの生物の経年変化 (幾何平均値)

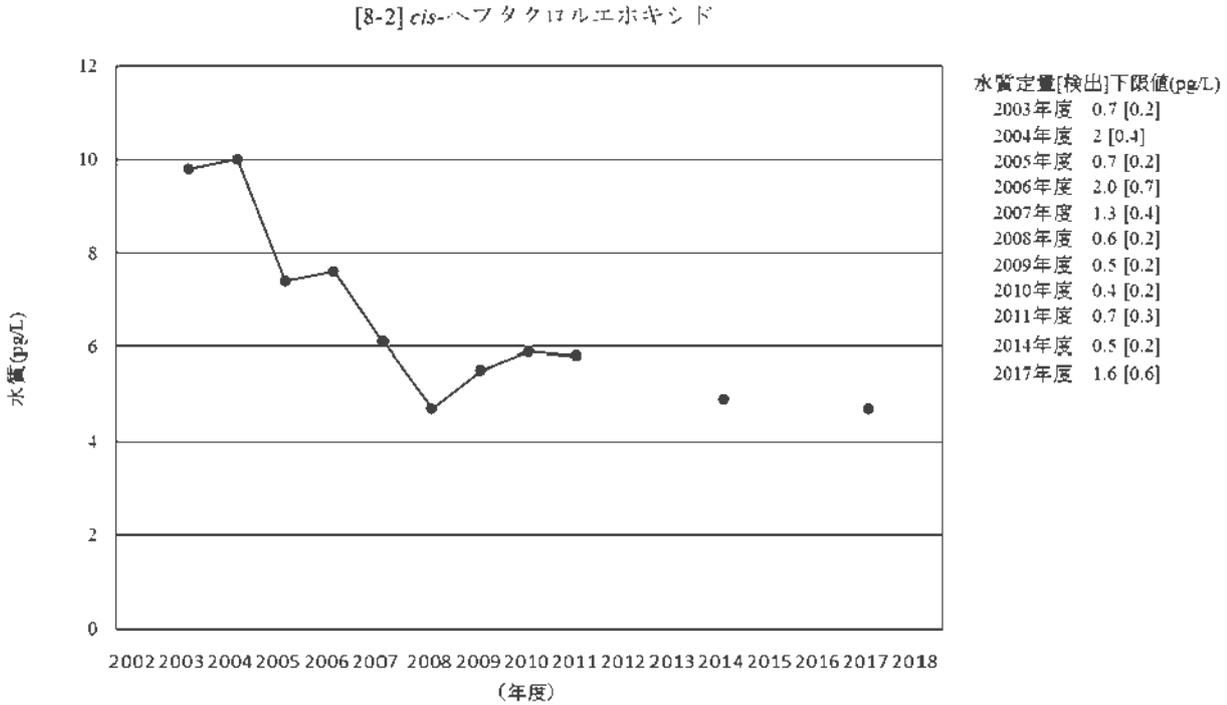
(参考)



(注) 2014 年度、2017 年度及び 2018 年度は調査を実施していない。

図 3-8-1-4 ヘプタクロルの大気の経年変化 (幾何平均値)

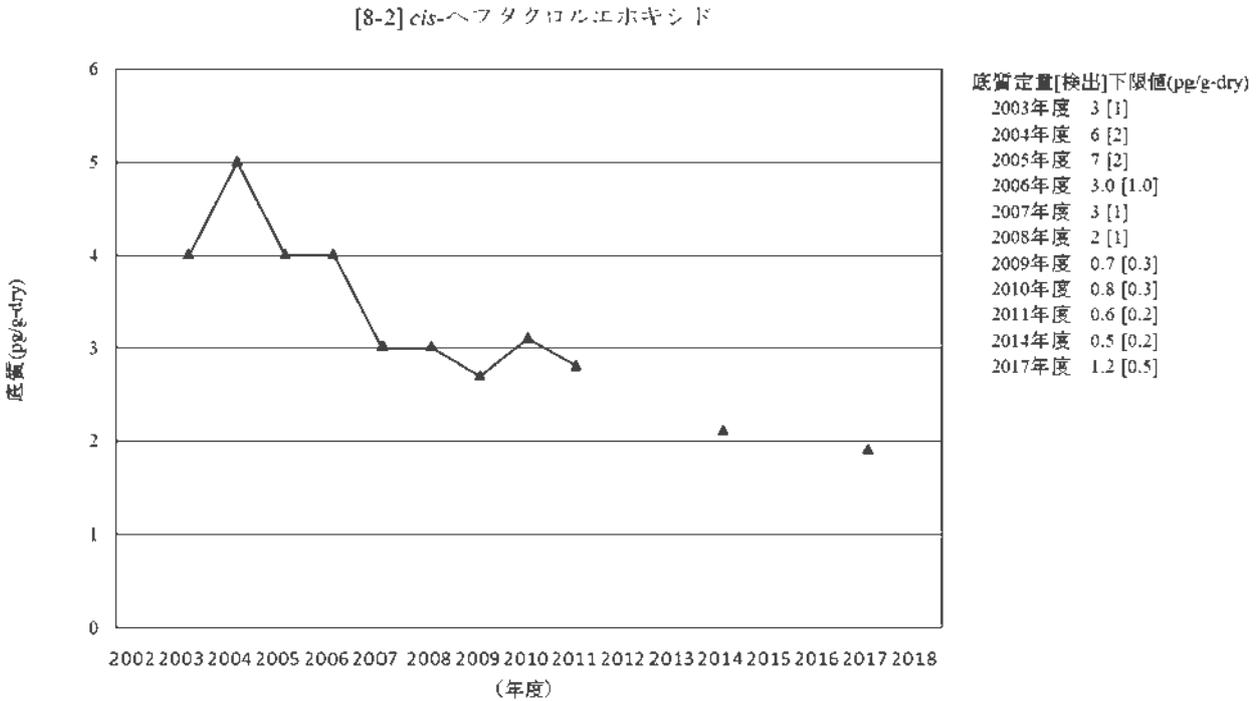
(参考)



(注) 2002年度、2012年度、2013年度、2015年度、2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-8-2-1 *cis*-ヘプタクロルエポキシドの水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

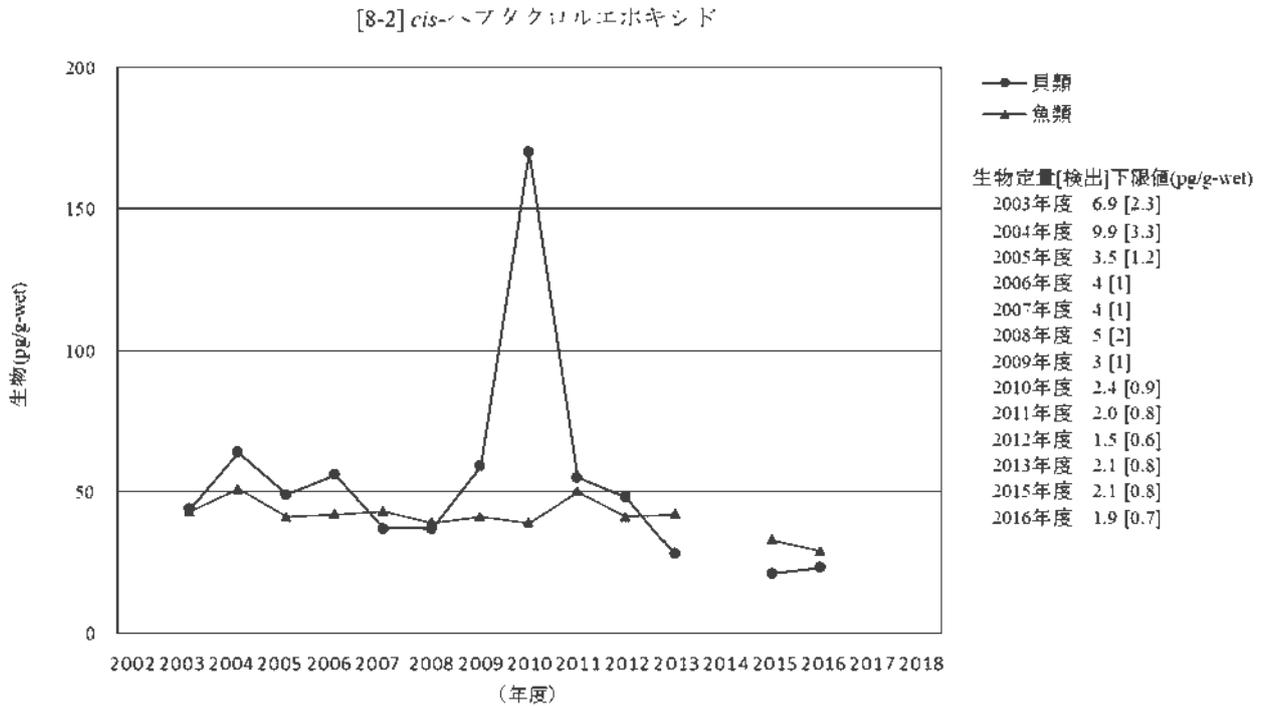


(注1) 2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2002年度、2012年度、2013年度、2015年度、2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-8-2-2 *cis*-ヘプタクロルエポキシドの底質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



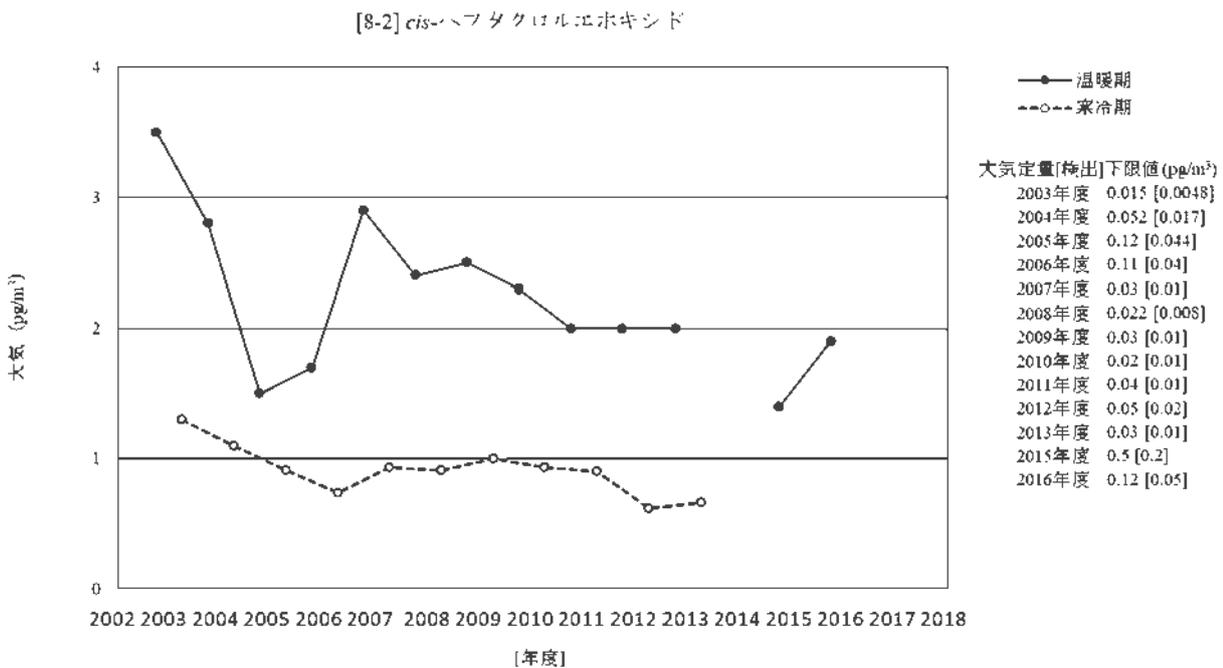
(注1) 2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注3) 2002年度、2014年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-8-2-3 *cis*-ヘプタクロルエポキシドの生物の経年変化 (幾何平均値)

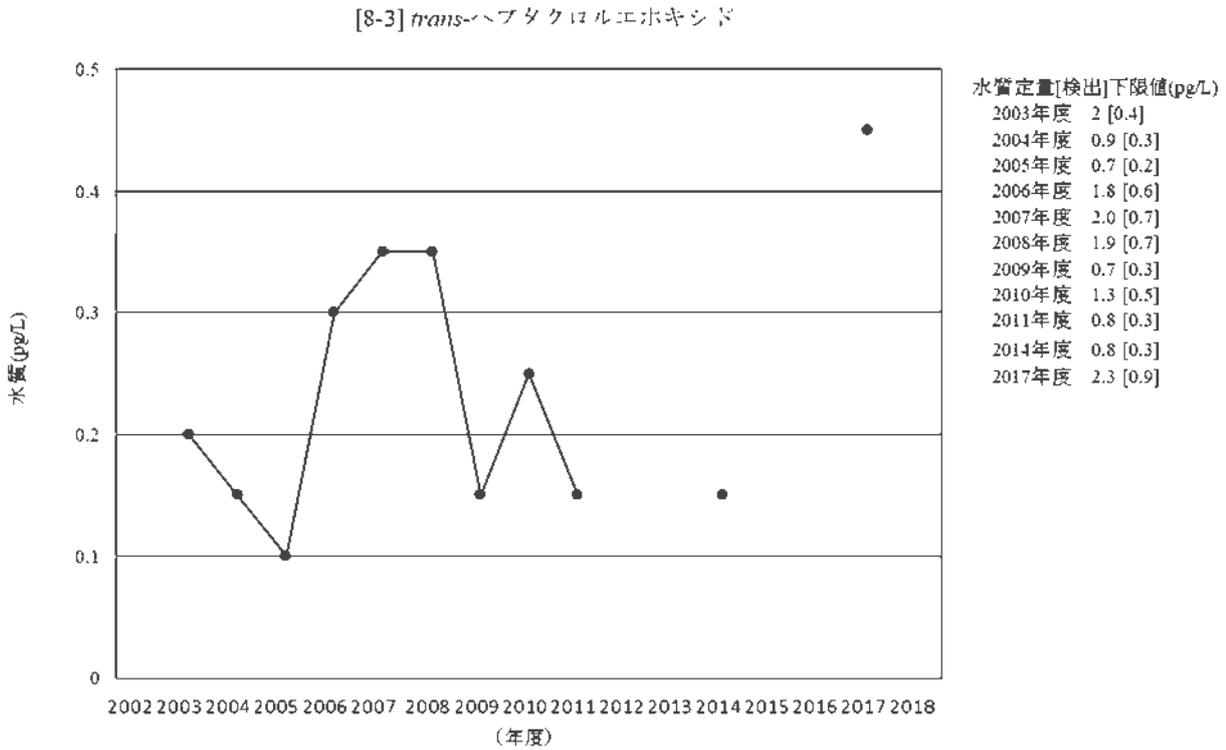
(参考)



(注) 2002年度、2014年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-8-2-4 *cis*-ヘプタクロルエポキシドの大気経年変化 (幾何平均値)

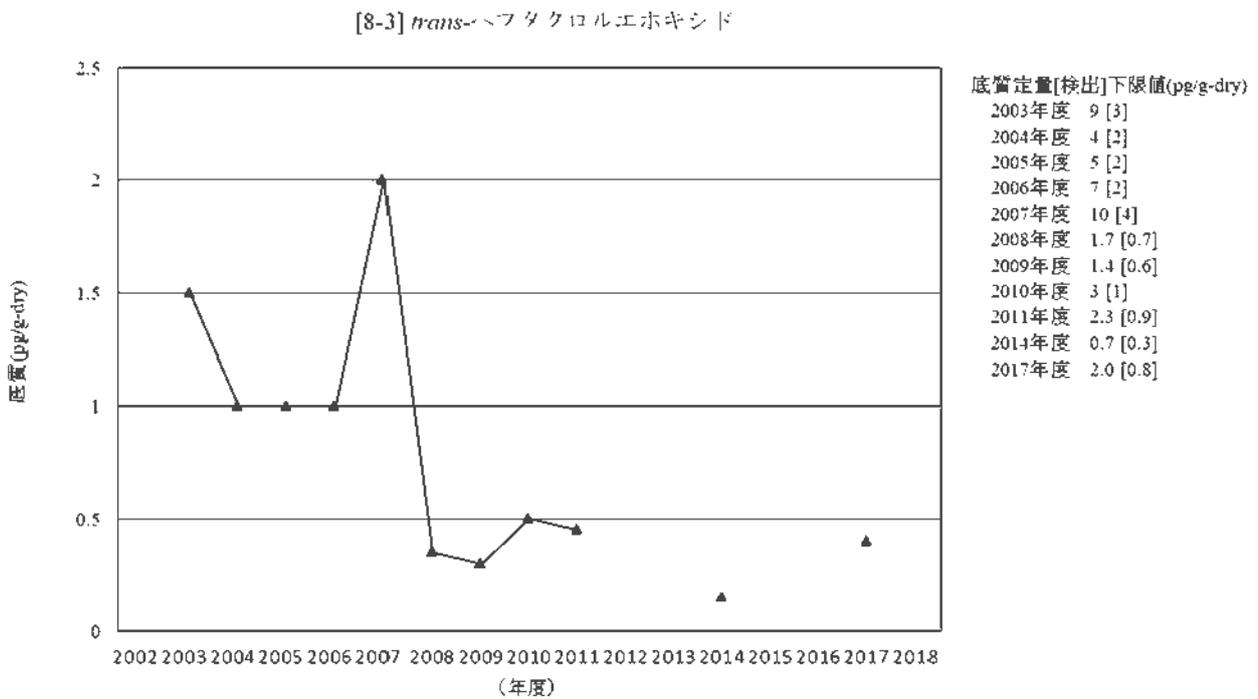
(参考)



(注) 2002年度、2012年度、2013年度、2015年度、2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-8-3-1 *trans*-ヘプタクロルエポキシドの水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

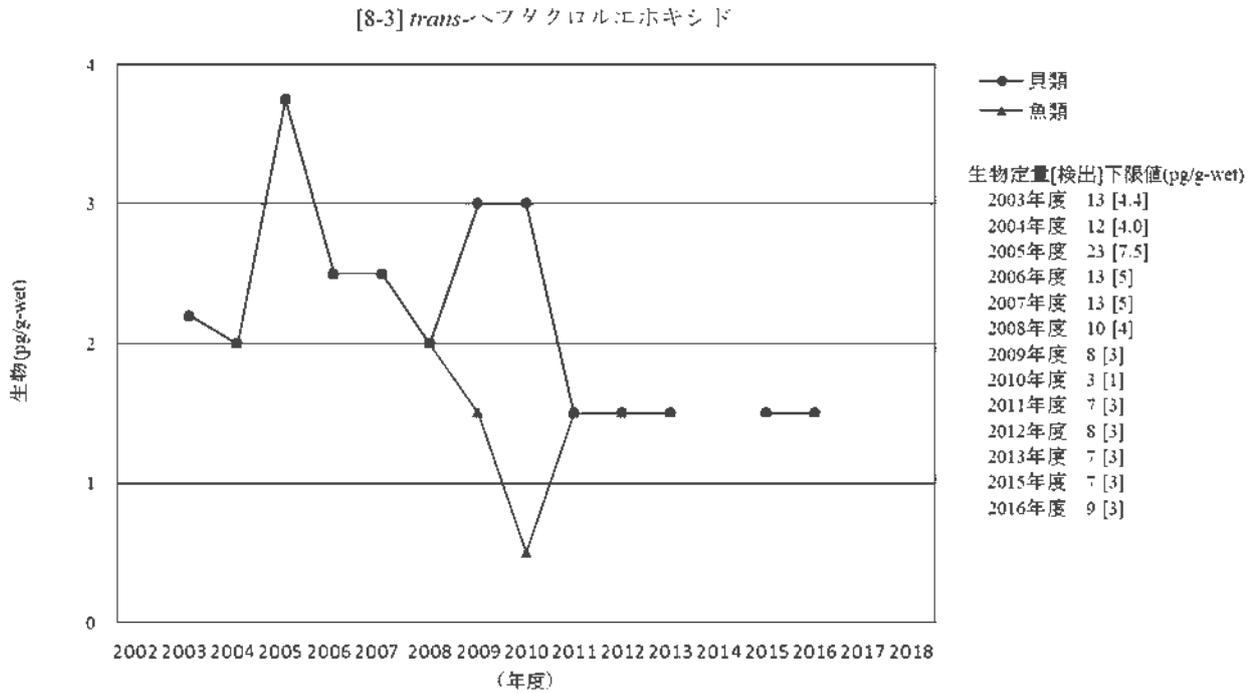


(注 1) 2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注 2) 2002年度、2012年度、2013年度、2015年度、2016年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-8-3-2 *trans*-ヘプタクロルエポキシドの底質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



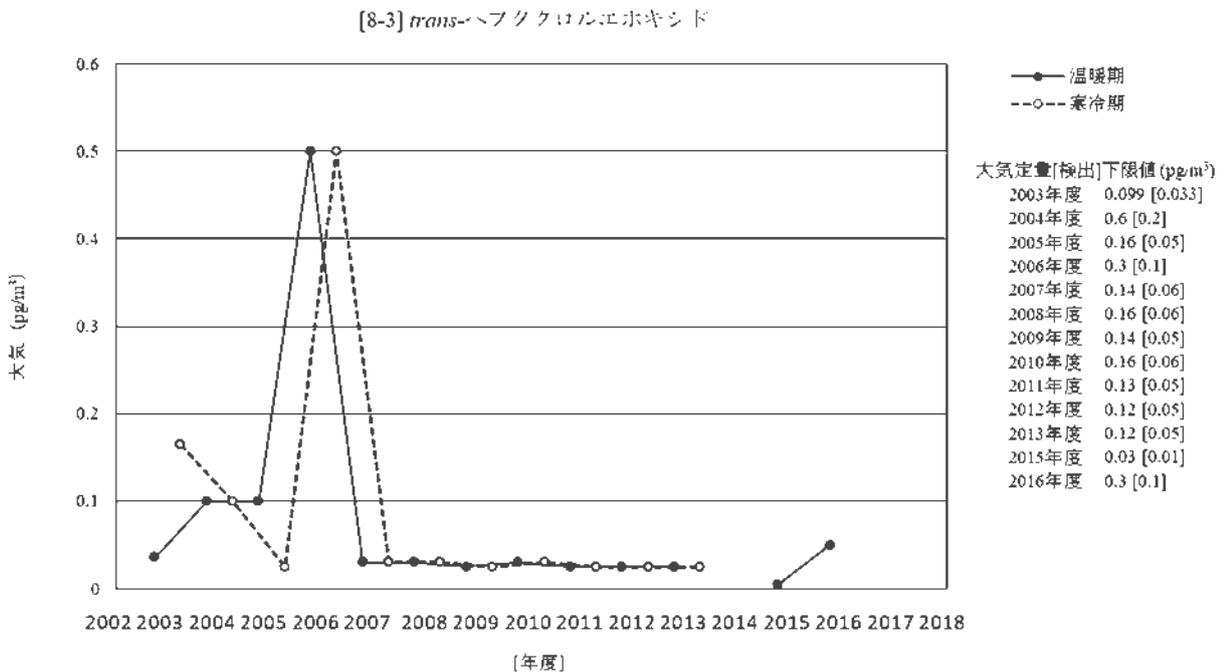
(注1) 2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注3) 2002年度、2014年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-8-3-3 *trans*-ヘプタクロルエポキシドの生物の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



(注) 2002年度、2014年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-8-3-4 *trans*-ヘプタクロルエポキシドの大気経年変化 (幾何平均値)

## [9] トキサフェン類

### ・調査の経緯及び実施状況

トキサフェン類は、有機塩素系殺虫剤の一種である。日本では農薬登録されたことはなく、国内での製造・輸入実績はない。2002年9月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、POPs条約においては、2004年に条約が発効された当初から条約対象物質に指定されている。

継続的調査としては2003年度が初めての調査であり、2002年度までの調査として「化学物質環境調査」<sup>iv)</sup>では、1983年度に水質及び底質を調査している。

2002年度以降のモニタリング調査においては、2-endo,3-exo,5-endo,6-exo,8,8,10,10-オクタクロロボルナン (Parlar-26)、2-endo,3-exo,5-endo,6-exo,8,8,9,10,10-ノナクロロボルナン (Parlar-50) 及び2,2,5,5,8,9,9,10,10-ノナクロロボルナン (Parlar-62) の3物質を分析対象として、2003年度から2009年度の毎年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2015年度に生物（貝類、魚類及び鳥類）の調査を、2018年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を実施している。

### ・調査結果

#### <水質>

2-endo,3-exo,5-endo,6-exo,8,8,10,10-オクタクロロボルナン (Parlar-26) : 水質については、47地点を調査し、検出下限値 2 pg/L において 47地点中 7地点で検出され、検出濃度は 5 pg/L までの範囲であった。

2-endo,3-exo,5-endo,6-exo,8,8,9,10,10-ノナクロロボルナン (Parlar-50) : 水質については、47地点を調査し、検出下限値 2 pg/L において 47地点中 1地点で検出され、検出濃度は tr(2)pg/L であった。

2,2,5,5,8,9,9,10,10-ノナクロロボルナン (Parlar-62) : 水質については、47地点を調査し、検出下限値 20 pg/L において 47地点全てで検出されなかった。

#### ○2003年度から2018年度における水質についての Parlar-26、Parlar-50 及び Parlar-62 の検出状況

Parlar-26	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2003	nd	nd	nd	nd	40 [20]	0/36	0/36
	2004	nd	nd	nd	nd	9 [3]	0/38	0/38
	2005	nd	nd	nd	nd	10 [4]	0/47	0/47
	2006	nd	nd	nd	nd	16 [5]	0/48	0/48
	2007	nd	nd	nd	nd	20 [5]	0/48	0/48
	2008	nd	nd	nd	nd	8 [3]	0/48	0/48
	2009	nd	nd	nd	nd	5 [2]	0/49	0/49
	2018	nd	nd	5	nd	4 [2]	7/47	7/47
Parlar-50	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
水質 (pg/L)	2003	nd	nd	nd	nd	70 [30]	0/36	0/36
	2004	nd	nd	nd	nd	20 [7]	0/38	0/38
	2005	nd	nd	nd	nd	20 [5]	0/47	0/47
	2006	nd	nd	nd	nd	16 [5]	0/48	0/48
	2007	nd	nd	nd	nd	9 [3]	0/48	0/48
	2008	nd	nd	nd	nd	7 [3]	0/48	0/48
	2009	nd	nd	nd	nd	7 [3]	0/49	0/49
	2018	nd	nd	tr(2)	nd	6 [2]	1/47	1/47

Parlar-62	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
水質 (pg/L)	2003	nd	nd	nd	nd	300 [90]	0/36	0/36
	2004	nd	nd	nd	nd	90 [30]	0/38	0/38
	2005	nd	nd	nd	nd	70[30]	0/47	0/47
	2006	nd	nd	nd	nd	60 [20]	0/48	0/48
	2007	nd	nd	nd	nd	70 [30]	0/48	0/48
	2008	nd	nd	nd	nd	40 [20]	0/48	0/48
	2009	nd	nd	nd	nd	40 [20]	0/49	0/49
	2018	nd	nd	nd	nd	40 [20]	0/47	0/47

(注) 2010 年度から 2017 年度は調査を実施していない。

### <底質>

2-endo,3-exo,5-endo,6-exo,8,8,10,10-オクタクロロボルナン (Parlar-26) : 底質については、61 地点を調査し、検出下限値 3 pg/g-dry において 61 地点全てで検出されなかった。

2-endo,3-exo,5-endo,6-exo,8,8,9,10,10-ノナクロロボルナン (Parlar-50) : 底質については、61 地点を調査し、検出下限値 3 pg/g-dry において 61 地点中 1 地点で検出され、検出濃度は tr(3)pg/g-dry であった。

2,2,5,5,8,9,9,10,10-ノナクロロボルナン (Parlar-62) : 底質については、61 地点を調査し、検出下限値 20 pg/g-dry において 61 地点中 1 地点で検出され、検出濃度は tr(20)pg/g-dry であった。

### ○2003 年度から 2018 年度における底質についての Parlar-26、Parlar-50 及び Parlar-62 の検出状況

Parlar-26	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2003	nd	nd	nd	nd	90 [30]	0/186	0/62
	2004	nd	nd	nd	nd	60 [20]	0/189	0/63
	2005	nd	nd	nd	nd	60 [30]	0/189	0/63
	2006	nd	nd	nd	nd	12 [4]	0/192	0/64
	2007	nd	nd	nd	nd	7 [3]	0/192	0/64
	2008	nd	nd	nd	nd	12 [5]	0/192	0/64
	2009	nd	nd	nd	nd	10 [4]	0/192	0/64
	2018	nd	nd	nd	nd	8 [3]	0/61	0/61
Parlar-50	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2003	nd	nd	nd	nd	200 [50]	0/186	0/62
	2004	nd	nd	nd	nd	60 [20]	0/189	0/63
	2005	nd	nd	nd	nd	90 [40]	0/189	0/63
	2006	nd	nd	nd	nd	24 [7]	0/192	0/64
	2007	nd	nd	nd	nd	30 [10]	0/192	0/64
	2008	nd	nd	nd	nd	17 [6]	0/192	0/64
	2009	nd	nd	nd	nd	12 [5]	0/192	0/64
	2018	nd	nd	tr(3)	nd	8 [3]	1/61	1/61
Parlar-62	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2003	nd	nd	nd	nd	4,000 [2,000]	0/186	0/62
	2004	nd	nd	nd	nd	2,000 [400]	0/189	0/63
	2005	nd	nd	nd	nd	2,000 [700]	0/189	0/63
	2006	nd	nd	nd	nd	210 [60]	0/192	0/64
	2007	nd	nd	nd	nd	300 [70]	0/192	0/64
	2008	nd	nd	nd	nd	90 [40]	0/192	0/64
	2009	nd	nd	nd	nd	80 [30]	0/192	0/64
	2018	nd	nd	tr(20)	nd	50 [20]	1/61	1/61

(注 1) ※ : 2003 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注 2) 2010 年度から 2017 年度は調査を実施していない。

<生物>

2-endo,3-exo,5-endo,6-exo,8,8,10,10-オクタクロロボルナン (Parlar-26) : 生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 8pg/g-wet において 3 地点中 2 地点で検出され、検出濃度は tr(15)pg/g-wet までの範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 8pg/g-wet において 18 地点中 12 地点で検出され、検出濃度は 280pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 8pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 53~54pg/g-wet の範囲であった。

2-endo,3-exo,5-endo,6-exo,8,8,9,10,10-ノナクロロボルナン (Parlar-50) : 生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 6pg/g-wet において 3 地点中 2 地点で検出され、検出濃度は 17pg/g-wet までの範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 6pg/g-wet において 18 地点中 16 地点で検出され、検出濃度は 300pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 6pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は tr(11)~tr(13)pg/g-wet の範囲であった。

2,2,5,5,8,9,9,10,10-ノナクロロボルナン (Parlar-62) : 生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 40pg/g-wet において 3 地点全てで検出されなかった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 40pg/g-wet において 18 地点中 3 地点で検出され、検出濃度は 150pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 40pg/g-wet において 2 地点全てで検出されなかった。

○2003 年度から 2018 年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての Parlar-26、Parlar-50 及び Parlar-62 の検出状況

Parlar-26	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2003	nd	nd	tr(39)	nd	45 [15]	11/30	3/6
	2004	nd	nd	tr(32)	nd	42 [14]	15/31	3/7
	2005	nd	nd	tr(28)	nd	47 [16]	7/31	4/7
	2006	tr(9)	tr(12)	25	nd	18 [7]	21/31	5/7
	2007	tr(7)	tr(8)	20	nd	10 [4]	26/31	6/7
	2008	tr(7)	tr(8)	22	nd	9 [3]	27/31	7/7
	2009	9	9	23	nd	7 [3]	27/31	7/7
	2015	tr(10)	tr(15)	tr(17)	nd	23 [9]	2/3	2/3
	2018	tr(10)	tr(15)	tr(15)	nd	21 [8]	2/3	2/3
魚類 (pg/g-wet)	2003	tr(28)	tr(24)	810	nd	45 [15]	44/70	11/14
	2004	43	tr(41)	1,000	nd	42 [14]	54/70	13/14
	2005	tr(42)	53	900	nd	47 [16]	50/75	13/16
	2006	41	44	880	nd	18 [7]	70/80	15/16
	2007	24	32	690	nd	10 [4]	64/80	14/16
	2008	35	33	730	nd	9 [3]	79/85	17/17
	2009	25	20	690	nd	7 [3]	82/90	18/18
	2015	26	28	400	nd	23 [9]	13/19	13/19
	2018	tr(17)	tr(17)	280	nd	21 [8]	12/18	12/18
鳥類 (pg/g-wet)	2003	120	650	2,500	nd	45 [15]	5/10	1/2
	2004	70	340	810	nd	42 [14]	5/10	1/2
	2005	86	380	1,200	nd	47 [16]	5/10	1/2
	2006	48	290	750	nd	18 [7]	5/10	1/2
	2007	34	280	650	nd	10 [4]	5/10	1/2
	2008	38	320	1,200	nd	9 [3]	6/10	2/2
	2009	26	200	500	nd	7 [3]	6/10	2/2
	2015※※	---	---	tr(10)	tr(10)	23 [9]	1/1	1/1
2018※※	53	---	54	53	21 [8]	2/2	2/2	

Parlar-50	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2003	tr(12)	tr(12)	58	nd	33 [11]	17/30	4/6
	2004	tr(15)	nd	tr(45)	nd	46 [15]	15/31	3/7
	2005	nd	nd	tr(38)	nd	54 [18]	9/31	4/7
	2006	tr(10)	14	32	nd	14 [5]	24/31	6/7
	2007	9	10	37	nd	9 [3]	27/31	7/7
	2008	tr(7)	tr(6)	23	nd	10 [4]	23/31	6/7
	2009	9	9	31	nd	8 [3]	27/31	7/7
	2015	tr(11)	tr(15)	tr(16)	nd	30 [10]	2/3	2/3
	2018	tr(9)	16	17	nd	16 [6]	2/3	2/3
魚類 (pg/g-wet)	2003	35	34	1,100	nd	33 [11]	55/70	14/14
	2004	60	61	1,300	nd	46 [15]	59/70	14/14
	2005	tr(52)	66	1,400	nd	54 [18]	55/80	13/16
	2006	56	52	1,300	nd	14 [5]	79/80	16/16
	2007	35	41	1,100	nd	9 [3]	77/80	16/16
	2008	44	45	1,000	nd	10 [4]	77/85	17/17
	2009	30	23	910	nd	8 [3]	85/90	18/18
	2015	tr(25)	tr(13)	640	nd	30 [10]	13/19	13/19
	2018	22	20	300	nd	16 [6]	16/18	16/18
鳥類 (pg/g-wet)	2003	110	850	3,000	nd	33 [11]	5/10	1/2
	2004	83	440	1,000	nd	46 [15]	5/10	1/2
	2005	100	480	1,500	nd	54 [18]	5/10	1/2
	2006	46	380	1,000	nd	14 [5]	5/10	1/2
	2007	34	360	930	nd	9 [3]	5/10	1/2
	2008	49	410	1,600	nd	10 [4]	5/10	1/2
	2009	29	250	620	nd	8 [3]	5/10	1/2
	2015※※	---	---	nd	nd	30 [10]	0/1	0/1
2018※※	tr(12)	---	tr(13)	tr(11)	16 [6]	2/2	2/2	
Parlar-62	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
貝類 (pg/g-wet)	2003	nd	nd	nd	nd	120 [40]	0/30	0/6
	2004	nd	nd	nd	nd	98 [33]	0/31	0/7
	2005	nd	nd	nd	nd	100 [34]	0/31	0/7
	2006	nd	nd	nd	nd	70 [30]	0/31	0/7
	2007	nd	nd	nd	nd	70 [30]	0/31	0/7
	2008	nd	nd	nd	nd	80 [30]	0/31	0/7
	2009	nd	nd	nd	nd	70 [20]	0/31	0/7
	2015	nd	nd	nd	nd	150 [60]	0/3	0/3
	2018	nd	nd	nd	nd	100 [40]	0/3	0/3
魚類 (pg/g-wet)	2003	nd	nd	580	nd	120 [40]	9/70	3/14
	2004	nd	nd	870	nd	98 [33]	24/70	7/14
	2005	nd	nd	830	nd	100 [34]	23/80	8/16
	2006	tr(30)	nd	870	nd	70 [30]	28/80	10/16
	2007	tr(30)	nd	530	nd	70 [30]	22/80	7/16
	2008	tr(30)	nd	590	nd	80 [30]	31/85	8/17
	2009	tr(20)	nd	660	nd	70 [20]	24/90	8/18
	2015	nd	nd	320	nd	150 [60]	2/19	2/19
	2018	nd	nd	150	nd	100 [40]	3/18	3/18
鳥類 (pg/g-wet)	2003	tr(96)	200	530	nd	120 [40]	5/10	1/2
	2004	tr(64)	110	280	nd	98 [33]	5/10	1/2
	2005	tr(78)	130	460	nd	100 [34]	5/10	1/2
	2006	70	120	430	nd	70 [30]	5/10	1/2
	2007	tr(60)	100	300	nd	70 [30]	5/10	1/2
	2008	tr(70)	130	360	nd	80 [30]	5/10	1/2
	2009	tr(40)	80	210	nd	70 [20]	5/10	1/2
	2015※※	---	---	nd	nd	150 [60]	0/1	0/1
2018※※	nd	---	nd	nd	100 [40]	0/2	0/2	

(注1) ※：2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2015年度における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2009年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2010年度から2014年度、2016年度及び2017年度は調査を実施していない。

<大気>

2-endo,3-exo,5-endo,6-exo,8,8,10,10-オクタクロロボルナン (Parlar-26) : 大気については、37 地点を調査し、検出下限値 0.2pg/m<sup>3</sup>において 37 地点中 12 地点で検出され、検出濃度は tr(0.3)pg/m<sup>3</sup>までの範囲であった。

2-endo,3-exo,5-endo,6-exo,8,8,9,10,10-ノナクロロボルナン (Parlar-50) : 大気については、37 地点を調査し、検出下限値 0.2pg/m<sup>3</sup>において 37 地点中 2 地点で検出され、検出濃度は tr(0.2)pg/m<sup>3</sup>までの範囲であった。

2,2,5,5,8,9,9,10,10-ノナクロロボルナン (Parlar-62) : 大気については、37 地点を調査し、検出下限値 0.2pg/m<sup>3</sup>において 37 地点全てで検出されなかった。

○2003 年度から 2018 年度における大気についての Parlar-26、Parlar-50 及び Parlar-62 の検出状況

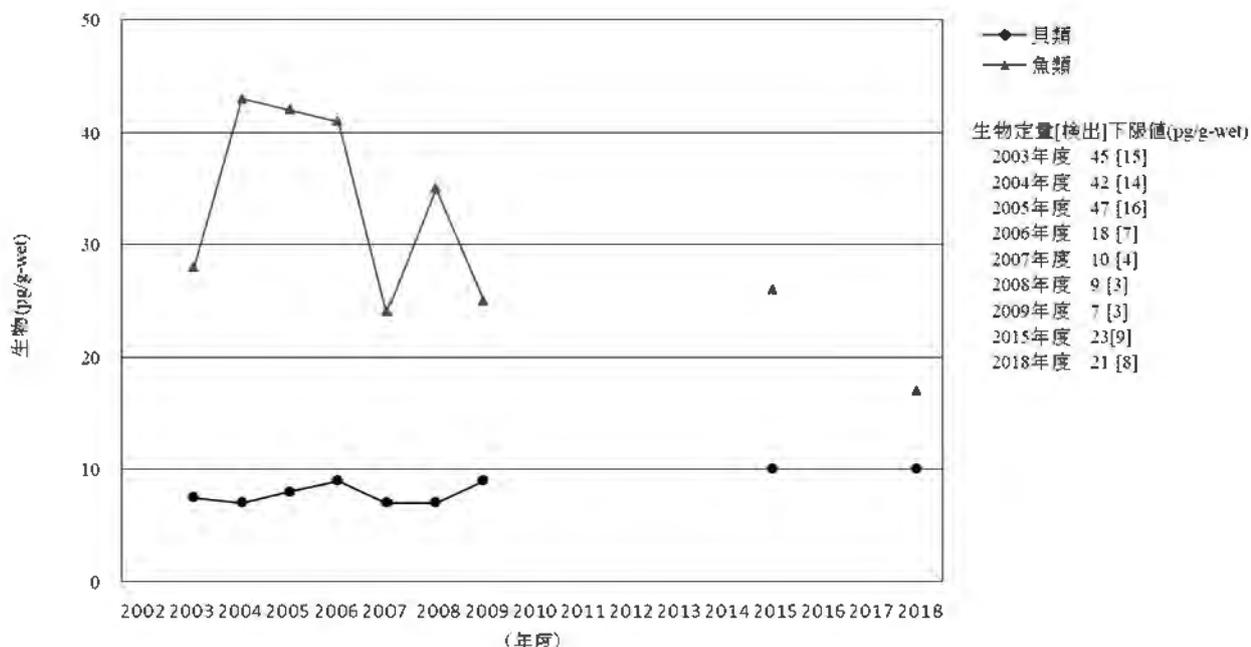
Parlar-26	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2003 温暖期	0.31	0.31	0.77	tr(0.17)	0.20 [0.066]	35/35	35/35
	2003 寒冷期	tr(0.17)	tr(0.17)	0.27	tr(0.091)		34/34	34/34
	2004 温暖期	0.27	0.26	0.46	tr(0.17)	0.20 [0.066]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	tr(0.15)	tr(0.15)	0.50	tr(0.094)		37/37	37/37
	2005 温暖期	nd	nd	nd	nd	0.3 [0.1]	0/37	0/37
	2005 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2006 温暖期	nd	nd	nd	nd	1.8 [0.6]	0/37	0/37
	2006 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2007 温暖期	nd	nd	tr(0.3)	nd	0.6 [0.2]	18/36	18/36
	2007 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/36	0/36
	2008 温暖期	tr(0.21)	0.22	0.58	tr(0.12)	0.22 [0.08]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	tr(0.11)	tr(0.12)	tr(0.20)	nd		36/37	36/37
	2009 温暖期	tr(0.18)	tr(0.19)	0.26	tr(0.11)	0.23 [0.09]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	tr(0.12)	tr(0.13)	0.27	nd		33/37	33/37
	2018 温暖期	nd	nd	tr(0.3)	nd	0.4 [0.2]	12/37	12/37
	Parlar-50	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2003 温暖期	nd	nd	tr(0.37)	nd	0.81 [0.27]	2/35	2/35
	2003 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/34	0/34
	2004 温暖期	nd	nd	nd	nd	1.2 [0.4]	0/37	0/37
	2004 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2005 温暖期	nd	nd	nd	nd	0.6 [0.2]	0/37	0/37
	2005 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2006 温暖期	nd	nd	nd	nd	1.6 [0.5]	0/37	0/37
	2006 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2007 温暖期	nd	tr(0.1)	tr(0.2)	nd	0.3 [0.1]	29/36	29/36
	2007 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/36	0/36
	2008 温暖期	nd	nd	tr(0.19)	nd	0.25 [0.09]	15/37	15/37
	2008 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2009 温暖期	nd	nd	tr(0.1)	nd	0.3 [0.1]	11/37	11/37
	2009 寒冷期	nd	nd	tr(0.1)	nd		1/37	1/37
	2018 温暖期	nd	nd	tr(0.2)	nd	0.5 [0.2]	2/37	2/37

(注) 2010 年度から 2017 年度は調査を実施していない。

Parlar-62	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2003 温暖期	nd	nd	nd	nd	1.6 [0.52]	0/35	0/35
	2003 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/34	0/34
	2004 温暖期	nd	nd	nd	nd	2.4 [0.81]	0/37	0/37
	2004 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2005 温暖期	nd	nd	nd	nd	1.2 [0.4]	0/37	0/37
	2005 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2006 温暖期	nd	nd	nd	nd	8 [3]	0/37	0/37
	2006 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2007 温暖期	nd	nd	nd	nd	1.5 [0.6]	0/36	0/36
	2007 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/36	0/36
	2008 温暖期	nd	nd	nd	nd	1.6 [0.6]	0/37	0/37
	2008 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2009 温暖期	nd	nd	nd	nd	1.6 [0.6]	0/37	0/37
	2009 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2018 温暖期	nd	nd	nd	nd	0.4 [0.2]	0/37	0/37

(注) 2010 年度から 2017 年度は調査を実施していない。

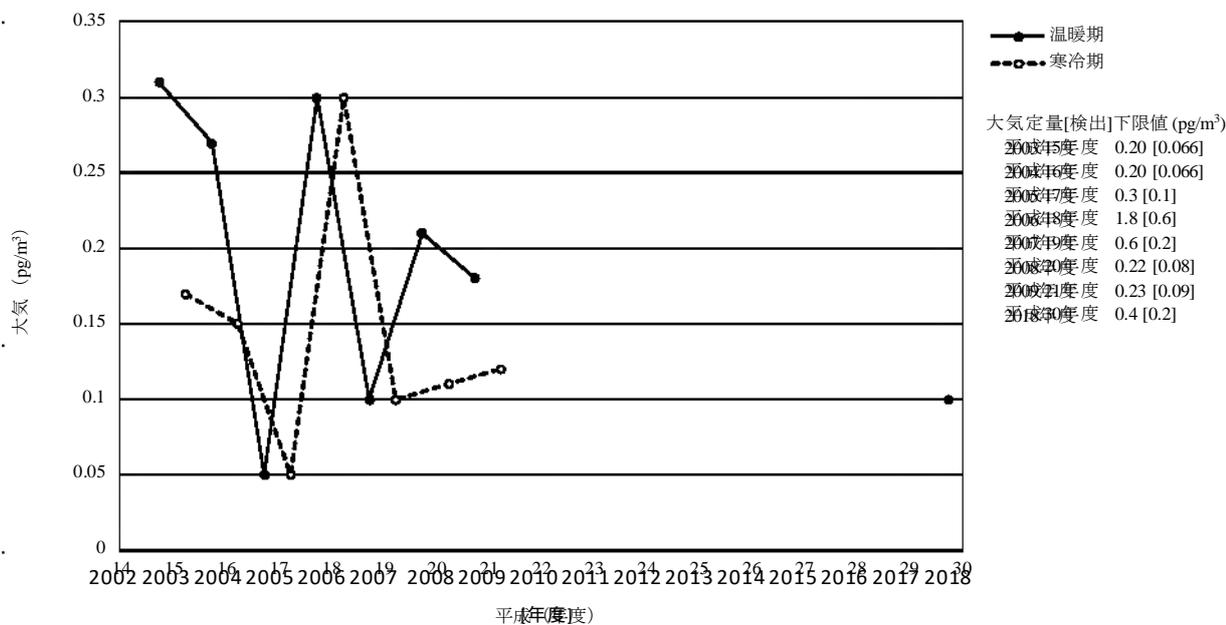
[9-1] Parlar-26



- (注 1) 2003 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注 2) 鳥類は 2013 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから 2009 年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。  
 (注 3) 2002 年度、2010 年度から 2014 年度、2016 年度及び 2017 年度は調査を実施していない。  
 (注 4) 2003 年度から 2005 年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の 1/2 の値を図示した。

図 3-9-1-1 トキサフェン Parlar-26 の生物の経年変化 (幾何平均値)

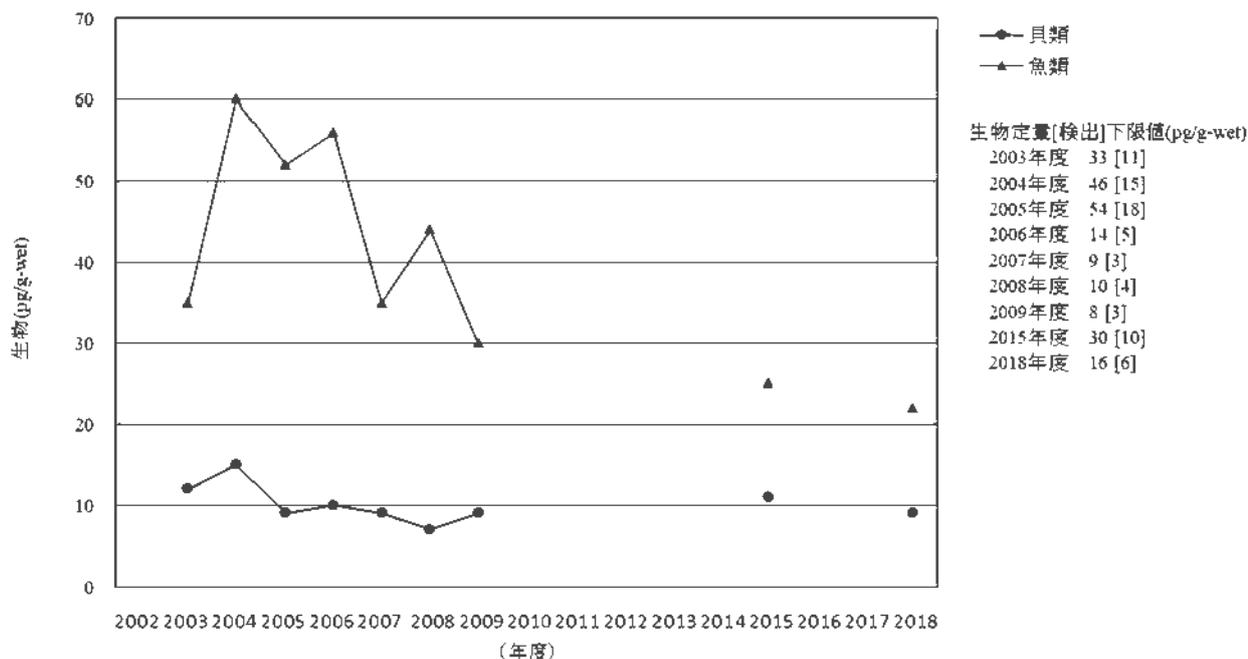
[9-1] Parlar-26



- (注 1) 2002 年度及び 2010 年度から 2017 年度は調査を実施していない。  
 (注 2) 2005 年度、2006 年度、2007 年度及び 2018 年度は温暖期及び寒冷期とも幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の 1/2 の値を図示した。

図 3-9-1-2 トキサフェン Parlar-26 の大気の経年変化 (幾何平均値)

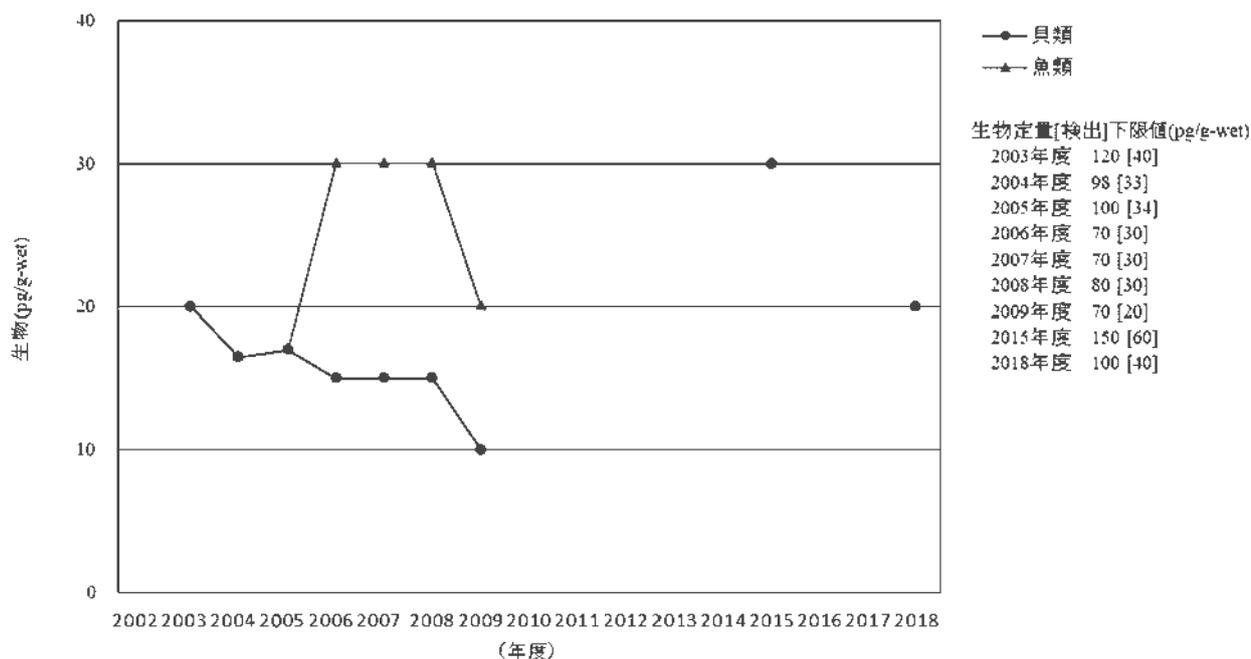
[9-2] Parlar-50



- (注1) 2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2009年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2002年度、2010年度から2014年度、2016年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 3-9-2-1 トキサフェン Parlar-50 の生物の経年変化（幾何平均値）

[9-3] Parlar-62



- (注1) 2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2009年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2002年度、2010年度から2014年度、2016年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 3-9-3-1 トキサフェン Parlar-62 の生物の経年変化（幾何平均値）

## [10] マイレックス

### ・調査の経緯及び実施状況

マイレックスは、米国で開発された有機塩素系殺虫剤で、海外では難燃剤としても使用されている。日本では農薬登録されたことはなく、国内での製造・輸入実績はない。2002年9月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、POPs条約においては、2004年に条約が発効された当初から条約対象物質に指定されている。

継続的調査としては2003年度が初めての調査であり、2002年度までの調査として「化学物質環境調査」<sup>iv)</sup>では、1983年度に水質及び底質を調査している。

2002年度以降のモニタリング調査においては、2003年度から2009年度の毎年度、2011年度及び2018年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を実施している。

### ・調査結果

#### <水質>

水質については、47地点を調査し、検出下限値0.3 pg/Lにおいて47地点中3地点で検出され、検出濃度は1.0 pg/Lまでの範囲であった。

#### ○2003年度から2018年度における水質についてのマイレックスの検出状況

マイレックス	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2003	tr(0.13)	tr(0.12)	0.8	nd	0.3 [0.09]	25/36	25/36
	2004	nd	nd	1.1	nd	0.4 [0.2]	18/38	18/38
	2005	nd	nd	1.0	nd	0.4 [0.1]	14/47	14/47
	2006	nd	nd	0.07	nd	1.6 [0.5]	1/48	1/48
	2007	nd	nd	tr(0.5)	nd	1.1 [0.4]	2/48	2/48
	2008	nd	nd	0.7	nd	0.6 [0.2]	4/48	4/48
	2009	nd	nd	0.5	nd	0.4 [0.2]	8/49	8/49
	2011	nd	nd	0.8	nd	0.5 [0.2]	3/49	3/49
	2018	nd	nd	1.0	nd	0.7 [0.3]	3/47	3/47

(注) 2010年度及び2012年度から2017年度は調査を実施していない。

#### <底質>

底質については、61地点を調査し、検出下限値0.3 pg/g-dryにおいて61地点中44地点で検出され、検出濃度は240 pg/g-dryまでの範囲であった。

#### ○2003年度から2018年度における底質についてのマイレックスの検出状況

マイレックス	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2003	2	tr(1.6)	1,500	nd	2 [0.4]	137/186	51/62
	2004	2	tr(1.6)	220	nd	2 [0.5]	153/189	55/63
	2005	1.8	1.2	5,300	nd	0.9 [0.3]	134/189	48/63
	2006	1.7	1.2	640	nd	0.6 [0.2]	156/192	57/64
	2007	1.5	0.9	200	nd	0.9 [0.3]	147/192	55/64
	2008	1.4	1.1	820	nd	0.7 [0.3]	117/192	48/64
	2009	1.4	1.3	620	nd	1.0 [0.4]	126/192	49/64
	2011	1.2	0.9	1,900	nd	0.9 [0.4]	42/64	42/64
	2018	1.1	0.9	240	nd	0.8 [0.3]	44/61	44/61

(注1) ※：2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度及び2012年度から2017年度は調査を実施していない。

<生物>

生物のうち貝類については、3地点を調査し、検出下限値 0.5pg/g-wet において3地点全てで検出され、検出濃度は 1.8~20pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18地点を調査し、検出下限値 0.5pg/g-wet において18地点全てで検出され、検出濃度は 1.9~70pg/g-wet の範囲であった。鳥類については、2地点を調査し、検出下限値 0.5pg/g-wet において2地点全てで検出され、検出濃度は 47~260pg/g-wet の範囲であった。

○2003年度から2018年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についてのマイレックスの検出状況

マイレックス	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2003	4.9	4.2	19	tr(1.6)	2.4 [0.81]	30/30	6/6
	2004	4.4	4.3	12	tr(1.1)	2.5 [0.82]	31/31	7/7
	2005	5.4	5.2	20	tr(1.9)	3.0 [0.99]	31/31	7/7
	2006	5	4	19	tr(2)	3 [1]	31/31	7/7
	2007	5	4	18	tr(2)	3 [1]	31/31	7/7
	2008	4	tr(3)	18	tr(2)	4 [1]	31/31	7/7
	2009	5.9	5.2	21	tr(1.7)	2.1 [0.8]	31/31	7/7
	2011	10	7.1	44	5.2	1.9 [0.8]	4/4	4/4
	2018	4.9	3.2	20	1.8	1.4 [0.5]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2003	8.3	9.0	25	tr(1.7)	2.4 [0.81]	70/70	14/14
	2004	13	11	180	3.8	2.5 [0.82]	70/70	14/14
	2005	13	13	78	tr(1.0)	3.0 [0.99]	80/80	16/16
	2006	11	10	53	tr(2)	3 [1]	80/80	16/16
	2007	9	11	36	tr(1)	3 [1]	80/80	16/16
	2008	11	13	48	tr(1)	4 [1]	85/85	17/17
	2009	8.6	9.6	37	tr(0.9)	2.1 [0.8]	90/90	18/18
	2011	12	15	41	tr(1.3)	1.9 [0.8]	18/18	18/18
	2018	8.2	8.4	70	1.9	1.4 [0.5]	18/18	18/18
鳥類 (pg/g-wet)	2003	120	150	450	31	2.4 [0.81]	10/10	2/2
	2004	61	64	110	33	2.5 [0.82]	10/10	2/2
	2005	77	66	180	41	3.0 [0.99]	10/10	2/2
	2006	77	70	280	39	3 [1]	10/10	2/2
	2007	57	59	100	32	3 [1]	10/10	2/2
	2008	74	68	260	27	4 [1]	10/10	2/2
	2009	49	50	79	32	2.1 [0.8]	10/10	2/2
	2011	---	---	58	58	1.9 [0.8]	1/1	1/1
	2018	110	---	260	47	1.4 [0.5]	2/2	2/2

(注1) ※：2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度及び2012年度から2017年度は調査を実施していない。

<大気>

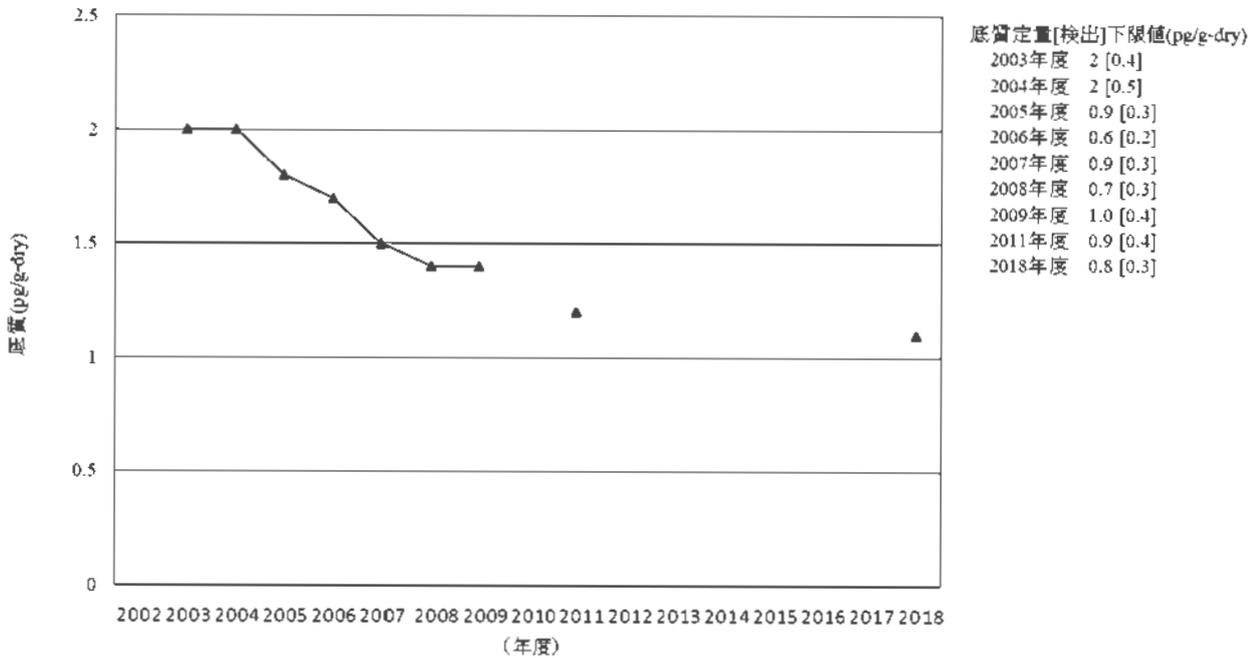
大気については、37 地点を調査し、検出下限値 0.01pg/m<sup>3</sup>において 37 地点全てで検出され、検出濃度は 0.05～0.20pg/m<sup>3</sup>の範囲であった。

○2003 年度から 2018 年度における大気についてのマイレックスの検出状況

マイレックス	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2003 温暖期	0.11	0.12	0.19	0.047	0.0084	35/35	35/35
	2003 寒冷期	0.044	0.043	0.099	0.024	[0.0028]	34/34	34/34
	2004 温暖期	0.099	0.11	0.16	tr(0.042)	0.05 [0.017]	37/37	37/37
	2004 寒冷期	tr(0.046)	tr(0.047)	0.23	tr(0.019)		37/37	37/37
	2005 温暖期	tr(0.09)	tr(0.09)	0.24	tr(0.05)	0.10 [0.03]	37/37	37/37
	2005 寒冷期	tr(0.04)	tr(0.04)	tr(0.08)	nd		29/37	29/37
	2006 温暖期	tr(0.07)	tr(0.10)	0.22	nd	0.13 [0.04]	29/37	29/37
	2006 寒冷期	tr(0.07)	tr(0.07)	2.1	nd		27/37	27/37
	2007 温暖期	0.11	0.11	0.28	0.04	0.03 [0.01]	36/36	36/36
	2007 寒冷期	0.04	0.04	0.09	tr(0.02)		36/36	36/36
	2008 温暖期	0.09	0.09	0.25	0.03	0.03 [0.01]	37/37	37/37
	2008 寒冷期	0.05	0.04	0.08	0.03		37/37	37/37
	2009 温暖期	0.12	0.13	0.48	0.049	0.015 [0.006]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	0.058	0.054	0.18	0.030		37/37	37/37
	2011 温暖期	0.14	0.13	0.25	0.08	0.04 [0.01]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	0.07	0.07	0.11	tr(0.03)		37/37	37/37
	2018 温暖期	0.09	0.09	0.20	0.05	0.03 [0.01]	37/37	37/37

(注) 2010 年度及び 2012 年度から 2017 年度は調査を実施していない。

[10] マイレックス

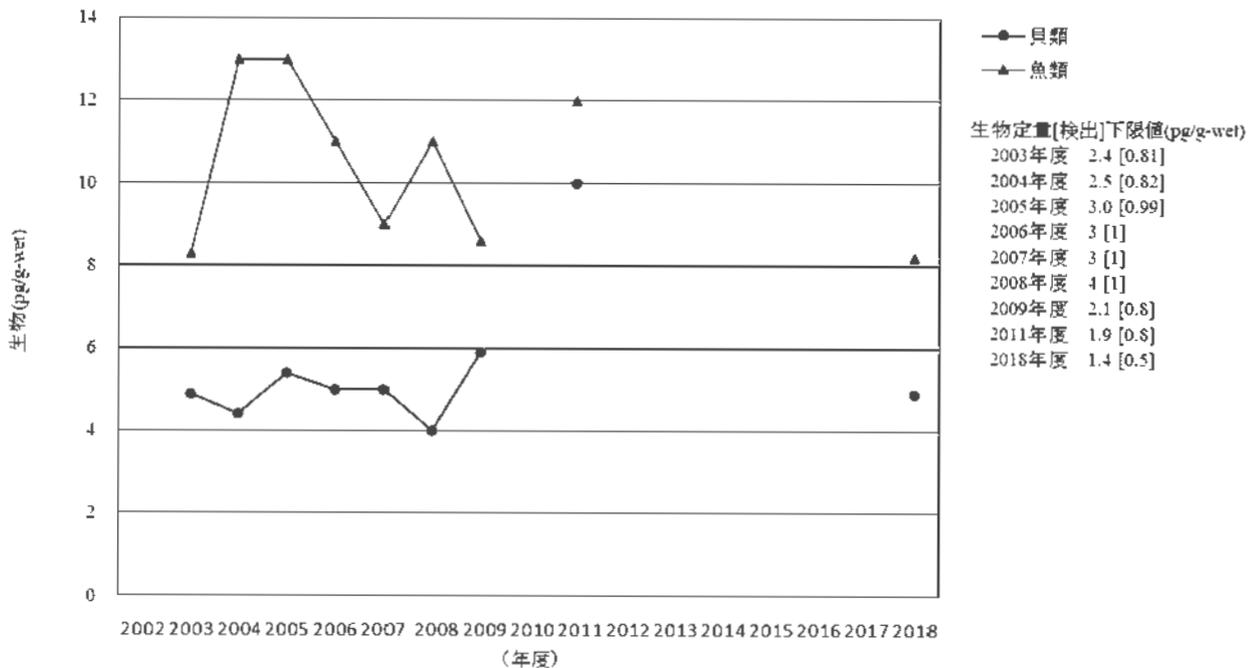


(注1) 2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2002年度、2010年度及び2012年度から2017年度は調査を実施していない。

図 3-10-1 マイレックスの底質の経年変化（幾何平均値）

[10] マイレックス

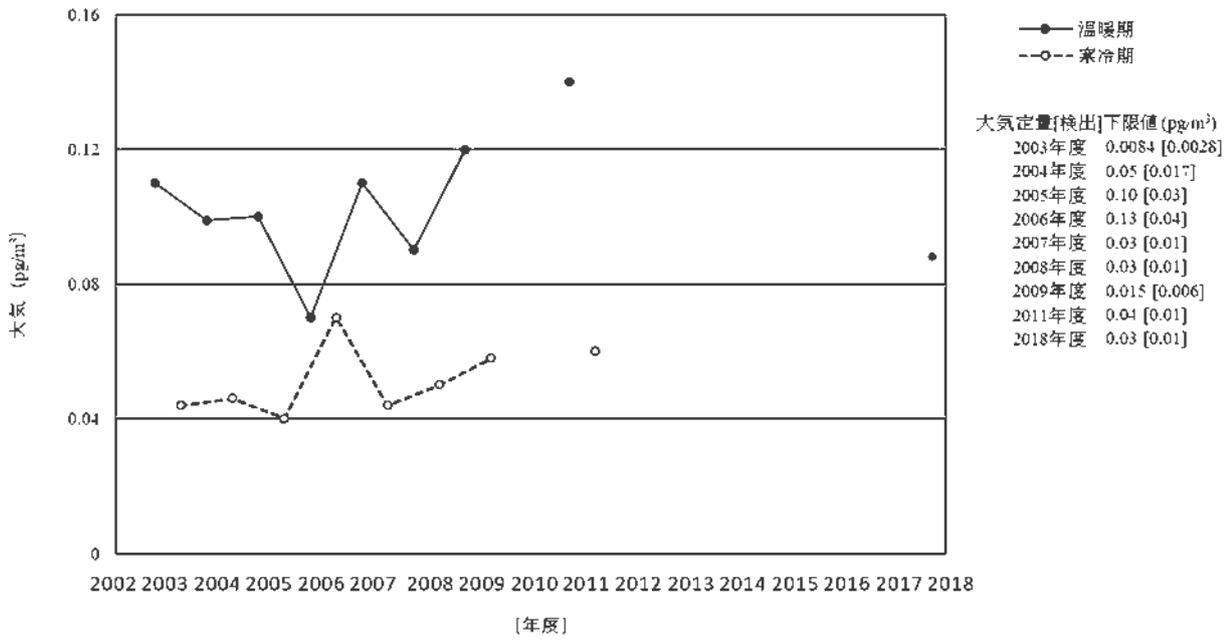


(注1) 2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2002年度、2010年度及び2012年度から2017年度は調査を実施していない。

図 3-10-2 マイレックスの生物の経年変化（幾何平均値）

[10] マイレックス



(注) 2002年度、2010年度及び2012年度から2017年度は調査を実施していない。

図 3-10-3 マイレックスの大気の変動経年変化 (幾何平均値)

## [11] HCH 類 (参考)

### ・調査の経緯及び実施状況

HCH 類は、農薬、殺虫剤及びシロアリ駆除剤等として使用された。1971 年に農薬取締法に基づく登録が失効したが、その後もシロアリ駆除剤や木材処理剤として使われていた。2009 年 5 月に開催された POPs 条約の第 4 回条約締約国会議 (COP4) において、HCH 類のうち  $\alpha$ -HCH、 $\beta$ -HCH 及び  $\gamma$ -HCH (別名：リンデン) について条約対象物質とすることが採択され、2010 年 4 月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。

HCH 類には多くの異性体が存在するが、継続的調査においては  $\alpha$ -体、 $\beta$ -体、 $\gamma$ -体及び  $\delta$ -体の 4 種の異性体を調査対象物質として水質、底質、生物 (貝類、魚類及び鳥類) 並びに大気についてモニタリング調査を実施している。

2001 年度までの継続的調査においては、 $\alpha$ -体及び  $\beta$ -体について「水質・底質モニタリング」<sup>i)</sup> で水質は 1986 年度から 1998 年度まで、底質は 1986 年度から 2001 年度の全期間にわたって調査している。「生物モニタリング」<sup>ii)</sup> では、1978 年度から 1996 年度までの毎年と 1998 年度、2000 年度及び 2001 年度に生物 (貝類、魚類及び鳥類) について調査している ( $\gamma$ -体は 1997 年度以降、 $\delta$ -体は 1993 年度以降未実施)。

2002 年度以降のモニタリング調査では、 $\alpha$ -体及び  $\beta$ -体の水質、底質及び生物 (貝類、魚類及び鳥類) について 2002 年度から、 $\alpha$ -体及び  $\beta$ -体の大気並びに  $\gamma$ -体及び  $\delta$ -体の水質、底質、生物 (貝類、魚類及び鳥類) 及び大気については 2003 年度からそれぞれ調査を開始し、それ以降、2016 年度までの毎年度に水質、底質、生物 (貝類、魚類及び鳥類) 及び大気の調査を実施している。

2018 年度は調査を実施していないため、参考として以下に、2017 年度までの調査結果を示す。

・2017年度までの調査結果（参考）

<水質>

○2002年度から2017年度における水質についての $\alpha$ -HCH、 $\beta$ -HCH、 $\gamma$ -HCH及び $\delta$ -HCHの検出状況

$\alpha$ -HCH	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	86	76	6,500	1.9	0.9 [0.3]	114/114	38/38
	2003	120	120	970	13	3 [0.9]	36/36	36/36
	2004	150	145	5,700	13	6 [2]	38/38	38/38
	2005	90	81	660	16	4 [1]	47/47	47/47
	2006	110	90	2,100	25	3 [1]	48/48	48/48
	2007	76	73	720	13	1.9 [0.6]	48/48	48/48
	2008	78	75	1,100	9	4 [2]	48/48	48/48
	2009	74	73	560	14	1.2 [0.4]	49/49	49/49
	2010	94	75	1,400	14	4 [1]	49/49	49/49
	2011	67	60	1,000	11	7 [3]	49/49	49/49
	2012	65	56	2,200	9.5	1.4 [0.5]	48/48	48/48
	2013	57	55	1,900	9	7 [2]	48/48	48/48
	2014	47	41	700	7.3	4.5 [1.5]	48/48	48/48
	2015	48	40	610	8.7	1.2 [0.4]	48/48	48/48
	2016	38	36	640	5.1	1.1 [0.4]	48/48	48/48
2017	47	45	680	3.7	0.9 [0.4]	47/47	47/47	
$\beta$ -HCH	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2002	210	180	1,600	24	0.9 [0.3]	114/114	38/38
	2003	250	240	1,700	14	3 [0.7]	36/36	36/36
	2004	260	250	3,400	31	4 [2]	38/38	38/38
	2005	200	170	2,300	25	2.6 [0.9]	47/47	47/47
	2006	200	160	2,000	42	1.7 [0.6]	48/48	48/48
	2007	170	150	1,300	18	2.7[0.9]	48/48	48/48
	2008	150	150	1,800	15	1.0 [0.4]	48/48	48/48
	2009	150	150	1,100	18	0.6 [0.2]	49/49	49/49
	2010	180	160	2,500	33	2.0 [0.7]	49/49	49/49
	2011	130	120	840	28	2.0 [0.8]	49/49	49/49
	2012	150	130	820	17	1.4 [0.5]	48/48	48/48
	2013	130	130	1,100	20	7 [2]	48/48	48/48
	2014	100	110	1,100	11	1.0 [0.4]	48/48	48/48
	2015	130	120	1,100	21	1.2 [0.4]	48/48	48/48
	2016	100	96	1,100	12	1.2 [0.4]	48/48	48/48
2017	100	110	830	12	1.8 [0.7]	47/47	47/47	
$\gamma$ -HCH (別名：リンデン)	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2003	92	90	370	32	7 [2]	36/36	36/36
	2004	91	76	8,200	21	20 [7]	38/38	38/38
	2005	48	40	250	tr(8)	14 [5]	47/47	47/47
	2006	44	43	460	tr(9)	18 [6]	48/48	48/48
	2007	34	32	290	5.2	2.1 [0.7]	48/48	48/48
	2008	34	32	340	4	3 [1]	48/48	48/48
	2009	32	26	280	5.1	0.6 [0.2]	49/49	49/49
	2010	26	22	190	tr(5)	6 [2]	49/49	49/49
	2011	23	20	170	3	3 [1]	49/49	49/49
	2012	22	21	440	3.0	1.3 [0.4]	48/48	48/48
	2013	21	17	560	3.2	2.7 [0.8]	48/48	48/48
	2014	18	18	350	3.5	1.2 [0.4]	48/48	48/48
	2015	17	15	110	2.6	0.9 [0.3]	48/48	48/48
	2016	14	13	130	1.8	0.8 [0.3]	48/48	48/48
	2017	17	16	190	2.1	1.4 [0.5]	47/47	47/47
$\delta$ -HCH	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2003	14	14	200	tr(1.1)	2 [0.5]	36/36	36/36
	2004	24	29	670	tr(1.4)	2 [0.7]	38/38	38/38
	2005	1.8	nd	62	nd	1.5 [0.5]	23/47	23/47
	2006	24	18	1,000	2.2	2.0 [0.8]	48/48	48/48
	2007	11	9.7	720	tr(0.7)	1.2 [0.4]	48/48	48/48
	2008	11	10	1,900	tr(1.1)	2.3 [0.9]	48/48	48/48
	2009	10	11	450	tr(0.7)	0.9 [0.4]	49/49	49/49
	2010	16	17	780	0.9	0.8 [0.3]	49/49	49/49
	2011	8.6	8.9	300	0.7	0.4 [0.2]	49/49	49/49
	2012	7.9	6.7	220	tr(0.5)	1.1 [0.4]	48/48	48/48
	2013	8.2	8.9	320	tr(0.6)	1.1 [0.4]	48/48	48/48
	2014	7.1	6.5	590	0.7	0.4 [0.2]	48/48	48/48
	2015	7.2	7.4	310	0.8	0.3 [0.1]	48/48	48/48
	2016	5.5	6.0	920	tr(0.5)	0.8 [0.3]	48/48	48/48
	2017	8.2	8.2	690	tr(0.4)	1.0 [0.4]	47/47	47/47

(注) ※：2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

<底質>

○2002年度から2017年度における底質についての $\alpha$ -HCH、 $\beta$ -HCH、 $\gamma$ -HCH及び $\delta$ -HCHの検出状況

$\alpha$ -HCH	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	150	170	8,200	2.0	1.2 [0.4]	189/189	63/63
	2003	160	170	9,500	2	2 [0.5]	186/186	62/62
	2004	160	180	5,700	tr(1.5)	2 [0.6]	189/189	63/63
	2005	140	160	7,000	3.4	1.7 [0.6]	189/189	63/63
	2006	140	160	4,300	tr(2)	5 [2]	192/192	64/64
	2007	140	150	12,000	tr(1.3)	1.8 [0.6]	192/192	64/64
	2008	140	190	5,200	nd	1.6 [0.6]	191/192	64/64
	2009	120	120	6,300	nd	1.1 [0.4]	191/192	64/64
	2010	140	140	3,700	3.1	2.0 [0.8]	64/64	64/64
	2011	120	140	5,100	1.6	1.5 [0.6]	64/64	64/64
	2012	100	100	3,900	tr(1.1)	1.6 [0.5]	63/63	63/63
	2013	94	98	3,200	tr(0.6)	1.5 [0.5]	63/63	63/63
	2014	84	93	4,300	nd	2.4 [0.8]	62/63	62/63
	2015	97	120	9,600	1.1	0.7 [0.3]	62/62	62/62
	2016	64	77	5,000	1.1	0.9 [0.3]	62/62	62/62
2017	77	86	1,900	1.0	0.5 [0.2]	62/62	62/62	
$\beta$ -HCH	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2002	230	230	11,000	3.9	0.9 [0.3]	189/189	63/63
	2003	250	220	39,000	5	2 [0.7]	186/186	62/62
	2004	240	230	53,000	4	3 [0.8]	189/189	63/63
	2005	200	220	13,000	3.9	2.6 [0.9]	189/189	63/63
	2006	190	210	21,000	2.3	1.3 [0.4]	192/192	64/64
	2007	200	190	59,000	1.6	0.9 [0.3]	192/192	64/64
	2008	190	200	8,900	2.8	0.8 [0.3]	192/192	64/64
	2009	180	170	10,000	2.4	1.3 [0.5]	192/192	64/64
	2010	230	210	8,200	11	2.4 [0.8]	64/64	64/64
	2011	180	210	14,000	3	3 [1]	64/64	64/64
	2012	160	170	8,300	3.7	1.5 [0.6]	63/63	63/63
	2013	160	170	6,900	4.5	0.4 [0.1]	63/63	63/63
	2014	140	140	7,200	2.9	0.9 [0.3]	63/63	63/63
	2015	160	170	5,900	2.5	0.8 [0.3]	62/62	62/62
	2016	130	160	6,000	3.7	0.9 [0.3]	62/62	62/62
2017	140	110	3,400	5.7	1.5 [0.6]	62/62	62/62	
$\gamma$ -HCH (別名：リンデン)	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2003	51	47	4,000	tr(1.4)	2 [0.4]	186/186	62/62
	2004	53	48	4,100	tr(0.8)	2 [0.5]	189/189	63/63
	2005	49	46	6,400	tr(1.8)	2.0 [0.7]	189/189	63/63
	2006	48	49	3,500	tr(1.4)	2.1 [0.7]	192/192	64/64
	2007	42	41	5,200	tr(0.6)	1.2 [0.4]	192/192	64/64
	2008	40	43	2,200	tr(0.7)	0.9 [0.4]	192/192	64/64
	2009	38	43	3,800	nd	0.6 [0.2]	191/192	64/64
	2010	35	30	2,300	tr(1.5)	2.0 [0.7]	64/64	64/64
	2011	35	42	3,500	nd	3 [1]	62/64	62/64
	2012	30	29	3,500	nd	1.3 [0.4]	61/63	61/63
	2013	33	35	2,100	0.9	0.6 [0.2]	63/63	63/63
	2014	27	30	2,600	nd	2.7 [0.9]	61/63	61/63
	2015	29	35	2,800	tr(0.3)	0.5 [0.2]	62/62	62/62
	2016	20	25	3,100	tr(0.7)	0.8 [0.3]	62/62	62/62
	2017	23	25	1,900	tr(0.4)	1.0 [0.4]	62/62	62/62
$\gamma$ -HCH (別名：リンデン)	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2003	42	46	5,400	nd	2 [0.7]	180/186	61/62
	2004	55	55	5,500	tr(0.5)	2 [0.5]	189/189	63/63
	2005	52	63	6,200	nd	1.0 [0.3]	188/189	63/63
	2006	45	47	6,000	nd	1.7 [0.6]	189/192	64/64
	2007	26	28	5,400	nd	5 [2]	165/192	60/64
	2008	41	53	3,300	nd	2 [1]	186/192	64/64
	2009	36	37	5,000	nd	1.2 [0.5]	190/192	64/64
	2010	39	40	3,800	1.3	1.2 [0.5]	64/64	64/64
	2011	37	47	5,000	nd	1.4 [0.5]	63/64	63/64
	2012	28	28	3,100	nd	0.8 [0.3]	62/63	62/63
	2013	31	29	2,500	0.4	0.3 [0.1]	63/63	63/63
	2014	27	26	3,900	0.4	0.4 [0.1]	63/63	63/63
	2015	27	28	2,900	tr(0.4)	0.5 [0.2]	62/62	62/62
	2016	20	24	6,100	nd	0.5 [0.2]	60/62	60/62
	2017	25	22	1,700	tr(0.2)	0.6 [0.2]	62/62	62/62

(注) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

<生物>

○2002年度から2017年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての $\alpha$ -HCH、 $\beta$ -HCH、 $\gamma$ -HCH及び $\delta$ -HCHの検出状況

$\alpha$ -HCH	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2002	67	64	1,100	12	4.2 [1.4]	38/38	8/8
	2003	45	30	610	9.9	1.8 [0.61]	30/30	6/6
	2004	56	25	1,800	tr(12)	13 [4.3]	31/31	7/7
	2005	38	25	1,100	tr(7.1)	11 [3.6]	31/31	7/7
	2006	30	21	390	6	3 [1]	31/31	7/7
	2007	31	17	1,400	8	7 [2]	31/31	7/7
	2008	26	16	380	7	6 [2]	31/31	7/7
	2009	45	21	2,200	9	5 [2]	31/31	7/7
	2010	35	20	730	13	3 [1]	6/6	6/6
	2011	64	33	1,200	13	3 [1]	4/4	4/4
	2012	23	12	340	4.0	3.7 [1.2]	5/5	5/5
	2013	30	25	690	6	3 [1]	5/5	5/5
	2014	16	16	39	7	3 [1]	3/3	3/3
	2015	11	15	25	3.5	3.0 [1.0]	3/3	3/3
	2016	13	20	22	5	3 [1]	3/3	3/3
	2017	15	16	32	6	3 [1]	3/3	3/3
	魚類 (pg/g-wet)	2002	57	56	590	tr(1.9)	4.2 [1.4]	70/70
2003		43	58	590	2.6	1.8 [0.61]	70/70	14/14
2004		57	55	2,900	nd	13 [4.3]	63/70	14/14
2005		42	43	1,000	nd	11 [3.6]	75/80	16/16
2006		44	53	360	tr(2)	3 [1]	80/80	16/16
2007		39	40	730	tr(2)	7 [2]	80/80	16/16
2008		36	47	410	nd	6 [2]	84/85	17/17
2009		39	32	830	tr(2)	5 [2]	90/90	18/18
2010		27	39	250	tr(1)	3 [1]	18/18	18/18
2011		37	54	690	tr(2)	3 [1]	18/18	18/18
2012		24	32	170	nd	3.7 [1.2]	18/19	18/19
2013		32	47	320	tr(2)	3 [1]	19/19	19/19
2014		26	40	210	nd	3 [1]	18/19	18/19
2015		18	26	180	tr(1.3)	3.0 [1.0]	19/19	19/19
2016		15	17	81	nd	3 [1]	18/19	18/19
2017		20	29	130	nd	3 [1]	18/19	18/19
鳥類 (pg/g-wet)		2002	170	130	360	93	4.2 [1.4]	10/10
	2003	73	74	230	30	1.8 [0.61]	10/10	2/2
	2004	190	80	1,600	58	13 [4.3]	10/10	2/2
	2005	76	77	85	67	11 [3.6]	10/10	2/2
	2006	76	75	100	55	3 [1]	10/10	2/2
	2007	75	59	210	43	7 [2]	10/10	2/2
	2008	48	48	61	32	6 [2]	10/10	2/2
	2009	43	42	56	34	5 [2]	10/10	2/2
	2010	260	---	430	160	3 [1]	2/2	2/2
	2011	---	---	48	48	3 [1]	1/1	1/1
	2012	35	---	39	32	3.7 [1.2]	2/2	2/2
	2013※※	46	---	130	16	3 [1]	2/2	2/2
	2014※※	61	---	220	17	3 [1]	2/2	2/2
	2015※※	---	---	13	13	3.0 [1.0]	1/1	1/1
	2016※※	63	---	170	23	3 [1]	2/2	2/2
	2017※※	81	---	930	7	3 [1]	2/2	2/2
	$\beta$ -HCH	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度
貝類 (pg/g-wet)	2002	88	62	1,700	32	12 [4]	38/38	8/8
	2003	78	50	1,100	23	9.9 [3.3]	30/30	6/6
	2004	100	74	1,800	22	6.1 [2.0]	31/31	7/7
	2005	85	56	2,000	20	2.2 [0.75]	31/31	7/7
	2006	81	70	880	11	3 [1]	31/31	7/7
	2007	79	56	1,800	21	7 [3]	31/31	7/7
	2008	73	51	1,100	23	6 [2]	31/31	7/7
	2009	83	55	1,600	27	6 [2]	31/31	7/7
	2010	89	56	1,500	27	3 [1]	6/6	6/6
	2011	130	68	2,000	39	3 [1]	4/4	4/4
	2012	65	37	980	15	2.0 [0.8]	5/5	5/5
	2013	61	47	710	17	2.2 [0.8]	5/5	5/5
	2014	40	35	64	28	2.4 [0.9]	3/3	3/3
	2015	34	45	69	13	3.0 [1.0]	3/3	3/3
	2016	37	47	50	21	3 [1]	3/3	3/3
	2017	39	47	60	21	3 [1]	3/3	3/3

$\beta$ -HCH	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度							
						下限値	検体	地点						
魚類 (pg/g-wet)	2002	110	120	1,800	tr(5)	12 [4]	70/70	14/14						
	2003	81	96	1,100	tr(3.5)	9.9 [3.3]	70/70	14/14						
	2004	110	140	1,100	tr(3.9)	6.1 [2.0]	70/70	14/14						
	2005	95	110	1,300	6.7	2.2 [0.75]	80/80	16/16						
	2006	89	110	1,100	4	3 [1]	80/80	16/16						
	2007	110	120	810	7	7 [3]	80/80	16/16						
	2008	94	150	750	tr(4)	6 [2]	85/85	17/17						
	2009	98	130	970	tr(5)	6 [2]	90/90	18/18						
	2010	81	110	760	5	3 [1]	18/18	18/18						
	2011	100	140	710	4	3 [1]	18/18	18/18						
	2012	72	100	510	6.5	2.0 [0.8]	19/19	19/19						
	2013	80	110	420	7.2	2.2 [0.8]	19/19	19/19						
	2014	75	140	460	4.4	2.4 [0.9]	19/19	19/19						
	2015	56	94	390	6.0	3.0 [1.0]	19/19	19/19						
	2016	41	65	200	5	3 [1]	19/19	19/19						
	2017	54	86	290	4	3 [1]	19/19	19/19						
鳥類 (pg/g-wet)	2002	3,000	3,000	7,300	1,600	12 [4]	10/10	2/2						
	2003	3,400	3,900	5,900	1,800	9.9 [3.3]	10/10	2/2						
	2004	2,300	2,100	4,800	1,100	6.1 [2.0]	10/10	2/2						
	2005	2,500	2,800	6,000	930	2.2 [0.75]	10/10	2/2						
	2006	2,100	2,400	4,200	1,100	3 [1]	10/10	2/2						
	2007	2,000	1,900	3,200	1,400	7 [3]	10/10	2/2						
	2008	2,400	2,000	5,600	1,300	6 [2]	10/10	2/2						
	2009	1,600	1,400	4,200	870	6 [2]	10/10	2/2						
	2010	1,600	---	2,800	910	3 [1]	2/2	2/2						
	2011	---	---	4,500	4,500	3 [1]	1/1	1/1						
	2012	1,400	---	2,600	730	2.0 [0.8]	2/2	2/2						
	2013※※	1,400	---	3,000	610	2.2 [0.8]	2/2	2/2						
	2014※※	290	---	3,600	24	2.4 [0.9]	2/2	2/2						
2015※※	---	---	57	57	3.0 [1.0]	1/1	1/1							
2016※※	1,400	---	2,600	790	3 [1]	2/2	2/2							
2017※※	1,000	---	3,500	300	3 [1]	2/2	2/2							
$\gamma$ -HCH (別名：リンデン)	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度							
							2003	19	18	130	5.2	3.3 [1.1]	30/30	6/6
							2004	tr(24)	tr(16)	230	nd	31 [10]	28/31	7/7
							2005	23	13	370	tr(5.7)	8.4 [2.8]	31/31	7/7
							2006	18	12	140	7	4 [2]	31/31	7/7
							2007	16	10	450	tr(4)	9 [3]	31/31	7/7
							2008	12	10	98	tr(3)	9 [3]	31/31	7/7
							2009	14	12	89	tr(3)	7 [3]	31/31	7/7
							2010	14	9	150	5	3 [1]	6/6	6/6
							2011	26	17	320	5	3 [1]	4/4	4/4
							2012	8.1	3.5	68	3.0	2.3 [0.9]	5/5	5/5
							2013	7.2	3.9	31	tr(2.1)	2.4 [0.9]	5/5	5/5
							2014	7.4	4.8	18	4.6	2.2 [0.8]	3/3	3/3
							2015	7.3	7.8	14	tr(3.6)	4.8 [1.6]	3/3	3/3
							2016	6	5	11	4	3 [1]	3/3	3/3
							2017	4	3	11	tr(2)	3 [1]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2003	16	22	130	tr(1.7)	3.3 [1.1]	70/70	14/14						
	2004	tr(28)	tr(24)	660	nd	31 [10]	55/70	11/14						
	2005	17	17	230	nd	8.4 [2.8]	78/80	16/16						
	2006	19	22	97	tr(2)	4 [2]	80/80	16/16						
	2007	15	15	190	nd	9 [3]	71/80	15/16						
	2008	13	16	96	nd	9 [3]	70/85	15/17						
	2009	14	12	180	nd	7 [3]	81/90	17/18						
	2010	9	13	56	tr(1)	3 [1]	18/18	18/18						
	2011	12	15	160	tr(1)	3 [1]	18/18	18/18						
	2012	7.8	12	43	nd	2.3 [0.9]	18/19	18/19						
	2013	8.6	12	81	nd	2.4 [0.9]	17/19	17/19						
	2014	8.4	14	45	nd	2.2 [0.8]	16/19	16/19						
	2015	6.1	7.9	42	nd	4.8 [1.6]	14/19	14/19						
	2016	5	5	43	nd	3 [1]	18/19	18/19						
	2017	6	9	30	nd	3 [1]	16/19	16/19						

γ-HCH (別名：リンデン)	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度		
							検体	地点	
鳥類 (pg/g-wet)	2003	14	19	40	3.7	3.3 [1.1]	10/10	2/2	
	2004	64	tr(21)	1,200	tr(11)	31 [10]	10/10	2/2	
	2005	18	20	32	9.6	8.4 [2.8]	10/10	2/2	
	2006	16	17	29	8	4 [2]	10/10	2/2	
	2007	21	14	140	tr(8)	9 [3]	10/10	2/2	
	2008	12	14	19	tr(5)	9 [3]	10/10	2/2	
	2009	11	11	21	tr(6)	7 [3]	10/10	2/2	
	2010	10	---	23	4	3 [1]	2/2	2/2	
	2011	---	---	26	26	3 [1]	1/1	1/1	
	2012	11	---	19	6.3	2.3 [0.9]	2/2	2/2	
	2013※※	6.0	---	24	tr(1.5)	2.4 [0.9]	2/2	2/2	
	2014※※	10	---	24	4.4	2.2 [0.8]	2/2	2/2	
	2015※※	---	---	nd	nd	4.8 [1.6]	0/1	0/1	
	2016※※	5	---	14	tr(2)	3 [1]	2/2	2/2	
	2017※※	4	---	20	tr(1)	3 [1]	2/2	2/2	
δ-HCH	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度		
貝類 (pg/g-wet)	2003	7.4	tr(2.6)	1,300	nd	3.9 [1.3]	29/30	6/6	
	2004	6.3	tr(2.1)	1,500	nd	4.6 [1.5]	25/31	6/7	
	2005	5.4	tr(2.1)	1,600	nd	5.1 [1.7]	23/31	6/7	
	2006	6	tr(2)	890	tr(1)	3 [1]	31/31	7/7	
	2007	4	nd	750	nd	4 [2]	12/31	4/7	
	2008	tr(3)	nd	610	nd	6 [2]	7/31	3/7	
	2009	tr(4)	nd	700	nd	5 [2]	14/31	4/7	
	2010	4	tr(2)	870	nd	3 [1]	5/6	5/6	
	2011	9	tr(2)	1,400	tr(1)	3 [1]	4/4	4/4	
	2012	3	tr(1)	580	nd	3 [1]	3/5	3/5	
	2013	3	tr(1)	230	nd	3 [1]	3/5	3/5	
	2014	tr(1)	tr(2)	3	nd	3 [1]	2/3	2/3	
	2015	nd	nd	tr(1.5)	nd	2.1 [0.8]	1/3	1/3	
	2016	tr(1)	tr(1)	tr(2)	tr(1)	3 [1]	3/3	3/3	
	2017	tr(1.7)	tr(1.6)	3.0	tr(1.0)	2.3 [0.9]	3/3	3/3	
	魚類 (pg/g-wet)	2003	tr(3.6)	4.0	16	nd	3.9 [1.3]	59/70	13/14
		2004	tr(4.2)	tr(3.5)	270	nd	4.6 [1.5]	54/70	11/14
2005		tr(3.2)	tr(3.1)	32	nd	5.1 [1.7]	55/80	12/16	
2006		4	3	35	nd	3 [1]	72/80	16/16	
2007		tr(3)	tr(2)	31	nd	4 [2]	42/80	10/16	
2008		tr(4)	tr(3)	77	nd	6 [2]	54/85	12/17	
2009		tr(3)	tr(3)	18	nd	5 [2]	57/90	13/18	
2010		tr(2)	tr(2)	36	nd	3 [1]	13/18	13/18	
2011		3	4	19	nd	3 [1]	14/18	14/18	
2012		tr(2)	tr(2)	12	nd	3 [1]	14/19	14/19	
2013		3	tr(2)	40	nd	3 [1]	14/19	14/19	
2014		tr(2)	tr(2)	23	nd	3 [1]	14/19	14/19	
2015		tr(1.7)	tr(1.8)	17	nd	2.1 [0.8]	12/19	12/19	
2016		tr(2)	tr(2)	10	nd	3 [1]	17/19	17/19	
2017	2.4	2.4	23	nd	2.3 [0.9]	15/19	15/19		
鳥類 (pg/g-wet)	2003	19	18	31	12	3.9 [1.3]	10/10	2/2	
	2004	30	14	260	6.4	4.6 [1.5]	10/10	2/2	
	2005	16	15	30	10	5.1 [1.7]	10/10	2/2	
	2006	13	12	21	9	3 [1]	10/10	2/2	
	2007	12	10	22	4	4 [2]	10/10	2/2	
	2008	9	8	31	tr(3)	6 [2]	10/10	2/2	
	2009	5	6	9	tr(3)	5 [2]	10/10	2/2	
	2010	12	---	13	11	3 [1]	2/2	2/2	
	2011	---	---	5	5	3 [1]	1/1	1/1	
	2012	4	---	7	tr(2)	3 [1]	2/2	2/2	
	2013※※	3	---	4	tr(2)	3 [1]	2/2	2/2	
	2014※※	tr(2)	---	3	tr(1)	3 [1]	2/2	2/2	
	2015※※	---	---	nd	nd	2.1 [0.8]	0/1	0/1	
	2016※※	tr(1)	---	tr(2)	tr(1)	3 [1]	2/2	2/2	
	2017※※	nd	---	tr(1.0)	nd	2.3 [0.9]	1/2	1/2	

(注1) ※：2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2013年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と継続性がない。

<大気>

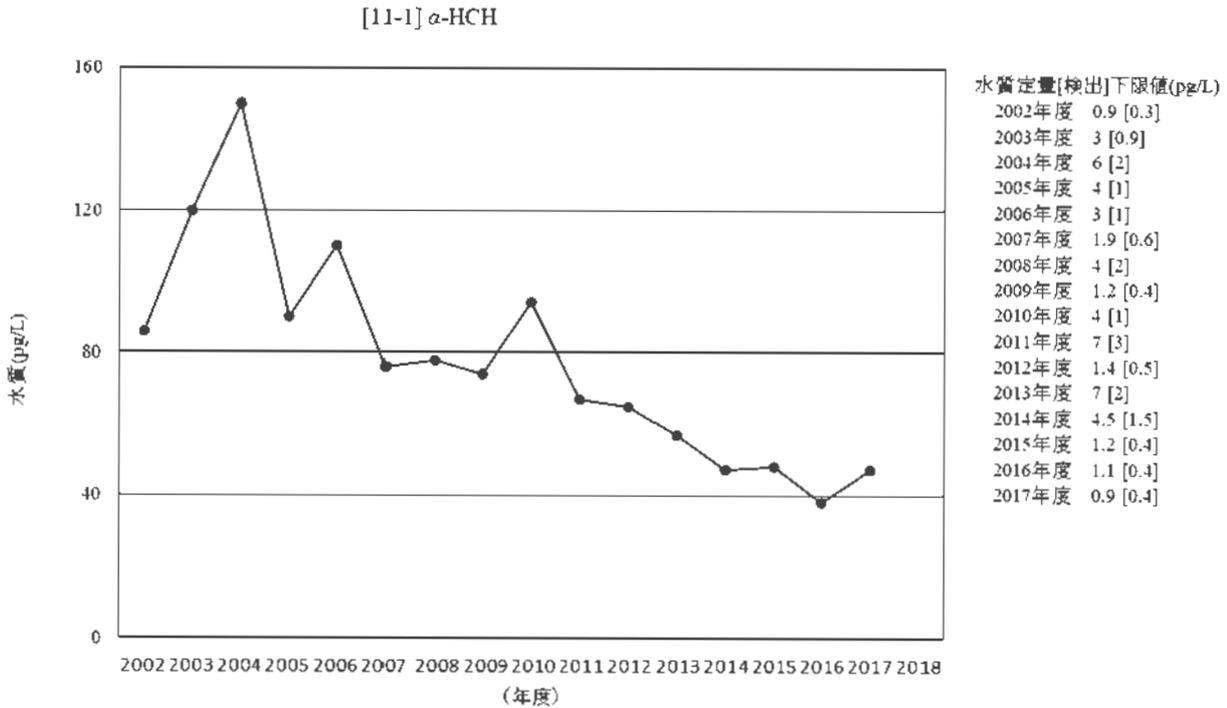
○2009年度から2017年度における大気についての $\alpha$ -HCH、 $\beta$ -HCH、 $\gamma$ -HCH及び $\delta$ -HCHの検出状況

$\alpha$ -HCH	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2009 温暖期	58	58	340	19	0.12 [0.05]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	21	18	400	7.8		37/37	37/37
	2010 温暖期	46	51	280	14	1.4 [0.47]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	19	16	410	6.8		37/37	37/37
	2011 温暖期	43	44	410	9.5	2.5 [0.83]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	18	15	680	6.5		37/37	37/37
	2012 温暖期	37	37	250	15	2.1 [0.7]	36/36	36/36
	2012 寒冷期	12	11	120	4.4		36/36	36/36
	2013 温暖期	36	39	220	13	5.2 [1.7]	36/36	36/36
	2013 寒冷期	10	8.8	75	tr(3.9)		36/36	36/36
	2014 温暖期	44	40	650	14	0.19 [0.06]	36/36	36/36
	2015 温暖期	33	32	300	8.8	0.17 [0.06]	35/35	35/35
	2016 温暖期	39	35	520	5.4	0.17 [0.07]	37/37	37/37
	2017 温暖期	36	37	700	4.9	0.08 [0.03]	37/37	37/37
	$\beta$ -HCH	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2009 温暖期	5.6	5.6	28	0.96	0.09 [0.03]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	1.8	1.8	24	0.31		37/37	37/37
	2010 温暖期	5.6	6.2	34	0.89	0.27 [0.09]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	1.7	1.7	29	tr(0.26)		37/37	37/37
	2011 温暖期	5.0	5.2	49	0.84	0.39 [0.13]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	1.7	1.7	91	tr(0.31)		37/37	37/37
	2012 温暖期	5.0	5.5	32	0.65	0.36 [0.12]	36/36	36/36
	2012 寒冷期	0.93	1.1	8.5	tr(0.26)		36/36	36/36
	2013 温暖期	4.7	5.7	37	0.66	0.21 [0.07]	36/36	36/36
	2013 寒冷期	0.97	0.95	6.7	tr(0.17)		36/36	36/36
	2014 温暖期	5.4	6.8	74	0.57	0.24 [0.08]	36/36	36/36
	2015 温暖期	3.0	3.0	34	0.36	0.25 [0.08]	35/35	35/35
	2016 温暖期	4.8	5.6	64	0.3	0.3 [0.1]	37/37	37/37
	2017 温暖期	4.1	5.1	59	0.67	0.11 [0.04]	37/37	37/37
	$\gamma$ -HCH (別名：リンデン)	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2009 温暖期	17	19	65	2.9	0.06 [0.02]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	5.6	4.6	55	1.5		37/37	37/37
	2010 温暖期	14	16	66	2.3	0.35 [0.12]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	4.8	4.4	60	1.1		37/37	37/37
	2011 温暖期	14	17	98	2.7	1.6 [0.52]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	5.1	4.8	67	tr(1.1)		37/37	37/37
	2012 温暖期	13	15	55	2.3	0.95 [0.32]	36/36	36/36
	2012 寒冷期	3.1	3.2	19	tr(0.63)		36/36	36/36
	2013 温暖期	12	14	58	tr(2.0)	2.2 [0.7]	36/36	36/36
	2013 寒冷期	2.8	3.0	12	nd		34/36	34/36
	2014 温暖期	14	16	100	1.7	0.17 [0.06]	36/36	36/36
	2015 温暖期	8.3	10	51	1.4	0.19 [0.06]	35/35	35/35
	2016 温暖期	12	13	89	0.79	0.18 [0.07]	37/37	37/37
	2017 温暖期	10	11	93	0.84	0.10 [0.04]	37/37	37/37

$\delta$ -HCH	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2009 温暖期	1.3	1.3	21	0.09	0.04 [0.02]	37/37	37/37
	2009 寒冷期	0.36	0.33	20	0.04		37/37	37/37
	2010 温暖期	1.4	1.3	25	0.11	0.05 [0.02]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	0.38	0.35	22	0.05		37/37	37/37
	2011 温暖期	1.1	1.1	33	0.11	0.063 [0.021]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	0.35	0.34	26	tr(0.050)		37/37	37/37
	2012 温暖期	1.0	1.3	20	tr(0.06)	0.07 [0.03]	36/36	36/36
	2012 寒冷期	0.18	0.19	7.3	nd		35/36	35/36
	2013 温暖期	1.0	1.1	20	tr(0.05)	0.08 [0.03]	36/36	36/36
	2013 寒冷期	0.17	0.17	5.3	nd		34/36	34/36
	2014 温暖期	1.2	1.3	50	tr(0.07)	0.19 [0.06]	36/36	36/36
	2015 温暖期	0.55	0.71	22	nd	0.15 [0.05]	32/35	32/35
	2016 温暖期	1.0	1.2	46	nd	0.20 [0.08]	35/37	35/37
	2017 温暖期	0.8	0.92	46	nd	0.08 [0.03]	36/37	36/37

(注) 2003 年度から 2008 年度に用いた大気試料採取装置の一部から HCH 類が検出され、HCH 類の測定に影響を及ぼすことが判明したが、個別のデータについて影響を遡って判断することが困難であるためこの期間の全てのデータについて欠測扱いとすることとした。

(参考)

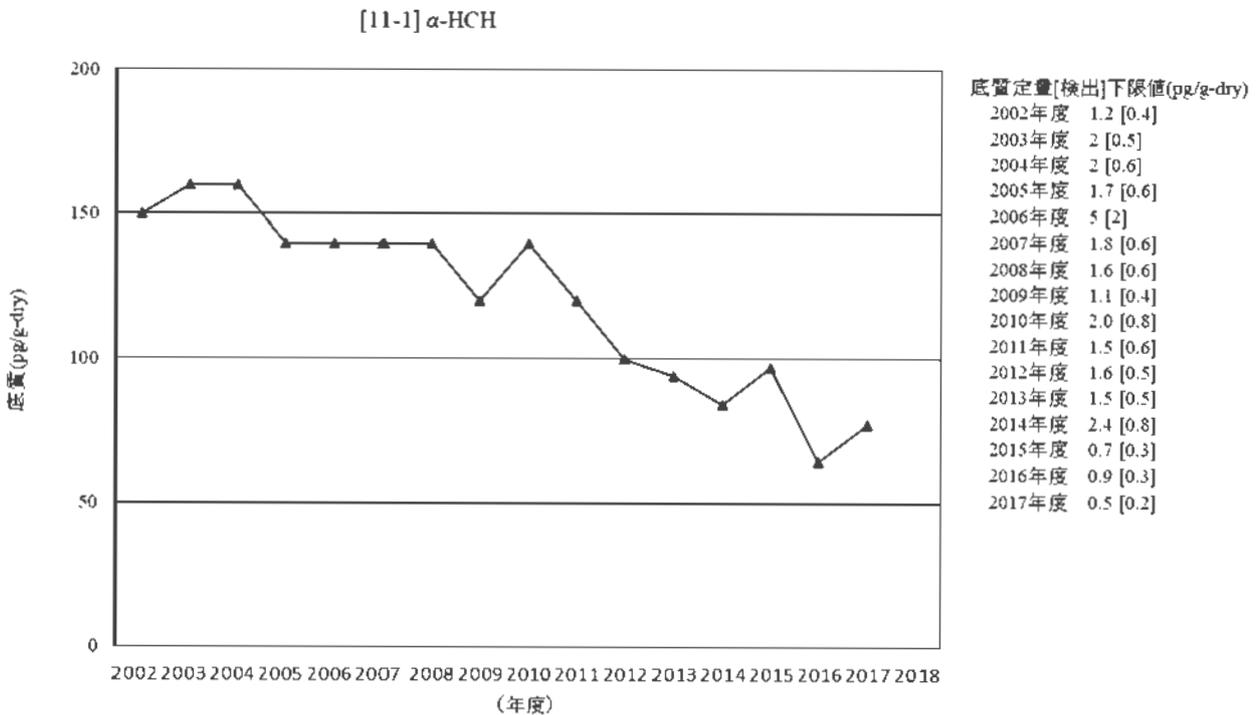


(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2018年度は調査を実施していない。

図 3-11-1-1  $\alpha$ -HCH の水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

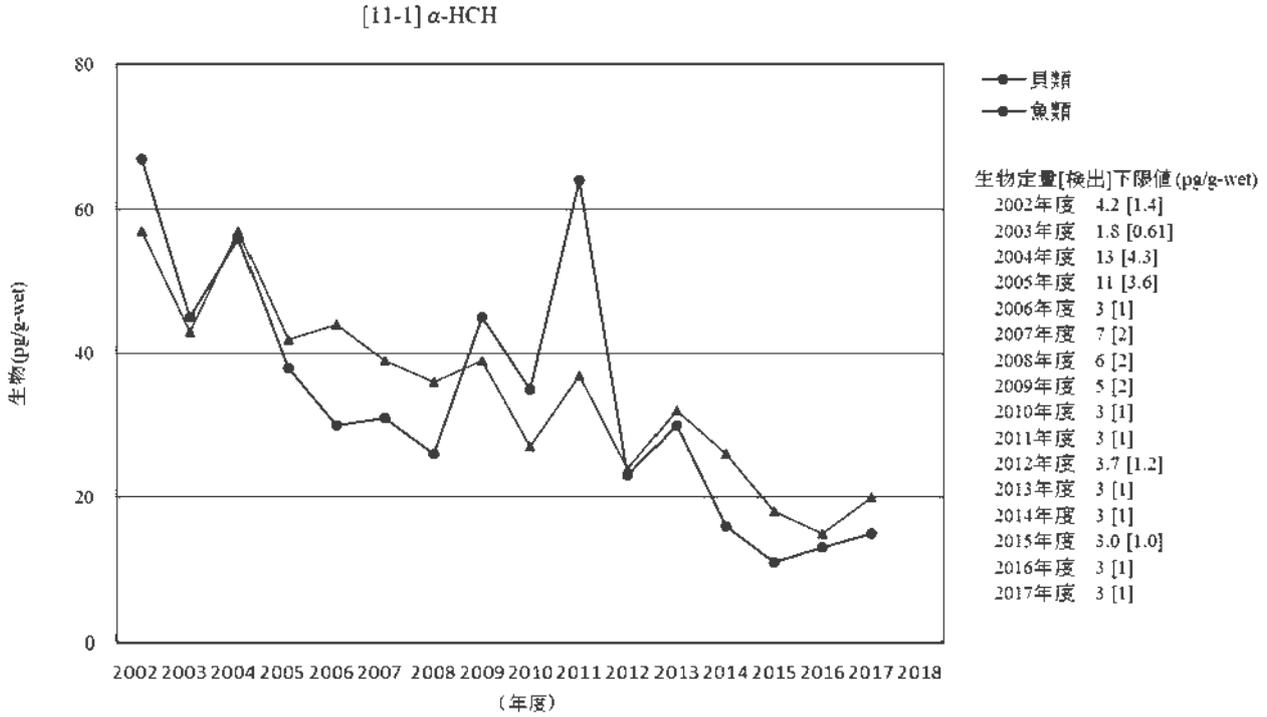


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2018年度は調査を実施していない。

図 3-11-1-2  $\alpha$ -HCH の底質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



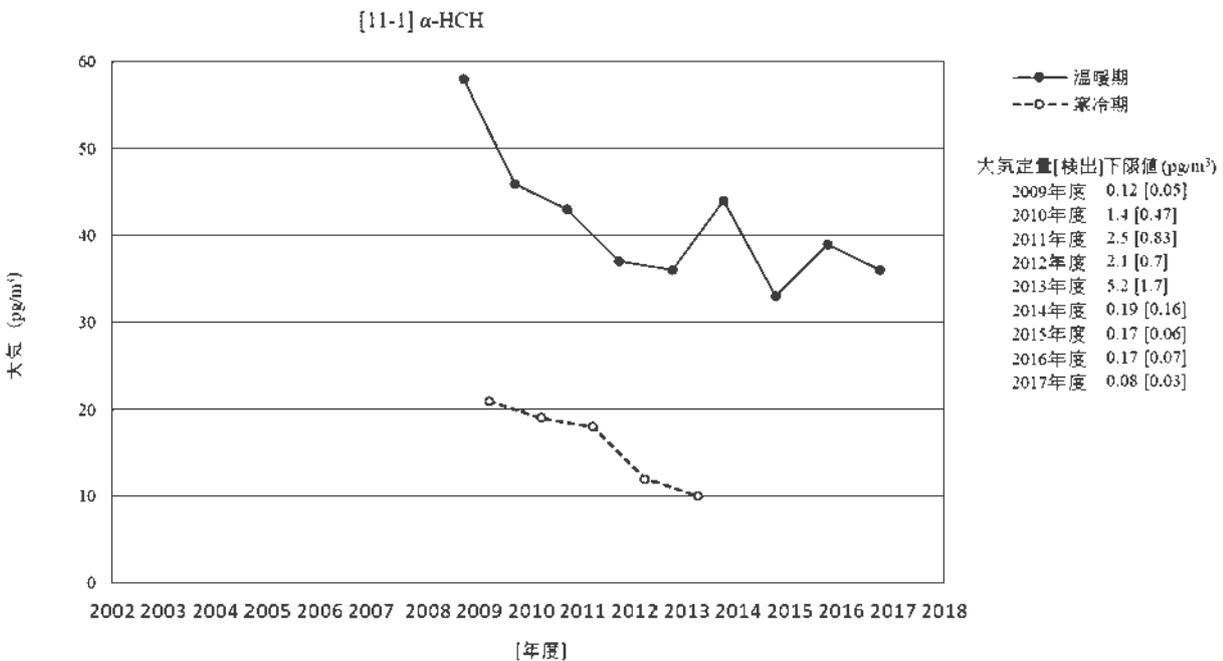
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注3) 2018年度は調査を実施していない。

図 3-11-1-3  $\alpha$ -HCH の生物の経年変化 (幾何平均値)

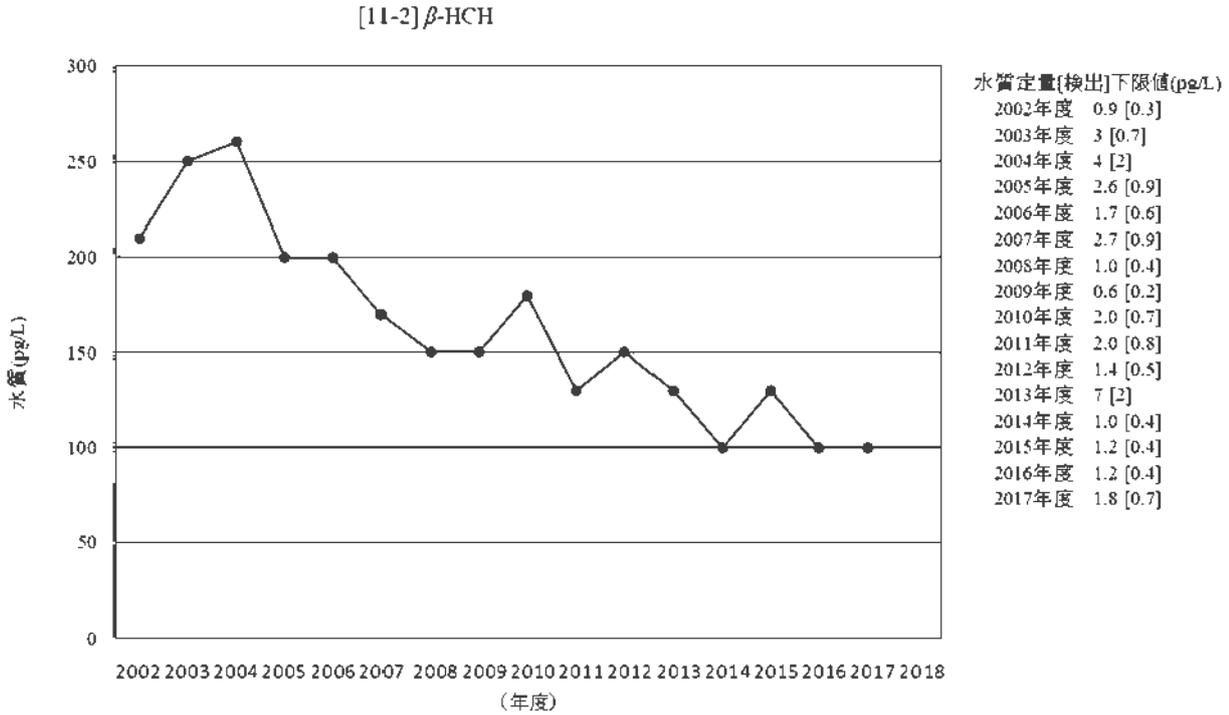
(参考)



(注) 2002年度及び2018年度は調査を実施していない。また、2003年度から2008年度の全てのデータについては欠測扱いとした。

図 3-11-1-4  $\alpha$ -HCH の大気の大気経年変化 (幾何平均値)

(参考)

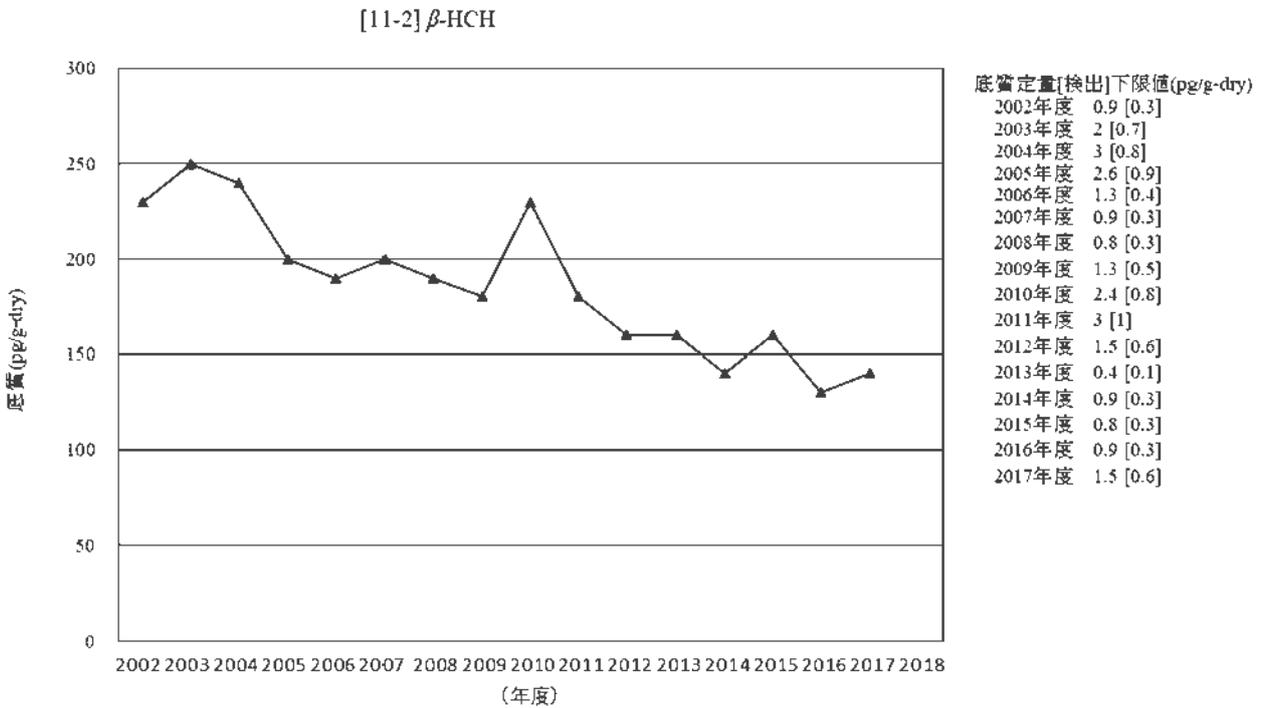


(注1) 2002年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2018年度は調査を実施していない。

図 3-11-2-1  $\beta$ -HCH の水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

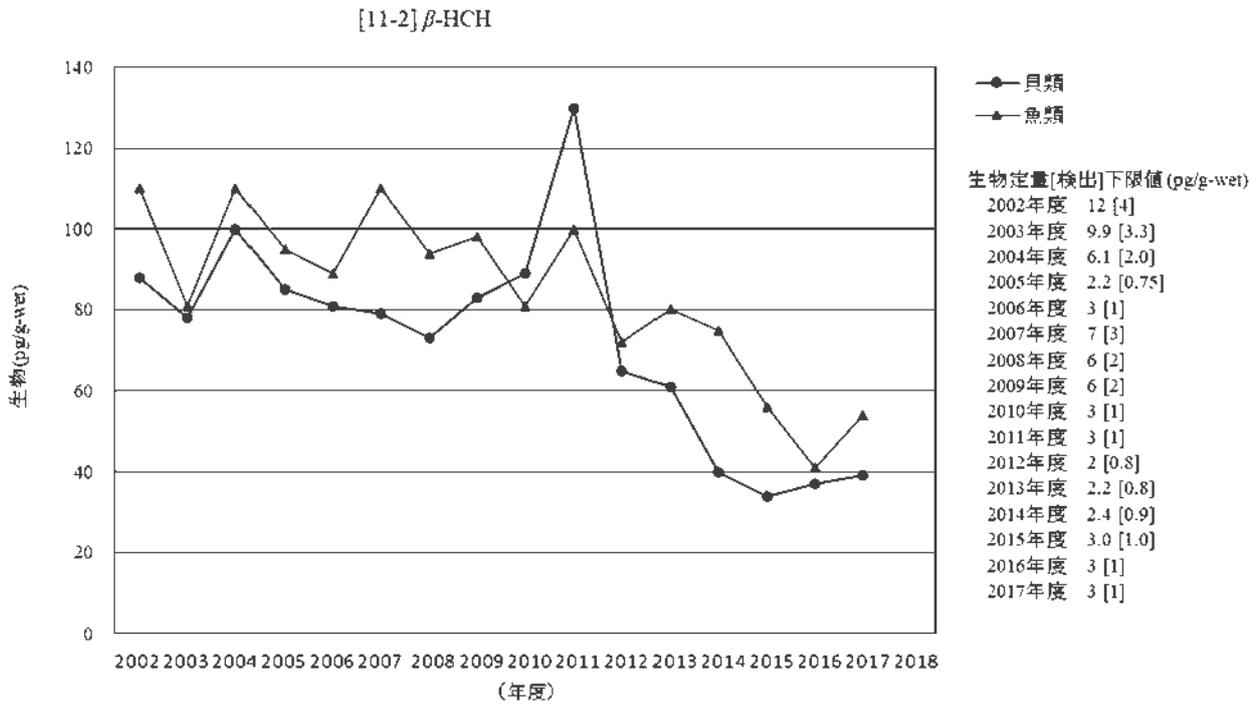


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2018年度は調査を実施していない。

図 3-11-2-2  $\beta$ -HCH の底質の経年変化 (幾何平均値)

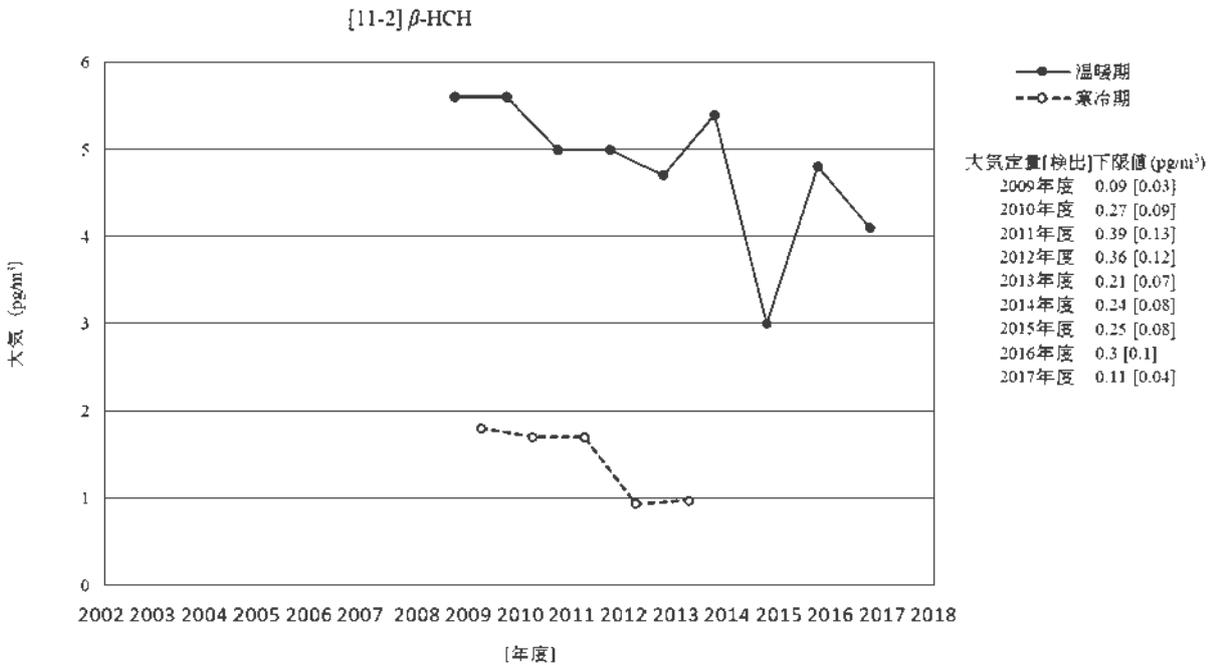
(参考)



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2018年度は調査を実施していない。

図 3-11-2-3 β-HCH の生物の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

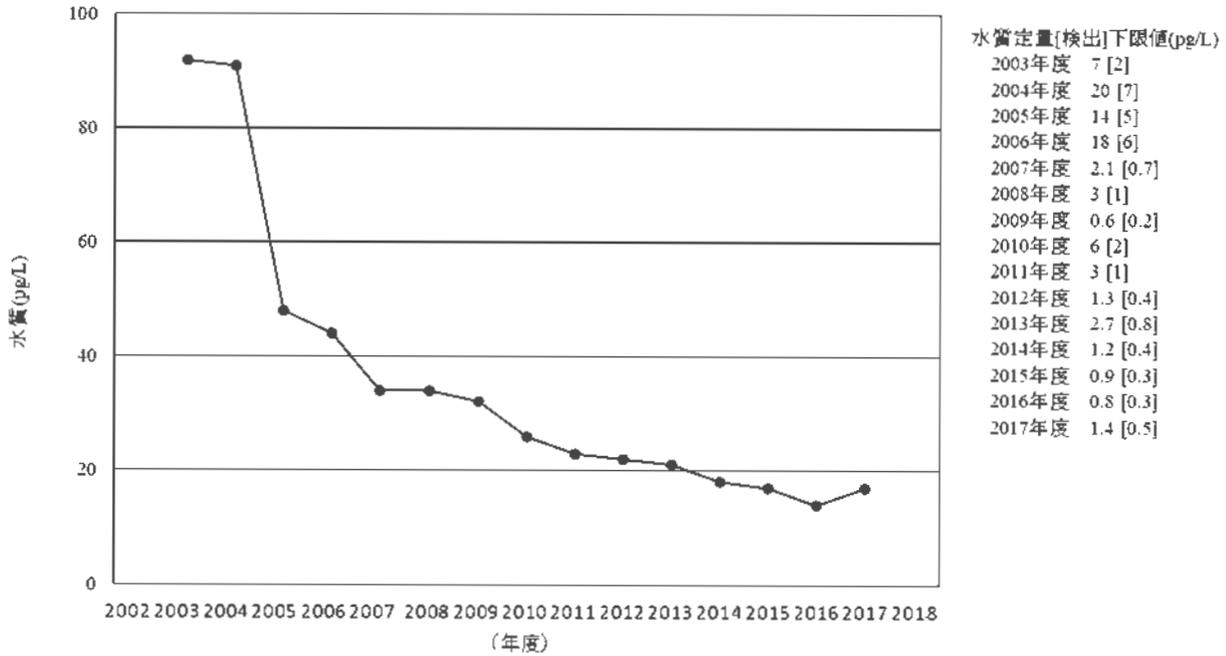


- (注) 2002年度及び2018年度は調査を実施していない。また、2003年度から2008年度の全てのデータについては欠測扱いとした。

図 3-11-2-4 β-HCH の大気の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

[11-3]  $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)

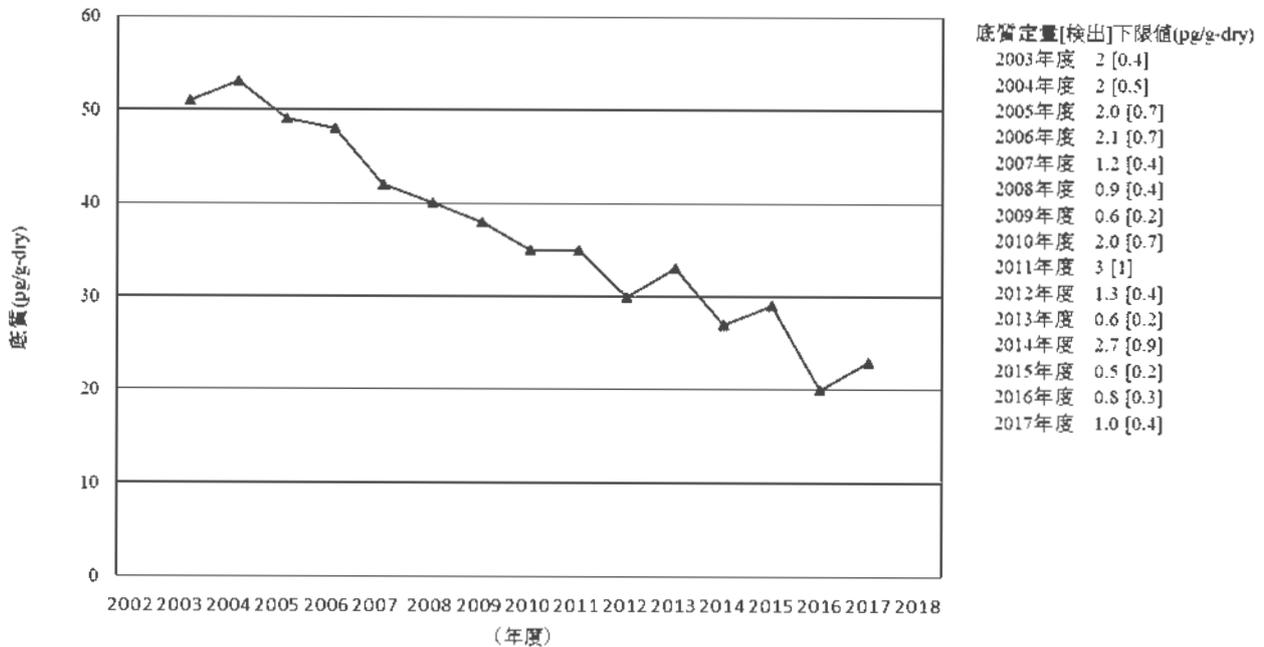


(注) 2002年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-11-3-1  $\gamma$ -HCH (別名: リンデン) の水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

[11-3]  $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)

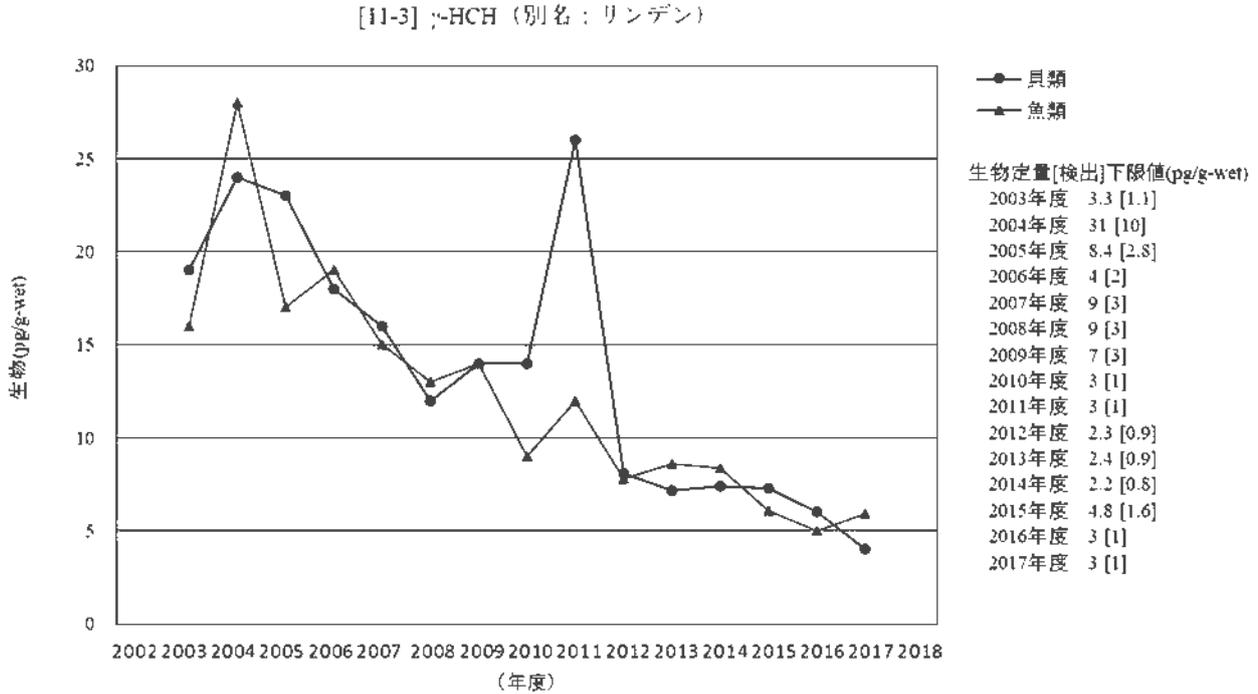


(注1) 2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2002年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-11-3-2  $\gamma$ -HCH (別名: リンデン) の底質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



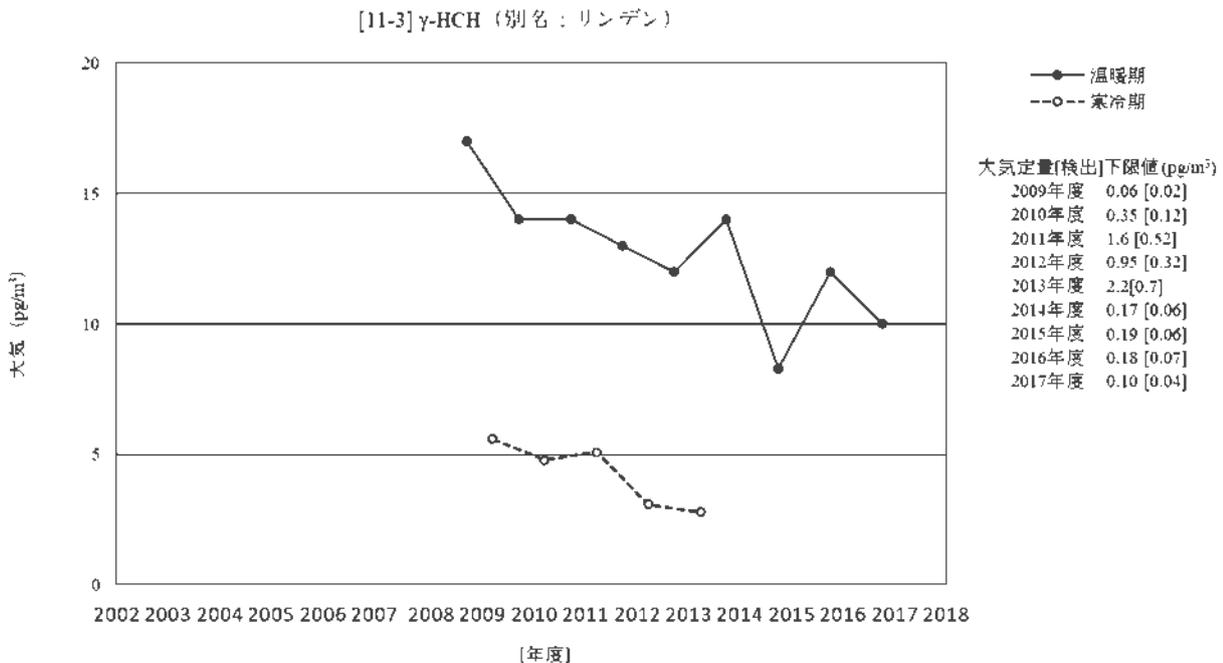
(注1) 2003年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注3) 2002年度及び2018年度は調査を実施していない。

図3-11-3-3  $\gamma$ -HCH (別名: リンデン) の生物の経年変化 (幾何平均値)

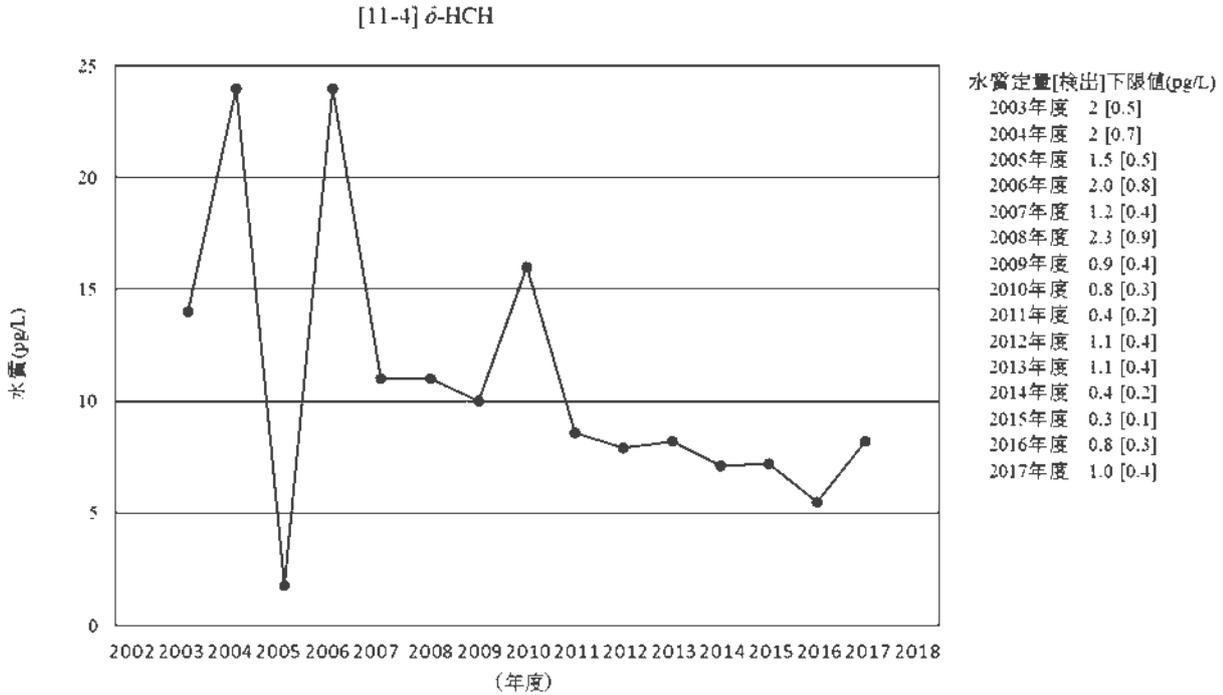
(参考)



(注) 2002年度及び2018年度は調査を実施していない。また、2003年度から2008年度の全てのデータについては欠測扱いとした。

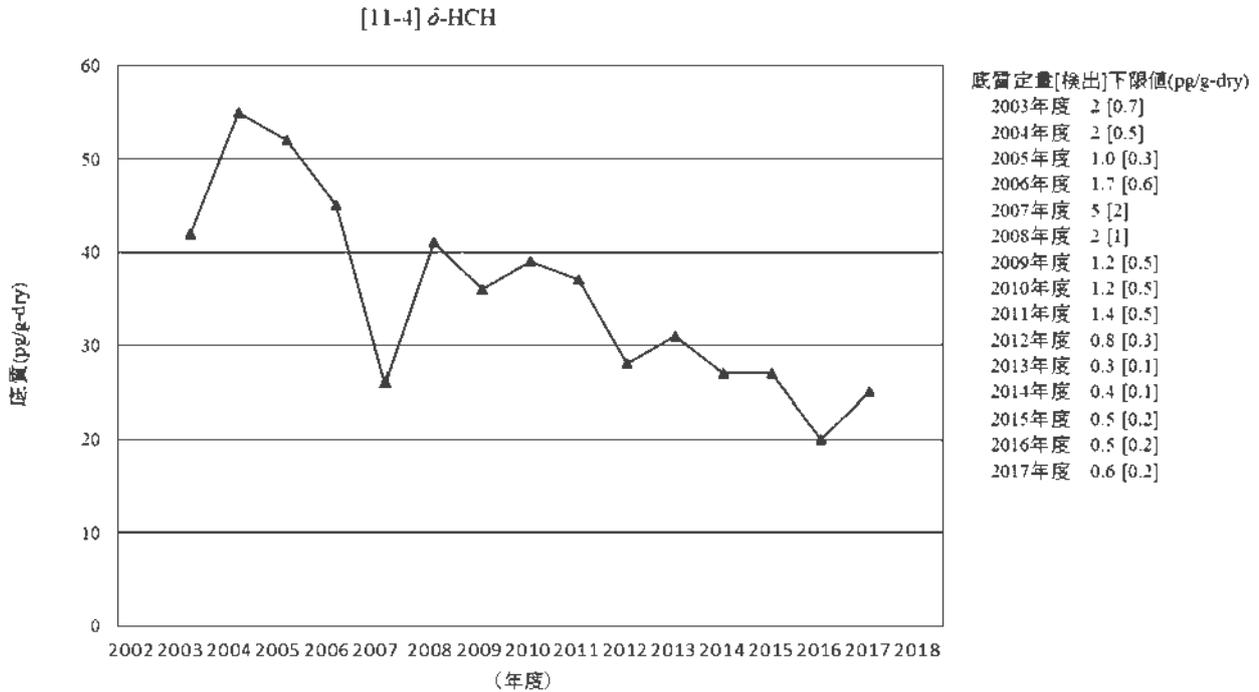
図3-11-3-4  $\gamma$ -HCH (別名: リンデン) の大気の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



(注) 2002 年度及び 2018 年度は調査を実施していない。  
 図 3-11-4-1  $\delta$ -HCH の水質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

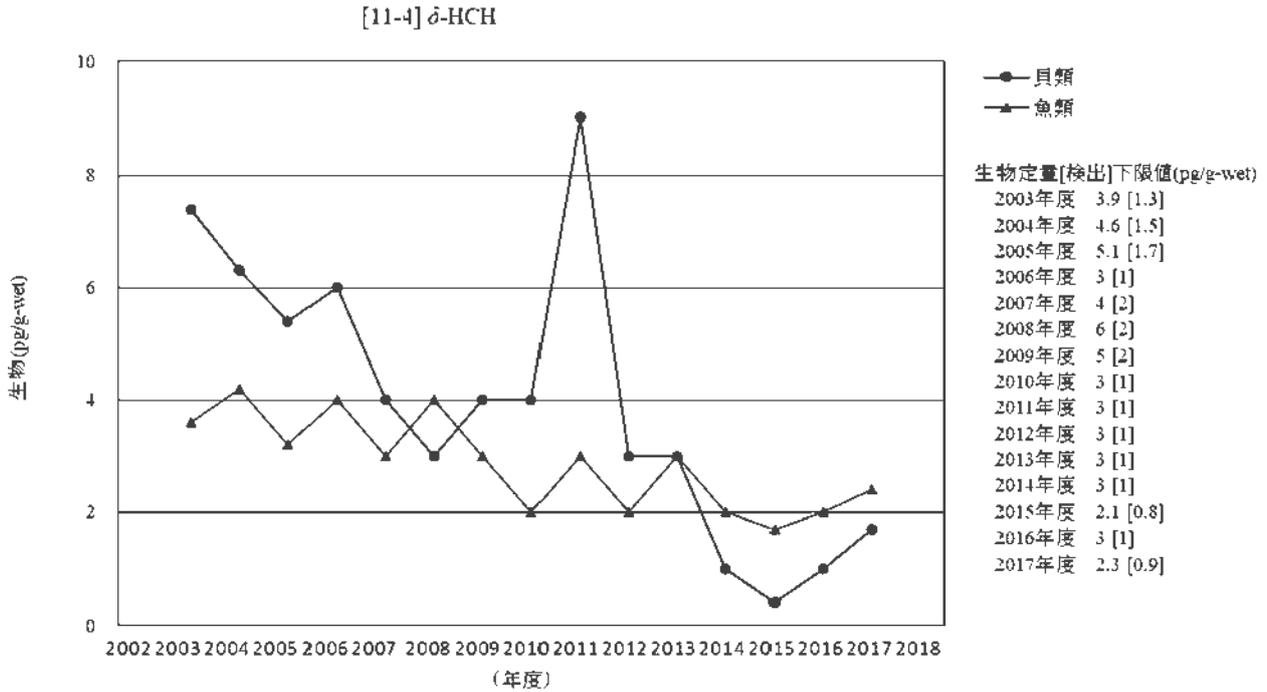


(注 1) 2003 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注 2) 2002 年度及び 2018 年度は調査を実施していない。

図 3-11-4-2  $\delta$ -HCH の底質の経年変化 (幾何平均値)

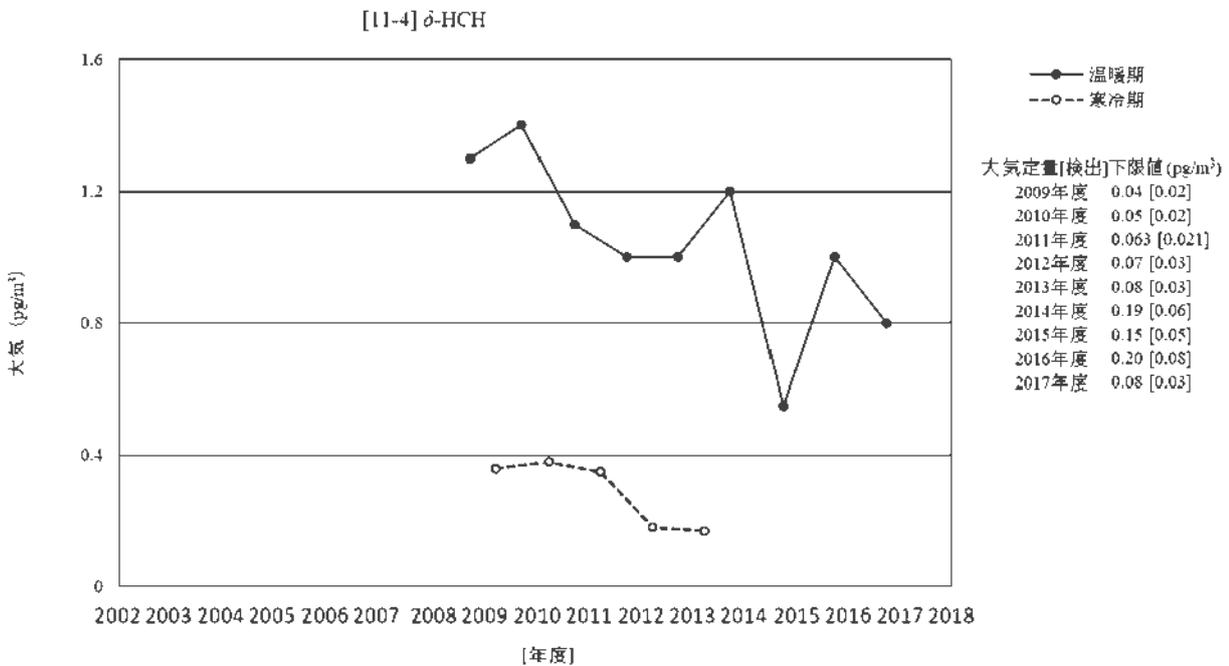
(参考)



- (注 1) 2003 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注 2) 2002 年度及び 2018 年度は調査を実施していない。
- (注 3) 鳥類は 2013 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから 2012 年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注 4) 2015 年度の貝類については幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の 1/2 の値を図示した。

図 3-11-4-3  $\delta$ -HCH の生物の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



- (注) 2002 年度及び 2018 年度は調査を実施していない。また、2003 年度から 2008 年度の全てのデータについては欠測扱いとした。

図 3-11-4-4  $\delta$ -HCH の大気 of 経年変化 (幾何平均値)

## [12] クロルデコン (参考)

### ・調査の経緯及び実施状況

クロルデコンは、有機塩素系殺虫剤の一種である。日本では農薬登録されたことはなく、国内での製造・輸入実績はない。2009年5月に開催されたPOPs条約の第4回条約締約国会議(COP4)において条約対象物質とすることが採択され、2010年4月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。

継続的調査としては2008年度が初めての調査であり、2002年度以降の化学物質環境実態調査の初期環境調査及び詳細環境調査等では、2003年度に大気の調査を実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、2008年度に水質、底質及び生物(貝類、魚類及び鳥類)の調査を、2010年度及び2011年度に水質、底質、生物(貝類、魚類及び鳥類)及び大気の調査を実施している。

2012年度から2018年度は調査を実施していないため、参考として以下に、2011年度までの調査結果を示す。

### ・2011年度までの調査結果 (参考)

#### <水質>

##### ○2008年度から2011年度における水質についてのクロルデコンの検出状況

クロルデコン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2008	nd	nd	0.76	nd	0.14 [0.05]	13/46	13/46
	2010	tr(0.04)	nd	1.6	nd	0.09 [0.04]	13/49	13/49
	2011	nd	nd	0.70	nd	0.20 [0.05]	15/49	15/49

(注) 2009年度は調査を実施していない。

#### <底質>

##### ○2008年度から2011年度における底質についてのクロルデコンの検出状況

クロルデコン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2008	nd	nd	5.8	nd	0.42 [0.16]	23/129	10/49
	2010	nd	nd	2.8	nd	0.4 [0.2]	9/64	9/64
	2011	nd	nd	1.5	nd	0.40 [0.20]	9/64	9/64

(注1) ※: 2008年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2009年度は調査を実施していない。

#### <生物>

##### ○2008年度から2011年度における生物(貝類、魚類及び鳥類)についてのクロルデコンの検出状況

クロルデコン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2008	nd	nd	nd	nd	5.6 [2.2]	0/31	0/7
	2010	nd	nd	nd	nd	5.9 [2.3]	0/6	0/6
	2011	nd	nd	nd	nd	0.5 [0.2]	0/4	0/4
魚類 (pg/g-wet)	2008	nd	nd	nd	nd	5.6 [2.2]	0/85	0/17
	2010	nd	nd	nd	nd	5.9 [2.3]	0/18	0/18
	2011	nd	nd	nd	nd	0.5 [0.2]	0/18	0/18
鳥類 (pg/g-wet)	2008	nd	nd	nd	nd	5.6 [2.2]	0/10	0/2
	2010	nd	---	nd	nd	5.9 [2.3]	0/2	0/2
	2011	---	---	nd	nd	0.5 [0.2]	0/1	0/1

(注1) ※: 2008年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2009年度は調査を実施していない。

<大気>

○2010 年度及び 2011 年度における大気についてのクロルデコンの検出状況

クロルデコン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2010 温暖期	nd	nd	nd	nd	0.04 [0.02]	0/37	0/37
	2010 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2011 温暖期	nd	nd	nd	nd	0.04 [0.02]	0/35	0/35
	2011 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37

### [13] ヘキサブロモビフェニル類 (参考)

#### ・調査の経緯及び実施状況

ヘキサブロモビフェニル類は、プラスチック製品等の難燃剤として利用されていた。2009年5月に開催された POPs 条約の第4回条約締約国会議 (COP4) において条約対象物質とすることが採択され、2010年4月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。

継続的調査としては2009年度が初めての調査であり、2001年度までの調査として「化学物質環境調査」<sup>iv)</sup>では、1989年度に水質、底質、生物(魚類)及び大気の調査を、2002年度以降の化学物質環境実態調査の初期環境調査及び詳細環境調査等では、2003年度に水質及び底質の調査を、2004年度は大気の調査をそれぞれ実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、2009年度に水質、底質及び生物(貝類、魚類及び鳥類)の調査を、2010年度及び2011年度に水質、底質、生物(貝類、魚類及び鳥類)及び大気の調査を、2015年度は底質、生物(貝類、魚類及び鳥類)及び大気の調査を実施している。

2016年度から2018年度は調査を実施していないため、参考として以下に、2015年度までの調査結果を示す。

#### ・2015年度までの調査結果 (参考)

##### <水質>

##### ○2009年度から2011年度における水質についてのヘキサブロモビフェニル類の検出状況

ヘキサブロモ ビフェニル類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2009	nd	nd	nd	nd	5.7 [2.2]	0/49	0/49
	2010	nd	nd	nd	nd	3 [1]	0/49	0/49
	2011	nd	nd	nd	nd	2.2 [0.9]	0/49	0/49

(注) ※：2009年度及び2011年度の定量[検出]下限値は、該当物質ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

##### <底質>

##### ○2009年度から2015年度における底質についてのヘキサブロモビフェニル類の検出状況

ヘキサブロモ ビフェニル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※※	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2009	nd	nd	12	nd	1.1 [0.40]	45/190	21/64
	2010	nd	nd	18	nd	1.5 [0.6]	10/64	10/64
	2011	nd	nd	6.3	nd	3.6 [1.4]	8/64	8/64
	2015	nd	nd	15	nd	0.8 [0.3]	9/62	9/62

(注1) ※：2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：2009年度及び2011年度の定量[検出]下限値は、該当物質ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

(注3) 2012年度から2014年度は調査を実施していない。

##### <生物>

##### ○2009年度から2015年度における生物(貝類、魚類及び鳥類)についてのヘキサブロモビフェニル類の検出状況

ヘキサブロモ ビフェニル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※※	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2009	nd	nd	tr(0.53)	nd	1.3 [0.43]	1/31	1/7
	2010	nd	nd	nd	nd	24 [10]	0/6	0/6
	2011	nd	nd	nd	nd	3 [1]	0/4	0/4
	2015	nd	nd	nd	nd	14 [5]	0/3	0/3
魚類 (pg/g-wet)	2009	tr(0.49)	tr(0.43)	6.0	nd	1.3 [0.43]	46/90	12/18
	2010	nd	nd	nd	nd	24 [10]	0/18	0/18
	2011	nd	nd	3	nd	3 [1]	5/18	5/18
	2015	nd	nd	nd	nd	14 [5]	0/19	0/19

ヘキサブロモ ビフェニル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※※	検出頻度	
							検体	地点
鳥類 (pg/g-wet)	2009	1.6	1.6	2.1	tr(1.2)	1.3 [0.43]	10/10	2/2
	2010	nd	---	nd	nd	24 [10]	0/2	0/2
	2011	---	---	3	3	3 [1]	1/1	1/1
	2015※※※	---	---	nd	nd	14 [5]	0/1	0/1

(注1) ※：2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：2009年度及び2010年度の定量[検出]下限値は、該当物質ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

(注3) ※※※：鳥類の2015年度における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2011年度までの結果と継続性がない。

(注4) 2012年度から2014年度は調査を実施していない。

#### <大気>

#### ○2010年度から2015年度における大気についてのヘキサブロモビフェニル類の検出状況

ヘキサブロモ ビフェニル類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2010 温暖期	nd	nd	nd	nd	0.3 [0.1]	0/37	0/37
	2010 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2011 温暖期	nd	nd	nd	nd	0.3 [0.1]	0/35	0/35
	2011 寒冷期	nd	nd	nd	nd		0/37	0/37
	2015 温暖期	nd	nd	1.1	nd	0.06 [0.02]	2/35	2/35

(注) 2012年度から2014年度は調査を実施していない。

## [14] ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）

### ・調査の経緯及び実施状況

ポリブロモジフェニルエーテル類は、プラスチック製品等の難燃剤として利用されていた。2009年5月に開催されたPOPs条約の第4回条約締約国会議（COP4）において、ポリブロモジフェニルエーテル類のうちテトラブロモジフェニルエーテル類、ペンタブロモジフェニルエーテル類、ヘキサブロモジフェニルエーテル類及びヘプタブロモジフェニルエーテル類について条約対象物質とすることが採択され、2010年4月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、2017年4月から5月に開催されたPOPs条約の第8回条約締約国会議（COP8）において、デカブロモジフェニルエーテルについて条約対象物質とすることが採択され、2018年4月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。

継続的調査としては2008年度が初めての調査であり、2001年度までの調査として「化学物質環境調査」<sup>iv)</sup>では、1977年度に臭素数が10のものについて水質及び底質の調査を、1987年度及び1988年度に臭素数が6、8及び10のものについて水質、底質及び生物（魚類）の調査を、1996年度に臭素数が10のものについて水質及び底質の調査を、2001年度に臭素数が1から7までのものについて大気の調査を、2002年度以降の化学物質環境実態調査の初期環境調査及び詳細環境調査等では、2002年度に臭素数が10のものについて水質、底質及び生物（魚類）の調査を、2003年度に臭素数が6、8及び10のものについて底質及び生物（魚類）の調査を、2004年度に臭素数が5のものについて底質の調査及び臭素数が1から7までのものについて大気の調査を、2005年度に臭素数が1、2、3、4、5、6、7、9及び10のものについて水質の調査をそれぞれ実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、臭素数が4から10のものについて、2008年度に生物（貝類、魚類及び鳥類）の調査を、2009年度に水質、底質及び大気の調査を、2010年度から2012年度、2014年度から2018年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を実施している。

### ・調査結果

#### <水質>

テトラブロモジフェニルエーテル類：水質については、47地点を調査し、検出下限値5 pg/Lにおいて47地点中22地点で検出され、検出濃度は72 pg/Lまでの範囲であった。

ペンタブロモジフェニルエーテル類：水質については、47地点を調査し、検出下限値3 pg/Lにおいて47地点中13地点で検出され、検出濃度は110 pg/Lまでの範囲であった。2009年度から2018年度における経年分析の結果、水質全体及び河川域では低濃度地点数の増加傾向が統計的に有意と判定され、減少傾向が示唆された。

ヘキサブロモジフェニルエーテル類：水質については、47地点を調査し、検出下限値1 pg/Lにおいて47地点中15地点で検出され、検出濃度は54 pg/Lまでの範囲であった。

ヘプタブロモジフェニルエーテル類：水質については、47地点を調査し、検出下限値3 pg/Lにおいて47地点中3地点で検出され、検出濃度は65 pg/Lまでの範囲であった。

オクタブロモジフェニルエーテル類：水質については、47地点を調査し、検出下限値1 pg/Lにおいて47地点中35地点で検出され、検出濃度は69 pg/Lまでの範囲であった。

ノナブロモジフェニルエーテル類：水質については、47地点を調査し、検出下限値2 pg/Lにおいて47

地点中 46 地点で検出され、検出濃度は 170 pg/L までの範囲であった。

デカブロモジフェニルエーテル：水質については、47 地点を調査し、検出下限値 4 pg/L において 47 地点全てで検出され、検出濃度は 12 ~2,700 pg/L の範囲であった。

○2009 年度から 2018 年度における水質についてのポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が 4 から 10 までのもの）の検出状況

テトラブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2009	17	16	160	nd	8 [3]	44/49	44/49
	2010	nd	nd	390	nd	9 [3]	17/49	17/49
	2011	11	10	180	nd	4 [2]	48/49	48/49
	2012	tr(3)	tr(3)	22	nd	4 [1]	47/48	47/48
	2014	tr(6)	tr(6)	51	tr(4)	8 [3]	48/48	48/48
	2015	4.3	4.1	40	tr(1.2)	3.6 [1.2]	48/48	48/48
	2016	5	tr(5)	47	tr(3)	5 [2]	48/48	48/48
	2017	tr(4)	tr(4)	12	nd	9 [3]	44/47	44/47
	2018	nd	nd	72	nd	13 [5]	22/47	22/47
ペンタブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
水質 (pg/L)	2009	11	12	87	nd	11 [4]	43/49	43/49
	2010	tr(1)	tr(1)	130	nd	3 [1]	25/49	25/49
	2011	5	4	180	nd	3 [1]	48/49	48/49
	2012	tr(1)	tr(1)	20	nd	2 [1]	32/48	32/48
	2014	nd	nd	39	nd	4 [2]	19/48	19/48
	2015	tr(3.0)	tr(3.2)	31	nd	6.3 [2.1]	34/48	34/48
	2016	tr(1.5)	tr(1.3)	36	nd	2.4 [0.9]	39/48	39/48
	2017	nd	tr(1)	8	nd	3 [1]	24/47	24/47
	2018	nd	nd	110	nd	9 [3]	13/47	13/47
ヘキサブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
水質 (pg/L)	2009	tr(0.9)	tr(0.7)	18	nd	1.4 [0.6]	26/49	26/49
	2010	nd	nd	51	nd	4 [2]	16/49	16/49
	2011	tr(1)	nd	39	nd	3 [1]	21/49	21/49
	2012	nd	nd	7	nd	3 [1]	6/48	6/48
	2014	nd	nd	8	nd	4 [1]	10/48	10/48
	2015	nd	nd	12	nd	1.5 [0.6]	5/48	5/48
	2016	nd	nd	9.1	nd	2.1 [0.8]	9/48	9/48
	2017	nd	nd	tr(6)	nd	7 [3]	1/47	1/47
	2018	nd	nd	54	nd	3 [1]	15/47	15/47
ヘプタブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
水質 (pg/L)	2009	nd	nd	40	nd	4 [2]	9/49	9/49
	2010	nd	nd	14	nd	3 [1]	17/49	17/49
	2011	nd	nd	14	nd	6 [2]	14/49	14/49
	2012	nd	nd	10	nd	4 [1]	9/48	9/48
	2014	nd	nd	8	nd	8 [3]	3/48	3/48
	2015	nd	nd	28	nd	2.0 [0.8]	9/48	9/48
	2016	nd	nd	11	nd	7 [3]	10/48	10/48
	2017	nd	nd	30	nd	14 [5]	1/47	1/47
	2018	nd	nd	65	nd	8 [3]	3/47	3/47
オクタブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
水質 (pg/L)	2009	3.0	3.9	56	nd	1.4 [0.6]	37/49	37/49
	2010	tr(2)	tr(2)	69	nd	3 [1]	40/49	40/49
	2011	4	3	98	nd	2 [1]	44/49	44/49
	2012	tr(2)	nd	35	nd	4 [2]	16/48	16/48
	2014	2.5	3.7	38	nd	1.6 [0.6]	33/48	33/48
	2015	2.3	3.1	36	nd	1.5 [0.6]	31/48	31/48
	2016	5.8	7.5	230	nd	0.8 [0.3]	44/48	44/48
	2017	tr(2)	nd	33	nd	2 [1]	22/47	22/47
	2018	tr(2)	tr(1)	69	nd	3 [1]	35/47	35/47

ノナブロモジフェニ ルエーテル類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2009	tr(46)	tr(38)	500	nd	91 [30]	32/49	32/49
	2010	tr(17)	tr(13)	620	nd	21 [7]	39/49	39/49
	2011	33	24	920	nd	10 [4]	47/49	47/49
	2012	tr(21)	tr(19)	320	nd	40 [13]	30/48	30/48
	2014	37	38	590	nd	6 [2]	47/48	47/48
	2015	36	33	330	nd	6 [2]	47/48	47/48
	2016	43	45	3,900	tr(2)	4 [1]	48/48	48/48
	2017	17	26	460	nd	7 [3]	37/47	37/47
2018	12	12	170	nd	6 [2]	46/47	46/47	
デカブロモジフェニ ルエーテル	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
水質 (pg/L)	2009	tr(310)	tr(220)	3,400	nd	600 [200]	26/49	26/49
	2010	tr(250)	tr(200)	13,000	nd	300 [100]	31/49	31/49
	2011	200	140	58,000	nd	60 [20]	45/49	45/49
	2012	tr(400)	tr(320)	12,000	nd	660 [220]	31/48	31/48
	2014	200	230	5,600	tr(14)	22 [9]	48/48	48/48
	2015	720	570	13,000	140	18 [7]	48/48	48/48
	2016	210	160	34,000	tr(12)	14 [6]	48/48	48/48
	2017	150	210	4,100	nd	24 [8]	46/47	46/47
2018	120	110	2,700	12	11 [4]	47/47	47/47	

(注) 2013年度は調査を実施していない。

#### <底質>

テトラブロモジフェニルエーテル類：底質については、61地点を調査し、検出下限値 6 pg/g-dry において 61 地点中 43 地点で検出され、検出濃度は 3,100 pg/g-dry までの範囲であった。2009 年度から 2018 年度における経年分析の結果、河川域では低濃度地点数の増加傾向が統計的に有意と判定され、減少傾向が示唆された。

ペンタブロモジフェニルエーテル類：底質については、61地点を調査し、検出下限値 2 pg/g-dry において 61 地点中 53 地点で検出され、検出濃度は 2,800 pg/g-dry までの範囲であった。2009 年度から 2018 年度における経年分析の結果、河川域では低濃度地点数の増加傾向が統計的に有意と判定され、減少傾向が示唆された。

ヘキサブロモジフェニルエーテル類：底質については、61地点を調査し、検出下限値 1 pg/g-dry において 61 地点中 52 地点で検出され、検出濃度は 1,300 pg/g-dry までの範囲であった。

ヘプタブロモジフェニルエーテル類：底質については、61地点を調査し、検出下限値 5 pg/g-dry において 61 地点中 46 地点で検出され、検出濃度は 1,900 pg/g-dry までの範囲であった。2009 年度から 2018 年度における経年分析の結果、底質全体の調査期間の後期 6 カ年で得られた結果が前期 6 カ年と比べ低値であることが統計的に有意と判定され、減少傾向が示唆された。

オクタブロモジフェニルエーテル類：底質については、61地点を調査し、検出下限値 0.5 pg/g-dry において 61 地点中 57 地点で検出され、検出濃度は 5,500 pg/g-dry までの範囲であった。

ノナブロモジフェニルエーテル類：底質については、61地点を調査し、検出下限値 2 pg/g-dry において 61 地点中 60 地点で検出され、検出濃度は 56,000 pg/g-dry までの範囲であった。

デカブロモジフェニルエーテル：底質については、61地点を調査し、検出下限値 14 pg/g-dry において 61 地点全てで検出され、検出濃度は tr(14)~520,000 pg/g-dry の範囲であった。

○2009年度から2018年度における底質についてのポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）の検出状況

テトラブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2009	tr(60)	tr(44)	1,400	nd	69 [23]	131/192	51/64
	2010	35	38	910	nd	6 [2]	57/64	57/64
	2011	32	30	2,600	nd	30 [10]	47/64	47/64
	2012	27	37	4,500	nd	2 [1]	60/63	60/63
	2014	tr(24)	tr(19)	550	nd	27 [9]	44/63	44/63
	2015	30	28	1,400	nd	21 [7]	44/62	44/62
	2016	tr(21)	tr(16)	390	nd	33 [11]	35/62	35/62
	2017	13	10	570	nd	9 [4]	44/62	44/62
	2018	21	tr(16)	3,100	nd	18 [6]	43/61	43/61
ペンタブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
底質 (pg/g-dry)	2009	36	24	1,700	nd	24 [8]	146/192	57/64
	2010	26	23	740	nd	5 [2]	58/64	58/64
	2011	24	18	4,700	nd	5 [2]	62/64	62/64
	2012	21	21	2,900	nd	2.4 [0.9]	62/63	62/63
	2014	16	14	570	nd	6 [2]	53/63	53/63
	2015	23	20	1,300	nd	18 [6]	44/62	44/62
	2016	13	tr(10)	400	nd	12 [4]	46/62	46/62
	2017	10	tr(5.5)	560	nd	9 [4]	37/62	37/62
	2018	19	24	2,800	nd	4 [2]	53/61	53/61
ヘキサブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
底質 (pg/g-dry)	2009	21	21	2,600	nd	5 [2]	139/192	53/64
	2010	23	23	770	nd	4 [2]	57/64	57/64
	2011	31	42	2,000	nd	9 [3]	52/64	52/64
	2012	15	19	1,700	nd	3 [1]	48/63	48/63
	2014	21	27	730	nd	5 [2]	50/63	50/63
	2015	11	15	820	nd	3 [1]	42/62	42/62
	2016	17	19	600	nd	8 [3]	40/62	40/62
	2017	16	24	570	nd	6 [2]	44/62	44/62
	2018	29	37	1,300	nd	3 [1]	52/61	52/61
ヘプタブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
底質 (pg/g-dry)	2009	30	25	16,000	nd	9 [4]	125/192	51/64
	2010	28	18	930	nd	4 [2]	58/64	58/64
	2011	29	32	2,400	nd	7 [3]	55/64	55/64
	2012	34	32	4,400	nd	4 [2]	48/63	48/63
	2014	19	tr(14)	680	nd	16 [6]	41/63	41/63
	2015	16	21	1,800	nd	3 [1]	44/62	44/62
	2016	16	17	1,100	nd	6 [2]	44/62	44/62
	2017	18	16	580	nd	15 [6]	36/62	36/62
	2018	44	48	1,900	nd	14 [5]	46/61	46/61
オクタブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
底質 (pg/g-dry)	2009	210	96	110,000	nd	1.2 [0.5]	182/192	63/64
	2010	71	76	1,800	nd	10 [4]	60/64	60/64
	2011	57	64	36,000	nd	10 [4]	55/64	55/64
	2012	78	74	15,000	nd	19 [6]	47/63	47/63
	2014	52	58	2,000	nd	12 [4]	55/63	55/63
	2015	58	tr(44)	1,400	nd	48 [16]	41/62	41/62
	2016	51	49	1,400	nd	6 [2]	55/62	55/62
	2017	38	58	1,900	nd	5 [2]	48/62	48/62
	2018	100	140	5,500	nd	1.2 [0.5]	57/61	57/61
ノナブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
底質 (pg/g-dry)	2009	1,100	710	230,000	nd	9 [4]	181/192	64/64
	2010	360	430	26,000	nd	24 [9]	60/64	60/64
	2011	710	630	70,000	nd	23 [9]	62/64	62/64
	2012	360	380	84,000	nd	34 [11]	52/63	52/63
	2014	470	470	42,000	nd	60 [20]	60/63	60/63
	2015	300	420	11,000	nd	24 [8]	55/62	55/62
	2016	430	390	26,000	nd	27 [9]	60/62	60/62
	2017	400	490	29,000	nd	15 [5]	61/62	61/62
	2018	690	770	56,000	nd	5 [2]	60/61	60/61
デカブロモジフェニルエーテル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
底質 (pg/g-dry)	2009	6,000	4,800	880,000	tr(30)	60 [20]	192/192	64/64
	2010	5,100	4,200	700,000	nd	220 [80]	60/64	60/64
	2011	4,200	4,700	700,000	nd	40 [20]	62/64	62/64
	2012	5,700	6,300	760,000	nd	270 [89]	60/63	60/63
	2014	5,600	5,000	980,000	nd	240 [80]	61/63	61/63
	2015	6,600	7,200	490,000	40	40 [20]	62/62	62/62
	2016	4,700	5,100	940,000	nd	120 [41]	61/62	61/62
	2017	4,600	5,700	580,000	tr(27)	30 [10]	62/62	62/62
	2018	5,100	6,300	520,000	tr(14)	42 [14]	61/61	61/61

(注1) ※：2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2013年度は調査を実施していない。

## <生物>

テトラブロモジフェニルエーテル類：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 5pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は 26~68pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 5pg/g-wet において 18 地点全てで検出され、検出濃度は tr(13)~440pg/g-wet の範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 5pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 280~310pg/g-wet の範囲であった。2008 年度から 2018 年度における経年分析の結果、貝類の減少傾向が統計的に有意と判定された。

ペンタブロモジフェニルエーテル類：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 4pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は tr(5)~23pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 4pg/g-wet において 18 地点中 17 地点で検出され、検出濃度は 100pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 4pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 140~240pg/g-wet の範囲であった。

ヘキサブロモジフェニルエーテル類：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 8pg/g-wet において 3 地点中 2 地点で検出され、検出濃度は 34pg/g-wet までの範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 8pg/g-wet において 18 地点中 17 地点で検出され、検出濃度は 190pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 8pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 330~1,300pg/g-wet の範囲であった。

ヘプタブロモジフェニルエーテル類：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 6pg/g-wet において 3 地点中 1 地点で検出され、検出濃度は tr(10)pg/g-wet であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 6pg/g-wet において 18 地点中 11 地点で検出され、検出濃度は 58pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 6pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 110~480pg/g-wet の範囲であった。

オクタブロモジフェニルエーテル類：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 6pg/g-wet において 3 地点全てで検出されなかった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 6pg/g-wet において 18 地点中 8 地点で検出され、検出濃度は 74pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 6pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 61~580pg/g-wet の範囲であった。

ノナブロモジフェニルエーテル類：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 20pg/g-wet において 3 地点全てで検出されなかった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 20pg/g-wet において 18 地点全てで検出されなかった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 20pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 46~53pg/g-wet の範囲であった。

デカブロモジフェニルエーテル類：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 80pg/g-wet において 3 地点全てで検出されなかった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 80pg/g-wet において 18 地点中 2 地点で検出され、検出濃度は tr(110)pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 80pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は tr(90)~500pg/g-wet の範囲であった。

○2008 年度から 2018 年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についてのポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が 4 から 10 までのもの）の検出状況

テトラブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2008	73	61	380	20	5.9 [2.2]	31/31	7/7
	2010	59	73	310	nd	43 [16]	5/6	5/6
	2011	96	120	490	26	16 [6]	4/4	4/4
	2012	59	44	190	24	19 [7]	5/5	5/5
	2014	56	38	140	33	15 [6]	3/3	3/3
	2015	48	38	89	32	15 [6]	3/3	3/3
	2016	42	32	98	23	13 [5]	3/3	3/3
	2017	47	23	200	23	16 [6]	3/3	3/3
	2018	36	26	68	26	14 [5]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2008	120	110	1,300	9.8	5.9 [2.2]	85/85	17/17
	2010	160	170	740	tr(16)	43 [16]	18/18	18/18
	2011	110	110	860	tr(9)	16 [6]	18/18	18/18
	2012	120	140	650	tr(10)	19 [7]	19/19	19/19
	2014	150	160	1,300	18	15 [6]	19/19	19/19
	2015	90	82	580	tr(14)	15 [6]	19/19	19/19
	2016	76	53	390	tr(10)	13 [5]	19/19	19/19
	2017	80	73	360	tr(7)	16 [6]	19/19	19/19
	2018	79	61	440	tr(13)	14 [5]	18/18	18/18
鳥類 (pg/g-wet)	2008	170	190	1,200	32	5.9 [2.2]	10/10	2/2
	2010	140	---	270	72	43 [16]	2/2	2/2
	2011	---	---	67	67	16 [6]	1/1	1/1
	2012	73	---	110	49	19 [7]	2/2	2/2
	2014※※	190	---	480	78	15 [6]	2/2	2/2
	2015※※	---	---	36	36	15 [6]	1/1	1/1
	2016※※	170	---	470	62	13 [5]	2/2	2/2
	2017※※	130	---	660	26	16 [6]	2/2	2/2
	2018※※	290	---	310	280	14 [5]	2/2	2/2
ペンタブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2008	32	27	94	tr(11)	16 [5.9]	31/31	7/7
	2010	32	37	98	tr(9)	14 [6]	6/6	6/6
	2011	51	60	160	tr(12)	15 [6]	4/4	4/4
	2012	28	24	67	tr(8)	18 [6]	5/5	5/5
	2014	30	37	41	18	12 [5]	3/3	3/3
	2015	18	19	20	16	13 [5]	3/3	3/3
	2016	11	9	20	tr(8)	9 [4]	3/3	3/3
	2017	18	16	62	tr(6)	12 [5]	3/3	3/3
	2018	13	21	23	tr(5)	11 [4]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2008	30	37	280	nd	16 [5.9]	72/85	16/17
	2010	51	54	200	nd	14 [6]	16/18	16/18
	2011	39	39	300	nd	15 [6]	17/18	17/18
	2012	37	54	180	nd	18 [6]	17/19	17/19
	2014	41	47	570	nd	12 [5]	18/19	18/19
	2015	22	17	140	nd	13 [5]	18/19	18/19
	2016	18	14	87	tr(4)	9 [4]	19/19	19/19
	2017	23	28	87	nd	12 [5]	18/19	18/19
	2018	21	21	100	nd	11 [4]	17/18	17/18
鳥類 (pg/g-wet)	2008	150	130	440	52	16 [5.9]	10/10	2/2
	2010	150	---	200	120	14 [6]	2/2	2/2
	2011	---	---	110	110	15 [6]	1/1	1/1
	2012	85	---	110	66	18 [6]	2/2	2/2
	2014※※	100	---	320	31	12 [5]	2/2	2/2
	2015※※	---	---	22	22	13 [5]	1/1	1/1
	2016※※	88	---	300	26	9 [4]	2/2	2/2
	2017※※	77	---	500	12	12 [5]	2/2	2/2
	2018※※	180	---	240	140	11 [4]	2/2	2/2

ヘキサブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2008	19	16	82	tr(5.3)	14 [5.0]	31/31	7/7
	2010	8	16	26	nd	8 [3]	4/6	4/6
	2011	38	41	81	20	10 [4]	4/4	4/4
	2012	21	23	130	tr(6)	10 [4]	5/5	5/5
	2014	23	21	52	11	10 [4]	3/3	3/3
	2015	tr(9)	tr(6)	41	nd	12 [5]	2/3	2/3
	2016	tr(13)	tr(13)	40	nd	21 [8]	2/3	2/3
	2017	tr(14)	20	36	nd	17 [7]	2/3	2/3
	2018	tr(12)	tr(12)	34	nd	21 [8]	2/3	2/3
魚類 (pg/g-wet)	2008	46	51	310	nd	14 [5.0]	83/85	17/17
	2010	39	47	400	nd	8 [3]	16/18	16/18
	2011	53	50	430	nd	10 [4]	17/18	17/18
	2012	55	71	320	nd	10 [4]	18/19	18/19
	2014	60	61	1,100	nd	10 [4]	18/19	18/19
	2015	44	45	250	nd	12 [5]	18/19	18/19
	2016	42	36	190	nd	21 [8]	18/19	18/19
	2017	49	49	210	nd	17 [7]	18/19	18/19
	2018	44	48	190	nd	21 [8]	17/18	17/18
鳥類 (pg/g-wet)	2008	140	120	380	62	14 [5.0]	10/10	2/2
	2010	110	---	140	86	8 [3]	2/2	2/2
	2011	---	---	96	96	10 [4]	1/1	1/1
	2012	150	---	320	72	10 [4]	2/2	2/2
	2014※※	170	---	680	42	10 [4]	2/2	2/2
	2015※※	---	---	30	30	12 [5]	1/1	1/1
	2016※※	220	---	740	68	21 [8]	2/2	2/2
	2017※※	230	---	1,000	51	17 [7]	2/2	2/2
	2018※※	650	---	1,300	330	21 [8]	2/2	2/2
ヘプタブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2008	tr(8.5)	tr(7.6)	35	nd	18 [6.7]	20/31	7/7
	2010	nd	nd	tr(10)	nd	30 [10]	1/6	1/6
	2011	14	26	44	nd	11 [4]	3/4	3/4
	2012	tr(8)	tr(6)	59	nd	12 [5]	3/5	3/5
	2014	nd	nd	13	nd	12 [5]	1/3	1/3
	2015	nd	nd	tr(11)	nd	12 [5]	1/3	1/3
	2016	nd	nd	tr(8)	nd	13 [5]	1/3	1/3
	2017	nd	nd	tr(9)	nd	22 [8]	1/3	1/3
	2018	nd	nd	tr(10)	nd	15 [6]	1/3	1/3
魚類 (pg/g-wet)	2008	tr(11)	tr(8.1)	77	nd	18 [6.7]	44/85	10/17
	2010	nd	nd	40	nd	30 [10]	4/18	4/18
	2011	13	21	130	nd	11 [4]	13/18	13/18
	2012	tr(11)	18	120	nd	12 [5]	11/19	11/19
	2014	tr(10)	13	280	nd	12 [5]	10/19	10/19
	2015	nd	nd	44	nd	12 [5]	4/19	4/19
	2016	tr(9)	tr(7)	85	nd	13 [5]	11/19	11/19
	2017	tr(11)	tr(12)	55	nd	22 [8]	10/19	10/19
	2018	tr(9)	tr(8)	58	nd	15 [6]	11/18	11/18
鳥類 (pg/g-wet)	2008	35	35	53	19	18 [6.7]	10/10	2/2
	2010	tr(19)	---	70	nd	30 [10]	1/2	1/2
	2011	---	---	44	44	11 [4]	1/1	1/1
	2012	63	---	280	14	12 [5]	2/2	2/2
	2014※※	19	---	150	nd	12 [5]	1/2	1/2
	2015※※	---	---	tr(11)	tr(11)	12 [5]	1/1	1/1
	2016※※	65	---	220	19	13 [5]	2/2	2/2
	2017※※	89	---	440	tr(18)	22 [8]	2/2	2/2
	2018※※	230	---	480	110	15 [6]	2/2	2/2

オクタブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2008	nd	nd	10	nd	9.6 [3.6]	15/31	6/7
	2010	nd	nd	tr(10)	nd	11 [4]	2/6	2/6
	2011	7	9	29	nd	7 [3]	3/4	3/4
	2012	8	tr(7)	25	nd	8 [3]	4/5	4/5
	2014	tr(9.2)	11	14	tr(5)	11 [4]	3/3	3/3
	2015	nd	nd	nd	nd	14 [5]	0/3	0/3
	2016	nd	nd	nd	nd	16 [6]	0/3	0/3
	2017	nd	nd	tr(9)	nd	20 [8]	1/3	1/3
	2018	nd	nd	nd	nd	16 [6]	0/3	0/3
魚類 (pg/g-wet)	2008	tr(5.7)	nd	73	nd	9.6 [3.6]	35/85	7/17
	2010	tr(6)	nd	100	nd	11 [4]	8/18	8/18
	2011	tr(6)	tr(7)	150	nd	7 [3]	10/18	10/18
	2012	tr(7)	8	160	nd	8 [3]	12/19	12/19
	2014	14	13	540	nd	11 [4]	15/19	15/19
	2015	tr(7)	nd	60	nd	14 [5]	9/19	9/19
	2016	tr(8)	nd	86	nd	16 [6]	9/19	9/19
	2017	tr(9.7)	nd	88	nd	20 [8]	9/19	9/19
	2018	tr(7)	nd	74	nd	16 [6]	8/18	8/18
鳥類 (pg/g-wet)	2008	42	41	64	30	9.6 [3.6]	10/10	2/2
	2010	41	---	65	26	11 [4]	2/2	2/2
	2011	---	---	66	66	7 [3]	1/1	1/1
	2012	130	---	420	40	8 [3]	2/2	2/2
	2014※※	17	---	140	nd	11 [4]	1/2	1/2
	2015※※	---	---	tr(5)	tr(5)	14 [5]	1/1	1/1
	2016※※	65	---	220	19	16 [6]	2/2	2/2
	2017※※	130	---	720	25	20 [8]	2/2	2/2
	2018※※	190	---	580	61	16 [6]	2/2	2/2
ノナブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2008	nd	nd	tr(23)	nd	35 [13]	5/31	1/7
	2010	tr(16)	tr(15)	60	nd	30 [10]	5/6	5/6
	2011	tr(12)	tr(11)	40	nd	22 [9]	3/4	3/4
	2012	tr(15)	25	45	nd	24 [9]	3/5	3/5
	2014	40	tr(20)	110	tr(20)	30 [10]	3/3	3/3
	2015	nd	nd	tr(11)	nd	23 [9]	1/3	1/3
	2016	nd	nd	nd	nd	36 [14]	0/3	0/3
	2017	nd	nd	nd	nd	50 [20]	0/3	0/3
	2018	nd	nd	nd	nd	40 [20]	0/3	0/3
魚類 (pg/g-wet)	2008	nd	nd	tr(15)	nd	35 [13]	2/85	2/17
	2010	nd	nd	40	nd	30 [10]	3/18	3/18
	2011	nd	nd	tr(15)	nd	22 [9]	5/18	5/18
	2012	nd	nd	54	nd	24 [9]	9/19	9/19
	2014	tr(10)	tr(20)	40	nd	30 [10]	16/19	16/19
	2015	nd	nd	35	nd	23 [9]	6/19	6/19
	2016	nd	nd	tr(22)	nd	36 [14]	3/19	3/19
	2017	nd	nd	68	nd	50 [20]	1/19	1/19
	2018	nd	nd	nd	nd	40 [20]	0/18	0/18
鳥類 (pg/g-wet)	2008	tr(21)	tr(20)	tr(33)	nd	35 [13]	9/10	2/2
	2010	32	---	50	tr(20)	30 [10]	2/2	2/2
	2011	---	---	62	62	22 [9]	1/1	1/1
	2012	100	---	150	67	24 [9]	2/2	2/2
	2014※※	tr(10)	---	tr(20)	tr(10)	30 [10]	2/2	2/2
	2015※※	---	---	tr(12)	tr(12)	23 [9]	1/1	1/1
	2016※※	nd	---	tr(21)	nd	36 [14]	1/2	1/2
	2017※※	nd	---	nd	nd	50 [20]	0/2	0/2
	2018※※	49	---	53	46	40 [20]	2/2	2/2

デカブロモジフェニ ルエーテル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2008	nd	nd	tr(170)	nd	220 [74]	8/31	3/7
	2010	nd	nd	tr(190)	nd	270 [97]	2/6	2/6
	2011	nd	nd	240	nd	230 [80]	1/4	1/4
	2012	120	170	480	nd	120 [50]	4/5	4/5
	2014	220	tr(150)	570	tr(120)	170 [60]	3/3	3/3
	2015	nd	nd	tr(70)	nd	170 [70]	1/3	1/3
	2016	nd	nd	tr(110)	nd	300 [100]	1/3	1/3
	2017	nd	nd	tr(180)	nd	210 [80]	1/3	1/3
	2018	nd	nd	nd	nd	240 [80]	0/3	0/3
魚類 (pg/g-wet)	2008	nd	nd	230	nd	220 [74]	5/76	4/16
	2010	nd	nd	tr(150)	nd	270 [97]	2/18	2/18
	2011	nd	nd	tr(90)	nd	230 [80]	2/18	2/18
	2012	tr(59)	tr(60)	380	nd	120 [50]	11/19	11/19
	2014	tr(75)	tr(70)	300	nd	170 [60]	13/19	13/19
	2015	nd	nd	380	nd	170 [70]	5/19	5/19
	2016	nd	nd	tr(190)	nd	300 [100]	7/19	7/19
	2017	nd	nd	2,100	nd	210 [80]	1/19	1/19
	2018	nd	nd	tr(110)	nd	240 [80]	2/18	2/18
鳥類 (pg/g-wet)	2008	nd	nd	tr(110)	nd	220 [74]	4/10	1/2
	2010	nd	---	nd	nd	270 [97]	0/2	0/2
	2011	---	---	tr(170)	tr(170)	230 [80]	1/1	1/1
	2012	250	---	260	240	120 [50]	2/2	2/2
	2014※※	tr(65)	---	tr(140)	nd	170 [60]	1/2	1/2
	2015※※	---	---	tr(90)	tr(90)	170 [70]	1/1	1/1
	2016※※	nd	---	nd	nd	300 [100]	0/2	0/2
	2017※※	nd	---	nd	nd	210 [80]	0/2	0/2
	2018※※	tr(210)	300	500	tr(90)	240 [80]	2/2	2/2

(注1) ※：2008年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2014年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2009年度及び2013年度は調査を実施していない。

## <大気>

テトラブロモジフェニルエーテル類：大気については、37地点を調査し、検出下限値 0.02pg/m<sup>3</sup>において37地点全てで検出され、検出濃度は0.05～3.9pg/m<sup>3</sup>の範囲であった。2008年度から2018年度における経年分析の結果、温暖期の減少傾向が統計的に有意と判定された。

ペンタブロモジフェニルエーテル類：大気については、37地点を調査し、検出下限値 0.08pg/m<sup>3</sup>において37地点中18地点で検出され、検出濃度は4.1pg/m<sup>3</sup>までの範囲であった。

ヘキサブロモジフェニルエーテル類：大気については、37地点を調査し、検出下限値 0.06pg/m<sup>3</sup>において37地点中9地点で検出され、検出濃度は1.5pg/m<sup>3</sup>までの範囲であった。

ヘプタブロモジフェニルエーテル類：大気については、37地点を調査し、検出下限値 0.08pg/m<sup>3</sup>において37地点中16地点で検出され、検出濃度は1.3pg/m<sup>3</sup>までの範囲であった。

オクタブロモジフェニルエーテル類：大気については、37地点を調査し、検出下限値 0.04pg/m<sup>3</sup>において37地点中34地点で検出され、検出濃度は1.3pg/m<sup>3</sup>までの範囲であった。

ノナブロモジフェニルエーテル類：大気については、37地点を調査し、検出下限値 0.2pg/m<sup>3</sup>において37地点中31地点で検出され、検出濃度は3pg/m<sup>3</sup>までの範囲であった。

デカブロモジフェニルエーテル：大気については、37地点を調査し、検出下限値 0.8pg/m<sup>3</sup>において37地点中31地点で検出され、検出濃度は19pg/m<sup>3</sup>までの範囲であった。

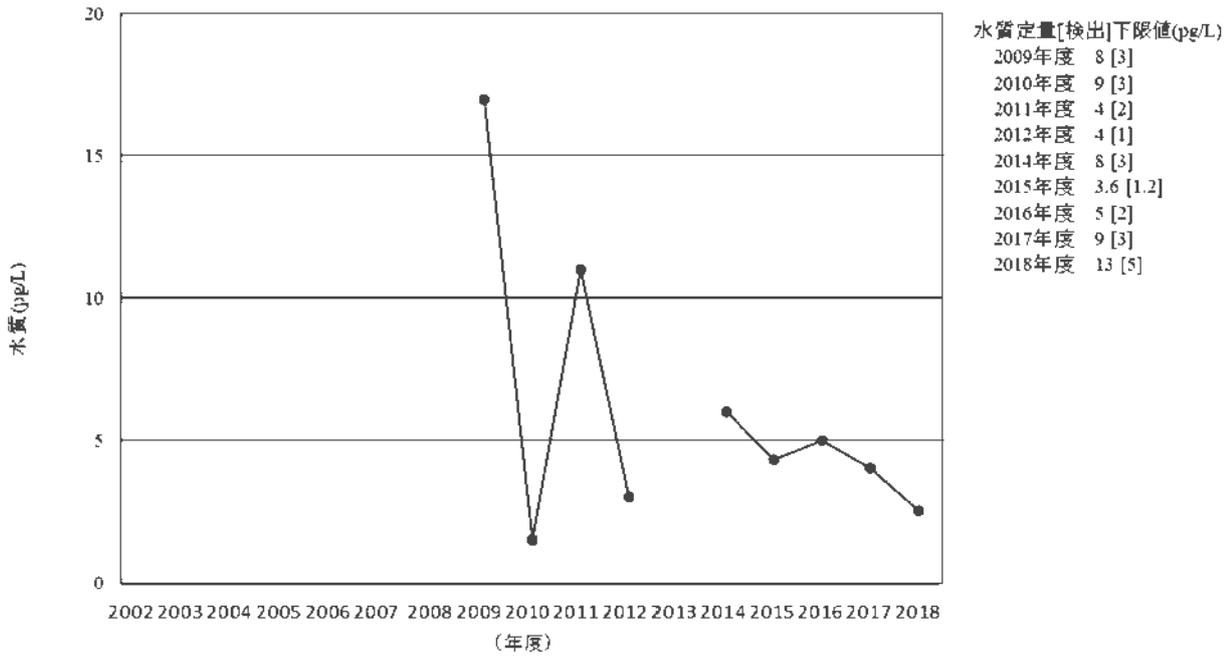
○2009年度から2018年度における大気についてのポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）の検出状況

テトラブロモジフェニルエーテル類		実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )								検体	地点
		2009 温暖期	0.89	0.80	18	0.11	0.11 [0.04]	37/37	37/37
		2009 寒冷期	0.40	0.37	7.1	tr(0.04)		37/37	37/37
		2010 温暖期	0.79	0.57	50	0.15	0.12 [0.05]	37/37	37/37
		2010 寒冷期	0.40	0.35	25	tr(0.09)		37/37	37/37
		2011 温暖期	0.80	0.72	9.3	tr(0.11)	0.18 [0.07]	35/35	35/35
		2011 寒冷期	0.36	0.34	7.0	nd		35/37	35/37
		2012 温暖期	0.7	0.7	5.7	nd	0.3 [0.1]	35/36	35/36
		2012 寒冷期	tr(0.2)	tr(0.2)	1.7	nd		25/36	25/36
		2014 温暖期	0.53	0.47	2.3	tr(0.09)	0.28 [0.09]	36/36	36/36
		2015 温暖期	tr(0.3)	tr(0.3)	2.7	nd		30/35	30/35
		2016 温暖期	0.5	0.4	28	nd	0.4 [0.2]	30/37	30/37
		2017 温暖期	0.39	0.34	4.1	tr(0.06)		37/37	37/37
		2018 温暖期	0.28	0.26	3.9	0.05	0.05 [0.02]	37/37	37/37
ペンタブロモジフェニルエーテル類		実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )								検体	地点
		2009 温暖期	0.20	0.19	18	nd	0.16 [0.06]	33/37	33/37
		2009 寒冷期	0.19	0.16	10	nd		29/37	29/37
		2010 温暖期	0.20	0.17	45	nd	0.12 [0.05]	35/37	35/37
		2010 寒冷期	0.20	0.22	28	nd		34/37	34/37
		2011 温暖期	0.19	0.17	8.8	nd	0.16 [0.06]	31/35	31/35
		2011 寒冷期	0.16	tr(0.14)	2.6	nd		31/37	31/37
		2012 温暖期	tr(0.13)	tr(0.12)	2.4	nd	0.14 [0.06]	30/36	30/36
		2012 寒冷期	tr(0.09)	tr(0.09)	0.77	nd		26/36	26/36
		2014 温暖期	tr(0.13)	tr(0.14)	0.80	nd	0.28 [0.09]	25/36	25/36
		2015 温暖期	nd	nd	0.9	nd		6/35	6/35
		2016 温暖期	nd	nd	28	nd	0.4 [0.2]	6/37	6/37
		2017 温暖期	0.11	0.10	3.4	nd		33/37	33/37
		2018 温暖期	tr(0.08)	nd	4.1	nd	0.20 [0.08]	18/37	18/37
ヘキサブロモジフェニルエーテル類		実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )								検体	地点
		2009 温暖期	tr(0.11)	tr(0.11)	2.0	nd	0.22 [0.09]	19/37	19/37
		2009 寒冷期	tr(0.20)	0.22	27	nd		24/37	24/37
		2010 温暖期	tr(0.14)	tr(0.13)	4.9	nd	0.16 [0.06]	29/37	29/37
		2010 寒冷期	0.24	0.27	5.4	nd		31/37	31/37
		2011 温暖期	tr(0.11)	tr(0.10)	1.2	nd	0.14 [0.05]	28/35	28/35
		2011 寒冷期	0.16	0.18	1.7	nd		30/37	30/37
		2012 温暖期	nd	nd	3.1	nd	0.3 [0.1]	9/36	9/36
		2012 寒冷期	tr(0.1)	tr(0.1)	0.5	nd		22/36	22/36
		2014 温暖期	nd	nd	0.4	nd	0.4 [0.1]	5/36	5/36
		2015 温暖期	nd	nd	2.0	nd		3/35	3/35
		2016 温暖期	nd	nd	2.7	nd	0.6 [0.2]	3/37	3/37
		2017 温暖期	nd	nd	2.1	nd		11/37	11/37
		2018 温暖期	nd	nd	1.5	nd	0.17 [0.06]	9/37	9/37
ヘプタブロモジフェニルエーテル類		実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )								検体	地点
		2009 温暖期	tr(0.1)	nd	1.7	nd	0.3 [0.1]	17/37	17/37
		2009 寒冷期	tr(0.2)	0.3	20	nd		25/37	25/37
		2010 温暖期	tr(0.2)	tr(0.1)	1.4	nd	0.3 [0.1]	24/37	24/37
		2010 寒冷期	0.3	0.4	11	nd		28/37	28/37
		2011 温暖期	tr(0.1)	tr(0.1)	1.1	nd	0.3 [0.1]	20/35	20/35
		2011 寒冷期	tr(0.2)	tr(0.2)	2.3	nd		25/37	25/37
		2012 温暖期	nd	nd	1.8	nd	0.5 [0.2]	6/36	6/36
		2012 寒冷期	nd	nd	0.7	nd		8/36	8/36
		2014 温暖期	nd	nd	tr(0.4)	nd	0.7 [0.2]	2/36	2/36
		2015 温暖期	nd	nd	tr(0.6)	nd		2/35	2/35
		2016 温暖期	nd	nd	1.3	nd	1.1 [0.4]	1/37	1/37
		2017 温暖期	nd	nd	3.2	nd		10/37	10/37
		2018 温暖期	tr(0.09)	nd	1.3	nd	0.20 [0.08]	16/37	16/37

オクタブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2009 温暖期	tr(0.2)	0.3	1.6	nd	0.3 [0.1]	23/37	23/37
	2009 寒冷期	0.3	0.4	7.1	nd		26/37	26/37
	2010 温暖期	0.25	0.30	2.3	nd	0.15 [0.06]	30/37	30/37
	2010 寒冷期	0.40	0.52	6.9	nd		32/37	32/37
	2011 温暖期	0.24	0.31	1.9	nd	0.20 [0.08]	27/35	27/35
	2011 寒冷期	0.35	0.44	7.0	nd		30/37	30/37
	2012 温暖期	tr(0.2)	tr(0.2)	1.2	nd	0.3 [0.1]	29/36	29/36
	2012 寒冷期	0.3	0.4	1.2	nd		30/36	30/36
	2014 温暖期	tr(0.1)	tr(0.1)	0.7	nd	0.4 [0.1]	22/36	22/36
	2015 温暖期	nd	nd	3.8	nd	1.1 [0.4]	9/35	9/35
2016 温暖期	nd	nd	1.6	nd	0.6 [0.2]	18/37	18/37	
2017 温暖期	tr(0.19)	0.23	5.7	nd	0.21 [0.07]	28/37	28/37	
2018 温暖期	0.15	0.14	1.3	nd	0.11 [0.04]	34/37	34/37	
ノナブロモジフェニルエーテル類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2009 温暖期	tr(0.7)	tr(0.7)	3.0	nd	1.8 [0.6]	22/37	22/37
	2009 寒冷期	tr(1.0)	tr(0.8)	3.9	nd		27/37	27/37
	2010 温暖期	nd	nd	24	nd	3.7 [1.2]	12/37	12/37
	2010 寒冷期	tr(1.2)	tr(1.3)	7.1	nd		22/37	22/37
	2011 温暖期	tr(0.8)	0.9	3.9	nd	0.9 [0.4]	29/35	29/35
	2011 寒冷期	1.1	1.1	14	nd		30/37	30/37
	2012 温暖期	tr(0.5)	tr(0.5)	5.1	nd	1.2 [0.4]	24/36	24/36
	2012 寒冷期	tr(0.9)	tr(1.1)	4.7	nd		30/36	30/36
	2014 温暖期	nd	nd	tr(3)	nd	4 [1]	7/36	7/36
	2015 温暖期	nd	nd	12	nd	3.2 [1.1]	14/35	14/35
2016 温暖期	tr(0.9)	tr(0.9)	11	nd	1.4 [0.5]	28/37	28/37	
2017 温暖期	0.8	0.8	40	nd	0.6 [0.2]	31/37	31/37	
2018 温暖期	0.51	0.7	3	nd	0.4 [0.2]	31/37	31/37	
デカブロモジフェニルエーテル	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2009 温暖期	tr(7)	tr(9)	31	nd	16 [5]	28/37	28/37
	2009 寒冷期	tr(10)	tr(11)	45	nd		29/37	29/37
	2010 温暖期	nd	nd	290	nd	27 [9.1]	10/37	10/37
	2010 寒冷期	tr(11)	tr(12)	88	nd		21/37	21/37
	2011 温暖期	tr(8.2)	tr(9.0)	30	nd	12 [4.0]	31/35	31/35
	2011 寒冷期	tr(8.4)	tr(9.0)	44	nd		29/37	29/37
	2012 温暖期	nd	nd	31	nd	16 [5]	17/36	17/36
	2012 寒冷期	tr(10)	tr(12)	73	nd		28/36	28/36
	2014 温暖期	tr(4.7)	tr(5.0)	64	nd	9 [3]	24/36	24/36
	2015 温暖期	4.2	4.3	61	nd	2.2 [0.7]	30/35	30/35
2016 温暖期	5	5	86	nd	3 [1]	35/37	35/37	
2017 温暖期	4.2	4.4	140	nd	2.4 [0.8]	34/37	34/37	
2018 温暖期	2.6	3.4	19	nd	2.0 [0.8]	31/37	31/37	

(注) 2013 年度は調査を実施していない。

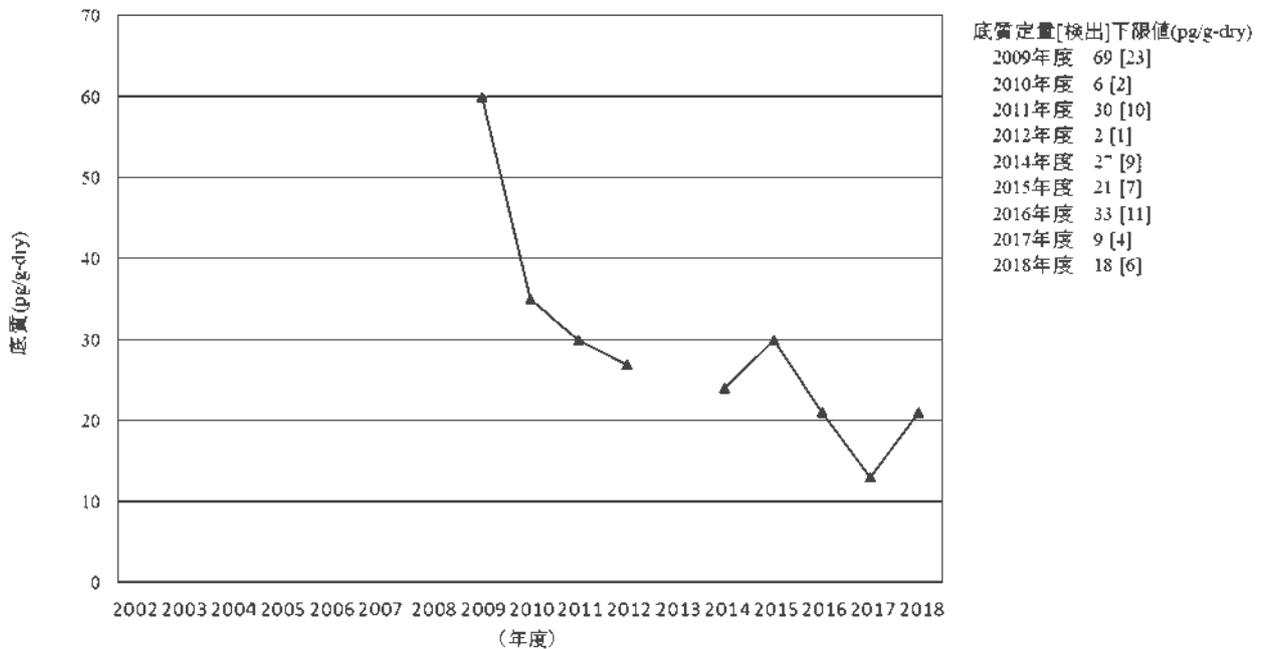
[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類



(注1) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。  
 (注2) 2010年度及び2018年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-14-1-1 テトラブロモジフェニルエーテル類の水質の経年変化 (幾何平均値)

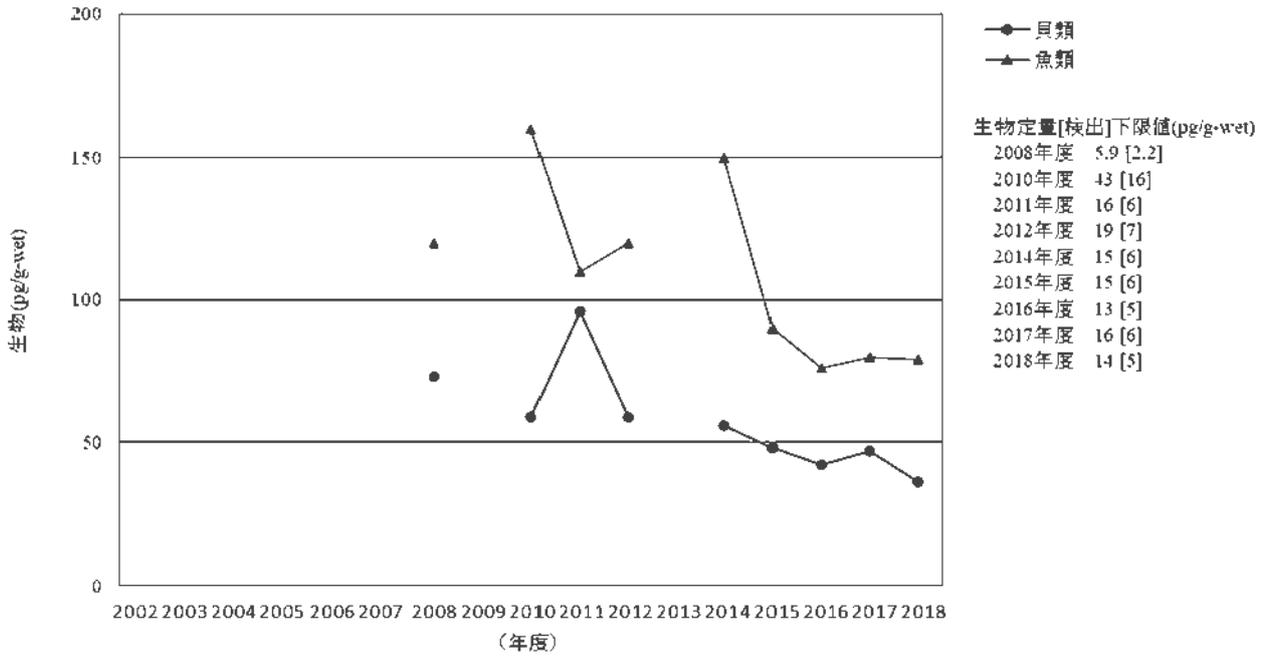
[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類



(注) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-1-2 テトラブロモジフェニルエーテル類の底質の経年変化 (幾何平均値)

[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類

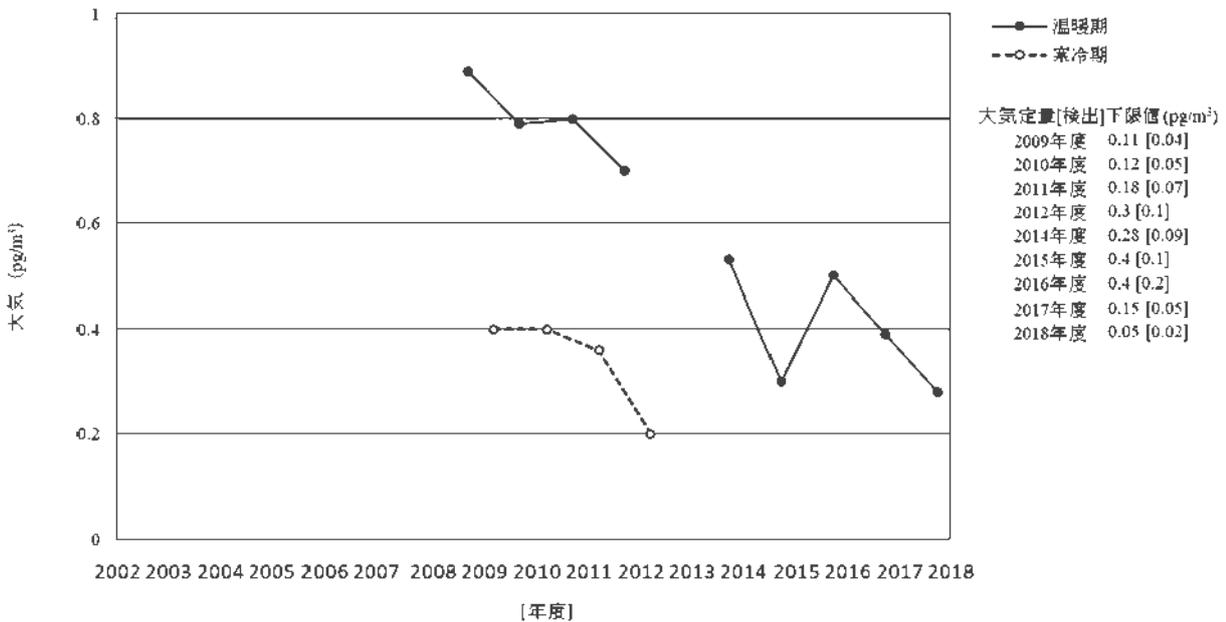


(注1) 鳥類は2014年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注2) 2002年度から2007年度、2009年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-1-3 テトラブロモジフェニルエーテル類の生物の経年変化（幾何平均値）

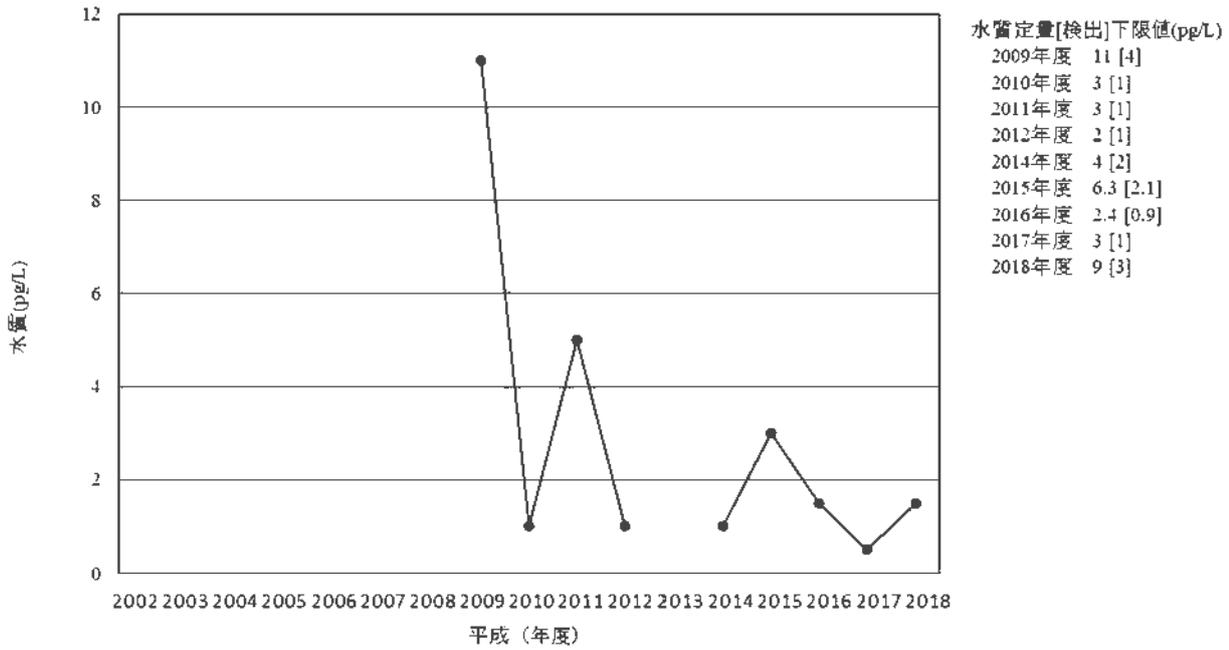
[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類



(注) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-1-4 テトラブロモジフェニルエーテル類の大気の経年変化（幾何平均値）

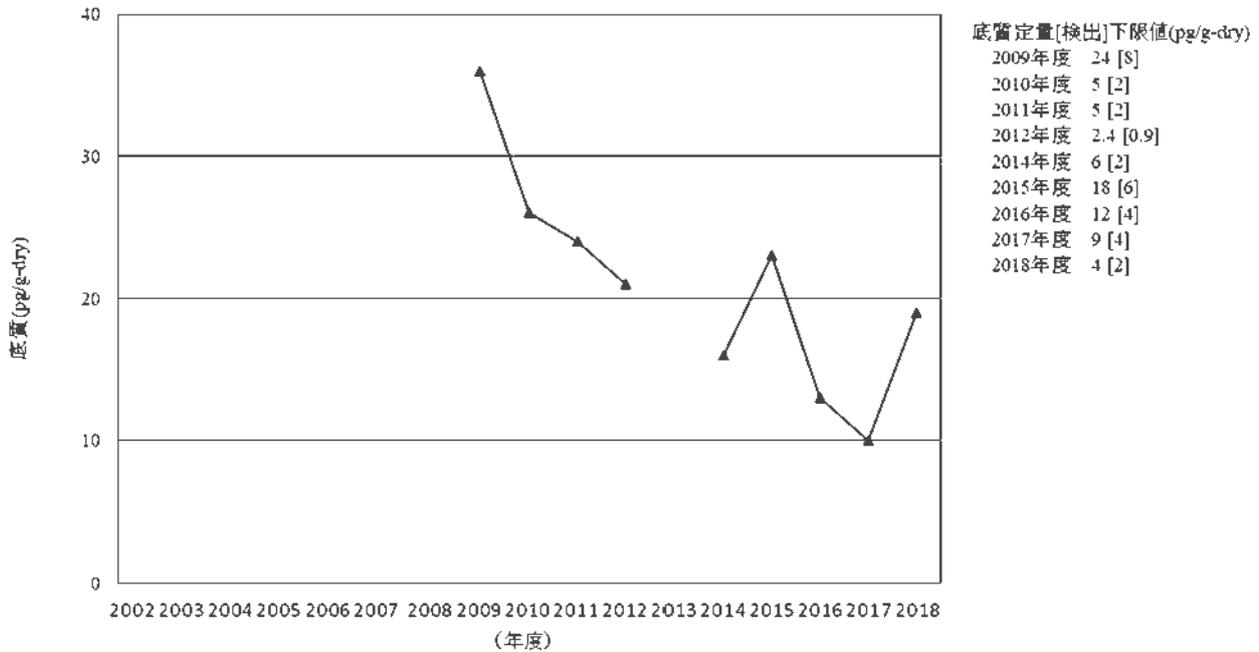
[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類



(注1) 2002年度、2017年度及び2008年度及び2013年度は調査を実施していない。  
 (注2) 2014年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-14-2-1 ペンタブロモジフェニルエーテル類の水質の経年変化（幾何平均値）

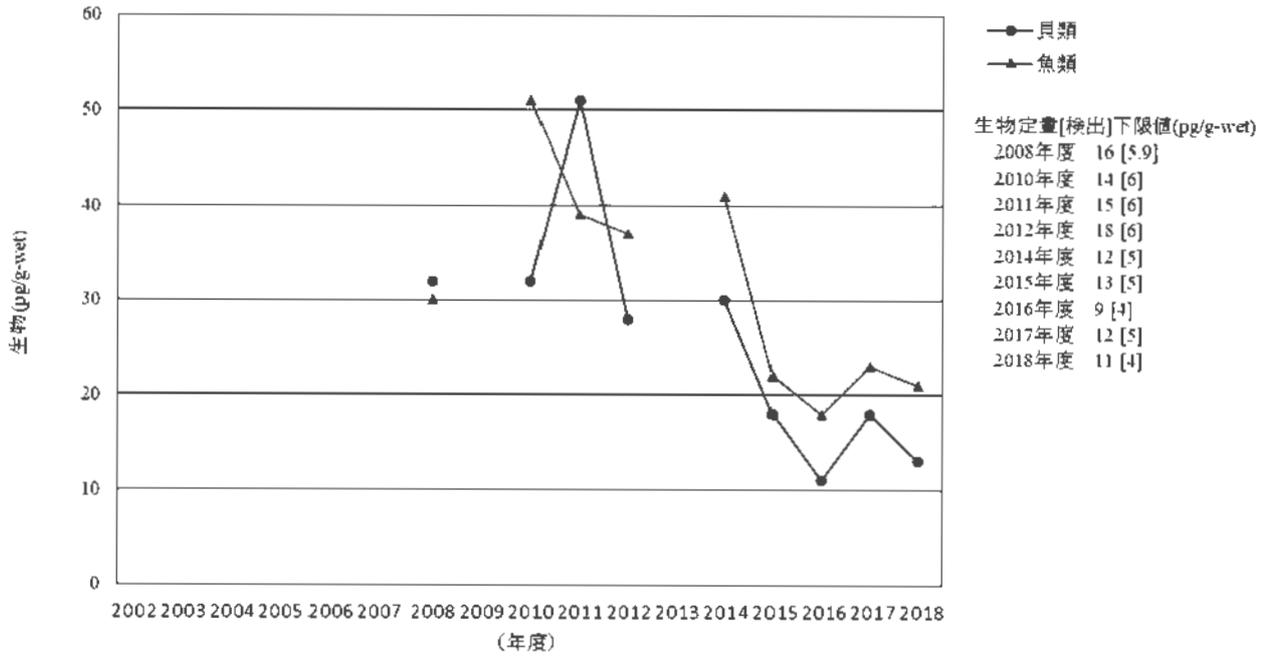
[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類



(注) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-2-2 ペンタブロモジフェニルエーテル類の底質の経年変化（幾何平均値）

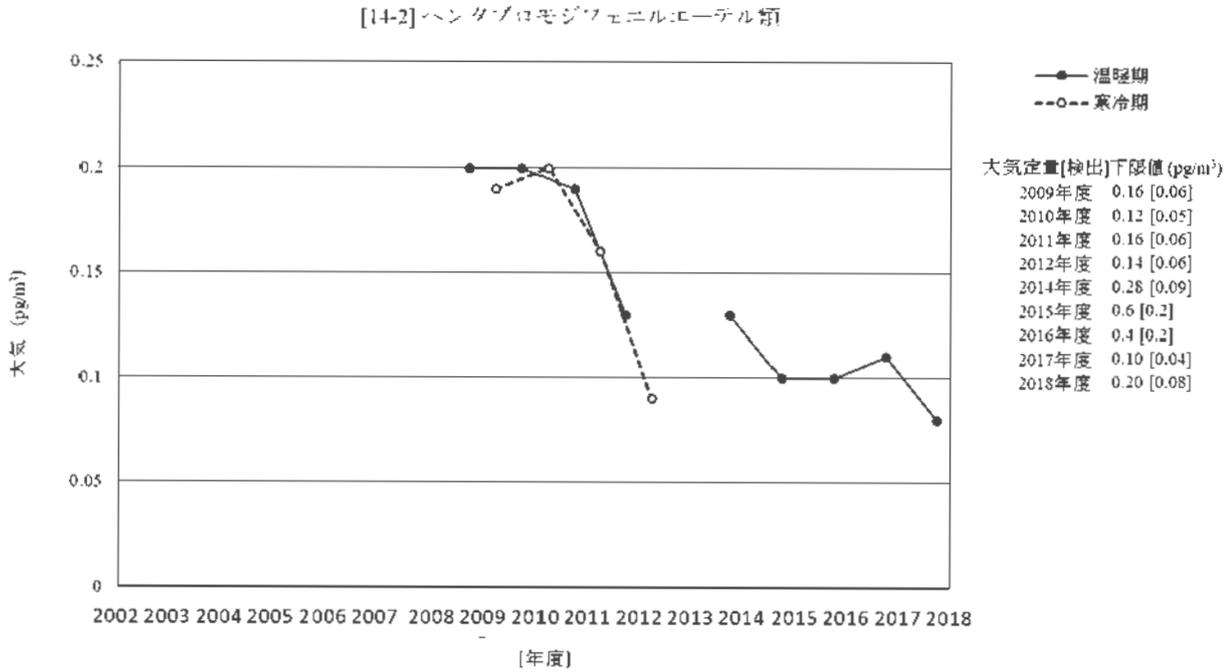
[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類



(注 1) 鳥類は 2014 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから 2012 年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注 2) 2002 年度から 2007 年度、2009 年度及び 2013 年度は調査を実施していない。

図 3-14-2-3 ペンタブロモジフェニルエーテル類の生物の経年変化（幾何平均値）

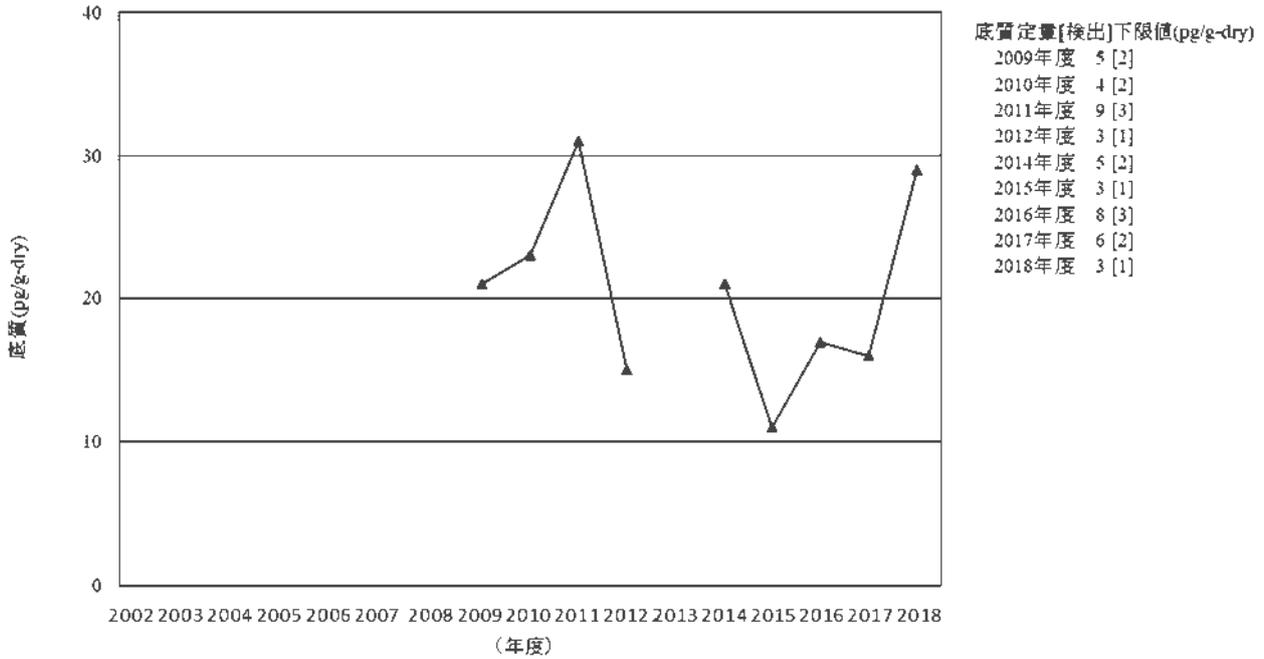


(注 1) 2002 年度から 2008 年度及び 2013 年度は調査を実施していない。

(注 2) 2015 年度から 2017 年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の 1/2 の値を図示した。

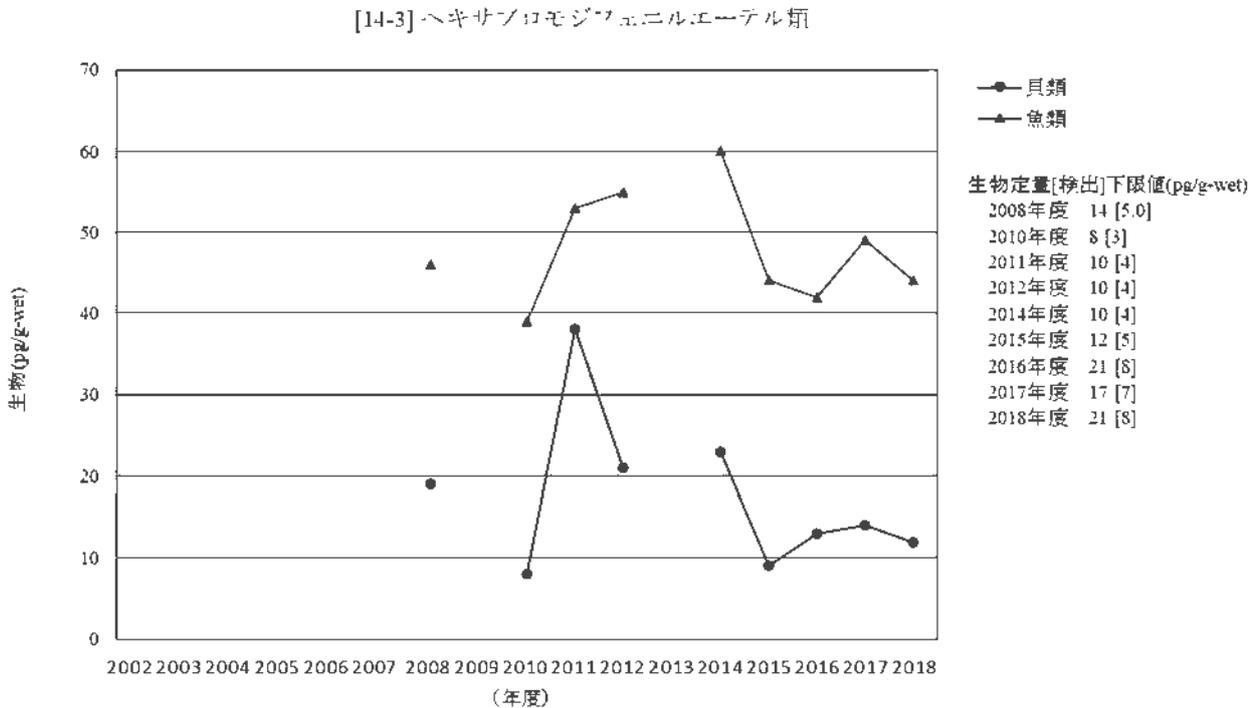
図 3-14-2-4 ペンタブロモジフェニルエーテル類の大気経年変化（幾何平均値）

[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類



(注) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-3-1 ヘキサブロモジフェニルエーテル類の底質の経年変化 (幾何平均値)

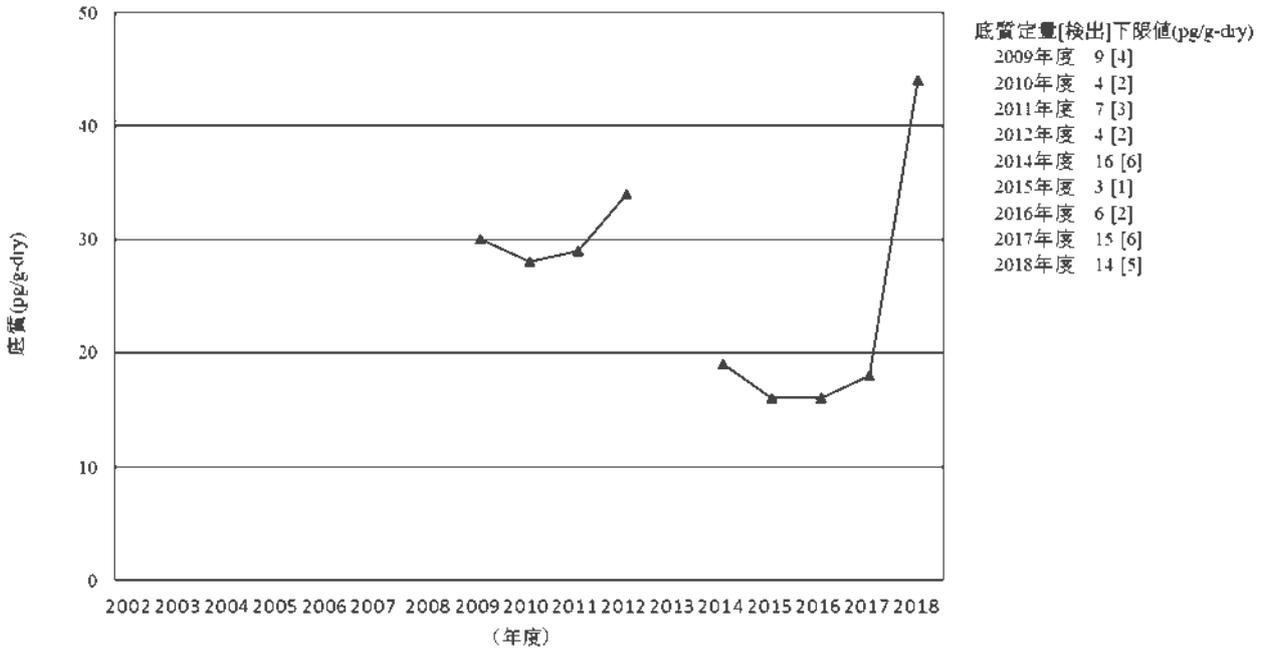


(注 1) 鳥類は2014年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注 2) 2002年度から2007年度、2009年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-3-2 ヘキサブロモジフェニルエーテル類の生物の経年変化 (幾何平均値)

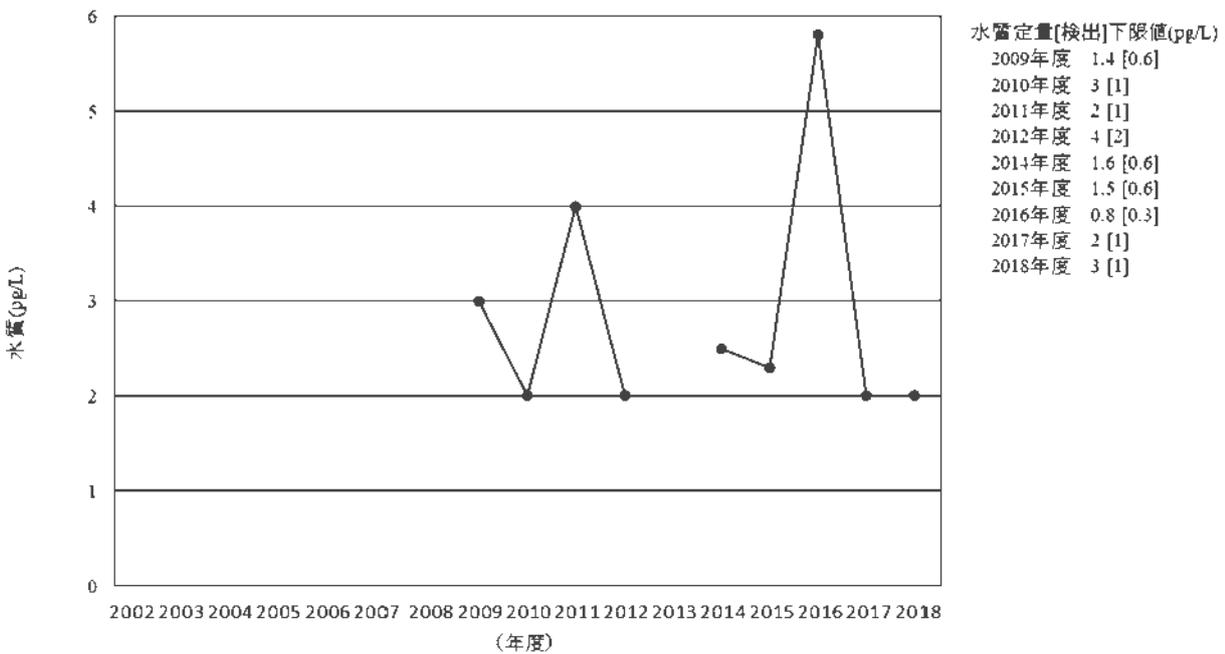
[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類



(注) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-4-1 ヘプタブロモジフェニルエーテル類の底質の経年変化（幾何平均値）

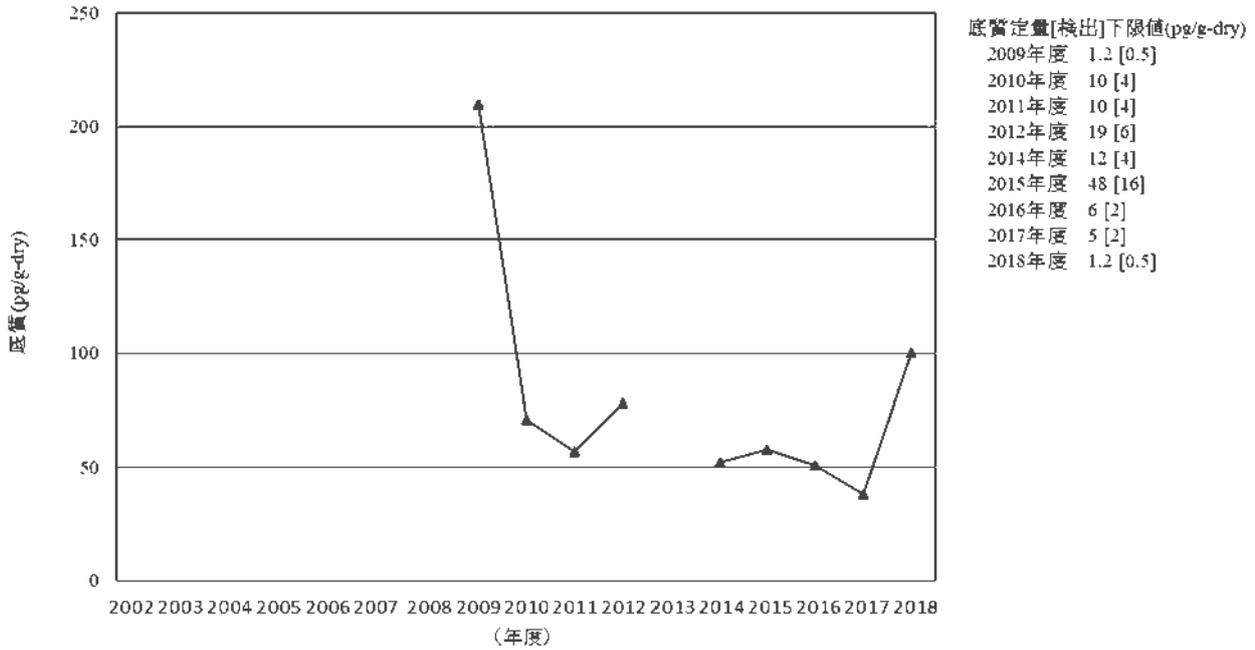
[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類



(注) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-5-1 オクタブロモジフェニルエーテル類の水質の経年変化（幾何平均値）

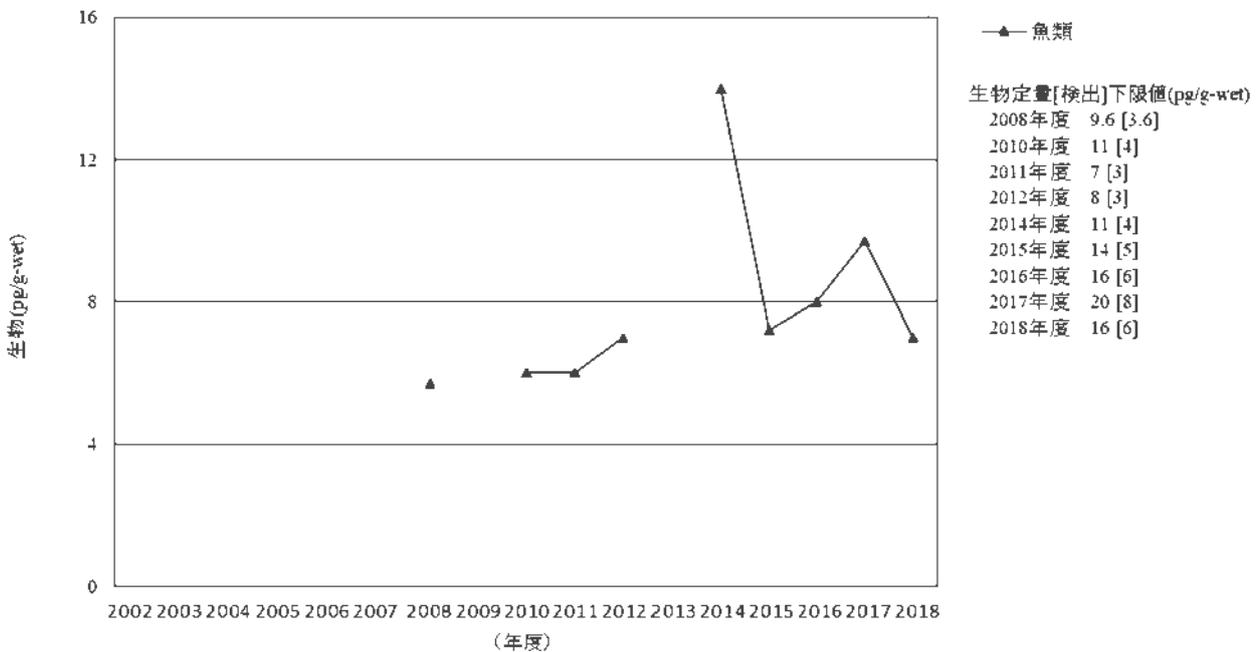
[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類



(注) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-5-2 オクタブロモジフェニルエーテル類の底質の経年変化（幾何平均値）

[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類



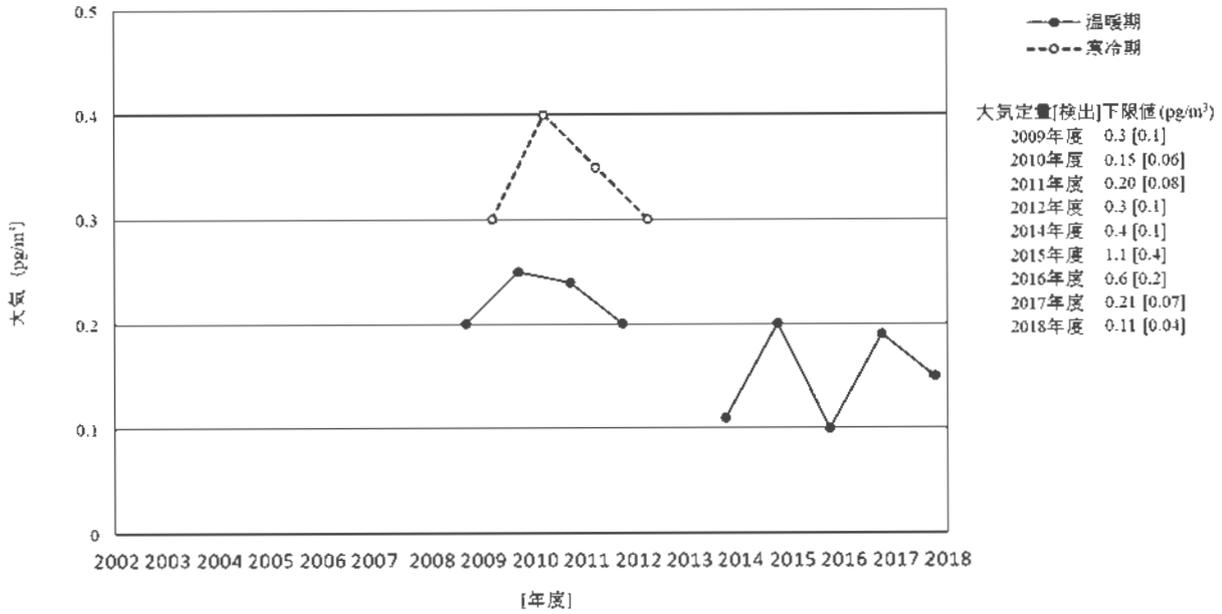
(注1) 貝類については、多くの年度において幾何平均値が検出下限値未満であったため、経年変化は示していない。

(注2) 鳥類は2014年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注3) 2002年度から2007年度、2009年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-5-3 オクタブロモジフェニルエーテル類の生物の経年変化（幾何平均値）

[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類

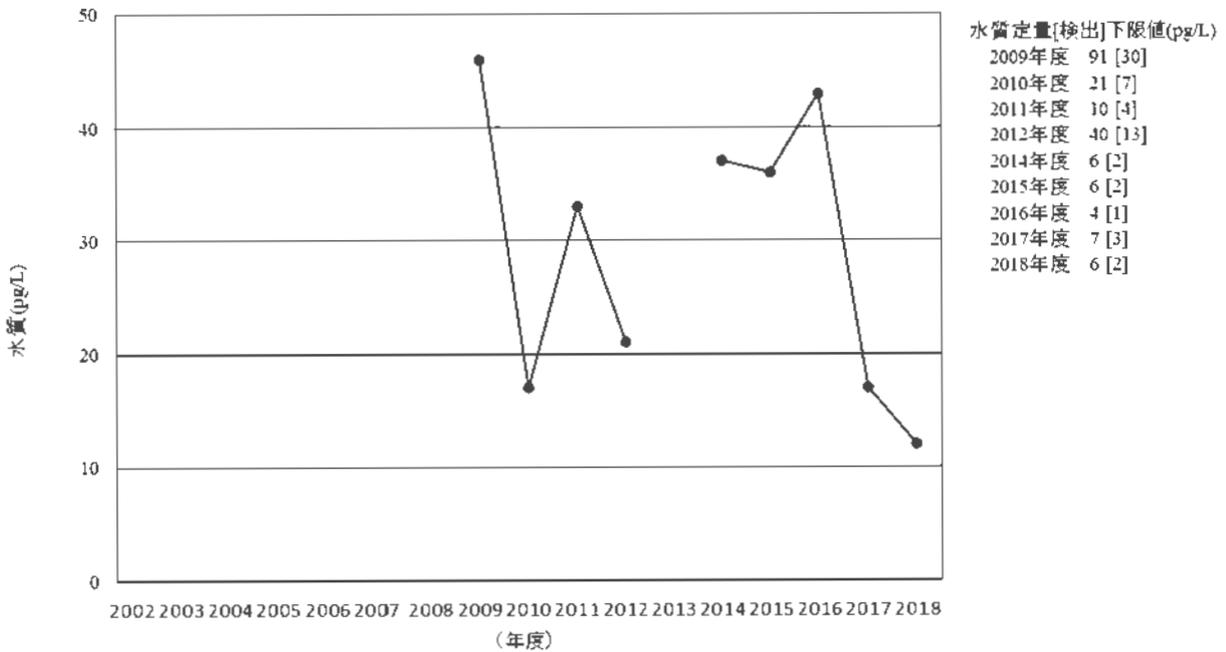


(注1) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

(注2) 2015年度及び2016年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-14-5-4 オクタブロモジフェニルエーテル類の大気中の経年変化（幾何平均値）

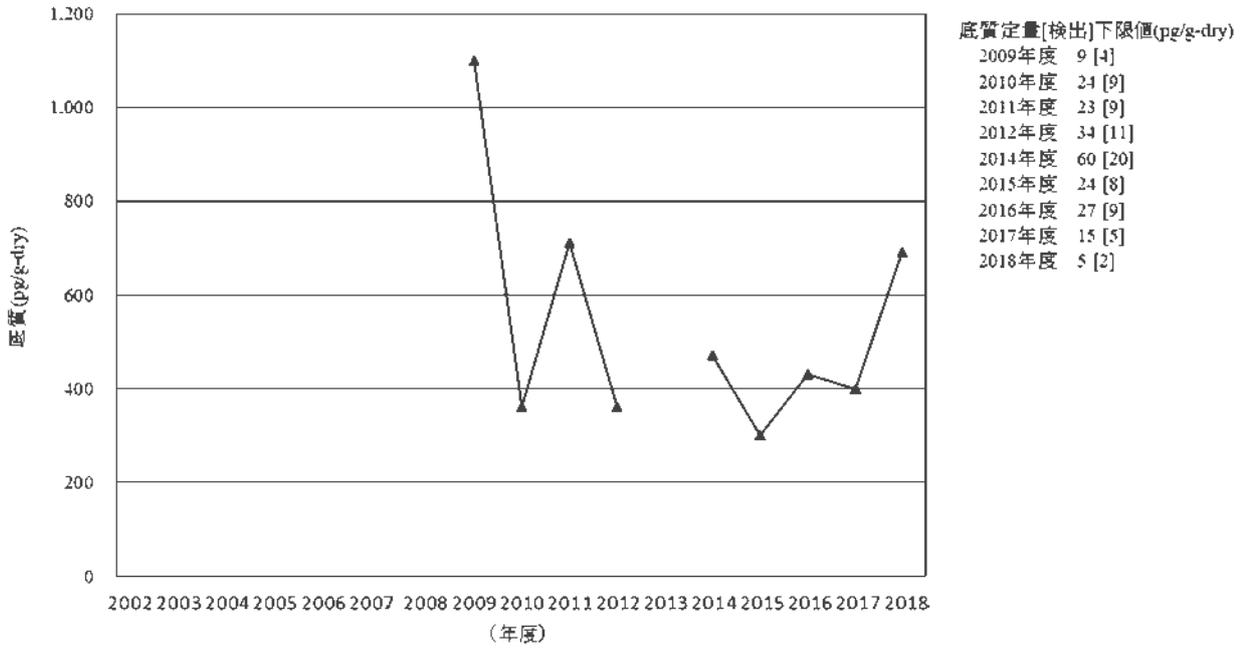
[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類



(注) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

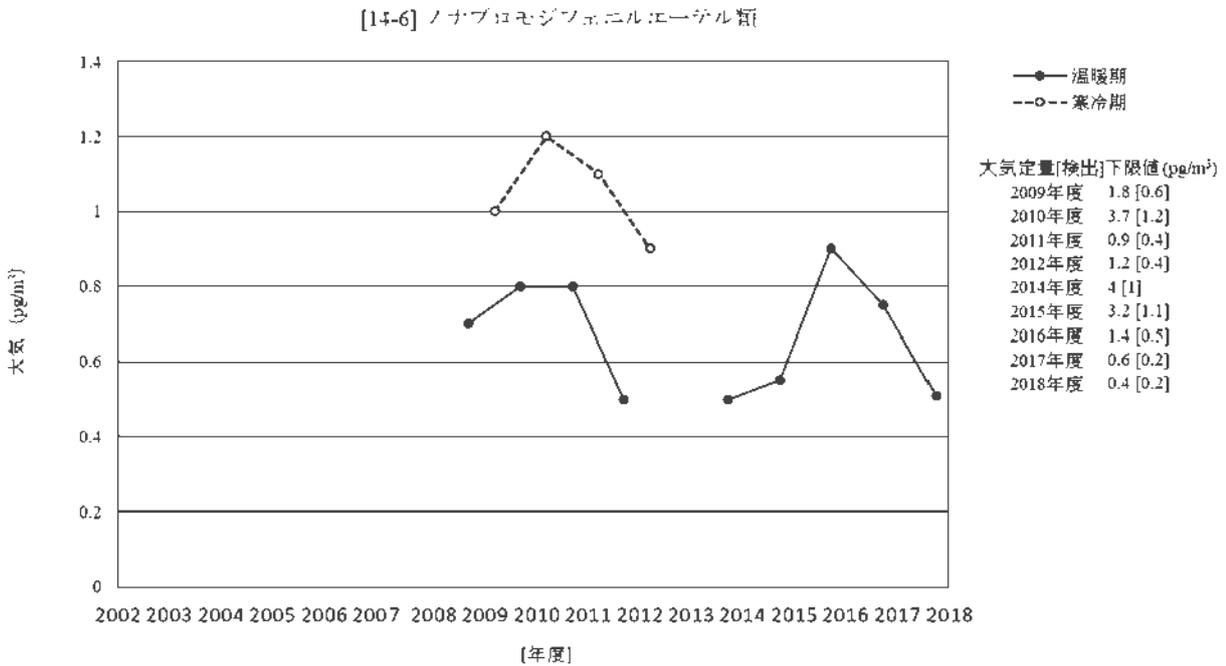
図 3-14-6-1 ノナブロモジフェニルエーテル類の水質中の経年変化（幾何平均値）

[14-6] ノナブromジフェニルエーテル類



(注) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-6-2 ノナブromジフェニルエーテル類の底質の経年変化 (幾何平均値)

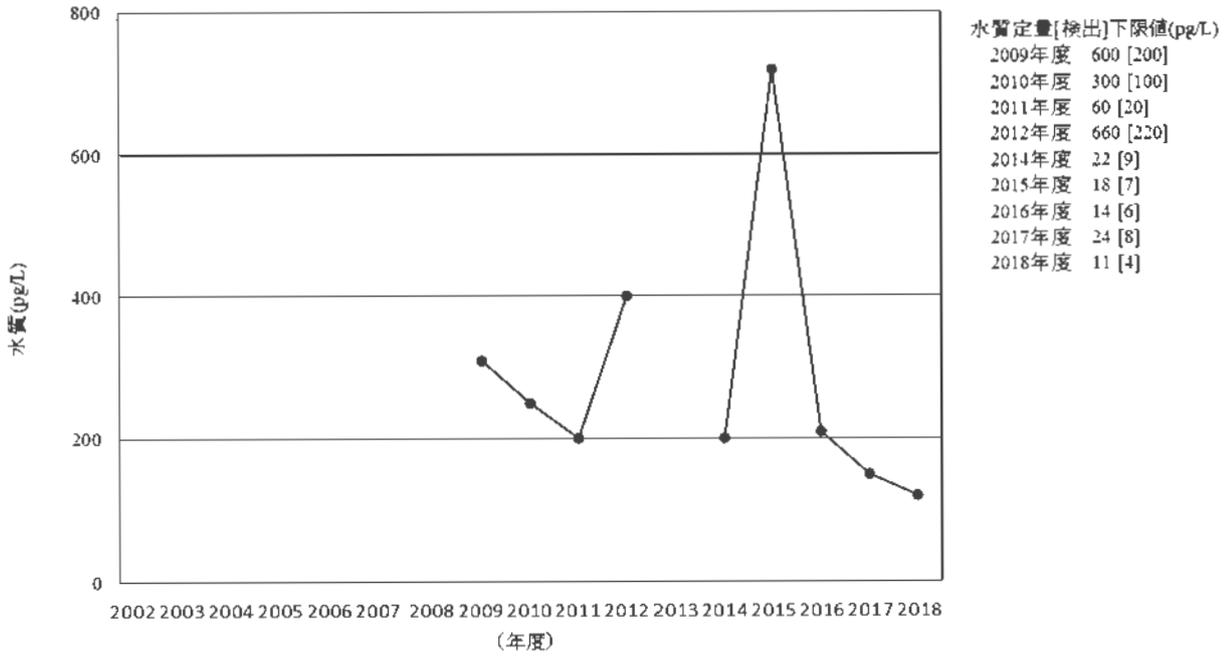


(注 1) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

(注 2) 2010年度の温暖期並びに2014年度及び2015年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-14-6-3 ノナブromジフェニルエーテル類の大気の大気濃度の経年変化 (幾何平均値)

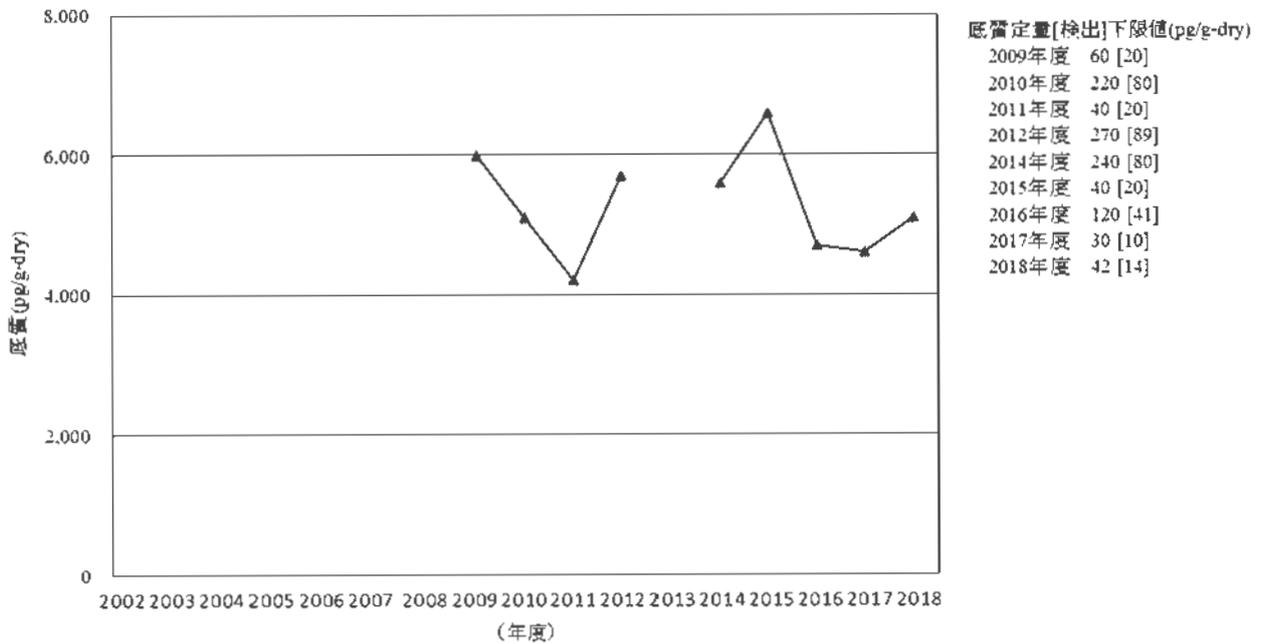
[14-7] デカブロモジフェニルエーテル



(注) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-7-1 デカブロモジフェニルエーテルの水質の経年変化 (幾何平均値)

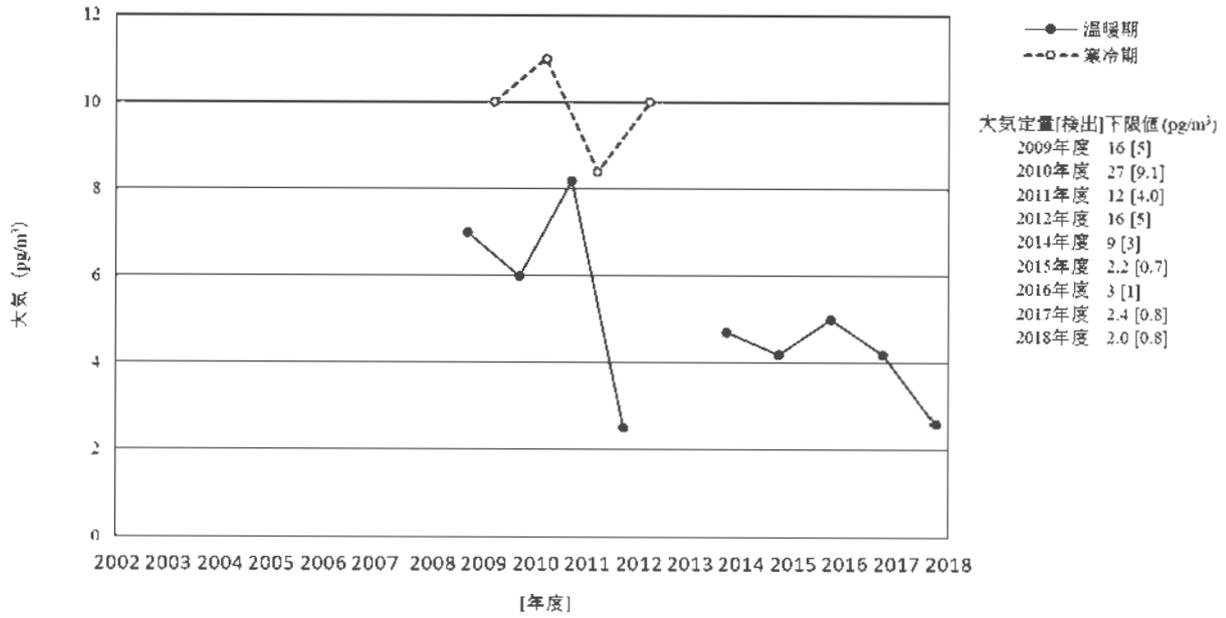
[14-7] デカブロモジフェニルエーテル



(注) 2002年度から2008年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-14-7-2 デカブロモジフェニルエーテルの底質の経年変化 (幾何平均値)

[14-7] デカブロモジフェニルエーテル



(注 1) 2002 年度から 2008 年度及び 2013 年度は調査を実施していない。

(注 2) 2010 年度及び 2012 年度の温暖期は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の 1/2 の値を図示した。

図 3-14-7-3 デカブロモジフェニルエーテルの大気の変年変化 (幾何平均値)

## [15] ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)

### ・調査の経緯及び実施状況

ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) は、撥水撥油剤及び界面活性剤等として利用されている。2009年5月に開催された POPs 条約の第4回条約締約国会議 (COP4) においてペルフルオロオクタンスルホン酸及びその塩並びにペルフルオロオクタンスルホニルフルオリドを条約対象物質とすることが採択され、2010年4月に化審法に基づく第一種特定化学物質にペルフルオロ(オクタン-1-スルホン酸)及びその塩並びにペルフルオロ(オクタン-1-スルホニル)フルオリドが指定されている。

継続的調査としては2009年度が初めての調査であり、2002年度以降の化学物質環境実態調査の初期環境調査及び詳細環境調査等では、2002年度に水質の調査を、2003年度に底質及び生物(魚類)の調査を、2004年度に大気の調査を、2005年度に水質、底質及び生物(貝類及び魚類)の調査をそれぞれ実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、直鎖のオクチル基を有するペルフルオロ(オクタン-1-スルホン酸)を分析対象として、2009年度に水質、底質及び生物(貝類、魚類及び鳥類)の調査を、2010年度から2012年度に水質、底質、生物(貝類、魚類及び鳥類)及び大気の調査を、2013年度は大気の調査を、2014年度から2016年度に水質、底質、生物(貝類、魚類及び鳥類)及び大気の調査を、2017年度に生物(貝類、魚類及び鳥類)及び大気、2018年度に水質、底質の調査を実施している。

### ・調査結果

#### <水質>

水質については、47地点を調査し、検出下限値 30 pg/L において 47地点中 42地点で検出され、検出濃度は 4,100 pg/L までの範囲であった。2009年度から2018年度における経年分析の結果、湖沼域の減少傾向が統計的に有意と判定された。

#### ○2009年度から2018年度における水質についてのペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) の検出状況

ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2009	730	580	14,000	tr(26)	37 [14]	49/49	49/49
	2010	490	380	230,000	tr(37)	50 [20]	49/49	49/49
	2011	480	360	10,000	tr(20)	50 [20]	49/49	49/49
	2012	550	510	14,000	39	31 [12]	48/48	48/48
	2014	460	410	7,500	nd	50 [20]	47/48	47/48
	2015	630	490	4,700	120	29 [11]	48/48	48/48
	2016	330	300	14,000	tr(23)	50 [20]	48/48	48/48
	2018	310	300	4,100	nd	70 [30]	42/47	42/47

(注) 2013年度及び2017年度は調査を実施していない。

<底質>

底質については、61 地点を調査し、検出下限値 3 pg/g-dry において 61 地点中 55 地点で検出され、検出濃度は 700 pg/g-dry までの範囲であった。2009 年度から 2018 年度における経年分析の結果、海域の減少傾向が統計的に有意と判定された。

○2009 年度から 2018 年度における底質についてのペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) の検出状況

ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2009	78	97	1,900	nd	9.6 [3.7]	180/190	64/64
	2010	82	100	1,700	tr(3)	5 [2]	64/64	64/64
	2011	92	110	1,100	nd	5 [2]	63/64	63/64
	2012	68	84	1,200	tr(7)	9 [4]	63/63	63/63
	2014	59	79	980	nd	5 [2]	62/63	62/63
	2015	91	88	2,200	7	3 [1]	62/62	62/62
	2016	54	61	690	5	5 [2]	62/62	62/62
	2018	43	57	700	nd	7 [3]	55/61	55/61

(注 1) ※ : 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注 2) 2013 年度及び 2017 年度は調査を実施していない。

・ 2017 年度までの生物 (貝類、魚類及び鳥類) 及び大気の結果 (参考)

<生物>

○2009 年度から 2017 年度における生物 (貝類、魚類及び鳥類) についてのペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) の検出状況

ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2009	24	28	640	nd	19 [7.4]	17/31	5/7
	2010	72	85	680	nd	25 [9.6]	5/6	5/6
	2011	38	44	100	16	10 [4]	4/4	4/4
	2012	27	21	160	tr(4)	7 [3]	5/5	5/5
	2014	8	6	93	nd	5 [2]	2/3	2/3
	2015	7	tr(2)	210	nd	4 [2]	2/3	2/3
	2016	11	tr(6)	160	nd	9 [3]	2/3	2/3
	2017	22	34	160	nd	12 [4]	2/3	2/3
魚類 (pg/g-wet)	2009	220	230	15,000	nd	19 [7.4]	83/90	17/18
	2010	390	480	15,000	nd	25 [9.6]	17/18	17/18
	2011	82	95	3,200	nd	10 [4]	16/18	16/18
	2012	110	130	7,300	tr(5)	7 [3]	19/19	19/19
	2014	82	83	4,600	nd	5 [2]	18/19	18/19
	2015	91	90	2,500	nd	4 [2]	18/19	18/19
	2016	79	80	5,200	nd	9 [3]	18/19	18/19
	2017	150	150	11,000	tr(4)	12 [4]	19/19	19/19
鳥類 (pg/g-wet)	2009	300	360	890	37	19 [7.4]	10/10	2/2
	2010	1,300	---	3,000	580	25 [9.6]	2/2	2/2
	2011	---	---	110	110	10 [4]	1/1	1/1
	2012	160	---	410	63	7 [3]	2/2	2/2
	2014※※	4,600	---	110,000	190	5 [2]	2/2	2/2
	2015※※	---	---	790	790	4 [2]	1/1	1/1
	2016※※	3,600	---	9,100	1,400	9 [3]	2/2	2/2
	2017※※	9,800	---	32,000	3,000	12 [4]	2/2	2/2

(注 1) ※ : 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注 2) ※※ : 鳥類の 2014 年度以降の結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012 年度までの結果と継続性がない。

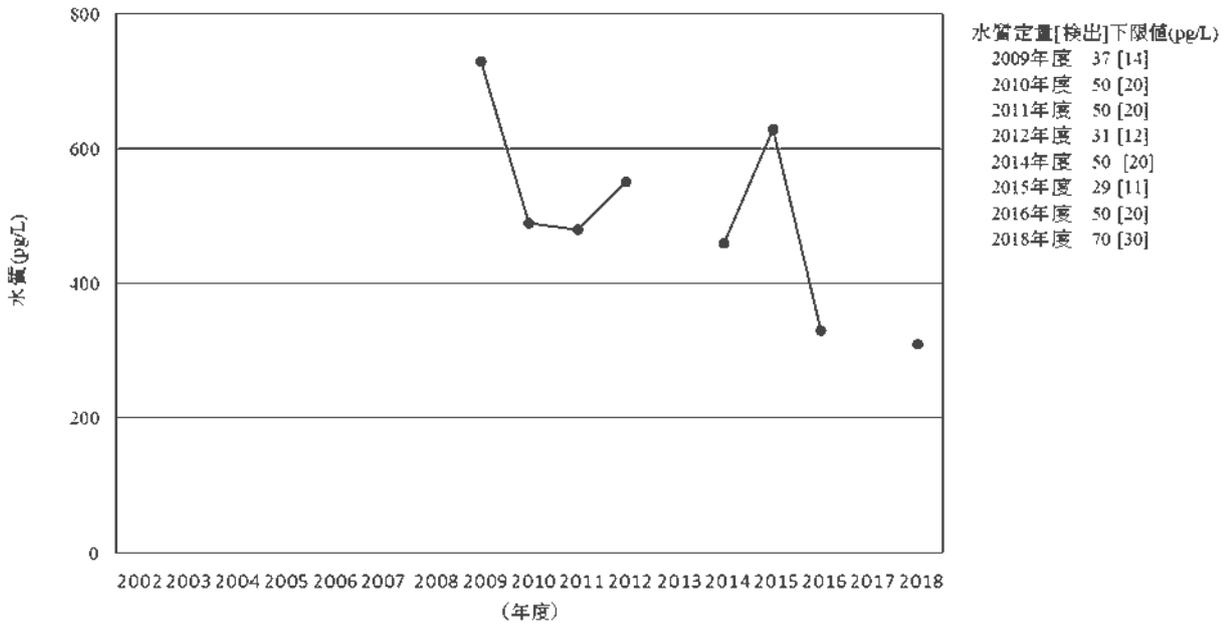
(注 3) 2013 年度は調査を実施していない。

<大気>

○2010年度から2017年度における大気についてのペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）の検出状況

実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度		
						検体	地点	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2010 温暖期	5.2	5.9	14	1.6	0.4 [0.1]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	4.7	4.4	15	1.4		37/37	37/37
	2011 温暖期	4.4	4.2	10	0.9	0.5 [0.2]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	3.7	3.8	9.5	1.3		37/37	37/37
	2012 温暖期	3.6	3.8	8.9	1.3	0.5 [0.2]	36/36	36/36
	2012 寒冷期	2.7	3.0	5.9	1.0		36/36	36/36
	2013 温暖期	4.6	5.2	9.6	1.2	0.3 [0.1]	36/36	36/36
	2013 寒冷期	3.7	3.9	7.4	1.6		36/36	36/36
	2014 温暖期	3.1	3.2	8.6	0.52	0.17 [0.06]	36/36	36/36
	2015 温暖期	2.8	2.6	8.8	0.59	0.19 [0.06]	35/35	35/35
	2016 温暖期	3.1	2.4	9.3	0.7	0.6 [0.2]	37/37	37/37
	2017 温暖期	2.9	2.7	8.9	1.1	0.3 [0.1]	37/37	37/37

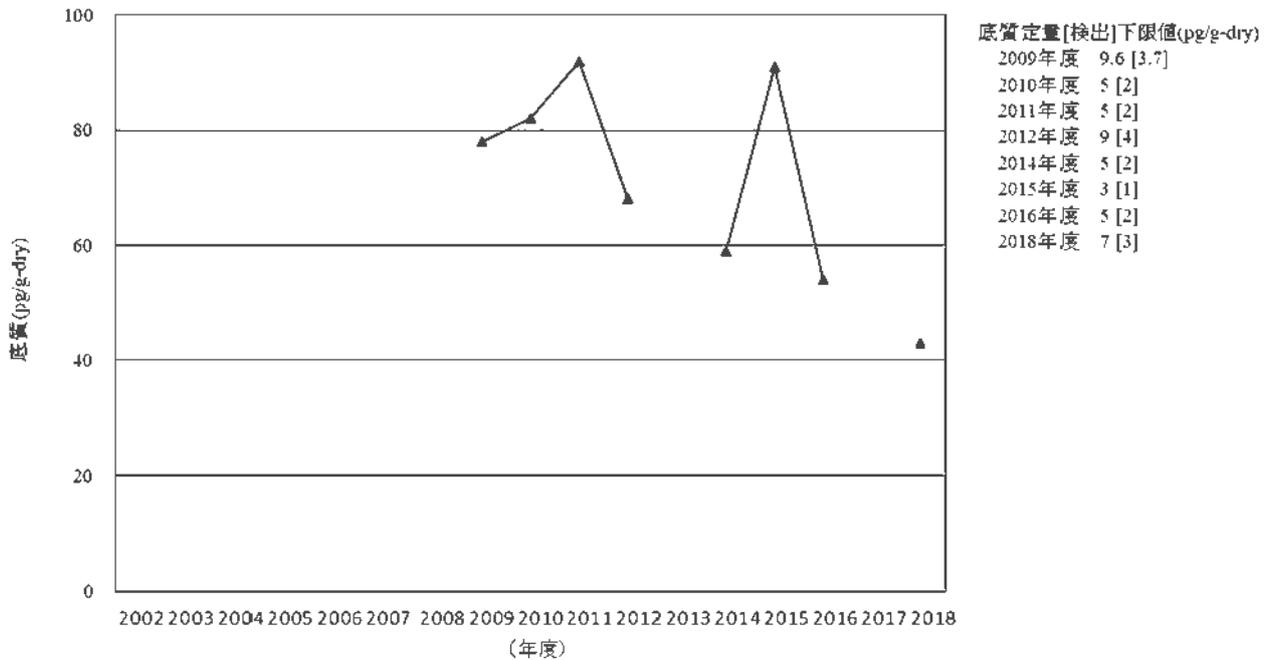
[15] ヘルフルオロオクタン スルホン酸 (PFOS)



(注) 2002 年度から 2008 年度、2013 年度及び 2017 年度は調査を実施していない。

図 3-15-1 ペルフルオロオクタン スルホン酸 (PFOS) の水質の経年変化 (幾何平均値)

[15] ヘルフルオロオクタン スルホン酸 (PFOS)

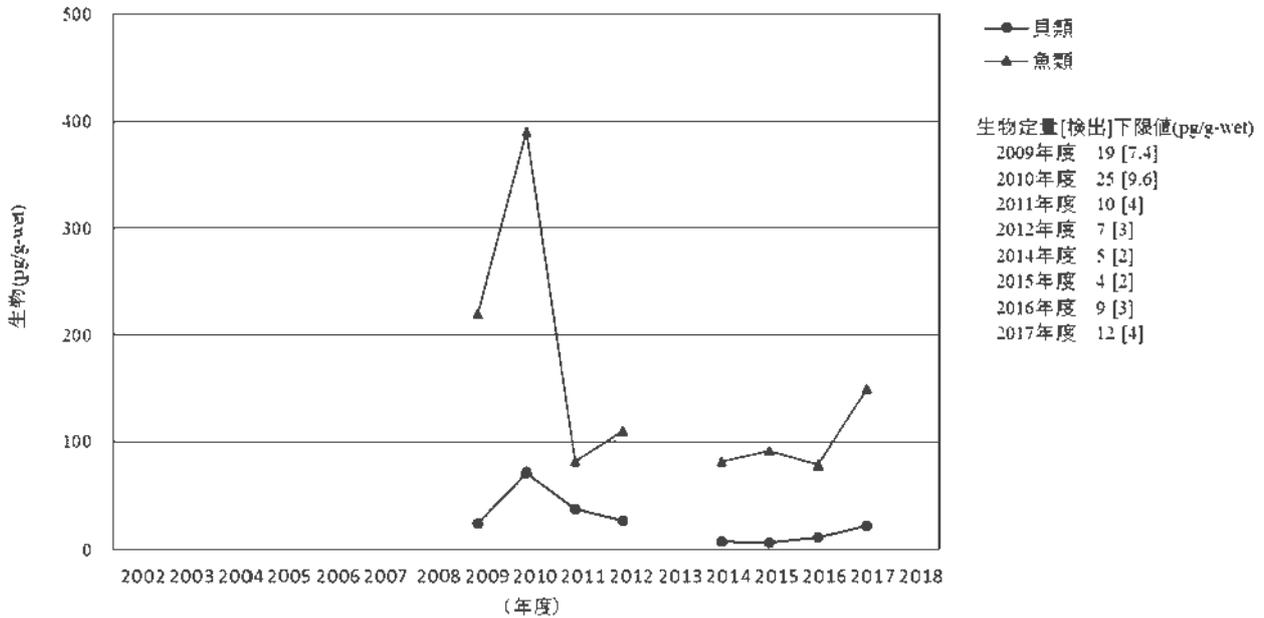


(注) 2002 年度から 2008 年度、2013 年度及び 2017 年度は調査を実施していない。

図 3-15-2 ペルフルオロオクタン スルホン酸 (PFOS) の底質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

[15] ハルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)



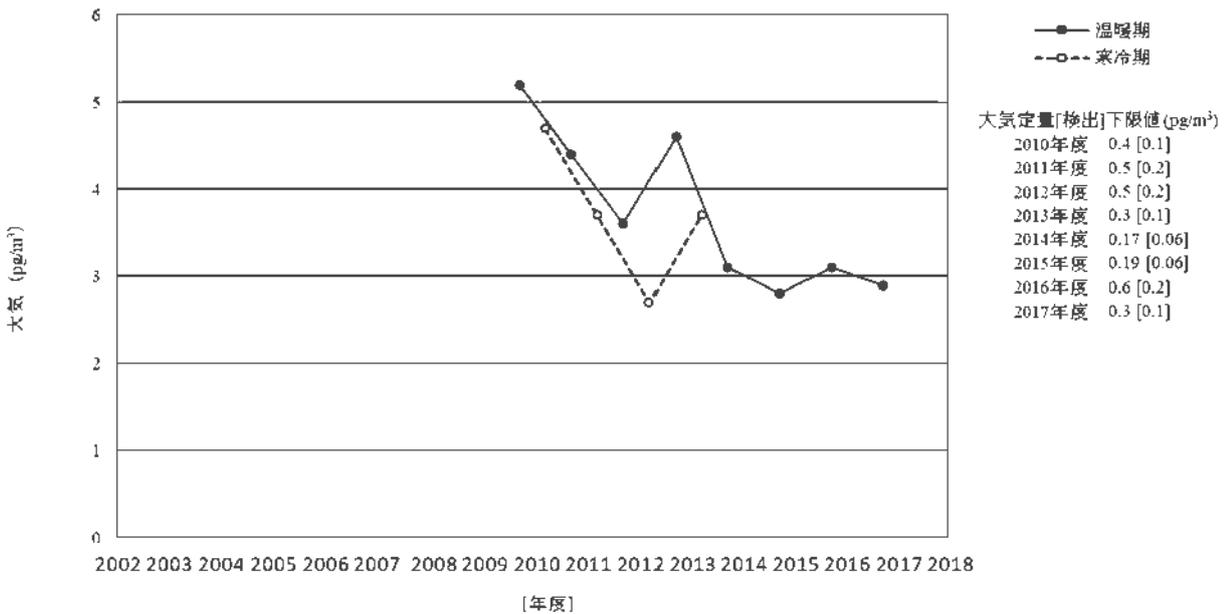
(注1) 鳥類は2014年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注2) 2002年度から2008年度、2013年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-15-3 ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) の生物の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

[15] ハルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)



(注) 2002年度から2009年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-15-4 ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) の大気の経年変化 (幾何平均値)

## [16] ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)

### ・調査の経緯及び実施状況

ペルフルオロオクタン酸 (PFOA) は、ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) と同様、撥水撥油剤及び界面活性剤等として利用されている。2019 年の 4 月から 5 月に開催された POPs 条約の第 9 回条約締結国会議 (COP9) においてペルフルオロオクタン酸並びにその塩及び関連物質を条約対象物質とすることが採択されている。

継続的調査としては 2009 年度が初めての調査であり、2002 年度以降の化学物質環境実態調査の初期環境調査及び詳細環境調査等では、2002 年度に水質の調査を、2003 年度に底質及び生物 (魚類) の調査を、2004 年度に大気の調査を、2005 年度に水質、底質及び生物 (貝類及び魚類) の調査をそれぞれ実施している。

2002 年度以降のモニタリング調査では、2009 年度に水質、底質及び生物 (貝類、魚類及び鳥類) の調査を、2010 年度から 2012 年度に水質、底質、生物 (貝類、魚類及び鳥類) 及び大気の調査を、2013 年度に大気の調査を、2014 年度から 2016 年度に水質、底質、生物 (貝類、魚類及び鳥類) 及び大気の調査を、2017 年度に生物 (貝類、魚類及び鳥類) 及び大気の調査を、2018 年度に水質及び底質の調査を実施している。

なお、モニタリング調査では、直鎖のヘプチル基を有するペルフルオロオクタン酸を分析対象としている。ただし、生物では、ヘプチル基が分鎖状の異性体が含まれる可能性を否定できていない。

### ・調査結果

#### <水質>

水質については、47 地点を調査し、検出下限値 30 pg/L において 47 地点全てで検出され、検出濃度は 160 ~28,000 pg/L の範囲であった。2009 年度から 2018 年度における経年分析の結果、河口域の減少傾向が統計的に有意と判定された。

#### ○2009 年度から 2018 年度における水質についてのペルフルオロオクタン酸 (PFOA) の検出状況

ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出]	検出頻度	
						下限値	検体	地点
水質 (pg/L)	2009	1,600	1,300	31,000	250	59 [23]	49/49	49/49
	2010	2,700	2,400	23,000	190	60 [20]	49/49	49/49
	2011	2,000	1,700	50,000	380	50 [20]	49/49	49/49
	2012	1,400	1,100	26,000	240	170 [55]	48/48	48/48
	2014	1,400	1,400	26,000	140	50 [20]	48/48	48/48
	2015	1,400	1,200	17,000	310	56 [22]	48/48	48/48
	2016	1,300	1,200	21,000	260	50 [20]	48/48	48/48
	2018	1,100	1,100	28,000	160	70 [30]	47/47	47/47

(注) 2013 年度及び 2017 年度は調査を実施していない。

<底質>

底質については、61 地点を調査し、検出下限値 4 pg/g-dry において 61 地点中 58 地点で検出され、検出濃度は 190 pg/g-dry までの範囲であった。2009 年度から 2018 年度における経年分析の結果、河川域及び河口域の減少傾向が統計的に有意と判定された。

○2009 年度から 2018 年度における底質についてのペルフルオロオクタン酸 (PFOA) の検出状況

ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2009	27	24	500	nd	8.3 [3.3]	182/190	64/64
	2010	28	33	180	nd	12 [5]	62/64	62/64
	2011	100	93	1,100	22	5 [2]	64/64	64/64
	2012	51	48	280	12	4 [2]	63/63	63/63
	2014	44	50	190	tr(6)	11 [5]	63/63	63/63
	2015	48	48	270	8	3 [1]	62/62	62/62
	2016	27	27	190	nd	9 [4]	61/62	61/62
	2018	23	25	190	nd	9 [4]	58/61	58/61

(注 1) ※ : 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注 2) 2013 年度及び 2017 年度は調査を実施していない。

・2017 年度までの生物 (貝類、魚類及び鳥類) 及び大気の調査結果 (参考)

<生物>

○2009 年度から 2017 年度における生物(貝類、魚類及び鳥類)についてのペルフルオロオクタン酸(PFOA)の検出状況

ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2009	tr(20)	tr(21)	94	nd	25 [9.9]	27/31	7/7
	2010	28	33	76	nd	26 [9.9]	5/6	5/6
	2011	tr(19)	tr(22)	tr(40)	nd	41 [14]	3/4	3/4
	2012	tr(21)	tr(23)	46	nd	38 [13]	4/5	4/5
	2014	tr(4)	tr(6)	10	nd	10 [3]	2/3	2/3
	2015	tr(6.5)	tr(6.3)	26	nd	10 [3.4]	2/3	2/3
	2016	4	7	9	nd	4 [2]	2/3	2/3
	2017	tr(6)	tr(7)	18	nd	12 [4]	2/3	2/3
魚類 (pg/g-wet)	2009	tr(23)	tr(19)	490	nd	25 [9.9]	74/90	17/18
	2010	tr(13)	tr(11)	95	nd	26 [9.9]	13/18	13/18
	2011	nd	nd	51	nd	41 [14]	7/18	7/18
	2012	tr(35)	tr(32)	86	nd	38 [13]	18/19	18/19
	2014	tr(6)	tr(4)	85	nd	10 [3]	11/19	11/19
	2015	tr(5.7)	tr(5.3)	99	nd	10 [3.4]	11/19	11/19
	2016	4	tr(3)	20	tr(2)	4 [2]	19/19	19/19
2017	tr(6)	tr(4)	79	nd	12 [4]	12/19	12/19	
鳥類 (pg/g-wet)	2009	32	29	58	tr(16)	25 [9.9]	10/10	2/2
	2010	38	---	48	30	26 [9.9]	2/2	2/2
	2011	---	---	nd	nd	41 [14]	0/1	0/1
	2012	tr(27)	---	tr(28)	tr(26)	38 [13]	2/2	2/2
	2014※※	62	---	2,600	nd	10 [3]	1/2	1/2
	2015※※	---	---	31	31	10 [3.4]	1/1	1/1
	2016※※	130	---	320	52	4 [2]	2/2	2/2
2017※※	240	---	680	85	12 [4]	2/2	2/2	

(注 1) ※ : 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注 2) ※※ : 鳥類の 2014 年度以降の結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012 年度までの結果と継続性がない。

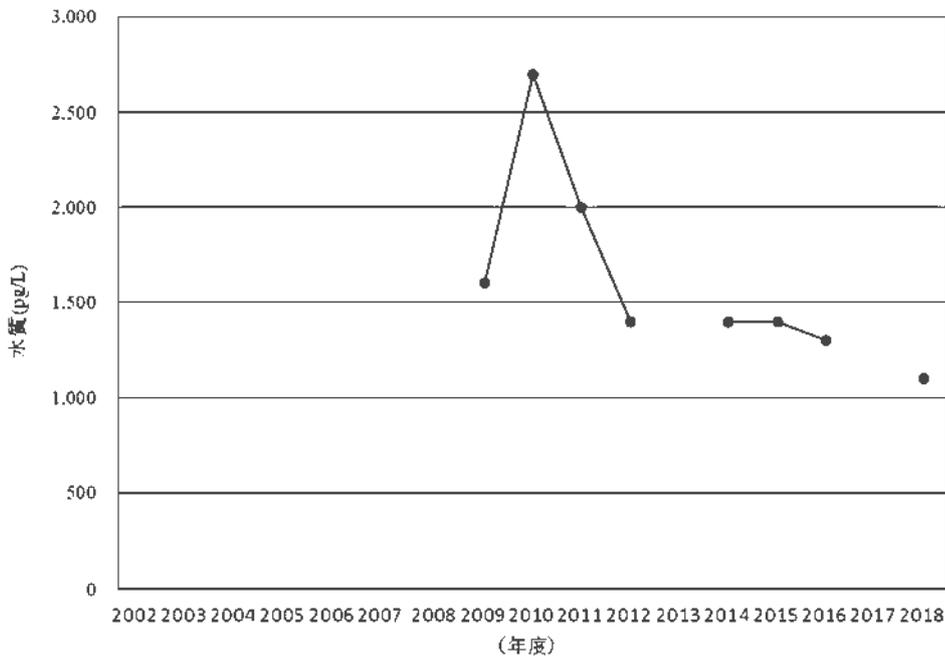
(注 3) 2013 年度は調査を実施していない。

<大気>

○2010年度から2017年度における大気についてのペルフルオロオクタン酸（PFOA）の検出状況

ペルフルオロオクタン酸（PFOA）	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2010 温暖期	25	26	210	4.0	0.5 [0.2]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	14	14	130	2.4		37/37	37/37
	2011 温暖期	20	18	240	tr(3.5)	5.4 [1.8]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	12	11	97	nd		36/37	36/37
	2012 温暖期	11	12	120	1.9	0.7 [0.2]	36/36	36/36
	2012 寒冷期	6.9	6.0	48	1.6		36/36	36/36
	2013 温暖期	23	23	190	3.2	1.8 [0.6]	36/36	36/36
	2013 寒冷期	14	14	53	3.0		36/36	36/36
	2014 温暖期	28	29	210	5.4	0.4 [0.1]	36/36	36/36
	2015 温暖期	19	17	260	tr(3.7)	4.2 [1.4]	35/35	35/35
	2016 温暖期	17	15	140	3.2	1.3 [0.4]	37/37	37/37
	2017 温暖期	14	13	150	tr(2.0)	3.3 [1.1]	37/37	37/37

[16] ヘルフルオロオクタン酸 (PFOA)



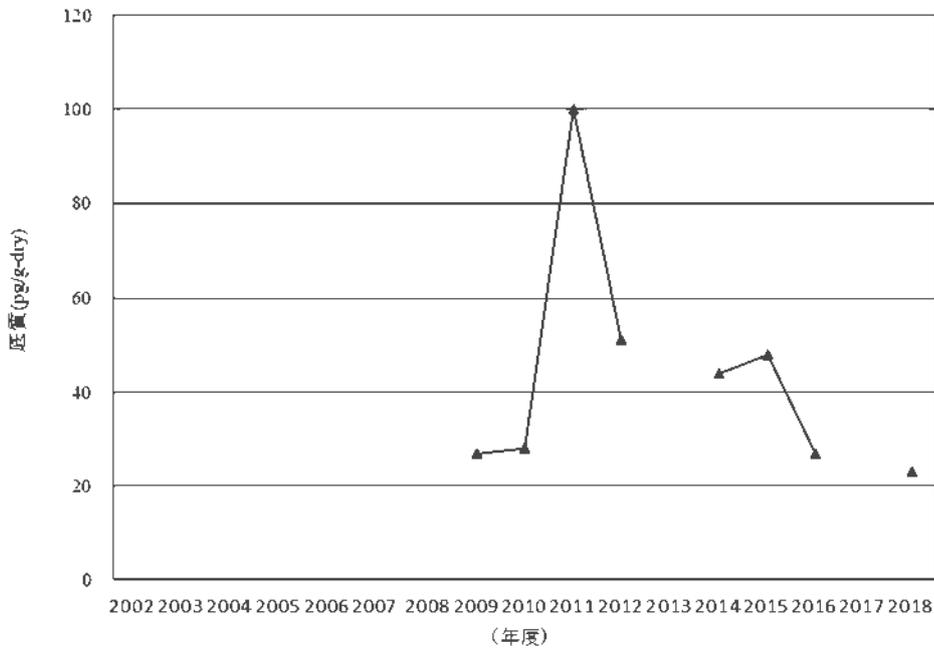
水質定量[検出]下限値(pg/L)

2009年度	59 [23]
2010年度	60 [20]
2011年度	50 [20]
2012年度	170 [55]
2014年度	50 [20]
2015年度	56 [22]
2016年度	50 [20]
2018年度	70 [30]

(注) 2002年度から2008年度、2013年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 3-16-1 ペルフルオロオクタン酸 (PFOA) の水質の経年変化 (幾何平均値)

[16] ヘルフルオロオクタン酸 (PFOA)



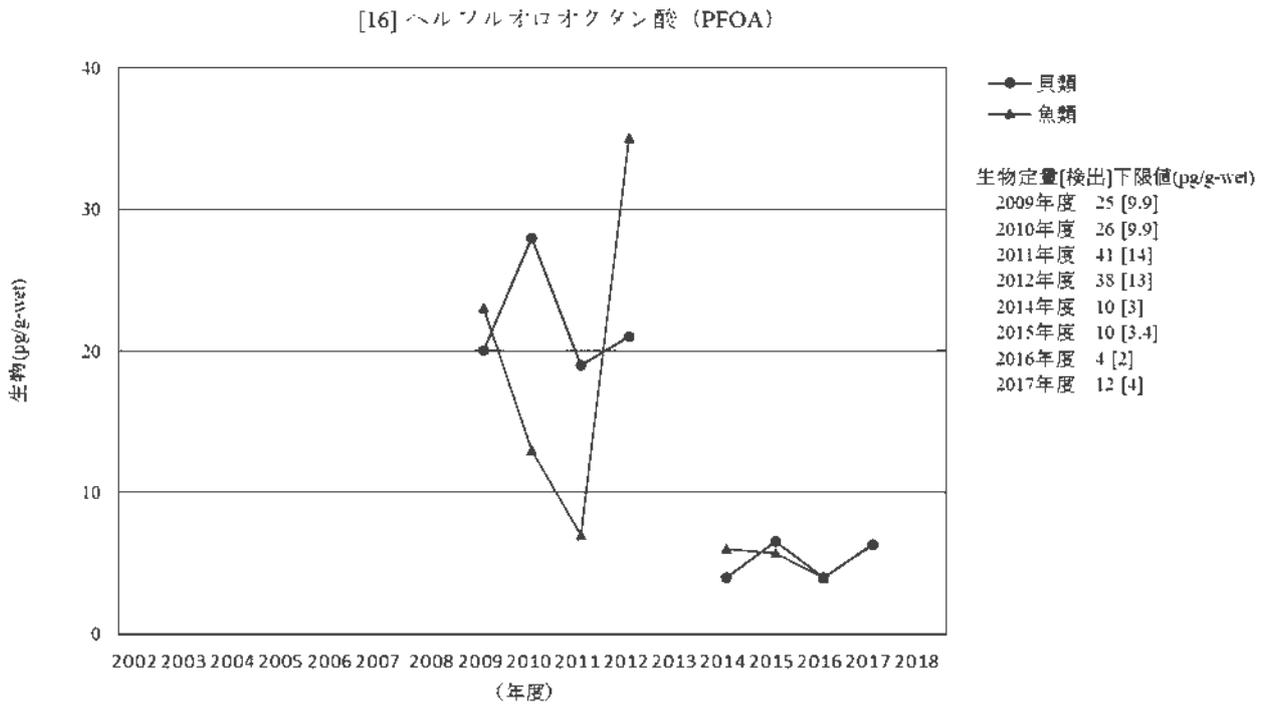
底質定量[検出]下限値(pg/g-dry)

2009年度	8.3 [3.3]
2010年度	12 [5]
2011年度	5 [2]
2012年度	4 [2]
2014年度	11 [5]
2015年度	3 [1]
2016年度	9 [4]
2018年度	9 [4]

(注) 2002年度から2008年度、2013年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 3-16-2 ペルフルオロオクタン酸 (PFOA) の底質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



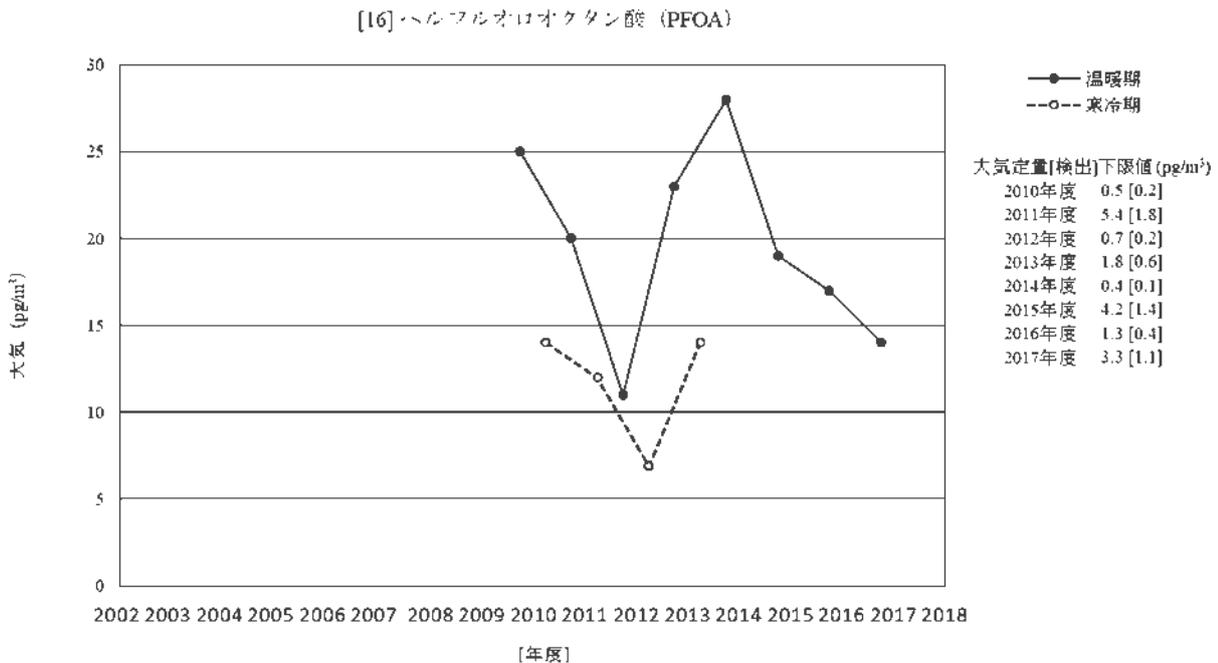
(注1) 鳥類は2014年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。

(注2) 2002年度から2008年度、2013年度及び2018年度は調査を実施していない。

(注3) 2011年度の魚類については幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-16-3 ペルフルオロオクタン酸 (PFOA) の生物の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



(注) 2002年度から2009年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-16-4 ペルフルオロオクタン酸 (PFOA) の大気の経年変化 (幾何平均値)

## [17] ペンタクロロベンゼン

### ・調査の経緯及び実施状況

ペンタクロロベンゼンは、難燃剤として利用されていた。また、農薬としての用途もあったが、日本では農薬登録されたことはない。農薬製造時の副生成物質でもある他、燃焼に伴い非意図的にも生成する。2009年5月に開催された POPs 条約の第4回条約締約国会議（COP4）において条約対象物質とすることが採択され、2010年4月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。

2001年度までの継続的調査においては、「生物モニタリング」<sup>ii)</sup>で1980年度に生物（貝類及び魚類）について調査を、1981年度から1986年度までの毎年度と1988年度、1990年度、1992年度、1996年度及び1999年度に生物（貝類、魚類及び鳥類）について調査を実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、2007年度、2009年度に大気の調査を、2010年度から2015年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2016年度に底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2017年度、2018年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を実施している。

### ・調査結果

#### <水質>

水質については、47地点を調査し、検出下限値 0.5 pg/L において 47 地点全てで検出され、検出濃度は 2.7 ～320 pg/L の範囲であった。

○2007年度から2018年度における水質についてのペンタクロロベンゼンの検出状況

ペンタクロロ ベンゼン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2007	nd	nd	nd	nd	3,300 [1,300]	0/48	0/48
	2010	8	5	100	tr(1)	4 [1]	49/49	49/49
	2011	11	11	170	2.6	2.4 [0.9]	49/49	49/49
	2012	14	11	170	3	3 [1]	48/48	48/48
	2013	12	10	170	tr(3)	4 [1]	48/48	48/48
	2014	10	7.0	180	2.8	0.8 [0.3]	48/48	48/48
	2015	13	11	180	3.0	1.5 [0.5]	48/48	48/48
	2017	8.8	5.9	140	2.0	1.4 [0.6]	47/47	47/47
	2018	12	9.7	320	2.7	1.3 [0.5]	47/47	47/47

(注) 2008年度、2009年度及び2016年度は調査を実施していない。

#### <底質>

底質については、61地点を調査し、検出下限値 0.3 pg/g-dry において 61 地点全てで検出され、検出濃度は 1.2 ～3,400 pg/g-dry の範囲であった。

○2007 年度から 2018 年度における底質についてのペンタクロロベンゼンの検出状況

ペンタクロロ ベンゼン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2007	tr(46)	nd	2,400	nd	86 [33]	79/192	35/64
	2010	90	95	4,200	1.0	0.9 [0.3]	64/64	64/64
	2011	95	76	4,500	3	5 [2]	64/64	64/64
	2012	33	33	1,100	nd	2.5 [0.8]	62/63	62/63
	2013	84	98	3,800	2.2	2.1 [0.7]	63/63	63/63
	2014	70	78	3,600	tr(1.2)	2.4 [0.8]	63/63	63/63
	2015	65	69	2,600	2.4	1.5 [0.5]	62/62	62/62
	2016	62	71	3,700	tr(1.1)	1.8 [0.6]	62/62	62/62
	2017	61	61	2,800	1.3	1.2 [0.5]	62/62	62/62
	2018	72	77	3,400	1.2	0.9 [0.3]	61/61	61/61

(注1) ※：2007 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2008 年度及び 2009 年度は調査を実施していない。

<生物>

生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 5pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は tr(5)~tr(13)pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 5pg/g-wet において 18 地点中 15 地点で検出され、検出濃度は 70pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 5pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 280~480pg/g-wet の範囲であった。

○2007 年度から 2018 年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についてのペンタクロロベンゼンの検出状況

ペンタクロロ ベンゼン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2007	nd	nd	tr(150)	nd	180 [61]	1/31	1/7
	2010	18	16	110	5.9	1.9 [0.7]	6/6	6/6
	2011	28	16	260	10	4 [1]	4/4	4/4
	2012	16	9.7	110	tr(5.8)	8.1 [2.7]	5/5	5/5
	2013	nd	nd	87	nd	78 [26]	1/5	1/5
	2014	14	11	23	10	9.3 [3.1]	3/3	3/3
	2015	tr(11)	tr(9.7)	18	tr(7.4)	12 [4.0]	3/3	3/3
	2016	tr(13)	tr(12)	15	tr(11)	15 [5.1]	3/3	3/3
	2017	18	19	22	14	4 [1]	3/3	3/3
	2018	tr(8)	tr(7)	tr(13)	tr(5)	15 [5]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2007	nd	nd	480	nd	180 [61]	36/80	10/16
	2010	42	37	230	5.6	1.9 [0.7]	18/18	18/18
	2011	36	37	220	5	4 [1]	18/18	18/18
	2012	29	37	190	tr(5.0)	8.1 [2.7]	19/19	19/19
	2013	tr(35)	tr(40)	160	nd	78 [26]	11/19	11/19
	2014	38	51	280	nd	9.3 [3.1]	18/19	18/19
	2015	26	40	230	nd	12 [4.0]	18/19	18/19
	2016	19	22	150	nd	15 [5.1]	16/19	16/19
	2017	29	32	170	4	4 [1]	19/19	19/19
	2018	19	29	70	nd	15 [5]	15/18	15/18
鳥類 (pg/g-wet)	2007	tr(140)	tr(140)	210	tr(89)	180 [61]	10/10	2/2
	2010	91	---	170	49	1.9 [0.7]	2/2	2/2
	2011	---	---	52	52	4 [1]	1/1	1/1
	2012	77	---	130	46	8.1 [2.7]	2/2	2/2
	2013※※	300	---	390	230	78 [26]	2/2	2/2
	2014※※	56	---	560	tr(5.6)	9.3 [3.1]	2/2	2/2
	2015※※	---	---	53	53	12 [4.0]	1/1	1/1
	2016※※	240	---	570	100	15 [5.1]	2/2	2/2
	2017※※	130	---	470	35	4 [1]	2/2	2/2
	2018※※	370	---	480	280	15 [5]	2/2	2/2

(注1) ※：2007 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の 2013 年度以降の結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012 年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2008 年度及び 2009 年度は調査を実施していない。

<大気>

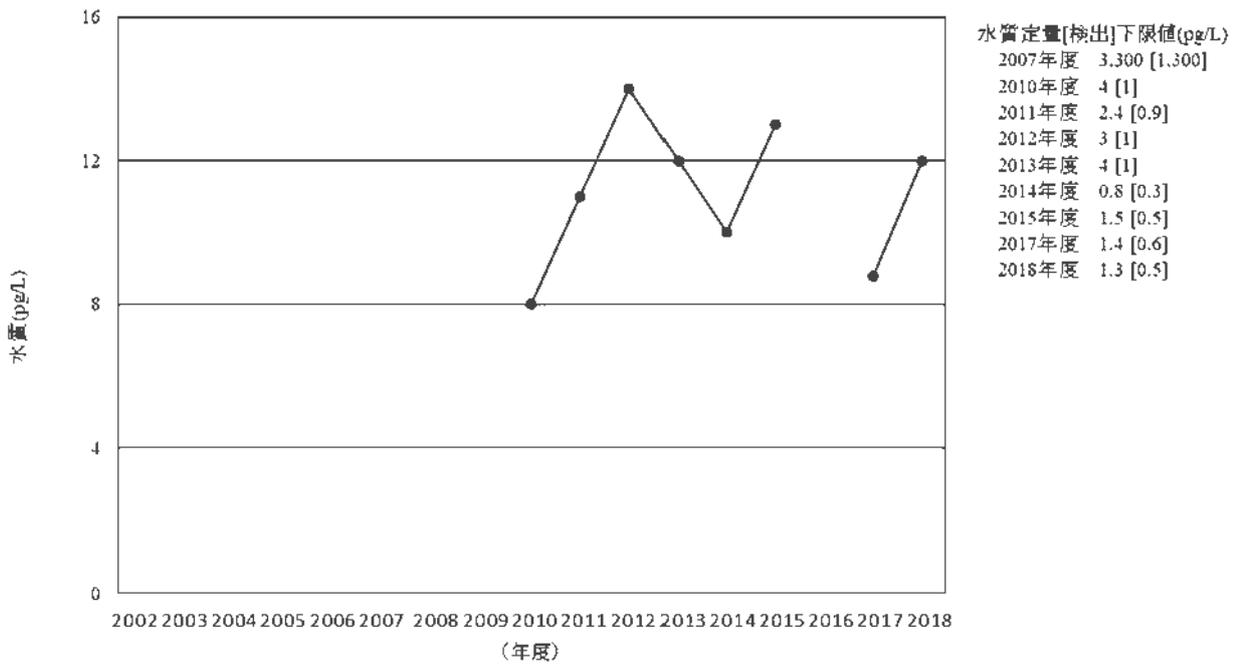
大気については、37 地点を調査し、検出下限値 0.08pg/m<sup>3</sup>において 37 地点全てで検出され、検出濃度は 30~100pg/m<sup>3</sup>の範囲であった。

○2007 年度から 2018 年度における大気についてのペンタクロロベンゼンの検出状況

ペンタクロロ ベンゼン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2007 温暖期	85	83	310	18	12 [4.8]	78/78	26/26
	2007 寒冷期	60	55	220	27		75/75	25/25
	2009 温暖期	63	64	210	20	6.4 [2.5]	111/111	37/37
	2009 寒冷期	25	22	120	tr(5.0)		111/111	37/37
	2010 温暖期	68	73	140	36	1.2 [0.5]	37/37	37/37
	2010 寒冷期	70	69	180	37		37/37	37/37
	2011 温暖期	61	60	140	30	2.1 [0.70]	35/35	35/35
	2011 寒冷期	59	57	180	26		37/37	37/37
	2012 温暖期	58	57	150	31	1.8 [0.6]	36/36	36/36
	2012 寒冷期	55	55	120	27		36/36	36/36
	2013 温暖期	55	58	160	27	1.7 [0.6]	36/36	36/36
	2013 寒冷期	55	52	110	34		36/36	36/36
	2014 温暖期	83	86	210	39	0.9 [0.3]	36/36	36/36
	2015 温暖期	67	68	170	34	0.6 [0.2]	35/35	35/35
	2016 温暖期	75	75	220	33	0.5 [0.2]	37/37	37/37
	2017 温暖期	71	69	200	32	0.3 [0.1]	37/37	37/37
	2018 温暖期	59	61	100	30	0.22 [0.08]	37/37	37/37

(注) 2008 年度は調査を実施していない。

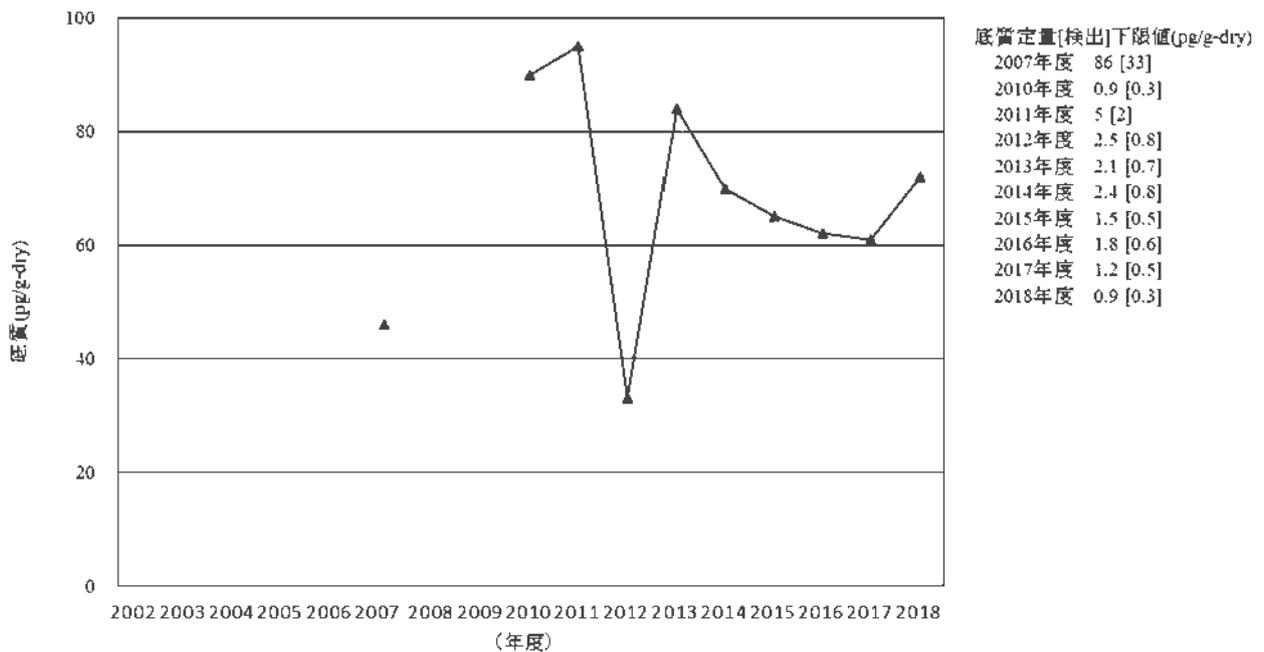
[17] ヘンタクロロベンゼン



(注1) 2007年度は調査を実施したが、それ以後の調査と分析法が大きく異なり、検出下限値が高く、全検体が不検出であったことから、経年変化は示していない。  
 (注2) 2002年度から2006年度、2008年度から2009年度及び2016年度は調査を実施していない。

図 3-17-1 ペンタクロロベンゼンの水質の経年変化 (幾何平均値)

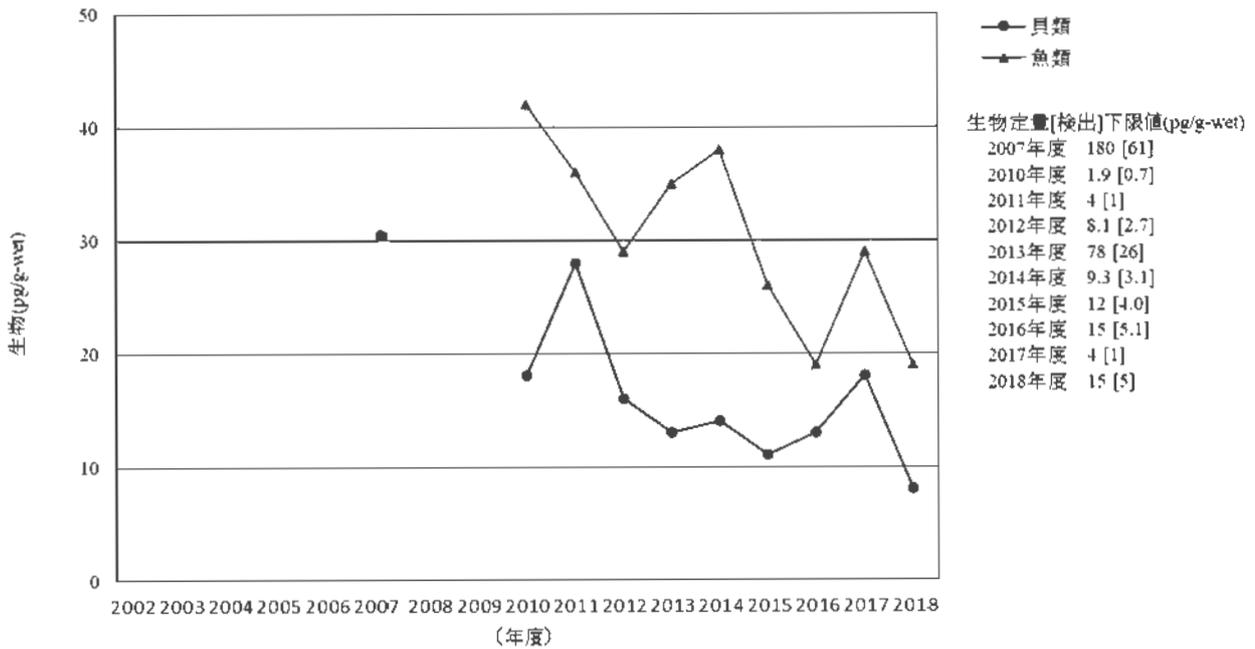
[17] ヘンタクロロベンゼン



(注1) 2007年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2002年度から2006年度、2008年度及び2009年度は調査を実施していない。

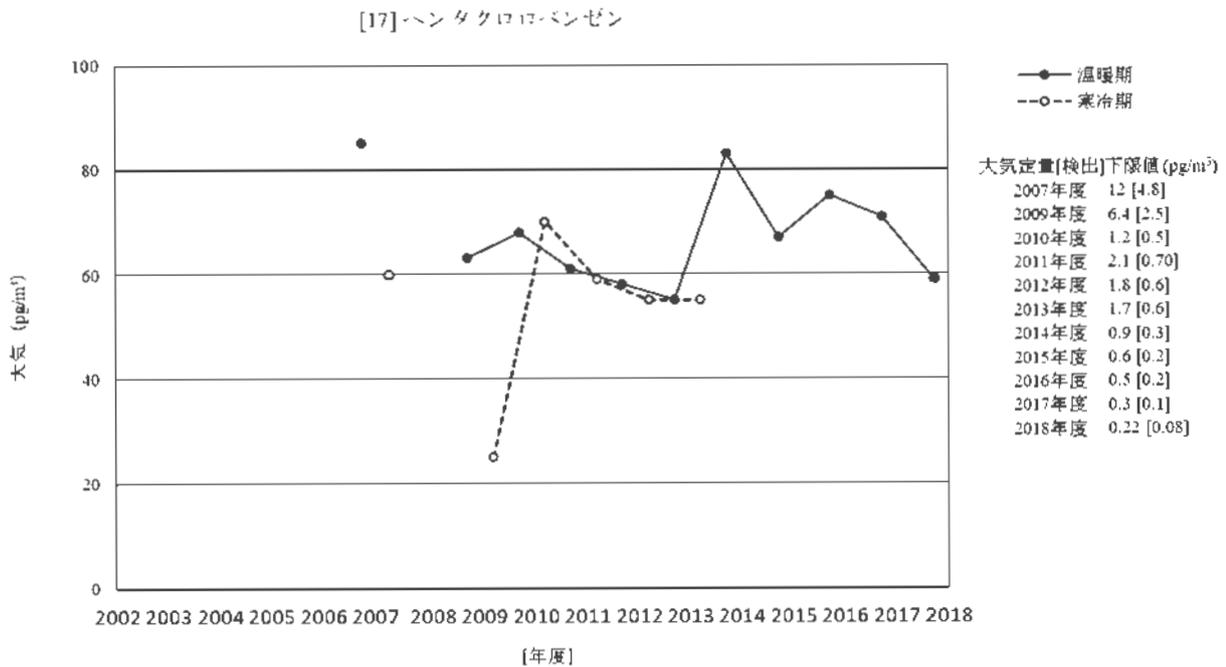
図 3-17-2 ペンタクロロベンゼンの底質の経年変化 (幾何平均値)

[17]ペンタクロロベンゼン



- (注1) 2007年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2002年度から2006年度、2008年度及び2009年度は調査を実施していない。
- (注4) 2007年度の貝類及び魚類、2013年度の貝類は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-17-3 ペンタクロロベンゼンの生物の経年変化 (幾何平均値)



- (注) 2002年度から2006年度、2008年度は調査を実施していない。

図 3-17-4 ペンタクロロベンゼンの大気の経年変化 (幾何平均値)

## [18] エンドスルファン類

### ・調査の経緯及び実施状況

エンドスルファン類は、有機塩素系殺虫剤の一種である。2011年4月に開催された POPs 条約の第5回条約締約国会議 (COP5) において条約対象物質とすることが採択され、2014年5月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。

継続的調査としては2011年度が初めての調査であり、2001年度までの調査として「化学物質環境調査」<sup>iv)</sup>では、1982年度に水質及び底質の調査を、1992年度に大気の調査をそれぞれ実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、2011年度及び2012年度に水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2014年度及び2015年度に生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2016年度に大気の調査を、2018年度に水質及び底質の調査を実施している。

### ・調査結果

#### <水質>

$\alpha$ -エンドスルファン：水質については、47地点を調査し、検出下限値 40 pg/L において 47 地点中 1 地点で検出され、検出濃度は tr(50)pg/L であった。

$\beta$ -エンドスルファン：水質については、47 地点を調査し、検出下限値 10 pg/L において 47 地点中 3 地点で検出され、検出濃度は tr(20)pg/L までの範囲であった。

○2011 年度から 2018 年度における水質についての  $\alpha$ -エンドスルファン及び  $\beta$ -エンドスルファンの検出状況

$\alpha$ -エンドスルファン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2011	nd	nd	180	nd	120 [50]	2/49	2/49
	2012	nd	nd	30	nd	27 [10]	3/48	3/48
	2018	nd	nd	tr(50)	nd	120 [40]	1/47	1/47
$\beta$ -エンドスルファン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2011	nd	nd	270	nd	22 [9]	8/49	8/49
	2012	nd	nd	tr(12)	nd	24 [9]	1/48	1/48
	2018	nd	nd	tr(20)	nd	30 [10]	3/47	3/47

(注) 2013 年度から 2017 年度は調査を実施していない。

<底質>

$\alpha$ -エンドスルファン：底質については、61 地点を調査し、検出下限値 2 pg/g-dry において 61 地点中 21 地点で検出され、検出濃度は 30 pg/g-dry までの範囲であった。

$\beta$ -エンドスルファン：底質については、61 地点を調査し、検出下限値 2 pg/g-dry において 61 地点中 11 地点で検出され、検出濃度は 41 pg/g-dry までの範囲であった。

○2011 年度から 2018 年度における底質についての  $\alpha$ -エンドスルファン及び  $\beta$ -エンドスルファンの検出状況

$\alpha$ -エンドスルファン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2011	tr(13)	tr(11)	480	nd	30 [10]	35/64	35/64
	2012	nd	nd	480	nd	13 [5]	19/63	19/63
	2018	nd	nd	30	nd	5 [2]	21/61	21/61
$\beta$ -エンドスルファン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2011	tr(5)	tr(4)	240	nd	9 [4]	38/64	38/64
	2012	nd	nd	250	nd	13 [5]	8/63	8/63
	2018	nd	nd	41	nd	5 [2]	11/61	11/61

(注 1) 2013 年度から 2017 年度は調査を実施していない。

- ・2016 年度までの生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査結果（参考）

<生物>

○2011 年度から 2015 年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての  $\alpha$ -エンドスルファン及び  $\beta$ -エンドスルファンの検出状況

$\alpha$ -エンドスルファン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2011	62	120	330	nd	50 [20]	3/4	3/4
	2012	tr(54)	tr(61)	200	nd	71 [24]	4/5	4/5
	2014	tr(20)	nd	130	nd	60 [20]	1/3	1/3
	2015	nd	nd	130	nd	120 [38]	1/3	1/3
魚類 (pg/g-wet)	2011	tr(20)	tr(20)	140	nd	50 [20]	10/18	10/18
	2012	nd	nd	tr(54)	nd	71 [24]	6/19	6/19
	2014	nd	nd	tr(30)	nd	60 [20]	1/19	1/19
	2015※	nd	nd	tr(49)	nd	120 [38]	1/19	1/19
鳥類 (pg/g-wet)	2011	---	---	nd	nd	50 [20]	0/1	0/1
	2012	nd	---	nd	nd	71 [24]	0/2	0/2
	2014※	nd	---	nd	nd	60 [20]	0/2	0/2
	2015※	---	---	nd	nd	120 [38]	0/1	0/1
$\beta$ -エンドスルファン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2011	16	26	52	4	11 [4]	4/4	4/4
	2012	15	16	43	nd	14 [5]	4/5	4/5
	2014	nd	nd	23	nd	19 [6]	1/3	1/3
	2015	nd	nd	tr(22)	nd	32 [11]	1/3	1/3
魚類 (pg/g-wet)	2011	nd	nd	37	nd	11 [4]	9/18	9/18
	2012	nd	nd	15	nd	14 [5]	6/19	6/19
	2014	nd	nd	tr(8)	nd	19 [6]	3/19	3/19
	2015	nd	nd	tr(11)	nd	32 [11]	1/19	1/19
鳥類 (pg/g-wet)	2011	---	---	nd	nd	11 [4]	0/1	0/1
	2012	nd	---	tr(7)	nd	14 [5]	1/2	1/2
	2014※	nd	---	tr(8)	nd	19 [6]	1/2	1/2
	2015※	---	---	nd	nd	32 [11]	0/1	0/1

(注 1) ※：鳥類の 2014 年度以降の結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012 年度までの結果と継続性がない。

(注 2) 2013 年度は調査を実施していない。

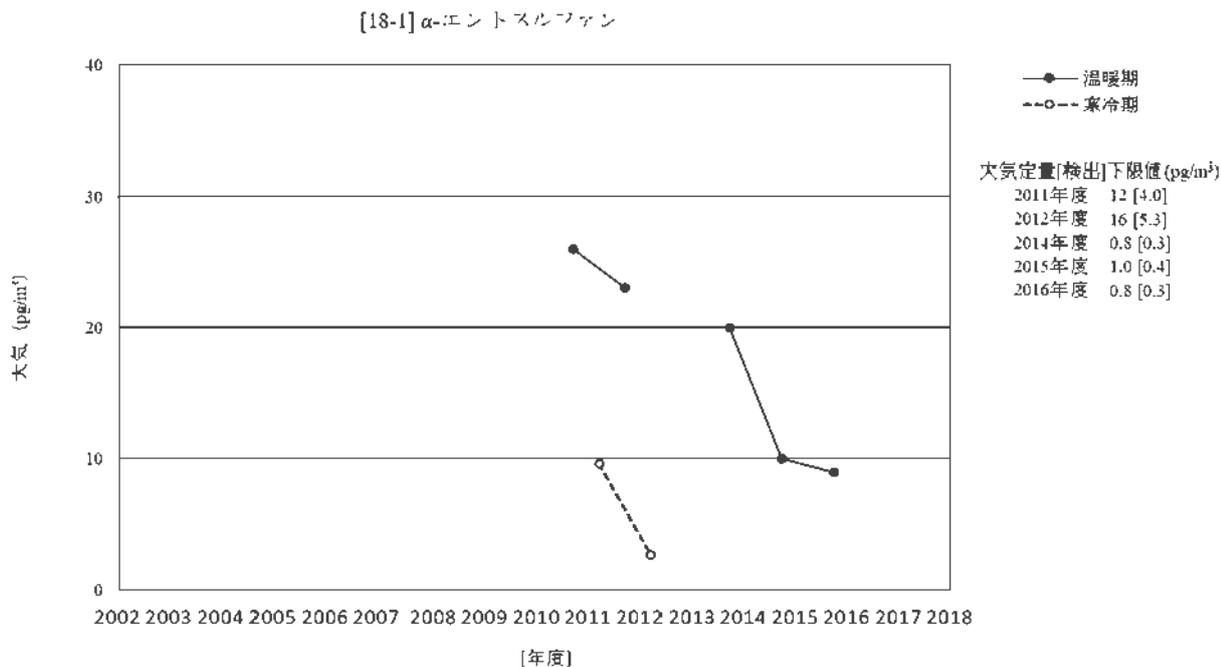
<大気>

○2011 年度から 2016 年度における大気についての  $\alpha$ -エンドスルファン及び  $\beta$ -エンドスルファンの検出状況

$\alpha$ -エンドスルファン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2011 温暖期	26	24	190	tr(7.8)		35/35	35/35
	2011 寒冷期	tr(9.6)	tr(9.8)	45	nd	12 [4.0]	35/37	35/37
	2012 温暖期	23	22	98	tr(6.0)	16 [5.3]	36/36	36/36
	2012 寒冷期	nd	nd	19	nd		15/36	15/36
	2014 温暖期	20	23	90	2.6	0.8 [0.3]	36/36	36/36
	2015 温暖期	10	11	140	1.6	1.0 [0.3]	35/35	35/35
	2016 温暖期	8.9	9.3	46	1.0	0.8 [0.3]	37/37	37/37
$\beta$ -エンドスルファン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2011 温暖期	2.1	1.8	11	nd	1.2 [0.39]	34/35	34/35
	2011 寒冷期	tr(0.80)	tr(0.90)	8.3	nd		31/37	31/37
	2012 温暖期	1.3	1.3	18	nd	1.2 [0.4]	33/36	33/36
	2012 寒冷期	nd	nd	1.7	nd		17/36	17/36
	2014 温暖期	1.3	1.4	6.1	nd	1.2 [0.4]	33/36	33/36
	2015 温暖期	0.7	0.6	38	nd	0.5 [0.2]	33/35	33/35
	2016 温暖期	0.8	tr(0.7)	3.3	nd	0.8 [0.3]	34/37	34/37

(注) 2013 年度は調査を実施していない。

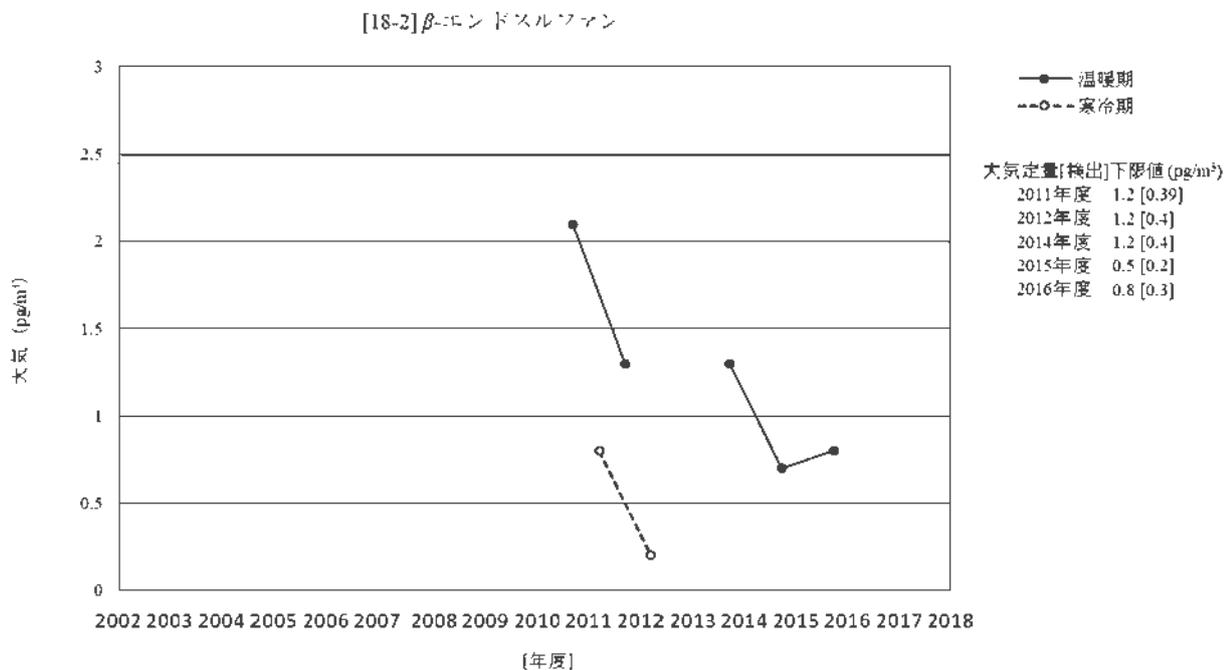
(参考)



(注1) 2002年度から2010年度、2013年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。  
(注2) 2012年度の寒冷期は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-18-1-1  $\alpha$ -エンドスルファンの大気経年変化 (幾何平均値)

(参考)



(注1) 2002年度から2010年度、2013年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。  
(注2) 2012年度の寒冷期は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-18-2-1  $\beta$ -エンドスルファンの大気経年変化 (幾何平均値)

## [19] 1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類

### ・調査の経緯及び実施状況

1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類は、樹脂用及び繊維用の難燃剤として利用されていた。2013年4～5月に開催された POPs 条約の第6回条約締約国会議（COP6）において  $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンを条約対象物質とすることが採択され、2014年5月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。

継続的調査としては2011年度が初めての調査であり、2001年度までの調査として「化学物質環境調査」iv) では1987年度に水質、底質及び生物（魚類）を、2002年度以降の化学物質環境実態調査の初期環境調査及び詳細環境調査等では2003年度に水質及び底質の調査を、2004年度に生物（魚類）の調査をそれぞれ実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、 $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンに  $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び  $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンを加えたものについて、2011年度に水質、底質及び生物（貝類、魚類及び鳥類）調査を、2012年度に底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2014年度に水質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2015年度に底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を実施している。2016年度は、 $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンについて、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を実施している。2017年度は、 $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンについて、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を、2018年度は、 $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンについて、生物（貝類、魚類及び鳥類）の調査を実施している。

### ・調査結果

#### <生物>

$\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン：生物のうち貝類については、3地点を調査し、検出下限値 9pg/g-wet において3地点全てで検出され、検出濃度は76～270pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18地点を調査し、検出下限値 9pg/g-wet において18地点中17地点で検出され、検出濃度は530pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2地点を調査し、検出下限値 9pg/g-wet において2地点全てで検出され、検出濃度は590～610pg/g-wet の範囲であった。2011年度から2018年度における経年分析の結果、貝類及び魚類の減少傾向が統計的に有意と判定された。

$\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン：生物のうち貝類については、3地点を調査し、検出下限値 8pg/g-wet において3地点全てで検出されなかった。魚類については、18地点を調査し、検出下限値 8pg/g-wet において18地点全てで検出されなかった。鳥類については、2地点を調査し、検出下限値 8pg/g-wet において2地点全てで検出されなかった。

$\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン：生物のうち貝類については、3地点を調査し、検出下限値

8pg/g-wet において 3 地点中 2 地点で検出され、検出濃度は 46pg/g-wet までの範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 8pg/g-wet において 18 地点中 10 地点で検出され、検出濃度は 130pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 8pg/g-wet において 2 地点全てで検出されなかった。2011 年度から 2018 年度における経年分析の結果、貝類の減少傾向が統計的に有意と判定された。

○2011 年度から 2018 年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての  $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、 $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの検出状況

$\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2011	1,100	1,200	13,000	tr(86)	170 [70]	10/10	4/4
	2012	530	480	2,500	190	50 [20]	5/5	5/5
	2014	270	270	380	200	30 [10]	3/3	3/3
	2015	260	200	560	150	30 [10]	3/3	3/3
	2016	140	140	180	110	22 [9]	3/3	3/3
	2017	190	200	430	86	24 [9]	3/3	3/3
	2018	120	88	270	76	23 [9]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2011	770	850	69,000	nd	170 [70]	41/51	16/17
	2012	510	560	8,700	nd	50 [20]	18/19	18/19
	2014	240	290	15,000	nd	30 [10]	18/19	18/19
	2015	160	180	3,000	nd	30 [10]	18/19	18/19
	2016	110	140	1,100	tr(12)	22 [9]	19/19	19/19
	2017	140	140	7,800	tr(9)	24 [9]	19/19	19/19
	2018	89	140	530	nd	23 [9]	17/18	17/18
鳥類 (pg/g-wet)	2011	200	nd	530	nd	170 [70]	1/3	1/1
	2012	120	---	1,400	nd	50 [20]	1/2	1/2
	2014※※	480	---	1,800	130	30 [10]	2/2	2/2
	2015※※	---	---	80	80	30 [10]	1/1	1/1
	2016※※	400	---	1,600	100	22 [9]	2/2	2/2
	2017※※	330	---	2,200	50	24 [9]	2/2	2/2
	2018※※	600	---	610	590	23 [9]	2/2	2/2
$\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2011	tr(70)	tr(85)	240	nd	98 [40]	7/10	3/4
	2012	tr(25)	40	90	nd	40 [10]	4/5	4/5
	2014	tr(10)	tr(10)	tr(20)	tr(10)	30 [10]	3/3	3/3
	2015	tr(10)	tr(10)	30	nd	30 [10]	2/3	2/3
	2016	nd	tr(8)	tr(9)	nd	21 [8]	2/3	2/3
	2017	tr(9)	nd	36	nd	23 [9]	1/3	1/3
	2018	nd	nd	nd	nd	22 [8]	0/3	0/3
魚類 (pg/g-wet)	2011	nd	nd	760	nd	98 [40]	11/51	5/17
	2012	nd	nd	40	nd	40 [10]	8/19	8/19
	2014	nd	nd	30	nd	30 [10]	5/19	5/19
	2015	nd	nd	tr(20)	nd	30 [10]	2/19	2/19
	2016	nd	nd	tr(12)	nd	21 [8]	3/19	3/19
	2017	nd	nd	tr(12)	nd	23 [9]	2/19	2/19
	2018	nd	nd	nd	nd	22 [8]	0/18	0/18
鳥類 (pg/g-wet)	2011	nd	nd	nd	nd	98 [40]	0/3	0/1
	2012	nd	---	nd	nd	40 [10]	0/2	0/2
	2014※※	nd	---	nd	nd	30 [10]	0/2	0/2
	2015※※	---	---	nd	nd	30 [10]	0/1	0/1
	2016※※	nd	---	nd	nd	21 [8]	0/2	0/2
	2017※※	nd	---	nd	nd	23 [9]	0/2	0/2
	2018※※	nd	---	nd	nd	22 [8]	0/2	0/2
$\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2011	440	470	3,300	nd	210 [80]	8/10	4/4
	2012	170	180	910	30	30 [10]	5/5	5/5
	2014	60	60	110	30	30 [10]	3/3	3/3
	2015	70	90	200	tr(20)	30 [10]	3/3	3/3
	2016	37	39	61	tr(21)	24 [9]	3/3	3/3
	2017	49	30	200	tr(20)	24 [9]	3/3	3/3
	2018	tr(19)	39	46	nd	21 [8]	2/3	2/3
魚類 (pg/g-wet)	2011	210	tr(90)	50,000	nd	210 [80]	26/51	10/17
	2012	75	80	1,600	nd	30 [10]	16/19	16/19
	2014	30	tr(20)	2,800	nd	30 [10]	12/19	12/19
	2015	tr(20)	tr(10)	230	nd	30 [10]	10/19	10/19
	2016	tr(16)	tr(13)	160	nd	24 [9]	11/19	11/19
	2017	tr(16)	tr(18)	120	nd	24 [9]	12/19	12/19
	2018	tr(11)	tr(11)	130	nd	21 [8]	10/18	10/18

γ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
鳥類 (pg/g-wet)	2011	tr(180)	nd	460	nd	210 [80]	1/3	1/1
	2012	31	---	190	nd	30 [10]	1/2	1/2
	2014※※	tr(10)	---	tr(10)	tr(10)	30 [10]	2/2	2/2
	2015※※	---	---	tr(10)	tr(10)	30 [10]	1/1	1/1
	2016※※	tr(10)	---	tr(20)	nd	24 [9]	1/2	1/2
	2017※※	tr(9)	---	tr(18)	nd	24 [9]	1/2	1/2
2018※※	nd	---	nd	nd	21 [8]	0/2	0/2	

(注1) ※：2011年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2014年度以降の結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2013年度は調査を実施していない。

・2017年度までの調査結果（参考）

<水質>

○2011年度及び2014年度における水質についての1,2,5,6,9,10-ヘキサブプロモシクロドデカン類の検出状況

α-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2011	nd	nd	6,300	nd	1,500 [600]	4/47	4/47
	2014	nd	nd	1,600	nd	1,500 [600]	1/48	1/48
β-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2011	nd	nd	1,300	nd	1,300 [500]	4/47	4/47
	2014	nd	nd	tr(300)	nd	500 [200]	1/48	1/48
γ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2011	nd	nd	65,000	nd	1,200 [500]	5/47	5/47
	2014	nd	nd	nd	nd	700 [300]	0/48	0/48
δ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2011	nd	nd	nd	nd	790 [300]	0/47	0/47
	2014	nd	nd	nd	nd	600 [200]	0/48	0/48
ε-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2011	nd	nd	nd	nd	740 [300]	0/47	0/47
	2014	nd	nd	nd	nd	400 [200]	0/48	0/48

<底質>

○2011年度から2016年度における底質についてのγ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブプロモシクロドデカン類の検出状況

α-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度							
							検体	地点						
底質 (pg/g-dry)	2011	430	nd	24,000	nd	420 [280]	78/186	35/62						
	2012	310	280	22,000	nd	180 [70]	47/63	47/63						
	2015	390	410	27,000	nd	150 [60]	47/62	47/62						
	2016	260	210	27,000	nd	130 [60]	43/62	43/62						
β-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度							
							検体	地点						
							2011	nd	nd	14,000	nd	250 [170]	48/186	21/62
							2012	tr(93)	nd	8,900	nd	150 [60]	29/63	29/63
底質 (pg/g-dry)	2015	120	92	7,600	nd	150 [60]	33/62	33/62						
	2016	tr(87)	nd	7,400	nd	130 [50]	31/62	31/62						
γ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度							
							検体	地点						
							2011	670	nd	570,000	nd	400 [260]	89/186	36/62
							2012	420	330	55,000	nd	160 [60]	52/63	52/63
底質 (pg/g-dry)	2015	330	450	60,000	nd	110 [42]	48/62	48/62						
	2016	250	190	50,000	nd	150 [60]	42/62	42/62						

$\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2011	nd	nd	800	nd	350 [250]	11/186	6/62
	2012	nd	nd	680	nd	300 [100]	5/63	5/63
	2015	nd	nd	nd	nd	180 [70]	0/62	0/62
$\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2011	nd	nd	tr(260)	nd	280 [210]	2/186	1/62
	2012	nd	nd	310	nd	150 [60]	7/63	7/63
	2015	nd	nd	nd	nd	130 [51]	0/62	0/62

(注1) ※：2011年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2013年度及び2014年度は、1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類の調査を実施していない。また、2016年度は $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの調査を実施していない。

○2011年度から2015年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン及び $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの検出状況（参考）

$\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2011	nd	nd	nd	nd	140 [60]	0/10	0/4
	2012	nd	nd	nd	nd	50 [20]	0/5	0/5
	2014	nd	nd	nd	nd	30 [10]	0/3	0/3
	2015	nd	nd	nd	nd	30 [10]	0/3	0/3
魚類 (pg/g-wet)	2011	nd	nd	nd	nd	140 [60]	0/51	0/17
	2012	nd	nd	nd	nd	50 [20]	0/19	0/19
	2014	nd	nd	nd	nd	30 [10]	0/19	0/19
	2015	nd	nd	tr(20)	nd	30 [10]	1/19	1/19
鳥類 (pg/g-wet)	2011	nd	nd	nd	nd	140 [60]	0/3	0/1
	2012	nd	---	nd	nd	50 [20]	0/2	0/2
	2014※※	nd	---	nd	nd	30 [10]	0/2	0/2
	2015※※	---	---	nd	nd	30 [10]	0/1	0/1
$\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2011	nd	nd	nd	nd	140 [60]	0/10	0/4
	2012	nd	nd	tr(30)	nd	40 [20]	1/5	1/5
	2014	nd	nd	tr(20)	nd	30 [10]	1/3	1/3
	2015	nd	nd	tr(10)	nd	30 [10]	1/3	1/3
魚類 (pg/g-wet)	2011	nd	nd	nd	nd	140 [60]	0/51	0/17
	2012	nd	nd	tr(30)	nd	40 [20]	3/19	3/19
	2014	nd	nd	80	nd	30 [10]	3/19	3/19
	2015	nd	nd	tr(10)	nd	30 [10]	1/19	1/19
鳥類 (pg/g-wet)	2011	nd	nd	nd	nd	140 [60]	0/3	0/1
	2012	nd	---	nd	nd	40 [20]	0/2	0/2
	2014※※	nd	---	nd	nd	30 [10]	0/2	0/2
	2015※※	---	---	nd	nd	30 [10]	0/1	0/1

(注1) ※：2011年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2014年度以降の結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と継続性がない。

(注3) 2013年度は調査を実施していない。

<大気>

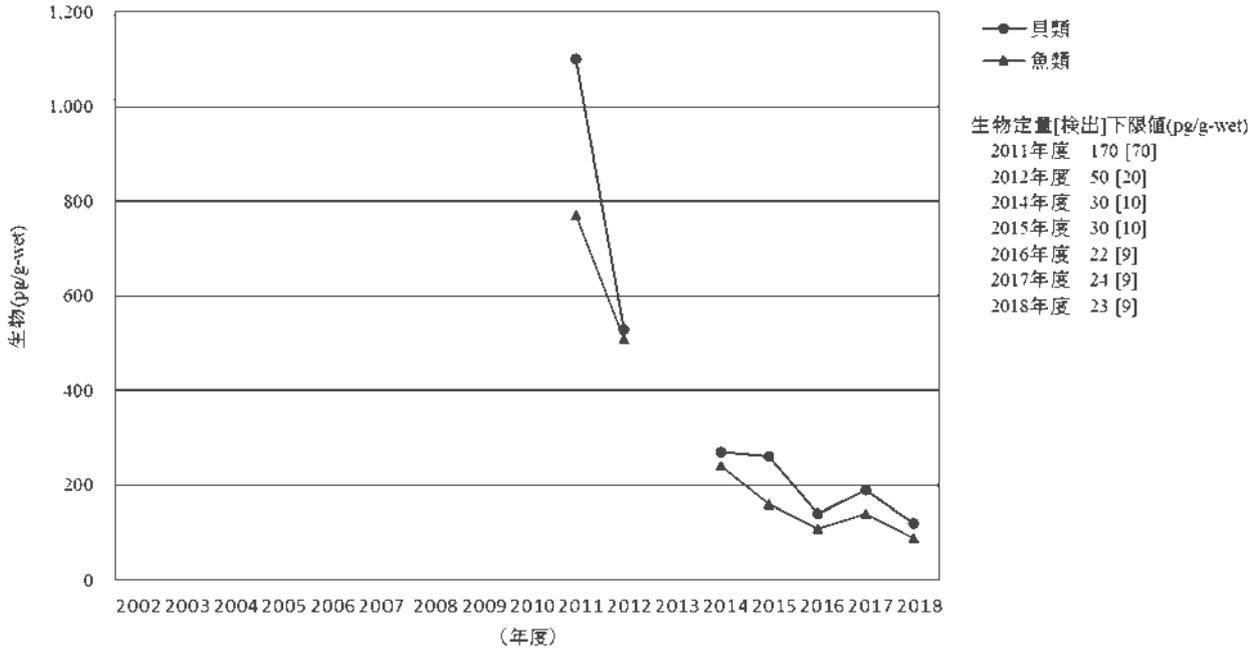
○2012年度から2017年度における大気についての1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類の検出状況

$\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2012 温暖期	1.7	2.2	130	nd	0.6 [0.2]	31/36	31/36
	2012 寒冷期	2.9	3.0	63	nd		35/36	35/36
	2014 温暖期	tr(0.6)	tr(0.7)	3.1	nd	1.2 [0.4]	25/36	25/36
	2015 温暖期	tr(0.6)	tr(0.7)	30	nd	0.9 [0.3]	26/35	26/35
	2016 温暖期	0.5	0.5	2.4	tr(0.1)	0.3 [0.1]	37/37	37/37
	2017 温暖期	0.5	0.5	3.3	nd	0.3 [0.1]	36/37	36/37
$\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2012 温暖期	0.5	0.5	29	nd	0.3 [0.1]	30/36	30/36
	2012 寒冷期	0.8	0.8	18	nd		35/36	35/36
	2014 温暖期	nd	nd	tr(0.8)	nd	1.0 [0.3]	8/36	8/36
	2015 温暖期	nd	nd	3.9	nd	0.8 [0.3]	7/35	7/35
	2016 温暖期	tr(0.1)	tr(0.1)	0.7	nd	0.3 [0.1]	21/37	21/37
	2017 温暖期	tr(0.2)	tr(0.1)	0.8	nd	0.3 [0.1]	33/37	33/37

γ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2012 温暖期	1.6	1.7	280	nd		31/36	31/36
	2012 寒冷期	2.1	1.8	84	nd	0.3 [0.1]	35/36	35/36
	2014 温暖期	nd	nd	tr(1.2)	nd	1.3 [0.4]	4/36	4/36
	2015 温暖期	nd	nd	4.4	nd	0.8 [0.3]	11/35	11/35
	2016 温暖期	tr(0.1)	nd	1.4	nd	0.3 [0.1]	16/37	16/37
	2017 温暖期	tr(0.1)	tr(0.1)	0.8	nd	0.3 [0.1]	20/37	20/37
δ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2012 温暖期	nd	nd	0.8	nd		1/36	1/36
	2012 寒冷期	nd	nd	1.1	nd	0.4 [0.2]	1/36	1/36
	2014 温暖期	nd	nd	nd	nd	1.8 [0.6]	0/36	0/36
	2015 温暖期	nd	nd	1.9	nd	1.9 [0.6]	1/35	1/35
	2016 温暖期	nd	nd	1.9	nd	1.9 [0.6]	1/35	1/35
ε-1,2,5,6,9,10-ヘキサブ ロモシクロドデカン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2012 温暖期	nd	nd	nd	nd		0/36	0/36
	2012 寒冷期	nd	nd	tr(0.5)	nd	0.6 [0.2]	1/36	1/36
	2014 温暖期	nd	nd	nd	nd	0.9 [0.3]	0/36	0/36
	2015 温暖期	nd	nd	nd	nd	0.9 [0.3]	0/35	0/35
	2016 温暖期	nd	nd	nd	nd	0.9 [0.3]	0/35	0/35

(注) 2013 年度は 1,2,5,6,9,10-ヘキサブプロモシクロドデカン類の調査をしていない。また、2016 年度は δ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブプロモシクロドデカン及び ε-1,2,5,6,9,10-ヘキサブプロモシクロドデカンの調査を実施していない。

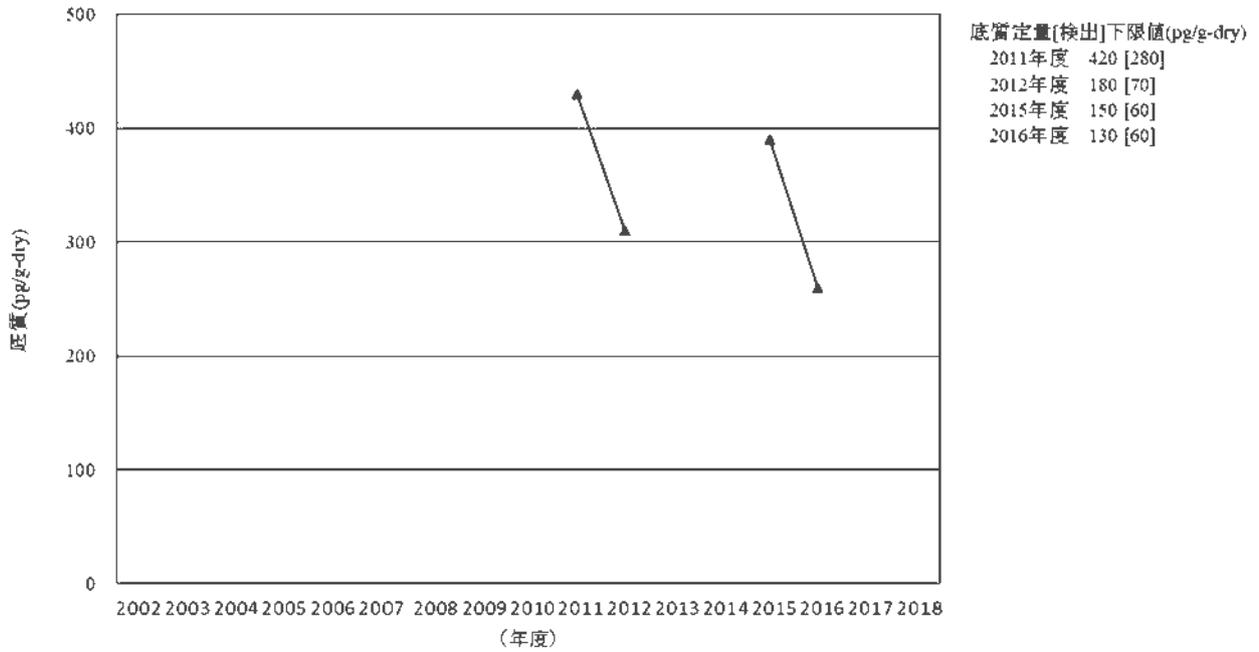
[19-1]  $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン



(注 1) 2011 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注 3) 鳥類は 2014 年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから 2012 年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。  
 (注 2) 2002 年度から 2010 年度及び 2013 年度は調査を実施していない。

図 3-19-1-1  $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの生物の経年変化 (幾何平均値) (参考)

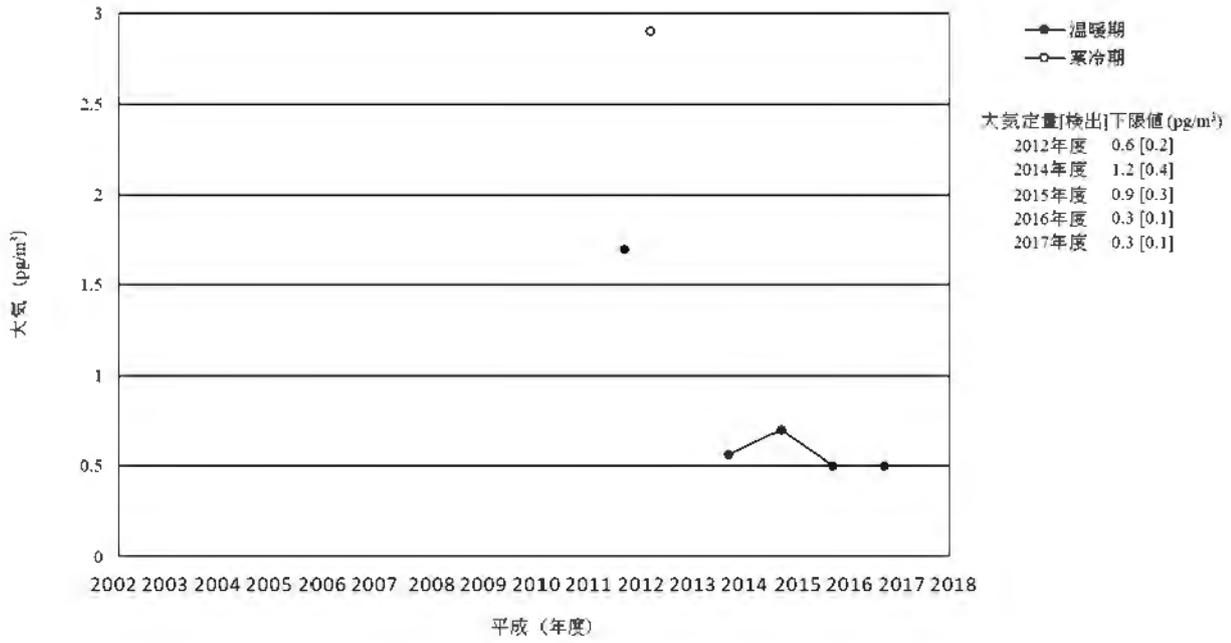
[19-1]  $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン



(注 1) 2011 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注 2) 2002 年度から 2010 年度、2013 年度、2014 年度、2017 年度及び 2018 年度は調査を実施していない。

図 3-19-1-2  $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの底質の経年変化 (幾何平均値)

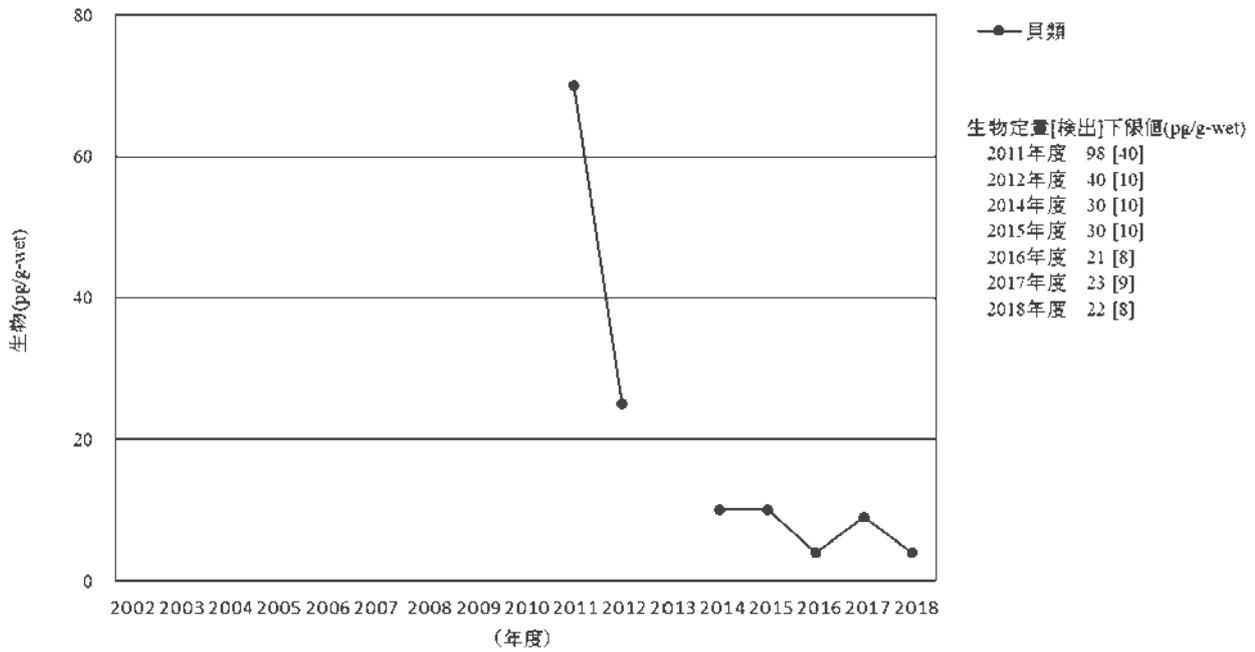
[19-1]  $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン



(注) 2002年度から2011年度、2013年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-19-1-3  $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの大気の経年変化 (幾何平均値)

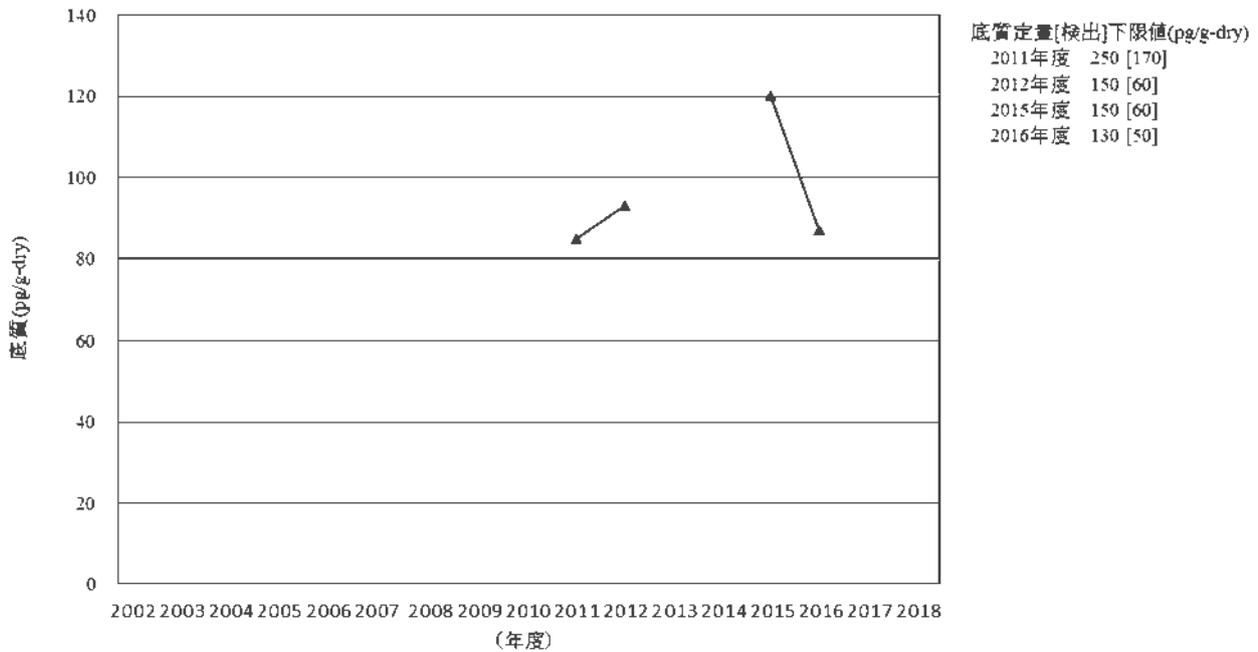
[19-2]  $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン



- (注1) 2011年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 魚類については、全ての年度において幾何平均値が検出下限値未満であったため、経年変化は示していない。  
 (注3) 鳥類は2014年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。  
 (注4) 2002年度から2010年度及び2013年度は調査を実施していない。  
 (注5) 2016年度及び2018年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-19-2-1  $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの生物の経年変化（幾何平均値）  
 （参考）

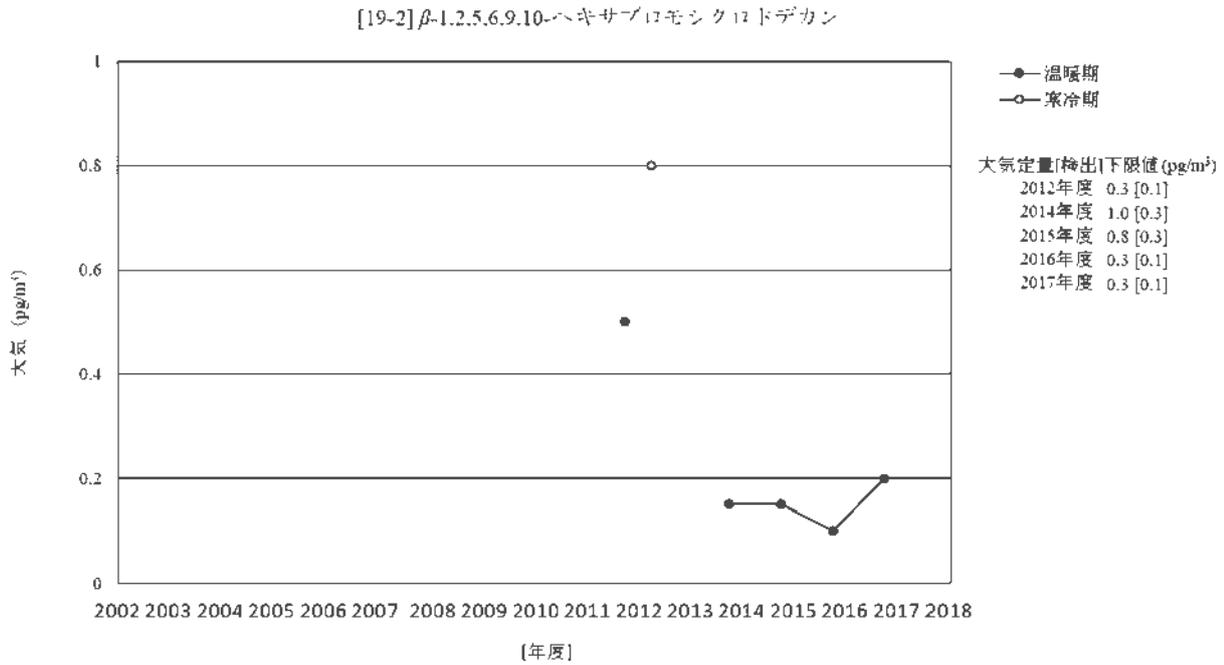
[19-2]  $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン



- (注1) 2011年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2002年度から2010年度、2013年度、2014年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。  
 (注3) 2011年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-19-2-2  $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの底質の経年変化（幾何平均値）

(参考)

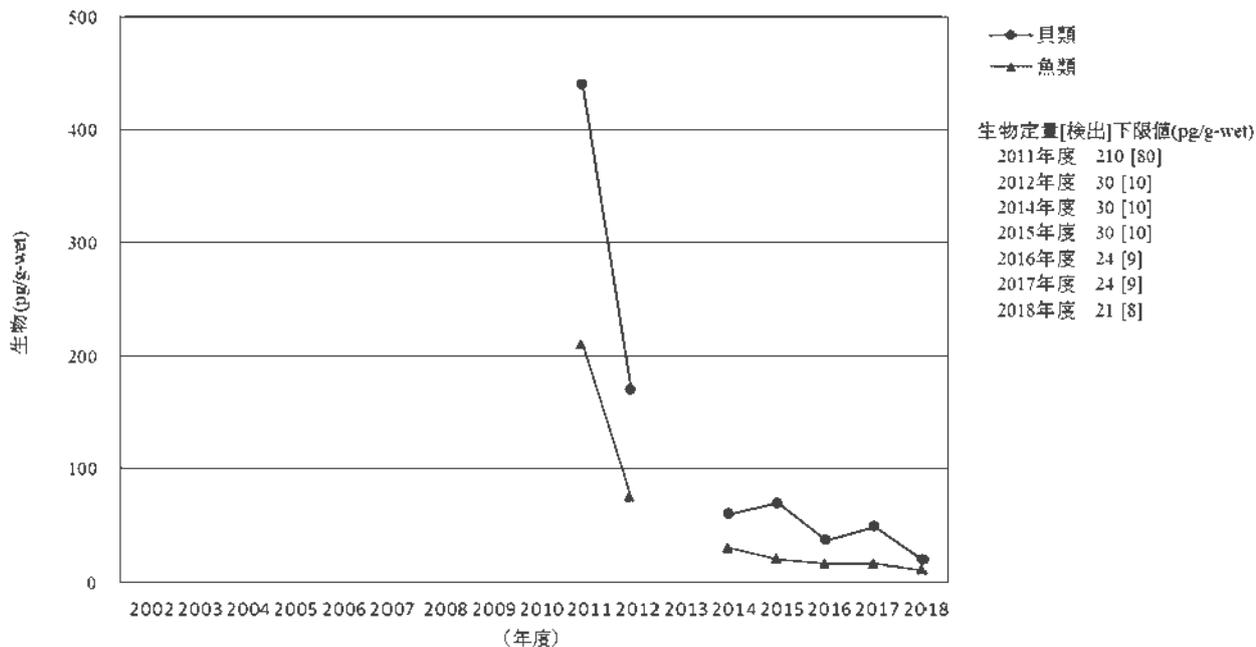


(注1) 2002年度から2011年度、2013年度及び2018年度は調査を実施していない。

(注2) 2014年度及び2015年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-19-2-3  $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの大気の経年変化 (幾何平均値)

[19-3]  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン

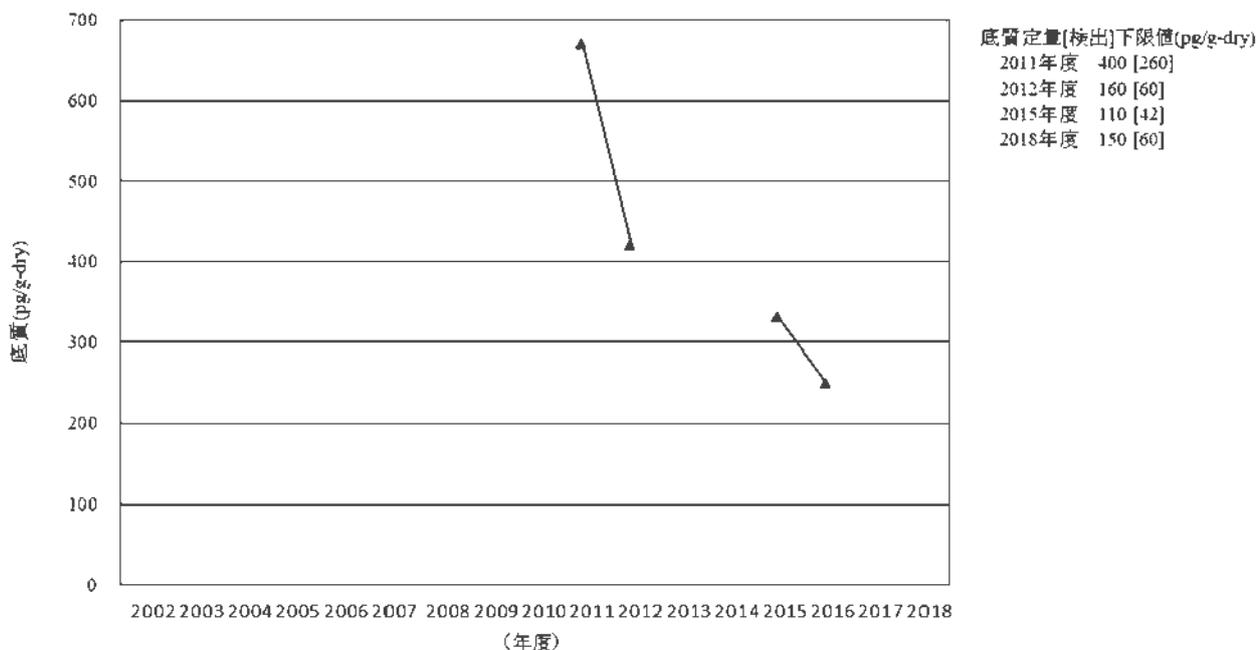


- (注1) 2011年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2014年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2012年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。
- (注3) 2002年度から2010年度及び2013年度は調査を実施していない。

図 3-19-3-1  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの生物の経年変化 (幾何平均値)

(参考)

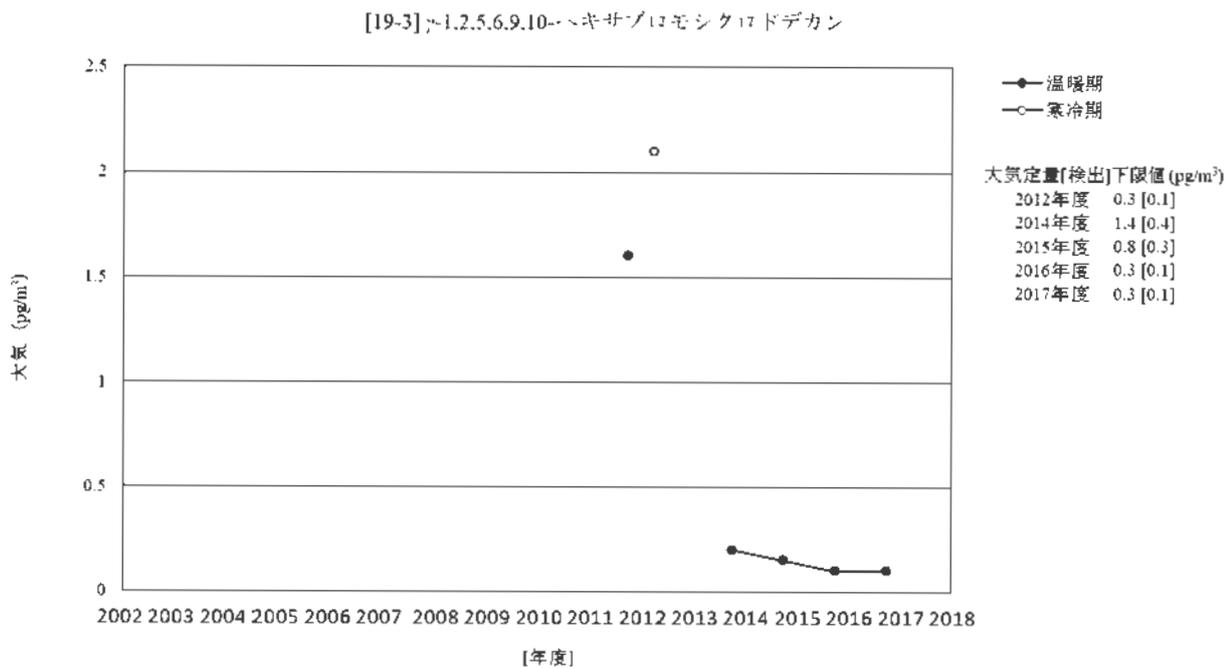
[19-3]  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン



- (注1) 2011年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 2002年度から2010年度、2013年度、2014年度、2017年度及び2018年度は調査を実施していない。

図 3-19-3-2  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの底質の経年変化 (幾何平均値)

(参考)



(注1) 2002年度から2011年度、2013年度及び2018年度は調査を実施していない。

(注2) 2014年度及び2015年度は幾何平均値が検出下限値未満であったため、検出下限値の1/2の値を図示した。

図 3-19-3-3  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの大気濃度の経年変化 (幾何平均値)

## [20] 総ポリ塩化ナフタレン

### ・調査の経緯及び実施状況

ポリ塩化ナフタレン類は、機械油等として利用されていた。ポリ塩化ナフタレン類のうち、塩素数が3以上のものが1979年8月に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、POPs条約では、2015年5月に開催された第7回条約締約国会議(COP7)において塩素数が2から8までの塩化ナフタレンを含むものについて条約対象物質とすることが採択され、化審法に基づく第一種特定化学物質に塩素数が2のものが2016年4月に追加指定されている。

2001年度までの継続的調査においては、「生物モニタリング」<sup>ii)</sup>で1980年度から1985年度までの毎年度と1987年度、1989年度、1991年度及び1993年度に生物(貝類、魚類及び鳥類)について調査を実施している。

2002年度以降のモニタリング調査でも、塩素数が1から8までのものを対象として、2006年度に生物(貝類、魚類及び鳥類)の調査を、2008年度に水質、底質、生物(貝類、魚類及び鳥類)及び大気の調査を、2014年度に大気の調査を、2015年度に生物(貝類、魚類及び鳥類)の調査を、2016年度及び2017年度に底質、生物(貝類、魚類及び鳥類)及び大気の調査を、2018年度に水質、底質、生物(貝類、魚類及び鳥類)及び大気の調査を実施している。

### ・調査結果

#### <水質>

水質については、47地点を調査し、検出下限値12 pg/Lにおいて47地点中39地点で検出され、検出濃度は260 pg/Lまでの範囲であった。

#### ○2008年度及び2018年度における水質についての総ポリ塩化ナフタレンの検出状況

総ポリ塩化ナフタレン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2008	nd	nd	180	nd	85[30]	9/48	9/48
	2018	tr(32)	tr(34)	260	nd	35 [12]	39/47	39/47

(注) ※：定量[検出]下限値は、同族体ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

#### <底質>

底質については、61地点を調査し、検出下限値3.2 pg/g-dryにおいて61地点全てで検出され、検出濃度は9.9 ~34,000 pg/g-dryの範囲であった。

#### ○2008年度から2018年度における底質についての総ポリ塩化ナフタレンの検出状況

総ポリ塩化ナフタレン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※※	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2008	410	400	28,000	nd	84 [30]	166/189	58/63
	2016	760	870	160,000	nd	59 [20]	59/62	59/62
	2017	630	800	32,000	tr(16)	27 [9.1]	62/62	62/62
	2018	680	810	34,000	9.9	8.5 [3.2]	61/61	61/61

(注1) ※：2008年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：定量[検出]下限値は、同族体ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

(注3) 2009年度から2015年度は調査を実施していない。

<生物>

生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 12pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は tr(13)~700pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 12pg/g-wet において 18 地点中 16 地点で検出され、検出濃度は 520pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 12pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 220~250pg/g-wet の範囲であった。

○2006 年度から 2018 年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての総ポリ塩化ナフタレンの検出状況

総ポリ塩化ナフタレン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※※	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2006	98	73	1.2	tr(19)	27 [11]	31/31	7/7
	2008	94	73	1,300	tr(11)	26 [10]	31/31	7/7
	2015	70	67	580	nd	54 [18]	2/3	2/3
	2016	72	tr(49)	790	nd	57 [19]	2/3	2/3
	2017	46	68	1,400	nd	33 [12]	2/3	2/3
	2018	58	tr(22)	700	tr(13)	36 [12]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2006	72	49	2,700	nd	27 [11]	78/80	16/16
	2008	59	40	2,200	nd	26 [10]	79/85	17/17
	2015	tr(50)	85	390	nd	54 [18]	13/19	13/19
	2016	tr(44)	tr(48)	340	nd	57 [19]	13/19	13/19
	2017	32	51	360	nd	33 [12]	17/19	17/19
	2018	41	36	520	nd	36 [12]	16/18	16/18
鳥類 (pg/g-wet)	2006	tr(17)	tr(18)	27	tr(11)	27 [11]	10/10	2/2
	2008	tr(10)	nd	tr(22)	nd	26 [10]	5/10	1/2
	2015※※※	---	---	tr(20)	tr(20)	54 [18]	1/1	1/1
	2016※※※	130	---	320	tr(49)	57 [19]	2/2	2/2
	2017※※※	91	---	460	tr(18)	33 [12]	2/2	2/2
	2018※※※	230	---	250	220	36 [12]	2/2	2/2

(注 1) ※：2006 年度及び 2008 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注 2) ※※：定量[検出]下限値は、同族体ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

(注 3) ※※※：鳥類の 2015 年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2008 年度までの結果と継続性がない。

(注 4) 2007 年度及び 2009 年度から 2014 年度は調査を実施していない。

<大気>

大気については、37 地点を調査し、検出下限値 0.2 pg/m<sup>3</sup> において 37 地点全てで検出され、検出濃度は 5.3~590pg/m<sup>3</sup> の範囲であった。

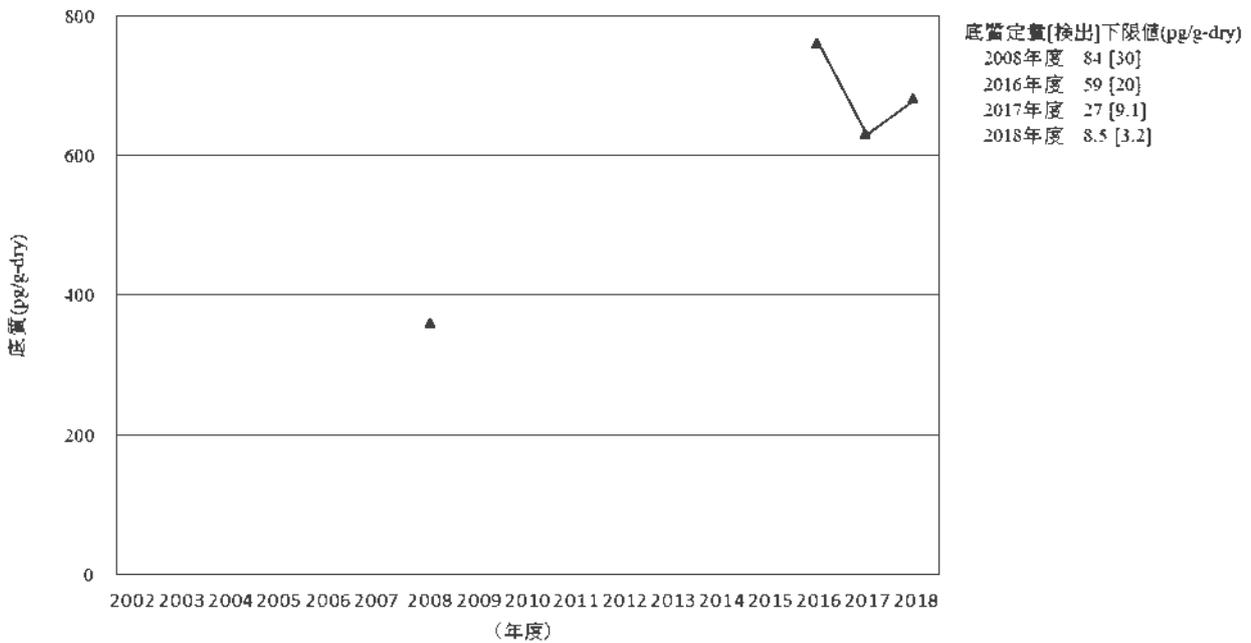
○2008 年度から 2018 年度における大気についての総ポリ塩化ナフタレンの検出状況

総ポリ塩化ナフタレン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値※	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2008 温暖期	200	230	660	35		22/22	22/22
	2008 寒冷期	tr(9.6)	tr(9.8)	45	nd	4.0 [1.3]	36/36	36/36
	2014 温暖期	110	130	1,600	5.4	2.8 [1.0]	36/36	36/36
	2016 温暖期	110	130	660	9.0	0.79 [0.28]	37/37	37/37
	2017 温暖期	110	120	920	7	0.67 [0.24]	37/37	37/37
	2018 温暖期	86	110	590	5.3	0.5 [0.2]	37/37	37/37

(注 1) ※：定量[検出]下限値は、同族体ごとの定量[検出]下限値の合計とした。

(注 2) 2009 年度から 2013 年度及び 2015 年度は調査を実施していない。

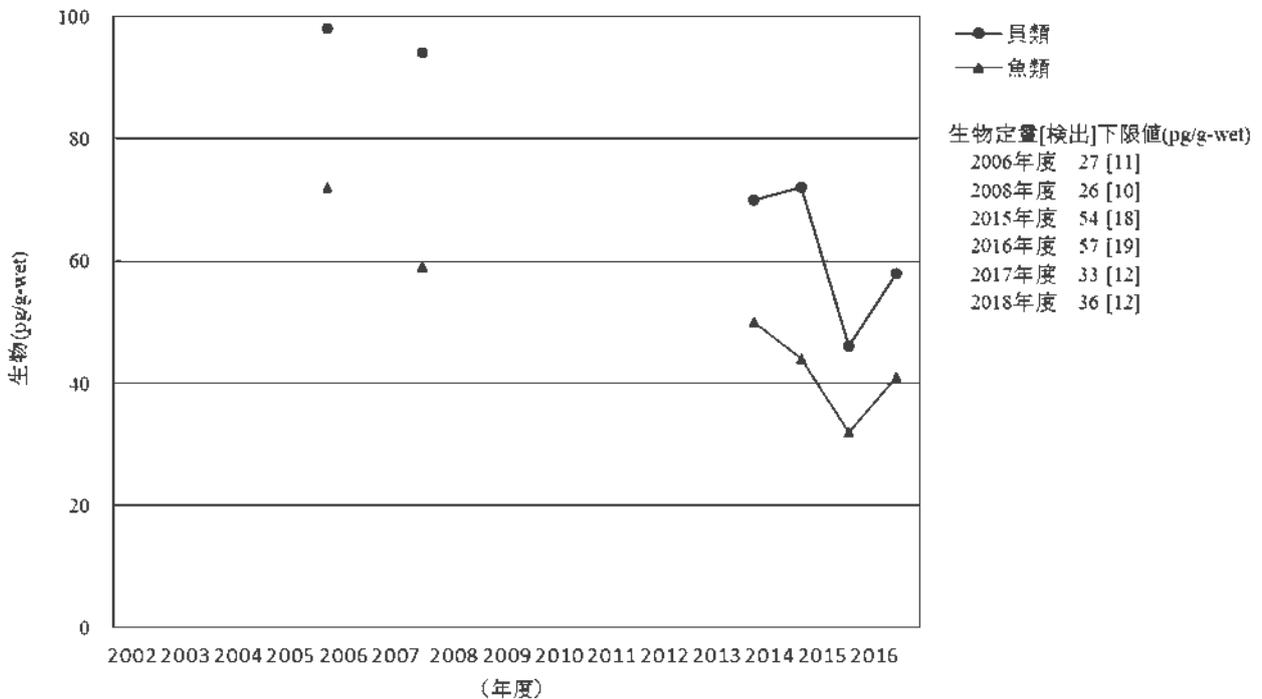
[20] 総ポリ塩化ナフタレン



(注1) 2008年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2002年度から2007年度及び2009年度及から2015年度は調査を実施していない。

図 3-20-1 総ポリ塩化ナフタレンの底質の経年変化（幾何平均値）

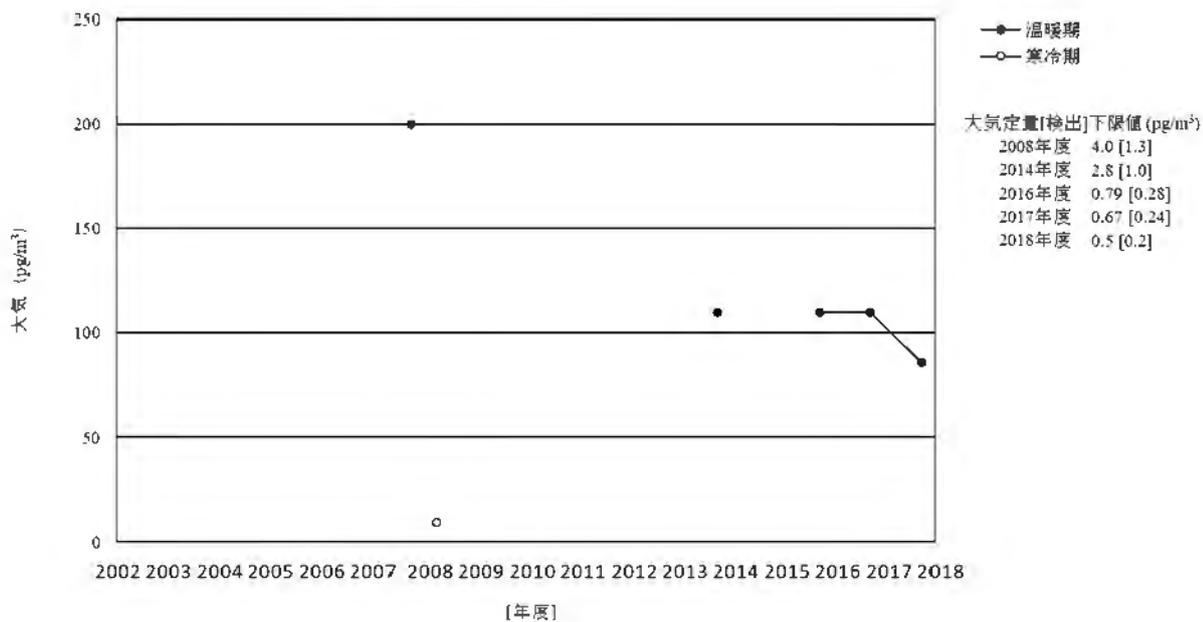
[20] 総ポリ塩化ナフタレン



(注1) 2006年度及び2008年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 鳥類は2015年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから2008年度までと継続性がないため、経年変化は示していない。  
 (注3) 2002年度から2005年度、2007年度及び2009年度から2014年度は調査を実施していない。

図 3-20-2 総ポリ塩化ナフタレンの生物の経年変化（幾何平均値）

[20] 総ポリ塩化ナフタレン



(注1) 2008年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2002年度から2007年度、2009年度から2013年度及び2015年度は調査を実施していない。

図 3-20-3 総ポリ塩化ナフタレンの大気を経年変化 (幾何平均値)

## [21] ヘキサクロロブタ-1,3-ジエン

### ・調査の経緯及び実施状況

ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンは、溶媒として利用されていたが、2005年4月1日に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、POPs条約においては、2015年5月に開催された第7回条約締約国会議（COP7）において条約対象物質とすることが採択された。

継続的調査としては2007年度が初めての調査であり、2002年度までの調査として「化学物質環境調査」iv) では1981年度に水質及び底質の調査を、2002年度以降の化学物質環境実態調査の初期環境調査及び詳細環境調査等では2007年度に水質及び底質の調査を実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、2007年度及び2013年度に水質、底質及び生物（貝類、魚類及び鳥類）の調査を、2015年度から2018年度に大気の調査を実施している。

### ・調査結果

#### <大気>

大気については、37地点を調査し、検出下限値 10pg/m<sup>3</sup> において 37地点全てで検出され、検出濃度は150～8,500pg/m<sup>3</sup> の範囲であった。

#### ○2015年度から2018年度における大気についてのヘキサクロロブタ-1,3-ジエンの検出状況

ヘキサクロロブタ -1,3-ジエン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2015 温暖期	1,100	1,200	3,500	45	29 [11]	102/102	34/34
	2016 温暖期	850	800	4,300	510	60 [20]	111/111	37/37
	2017 温暖期	4,200	4,000	23,000	1,100	60 [20]	37/37	37/37
	2018 温暖期	3,600	3,500	8,500	150	30 [10]	110/110	37/37

### ・2013年度までの水質、底質及び生物（貝類、魚類及び鳥類）の調査結果（参考）

#### <水質>

#### ○2007年度及び2013年度における水質についてのヘキサクロロブタ-1,3-ジエンの検出状況

ヘキサクロロブタ -1,3-ジエン	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2007	nd	nd	nd	nd	870 [340]	0/48	0/48
	2013	nd	nd	tr(43)	nd	94 [37]	1/48	1/48

#### <底質>

#### ○2007年度及び2013年度における底質についてのヘキサクロロブタ-1,3-ジエンの検出状況

ヘキサクロロブタ -1,3-ジエン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2007	nd	nd	1,300	nd	22 [8.5]	22/192	10/64
	2013	nd	nd	1,600	nd	9.9 [3.8]	40/189	20/63

(注) ※：各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

<生物>

○2007年度及び2013年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についてのヘキサクロロブタ-1,3-ジエンの検出状況

ヘキサクロロブタ -1,3-ジエン	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2007	nd	nd	nd	nd	36 [12]	0/31	0/7
	2013	nd	nd	tr(7.1)	nd	9.4 [3.7]	3/13	1/5
魚類 (pg/g-wet)	2007	nd	nd	nd	nd	36 [12]	0/80	0/16
	2013	nd	nd	59	nd	9.4 [3.7]	7/57	4/19
鳥類 (pg/g-wet)	2007	nd	nd	nd	nd	36 [12]	0/10	0/2
	2013※※	nd	nd	nd	nd	9.4 [3.7]	0/6	0/2

(注1) ※：各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) ※※：鳥類の2013年度における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2007年度の結果と継続性がない。

## [22] ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類

### ・調査の経緯及び実施状況

ペンタクロロフェノールは、木材用の防腐剤、防虫剤及びかび防止剤等として利用されていた。2015年5月に開催された POPs 条約の第7回条約締約国会議（COP7）においてペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類について条約対象物質とすることが採択され、2016年10月1日に化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。

継続的調査としては2015年度が初めての調査であり、2001年度までの調査としてペンタクロロフェノールについて、「化学物質環境調査」<sup>iv)</sup>では1974年度及び1996年度に水質及び底質の調査を、2002年度以降の化学物質環境実態調査の初期環境調査及び詳細環境調査等では2005年度に水質の調査をそれぞれ実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、2015年度にペンタクロロフェノールについて水質の調査を、2016年度にペンタクロロフェノール及びペンタクロロアニソールについて底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査、2017年度及び2018年度にペンタクロロフェノール及びペンタクロロアニソールについて水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を実施している。

### ・調査結果

#### <水質>

ペンタクロロフェノール：水質については、47地点を調査し、検出下限値9 pg/Lにおいて47地点中44地点で検出され、検出濃度は4,400 pg/Lまでの範囲であった。

ペンタクロロアニソール：水質については、47地点を調査し、検出下限値6 pg/Lにおいて47地点中30地点で検出され、検出濃度は230 pg/Lまでの範囲であった。

#### ○2015年度から2018年度における水質についてのペンタクロロフェノール及びペンタクロロアニソールの検出状況

ペンタクロロフェノール	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2015	tr(130)	tr(90)	26,000	nd	260 [85]	25/48	25/48
	2017	86	110	3,500	nd	30 [10]	43/47	43/47
	2018	50	47	4,400	nd	24 [9]	44/47	44/47
ペンタクロロアニソール	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2017	tr(10)	tr(8)	1,000	nd	14 [5]	32/47	32/47
	2018	tr(10)	tr(7)	230	nd	16 [6]	30/47	30/47

(注) 2016年度ペンタクロロフェノールの調査を実施していない。また、2015年度及び2016年度はペンタクロロアニソールの調査をしていない。

#### <底質>

ペンタクロロフェノール：底質については、61地点を調査し、検出下限値6 pg/g-dryにおいて61地点中59地点で検出され、検出濃度は3,900 pg/g-dryまでの範囲であった。

ペンタクロロアニソール：底質については、61地点を調査し、検出下限値9 pg/g-dryにおいて61地点中53地点で検出され、検出濃度は160 pg/g-dryまでの範囲であった。

○2017 年度及び 2018 年度における底質についてのペンタクロロフェノール及びペンタクロロアニソールの検出状況

ペンタクロロフェノール	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g)	2017	350	390	7,400	8	4 [2]	62/62	62/62
	2018	220	300	3,900	nd	18 [6]	59/61	59/61
ペンタクロロアニソール	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g)	2017	34	32	190	nd	5 [2]	61/62	61/62
	2018	tr(23)	tr(25)	160	nd	27 [9]	53/61	53/61

<生物>

ペンタクロロフェノール：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 10pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は tr(10)~30pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 10pg/g-wet において 18 地点中 13 地点で検出され、検出濃度は 80pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 10pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 180~1,200pg/g-wet の範囲であった。

ペンタクロロアニソール：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 2pg/g-wet において 3 地点全てで検出され、検出濃度は tr(2)~21pg/g-wet の範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 2pg/g-wet において 18 地点中 16 地点で検出され、検出濃度は 73pg/g-wet までの範囲であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 2pg/g-wet において 2 地点全てで検出され、検出濃度は 11~20pg/g-wet の範囲であった。

○2016 年度から 2018 年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についてのペンタクロロフェノール及びペンタクロロアニソールの検出状況

ペンタクロロフェノール	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2016	tr(45)	tr(46)	65	tr(30)	63 [21]	3/3	3/3
	2017	nd	nd	tr(35)	nd	36 [12]	1/3	1/3
	2018	tr(20)	tr(20)	30	tr(10)	30 [10]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2016	100	130	990	nd	63 [21]	18/19	18/19
	2017	tr(15)	tr(15)	110	nd	36 [12]	14/19	14/19
	2018	tr(10)	tr(10)	80	nd	30 [10]	13/18	13/18
鳥類 (pg/g-wet)	2016	1,200	---	3,100	440	63 [21]	2/2	2/2
	2017	1,800	---	11,000	300	36 [12]	2/2	2/2
	2018	460	---	1,200	180	30 [10]	2/2	2/2
ペンタクロロアニソール	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2016	7	3	35	3	3 [1]	3/3	3/3
	2017	6	tr(3)	36	tr(2)	4 [1]	3/3	3/3
	2018	6	tr(4)	21	tr(2)	6 [2]	3/3	3/3
魚類 (pg/g-wet)	2016	8	6	100	tr(1)	3 [1]	19/19	19/19
	2017	7	5	120	tr(1)	4 [1]	19/19	19/19
	2018	8	7	73	nd	6 [2]	16/18	16/18
鳥類 (pg/g-wet)	2016	12	---	14	10	3 [1]	2/2	2/2
	2017	23	---	47	11	4 [1]	2/2	2/2
	2018	15	---	20	11	6 [2]	2/2	2/2

<大気>

ペンタクロロフェノール：大気については、37 地点を調査し、検出下限値 0.2pg/m<sup>3</sup>において 37 地点全てで検出され、検出濃度は 0.9～30pg/m<sup>3</sup>の範囲であった。

ペンタクロロアニソール：大気については、37 地点を調査し、検出下限値 0.4pg/m<sup>3</sup>において 37 地点全てで検出され、検出濃度は 4.6～110pg/m<sup>3</sup>の範囲であった。

○2016 年度から 2018 年度における大気についてのペンタクロロフェノール及びペンタクロロアニソールの検出状況

ペンタクロロフェノール	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2016 温暖期	6.3	6.0	25	0.6	0.5 [0.2]	37/37	37/37
	2017 温暖期	4.6	4.8	33	0.7	0.6 [0.2]	37/37	37/37
	2018 温暖期	5.1	5.8	30	0.9	0.5 [0.2]	37/37	37/37
ペンタクロロアニソール	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2016 温暖期	39	42	220	3.4	1.0 [0.4]	37/37	37/37
	2017 温暖期	34	36	210	6.0	1.2 [0.5]	37/37	37/37
	2018 温暖期	34	40	110	4.6	1.1 [0.4]	37/37	37/37

## [23] 短鎖塩素化パラフィン類

### ・調査の経緯及び実施状況

短鎖塩素化パラフィン類は、ゴム、塗料及び接着剤の可塑剤、プラスチックの難燃剤並びに金属加工液の極圧潤滑剤等として利用されている。2016年4月から5月に開催された POPs 条約の第8回条約締約国会議（COP8）において短鎖塩素化パラフィン類について条約対象物質とすることが採択され、2018年4月に塩素の含有量が全重量の48%を超えるものが化審法に基づく第一種特定物質に指定されている。

継続的調査としては2016年度が初めての調査であり、2002年度以降の化学物質環境実態調査の初期環境調査及び詳細環境調査等では、2004年度に水質、底質及び生物（魚類）の調査を、2005年度に水質、底質及び生物（貝類及び魚類）の調査をそれぞれ実施している。2016年度のモニタリング調査では、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気（魚類）及び大気の調査を実施している。

2017年度及び2018年度のモニタリング調査では、水質、底質、生物（貝類、魚類及び鳥類）及び大気の調査を実施している。

なお、短鎖塩素化パラフィン類の結果は、測定法に様々な課題がある中での試行において得られた暫定的な値である。

### ・調査結果

#### <水質>

塩素化デカン類：水質については、47地点を調査し、検出下限値400 pg/Lにおいて47地点中8地点で検出され、検出濃度は1,600 pg/Lまでの範囲であった。

塩素化ウンデカン類：水質については、47地点を調査し、検出下限値800 pg/Lにおいて47地点中6地点で検出され、検出濃度は3,500 pg/Lまでの範囲であった。

塩素化ドデカン類：水質については、47地点を調査し、検出下限値1,000 pg/Lにおいて47地点中16地点で検出され、検出濃度は3,000 pg/Lまでの範囲であった。

塩素化トリデカン類：水質については、47地点を調査し、検出下限値1,500 pg/Lにおいて47地点中18地点で検出され、検出濃度は11,000 pg/Lまでの範囲であった。

#### ○2017年度から2018年度における水質についての短鎖塩素化パラフィン類の検出状況

塩素化デカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2017	nd	nd	tr(1,600)	nd	3,300 [1,100]	1/47	1/47
	2018	nd	nd	1,600	nd	1,000 [400]	8/47	8/47
塩素化ウンデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2017	nd	nd	3,100	nd	1,500 [500]	13/47	13/47
	2018	nd	nd	3,500	nd	2,000 [800]	6/47	6/47
塩素化ドデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2017	nd	nd	10,000	nd	3,300 [1,100]	4/47	4/47
	2018	nd	nd	3,000	nd	3,000 [1,000]	16/47	16/47
塩素化トリデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2017	nd	nd	10,000	nd	3,600 [1,200]	7/47	7/47
	2018	nd	nd	11,000	nd	4,500 [1,500]	18/47	18/47

(注) 塩素数が5から9までのものを測定の対象とした結果である。

<底質>

塩素化デカン類：底質については、61 地点を調査し、検出下限値 2,000 pg/g-dry において 61 地点中 7 地点で検出され、検出濃度は 7,000 pg/g-dry までの範囲であった。

塩素化ウンデカン類：底質については、61 地点を調査し、検出下限値 5,000 pg/g-dry において 61 地点中 7 地点で検出され、検出濃度は tr(13,000)pg/g-dry までの範囲であった。

塩素化ドデカン類：底質については、61 地点を調査し、検出下限値 2,000 pg/g-dry において 61 地点中 28 地点で検出され、検出濃度は 38,000 pg/g-dry までの範囲であった。

塩素化トリデカン類：底質については、61 地点を調査し、検出下限値 3,000 pg/g-dry において 61 地点中 24 地点で検出され、検出濃度は 36,000 pg/g-dry までの範囲であった。

○2017 年度から 2018 年度における底質についての短鎖塩素化パラフィン類の検出状況

塩素化デカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2017	nd	nd	17,000	nd	10,000 [4,000]	12/62	12/62
	2018	nd	nd	7,000	nd	6,000 [2,000]	7/61	7/61
塩素化ウンデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2017	nd	nd	37,000	nd	10,000 [4,000]	19/62	19/62
	2018	nd	nd	tr(13,000)	nd	15,000 [5,000]	7/61	7/61
塩素化ドデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2017	nd	nd	44,000	nd	11,000 [4,000]	19/62	19/62
	2018	tr(2,000)	nd	38,000	nd	6,000 [2,000]	28/61	28/61
塩素化トリデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2017	nd	nd	94,000	nd	12,000 [5,000]	18/62	18/62
	2018	nd	nd	36,000	nd	9,000 [3,000]	24/61	24/61

(注) 塩素数が 5 から 9 までのものを測定の対象とした結果である。

<生物>

塩素化デカン類：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 400pg/g-wet において 3 地点中 2 地点で検出され、検出濃度は tr(400)pg/g-wet までの範囲であった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 400pg/g-wet において 18 地点中 1 地点で検出され、検出濃度は tr(800)pg/g-wet であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 400pg/g-wet において 2 地点中 1 地点で検出され、検出濃度は tr(600)pg/g-wet であった。

塩素化ウンデカン類：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 700pg/g-wet において 3 地点全てで検出されなかった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 700pg/g-wet において 18 地点中 1 地点で検出され、検出濃度は tr(700)pg/g-wet であった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 700pg/g-wet において 2 地点全てで検出されなかった。

塩素化ドデカン類：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 600pg/g-wet において 3 地点全てで検出されなかった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 600pg/g-wet において 18 地点全てで検出されなかった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 600pg/g-wet において 2 地点全てで検出されなかった。

塩素化トリデカン類：生物のうち貝類については、3 地点を調査し、検出下限値 500pg/g-wet において 3 地点全てで検出されなかった。魚類については、18 地点を調査し、検出下限値 500pg/g-wet において 18 地

点全てで検出されなかった。鳥類については、2 地点を調査し、検出下限値 500pg/g-wet において 2 地点全てで検出されなかった。

○2016 年度から 2018 年度における生物（貝類、魚類及び鳥類）についての短鎖塩素化パラフィン類の検出状況

塩素化デカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2016	tr(700)	tr(700)	2,200	nd	1,300 [500]	2/3	2/3
	2017	670	1,700	1,800	nd	500 [200]	2/3	2/3
	2018	nd	tr(400)	tr(400)	nd	1,200 [400]	2/3	2/3
魚類 (pg/g-wet)	2016	tr(600)	tr(700)	2,800	nd	1,300 [500]	13/19	13/19
	2017	tr(410)	tr(400)	2,100	nd	500 [200]	16/19	16/19
	2018	nd	nd	tr(800)	nd	1,200 [400]	1/18	1/18
鳥類 (pg/g-wet)	2016	tr(1,000)	---	1,300	tr(800)	1,300 [500]	2/2	2/2
	2017	tr(400)	---	1,600	nd	500 [200]	1/2	1/2
	2018	nd	---	tr(600)	nd	1,200 [400]	1/2	1/2
塩素化ウンデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
貝類 (pg/g-wet)	2016	tr(2,900)	tr(2,000)	6,000	tr(2,000)	3,000 [1,000]	3/3	3/3
	2017	2,200	3,400	11,000	tr(300)	800 [300]	3/3	3/3
	2018	nd	nd	nd	nd	1,800 [700]	0/3	0/3
魚類 (pg/g-wet)	2016	tr(2,900)	tr(2,000)	15,000	nd	3,000 [1,000]	18/19	18/19
	2017	1,900	1,100	24,000	nd	800 [300]	16/19	16/19
	2018	nd	nd	tr(700)	nd	1,800 [700]	1/18	1/18
鳥類 (pg/g-wet)	2016	4,900	---	8,000	3,000	3,000 [1,000]	2/2	2/2
	2017	5,000	---	31,000	800	800 [300]	2/2	2/2
	2018	nd	---	nd	nd	1,800 [700]	0/2	0/2
塩素化ドデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
貝類 (pg/g-wet)	2016	tr(1,400)	tr(1,500)	tr(1,800)	tr(1,100)	2,100 [700]	3/3	3/3
	2017	2,000	1,400	4,700	1,300	900 [300]	3/3	3/3
	2018	nd	nd	nd	nd	1,500 [600]	0/3	0/3
魚類 (pg/g-wet)	2016	tr(1,800)	tr(1,800)	8,700	nd	2,100 [700]	17/19	17/19
	2017	2,100	2,100	19,000	nd	900 [300]	18/19	18/19
	2018	nd	nd	nd	nd	1,500 [600]	0/18	0/18
鳥類 (pg/g-wet)	2016	3,800	---	6,600	2,200	2,100 [700]	2/2	2/2
	2017	5,500	---	25,000	1,200	900 [300]	2/2	2/2
	2018	nd	---	nd	nd	1,500 [600]	0/2	0/2
塩素化トリデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
貝類 (pg/g-wet)	2016	tr(700)	tr(700)	tr(900)	tr(500)	1,100 [400]	3/3	3/3
	2017	870	700	3,100	tr(300)	500 [200]	3/3	3/3
	2018	nd	nd	nd	nd	1,400 [500]	0/3	0/3
魚類 (pg/g-wet)	2016	tr(800)	tr(800)	4,900	nd	1,100 [400]	17/19	17/19
	2017	tr(290)	nd	4,100	nd	500 [200]	8/19	8/19
	2018	nd	nd	nd	nd	1,400 [500]	0/18	0/18
鳥類 (pg/g-wet)	2016	1,400	---	1,500	1,400	1,100 [400]	2/2	2/2
	2017	900	---	8,100	nd	500 [200]	1/2	1/2
	2018	nd	---	nd	nd	1,400 [500]	0/2	0/2

(注) 塩素数が 5 から 9 までのものを測定の対象とした結果である。

< 大気 >

塩素化デカン類：大気については、37 地点を調査し、検出下限値 60pg/m<sup>3</sup> において 37 地点全てで検出され、検出濃度は tr(130)~1,700pg/m<sup>3</sup> の範囲であった。

塩素化ウンデカン類：大気については、37 地点を調査し、検出下限値 40pg/m<sup>3</sup> において 37 地点全てで検

出され、検出濃度は tr(100)~2,600pg/m<sup>3</sup> の範囲であった。

塩素化ドデカン類：大気については、37 地点を調査し、検出下限値 40pg/m<sup>3</sup> において 37 地点全てで検出され、検出濃度は tr(60)~880pg/m<sup>3</sup> の範囲であった。

塩素化トリデカン類：大気については、37 地点を調査し、検出下限値 70pg/m<sup>3</sup> において 37 地点中 26 地点で検出され、検出濃度は 470pg/m<sup>3</sup> までの範囲であった。

○2016 年度から 2018 年度における大気についての短鎖塩素化パラフィン類の検出状況

塩素化デカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2016 温暖期	tr(170)	tr(200)	940	nd	290 [110]	24/37	24/37
	2017 温暖期	370	380	1,500	tr(70)	140 [50]	37/37	37/37
	2018 温暖期	370	390	1,700	tr(130)	150 [60]	37/37	37/37
塩素化ウンデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
	2016 温暖期	tr(350)	tr(320)	3,200	nd	610 [240]	20/37	20/37
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2017 温暖期	500	510	2,300	tr(90)	190 [60]	37/37	37/37
	2018 温暖期	450	430	2,600	tr(100)	110 [40]	37/37	37/37
塩素化ドデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
	2016 温暖期	nd	nd	740	nd	430 [170]	7/37	7/37
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2017 温暖期	190	190	730	tr(30)	100 [30]	37/37	37/37
	2018 温暖期	190	190	880	tr(60)	110 [40]	37/37	37/37
塩素化トリデカン類	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
	2016 温暖期	nd	nd	510	nd	320 [120]	13/37	13/37
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2017 温暖期	150	160	1,600	nd	120 [40]	35/37	35/37
	2018 温暖期	tr(100)	tr(110)	470	nd	180 [70]	26/37	26/37

(注) 塩素数が 4 から 7 までのものを測定の対象とした結果である。

[24] ジコホル

・調査の経緯及び実施状況

ジコホルは、殺虫剤及び防ダニ剤等として利用されていた。農薬取締法に基づく登録は2004年に失効し、2005年4月には化審法に基づく第一種特定化学物質に指定されている。また、POPs条約では、2019年の4月から5月に開催された第9回条約締結国会議(COP9)において条約対象物質とすることが採択された。

継続的調査としては2006年度が初めての調査であり、2002年度以降の化学物質環境実態調査の初期環境調査及び詳細環境調査等では、2004年度に底質の調査を実施している。

2002年度以降のモニタリング調査では、2006年度に生物(貝類、魚類及び鳥類)の調査を、2008年度に水質、底質及び生物(貝類、魚類及び鳥類)の調査を、2016年度に大気の調査を、2018年度に生物の調査を実施している。

・調査結果

<生物>

生物のうち貝類については、3地点を調査し、検出下限値10pg/g-wetにおいて3地点中1地点で検出され、検出濃度は30pg/g-wetであった。魚類については、18地点を調査し、検出下限値10pg/g-wetにおいて18地点中9地点で検出され、検出濃度は280pg/g-wetまでの範囲であった。鳥類については、2地点を調査し、検出下限値10pg/g-wetにおいて2地点全てで検出されなかった。

○2006年度から2018年度における生物(貝類、魚類及び鳥類)についてのジコホルの検出状況

ジコホル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
貝類 (pg/g-wet)	2006	tr(58)	tr(70)	240	nd	92 [36]	22/31	5/7
	2008	tr(110)	120	210	nd	120 [48]	28/31	7/7
	2018	nd	nd	30	nd	30 [10]	1/3	1/3
魚類 (pg/g-wet)	2006	nd	nd	290	nd	92 [36]	5/80	1/16
	2008	tr(62)	tr(77)	270	nd	120 [48]	55/85	14/17
	2018	tr(10)	nd	280	nd	30 [10]	9/18	9/18
鳥類 (pg/g-wet)	2006	nd	nd	nd	nd	92 [36]	0/10	0/2
	2008	nd	nd	300	nd	120 [48]	1/10	1/2
	2018	nd	---	nd	nd	30 [10]	0/2	0/2

(注1) ※：各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2007年度及び2009年度から2017年度は調査を実施していない。

・2016年度の水質、底質及び大気の調査結果(参考)

<水質>

○2008年度における水質についてのジコホルの検出状況

ジコホル	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2008	nd	nd	76	nd	25 [10]	13/48	13/48

<底質>

○2008 年度における底質についてのジコホルの検出状況

ジコホル	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度 検体	検出頻度 地点
底質 (pg/g-dry)	2008	nd	nd	460	nd	160 [63]	13/63	30/186

(注) ※：各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

<大気>

○2016 年度における大気についてのジコホルの検出状況

ジコホル	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度 検体	検出頻度 地点
大気 (pg/m <sup>3</sup> )	2016 温暖期	nd	nd	1.0	nd	0.5 [0.2]	10/37	10/37

[25] ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS)

・調査の経緯及び実施状況

ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS) は、フッ素ポリマー加工助剤、界面活性剤等として利用されている。2019 年 10 月に開催されたストックホルム条約残留性有機汚染物質検討委員会第 15 回会合 (POPRC15) においてペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS) とその塩及び PFHxS 関連物質について、条約上の廃絶対象物質 (附属書 A) への追加を締約国会議に勧告することが決定されている。

2002 年度以降のモニタリング調査では、ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS) を分析対象として、2018 年度に水質、底質の調査を実施している。

・調査結果

<水質>

水質については、47 地点を調査し、検出下限値 50 pg/L において 47 地点中 44 地点で検出され、検出濃度は 2,600 pg/L までの範囲であった。

○2018 年度における水質についてのペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS) の検出状況

ペルフルオロヘキサ ンスルホン酸 (PFHxS)	実施年度	幾何 平均値	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
水質 (pg/L)	2018	190	130	2,600	nd	120 [50]	44/47	44/47

<底質>

底質については、61 地点を調査し、検出下限値 5 pg/g-dry において 61 地点中 15 地点で検出され、検出濃度は 27 pg/g-dry までの範囲であった。

○2018 年度における底質についてのペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS) の検出状況

ペルフルオロヘキサ ンスルホン酸 (PFHxS)	実施年度	幾何 平均値※	中央値	最大値	最小値	定量[検出] 下限値	検出頻度	
							検体	地点
底質 (pg/g-dry)	2018	nd	nd	27	nd	11 [5]	15/61	15/61

(注) ※：各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

●参考文献（全物質共通）

- i) 環境省環境保健部環境安全課、「化学物質と環境」水質・底質モニタリング調査  
(<http://www.env.go.jp/chemi/kurohon/>)
- ii) 環境省環境保健部環境安全課、「化学物質と環境」生物モニタリング調査  
(<http://www.env.go.jp/chemi/kurohon/>)
- iii) 環境省環境保健部環境安全課、「化学物質と環境」非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査  
(<http://www.env.go.jp/chemi/kurohon/>)
- iv) 環境省環境保健部環境安全課、「化学物質と環境」化学物質環境調査  
(<http://www.env.go.jp/chemi/kurohon/>)

7. モニタリング調査対象物質の分析法概要

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
[1] PCB類 [2] HCB [9] トキサフェン類 [10] マイレックス [14] ポリブロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの） [17] ペンタクロロベンゼン [20] 総ポリ塩化ナフタレン	<p><b>【水質】</b></p> <p>水質試料 24L以上</p> <p>捕集 ガラス繊維ろ紙 GC50 抽出ディスク C18 FF 100mL/分以下</p> <p>抽出・溶出 メタノール 10mL×2回 アセトン 10mL×2回 トルエン 10mL×2回 ろ紙はさらに超音波抽出 アセトン 50mL、20分間 トルエン 50mL、20分間 を2回繰り返す。</p> <p>クリーンアップスolv添加（注）</p> <p>濃縮・転溶 ロータリーエバポレータ 2～5mLまで ヘキサン 50mL</p> <p>洗浄 5%塩化ナトリウム水溶液 振とう 20分間</p> <p>脱水 無水硫酸ナトリウム</p> <p>定容 ヘキサン 9mL</p> <p>一部分取 3mL</p> <p>濃縮 ロータリーエバポレータ</p> <p>カラムクリーンアップ フロリジール 5g 硫酸/シリカゲル(50:50) 5g 溶出：シクロヘキサン/ヘキサン(20:80) 100mL</p> <p>定容 窒素バージ 30μL</p> <p>GC/HRMS-SIM-EI 若しくはGC/TOF-MS NICI</p> <p>シリンジスolv添加 PCB#9、#19、#70、#111、#155、#178、#202の <sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各500pg、PBDE#138を200pg、 PBDE#206を500pg、デカン 10μL</p> <p>(注) PCB#3、#8、#11、#28、#31、#52、#77、#81、#101、#105、#114、#118、#123、 126、#138、#153、#156、#157、#167、#169、#170、#180、#189、#206及び#209の <sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各2000pg、 HCB-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>、α-HCH-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>、β-HCH-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>、γ-HCH-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>、δ-HCH-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>、マイレックス-<sup>13</sup>C<sub>12</sub> 及びペンタクロロベンゼン-<sup>13</sup>C<sub>5</sub>、trans-Chlordane-<sup>13</sup>C<sub>10</sub>、を各2000pg 並びにPBDE#3、#15、#28、#47、#99を各1000pg、#126、#153、#154、#183、#197 を各2000pg、#207及び#209の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各5000pg</p> <p>2-クロロナフタレン、1,5-シクロナフタレン、1,2,3,4-テトラクロロナフタレン、 1,3,5,7-テトラクロロナフタレン、1,2,3,5,7-ペンタクロロナフタレン、1,2,3,5,6,7-ヘキサクロロナフタレン、 1,2,3,4,5,6,7-ヘプタクロロナフタレン及びオクタクロロナフタレンの<sup>13</sup>C<sub>10</sub>-体を各1000pg</p>	<p>分析原理：GC/HRMS-SIM-EI 若しくはGC/TOF-MS NICI</p> <p>検出下限値： 【水質】（pg/L）</p> <p>[1-1] 0.3 [1-2] 1 [1-3] 1 [1-4] 0.5 [1-5] 0.3 [1-6] 0.3 [1-7] 0.6 [1-8] 0.3 [1-9] 0.4 [1-10] 0.3 [2] 0.6 [9-1] 2 [9-2] 2 [9-3] 20 [10] 0.3 [14-1] 5 [14-2] 3 [14-3] 1 [14-4] 3 [14-5] 1 [14-6] 2 [14-7] 4 [17] 0.5 [20-1] 5 [20-2] 4 [20-3] 0.6 [20-4] 0.4 [20-5] 0.5 [20-6] 0.4 [20-7] 0.8 [20-8] 0.3</p> <p>分析条件： 機器 [1]、[2]、[10]、[14]、[17]及び び[20] GC：Agilent 6890/7683 MS：AutoSpec Ultima/Premier 分解能：10,000 [9] GC/MS：Agilent 7200 Q-TOF 分解能：13,000</p> <p>カラム [1] HT8-PCB 60m×0.25mm [2]、[10] RH-12ms 30m×0.25mm [9] DB-35ms 30m×0.25mm [14] BPX-DXN 30m×0.25mm 及びBP-1 15m×0.25mm、0.1μm [17] RH-12ms 60m×0.25mm [20] DB-5ms</p>

分析機関報告

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
[1] 総PCB類 [2] HCB [9] トキサフェン類 [10] マイレックス [14] ポリプロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの) [17] ペンタクロロベンゼン [20] 総ポリ塩化ナフタレン [23] 短鎖塩素化パラフィン	<p><b>【底質】</b></p> <p>底質試料 (湿泥 (乾泥換算約22g))</p> <p>超音波抽出 (アセトン 50mL、20分間ろ過後、残差をアセトン約100mLで洗いこみ)</p> <p>ソックスレー抽出 (トルエン 150mL又は400mL 16~18時間)</p> <p>クリーンアップスolv添加 (注)</p> <p>濃縮 (ロータリーエバポレーター 20~30mLまで)</p> <p>洗浄 (5%塩化ナトリウム溶液 100mL 振とう 30秒間 静置 10分間)</p> <p>脱水 (無水硫酸ナトリウム)</p> <p>濃縮・転溶 (ロータリーエバポレーター 1mLまで ヘキサン 50mL)</p> <p>硫酸処理 (硫酸 20~50mL)</p> <p>洗浄 (超純水 50mL2回)</p> <p>脱水 (無水硫酸ナトリウム)</p> <p>多層カラム クリーンアップ (シリカゲル 0.5g、銅粉末 2g、硫酸シリカゲル 2g、無水硫酸ナトリウム 洗浄・溶出: シクロヘキサン/ヘキサン(20:80) 50mL)</p> <p>濃縮・定容 (ヘキサン 10mL)</p> <p>ゲルパーミエーション クロマトグラフィー・残液分割 (アセトン/クロヘキサン(20:80) 15~27分 プレカラム Shodex EV-G AC、カラム Shodex EV-2000 AC 注入液5mL、注入残液5mL)</p> <p>濃縮・定容 (窒素ポンプ 30μL)</p> <p>GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>GC/TOF-MS NICI (トキサフェン)</p> <p>シリンジソlv添加 PCB#9、#19、#70、#111、#155、#178、#202の <sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各750pg、デカン 15μL</p> <p>濃縮・定容 (分取量5/10) 総PCB類、HCB、トキサフェン類、マイレックス、ペンタクロロベンゼン、総ポリ塩化ナフタレン</p> <p>活性炭カラム (洗浄:ヘキサン25mL 溶出:25%シクロヘキサン/アセトン40mL)</p> <p>GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>シリンジソlv添加 PBDE#138を400pg、PBDE#206を1000pg</p> <p>濃縮・定容 (分取量2/10) ポリプロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)</p> <p>フロリジルカラム (洗浄:ヘキサン15mL 溶出:アセトン25mL)</p> <p>GC/TOF-MS EI 及びNICI</p> <p>シリンジソlv添加 PCB#111の <sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を500pg、デカン 15μL</p>	<p>分析原理: GC/HRMS-SIM-EI 若しくはGC/TOF-MS NICI、若しくはGC/TOF-MS EI及びNICI</p> <p>検出下限値:  <b>【底質】</b> (pg/g-dry)            [1-1] 2            [1-2] 2            [1-3] 4            [1-4] 3            [1-5] 16            [1-6] 21            [1-7] 6            [1-8] 0.5            [1-9] 0.3            [1-10] 0.3            [2] 0.5            [9-1] 3            [9-2] 3            [9-3] 20            [10] 0.3            [14-1] 6            [14-2] 2            [14-3] 1            [14-4] 5            [14-5] 0.5            [14-6] 2            [14-7] 14            [17] 0.3            [20-1] 1            [20-2] 0.4            [20-3] 0.3            [20-4] 0.3            [20-5] 0.4            [20-6] 0.3            [20-7] 0.2            [20-8] 0.3            [23-1] 2,000            [23-2] 5,000            [23-3] 2,000            [23-4] 3,000</p> <p>分析条件:            機器            [1]、[2]、[10]、[14]、[17]、[20]            GC: Agilent 6890/7683            MS: AutoSpec Ultima/Premier            分解能: 10,000            [9]、[23]            GC/MS: Agilent 7200 Q-TOF            分解能: 13,000</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備 考
	<p>(注) PCB#3、#8、#11、#28、#31、#52、#77、#81、#101、#105、#114、#118、#123、#126、#138、#153、#156、#157、#167、#169、#170、#180、#189、#206及び#209の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各600pg、  HCB-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>、trans-Chlordane-<sup>13</sup>C<sub>10</sub>、trans-Nonachlor-<sup>13</sup>C<sub>10</sub>、  cis-Nonachlor-<sup>13</sup>C<sub>10</sub>、Oxychlordane-<sup>13</sup>C<sub>10</sub>、Heptachlor-<sup>13</sup>C<sub>10</sub>、α-HCH-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>、  β-HCH-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>、γ-HCH-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>、δ-HCH-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>、マイレックス-<sup>13</sup>C<sub>12</sub>、及び  ペンタクロロヘンセン-<sup>13</sup>C<sub>5</sub>を各600pg  PBDE#3、#15、#28、#47、#99を各1000pg、#126、#153、#154、#183、#197  を各2000pg、#207及び#209の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各5000pg  並びに2-クロロナフタレン、1,5-ジクロロナフタレン、1,2,3,4-テトラクロロナフタレン、  1,3,5,7-テトラクロロナフタレン、1,2,3,5,7-ペンタクロロナフタレン、1,2,3,5,6,7-ヘキサクロロナフタレン、  1,2,3,4,5,6,7-ヘプタクロロナフタレン及びオクタクロロナフタレンの<sup>13</sup>C<sub>10</sub>-体を各600pg</p>	<p>カラム  [1]  HT8-PCB  60m×0.25mm  [2]及び[10]  RH-12ms  30m×0.25mm  [9]  DB-35ms  30m×0.25mm  [14]  BPX-DXN  30m×0.25mm  及びENV-5ms  15m×0.25mm、0.1µm  [17]  RH-12ms  60m×0.25mm  [20]  DB-5ms  60m×0.32mm  [23]  DB-5ms  15m×0.25mm、0.1µm</p>
	分析機関報告	

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考																																																				
<p>[1] 総PCB</p> <p>[14] ポリブromジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)</p> <p>[20] 総ポリ塩化ナフタレン</p> <p>[22-2] ペンタクロロアニソール</p>	<p><b>【生物】</b></p> <p>分析機関報告</p>	<p>分析原理：GC/MS-SIM-EI</p> <p>検出下限値： 【生物】 (pg/g-wet)</p> <table border="1"> <tr><td>[1-1]</td><td>1</td></tr> <tr><td>[1-2]</td><td>5</td></tr> <tr><td>[1-3]</td><td>5</td></tr> <tr><td>[1-4]</td><td>4</td></tr> <tr><td>[1-5]</td><td>1</td></tr> <tr><td>[1-6]</td><td>1</td></tr> <tr><td>[1-7]</td><td>1</td></tr> <tr><td>[1-8]</td><td>1</td></tr> <tr><td>[1-9]</td><td>1</td></tr> <tr><td>[1-10]</td><td>0.7</td></tr> <tr><td>[14-1]</td><td>5</td></tr> <tr><td>[14-2]</td><td>8</td></tr> <tr><td>[14-3]</td><td>6</td></tr> <tr><td>[14-4]</td><td>5</td></tr> <tr><td>[14-5]</td><td>8</td></tr> <tr><td>[14-6]</td><td>5</td></tr> <tr><td>[14-7]</td><td>6</td></tr> <tr><td>[20-1]</td><td>3</td></tr> <tr><td>[20-2]</td><td>2</td></tr> <tr><td>[20-3]</td><td>2</td></tr> <tr><td>[20-4]</td><td>1</td></tr> <tr><td>[20-5]</td><td>1</td></tr> <tr><td>[20-6]</td><td>1</td></tr> <tr><td>[20-7]</td><td>1</td></tr> <tr><td>[20-8]</td><td>1</td></tr> <tr><td>[22-2]</td><td>2</td></tr> </table> <p>分析条件： 機器 [1] GC：Thermo Fisher Scientific TRACE 1310 MS：Thermo Fisher Scientific DFS 分解能：10,000 [14]及び[20] GC：HP6890GC MS：AutoSpec NTS/Ultima 分解能：10,000 [22-2] GC/MS：Thermo Fisher Scientific DFS GC-HRMS 分解能：10,000 カラム [1] HT8-PCB 60m×0.25mm [14] BP-1 15m×0.25mm、0.1μm [20] DB-5ms 60m×0.32mm、0.25μm [22-2] DB-5ms 30m×0.25mm、0.25μm</p>	[1-1]	1	[1-2]	5	[1-3]	5	[1-4]	4	[1-5]	1	[1-6]	1	[1-7]	1	[1-8]	1	[1-9]	1	[1-10]	0.7	[14-1]	5	[14-2]	8	[14-3]	6	[14-4]	5	[14-5]	8	[14-6]	5	[14-7]	6	[20-1]	3	[20-2]	2	[20-3]	2	[20-4]	1	[20-5]	1	[20-6]	1	[20-7]	1	[20-8]	1	[22-2]	2
[1-1]	1																																																					
[1-2]	5																																																					
[1-3]	5																																																					
[1-4]	4																																																					
[1-5]	1																																																					
[1-6]	1																																																					
[1-7]	1																																																					
[1-8]	1																																																					
[1-9]	1																																																					
[1-10]	0.7																																																					
[14-1]	5																																																					
[14-2]	8																																																					
[14-3]	6																																																					
[14-4]	5																																																					
[14-5]	8																																																					
[14-6]	5																																																					
[14-7]	6																																																					
[20-1]	3																																																					
[20-2]	2																																																					
[20-3]	2																																																					
[20-4]	1																																																					
[20-5]	1																																																					
[20-6]	1																																																					
[20-7]	1																																																					
[20-8]	1																																																					
[22-2]	2																																																					
	<p>ソックスレー添加 PCB#9、#19、#70、#111、#162、#178及び#205の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各0.1ng、 PBDE#79及び#138の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を1ng 並びに#206の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を2.5ng</p> <p>(注) PCB#3、#8、#11、#28、#31、#52、#77、#81、#101、#105、#114、 #118、#123、#126、#138、#153、#156、#157、#167、#169、#180、 #189、#194、#206及び#209の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各1ng、 PBDE#47、#99、#153、#154及び#183の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各1ng、 #197及び#207の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各2.5ng、#209の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を5ng 2-モノクロロナフタレン-d<sub>7</sub>を2ng、1,5-ジクロロナフタレン、1,2,3,4-テトラクロロナフタレン、 1,3,5,7-テトラクロロナフタレン、1,2,3,5,7-ペンタクロロナフタレン、1,2,3,5,6,7-ヘキサクロロナフタレン、 1,2,3,4,5,6,7-ヘプタクロロナフタレン及びオクタクロロナフタレンの<sup>13</sup>C<sub>10</sub>-体を各1ng 並びにペンタクロロアニソールの<sup>13</sup>C<sub>6</sub>-体を4ng</p>																																																					

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
<p>[1] 総PCB</p> <p>[2] HCB</p> <p>[6] DDT類</p> <p>[6-1] <i>p,p'</i>-DDT</p> <p>[6-2] <i>p,p'</i>-DDE</p> <p>[6-4] <i>o,p'</i>-DDT</p> <p>[6-5] <i>o,p'</i>-DDE</p> <p>[10] マイレックス</p> <p>[14] ポリプロモジフェニルエーテル類（臭素数が4から10までのもの）</p> <p>[17] ペンタクロロベンゼン</p>	<p style="text-align: center;"><b>【大気】</b></p> <p style="text-align: center;">大気</p> <p style="text-align: center;">← サンプル添加 (注)</p> <p>捕集量：1,000m<sup>3</sup>又は3,000m<sup>3</sup></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">石英繊維 フィルター(QFF)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">ポリウレタン フォーム(PUF)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">活性炭素繊維 フェルト(ACF)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">ソックスレー 抽出</p> <p style="font-size: small;">アセトン、2時間 トルエン、16時間</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">ソックスレー 抽出</p> <p style="font-size: small;">アセトン、16時間</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">ソックスレー 抽出</p> <p style="font-size: small;">アセトン、2時間 トルエン、16時間</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">濃縮</p> <p style="font-size: x-small;">ロータリーエバポレータ 20mLまで</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">濃縮</p> <p style="font-size: x-small;">ロータリーエバポレータ 20mLまで</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">濃縮</p> <p style="font-size: x-small;">ロータリーエバポレータ 20mLまで</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">一部分取</p> <p style="font-size: x-small;">捕集量1,000m<sup>3</sup>：各6mL 捕集量3,000m<sup>3</sup>：各2mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">転溶</p> <p style="font-size: x-small;">ヘキサン 100mL ロータリーエバポレータ 0.2mLまで</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">定容</p> <p style="font-size: x-small;">ヘキサン 6mL</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">一部分取</p> <p style="font-size: x-small;">4mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;"> <p style="text-align: center;">カラムクリーンアップ</p> <p style="font-size: x-small;">Supelclean Sulfoxide 6g 妨害物質除去：ヘキサン 8mL 溶出：アセトン 20mL</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;"> <p style="text-align: center;">多層シリカゲルカラム クリーンアップ</p> <p style="font-size: x-small;">シリカゲル 0.9g、硫酸/シリカゲル(22:78) 6g、 硫酸/シリカゲル(44:56) 4.5g、シリカゲル 0.9g、 水酸化カリウム/シリカゲル(2:98) 3g、シリカゲル 0.9g 溶出：（第一画分）ヘキサン 120mL （第二画分）ジクロロメタン/ヘキサン(50:50) 100mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">（第一画分） 濃縮</p> <p style="font-size: x-small;">ロータリーエバポレータ 100μLまで</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: 20%; margin-left: auto;"> <p style="text-align: center;">GC/HRMS-SIM-EI</p> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">↑ サンプル添加 PCB#9、#52、#70、#101、#138及び#194の <sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体各1ng 並びにPBDE#138の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体各2ng</p> <p>(注) PCB#1、#3、#4、#15、#19、#37、#54、#77、#81、#104、#105、#114、#118、#123、 #126、#155、#156、#157、#167、#169、#188、#189、#202、#205、#206、#208及び #209の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体、HCB-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>-体、<i>p,p'</i>-DDT、<i>p,p'</i>-DDE、<i>o,p'</i>-DDT及び <i>o,p'</i>-DDEの<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体、マイレックス-<sup>13</sup>C<sub>12</sub>を各5ng、 PBDE#47及び#99の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各10ng、#153、#154及び#183の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を 各20ng、#204、#207及び#209の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各50ng、 並びにペンタクロロベンゼン-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>を5ng</p> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理：GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>検出下限値： 【大気】 (pg/m<sup>3</sup>)</p> <p>[1-1] 0.03</p> <p>[1-2] 0.3</p> <p>[1-3] 0.1</p> <p>[1-4] 0.1</p> <p>[1-5] 0.1</p> <p>[1-6] 0.05</p> <p>[1-7] 0.06</p> <p>[1-8] 0.06</p> <p>[1-9] 0.03</p> <p>[1-10] 0.02</p> <p>[2] 0.2</p> <p>[6-1] 0.01</p> <p>[6-2] 0.01</p> <p>[6-4] 0.01</p> <p>[6-5] 0.02</p> <p>[10] 0.01</p> <p>[14-1] 0.02</p> <p>[14-2] 0.06</p> <p>[14-3] 0.04</p> <p>[14-4] 0.01</p> <p>[14-5] 0.05</p> <p>[14-6] 0.06</p> <p>[14-7] 0.04</p> <p>[17] 0.08</p> <p>分析条件： 機器 GC：HP7890A MS：AutoSpec Premier 分解能：10,000 カラム [1]、[2]、[6]、[10]及び[17] RH-12ms 60m×0.25mm [14] BP1 15m×0.25mm、0.10μm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
[2] HCB [6] DDT類 [9] トキサフェン類 [10] マイレックス [17] ペンタクロロベンゼン [24] ジコホル	<p><b>【生物】</b></p> <p>(注) HCB-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>、<i>o,p'</i>-DDT-<sup>13</sup>C<sub>12</sub>、<i>o,p'</i>-DDD-<sup>13</sup>C<sub>12</sub>、<i>o,p'</i>-DDE-<sup>13</sup>C<sub>12</sub>、HpCB#178-<sup>13</sup>C<sub>12</sub>、マイレックス-<sup>13</sup>C<sub>10</sub>、ペンタクロロベンゼン-<sup>13</sup>C<sub>6</sub>及び<sup>6</sup>D<sub>6</sub>-sp.を各2ng</p> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理：GC/HRMS-SIM-EI 又はGC-TOF MS</p> <p>検出下限値： 【生物】 (pg/g-wet)</p> <p>[2] 1.1 [6-1] 1 [6-2] 1 [6-3] 0.6 [6-4] 0.9 [6-5] 1 [6-6] 0.9 [9-1] 8 [9-2] 6 [9-3] 40 [10] 0.5 [17] 5 [24] 10</p> <p>分析条件： 機器 [2]、[6]、[10]、[17]、[24] GC：HP6890GC MS：AutoSpec Ultima 分解能：10,000 [9] Agilent 7200 Q-TOF GC-MS 分解能：13,000 カラム [2]、[6]、[10]、[17] DB-17ht 30m×0.32mm、0.15μm、 又は DB-5ms 30m×0.25mm、0.25μm [9]、[24] DB-5ms 15m×0.25mm、0.10μm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備 考
[3] アルドリン [4] ディルドリン [5] エンドリン [18] エンドスルファン類	<p><b>【底質】</b></p> <p>底質試料 湿泥 (乾泥換算約8g)</p> <p>振とう・超音波抽出 アセトン 30~50mL 3回</p> <p>クリーンアップスパイク添加 (注)</p> <p>濃縮 ヘキサン100mL ロータリーエバポレータ 20~30mLまで</p> <p>洗浄 5%塩化ナトリウム溶液 100mL 振とう 30秒間 静置 10分間</p> <p>脱水 無水硫酸ナトリウム</p> <p>分割 ヘキサン100mL (50:50)</p> <p>一部分取 50mL</p> <p>濃縮・定容 約1mLまで</p> <p>カラムクリーンアップ フロジール 5g, 銅粉末 溶出: シクロメタン/ヘキサン(20:80) 100mL</p> <p>定容 ジクロメタン/ヘキサン (20:80) 10mLまで</p> <p>ゲルパーミエーション クロマトグラフィー アセトン/シクロヘキサン(20:80) 15~27分 プレカラム Shodex EV-G AC, カラム Shodex EV-2000 AC 注入液9mL</p> <p>Envi Carb ヘキサン9mL</p> <p>濃縮 20μL</p> <p>GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>シリジンスパイク添加 PCB#9、#19、#70、#111、#155、#178、 #202の13C12-体を各400pg</p> <p>(注) Aldrin-<sup>13</sup>C<sub>12</sub>、Dieldrin-<sup>13</sup>C<sub>12</sub>、Endrin-<sup>13</sup>C<sub>12</sub>、α-Endosulfan-<sup>13</sup>C<sub>9</sub>、 β-Endosulfan-<sup>13</sup>C<sub>9</sub>、を各400pg</p> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理: GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>検出下限値:  <b>【底質】</b> (pg/g-dry)            [3] 0.6            [4] 0.6            [5] 0.9            [18-1] 2            [18-2] 2</p> <p>分析条件:            機器            [3]、[4]、[5]及び[18]            GC: Agilent 6890/7683            MS: AutoSpec            Ultima/Premier            分解能: 10,000            カラム            [3]、[4]、[5]            RH-12ms            30m×0.25mm、0.25μm            [18]            RH-12ms            60m×0.25mm、0.25μm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
[6] DDT類 [6-3] <i>p,p'</i> -DDD [6-6] <i>o,p'</i> -DDD	<p style="text-align: center;"><b>【大気】</b></p> <p style="text-align: center;">大気</p> <p style="text-align: center;">← サンプルバックスワイッチ添加 (注)</p> <p>捕集量：1,000m<sup>3</sup>又は3,000m<sup>3</sup></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             石英繊維 フィルター(QFF)           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             ポリウレタン フォーム(PUF)           </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             活性炭素繊維 フェルト(ACF)           </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             ソックスレー 抽出 <small>アセトン、2時間 トルエン、16時間</small> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             ソックスレー 抽出 <small>アセトン、16時間</small> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             ソックスレー 抽出 <small>アセトン、2時間 トルエン、16時間</small> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             濃縮 <small>ロータリーエバポレータ 20mLまで</small> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             濃縮 <small>ロータリーエバポレータ 20mLまで</small> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             濃縮 <small>ロータリーエバポレータ 20mLまで</small> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             一部分取 <small>捕集量1,000m<sup>3</sup>：各6mL 捕集量3,000m<sup>3</sup>：各2mL</small> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             転溶 <small>ヘキサン 100mL ロータリーエバポレータ 0.2mLまで</small> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             定容 <small>ヘキサン 6mL</small> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             一部分取 <small>4mL</small> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;">             カラムクリーンアップ <small>Supelclean Sulfoxide 6g 妨害物質除去：ヘキサン 8mL 溶出：アセトン 20mL</small> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;">             多層シリカゲルカラム クリーンアップ <small>シリカゲル 0.9g、硫酸シリカゲル(22:78) 6g、 硫酸シリカゲル(44:56) 4.5g、シリカゲル 0.9g、 水酸化カリウムシリカゲル(2:98) 3g、シリカゲル 0.9g 溶出：(第一画分) ヘキサン 120mL (第二画分) シクロヘキサン/ヘキサン(50:50) 100mL</small> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             (第二画分) 濃縮 <small>ロータリーエバポレータ 100μLまで</small> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">             GC/HRMS-SIM-EI           </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">             ↑  <small>シリコンバックスワイッチ添加 PCB#70の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体0.75ng</small> </div> </div> <p>(注) <i>p,p'</i>-DDD及び<i>o,p'</i>-DDDの<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各50ng</p>	<p>分析原理：GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>検出下限値：  <b>【大気】</b> (pg/m<sup>3</sup>)            [6-3] 0.03            [6-6] 0.03</p> <p>分析条件：            機器            GC：HP7890A            MS：AutoSpec Premier            分解能：10,000            カラム            RH-12ms            60m×0.25mm</p>

分析機関報告

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
[9] トキサフェン類	<p style="text-align: center;"><b>【大気】</b></p> <p style="text-align: center;">大気</p> <p style="text-align: center;">← サンプルスハイ添加 (注)</p> <p>捕集量：1,000m<sup>3</sup>又は3,000m<sup>3</sup></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">石英繊維 フィルター(QFF)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">ポリウレタン フォーム(PUF)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">活性炭素繊維 フェルト(ACF)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">ソックスレー 抽出 <small>アセトン、2時間 トルエン、16時間</small></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">ソックスレー 抽出 <small>アセトン、16時間</small></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">ソックスレー 抽出 <small>アセトン、2時間 トルエン、16時間</small></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">濃縮 <small>ロータリーエバポレータ 20mLまで</small></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">濃縮 <small>ロータリーエバポレータ 20mLまで</small></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">濃縮 <small>ロータリーエバポレータ 20mLまで</small></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">一部分取 <small>捕集量1,000m<sup>3</sup>：各6mL 捕集量3,000m<sup>3</sup>：各2mL</small></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">転溶・濃縮 <small>ヘキサン 100mL ロータリーエバポレータ 0.2mLまで</small></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">定容 <small>ヘキサン 6mL</small></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">一部分取 <small>3mL</small></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;">カラムクリーンアップ <small>Supelclean Sulfoxide 3g 妨害物質除去：ヘキサン 4mL 溶出：アセトン 10mL</small></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;">多層シリカゲルカラム クリーンアップ <small>シリカゲル 0.9g、硫酸シリカゲル(22:78) 6g、 硫酸シリカゲル(44:56) 4.5g、シリカゲル 0.9g、 水酸化カリウムシリカゲル(2:98) 3g、シリカゲル 0.9g 溶出：シクロヘキサン/ヘキサン(50:50) 100mL</small></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">濃縮 <small>ロータリーエバポレータ 75μLまで</small></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">APGC-Qtof</div> <div style="width: 60%; text-align: center;">↑ サンプルスハイ添加 PCB#101の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体0.75ng</div> </div> <p>(注) trans-クロルデンの<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を50ng</p>	<p>分析原理：APGC-Qtof</p> <p>検出下限値： 【大気】 (pg/m<sup>3</sup>) [9-1] 0.2 [9-2] 0.2 [9-3] 0.2</p> <p>分析条件： 機器 GC：Agilent7890A MS：XEVO G2-XS Qtof カラム DB5ms-DG 30m×0.25mm、0.25μm</p> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
<p>[15] ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)</p> <p>[16] ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)</p> <p>[25] ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS)</p>	<p><b>【水質】</b></p> <p>水質試料 1L</p> <p>固層抽出 Presep-C Agri 220mg 10mL/分 クリーンアップ spike 添加 (注)</p> <p>脱水</p> <p>溶出 メタノール 2mL</p> <p>濃縮 窒素ガス 1mLまで</p> <p>LC/MS/MS</p> <p>(注) PFOS-<sup>13</sup>C<sub>4</sub>、PFOA-<sup>13</sup>C<sub>4</sub>、PFHxS-<sup>18</sup>O<sub>2</sub>を各5ng</p> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理：LC/MS/MS-SRM-ESI-ネガティブ</p> <p>検出下限値： 【水質】 (pg/L) [15] 30 [16] 30 [25] 50</p> <p>分析条件： 機器 LC：ACQUITY UPLC I-Class (Waters社) MS：API-6500 (AB Sciex社) カラム BEH C18 50m×2.1mm、1.7μm</p>
<p>[15] ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)</p> <p>[16] ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)</p> <p>[25] ペルフルオロヘキサンスルホン酸 (PFHxS)</p>	<p><b>【底質】</b></p> <p>底質試料 乾泥10g</p> <p>高速溶媒抽出 20%メタノール水溶液 セル33mL×2回 クリーンアップ spike 添加 (注)</p> <p>固相抽出 Presep-C Agri 220mg 10mL/分 純粋100mL</p> <p>脱水</p> <p>溶出 メタノール 2mL</p> <p>濃縮 窒素ガス 1mLまで</p> <p>LC/MS/MS</p> <p>(注) PFOS-<sup>13</sup>C<sub>4</sub>、PFOA-<sup>13</sup>C<sub>4</sub>、PFHxS-<sup>18</sup>O<sub>2</sub>を各5ng</p> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理：LC/MS/MS-SRM-ESI-ネガティブ</p> <p>検出下限値： 【底質】 (pg/g-dry) [15] 3 [16] 4 [25] 5</p> <p>分析条件： 機器 LC：ACQUITY UPLC I-Class (Waters社) MS：API-6500 (AB Sciex社) カラム BEH C18 50m×2.1mm、1.7μm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
[18] エンドスルファン類	<p><b>【水質】</b></p> <pre> graph TD     A[水質試料 24L以上] --&gt; B[捕集 ガラス繊維ろ紙 GC50 抽出ディスク C18 FF 100mL/分以下 ↑ クリーンアップスパイク添加 (注)]     B --&gt; C[抽出・溶出 メタノール 10mL×2回 アセトン 10mL×2回 トルエン 10mL×2回 ろ紙はさらに超音波抽出 アセトン 50mL、20分間 トルエン 50mL、20分間 を2回繰り返す。]     C --&gt; D[濃縮・転溶 ロータリーエバポレータ 2~5mLまで ヘキサン 50mL]     D --&gt; E[洗浄 5%塩化ナトリウム水溶液 振とう 20分間]     E --&gt; F[脱水 無水硫酸ナトリウム]     F --&gt; G[定容 ヘキサン 9mL]     G --&gt; H[一部分取 3mL]     H --&gt; I[濃縮 ロータリーエバポレータ]     I --&gt; J[Envi Carb ヘキサン 10mL]     J --&gt; K[カラムクリーンアップ フロジール 5g 硫酸/シリカゲル(50:50) 5g 洗浄：ヘキサン 10mL 溶出：ジクロロメタン/ヘキサン(30:70) 30mL]     K --&gt; L[定容 窒素ペースト 20μL]     L --&gt; M[GC/HRMS-SIM-EI]     M --&gt; L           </pre> <p>(注) α-エンドスルファン-<sup>13</sup>C<sub>9</sub>及びβ-エンドスルファン-<sup>13</sup>C<sub>9</sub>を各2000pg</p> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理：GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>検出下限値： 【水質】 (pg/L) [18-1] 40 [18-2] 10</p> <p>分析条件： 機器 GC：Agilent 6890/7683 MS：AutoSpec Ultima/Premier 分解能：10,000 カラム RH-12ms 60m×0.25mm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備 考
<p>[19] 1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類</p>	<p><b>【生物】</b></p> <p>分析機関報告</p>	<p>分析原理：LC/MS/MS-SRM-ESI-ネガティブ</p> <p>検出下限値：  <b>【生物】</b> (pg/g-wet)      [19-1] 9      [19-2] 8      [19-3] 8</p> <p>分析条件：      機器      LC：Shimadzu LC-20A Prominence      MS：ABSciex API4000      カラム      Ascentis Express C18      100mm×2.1mm、2.7μm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
<p>[20] 総ポリ塩化ナフタレン</p>	<p style="text-align: center;"><b>【大気】</b></p> <p style="text-align: center;">大気</p> <p style="text-align: center;">← サンプルスプイク添加 (注)</p> <p>捕集量：1,000m<sup>3</sup>又は3,000m<sup>3</sup></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">石英繊維 フィルター(QFF)</p> <p style="text-align: center;">ソックスレー 抽出</p> <p style="text-align: center;">アセトン、2時間 トルエン、16時間</p> <p style="text-align: center;">濃縮</p> <p style="text-align: center;">ロータリーエバポレータ 各20mLまで</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">ポリウレタン フォーム(PUF)</p> <p style="text-align: center;">ソックスレー 抽出</p> <p style="text-align: center;">アセトン、16時間</p> <p style="text-align: center;">濃縮</p> <p style="text-align: center;">ロータリーエバポレータ 20mLまで</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">活性炭素繊維 フェルト(ACF)</p> <p style="text-align: center;">ソックスレー 抽出</p> <p style="text-align: center;">アセトン、2時間 トルエン、16時間</p> <p style="text-align: center;">濃縮</p> <p style="text-align: center;">ロータリーエバポレータ 各20mLまで</p> </div> </div> <hr/> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">一部分取</p> <p>捕集量1,000m<sup>3</sup>：各6mL 捕集量3,000m<sup>3</sup>：各2mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">転溶・濃縮</p> <p style="text-align: center;">ヘキサン 100mL ロータリーエバポレータ 0.2mLまで</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">定容</p> <p style="text-align: center;">ヘキサン 6mL</p> </div> </div> <hr/> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">一部分取</p> <p style="text-align: center;">2mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">カラムクリーン アップ</p> <p style="text-align: center;">Supelclean Sulfoxide 3g 前捨て：ヘキサン 4mL 溶出：ヘキサン 14mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">濃縮</p> </div> </div> <hr/> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">カラムクリーン アップ</p> <p style="text-align: center;">硫酸銀シカゲル 3g 溶出：ヘキサン 120mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">カラムクリーン アップ</p> <p style="text-align: center;">前捨て：ヘキサン 60mL 溶出：ジクロロメタン/ヘキサン (20:80) 60mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">濃縮</p> <p style="text-align: center;">ロータリーエバポレータ 50μLまで</p> </div> </div> <hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%; margin-left: auto;"> <p style="text-align: center;">GC/HRMS-SIM-EI</p> </div> <p style="text-align: center;">↑ シリコンスプイク添加 PCB#9、#52、#101及び#194の <sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体各0.75ng</p> <p>(注) 2-メノクロロナフタレン-d<sub>7</sub>、1,5-ジクロロナフタレン、1,2,3,4-テトラクロロナフタレン、 1,2,3,5,7-ペンタクロロナフタレン、1,2,3,5,6,7-ヘキサクロロナフタレン、1,2,3,4,5,6,7-ヘプタクロロナフタレン 及びオクタクロロナフタレンの<sup>13</sup>C<sub>10</sub>-体を各50ng</p> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理：GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>検出下限値： 【大気】 (pg/m<sup>3</sup>)</p> <p>[20-1] 0.04 [20-2] 0.04 [20-3] 0.03 [20-4] 0.03 [20-5] 0.01 [20-6] 0.01 [20-7] 0.009 [20-8] 0.02</p> <p>分析条件： 機器 GC：Agilent 7890A MS：AutoSpec Premier 分解能：10,000 カラム DB-5ms 60m×0.32mm、0.25μm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備 考
[21] ヘキサクロロ ブタ-1,3-ジエン	<p><b>【大気】</b></p> <p>大気</p> <p>捕集 Tenax TA 0.1L/分×24時間 内標準物質添加 ペンタクロロベンゼン-<sup>13</sup>C<sub>6</sub> 100pg</p> <p>加熱脱着</p> <p>GC/MS-SIM-EI</p> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理：GC/MS-SIM-EI</p> <p>検出下限値： 【大気】 (pg/m<sup>3</sup>) [21] 10</p> <p>分析条件： 機器 GC：HP 6890 MS：HP 5973 カラム DB-5ms 30m×0.25mm、0.25μm</p>
[22-1] ペンタクロロ フェノール [22-2] ペンタクロロ アニソール	<p><b>【水質】</b></p> <p>水質試料 0.5L</p> <p>液々抽出 ジクロロメタン100mL×2回</p> <p>クリーンアップ Spike 添加 (注)</p> <p>濃縮 ロータリーエバポレーター 1mLまで</p> <p>カラムクリーンアップ 5%含水シリカゲル5g ジクロロメタン50mL</p> <p>濃縮・転溶 ロータリーエバポレーター ヘキサン1mLまで</p> <p>誘導体化 BSTFA 10μL 室温1時間</p> <p>定容 20μL</p> <p>GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>Silicon Spike 添加 PCB#70の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を500pg</p> <p>(注) ペンタクロロフェノール及びペンタクロロアニソールの<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各500pg</p> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理：GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>検出下限値： 【水質】 (pg/L) [22-1] 9 [22-2] 6</p> <p>分析条件： 機器 GC：Agilent 6890/7683 MS：AutoSpec Ultima/Premier 分解能：10,000 カラム DB-5ms [22-1]及び[22-2] 30m×0.25mm、0.25μm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
<p>[22-1] ペンタクロロフェノール [22-2] ペンタクロロアニソール</p>	<p><b>【底質】</b></p> <p>底質試料 湿泥 (乾泥換算約8g)</p> <p>振とう・超音波抽出 アセトン 30~50mL 3回</p> <p>クリーンアップスパイク添加 (注)</p> <p>濃縮 ヘキサン100mL ロータリーエバポレータ 20~30mLまで</p> <p>洗浄 5%塩化ナトリウム溶液 100mL 振とう 30秒間 静置 10分間</p> <p>脱水 無水硫酸ナトリウム</p> <p>分割 ヘキサン100mL (50:50)</p> <p>一部分取 50mL</p> <p>濃縮・定容 約1mLまで</p> <p>カラムクリーンアップ 5%含水シリカゲル10g (第一画分) ヘキサン30mL (第二画分) ジクロロメタン50mL</p> <p>エチル化 第二画分</p> <p>多層シリカゲルカラム クリーンアップ 硫酸シリカゲル 3g、シリカゲル 0.5g、 硝酸銀シリカゲル 4g、無水硫酸ナトリウム 洗浄:ヘキサン100mL、溶出:ヘキサン100mL</p> <p>濃縮・定容 20μL</p> <p>GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>シリジンスパイク添加 PCB#70の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を1000pg</p> <p>(注) ペンタクロロフェノール及びペンタクロロアニソールの<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を各1000pg</p> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理: GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>検出下限値: 【底質】 (pg/g-dry) [22-1] 6 [22-2] 9</p> <p>分析条件: 機器 GC: Agilent 6890/7683 MS: AutoSpec Ultima/Premier 分解能: 10,000 カラム [22] DB-5ms 30m×0.25mm、0.25μm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
[22-1] ペンタクロロフェノール	<p><b>【生物】</b></p> <pre> graph TD     A[生物試料 湿重量20g] --&gt; B[脱水 ホモジナイズ 無水硫酸ナトリウム]     B --&gt; C[ソックスレー抽出 ジクロロメタン 300mL 6時間  Cleanup Spike Addition ペンタクロロフェノール-13C6 4ng]     C --&gt; D[脱水 無水硫酸ナトリウム]     D --&gt; E[濃縮・転溶 ロータリーエバポレータ ヘキサン 20mL]     E --&gt; F[分取 2mL]     F --&gt; G[カラムクリーンアップ シリカゲル 0.5g, 洗浄: ヘキサン 4mL, 前捨: ヘキサン 2mL 溶出: アセトン 12mL]     G --&gt; H[誘導体化 1M水酸化カリウム/エタノール溶液 0.5mL ジエチル硫酸 0.2mL 室温で60分間静置]     H --&gt; I[アルカリ分解 1M水酸化カリウム/エタノール溶液 4.3mL 70°C, 60分間]     I --&gt; J[溶媒抽出 ヘキサン: 1回目 3mL, 2~3回目 1mL 振とう後、十分に静置し、ヘキサン層を分取]     J --&gt; K[脱水 無水硫酸ナトリウム]     K --&gt; L[多層シリカゲルカラム クリーンアップ フロリジール 5g, シリカゲル 0.5g, 硫酸/シリカゲル(22:78) 2g, 硫酸/シリカゲル(44:56) 3g, シリカゲル 0.5g 溶出: ジクロロメタン/ヘキサン(20:80) 50mL]     L --&gt; M[濃縮 ロータリーエバポレータ 窒素バージ 50μLまで]     M --&gt; N[濃縮 窒素バージ 50μLまで]     N --&gt; O[GC/HRMS-SIM-EI]     P[Recovery Spike Addition PCB#70の13C12-体を100pg] --&gt; N           </pre> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理: GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>検出下限値: 【生物】 (pg/g-wet) [22-1] 10</p> <p>分析条件: 機器 GC/MS: Thermo Fisher Scientific DFS GC-HRMS 分解能: 10,000 カラム DB-5ms 30m×0.25mm, 0.25μm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備 考
<p>[22]ペンタクロロフェノール類並びにその塩及びエステル類</p> <p>[22-1] ペンタクロロフェノール</p> <p>[22-2] ペンタクロロアニソール</p>	<p style="text-align: center;"><b>【大気】</b></p> <p style="text-align: center;">大気</p> <p style="text-align: center;">捕集量：1,000m<sup>3</sup>又は3,000m<sup>3</sup></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">石英繊維 フィルター(QFF)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">ポリウレタン フォーム(PUF)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">活性炭素繊維 フェルト(ACF)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">ソックスレー 抽出</p> <p style="font-size: small;">アセトン、2時間 トルエン、16時間</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">ソックスレー 抽出</p> <p style="font-size: small;">アセトン、16時間</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">ソックスレー 抽出</p> <p style="font-size: small;">アセトン、2時間 トルエン、16時間</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">濃縮</p> <p style="font-size: small;">ロータリーエバポレータ 各20mLまで</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">濃縮</p> <p style="font-size: small;">ロータリーエバポレータ 20mLまで</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">濃縮</p> <p style="font-size: small;">ロータリーエバポレータ 各20mLまで</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>一部分取</p> <p style="font-size: small;">捕集量1,000m<sup>3</sup>：各1.5mL 捕集量3,000m<sup>3</sup>：各0.5mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>濃縮</p> <p style="font-size: small;">ロータリーエバポレータ 乾固直前まで</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 10px;"> <p style="font-size: small;">サロゲート物質添加 ペンタクロロフェノール-<sup>13</sup>C<sub>6</sub> 5ng ペンタクロロアニソール-<sup>13</sup>C<sub>6</sub> 5ng</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">溶解</p> <p style="font-size: small;">酢酸エチル 10mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">脱水</p> <p style="font-size: small;">無水硫酸ナトリウム</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">濃縮</p> <p style="font-size: small;">ロータリーエバポレータ 乾固直前まで</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">溶解</p> <p style="font-size: small;">n-ナン 0.5mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;"> <p style="text-align: center;">誘導體化</p> <p style="font-size: small;">N,O-ビス(トリメチルシリル)トリフルオロアセトアミド 50μL 室温、1時間静置</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">定容</p> <p style="font-size: small;">n-ナン 1mL</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">GC/HRMS-SIM-EI</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="font-size: small;">シリシ<sup>ス</sup>イク添加 PCB#52の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体5ng</p> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">分析機関報告</p>	<p>分析原理：GC/HRMS-SIM-EI</p> <p>検出下限値： 【大気】 (pg/m<sup>3</sup>)</p> <p>[22-1] 0.2</p> <p>[22-2] 0.4</p> <p>分析条件： 機器</p> <p>GC：Agilent 7890A</p> <p>MS：AutoSpec Premier</p> <p>分解能：10,000</p> <p>カラム</p> <p>HP-5msl 30m×0.25mm、0.25μm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備考
<p>[23] 短鎖塩素化パラフィン</p>	<p><b>【水質】</b></p> <pre> graph TD     A["水質試料 24L以上"] --&gt; B["捕集 ガラス繊維ろ紙 GC50 抽出ディスク C18 FF 100mL/分以下"]     B --&gt; C["抽出・溶出 メタノール 10mL×2回 アセトン 10mL×2回 トルエン 10mL×2回 ろ紙はさらに超音波抽出 アセトン 50mL、20分間 トルエン 50mL、20分間 を2回繰り返す。"]     C --&gt; D["濃縮・転溶 ロータリーエバポレータ 2~5mLまで ヘキサン 50mL"]     D --&gt; E["洗浄 5%塩化ナトリウム水溶液 振とう 10分間"]     E --&gt; F["脱水 無水硫酸ナトリウム"]     F --&gt; G["定容 ヘキサン 9mL"]     G --&gt; H["一部分取 3mL"]     H --&gt; I["濃縮 ロータリーエバポレータ"]     I --&gt; J["カラムクリーンアップ フロリジル 4g 硫酸/シリカゲル(50:50) 4g 洗浄：ヘキサン 50mL 溶出：ジクロロメタン/ヘキサン(20:80) 40mL"]     J --&gt; K["定容 窒素バーン 20μL"]     K --&gt; L["GC/TOF-MS EI及 びNICI"]     M["シリンジスpike添加 PCB#111の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を500pg"] --&gt; L           </pre> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理：GC/TOF-MS EI及 びNICI</p> <p>検出下限値： 【水質】 (pg/L) [23-1] 400 [23-2] 500 [23-3] 1,000 [23-4] 1,500</p> <p>分析条件： 機器 GC/MS：Agilent 7200 Q-TOF 分解能：13,000 カラム DB-5ms 15m×0.25mm</p>
<p>[23] 短鎖塩素化パラフィン類</p>	<p><b>【生物】</b></p> <pre> graph TD     A["生物試料 湿重量20g"] --&gt; B["脱水 ホモジナイズ 無水硫酸ナトリウム"]     B --&gt; C["ソックスレー 抽出 ジクロロメタン 300mL 6時間"]     C --&gt; D["脱水 無水硫酸ナトリウム"]     D --&gt; E["濃縮・転溶 ロータリーエバポレータ ヘキサン 20mL"]     E --&gt; F["分取 2mL"]     F --&gt; G["多層シリカゲルカラム クリーンアップ フロリジル 5g、シリカゲル 0.5g、 硫酸/シリカゲル(22:78) 2g、 硫酸/シリカゲル(44:56) 3g、 シリカゲル 0.5g 洗浄：ジクロロメタン/ヘキサン(20:80) 80mL ジクロロメタン/ヘキサン(2:98) 60mL 前捨て：ジクロロメタン/ヘキサン(2:98) 80mL 溶出：ジクロロメタン/ヘキサン(20:80) 80mL"]     G --&gt; H["濃縮 ロータリーエバポレータ 窒素バーン 50μLまで"]     I["シリンジスpike添加 PCB#111の<sup>13</sup>C<sub>12</sub>-体を100pg"] --&gt; H     H --&gt; J["濃縮 窒素バーン 50μLまで"]     J --&gt; K["GC-Orbitrap/MS"]           </pre> <p style="text-align: right;">分析機関報告</p>	<p>分析原理：GC-Prbitrap/MS</p> <p>検出下限値： 【生物】 (pg/g-wet) [23-1] 400 [23-2] 700 [23-3] 600 [23-4] 500</p> <p>分析条件： 機器 GC/MS：Thermo Fisher scientific Q Exactive GC 分解能：60,000 カラム DB-5ms 15m×0.25mm、0.1μm</p>

調査対象物質名	分析法フローチャート	備 考
[23] 短鎖塩素化パラフィン類	<p>【大気】</p> <p>大気</p> <p>捕集量：1,000m<sup>3</sup>又は3,000m<sup>3</sup></p> <pre> graph TD     A[大気] --&gt; B1[石英繊維フィルター(QFF)]     A --&gt; B2[ポリウレタンフォーム(PUF)]     A --&gt; B3[活性炭素繊維フェルト(ACF)]          B1 --&gt; C1[ソックスレー抽出]     B2 --&gt; C2[ソックスレー抽出]     B3 --&gt; C3[ソックスレー抽出]          C1 --&gt; D1[濃縮]     C2 --&gt; D2[濃縮]     C3 --&gt; D3[濃縮]          D1 --&gt; E1[一部分取]     D2 --&gt; E1     D3 --&gt; E1          E1 --&gt; F[転溶]     F --&gt; G[定容]          G --&gt; H[濃縮]     H --&gt; I[多層シリカゲルカラムクリーンアップ]          I --&gt; J[濃縮]     J --&gt; K[カラムクリーンアップ]          K --&gt; L[濃縮]     L --&gt; M[定容]     M --&gt; N[LC/MS-SIR-APCI-ネガティブ]          O[内標準物質添加 β-HBCDのd18-体を5ng] --&gt; L   </pre> <p>ソックスレー抽出：アセトン、2時間 / トルエン、16時間</p> <p>濃縮：ロータリーエバポレーター 20mLまで</p> <p>一部分取：捕集量1,000m<sup>3</sup>：各6mL / 捕集量3,000m<sup>3</sup>：各2mL</p> <p>転溶：ヘキサン 100mL / ロータリーエバポレーター 1mLまで</p> <p>定容：ヘキサン 6mL</p> <p>濃縮：ロータリーエバポレーター 1mLまで</p> <p>多層シリカゲルカラムクリーンアップ：硫酸/シリカゲル(44:56) 1.5g、硫酸/シリカゲル(22:78) 2g、溶出：ヘキサン 40mL</p> <p>濃縮：ロータリーエバポレーター 1mLまで</p> <p>カラムクリーンアップ：フロリジール 3g、妨害物質除去：ヘキサン 50mL、溶出：ジクロロメタン/ヘキサン(15:85) 50mL</p> <p>濃縮：ロータリーエバポレーター 窒素ハーフ 乾固直前まで</p> <p>定容：アセトニトリル 250μL</p> <p>LC/MS-SIR-APCI-ネガティブ</p> <p>内標準物質添加 β-HBCDのd<sub>18</sub>-体を5ng</p> <p>「平成16年度化学物質分析法開発調査報告書」を参考に変更</p>	<p>分析原理：LC/MS-SIR-APCI-ネガティブ</p> <p>検出下限値： 【大気】 (pg/m<sup>3</sup>)</p> <p>[23-1] 60 [23-2] 40 [23-3] 40 [23-4] 70</p> <p>分析条件： 機器 LC：ACQUITY UPLC I class MS：Waters Xevo TQ-S カラム ACQUITY UPLC BEH C18 50mm×2.1mm、1.7μm</p>

## ●参考資料1 継続的調査としての継続性に関する考察

1974年度に「化学物質環境実態調査」が実施されて以降、一般環境中に残留する化学物質の早期発見及びその濃度レベルの把握を目的として、種々の対象物質が選定され、調査が実施されてきており、2011年度においては「初期環境調査」及び「詳細環境調査」として実施されている。こうした年度別の調査とは別に、一定の調査対象物質を経年的に追う継続的調査として、1978年度に開始した「生物モニタリング」をはじめ、「水質・底質モニタリング」、「指定化学物質等検討調査」、「非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査」及び「指定化学物質等検討調査」等が実施され、2002年度より「モニタリング調査」として実施されるに至った。こうした継続的調査の実施経過の概要は次のとおりである。

調査名称 <sup>(注)</sup>	実施期間	媒体	調査対象物質
生物モニタリング	1978年度～ 2001年度	生物（貝類、魚類、 鳥類）	総PCB、HCB、アルドリン、 ディルドリン、エンドリン、 DDT類、クロルデン類、 HCH類等
水質・底質モニタリング	1986年度～ 2001年度	水質、底質	HCB、ディルドリン、 DDT類、クロルデン類、 HCH類等
非意図的生成化学物質 汚染実態追跡調査	1985年度～ 2001年度	水質、底質、生物（魚 類、貝類）、大気	総PCB等
指定化学物質等検討調査	1988年度～ 2001年度	水質、底質等	トリブチルスズ化合物、 トリフェニルスズ化合物 等
モニタリング調査	2002年度～	水質、底質、生物（貝 類、魚類、鳥類）、 大気	総PCB、HCB、アルドリン、 ディルドリン、エンドリン、 DDT類、クロルデン類、 ヘプタクロル類、 トキサフェン類、マイレックス、 HCH類等

(注) 調査名称は実施期間中の代表的なものであり、年度によって異なる場合がある。

1974年度から2017年度までのモニタリング調査対象物質の継続的調査における年度別実施状況は表1、継続的調査の年度別調査地点の状況は表2-1から表2-4のとおりである。

また、定量下限値および定量下限値については、2001年度の検出下限値は後述する「統一検出限界値」であり、2002年度以降の検出下限値は、分析を担当した民間分析機関における検出下限値である。なお、2002年度の水質及び底質は装置検出下限値（IDL）を、2003年度以降の水質及び底質並びに2002年度以降の生物及び大気は分析方法の検出下限値（MDL）をそれぞれ検出下限値として扱っている。

また、検出下限値の変化に対応した検出状況の変動については表3にまとめた。その際、地点の相違の影響を除外するため、継続して調査されている地点のみをみることにした。

検出下限値については、2001年度までの値と比べ2002年度以降の値が大きく改善している。

2001年度まで実施されていた「生物モニタリング」においては、主として地方公共団体による分析によっていたため、分析機関間の装置の違い等を考慮してデータ処理を行う必要があり、調査に当たりあらかじめ同一の検出下限値（「統一検出限界値」と称していた。）を設定し、データ処理をしてきた。用いていた「統一検出限界値」は、開始当初のGC-ECDによる分析を勘案して設定されたものであり、GC/MSが主流となっている現在の分析法では十分に定量可能な値であり、より高感度の分析を行った地方公共団体からは「トレース値」として別報告を受ける状況が続いていた。2002年度以降は分析機関が媒体ごとに一機関になったことに加え、高感度のGC/HRMSを用いた分析に移行しており、検出下限値は「統一検出限界値」に比べて一千分の一程度又はそれ以下となっている。

同じく2001年度まで実施されていた「水質・底質モニタリング」においては、開始当初からGC/MSによる分析であり、水質は0.01µg/L (= 10,000pg/L)、底質は1ng/g-dry (=1,000pg/g-dry)を「統一検出下限値」とし

て実施してきた。2002年度以降は高感度のGC/HRMSを用いた分析に移行し、2001年度に比べて、検出下限値は水質で一万分の一、底質で一千分の一程度に下がっている。

「非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査」における総PCBは、1996年度及び1997年度はGC/MSで測定されたが、2000年度及び2001年度は高感度のHRGC/HRMSにより測定された。このため、2000年度及び2001年度は1996年度及び1997年度の一万分の一程度の検出下限値となっている。2002年度以降は2000年度及び2001年度と同等の検出下限値であった。なお、コプラナーPCBについては1996年度よりHRGC/HRMS分析が行われていたため、2002年度以降とほぼ同等の検出下限値であった。

























表2-4 継続的調査の年度別調査地点の一覧（大気）

地方 公共団体	調査地点	年度																		
		'00	'01	'02	'03	'04	'05	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
北海道	上川保健福祉事務所（名寄市）					■		■												
	釧路市立春採中学校（釧路市）			■			■													
	北海道釧路総合振興局（釧路市）									■			■			■			■	
	北海道立総合研究機構環境科学研究センター（札幌市）	◎	◎																	
	北海道渡島総合振興局（函館市）				■			■			■			■			■			■
札幌市	北海道上川総合振興局（旭川市）										■			■			■			
札幌市	札幌芸術の森（札幌市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	網張スキー場（帯石市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
岩手県	菓子一般環境大気測定局（滝沢市）																	■	■	■
	宮城県保健環境センター（仙台市）				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	国設仙台測定局（仙台市）	◎		■											■	■	■	■		
宮城県	宮城県消防学校（仙台市）													■	■	■	■			
	山形県	山形県環境科学研究センター（村山市）																■	■	■
茨城県	茨城県環境監視センター（水戸市）			■	■	■	■	■												
	茨城県霞ヶ浦環境科学センター（土浦市）									■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
群馬県	群馬県衛生環境研究所（前橋市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
千葉県	市原松崎一般環境大気測定局（市原市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	東京都環境科学研究所（江東区）				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	東京都立衛生研究所（調査当時）（新宿区）				■															
東京都	小笠原父島				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	神奈川県	神奈川環境科学センター（平塚市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	横浜市	旧横浜市環境科学研究所（横浜市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
横浜市環境科学研究所（横浜市）																		■	■	■
新潟県	大山一般環境大気測定局（新潟市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
富山県	砺波一般環境大気測定局（砺波市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
石川県	石川県保健環境センター（金沢市）	◎		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	山梨県	富士吉田合同庁舎（富士吉田市）			■	■	■	■	■	■	■	■								
山梨県衛生環境研究所（甲府市）												■	■	■	■	■	■	■	■	■
長野県	長野県環境保全研究所（長野市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
岐阜県	岐阜県保健環境研究所（各務原市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
名古屋市	千種区平和公園（名古屋市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
三重県	三重県保健環境研究所（四日市市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
京都府	京都府立城陽高校（城陽市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
大阪府	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所（大阪市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	大阪合同庁舎2号館別館（大阪市）																	■	■	■
兵庫県	兵庫県環境研究センター（神戸市）	◎	◎			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
神戸市	葦合一般環境大気測定局（神戸市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	神戸市役所（神戸市）																	■	■	■
奈良県	天理一般環境大気測定局（天理市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
島根県	国設隠岐酸性雨測定所（隠岐の島町）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
広島市	広島市立国泰寺中学校（広島市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	山口県環境保健センター（山口市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	萩市役所見島支所（萩市）			■	■	■	■	■	■	■	■									
	萩市見島ふれあい交流センター（萩市）																			
徳島県	萩健康福祉センター（萩市）																	■	■	■
	徳島県保健環境センター（徳島市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	徳島県立保健製薬環境センター（徳島市）																	■	■	■
香川県	香川県高松合同庁舎（高松市）	◎		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	香川県立総合水泳プール（高松市）									■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
愛媛県	愛媛県南予地方局（宇和島市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
福岡県	大牟田市役所（大牟田市）	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
北九州市	北九州観測所（北九州市）	◎																		
佐賀県	佐賀県環境センター（佐賀市）	◎		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	長崎県庁（長崎市）	◎																		
	小ヶ倉支所測定局（長崎市）		◎																	
長崎市	北消防署測定局（長崎市）		◎																	
	熊本県	熊本県保健環境科学研究所（宇土市）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
宮崎県	宮崎県衛生環境研究所（宮崎県）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
鹿児島県	鹿児島県環境保健センター（鹿児島市）					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
沖縄県	辺野古岬（国頭村）			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

(注1) ◎：非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査において実施したことを意味する。

(注2) ■：モニタリング調査において実施したことを意味する。

(注3) 「地方公共団体」は、試料採取を実施した地方公共団体の名称であり、複数年度実施している地点にあっては直近の年度に試料採取を実施した地方公共団体の名称を示した。

(注4) □は非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査及びモニタリング調査を継続して実施している地点を意味する。

表3 2001年度以前の継続的調査と2002年度以降のモニタリング調査の継続調査2015地点における検出頻度の比較

物質調査番号	調査対象物質	水質																	
		1998	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[1]	総PCB	10/10	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	13/15	15/15	14/14	13/13	13/13	14/14	14/14	14/14	14/14
[2]	HCB	0/15	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	12/15	15/15	14/14	13/13	13/13	14/14	14/14	14/14	14/14
[4]	ディルドリン (参考)	0/15	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	---	15/15	---	---	13/13	---	---	---	---
[6]	DDT類 (参考)																		
	[6-1] p,p'-DDT (参考)	0/15	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	---	---	---	13/13	---	---	---	---
	[6-2] p,p'-DDE (参考)	0/15	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	---	---	---	13/13	---	---	---	---
	[6-3] p,p'-DDD (参考)	0/15	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	---	---	---	13/13	---	---	---	---
[7]	クロルデン類 (参考)																		
	[7-1] cis-クロルデン (参考)	0/15	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	14/15	15/15	14/14	13/13	---	---	---	---	---
	[7-2] trans-クロルデン (参考)	0/15	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	13/15	15/15	14/14	13/13	---	---	---	---	---
	[7-4] cis-ノナクロル (参考)	0/15	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	14/14	13/13	---	---	---	---	---
	[7-5] trans-ノナクロル (参考)	0/15	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	13/15	15/15	14/14	13/13	---	---	---	---	---
[11]	HCH類																		
	[11-1] α-HCH (参考)	0/15	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	14/14	13/13	13/13	14/14	14/14	14/14	---
	[11-2] β-HCH (参考)	0/15	14/14	14/14	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	15/15	14/14	13/13	13/13	14/14	14/14	14/14	---

物質調査番号	調査対象物質	底質																	
		2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[1]	総PCB	24/24	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	15/15	15/15	16/16	16/16	16/16	15/16
[2]	HCB	3/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	15/15	14/15	16/16	16/16	16/16	16/16
[4]	ディルドリン	1/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/17	17/17	17/17	---	17/17	---	---	---	---	---	---	16/16
[6]	DDT類 (参考)																		
	[6-1] p,p'-DDT (参考)	2/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	---	---	---	15/15	---	---	---	---
	[6-2] p,p'-DDE (参考)	7/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	---	---	---	15/15	---	---	---	---
	[6-3] p,p'-DDD (参考)	5/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	---	---	---	15/15	---	---	---	---
[7]	クロルデン類 (参考)																		
	[7-1] cis-クロルデン (参考)	3/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	15/15	---	---	---	---	---	---
	[7-2] trans-クロルデン (参考)	5/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	15/15	---	---	---	---	---	---
	[7-4] cis-ノナクロル (参考)	3/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	15/15	---	---	---	---	---	---
	[7-5] trans-ノナクロル (参考)	4/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	15/15	---	---	---	---	---	---
[11]	HCH類																		
	[11-1] α-HCH	1/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	15/15	15/15	16/16	16/16	16/16	16/16	---
	[11-2] β-HCH	3/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	15/15	15/15	16/16	16/16	16/16	16/16	---

物質調査番号	調査対象物質	生物																	
		2000	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[1]	総PCB	3/3	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	12/12	16/16	14/14	13/13	12/12	13/13	13/13	13/13
[2]	HCB	3/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	12/12	16/16	13/14	13/13	12/12	13/13	13/13	13/13
[4]	ディルドリン (参考)	4/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	---	12/12	---	---	13/13	---	---	---	---
[6]	DDT類 (参考)																		
	[6-1] p,p'-DDT (参考)	3/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	15/16	---	---	14/14	---	---	---	---	13/13
	[6-2] p,p'-DDE (参考)	12/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	---	---	14/14	---	---	---	---	13/13
	[6-3] p,p'-DDD (参考)	6/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	---	---	13/14	---	---	---	---	13/13
	[6-4] o,p'-DDT (参考)	1/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	14/16	---	---	14/14	---	---	---	---	13/13
	[6-5] o,p'-DDE (参考)	1/17	16/16	16/16	15/16	17/17	17/17	17/17	16/17	17/17	15/16	---	---	14/14	---	---	---	---	12/13
	[6-6] o,p'-DDD (参考)	2/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	16/17	17/17	16/16	---	---	14/14	---	---	---	---	12/13
[7]	クロルデン類																		
	[7-1] cis-クロルデン	7/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	12/12	16/16	14/14	---	---	13/13	13/13	---
	[7-2] trans-クロルデン	5/17	16/16	16/16	15/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	12/12	16/16	14/14	---	---	13/13	13/13	---
	[7-3] オキシクロルデン	3/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	12/12	16/16	14/14	---	---	13/13	13/13	---
	[7-4] cis-ノナクロル	4/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	12/12	16/16	14/14	---	---	13/13	13/13	---
[7-5] trans-ノナクロル	9/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	12/12	16/16	14/14	---	---	13/13	13/13	---	
[11]	HCH類																		
	[11-1] α-HCH	1/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	12/12	15/16	14/14	14/14	9/12	12/13	12/13	---
	[11-2] β-HCH	4/17	16/16	16/16	16/16	17/17	17/17	17/17	17/17	17/17	16/16	12/12	16/16	14/14	14/14	12/12	13/13	13/13	---

物質調査番号	調査対象物質	大気																	
		2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[1]	総PCB	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	10/10	8/8	9/9	10/10	10/10	10/10	10/10	9/9	9/9	9/9	8/8	8/8	8/8

- (注1) 「---」は2001年度以前からの継続調査地点なし又は調査対象外であることを意味する。  
(注2) 水質については、1999年度から2001年度に継続的調査が行われなかったため、1998年度の値と比較することとした。  
(注3) 生物については、2001年度に継続調査地点の一つが調査されていないため、2000年度調査の値と比較することとした。  
(注4) 2001年度以前から調査が実施されており、比較可能な調査対象物質についてのみ記載した。  
(注5) 継続調査地点における検出頻度の比較ができない調査対象物質については記載しなかった。  
(注6) 継続地点とは、表2-1から表2-4に示した地点のうち調査実施状況の欄を■で強調した地点を意味する。

2001年度以前の調査結果を含めた評価を行うに当たっては以下の点を考慮する必要がある。

#### ・総PCB

2001年度以前に実施してきた総PCBの継続的調査としては、水質、底質及び大気については「非意図的生成化学物質汚染実態追跡調査」、生物（貝類、魚類及び鳥類）については「生物モニタリング」が該当する。これらの調査における総PCBの調査実績は、水質及び大気は2000年度及び2001年度の2年間、底質は1996年度、1997年度、2000年度及び2001年度の4年間、生物は1978年度から2001年度までの24年間である。したがって、生物については経年推移を評価するのに十分な期間にわたっての調査が実施されているといえる。

総PCBの調査地点については、水質及び底質の2002年度以降の調査地点は2001年度以前の調査地点を一部引き継いでいるものの、少なくない地点が入れ替わっている。このため、これらの媒体では2002年度以降と2001年度以前の残留状況の傾向を経年的に評価する場合には考慮を要する。生物では2001年度以前の調査地点・生物種の多くが2002年度以降にも引き継がれたが、2002年度に2地点・生物種（釧路沖のオオサガ及び祝言島地先のスズキ）が減り、2003年度に1地点・生物種（三浦半島のムラサキイガイ）が減ったものの、2005年度に1地点・生物種（釧路沖のシロサケ）の調査が、2008年度にも1地点・生物種（大分川のスズキ）の調査がそれぞれ再開された。経年的に評価する場合には、この点に留意する必要がある。大気の2002年度以降の調査地点は、水質及び底質と同様、2001年度以前の調査地点を一部引き継いでいるものの、少なくない地点が入れ替わっている。このため、これらの媒体では2002年度以降と2001年度以前の残留状況の傾向を経年的に評価する場合には考慮を要する。また、大気では2007年度の温暖期及び寒冷期並びに2008年度の温暖期にそれぞれ3分の1程度の地点で欠測となっており、経年的に評価する場合には、この点に留意する必要がある。

総PCBの検出下限値については、水質、底質、生物（「生物モニタリング」に係るものを除く。）及び大気ともに2001年度以前の値は、2002年度以降の値とほぼ同等であるため経年的な評価に当たり支障はない。一方、「生物モニタリング」に係る検出下限値は、2002年度以降の検出下限値に比べて到底及ぶレベルではなく、検出頻度や幾何平均値（検出下限値未満の値は検出下限値の1/2として計算）により残留状況の傾向を経年的に評価する場合には考慮を要する。また、検出下限値未満の検体が多いことから、中央値、70%値、80%値等で推移を見ることも困難である。

#### ・総PCB以外のPOPs

2001年度以前に実施してきた継続的調査としては、水質及び底質については、「水質・底質モニタリング」（1999年度～2001年度は「底質モニタリング」）、生物（貝類、魚類及び鳥類）については「生物モニタリング」が該当する。大気について継続的調査は実施していなかった。また、ヘプタクロル類については、全媒体において2001年度以前に継続的調査を実施していない。なお、2002年度以降においても、大気のHCH類は2002年度の調査では対象外であった。

総PCB以外のPOPs及びHCH類における2001年度以前の調査実績として、水質及び底質ではHCB、ディルドリン、*p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*cis*-クロルデン、*trans*-クロルデン、*cis*-ノナクロル、*trans*-ノナクロル、 $\alpha$ -HCH及び $\beta$ -HCHについて1986年度から1998年度までの13年間（底質は1986年度から2001年度までの16年間）モニタリングを実施した。オキシクロルデンについては1986年度及び1987年度の2年間のみ実施

し、その他の物質（アルドリン、エンドリン、*o,p'*-DDT、*o,p'*-DDE、*o,p'*-DDD、ヘプタクロル類、トキサフェン類、マイレックス、 $\gamma$ -HCH（別名：リンデン）及び $\delta$ -HCH）については水質及び底質の継続的調査は実施していなかった。生物は、アルドリン、エンドリン、 $\gamma$ -HCH（別名：リンデン）及び $\delta$ -HCHについては1978年度から開始されたものの2001年度よりも前に中断され、その他の物質（ヘプタクロル類、トキサフェン類及びマイレックスを除く。）については昭和50年代から2001年度まで継続的調査を実施した（調査開始年度は物質により異なる。また1997度及び1999年度には調査を実施していない物質がある。詳細は表4を参照のこと。）。

以上より、継続的調査を実施していない物質（ヘプタクロル等）及び媒体（大気等）については2001年度以前からの経年的な残留状況の傾向を判断できないほか、オキシクロルデンの水質及び底質、アルドリン、エンドリン、 $\gamma$ -HCH（別名：リンデン）及び $\delta$ -HCHの生物については、過去の調査実施から間隔が開いたため2001年度以前からの経年的な残留状況の傾向を評価する場合には考慮を要する。

総PCB以外のPOPs及びHCH類の調査地点については、水質及び底質の2002年度以降の調査地点は2001年度以前にはなかったものが大幅に追加されている。このため、これらの媒体では2002年度以降と2001年度以前の残留状況の傾向を経年的に評価する場合には考慮を要する。生物では総PCBと同様、2001年度以前の調査地点・生物種の多くが2002年度以降に引き継がれたが2002年度以降、いくつかの調査地点・生物種に変更があり、経年的に評価する場合には、この点に留意する必要がある。大気では総PCBと同様、HCBが2007年度の温暖期及び寒冷期並びに2008年度の温暖期にそれぞれ3分の1程度の地点で欠測となっており、経年的に評価する場合には、この点に留意する必要がある。

総PCB以外のPOPs及びHCH類の検出下限値については、2002年度以降の値は2001年度以前の値と比較して、水質では一万分の一程度に、底質及び生物では一千分の一程度に下がっている。これに伴い検出数が大幅に増えており、検出頻度や幾何平均値（検出下限値未満の値は検出下限値の1/2として計算）により残留状況の傾向を評価する場合には考慮を要する。生物についても、2001年度以前は検出下限値未満の検体が多く、中央値、70%値、80%値等での推移を見ることも困難である。

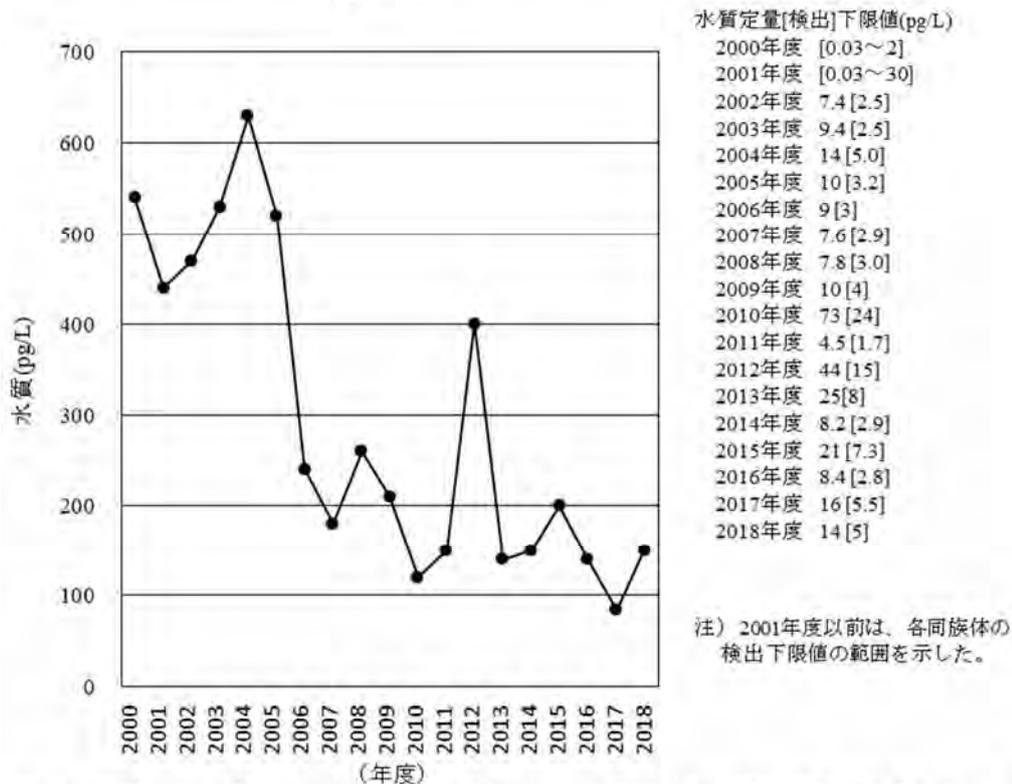
モニタリング調査は長期にわたり実施されてきており、その間に調査地点、分析法、生物種等の変更が行われている。そのため、調査開始当初と最近の調査結果をそのまま比較可能な値として扱うことは困難であるが、共通の調査地点及び分析法が同一である期間ごとにみれば継続性をもって評価を行うことができると考えられる。

特に水質のHCB、ディルドリン、*p,p'*-DDT、*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*cis*-クロルデン、*trans*-クロルデン、オキシクロルデン、*cis*-ノナクロル、*trans*-ノナクロル、 $\alpha$ -HCH、 $\beta$ -HCHについては、2001年度以前に調査実績はあるものの、検出下限値が高い（10,000pg/L）ため検出頻度が低いことに留意が必要である。

2001年度以前からの継続的調査実施物質の経年変化は、図1から図7に示すとおりである。

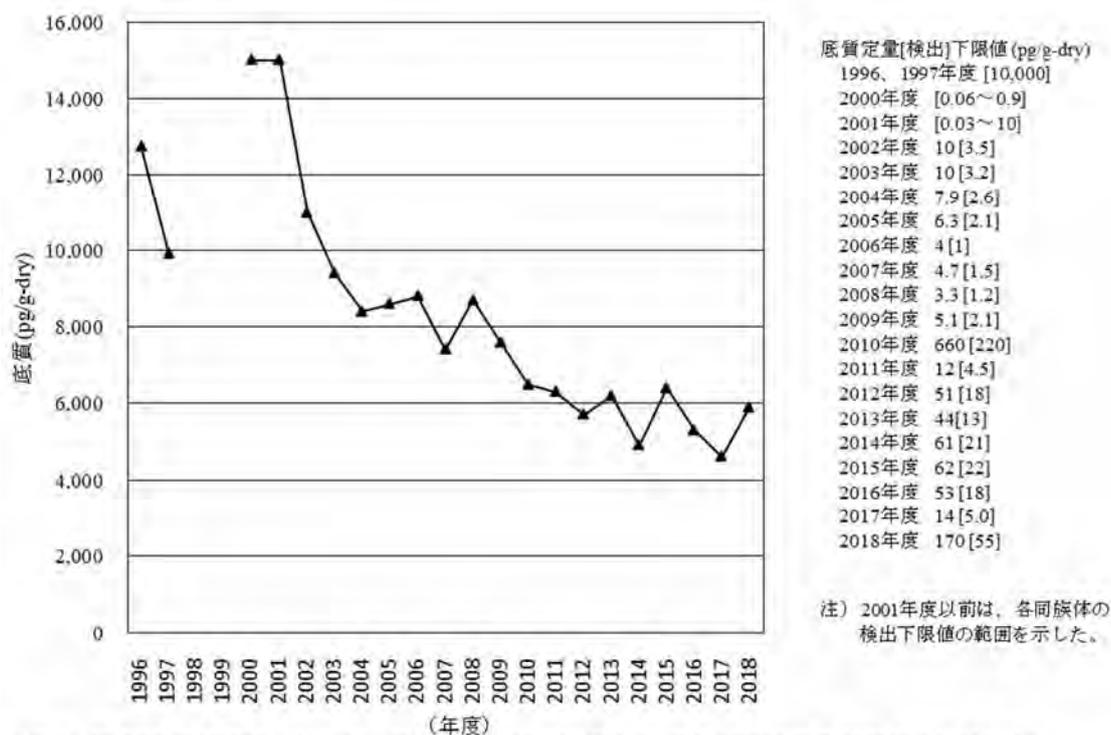
・2001年度以前からの継続的調査実施物質の経年変化

[1] PCB類



(注1) 総 PCB の水質については、継続的調査において 1999 年度以前に調査が実施されていない。  
 (注2) 2002 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

図 1-1 総 PCB の水質の経年変化 (幾何平均値)  
 [1] PCB類



(注1) 総 PCB の底質については、継続的調査において 1995 年度以前に調査が実施されていない。  
 (注2) 2002 年度から 2009 年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

図 1-2 総 PCB の底質の経年変化 (幾何平均値)

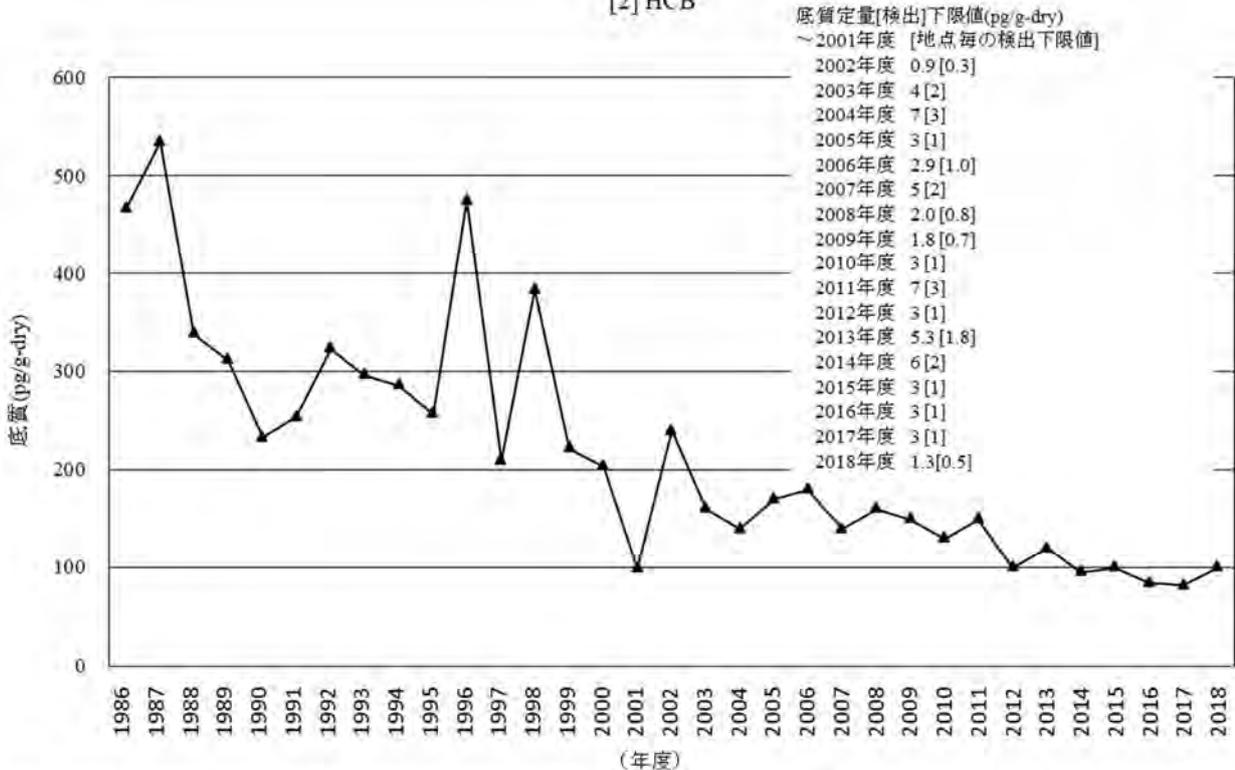
[1] PCB類



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。

図 1-3 総 PCB の生物の経年変化 (幾何平均値)

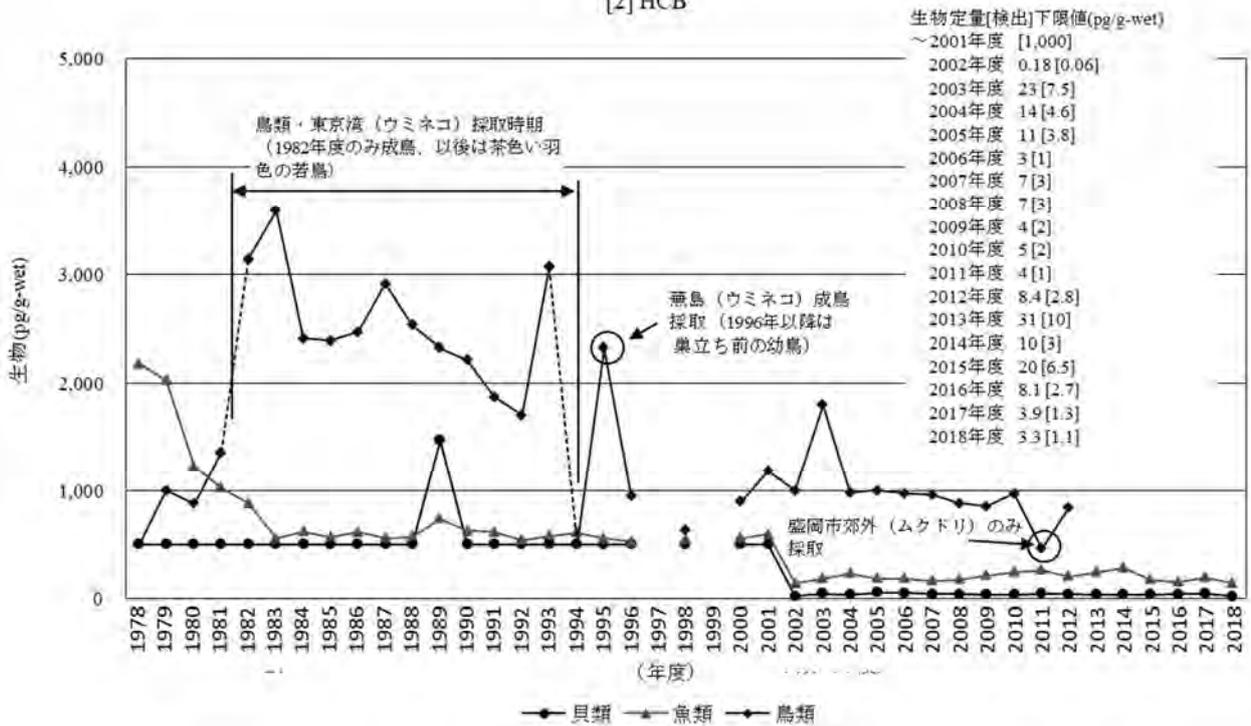
[2] HCB



- (注) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

図 2-1 HCB の底質の経年変化 (幾何平均値)

[2] HCB

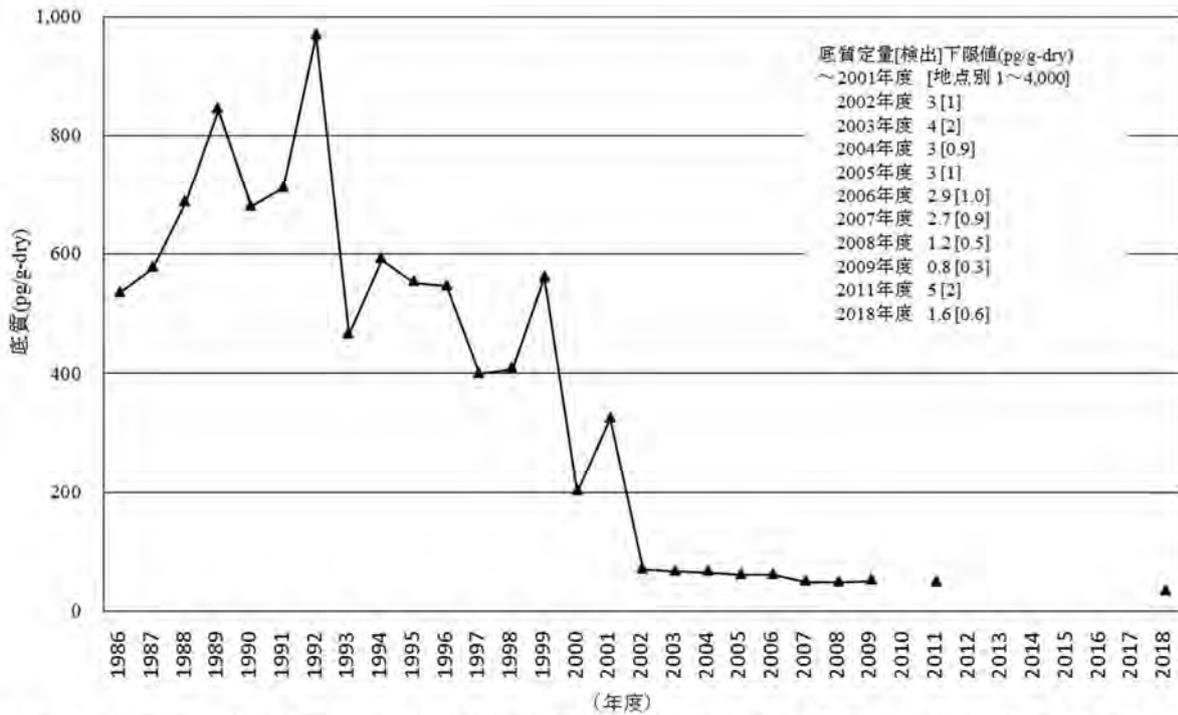


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。

図 2-2 HCB の生物の経年変化 (幾何平均値)

[4] デイルドリン

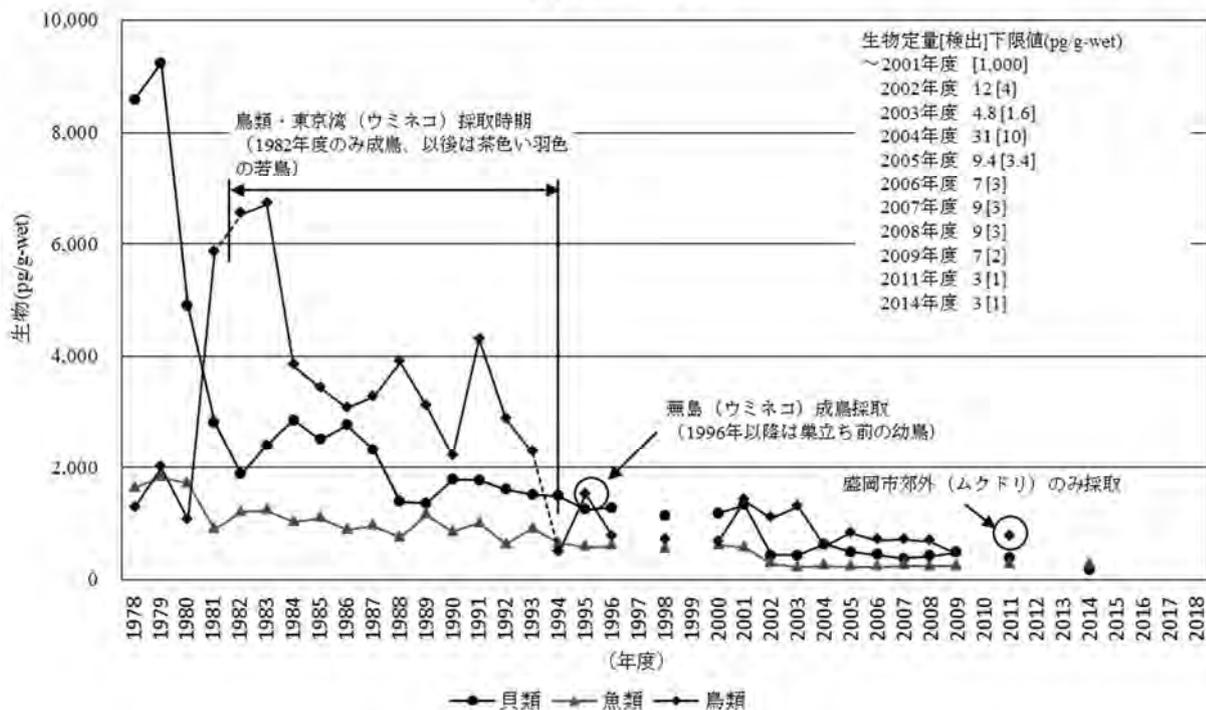


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2010年度及び2012年度から2017年度は調査を実施していない。

図 3-1 デイルドリンの底質の経年変化 (幾何平均値)

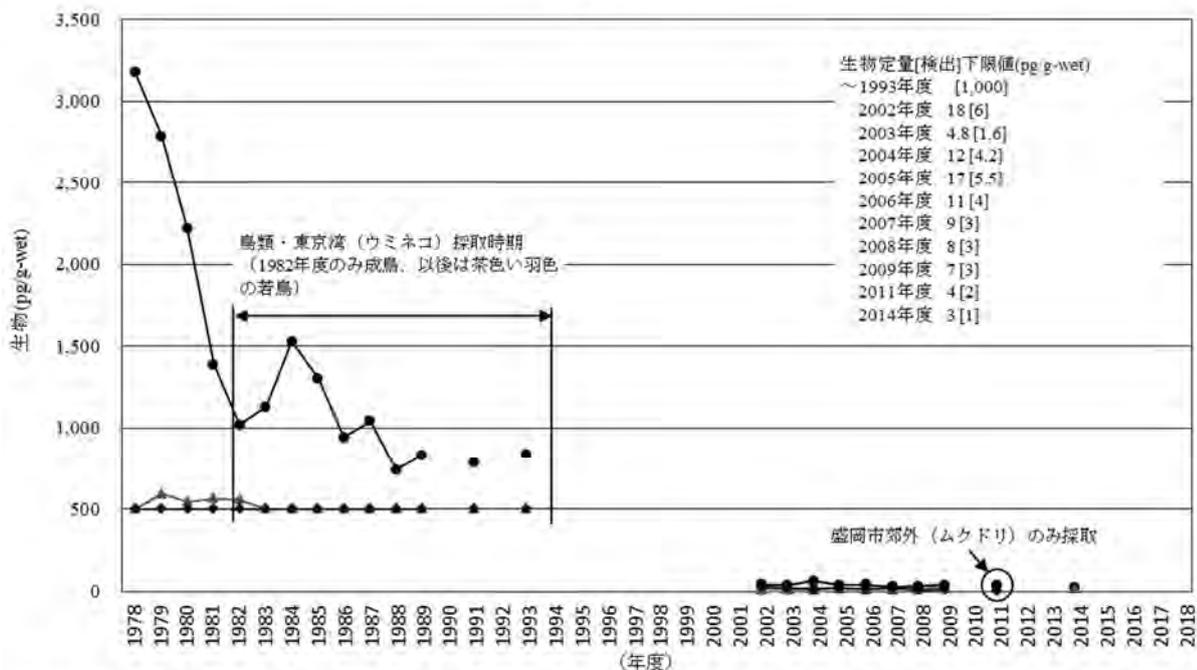
[4] デイルドリン



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2014年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2011年度までの結果と2014年度の結果に連続性がないため、2014年度の結果を示していない。
- (注3) 2010年度、2012年度、2013年度、2015年度から2017年度は調査を実施していない。

図3-2 デイルドリンの生物の経年変化（幾何平均値）（参考）

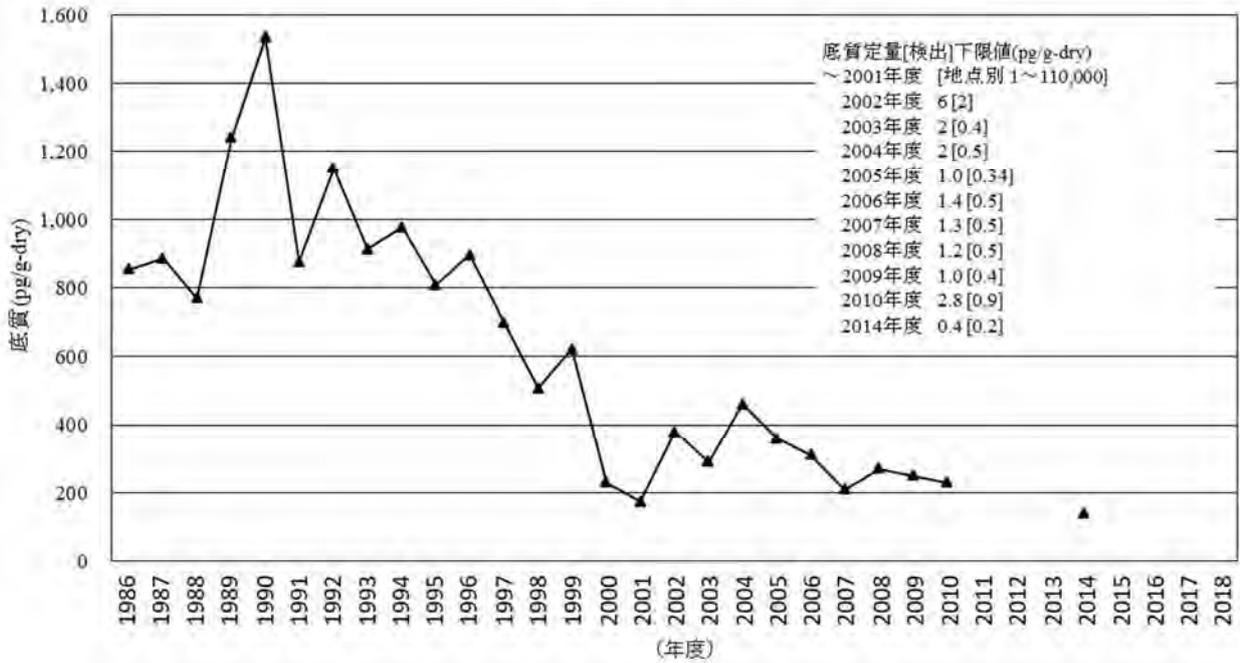
[5] エンドリン



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2014年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2011年度までの結果と2014年度の結果に連続性がないため、2014年度の結果を示していない。
- (注3) 2010年度、2012年度、2013年度、2015年度から2017年度は調査を実施していない。

図4 エンドリンの生物の経年変化（幾何平均値）（参考）

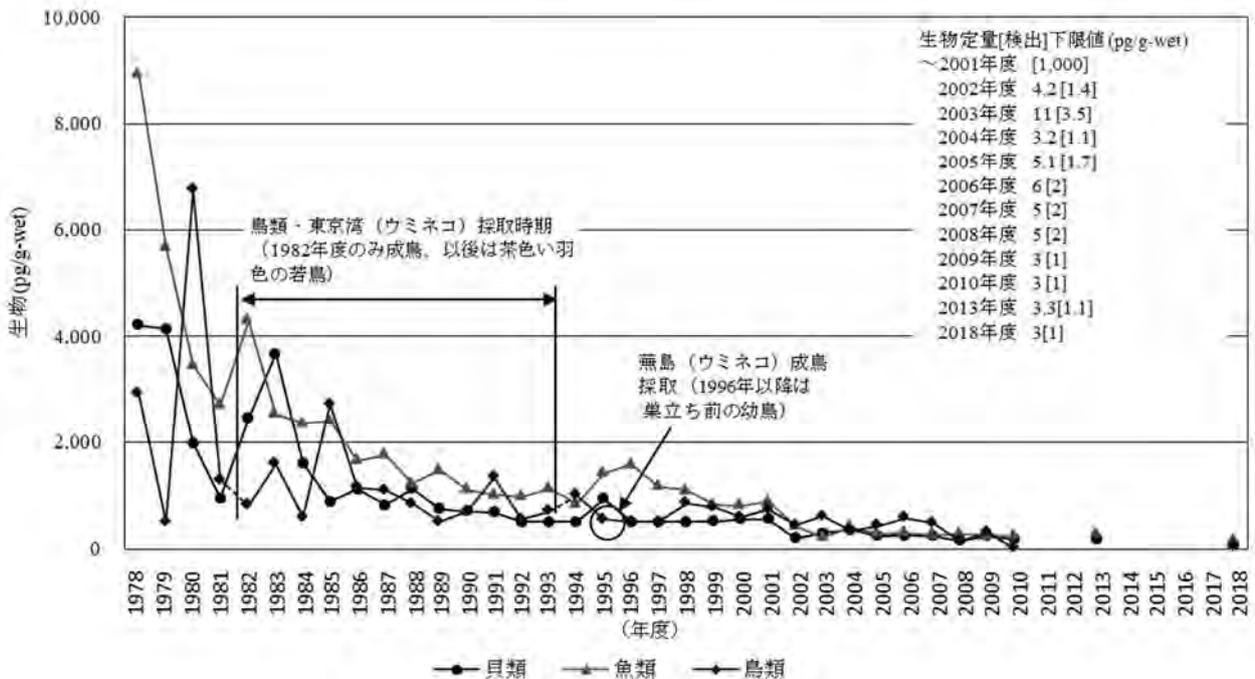
[6-1]  $p,p'$ -DDT



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2011年度から2013年度、2015年度から2017年度は調査を実施していない。

図5-1-1  $p,p'$ -DDTの底質の経年変化（幾何平均値）（参考）

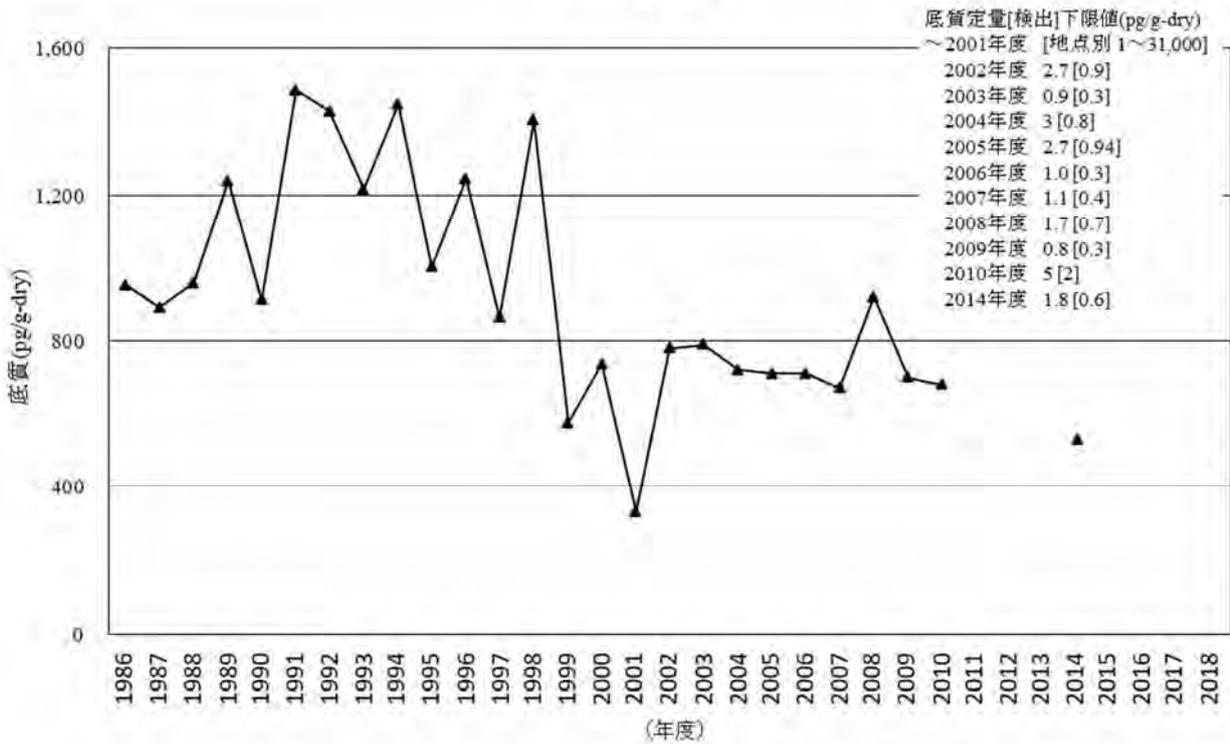
[6-1]  $p,p'$ -DDT



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と2013年度の結果に連続性がないため、2013年度の結果を示していない。  
 (注3) 2011年度及び2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

図5-1-2  $p,p'$ -DDTの生物の経年変化（幾何平均値）

[6-2] *p,p'*-DDE

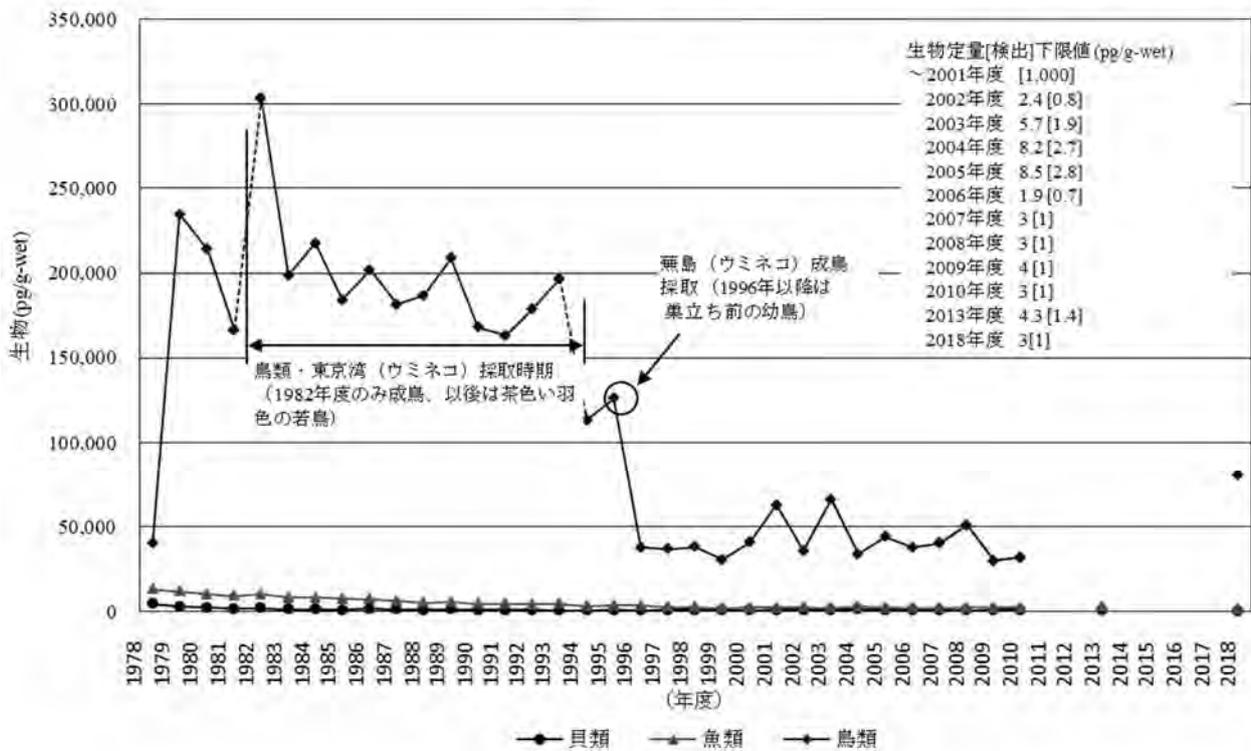


(注) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注) 2011年度から2013年度、2015年度から2017年度は調査を実施していない。

図 5-2-1 *p,p'*-DDE の底質の経年変化 (幾何平均値) (参考)

[6-2] *p,p'*-DDE



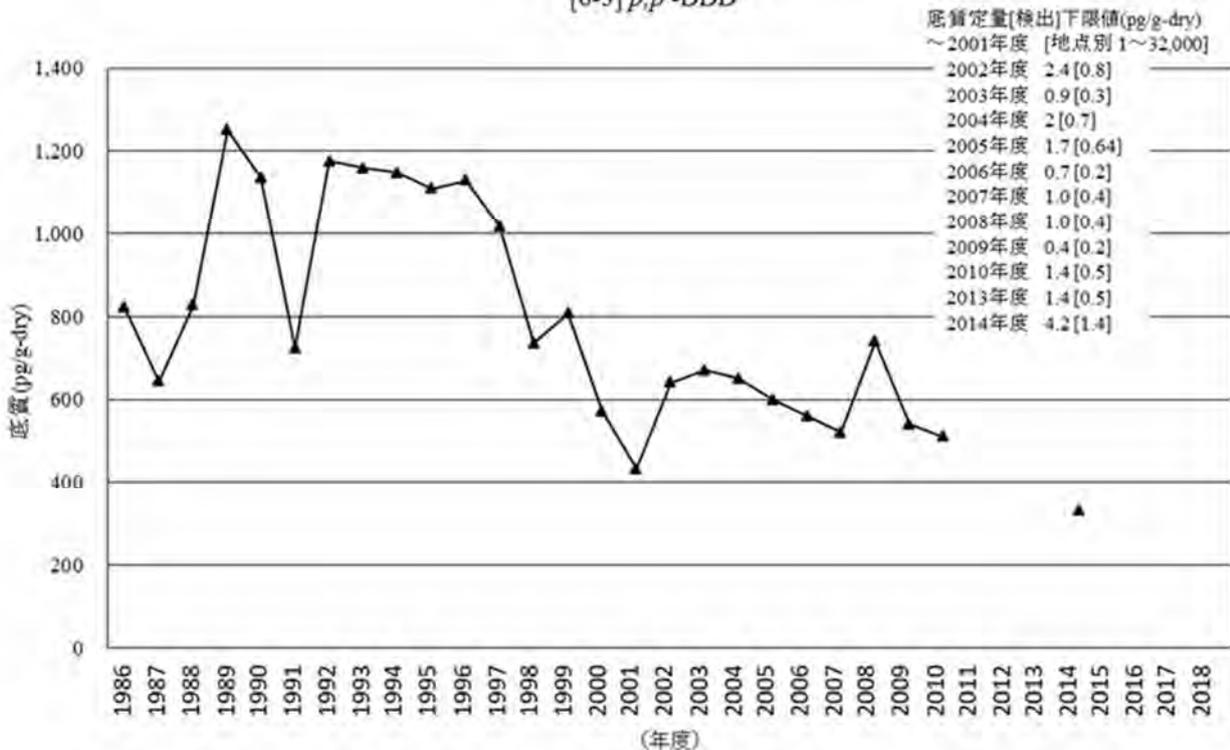
(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と2013年度の結果に継続性がないため、2013年度の結果を示していない。

(注3) 2011年度、2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

図 5-2-2 *p,p'*-DDE の生物の経年変化 (幾何平均値)

[6-3] p,p'-DDD



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 2011年度から2013年度、2015年度から2017年度は調査を実施していない。

図 5-3-1 p,p'-DDD の底質の経年変化 (幾何平均値) (参考)

[6-3] p,p'-DDD

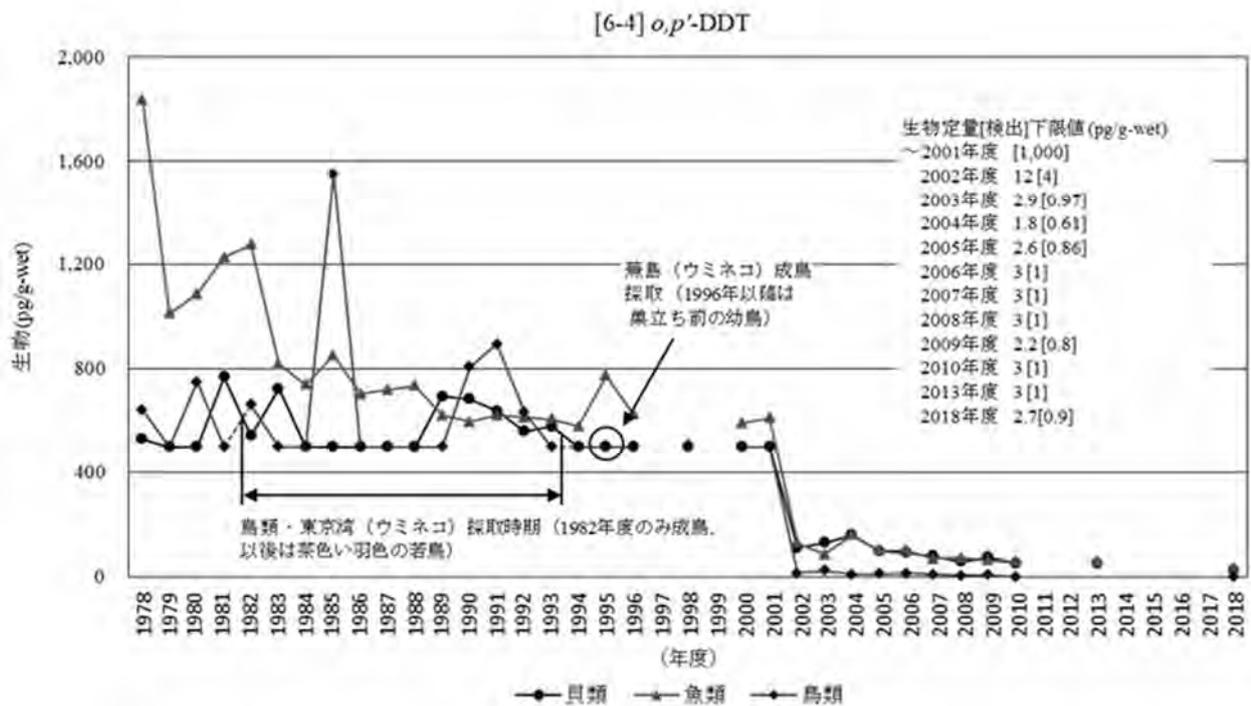


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と2013年度の結果に継続性がないため、2013年度の結果を示していない。

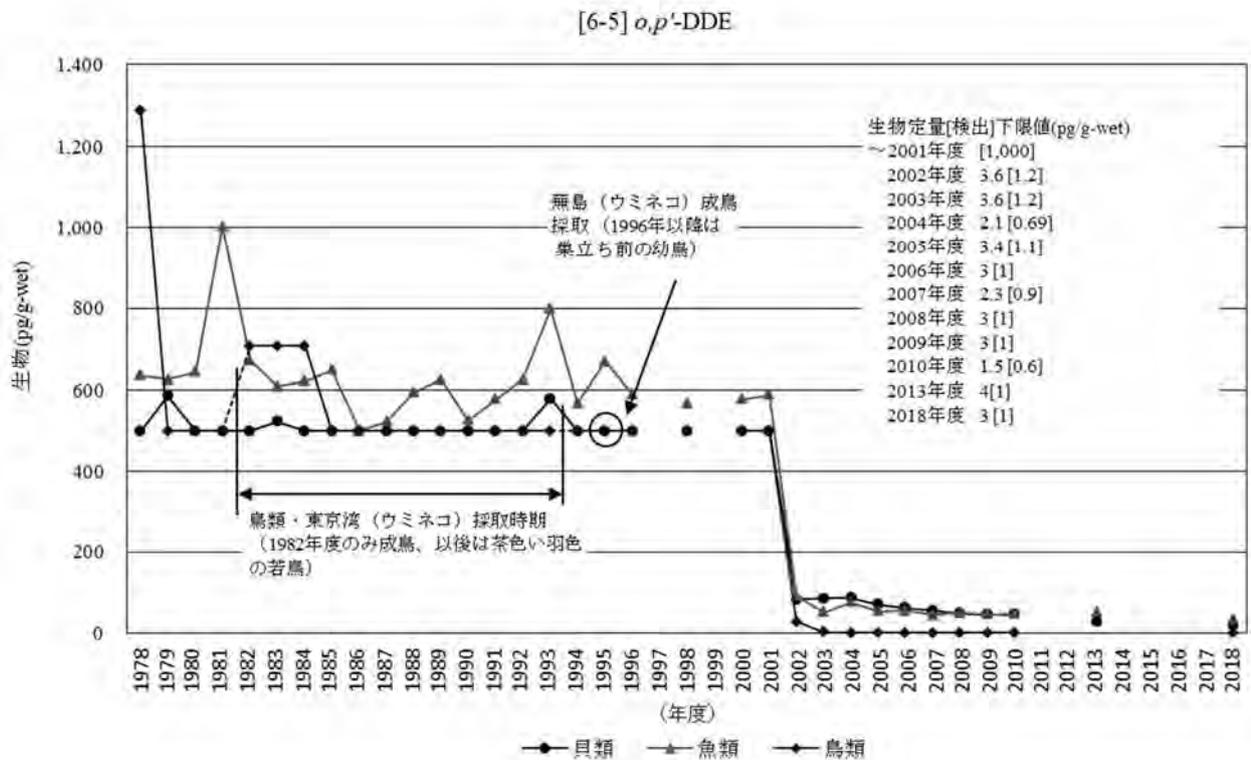
(注3) 2011年度、2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

図 5-3-2 p,p'-DDD の生物の経年変化 (幾何平均値)



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と2013年度の結果に継続性がないため、2013年度の結果を示していない。
- (注3) 2011年度、2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

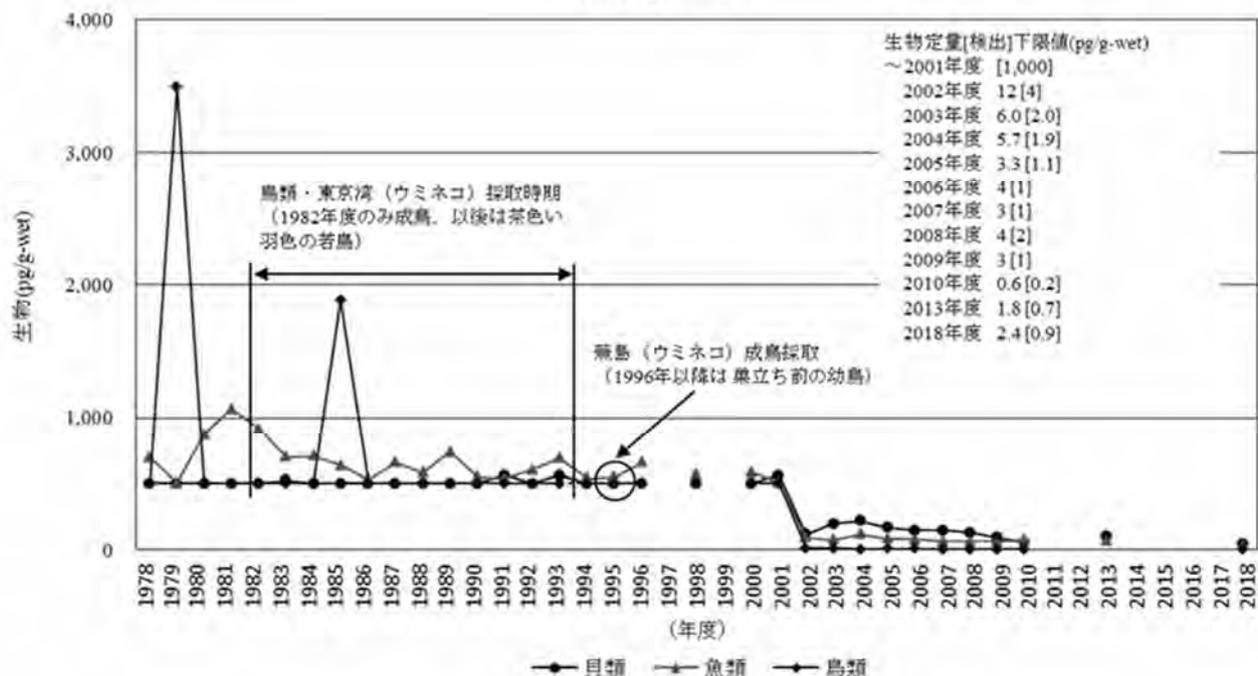
図 5-4 *o,p'*-DDT の生物の経年変化 (幾何平均値)



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と2013年度の結果に継続性がないため、2013年度の結果を示していない。
- (注3) 2011年度、2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

図 5-5 *o,p'*-DDE の生物の経年変化 (幾何平均値)

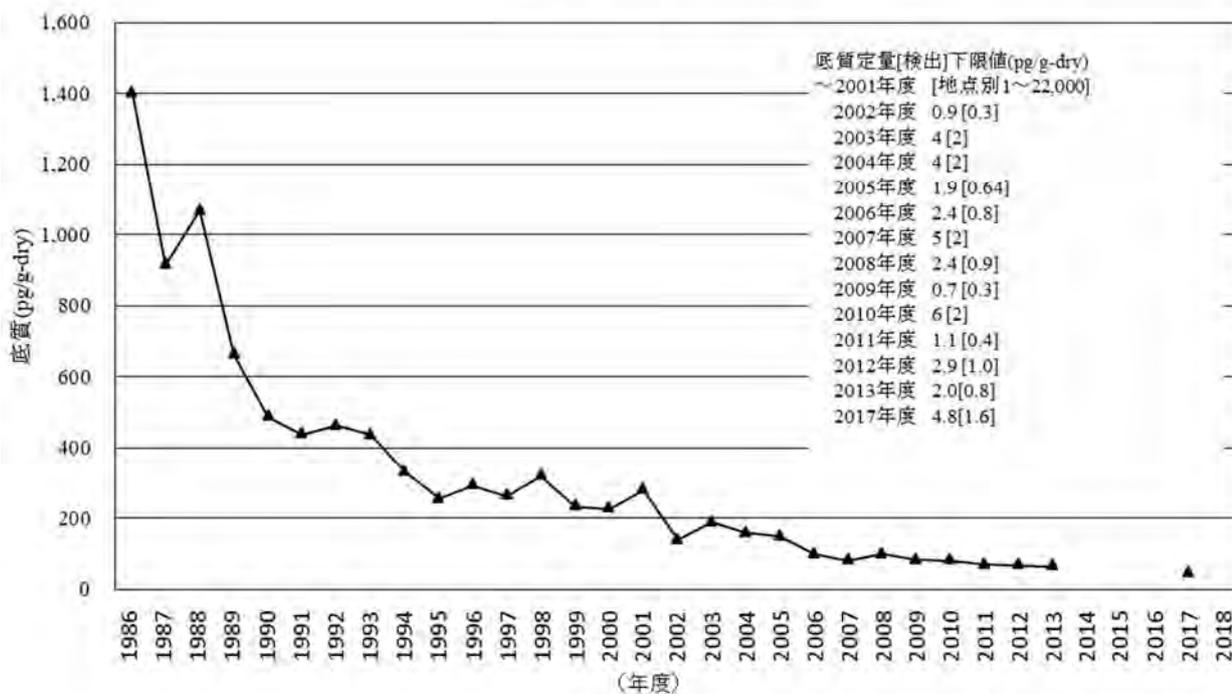
[6-6] *o,p'*-DDD



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2010年度までの結果と2013年度の結果に連続性がないため、2013年度の結果を示していない。
- (注3) 2011年度、2012年度及び2014年度から2017年度は調査を実施していない。

図 5-6 *o,p'*-DDD の生物の経年変化 (幾何平均値)

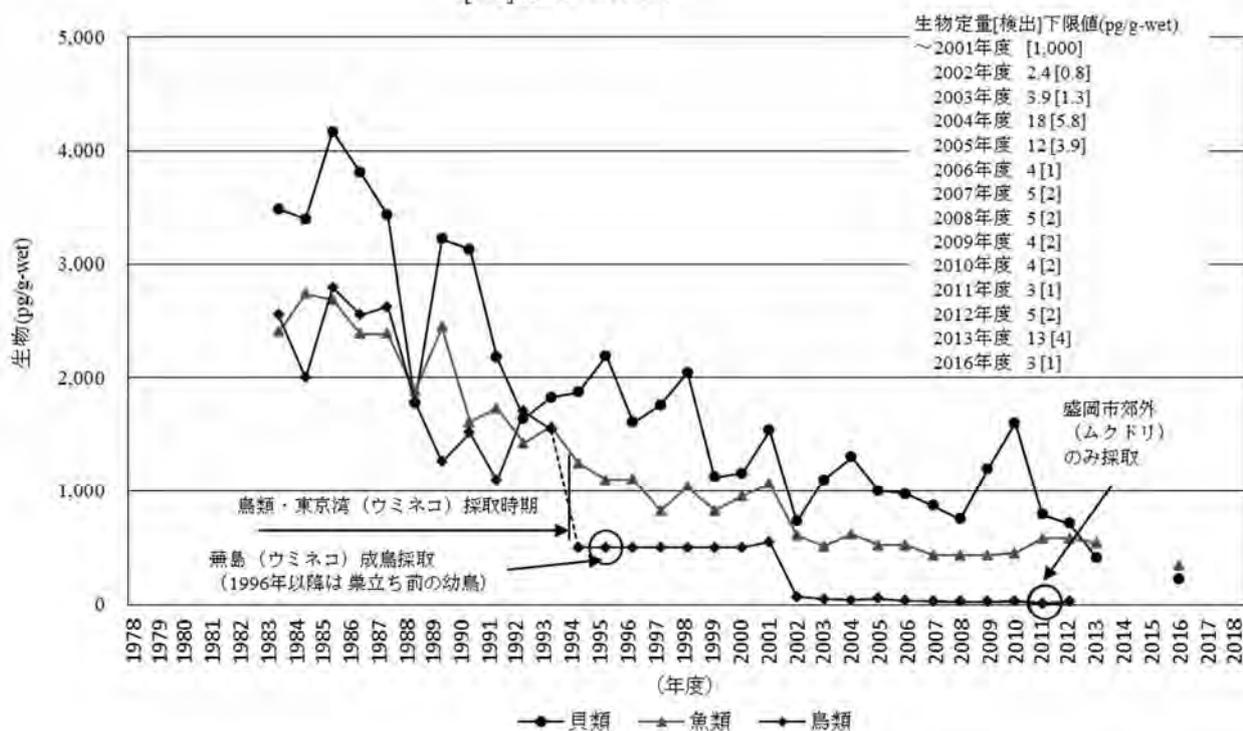
[7-1] *cis*-クロルデン



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 2014年度から2016年度は調査を実施していない。

図 6-1-1 *cis*-クロルデンの底質の経年変化 (幾何平均値) (参考)

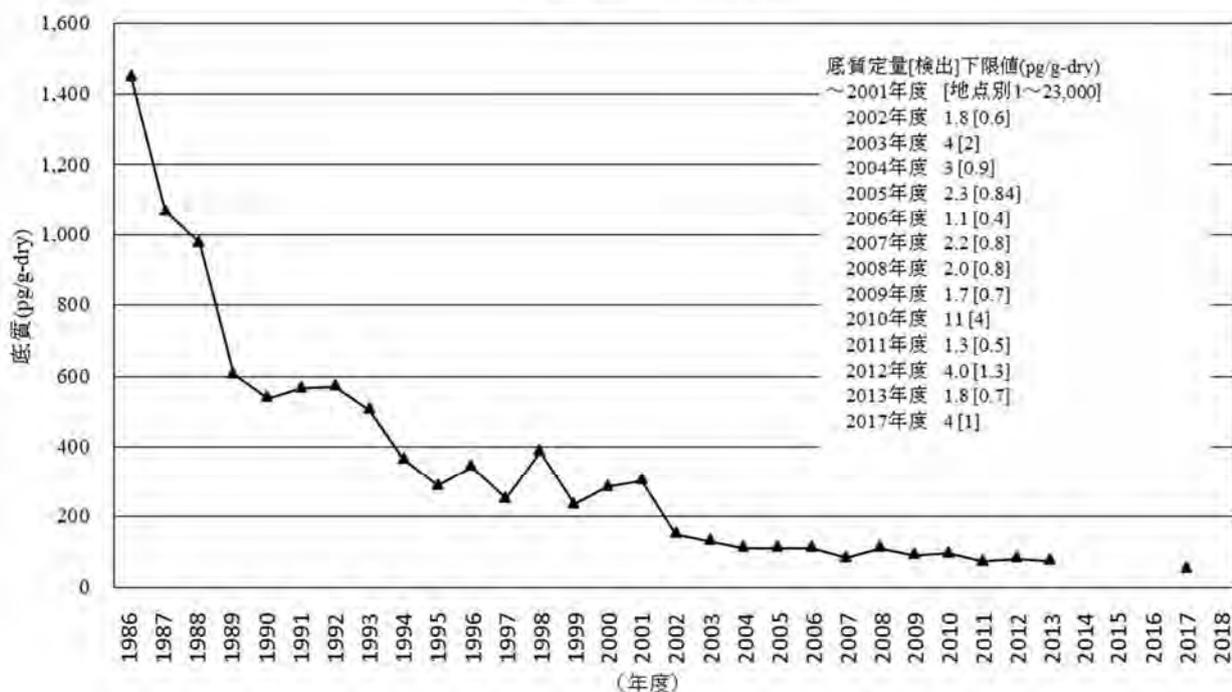
[7-1] *cis*-クロルデン



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に連続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。
- (注3) 2014年度、2015年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 6-1-2 *cis*-クロルデンの生物の経年変化 (幾何平均値) (参考)

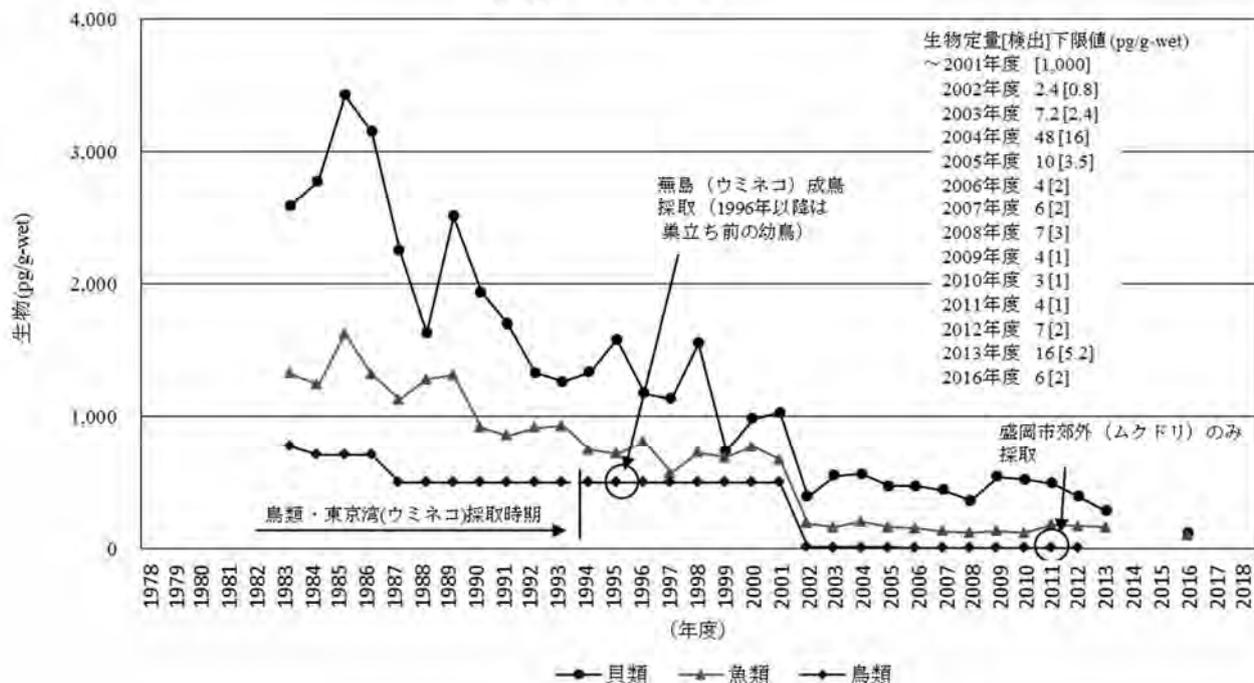
[7-2] *trans*-クロルデン



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 2014年度から2016年度は調査を実施していない。

図 6-2-1 *trans*-クロルデンの底質の経年変化 (幾何平均値) (参考)

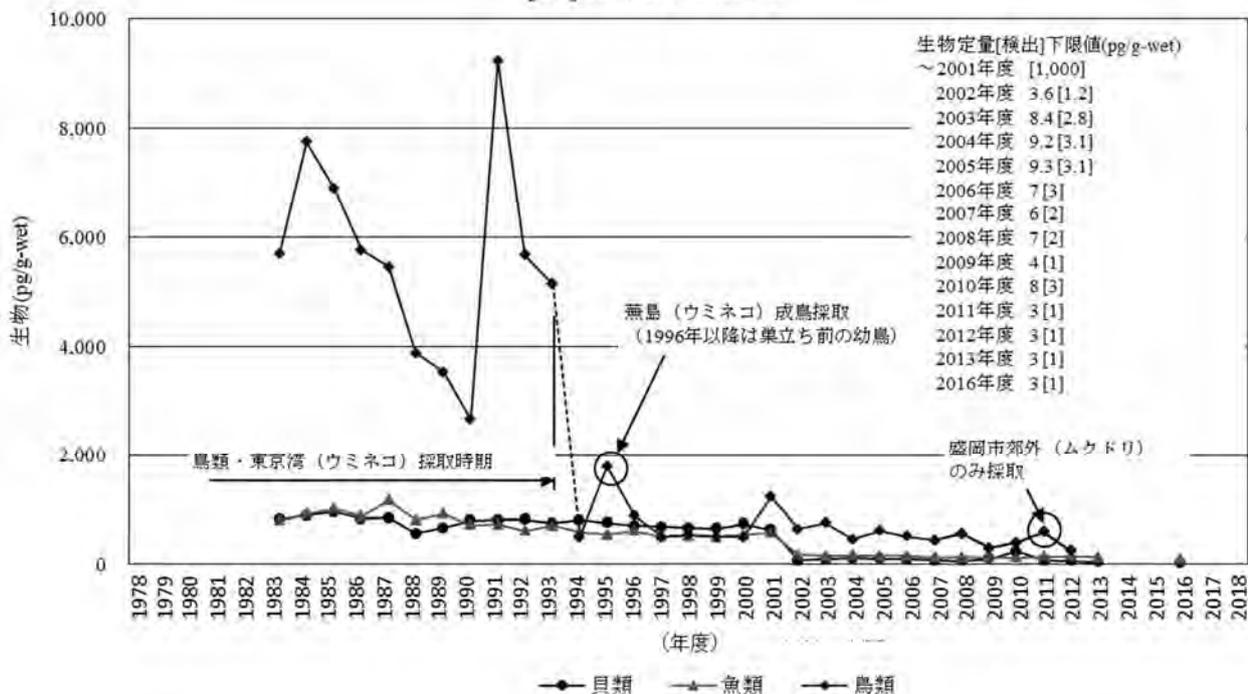
[7-2] trans-クロルデン



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に連続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。
- (注3) 2014年度、2015年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 6-2-2 trans-クロルデンの生物の経年変化 (幾何平均値) (参考)

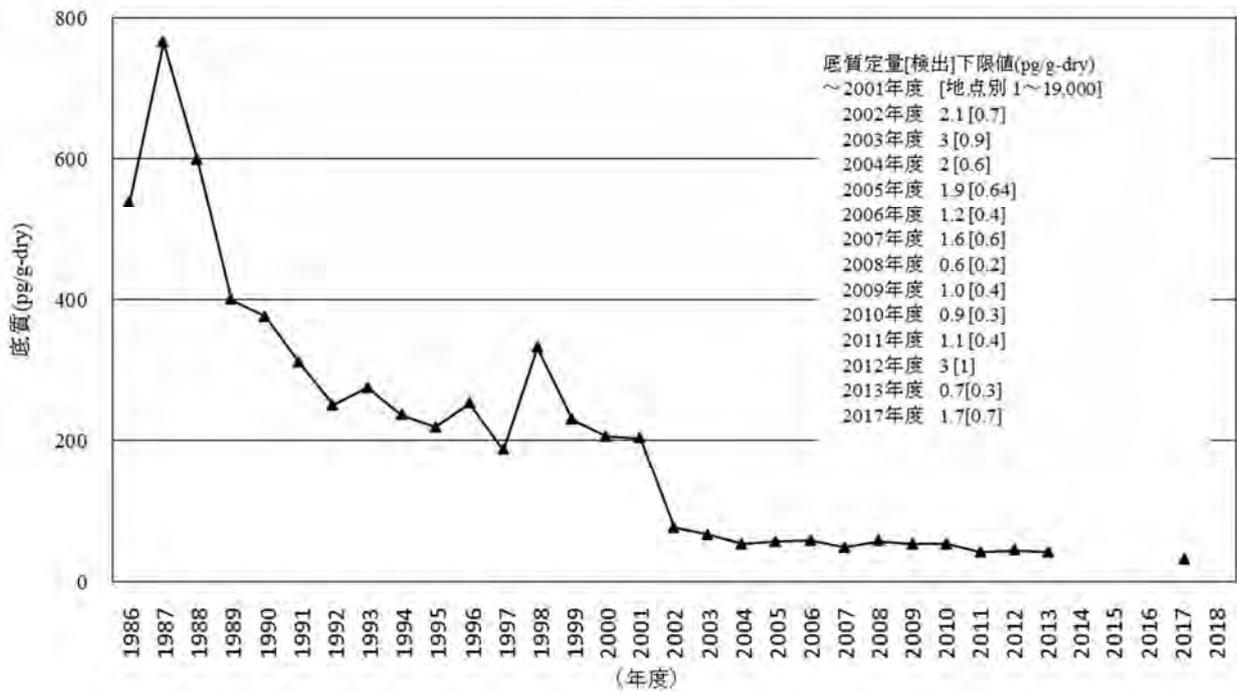
[7-3] オキシクロルデン



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に連続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。
- (注3) 2014年度、2015年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 6-3 オキシクロルデンの生物の経年変化 (幾何平均値) (参考)

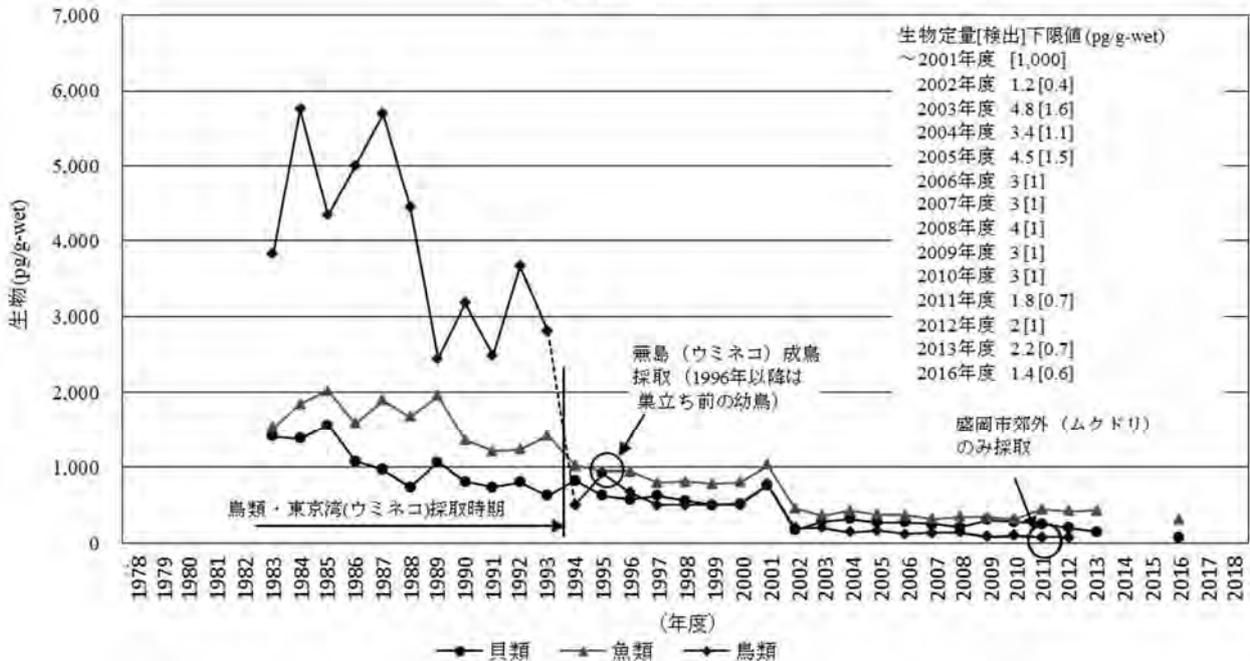
[7-4] *cis*-ノナクロル



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2014年度から2016年度は調査を実施していない。

図 6-4-1 *cis*-ノナクロルの底質の経年変化（幾何平均値）（参考）

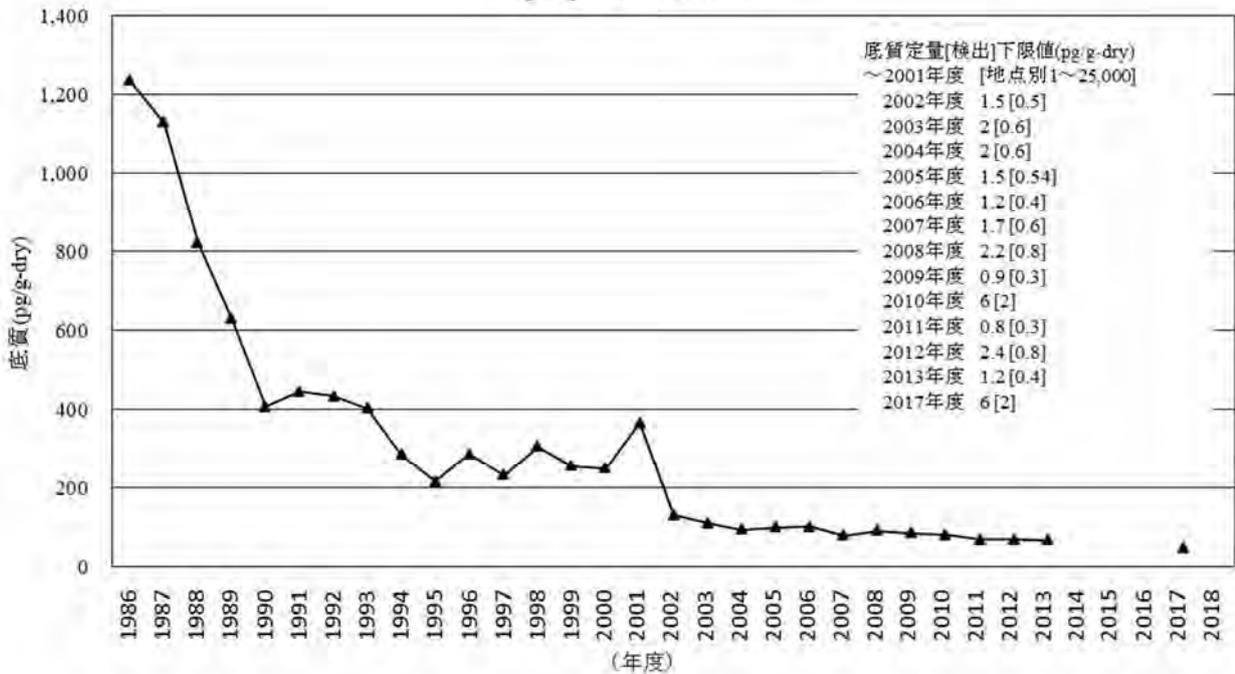
[7-4] *cis*-ノナクロル



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。  
 (注3) 2014年度、2015年度及び2017年度は調査を実施していない。

図 6-4-2 *cis*-ノナクロルの生物の経年変化（幾何平均値）（参考）

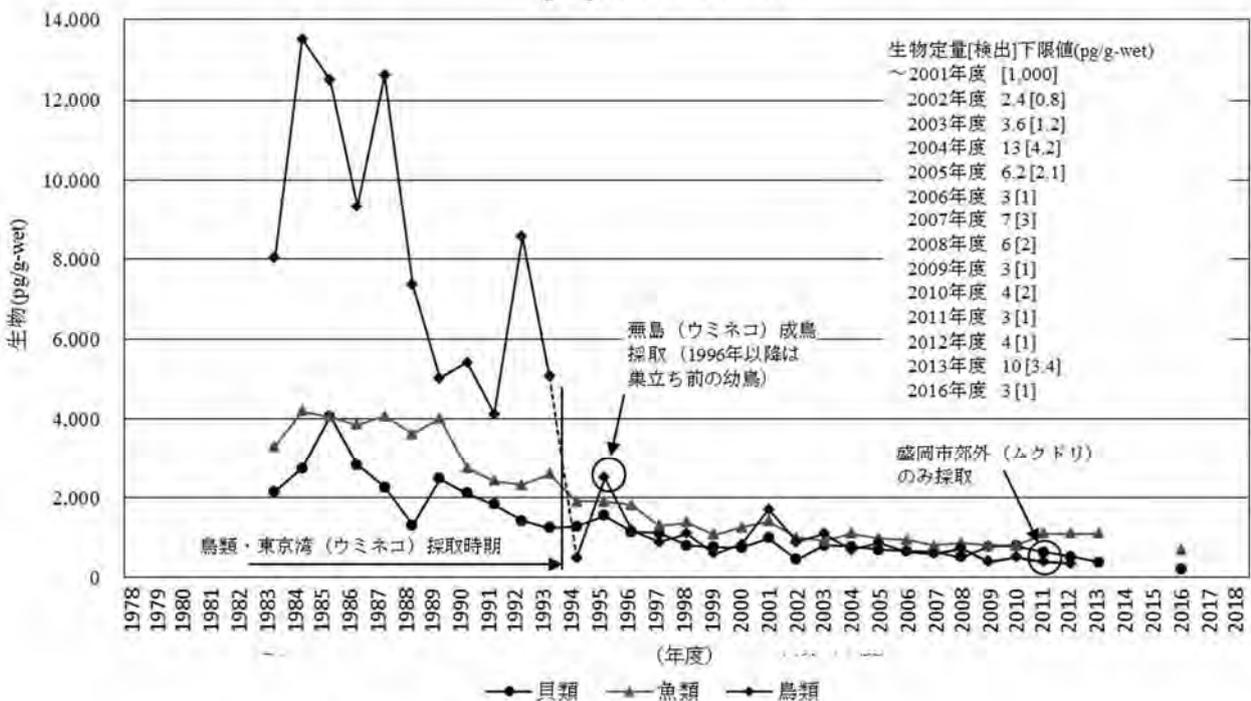
[7-5] *trans*-ノナクロル



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 2014年度から2016年度は調査を実施していない。

図 6-5-1 *trans*-ノナクロルの底質の経年変化（幾何平均値）（参考）

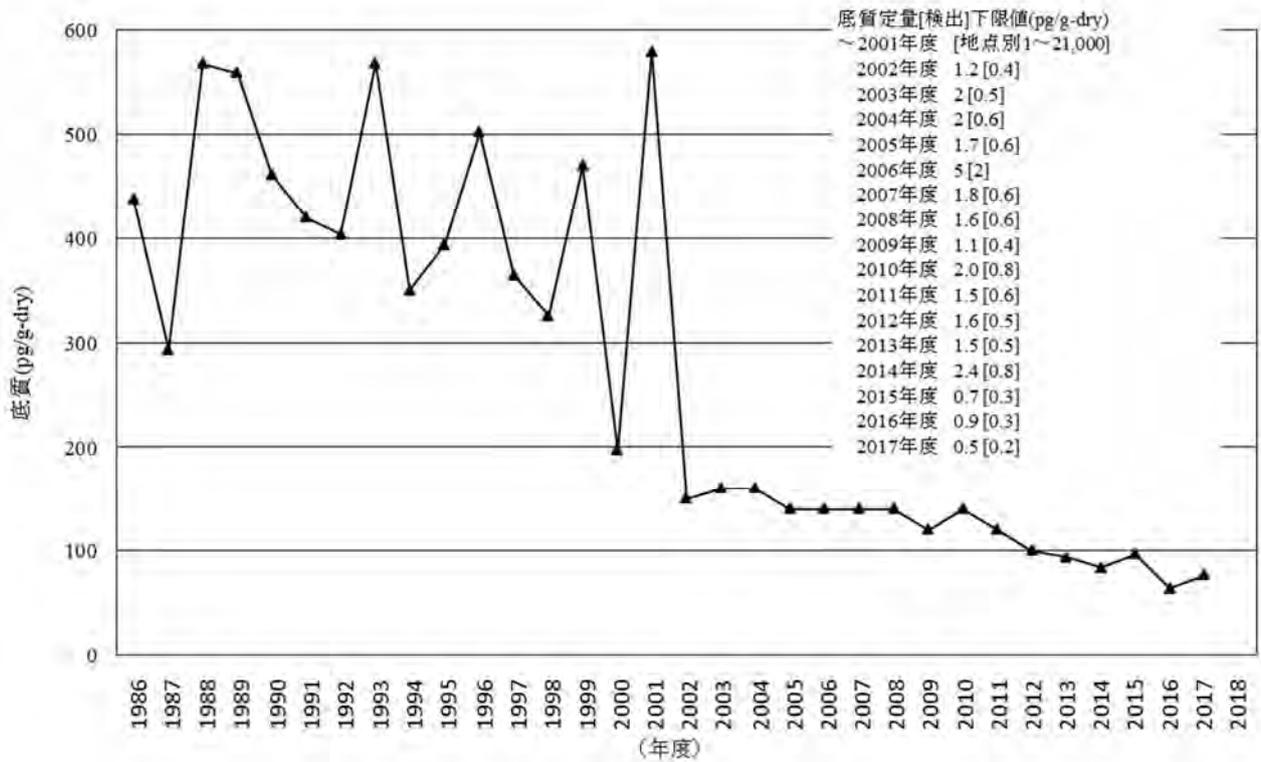
[7-5] *trans*-ノナクロル



(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。  
 (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。  
 (注3) 2014年度、2015年度及び2017年度は調査を実施していない。

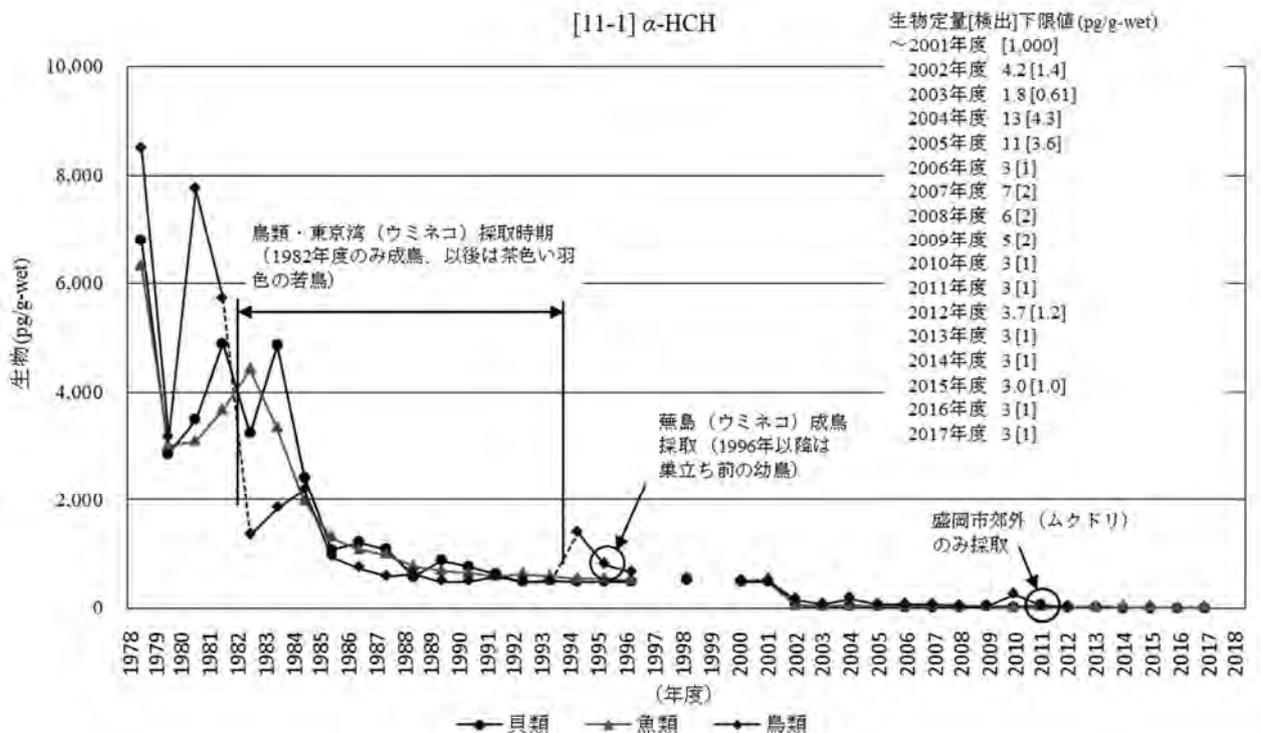
図 6-5-2 *trans*-ノナクロルの生物の経年変化（幾何平均値）（参考）

[11-1]  $\alpha$ -HCH



(注) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

図 7-1-1  $\alpha$ -HCH の底質の経年変化 (幾何平均値) (参考)

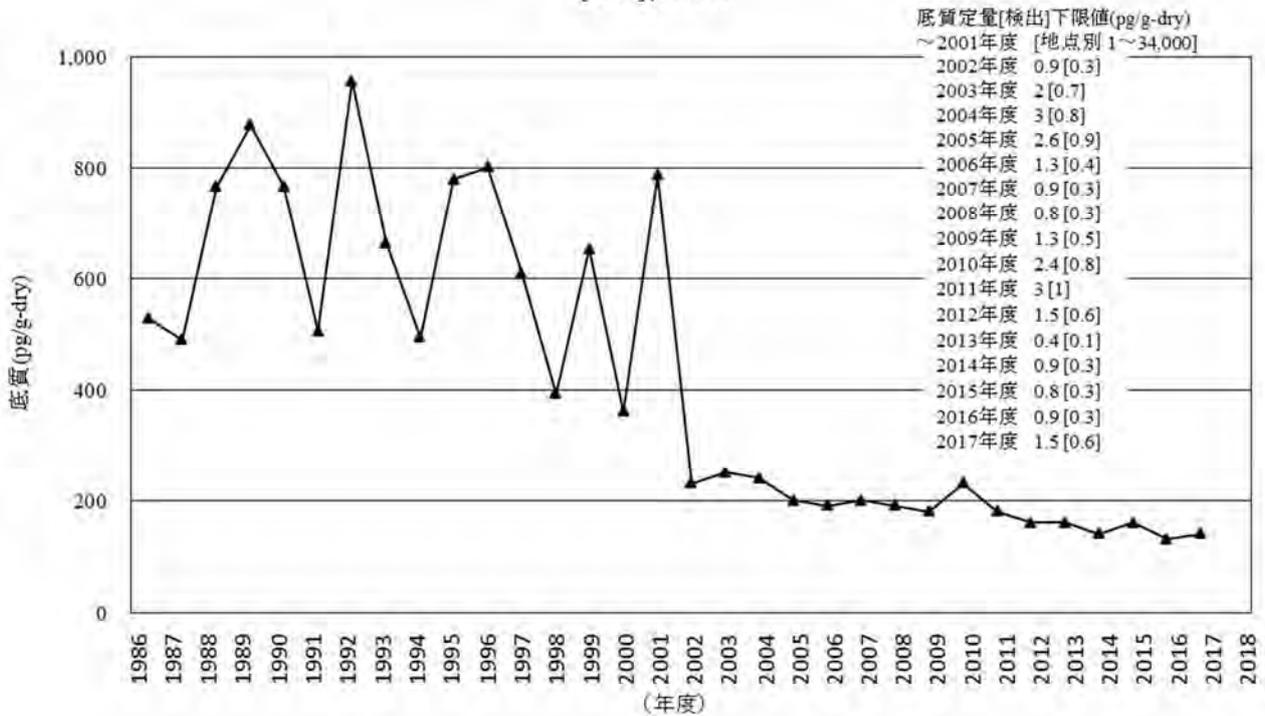


(注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に連続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。

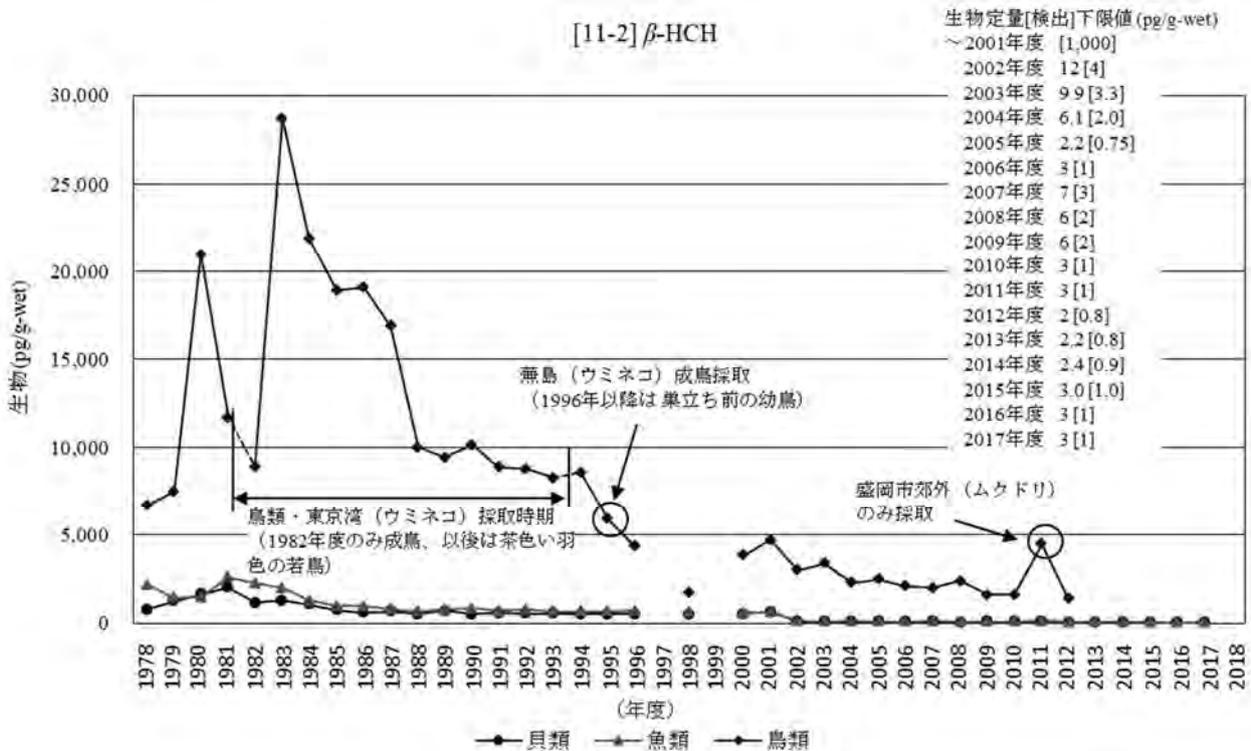
図 7-1-2  $\alpha$ -HCH の生物の経年変化 (幾何平均値) (参考)

[11-2]  $\beta$ -HCH



(注) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

図 7-2-1  $\beta$ -HCH の底質の経年変化 (幾何平均値) (参考)

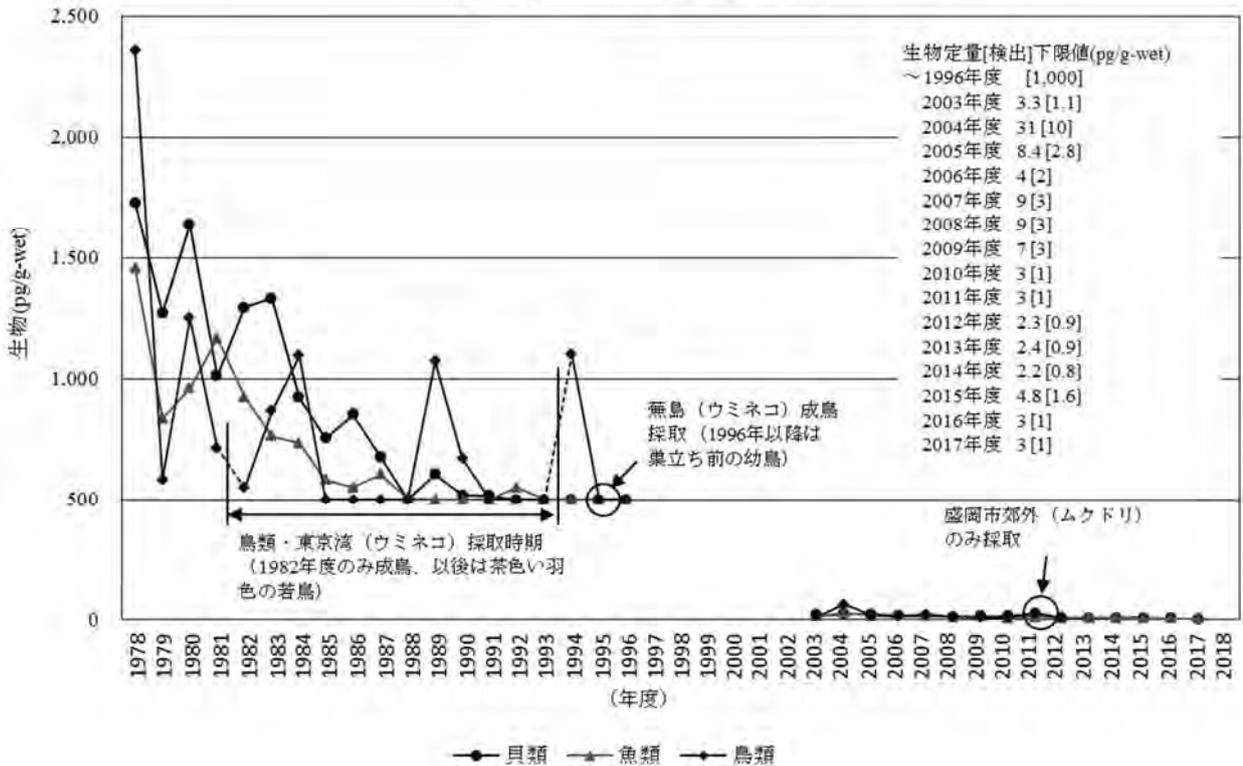


(注 1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。

(注 2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。

図 7-2-2  $\beta$ -HCH の生物の経年変化 (幾何平均値) (参考)

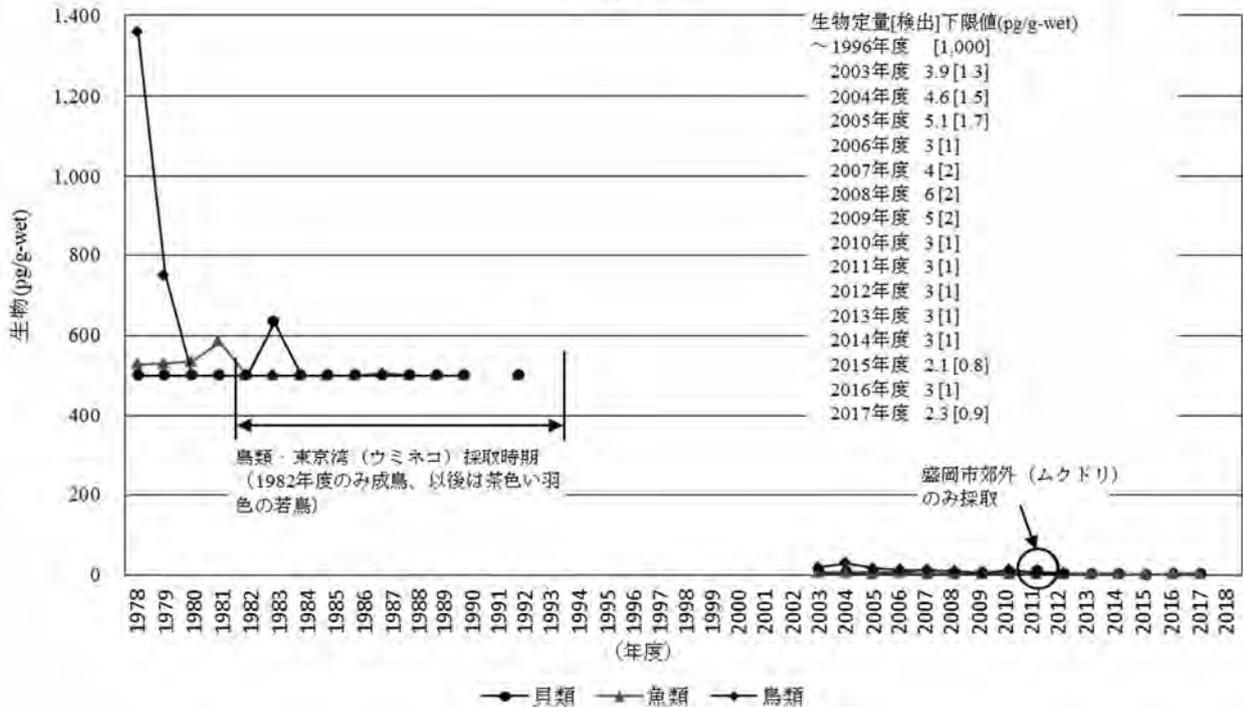
[11-3]  $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。

図7-3  $\gamma$ -HCH (別名: リンデン) の生物の経年変化 (幾何平均値) (参考)

[11-4]  $\delta$ -HCH



- (注1) 2002年度から2009年度は、各地点における算術平均値を求め、その算術平均値から全地点の幾何平均値を求めた。
- (注2) 鳥類は2013年度に調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012年度までの結果と2013年度以降の結果に継続性がないため、2013年度以降の結果を示していない。

図7-4  $\delta$ -HCH の生物の経年変化 (幾何平均値) (参考)

●参考資料2 経年分析の方法等に関する補足説明

・対数線形回帰モデル

環境中に残留している化学物質の濃度減少は、1次反応（図1（左）：濃度の高低によらず、ある一定の期間において一定の割合で減少する反応）を仮定するとき、図1（右）に示すように濃度の対数と時間との関係は線形で回帰できるため、対数線形回帰モデルを利用することとした。

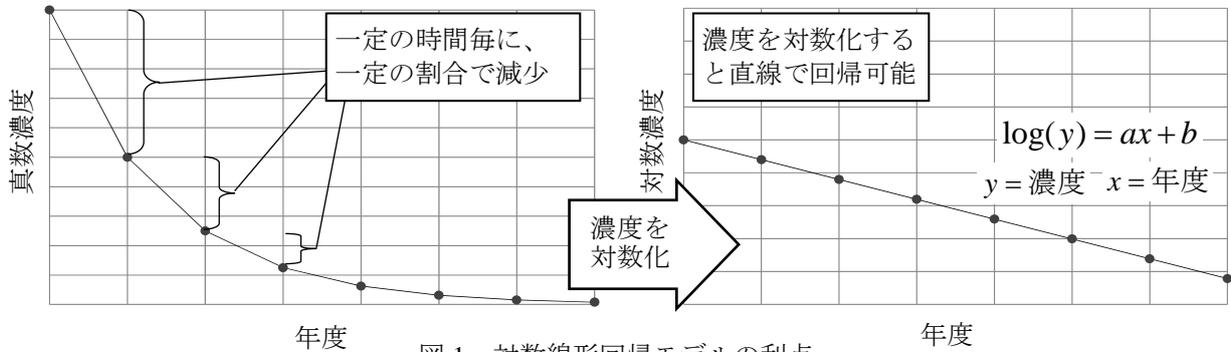


図1 対数線形回帰モデルの利点

環境中に残留している化学物質の濃度分布が、図2（左）に示すような傾向であるとき、図2（右）のように対数正規分布で近似することが出来る。

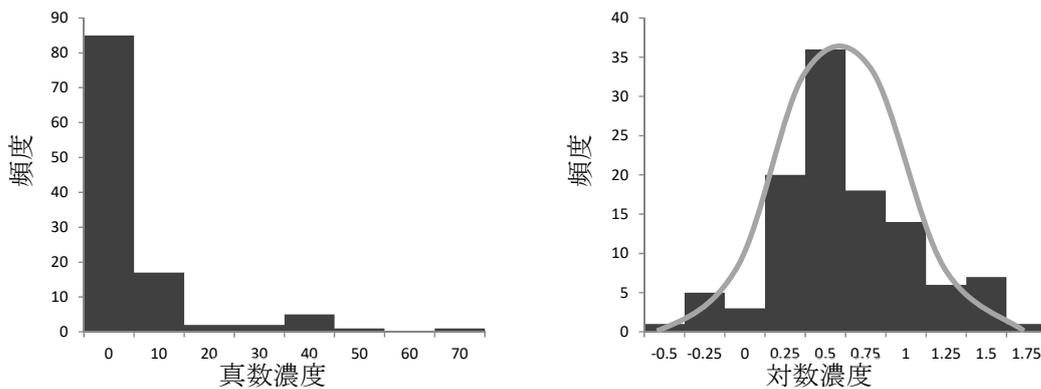


図2 真数及び対数による濃度分布

更に、図3に示すとおり、真数において作成する線形回帰の傾きは時間に対して一定の割合で濃度が減少する場合、低濃度に比べ、より高濃度のデータ変動の影響を受けやすい。しかし、対数濃度では高濃度と低濃度でデータの変動の影響は等価となるため、全体の傾向を一つの傾きで評価できる。

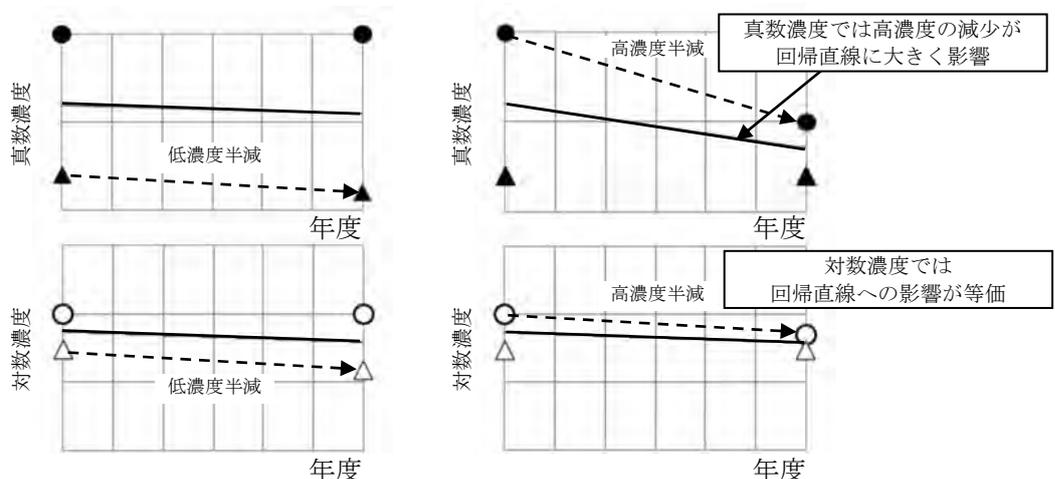


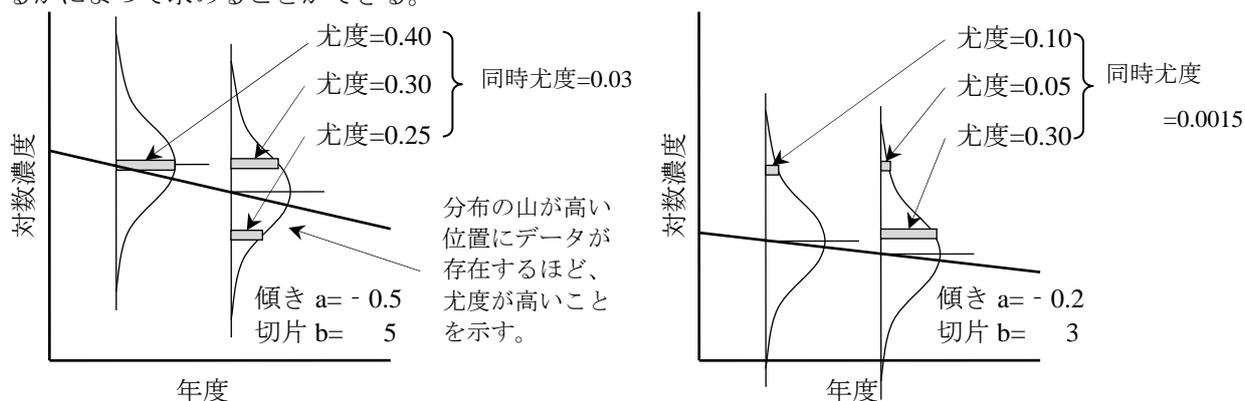
図3 対数線形回帰モデルにおける濃度変動の影響

・パラメトリックな残差分布を仮定しない最尤推定法<sup>さいゆうすいていほう</sup>

経年変化解析を行うために直線回帰を行う場合には、最小二乗法による回帰直線がよく利用される手法であるが、前提条件として残差分布が正規分布である必要がある。しかし、本手法では、回帰直線を算出する際にパラメトリックな残差分布を仮定せず、正規分布以外のデータについても直線回帰を行うことができる。

最尤推定法とは「最も尤<sup>もつと</sup>もらしい」パラメータを探索する方法である。回帰直線を算出する場合には傾き $a$ 及び切片 $b$ の2つのパラメータに対して様々な値を代入し、その結果として算出された回帰直線が「最も尤<sup>もつと</sup>もらしいとき」のパラメータを最も適した回帰直線とすることとした。

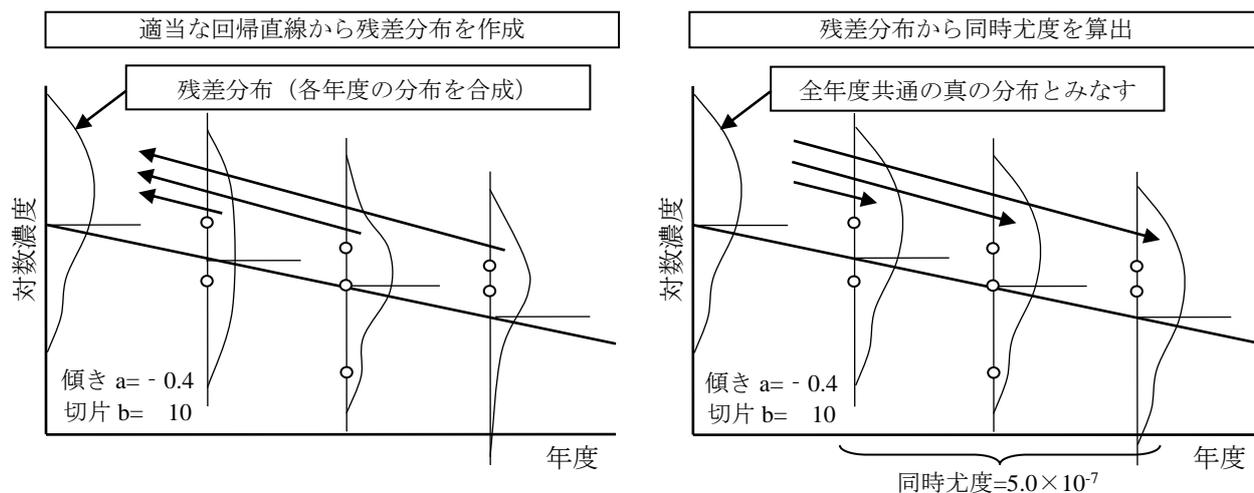
この「最も尤<sup>もつと</sup>もらしいとき」とは、図4に示すように、回帰直線を算出した際に各データの尤度が最も高くなる事とし、データが複数ある場合には各データの尤度を全て掛け算した値（同時尤度）が最も高くなることとした。また、各データの尤度は、母集団の確率密度分布において、その分布のどの位置にデータが存在するかによって求めることができる。



より同時尤度が高い左図の回帰直線がより適しており、最も尤<sup>もつと</sup>もらしい回帰直線は、 $a = -0.5, b = 5$ であると判断する。

図4 最尤法による最適な回帰直線の決定方法

各解析データはそれぞれで特徴的な分布を持っている場合が多いため、経年変化解析には図5に示すように、回帰直線からの残差で表した各年度の残差分布を作成し、その後足し合わせた各年度共通の残差分布を用いて解析することとした。



例において、適当な回帰直線  $a = -0.4, b = 10$  による同時尤度は  $5.0 \times 10^{-7}$  である。同様に様々な回帰直線で同時尤度を算出し、最も平均尤度の大きい回帰直線を最適な回帰直線とした。

図5 最尤法に用いる残差分布の算出と最適な回帰直線の決定方法

・AIC（赤池情報量規準）

AIC（赤池情報量規準）とは、有効なモデルの選択基準の代表的な指標である。

回帰モデルではパラメータを増やすほどデータに対する誤差は小さくなる傾向にあるが、モデルが複雑となるため、必ずしも良いモデルになるとは限らない。AICは、パラメータ数が増えることを不適として評価を修正する性質を持つことから、パラメータ数を考慮してより良いモデルを把握するための指標となる。また、モデルの母集団の分布に制限もない。これらの理由からAICを用いて最適なパラメータ数のモデルを選択することとした。以下にAICの算出式を示す。

$$AIC = -2 \times \text{最大対数尤度} + 2 \times \text{モデルのパラメータ数}$$

最尤法を用いて求めた回帰直線は、図6に示すように年度をパラメータとする1次式である。この対数線形回帰モデルから計算される $AIC_1$ と、回帰直線の傾きが偶然の変動によるもので全体を代表する一定値から変動しないと考える0次式（傾き0における対数線形回帰直線モデル）から計算される $AIC_0$ を比較し、どちらがより適切なモデルであるかを判断した。通常、AICの値の小さいモデルが適切と判断する。更に、AICの差が少ない場合にも安全性を見込んで適切に判断できるよう、ベイズの定理を利用して事後確率の考え方を導入した。

$$p_1 = \exp \{-0.5 AIC_1\} / (\exp \{-0.5 AIC_0\} + \exp \{-0.5 AIC_1\})$$

（ $p_1$ : 1次モデルの事後確率、 $AIC_1$ : 1次式におけるAIC、 $AIC_0$ : 0次式におけるAIC）

1次モデルのAIC事後確率 $p_1$ は0から1の値をとり、1に近い値ほど1次式に近い事を示す。1次式のAIC事後確率 $p_1$ が0.950以上の場合には安全性を見込んだ上で、経年変化において傾きを持つことが適切と判断した。また、0.950のしきい値は危険率5%の考え方を参考に設定することとした。

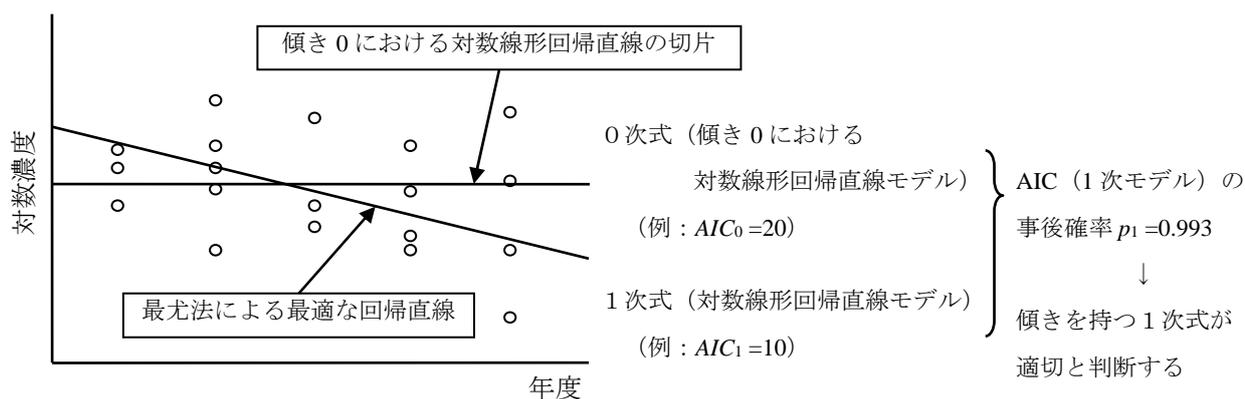


図 6 AIC を利用した傾きの有無の判断方法

・ブートストラップ法による平均値の差の検定

一般的に用いられる t 検定による平均値の差の検定は、前提として正規性が得られている 2 つのデータ群間を比較する場合に用いる手法である。しかし、ブートストラップ法による平均値の差の検定では、ランダムサンプリングによる繰り返し抽出によって正規性のない母集団に漸近正規性を持たせることが可能なため、平均値を比較する 2 群の各データがどのような分布であっても平均値の差の検定を行うことが可能となる。

具体的には図7に示すように、前期6か年（A群）と後期6か年（B群）において有意に濃度差があるか確認するために、平均値の差の検定を実施した。2つの標本に対し、それぞれ無作為に抽出した際の平均値を求め、それを繰り返すことにより得られる平均値の分布は t 分布であるが、自由度が極めて大きいことからそれぞれ正規分布とみなすことが出来ることを利用し、標本間で差があるか検定する方法である。

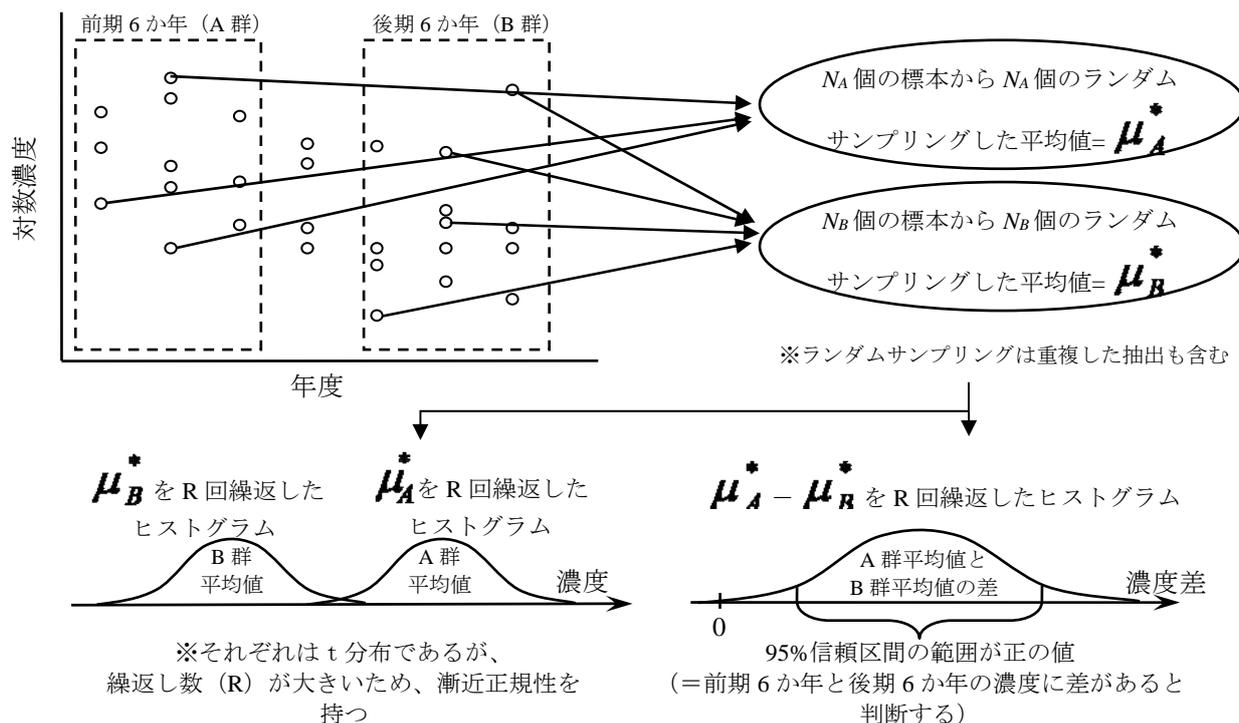


図7 ブートストラップ法による平均値の差の検定手法

繰り返し抽出して算出した平均値の差の分布において、95%信頼区間が正（負）の範囲にある場合、前期6か年と比較して後期6か年は有意に低（高）値であると判断した。

・検出した検体数の割合による経年変化傾向の解析

解析の対象とした期間における最も高い検出下限値に検出した検体数の割合に着目し、その検出下限値を下回る地点を「低濃度地点」と定義し、その低濃度地点数の増加（または減少）傾向を確認することとした。各物質の調査結果は、検出・不検出のデータとして考え、二項分布を想定した最尤法による回帰直線を算出することとし、同時尤度の値が最も高い際のパラメータ a, b を尤もらしい回帰直線とした。なお、安全を見込んだ上で事後確率の考え方を利用し、1次式の AIC 事後確率  $P_1$  が 0.950 以上の場合に傾きを持つと判断した。

また、各年度で検出下限値が異なることによる影響を除外するため、調査年度で最も高い検出下限値を統一検出下限値とし、統一した検出下限値における各調査年度の低濃度地点数の割合を算出して解析した。

●参考資料3 カワウの卵の測定結果

2018年度のモニタリング調査において総PCB、HCB、DDT類、トキサフェン類、マイレックス、ポリブロモジフェニルエーテル類、ペンタクロロベンゼン、1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン（HBCD）、総ポリ塩化ナフタレン、ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類、短鎖塩素化パラフィン類及びジコホルの12物質（群）について、カワウの卵を対象に調査を実施した。山梨県水産技術センターにより笛吹川下曾根橋（甲府市）、兵庫県農政環境部環境管理局水大気課及び伊丹市市民自治部環境政策室みどり自然課により昆陽池においてカワウの卵を採取し、卵黄と卵白をそれぞれ検体として対象物質濃度の測定を行った。試料採取地点については図1に、検体の概要については表1に、測定結果については表2に示すとおりである。

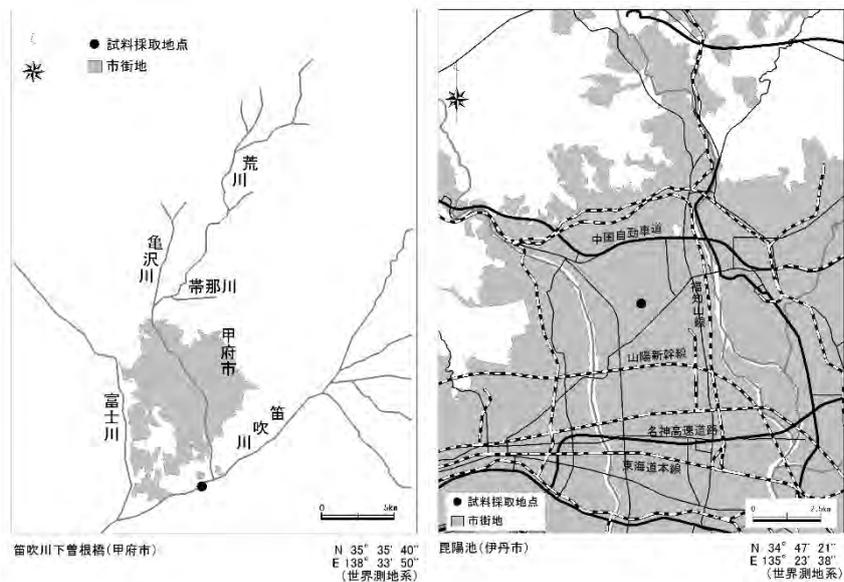


図1 カワウの卵採取地点

表1 2018年度モニタリング調査（生物 カワウの卵）検体の概要

調査地点	検体番号	採取年月	個体数	卵高 (cm) × 卵径 (cm) ( ) 内は算術平均値	重量 (g)		
					( ) 内は算術平均値	[ ] 内は殻なしの重量	
笛吹川下曾根橋 (甲府市)	1	2018年	12	4.76×3.10 ~ 6.20×3.99 ( 5.75×3.67 )	37.7 [31.8]	~ 44.4 [38.4]	( 42.2 [36.1] )
	2	2018年	11	5.70×3.18 ~ 6.56×3.99 ( 6.16×3.82 )	44.6 [36.8]	~ 47.1 [41.4]	( 45.8 [38.7] )
	3	2018年	11	5.86×3.71 ~ 9.00×4.10 ( 6.27×3.98 )	47.3 [40.4]	~ 53.1 [45.8]	( 50.0 [42.5] )
昆陽池 (伊丹市)	1	2018年	3	5.86×2.69 ~ 6.34×4.14 ( 6.04×3.58 )	44.6 [39.0]	~ 52.4 [45.8]	( 42.2 [36.1] )

表2 カワウの卵の測定結果

単位：pg/g-wet

物質調査番号	調査対象物質	定量[検出]下限値	カワウの卵				(再掲) カワウの亜成鳥/幼鳥※※	
			笛吹川下曾根橋 (甲府市)		昆陽池 (伊丹市)		琵琶湖北湖 (竹生島沖)	天神川 (倉吉市)
			卵白	卵黄	卵白	卵黄		
[1]	総 PCB	63 [21]	3,200	2,600,000	27,000	12,000,000	85,000	130,000
[2]	HCB	3.3 [1.1]	96	41,000	110	34,000	2,600	3,100
[6]	DDT 類							
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	3 [1]	3	3,600	14	5,900	63	29
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	3 [1]	1,600	1,600,000	1,700	670,000	22,000	290,000
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	1.4 [0.6]	tr(1.1)	270	8.7	1,300	260	210
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	2.7 [0.9]	nd	82	nd	78	tr(2.5)	nd
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	3 [1]	nd	11	nd	31	tr(1)	tr(1)
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	2.4 [0.9]	nd	17	tr(1.2)	110	9.9	3.7
[9]	トキサフェン類							
	[9-1]Parlar-26	21 [8]	nd	990	nd	300	54	53
	[9-2]Parlar-50	16 [6]	nd	300	nd	490	tr(13)	tr(11)
	[9-3]Parlar-62	100 [40]	nd	nd	nd	nd	nd	nd
[10]	マイレックス	1.4 [0.5]	3.6	2,500	1.6	920	47	260
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類							
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	14 [5]	150	45,000	50	10,000	310	280
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	11 [4]	32	23,000	tr(10)	5,800	140	240
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	21 [8]	28	31,000	tr(14)	10,000	330	1,300
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	15 [6]	nd	12,000	tr(6)	6,800	110	480
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	16 [6]	nd	12,000	nd	6,600	61	580
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	40 [20]	nd	480	nd	430	53	46
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	240 [80]	nd	390	nd	950	500	tr(90)
[17]	ペンタクロロベンゼン	15 [5]	20	6,200	32	8,100	280	480
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類							
	[19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	23 [9]	160	39,000	170	30,000	590	610
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	22 [8]	nd	nd	nd	nd	nd	nd
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	21 [8]	nd	260	nd	260	nd	nd
[20]	総ポリ塩化ナフタレン※	36 [12]	tr(16)	15,000	50	30,000	250	220
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類							
	[22-1] ペンタクロロフェノール	30 [10]	110	13,000	tr(10)	910	180	1,200
	[22-2] ペンタクロロアニソール	6 [2]	tr(3)	530	nd	230	20	11
[23]	短鎖塩素化パラフィン類							
	[23-1] 塩素化デカン類	1,200 [400]	nd	nd	nd	nd	tr(600)	nd
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	1,800 [700]	nd	nd	nd	nd	nd	nd
	[23-3] 塩素化ドデカン類	1,500 [600]	nd	nd	nd	nd	nd	nd
	[23-4] 塩素化トリデカン類	1,400 [500]	nd	nd	nd	tr(2600)	nd	nd
[24]	ジコホル	30 [10]	nd	nd	nd	nd	nd	nd

(注1) ※は同族体ごとの定量[検出]下限値の合計値とした。

(注2) ※※は本編において既出であるが、カワウの卵からの成長段階の参考として再掲載した。琵琶湖北湖 (竹生島沖) のカワウは亜成鳥、天神川 (倉吉市) のカワウは幼鳥である。

#### ●参考資料 4 POPs 残留状況の高頻度監視結果

POPs 条約では、化学物質の存在並びに当該化学物質の地域的及び世界的規模の自然の作用による移動に関する比較可能な監視に基づいて、その有効性を評価することが定められている。

我が国では、この有効性評価に資することを目的として、東アジア POPs モニタリングネットワークにおける活動のなかで、沖縄県辺戸岬（国頭村）及び長崎県五島福江島（五島市）において大気中の POPs 残留状況を高頻度で監視している。

POPs 残留状況の高頻度監視を実施することで得られた結果の年平均値は表 1 に、定量[検出]下限値は表 2 に、2017 年度の経月変化は表 3 に、測定開始からの経月変化は図 1~図 21 にそれぞれ示すとおりである。なお、全検体のうち不検出の割合が 3 割を超過した場合には、図示していない。

辺戸岬においては、各月ともハイボリュームエアースンプラー（HV）（ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンについてはローボリュームエアースンプラー（LV））により連続した 3 日それぞれで試料を採取しており、各月の濃度として 3 日間の濃度の算術平均値を用いて集計している。

五島福江島においては、2014 年度から 2016 年度までは各月ともミドルボリュームエアースンプラー（MV）により 7 日間かけて試料を採取しており、その測定結果を各月の濃度として集計している（ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンについては各月ともローボリュームエアースンプラー（LV）により連続した 3 日それぞれで試料を採取しており、各月として 3 日間の濃度の算術平均値を用いて集計している。）2017 年度及び 2018 年度は 10 月～3 月の半期のみについて、各月ともハイボリュームエアースンプラー（HV）（ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンについてはローボリュームエアースンプラー（LV））により連続した 3 日それぞれで試料を採取しており、各月の濃度として 3 日間の濃度の算術平均値を用いて集計している。

また、五島福江島では、POPs 条約対象物質以外に、PAH 類の試料採取及び測定も合わせて実施しており、それらの結果についても本紙において示している。

分析法概要及び個別の測定結果については、環境省ホームページに「平成 30 年度版 化学物質と環境 調査結果報告書詳細版」に添付している。

表1 POPs残留状況の高頻度監視の実施結果（年平均値）

物質調査番号	調査対象物質	沖縄県辺戸岬 大気 (pg/m <sup>3</sup> )										長崎県五島福江島 大気 (pg/m <sup>3</sup> )				
		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2014	2015	2016	2017	2018
[1]	総 PCB	---※	80	46	49	47	50	38	56	58	54	37	42	50	37	35
[2]	HCB	120	110	110	110	110	110	100	110	120	100	140	140	150	96	94
[3]	アルドリリン	0.08	0.10	0.18	0.11	0.10	0.08	0.15	0.11	0.11	0.17	0.27	0.60	0.15	0.07	0.13
[4]	ディルドリン	1.6	1.4	1.3	0.98	1.0	1.1	1.2	1.1	1.2	0.98	1.3	1.8	1.6	0.71	0.50
[5]	エンドリン	tr(0.08)	tr(0.08)	tr(0.08)	tr(0.06)	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07	0.06	0.06	0.07	0.06	tr(0.04)	tr(0.04)
[6]	DDT 類															
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	1.5	0.82	0.57	0.54	0.43	0.51	0.38	0.34	0.36	0.84	0.44	0.44	0.45	0.22	1.0
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	1.4	1.3	0.98	1.3	0.92	0.95	0.88	0.77	0.76	0.49	1.0	1.0	1.0	0.66	0.69
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	0.14	0.098	0.06	0.06	0.058	0.079	0.049	0.037	0.032	0.038	0.085	0.074	0.072	0.035	0.053
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	1.1	0.70	0.54	0.48	0.40	0.40	0.36	0.30	0.34	0.34	0.46	0.48	0.44	0.21	0.38
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	0.33	0.28	0.17	0.23	0.18	0.15	0.13	0.13	0.14	0.088	0.19	0.18	0.17	0.11	0.12
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	0.14	0.11	0.06	0.08	0.06	0.08	0.06	tr(0.04)	tr(0.04)	tr(0.03)	0.10	0.09	0.09	tr(0.05)	tr(0.05)
[7]	クロルデン類															
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン	4.5	3.9	4.2	2.8	3.1	2.9	3.6	3.1	3.7	3.1	2.9	4.1	4.0	1.6	0.91
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン	4.9	4.3	4.7	3.1	3.2	3.2	4.2	3.5	3.6	3.3	3.0	4.1	3.9	1.8	0.95
	[7-3] オキシクロルデン	0.62	0.49	0.44	0.37	0.38	0.37	0.36	0.41	0.34	0.28	0.29	0.32	0.32	0.18	0.15
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル	0.56	0.47	0.46	0.31	0.35	0.35	0.39	0.34	0.41	0.36	0.35	0.47	0.49	0.17	0.10
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル	4.3	3.5	3.7	2.5	2.8	2.7	3.1	2.9	3.1	2.8	2.4	3.3	3.3	1.3	0.77
[8]	ヘプタクロル類															
	[8-1] ヘプタクロル	0.84	0.82	0.92	0.61	0.65	0.52	0.71	0.66	0.62	0.45	0.40	0.49	0.54	0.32	0.18
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロル エポキシド	0.59	0.54	0.48	0.45	0.42	0.42	0.35	0.37	0.35	0.35	0.43	0.44	0.41	0.27	0.24
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロル エポキシド	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
[9]	トキサフェン類															
	[9-1] Parlar-26	tr(0.16)	tr(0.17)	tr(0.13)	nd	tr(0.2)	nd	nd	nd	nd	---	tr(0.2)	nd	nd	nd	tr(0.1)
	[9-2] Parlar-50	nd	tr(0.08)	tr(0.06)	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	---	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	nd
	[9-3] Parlar-62	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	---	nd	nd	nd	nd	nd
[10]	マイレックス	0.20	0.17	0.14	0.16	0.18	0.14	0.14	0.13	0.18	0.14	0.17	0.16	0.16	0.063	0.055
[11]	HCH類															
	[11-1] $\alpha$ -HCH	15	11	15	13	11	7.9	8.1	8.9	6.5	6.8	13	14	14	3.8	4.1
	[11-2] $\beta$ -HCH	0.94	0.84	0.80	0.78	0.81	0.70	0.59	0.63	0.54	0.53	0.77	0.78	0.81	0.33	0.35
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)	3.3	2.1	2.8	2.5	2.4	1.8	1.7	2.0	1.5	1.4	2.4	2.5	2.5	0.83	0.90
	[11-4] $\delta$ -HCH	0.10	0.11	0.10	0.09	0.10	0.07	0.06	tr(0.10)	tr(0.07)	tr(0.06)	0.10	0.11	0.12	tr(0.05)	tr(0.05)
[12]	クロルデコン		nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	---	tr(0.01)	tr(0.01)	tr(0.01)	tr(0.01)	tr(0.01)
[13]	ヘキサプロモビフェニル類		tr(0.1)	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	---	nd	nd	nd	nd	nd
[14]	ポリプロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)															
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類		0.33	0.21	tr(0.2)	0.5	0.7	0.5	0.3	0.38	0.4	0.6	0.6	0.7	0.31	tr(0.19)
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類		tr(0.09)	tr(0.07)	nd	0.24	0.40	tr(0.17)	0.22	0.23	0.20	0.26	0.25	0.41	tr(0.13)	tr(0.08)
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類		tr(0.06)	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	---	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	nd
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類		tr(0.1)	tr(0.1)	nd	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	---	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類		tr(0.12)	tr(0.08)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	---	tr(0.3)	tr(0.2)	tr(0.1)	tr(0.2)	0.2
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類		tr(0.5)	nd	tr(0.3)	nd	tr(0.5)	nd	tr(0.5)	nd	---	tr(0.8)	nd	tr(0.5)	nd	tr(0.4)
	[14-7] デカプロモジフェニルエーテル		tr(4)	nd	nd	tr(3)	tr(3)	nd	tr(5)	nd	---	tr(4)	nd	tr(5)	nd	tr(3)

物質調査番号	調査対象物質	沖縄県辺戸岬 大気 (pg/m <sup>3</sup> )										長崎県五島福江島 大気 (pg/m <sup>3</sup> )				
		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2014	2015	2016	2017	2018
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)		4.8	5.5	3.9	5.1	6.0	4.8	5.2	6.9	5.9	8.1	6.0	8.1	3.2	1.6
[16]	ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)		23	7.1	4.5	11	7.6	5.9	6.8	14	7.8	15	15	17	9.2	13
[17]	ペンタクロロベンゼン		48	51	52	54	53	48	56	67	58	67	73	82	60	55
[18]	エンドスルフェン類															
	[18-1] $\alpha$ -エンドスルフェン			30	13	14	13	11	8.5	18	7.6	32	27	20	3.3	3.3
	[18-2] $\beta$ -エンドスルフェン			1.6	0.8	0.9	1.0	0.8	0.5	1.2	0.4	2.8	2.1	1.4	0.5	0.5
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン類															
	[19-1] $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン				1.8	tr(0.2)	0.3	0.3	0.4	tr(0.2)	---	1.1	0.8	0.7	0.7	1.1
	[19-2] $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン				0.6	tr(0.1)	tr(0.10)	tr(0.1)	tr(0.2)	tr(0.1)	---	0.39	0.3	0.3	0.3	0.5
	[19-3] $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン				1.6	tr(0.2)	0.28	0.3	0.7	0.4	---	1.1	1.0	1.3	0.8	1.0
	[19-4] $\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン				nd	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	nd	nd	---	tr(0.11)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)
	[19-5] $\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン				nd	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	nd	---	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	nd	nd
[20]	総ポリ塩化ナフタレン								17	14	13			tr(21)	26	24
[21]	ヘキサクロロプロタ-1,3-ジエン								890	2,800	4,600			1,000	5,100	3,800
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類															
	[22-1] ペンタクロロフェノール								1.0	0.8	0.8			1.2	1.0	0.8
	[22-2] ペンタクロロアニソール								8	8	6			10	tr(4)	5
[23]	[23]短鎖塩素化パラフィン														390	500
	[23-1] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が10のもの)														160	180
	[23-2] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が11のもの)														120	170
	[23-3] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が12のもの)														51	---
	[23-4] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が13のもの)														52	58

物質調査番号	調査対象物質	沖縄県辺戸岬 大気 (pg/m <sup>3</sup> )										長崎県五島福江島 大気 (pg/m <sup>3</sup> )						
		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2014	2015	2016	2017	2018		
[24]	PAH類																	
	[24-1] ビレン												310	180	190	310	390	
	[24-2] フルオランテン												410	290	270	510	670	
	[24-3] ベンゾ[a]アントラセン												50	25	tr(20)	43	58	
	[24-4] クリセン												190	130	110	200	340	
	[24-5] ベンゾ[a]ピレン												70	24	30	76	92	
	[24-6] ベンゾ[e]ピレン												100	56	60	110	150	
	[24-7] ベンゾ[b]フルオランテン												160	110	94	190	290	
	[24-8] ベンゾ[k]フルオランテン												60	34	30	61	92	
	[24-9] ベンゾ[g,h,i]ペリレン												90	55	50	100	140	
	[24-10] インデノ[1,2,3-c,d]ピレン												110	70	50	110	160	
	[24-11] ジベンゾ[a,c]アントラセン												tr(20)	nd	tr(10)	tr(10)	tr(10)	
[24-12] ジベンゾ[a,h]アントラセン												tr(20)	nd	nd	tr(11)	nd		

- (注1) 年平均値は各年度の月平均値を算術平均した値を示した。五島福江島の2014年度から2016年度の年平均値については、ヘキサクロブタ-1,3-ジエンはLV、その他の物質についてはMVで採取した測定値のみを集計して算術平均した。測定値は環境省ホームページに一覧表として掲載している。
- (注2) 総PCB及び総ポリ塩化ナフタレンは、総量としての結果のみを示しているが、各同族体およびコプラナーPCBの測定値は環境省ホームページに一覧表として掲載している。
- (注3) ■は未測定であることを意味する。
- (注4) ※：2009年度の4月から12月並びに2月及び3月のPCB類の大気については、モノクロロビフェニル及びジクロロビフェニルにおいて大気試料採取装置由来と考えられる汚染により濃度の増加が疑われたことから、総PCBも含めて欠測扱いとすることとし、年平均値としての集計も行わなかった。

表2 POPs残留状況の高頻度監視の実施結果（定量[検出]下限値）

物質 調査 番号	調査対象物質	大気 (pg/m <sup>3</sup> )									
		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[1]	総 PCB※	0.82 [0.30]	1.30 [0.56]	2.30 [0.91]	1.70 [0.66]	0.85 [0.31]	0.62 [0.22]	0.90 [0.39]	1.7 [0.6]	1.3 [0.4]	0.8 [0.3]
[2]	HCB	0.22 [0.08]	1.8 [0.7]	0.6 [0.2]	0.6 [0.2]	0.5 [0.2]	0.5 [0.2]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.4 [0.1]	0.3 [0.1]
[3]	アルドリン	0.04 [0.02]	0.06 [0.02]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.04 [0.02]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.06 [0.02]	0.06 [0.02]	0.07 [0.03]
[4]	ディルドリン	0.24 [0.09]	0.10 [0.04]	0.08 [0.03]	0.06 [0.02]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.06 [0.02]	0.08 [0.03]	0.09 [0.03]	0.09 [0.03]
[5]	エンドリン	0.10 [0.04]	0.10 [0.04]	0.09 [0.04]	0.07 [0.03]	0.06 [0.02]	0.05 [0.02]	0.06 [0.02]	0.06 [0.02]	0.06 [0.02]	0.05 [0.02]
[6]	DDT 類										
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	0.07 [0.03]	0.08 [0.03]	0.07 [0.03]	0.08 [0.03]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.06 [0.02]	0.06 [0.02]	0.08 [0.03]
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	0.04 [0.02]	0.05 [0.02]	0.08 [0.03]	0.09 [0.03]	0.04 [0.02]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.06 [0.02]	0.06 [0.02]	0.06 [0.02]
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	0.025 [0.009]	0.024 [0.009]	0.04 [0.01]	0.04 [0.01]	0.018 [0.007]	0.018 [0.007]	0.018 [0.007]	0.017 [0.007]	0.018 [0.007]	0.02 [0.008]
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	0.03 [0.01]	0.03 [0.01]	0.04 [0.01]	0.04 [0.01]	0.018 [0.007]	0.023 [0.009]	0.03 [0.01]	0.03 [0.01]	0.03 [0.01]	0.04 [0.01]
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	0.025 [0.009]	0.03 [0.01]	0.04 [0.02]	0.04 [0.01]	0.023 [0.009]	0.023 [0.009]	0.019 [0.007]	0.020 [0.008]	0.02 [0.008]	0.02 [0.008]
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	0.04 [0.01]	0.03 [0.01]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.06 [0.02]	0.06 [0.02]
[7]	クロルデン類										
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン	0.14 [0.05]	0.17 [0.06]	0.24 [0.09]	0.22 [0.08]	0.12 [0.05]	0.08 [0.03]	0.2 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.21 [0.08]
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン	0.17 [0.06]	0.23 [0.09]	0.3 [0.1]	0.4 [0.1]	0.15 [0.06]	0.11 [0.04]	0.3 [0.1]	0.4 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]
	[7-3] オキシクロルデン	0.04 [0.01]	0.03 [0.01]	0.07 [0.03]	0.08 [0.03]	0.03 [0.01]	0.06 [0.02]	0.06 [0.02]	0.06 [0.02]	0.05 [0.02]	0.06 [0.02]
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル	0.03 [0.01]	0.021 [0.008]	0.04 [0.02]	0.12 [0.05]	0.04 [0.02]	0.04 [0.02]	0.06 [0.02]	0.06 [0.02]	0.04 [0.02]	0.06 [0.02]
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル	0.09 [0.03]	0.12 [0.05]	0.18 [0.07]	0.24 [0.09]	0.11 [0.04]	0.10 [0.04]	0.21 [0.08]	0.22 [0.09]	0.2 [0.1]	0.18 [0.07]
[8]	ヘプタクロル類										
	[8-1] ヘプタクロル	0.06 [0.02]	0.08 [0.03]	0.09 [0.04]	0.09 [0.03]	0.07 [0.03]	0.07 [0.03]	0.08 [0.03]	0.09 [0.03]	0.08 [0.03]	0.06 [0.02]
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエ ポキシド	0.022 [0.008]	0.024 [0.009]	0.04 [0.01]	0.05 [0.02]	0.03 [0.01]	0.03 [0.01]	0.03 [0.01]	0.03 [0.01]	0.03 [0.01]	0.05 [0.02]
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロル エポキシド	0.16 [0.06]	0.16 [0.06]	0.13 [0.05]	0.12 [0.05]	0.12 [0.05]	0.11 [0.04]	0.10 [0.04]	0.10 [0.04]	0.11 [0.04]	0.11 [0.04]
[9]	トキサフェン類										
	[9-1] Parlar-26	0.22 [0.08]	0.23 [0.09]	0.22 [0.08]	0.4 [0.2]	0.3 [0.1]	0.4 [0.2]	0.5 [0.2]	0.4 [0.2]	0.4 [0.2]	0.3 [0.1]
	[9-2] Parlar-50	0.25 [0.09]	0.15 [0.06]	0.15 [0.06]	0.3 [0.1]	0.4 [0.2]	0.4 [0.1]	0.4 [0.1]	0.22 [0.09]	0.3 [0.1]	0.5 [0.2]
	[9-3] Parlar-62	1.6 [0.6]	1.2 [0.5]	1.3 [0.5]	4 [2]	1.6 [0.6]	2.1 [0.8]	2.4 [0.9]	1.2 [0.5]	1.4 [0.5]	1.8 [0.7]
[10]	マイレックス	0.03 [0.01]	0.020 [0.008]	0.04 [0.01]	0.021 [0.008]	0.020 [0.008]	0.017 [0.007]	0.023 [0.009]	0.019 [0.007]	0.021 [0.008]	0.022 [0.008]
[11]	HCH 類										
	[11-1] $\alpha$ -HCH	0.10 [0.04]	0.17 [0.06]	0.24 [0.09]	0.16 [0.06]	0.21 [0.08]	0.10 [0.04]	0.3 [0.1]	0.20 [0.08]	0.14 [0.06]	0.13 [0.05]
	[11-2] $\beta$ -HCH	0.04 [0.01]	0.07 [0.03]	0.06 [0.02]	0.07 [0.03]	0.06 [0.02]	0.05 [0.02]	0.06 [0.02]	0.07 [0.03]	0.06 [0.02]	0.07 [0.03]
	[11-3] $\gamma$ -HCH（別名：リ ンデン）	0.07 [0.03]	0.11 [0.04]	0.21 [0.08]	0.14 [0.05]	0.15 [0.06]	0.06 [0.02]	0.18 [0.07]	0.16 [0.06]	0.09 [0.03]	0.1 [0.04]
	[11-4] $\delta$ -HCH	0.04 [0.02]	0.05 [0.02]	0.05 [0.02]	0.07 [0.03]	0.05 [0.02]	0.04 [0.02]	0.04 [0.02]	0.11 [0.04]	0.08 [0.03]	0.08 [0.03]
[12]	クロルデコン		0.04 [0.02]	0.04 [0.02]	0.03 [0.01]						
[13]	ヘキサブプロモビフェニル 類		0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.4 [0.1]	0.19 [0.07]	0.19 [0.07]	0.19 [0.07]	0.19 [0.07]	0.3 [0.1]	0.23 [0.09]

(注1) ※は同族体ごとの定量[検出]下限値の合計値とした。

物質 調査 番号	調査対象物質	大気 (pg/m <sup>3</sup> )									
		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)										
	[14-1]	テトラブロモジフェニルエーテル類	0.12 [0.05]	0.18 [0.07]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.24 [0.09]	0.3 [0.1]
	[14-2]	ペンタブロモジフェニルエーテル類	0.12 [0.05]	0.16 [0.06]	0.14 [0.06]	0.18 [0.07]	0.18 [0.07]	0.18 [0.07]	0.19 [0.07]	0.19 [0.07]	0.19 [0.07]
	[14-3]	ヘキサブロモジフェニルエーテル類	0.16 [0.06]	0.14 [0.05]	0.3 [0.1]	0.4 [0.1]	0.5 [0.2]	0.4 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.4 [0.2]
	[14-4]	ヘプタブロモジフェニルエーテル類	0.26 [0.10]	0.3 [0.1]	0.5 [0.2]	0.5 [0.2]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.18 [0.07]
	[14-5]	オクタブロモジフェニルエーテル類	0.15 [0.06]	0.20 [0.08]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.4 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.23 [0.09]
	[14-6]	ノナブロモジフェニルエーテル類	0.7 [0.3]	0.9 [0.4]	0.7 [0.3]	1.0 [0.4]	0.9 [0.4]	1.3 [0.5]	1.1 [0.4]	1 [0.4]	1.1 [0.4]
	[14-7]	デカブロモジフェニルエーテル	6 [2]	7 [3]	8 [3]	8 [3]	8 [3]	11 [4]	10 [4]	10 [4]	9 [3]
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	0.4 [0.1]	0.5 [0.2]	0.5 [0.2]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.4 [0.2]	0.3 [0.1]	
[16]	ペルフルオロオクタノ酸 (PFOA)	0.5 [0.2]	0.6 [0.2]	0.7 [0.3]	0.4 [0.1]	0.4 [0.1]	0.4 [0.2]	0.4 [0.2]	0.4 [0.2]	0.4 [0.2]	
[17]	ペンタクロロベンゼン	0.3 [0.1]	0.6 [0.2]	0.3 [0.1]	0.5 [0.2]	0.21 [0.08]	0.17 [0.07]	0.5 [0.2]	0.4 [0.1]	0.18 [0.07]	
[18]	エンドスルフェン類										
	[18-1]	$\alpha$ -エンドスルフェン		2.2 [0.8]	1.7 [0.7]	2.1 [0.8]	1.4 [0.5]	1.7 [0.7]	1.2 [0.5]	1.5 [0.6]	1.5 [0.6]
	[18-2]	$\beta$ -エンドスルフェン		0.4 [0.1]	0.6 [0.2]	0.6 [0.2]	0.3 [0.1]	0.5 [0.2]	0.5 [0.2]	0.5 [0.2]	0.4 [0.2]
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類										
	[19-1]	$\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン			0.6 [0.2]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]
	[19-2]	$\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン			0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.22 [0.09]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]
	[19-3]	$\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン			0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.22 [0.09]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]
	[19-4]	$\delta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン			0.4 [0.2]	0.3 [0.1]	0.23 [0.09]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]
	[19-5]	$\epsilon$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン			0.6 [0.2]	0.4 [0.2]	0.3 [0.1]	0.3 [0.1]	0.6 [0.2]	0.7 [0.3]	0.5 [0.2]
[20]	総ポリ塩化ナフタレン※							1.00 [0.41]	0.74 [0.27]	0.7 [0.3]	
[21]	ヘキサクロロプタ-1,3-ジエン							50 [20]	80 [30]	60 [20]	
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類										
	[22-1]	ペンタクロロフェノール							0.8 [0.3]	0.8 [0.3]	0.8 [0.3]
	[22-2]	ペンタクロロアニソール							6 [2]	6 [2]	5 [2]
[23]	[23]	短鎖塩素化パラフィン								59 [22]	130 [48]
	[23-1]	短鎖塩素化パラフィン(炭素数が10のもの)								21 [8]	23 [9]
	[23-2]	短鎖塩素化パラフィン(炭素数が11のもの)								10 [4]	50 [20]
	[23-3]	短鎖塩素化パラフィン(炭素数が12のもの)								14 [5]	30 [10]
	[23-4]	短鎖塩素化パラフィン(炭素数が13のもの)								14 [5]	24 [9]

(注1) ※は同族体ごとの定量[検出]下限値の合計値とした。

物質 調査 番号	調査対象物質	大気 (pg/m <sup>3</sup> )									
		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
[24]	[24-1]ピレン						30 [10]	21 [8]	30 [10]	17 [7]	9 [3]
	[24-2]フルオランテン						22 [9]	21 [8]	24 [9]	18 [7]	30 [10]
	[24-3]ベンゾ[a]アントラ セン						30 [10]	20 [8]	30 [10]	15 [6]	15 [6]
	[24-4]クリセン						40 [10]	21 [8]	24 [9]	14 [5]	22 [9]
	[24-5]ベンゾ[a]ピレン						30 [10]	20 [8]	30 [10]	17 [7]	13 [5]
	[24-6]ベンゾ[e]ピレン						30 [10]	19 [7]	30 [10]	12 [5]	13 [5]
	[24-7]ベンゾ[b]フルオラ ンテン						30 [10]	20 [8]	24 [9]	12 [5]	16 [6]
	[24-8]ベンゾ[k]フルオラ ンテン						30 [10]	19 [8]	30 [10]	13 [5]	14 [5]
	[24-9]ベンゾ [g,h,i]ペリ レン						30 [10]	21 [8]	30 [10]	9 [4]	11 [4]
	[24-10] イ ン デ ノ [1,2,3-c,d]ピレン						30 [10]	20 [8]	30 [10]	22 [8]	16 [6]
	[24-11]ジベンゾ[a,c]アン トラセン						30 [10]	21 [8]	30 [10]	30 [10]	22 [9]
	[24-12]ジベンゾ[a,h]アン トラセン						30 [10]	20 [8]	22 [9]	30 [10]	30 [10]

(注1) 上段は定量下限値、下段は検出下限値

(注2) ■ は未測定であることを意味する。

表3-1 POPs残留状況の高頻度監視の実施結果（2018年度の経月変化・沖縄県辺戸岬）

物質調査番号	調査対象物質	沖縄県辺戸岬 2018年度 大気 (pg/m <sup>3</sup> )											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
[1]	総PCB	48	93	90	48	67	73	37	48	57	26	36	29
[2]	HCB	120	160	98	58	130	90	110	78	130	86	97	98
[3]	アルドリン	0.15	0.11	0.15	tr(0.06)	0.11	0.11	0.36	0.15	0.19	0.26	0.20	0.20
[4]	ディルドリン	0.50	1.1	1.4	1.1	2.4	1.5	0.73	0.87	0.70	0.33	0.77	0.37
[5]	エンドリン	tr(0.04)	0.06	0.09	0.08	0.09	0.10	0.05	0.05	0.05	tr(0.03)	0.06	tr(0.03)
[6]	DDT類												
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	0.19	0.34	0.38	0.41	0.33	0.45	0.18	0.15	0.29	---	---	---
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	0.40	0.44	0.52	0.50	0.44	0.58	0.36	0.29	0.78	0.64	0.55	0.42
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	0.031	0.035	0.026	0.035	0.037	0.039	0.024	tr(0.016)	0.032	0.062	0.065	0.057
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	0.21	0.27	0.20	0.25	0.29	0.33	0.22	0.15	0.25	---	---	---
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	0.10	0.077	0.071	0.077	0.059	0.097	0.069	0.068	0.14	0.11	0.11	0.083
[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	tr(0.03)	tr(0.02)	tr(0.03)	tr(0.04)	tr(0.03)	tr(0.05)	tr(0.03)	tr(0.02)	tr(0.05)	tr(0.04)	tr(0.04)	tr(0.03)	
[7]	クロルデン類												
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン	1.1	3.4	3.3	3.5	9.5	5.2	2.1	3.6	2.4	0.70	1.4	0.80
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン	1.2	3.7	4.2	4.6	6.8	6.7	2.0	3.8	2.9	0.7	1.7	0.9
	[7-3] オキシクロルデン	0.17	0.26	0.33	0.23	0.53	0.33	0.41	0.32	0.32	0.17	0.19	0.13
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル	0.12	0.35	0.41	0.43	1.3	0.63	0.25	0.33	0.26	0.06	0.15	0.07
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル	0.97	2.9	3.2	2.9	8.3	4.5	2.1	3.2	2.3	0.63	1.3	0.73
[8]	ヘプタクロル類												
	[8-1] ヘプタクロル	0.27	0.73	0.75	0.63	0.48	0.84	0.29	0.39	0.40	0.12	0.30	0.22
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド	0.34	0.41	0.40	0.34	0.46	0.47	0.43	0.34	0.33	0.24	0.25	0.23
[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	
[9]	トキサフェン類												
	[9-1] Parlar-26	nd	nd	tr(0.1)	nd	nd	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	nd	nd	tr(0.1)	nd
	[9-2] Parlar-50	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
[9-3] Parlar-62	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	
[10]	マイレックス	0.11	0.19	0.14	0.15	0.32	0.21	0.11	0.071	0.15	0.068	0.14	0.069
[11]	HCH類												
	[11-1] $\alpha$ -HCH	8.5	12	12	11	11	6.1	5.2	3.4	3.4	2.6	3.2	3.6
	[11-2] $\beta$ -HCH	0.44	0.56	0.75	0.74	0.70	0.72	0.41	0.39	0.57	0.30	0.41	0.35
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)	1.2	1.8	2.7	1.7	2.2	1.7	1.0	0.87	0.87	0.57	0.83	0.97
[11-4] $\delta$ -HCH	tr(0.05)	tr(0.06)	0.08	tr(0.07)	tr(0.07)	0.09	tr(0.04)	tr(0.05)	tr(0.05)	tr(0.04)	tr(0.06)	tr(0.04)	
[12]	クロルデコン	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	
[13]	ヘキサプロモビフェニル類	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	
[14]	ポリプロモジフェニルエーテル類 (臭素数が4から10までのもの)												
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	tr(0.2)	0.7	0.6	0.5	0.4	0.5	tr(0.2)	tr(0.2)	0.3	tr(0.2)	tr(0.2)	0.3
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	tr(0.07)	0.26	0.38	0.35	0.29	0.26	tr(0.12)	tr(0.08)	tr(0.15)	tr(0.12)	tr(0.12)	tr(0.15)
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	nd	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	nd	tr(0.1)
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	nd	tr(0.1)
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	6.6	10	8.3	6.9	7.3	7.2	4.7	3.4	6.8	3.0	5.3	1.6
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA)	12	11	4.7	3.3	15	4.7	7.7	9.3	7.7	5.7	4.7	7.3
[17]	ペンタクロロベンゼン	72	83	42	25	59	40	57	35	86	60	64	69

物質 調査 番号	調査対象物質	沖縄県辺戸岬 2018年度 大気 (pg/m <sup>3</sup> )											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
[18]	エンドスルファン類												
	[18-1] α-エンドスルファン	8.9	20	7.0	9.6	14	12	5.0	1.7	5.5	1.9	3.0	2.7
	[18-2] β-エンドスルファン	0.4	0.4	tr(0.3)	0.8	0.5	1.1	tr(0.3)	tr(0.2)	0.4	tr(0.2)	0.4	tr(0.3)
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン類												
	[19-1] α-1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン	tr(0.2)	nd	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	0.3	nd	nd	tr(0.1)	nd	0.3
	[19-2] β-1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	tr(0.1)
	[19-3] γ-1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン	0.4	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	tr(0.1)	0.4	0.9	tr(0.1)	tr(0.1)	nd	0.4
	[19-4] δ-1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
	[19-5] ε-1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロドデカン	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd	nd
[20]	総ポリ塩化ナフタレン	9.7	11	11	13	15	17	9.7	11	16	20	12	10
[21]	ヘキサクロロプタ-1,3-ジエン	5,300	7,300	3,400	1,500	4,100	2,400	5,500	2,800	8,200	5,000	4,700	4,700
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類												
	[22-1] ペンタクロロフェノール	1.0	1.0	tr(0.7)	tr(0.4)	1.3	0.8	tr(0.7)	tr(0.7)	tr(0.5)	tr(0.7)	tr(0.5)	tr(0.7)
	[22-2] ペンタクロロアニソール	6	8	8	6	9	7	6	5	6	tr(4)	5	tr(4)
[23]	[23]短鎖塩素化パラフィン	500	1,000	870	530	730	800	430	530	430	330	630	400
	[23-1] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が10のもの)	180	300	240	190	230	290	180	140	200	110	230	160
	[23-2] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が11のもの)	170	330	270	200	230	270	130	170	170	130	230	130
	[23-3] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が12のもの)	100	230	230	100	200	170	100	100	100	100	130	100
	[23-4] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が13のもの)	54	110	110	50	79	79	41	73	26	39	60	35
[24]	PAH類												
	[24-1] ピレン												
	[24-2] フルオランテン												
	[24-3] ベンゾ[a]アントラセン												
	[24-4] クリセン												
	[24-5] ベンゾ[a]ピレン												
	[24-6] ベンゾ[e]ピレン												
	[24-7] ベンゾ[b]フルオランテン												
	[24-8] ベンゾ[k]フルオランテン												
	[24-9] ベンゾ[g,h,i]ペリレン												
	[24-10] インデノ[1,2,3-c,d]ピレン												
	[24-11] ジベンゾ[a,c]アントラセン												
[24-12] ジベンゾ[a,h]アントラセン													

- (注1) 各月ともハイボリュームエアサンプラー (HV) により連続した3日それぞれで試料を採取しており、各月の濃度として3日間の濃度の算術平均値を示した。測定値は環境省ホームページに一覧表として掲載してある。
- (注2) 総PCB及び総ポリ塩化ナフタレンは、総量としての結果のみを示しているが、各同族体およびコプラナーPCBの測定値はホームページに一覧表として掲載してある。
- (注3) ■ は未測定であることを意味する。

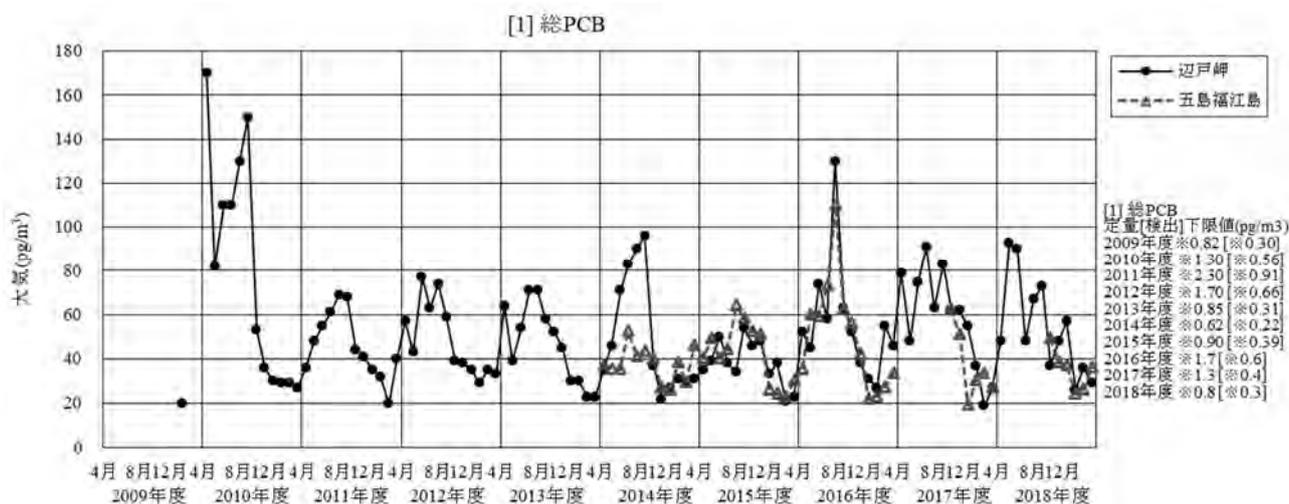
表3-2 POPs残留状況の高頻度監視事業の実施結果（2018年度の経月変化・長崎県五島福江島）

物質 調査 番号	調査対象物質	長崎県五島福江島 2018年度 大気 (pg/m <sup>3</sup> )					
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
[1]	総 PCB	49	38	37	24	26	36
[2]	HCB	130	83	100	75	82	96
[3]	アルドリソ	0.14	0.19	0.12	0.09	tr(0.06)	0.16
[4]	ディルドリン	0.61	0.76	0.51	0.37	0.33	0.41
[5]	エンドリン	0.05	0.05	0.05	tr(0.03)	tr(0.03)	tr(0.02)
[6]	DDT 類						
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	0.30	0.19	0.21	---	---	---
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	0.57	0.51	0.88	0.82	0.41	0.94
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	0.043	0.030	0.056	0.061	0.057	0.070
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	0.24	0.18	0.21	---	---	---
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	0.10	0.09	0.15	0.14	0.09	0.15
[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	0.06	tr(0.04)	0.06	tr(0.05)	tr(0.03)	tr(0.04)	
[7]	クロルデン類						
	[7-1] <i>cis</i> -クロルデン	1.3	1.8	0.70	0.57	0.57	0.50
	[7-2] <i>trans</i> -クロルデン	1.3	2.0	0.70	0.60	0.60	0.50
	[7-3] オキシクロルデン	0.22	0.18	0.16	0.11	0.12	0.12
	[7-4] <i>cis</i> -ノナクロル	0.19	0.21	0.07	tr(0.05)	tr(0.05)	tr(0.04)
	[7-5] <i>trans</i> -ノナクロル	1.1	1.5	0.60	0.50	0.50	0.43
[8]	ヘプタクロル類						
	[8-1] ヘプタクロル	0.26	0.38	0.13	0.08	0.11	0.10
	[8-2] <i>cis</i> -ヘプタクロルエポキシド	0.35	0.26	0.26	0.21	0.16	0.22
	[8-3] <i>trans</i> -ヘプタクロルエポキシド	nd	nd	nd	nd	nd	nd
[9]	トキサフェン類						
	[9-1] Parlar-26	tr(0.2)	tr(0.1)	nd	tr(0.1)	nd	nd
	[9-2] Parlar-50	nd	nd	nd	nd	nd	nd
	[9-3] Parlar-62	nd	nd	nd	nd	nd	nd
[10]	マイレックス	0.081	0.051	0.064	0.041	0.039	0.051
[11]	HCH 類						
	[11-1] $\alpha$ -HCH	7.5	4.8	3.0	2.6	2.6	4.3
	[11-2] $\beta$ -HCH	0.51	0.49	0.29	0.24	0.24	0.31
	[11-3] $\gamma$ -HCH (別名: リンデン)	1.5	0.93	0.67	0.57	0.63	1.1
	[11-4] $\delta$ -HCH	0.08	tr(0.07)	tr(0.04)	nd	tr(0.04)	tr(0.06)
[12]	クロルデコン	nd	nd	nd	nd	nd	nd
[13]	ヘキサブプロモビフェニル類	nd	nd	nd	nd	nd	nd
[14]	ポリブプロモジフェニルエーテル類 (臭素数が 4 から 10 までのもの)						
	[14-1] テトラブプロモジフェニルエーテル類	0.31	tr(0.16)	tr(0.18)	tr(0.19)	tr(0.13)	tr(0.19)
	[14-2] ペンタブプロモジフェニルエーテル類	tr(0.16)	nd	tr(0.10)	tr(0.07)	tr(0.08)	tr(0.07)
	[14-3] ヘキサブプロモジフェニルエーテル類	nd	nd	nd	nd	nd	nd
	[14-4] ヘプタブプロモジフェニルエーテル類	tr(0.1)	nd	0.2	tr(0.1)	0.2	tr(0.1)
	[14-5] オクタブプロモジフェニルエーテル類	0.3	nd	0.3	0.2	0.3	0.2
	[14-6] ノナブプロモジフェニルエーテル類	tr(0.5)	nd	tr(0.4)	tr(0.4)	tr(0.5)	tr(0.4)
	[14-7] デカブプロモジフェニルエーテル	nd	nd	tr(4)	tr(4)	nd	tr(3)
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)	2.2	2.5	1.9	1.4	0.9	0.6
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOA)	12	3.8	20	14	13	14
[17]	ペンタクロロベンゼン	64	45	64	46	45	67

物質 調査 番号	調査対象物質	長崎県五島福江島 2018年度 大気 (pg/m <sup>3</sup> )					
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
[18]	エンドスルファン類						
	[18-1] α-エンドスルファン	8.3	1.5	2.5	1.8	tr(1.4)	4.1
	[18-2] β-エンドスルファン	1.0	tr(0.3)	0.4	0.4	tr(0.3)	0.5
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブROMシクロドデカン類						
	[19-1] α-1,2,5,6,9,10-ヘキサブROMシクロドデカン	1.6	tr(0.2)	1.2	0.7	0.4	2.3
	[19-2] β-1,2,5,6,9,10-ヘキサブROMシクロドデカン	0.5	tr(0.1)	0.5	0.4	tr(0.1)	1.3
	[19-3] γ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブROMシクロドデカン	1.0	0.5	1.2	0.8	0.3	2.4
	[19-4] δ-1,2,5,6,9,10-ヘキサブROMシクロドデカン	nd	nd	nd	nd	nd	nd
	[19-5] ε-1,2,5,6,9,10-ヘキサブROMシクロドデカン	nd	nd	nd	nd	nd	nd
[20]	総ポリ塩化ナフタレン	16	19	30	41	24	13
[21]	ヘキサクロブタ-1,3-ジエン	7,400	4,700	3,400	5,000	2,200	nd
[22]	ペンタクロフェノール並びにその塩及びエステル類						
	[22-1] ペンタクロフェノール	1.2	tr(0.6)	0.9	tr(0.6)	tr(0.6)	tr(0.7)
	[22-2] ペンタクロアニソール	7	5	tr(4)	tr(3)	tr(3)	5
[23]	[23]短鎖塩素化パラフィン	700	370	500	500	200	700
	[23-1] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が10のもの)	310	120	210	150	73	240
	[23-2] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が11のもの)	230	130	170	200	100	200
	[23-3] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が12のもの)	90	60	70	90	40	120
	[23-4] 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が13のもの)	60	37	53	77	tr(20)	100
[24]	PAH類						
	[24-1] ビレン	240	350	630	420	460	260
	[24-2] フルオランテン	330	530	1,200	730	800	430
	[24-3] ベンゾ[a]アントラセン	34	58	83	73	59	39
	[24-4] クリセン	180	220	610	380	380	240
	[24-5] ベンゾ[a]ピレン	63	60	73	130	130	93
	[24-6] ベンゾ[e]ピレン	87	83	240	180	190	120
	[24-7] ベンゾ[b]フルオランテン	160	150	480	360	340	220
	[24-8] ベンゾ[k]フルオランテン	53	47	130	120	120	80
	[24-9] ベンゾ[g,h,i]ペリレン	100	60	190	190	180	140
	[24-10] インデノ[1,2,3-c,d]ピレン	90	80	270	190	190	130
	[24-11] ジベンゾ[a,c]アントラセン	nd	nd	tr(10)	tr(10)	tr(10)	nd
	[24-12] ジベンゾ[a,h]アントラセン	tr(13)	nd	tr(23)	tr(24)	tr(22)	tr(13)

(注1) 各月ともハイボリュームエアサンプラー (HV) またはローボリュームエアサンプラー (LV) により連続した3日それぞれで試料を採取しており、各月の濃度として3日間の濃度の算術平均値を示した。測定値は環境省ホームページに一覧表として掲載してある。(注2) 総PCB及び総ポリ塩化ナフタレンは、総量としての結果のみを示しているが、各同族体およびコプラナーPCBの測定値はホームページに一覧表として掲載してある。

(注3) ■は未測定であることを意味する。



(注) 2009年度の4月から12月並びに2月及び3月のPCB類の大気については、モノクロロビフェニル及びジクロロビフェニルにおいて大気試料採取装置由来と考えられる汚染により濃度の増加が疑われたことから、総PCBも含めて欠測扱いとすることとした。

図1 総PCBの経月変化

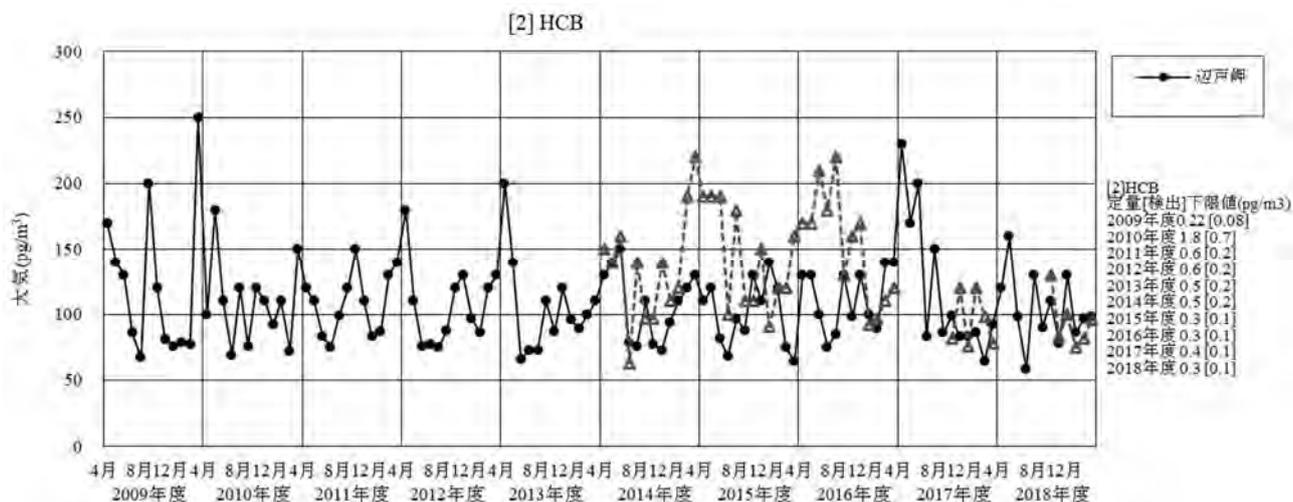
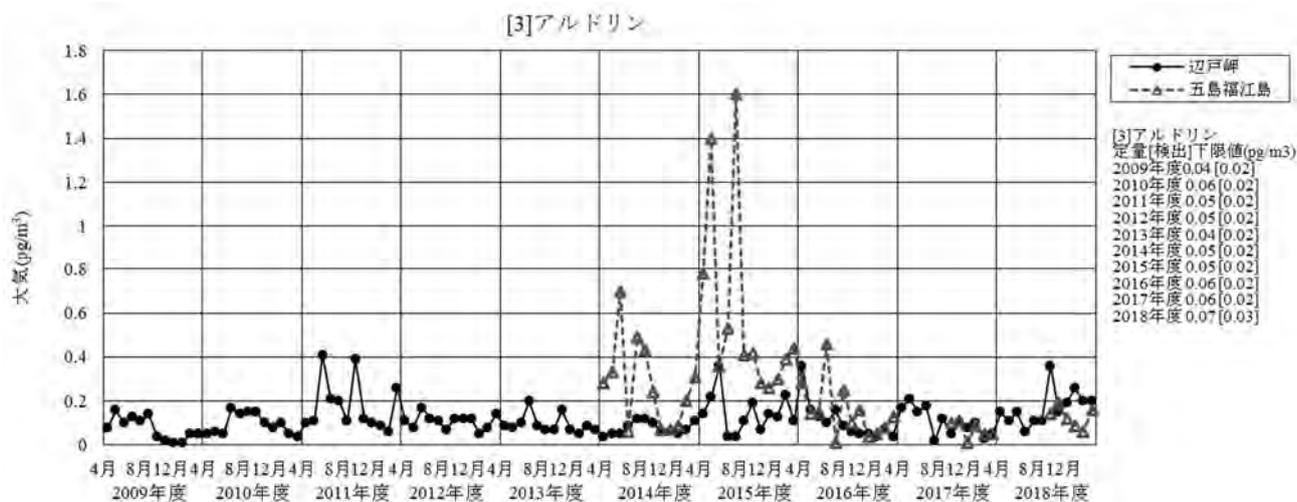


図2 HCBの経月変化



(注) 月平均値が検出下限値未満であった月については、検出下限値の1/2の値を图示した。

図3 アルドリソの経月変化

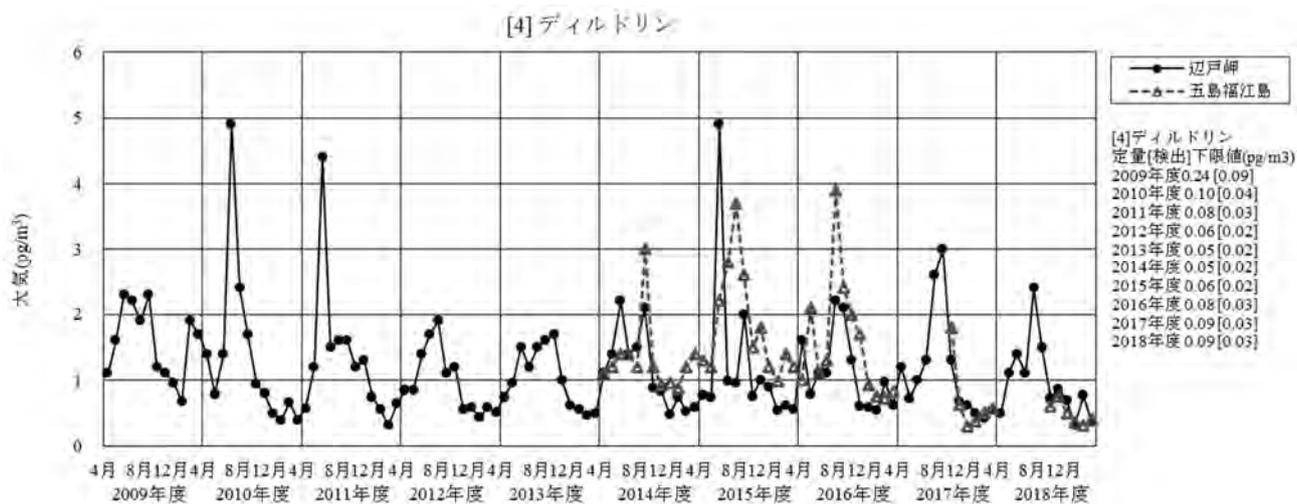
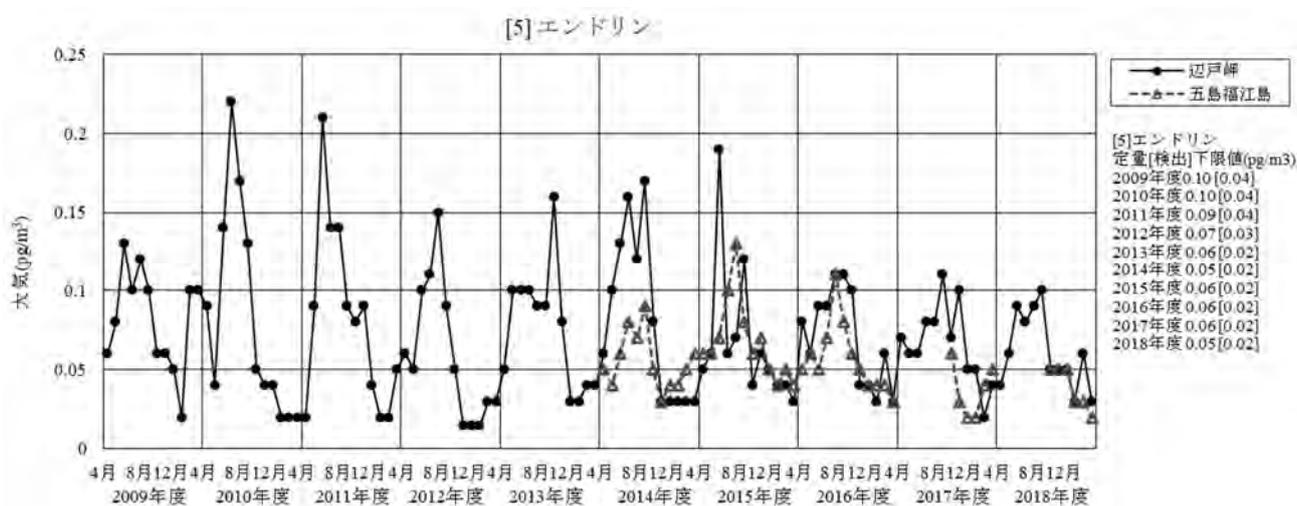


図4 デイルドリンの経月変化



(注) 月平均値が検出下限値未満であった月については、検出下限値の1/2の値を図示した。

図5 エンドリンの経月変化



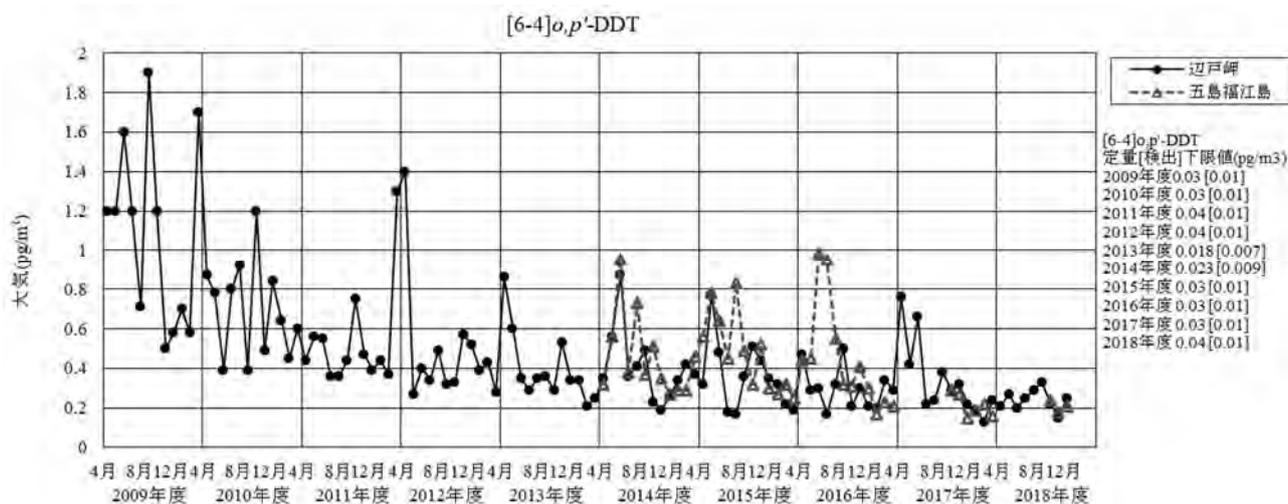


図6-4 *o,p'*-DDTの経月変化

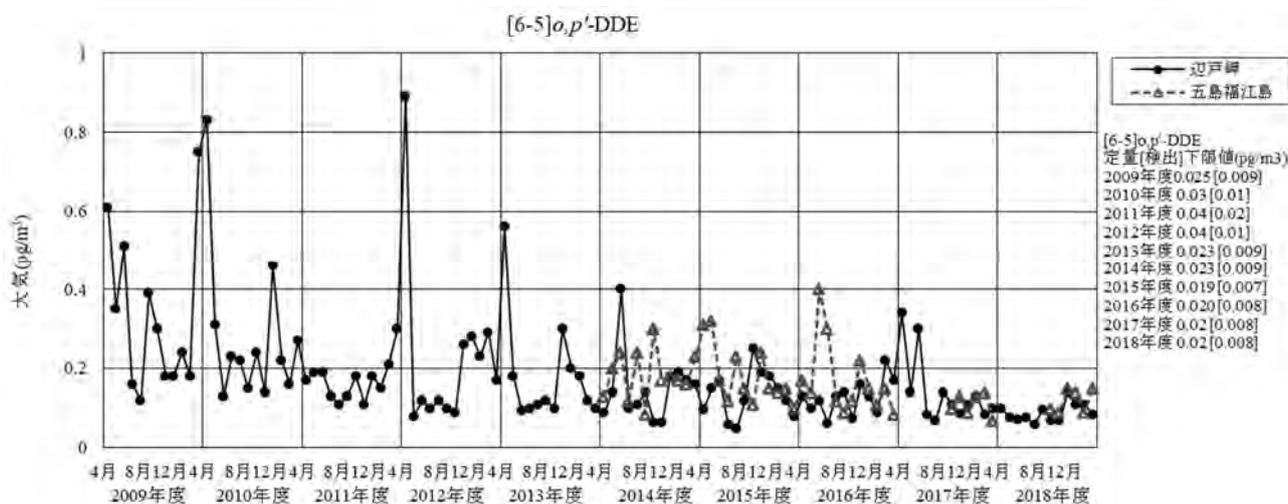


図6-5 *o,p'*-DDEの経月変化

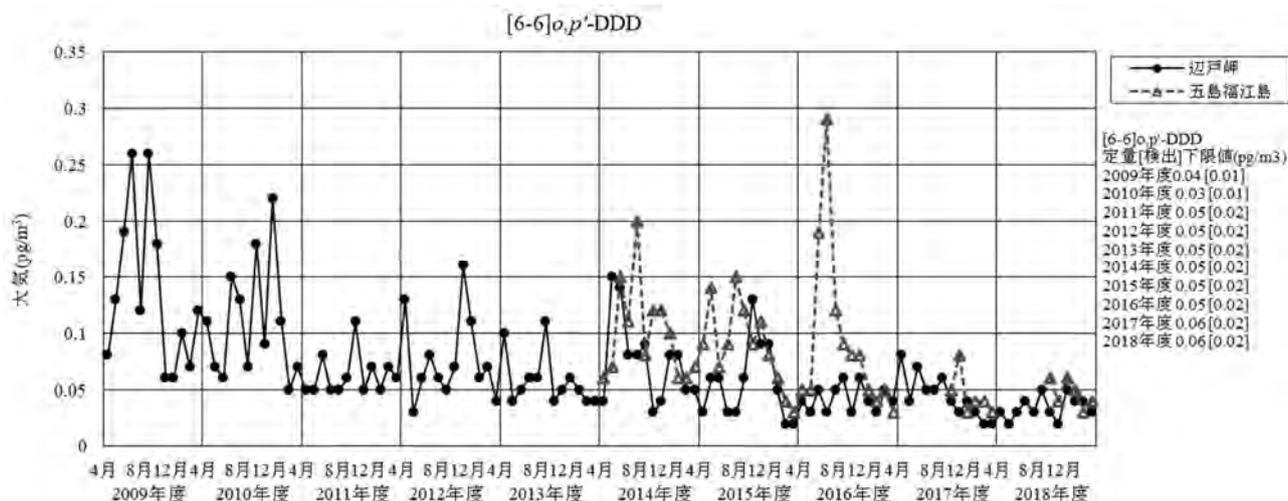


図6-6 *o,p'*-DDDの経月変化

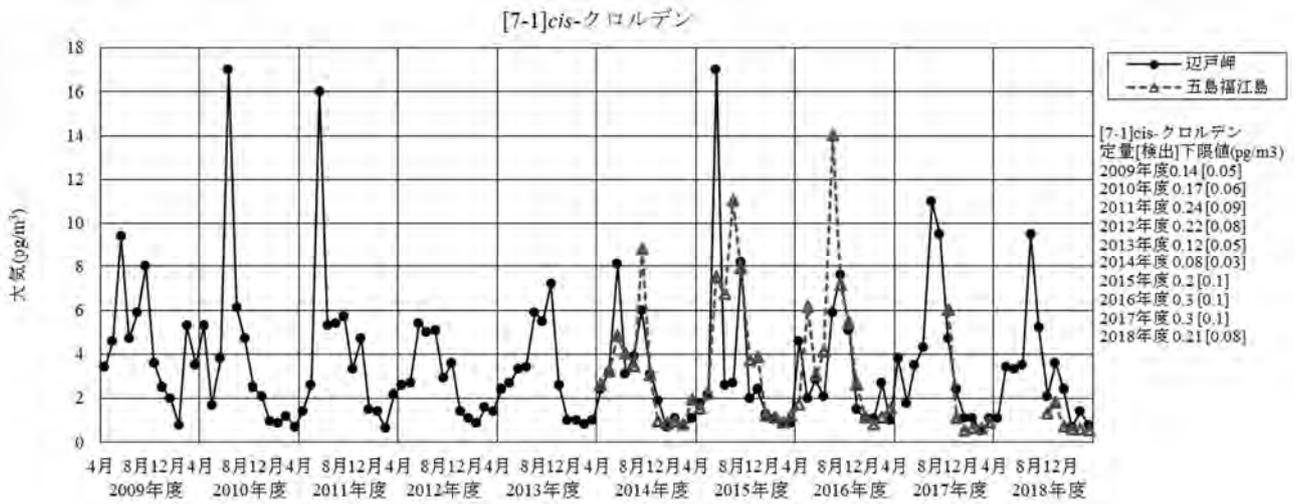


図7-1 cis-クロルデンの経月変化

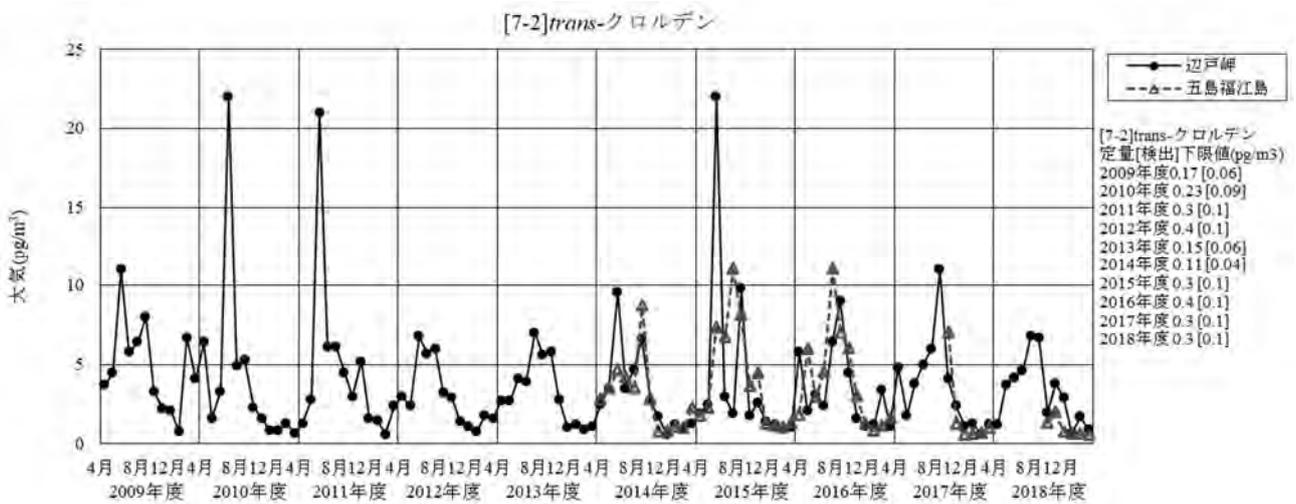


図7-2 trans-クロルデンの経月変化

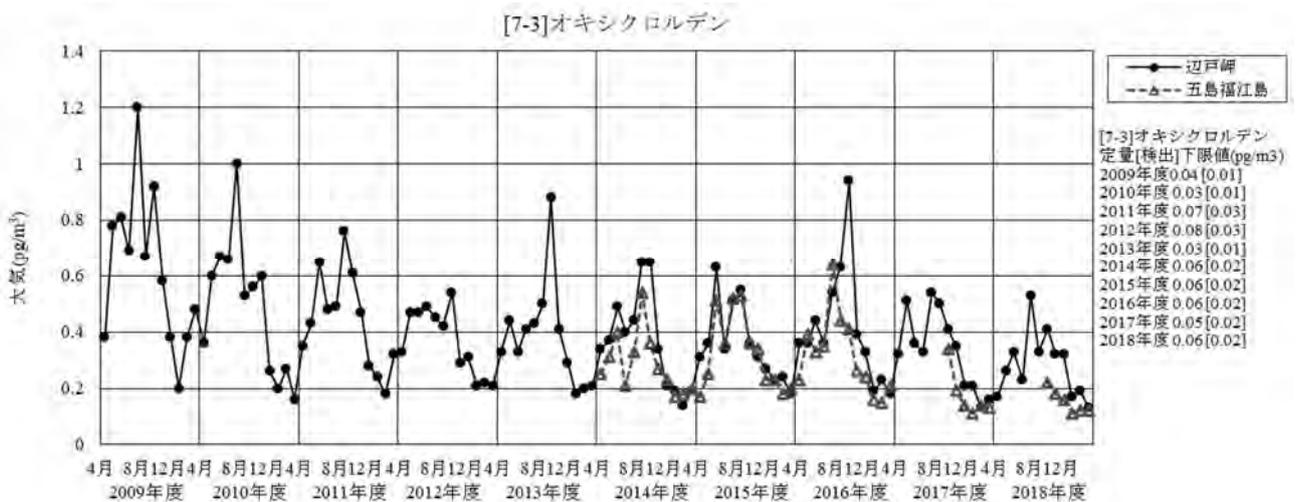


図7-3 オキシクロルデンの経月変化

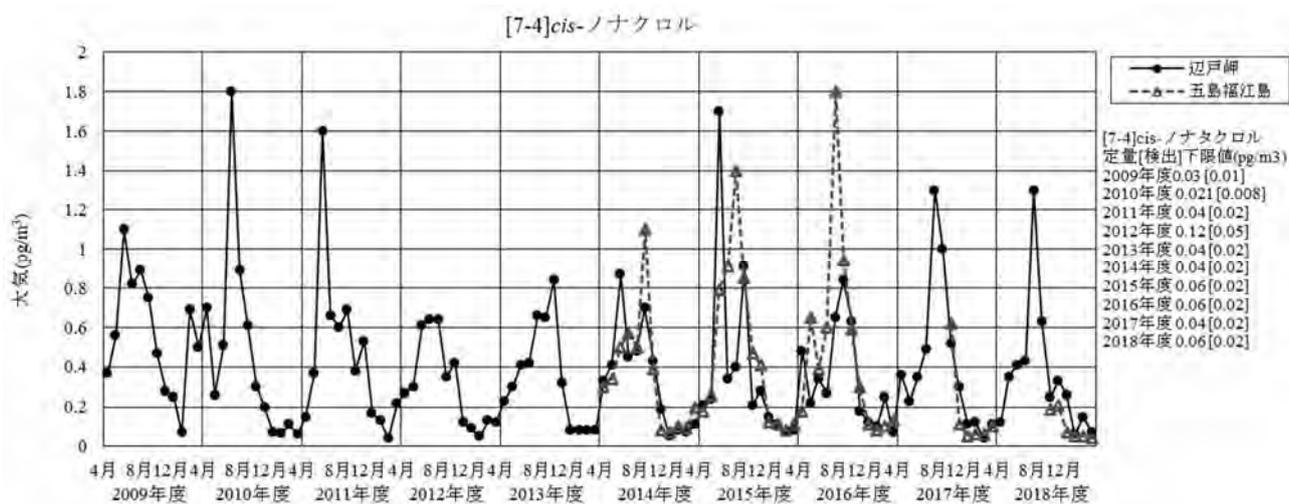


図7-4 cis-ノナクロルの経月変化

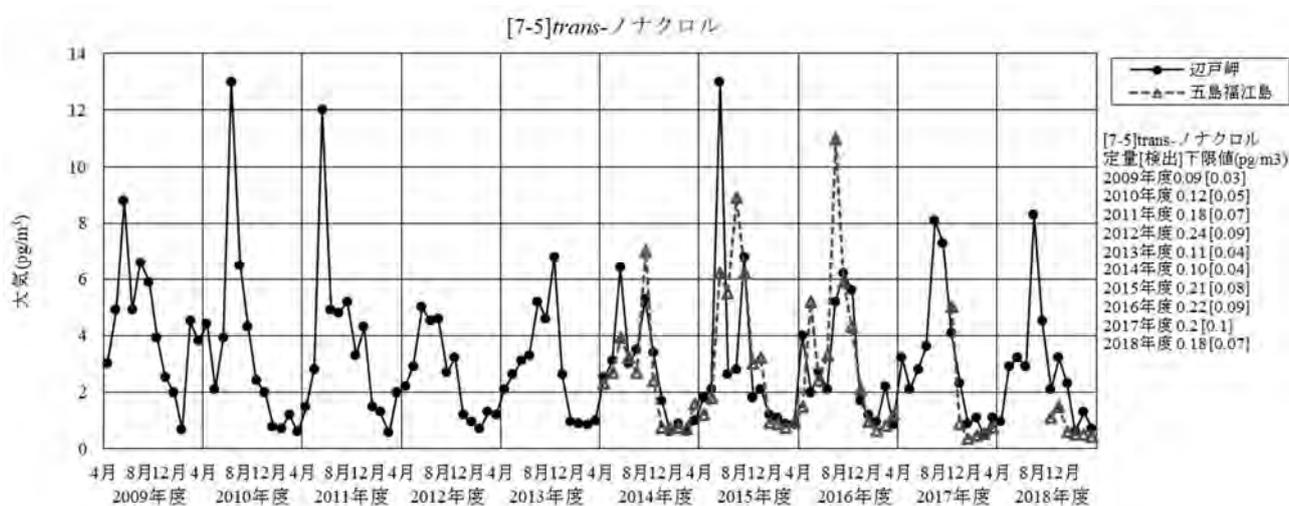


図7-2 trans-ノナクロルの経月変化

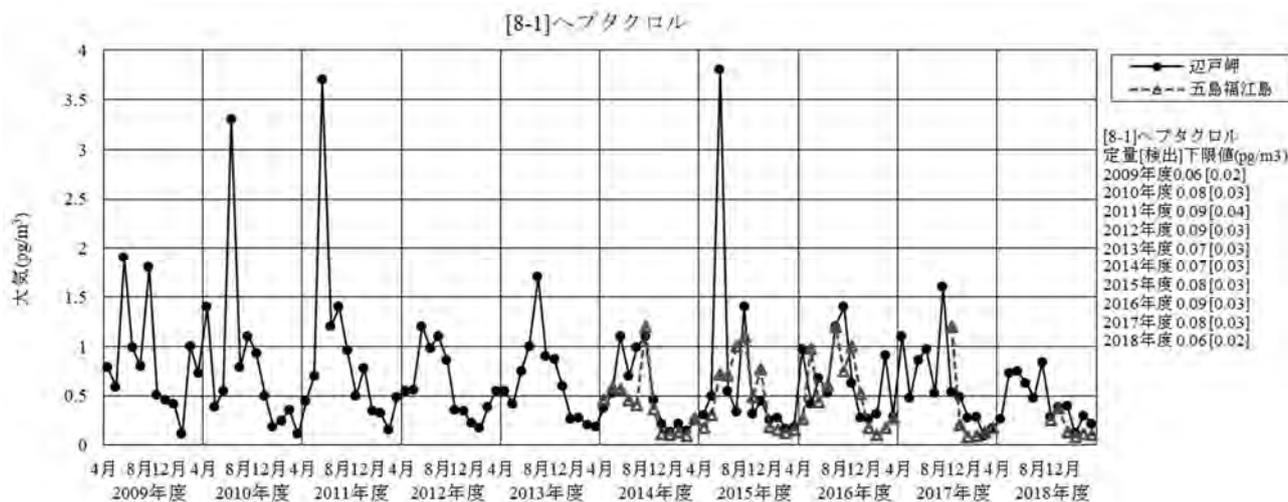


図8-1 ヘプタクロルの経月変化

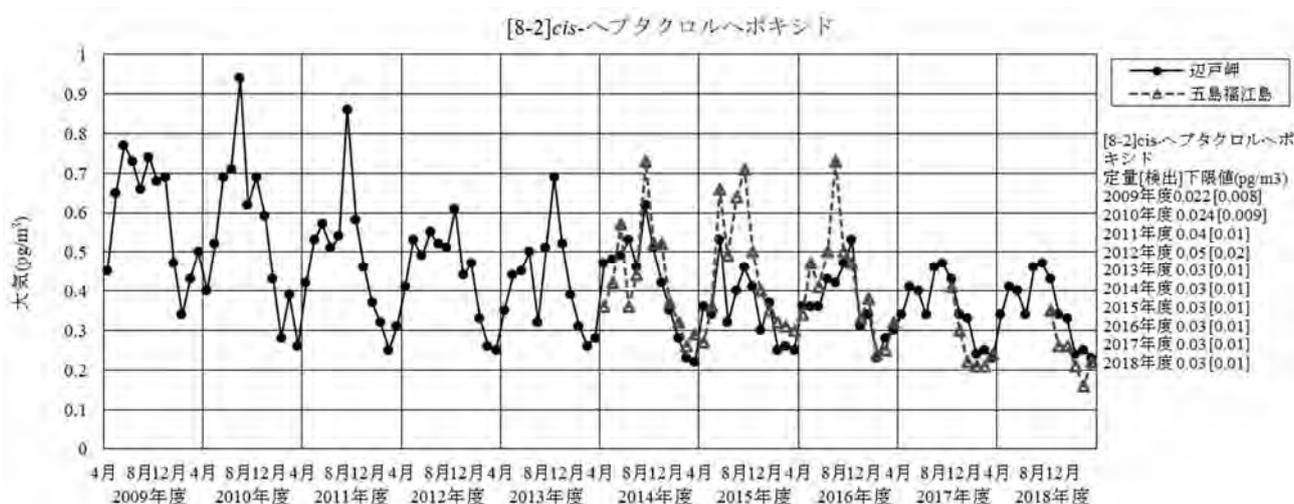


図8-2 cis-ヘプタクロルヘポキシドの経月変化

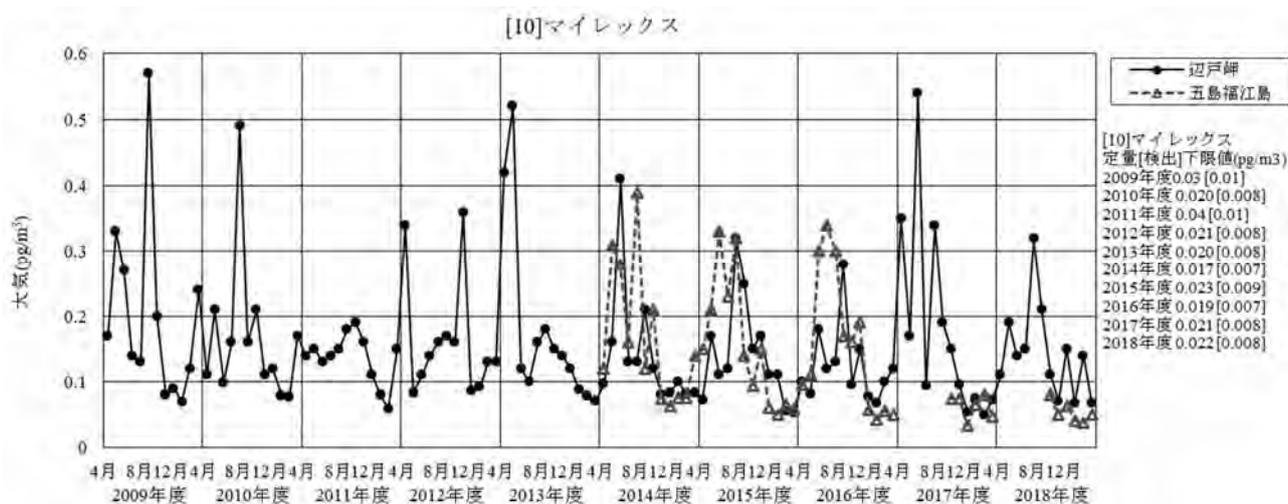


図9 マイレックスの経月変化

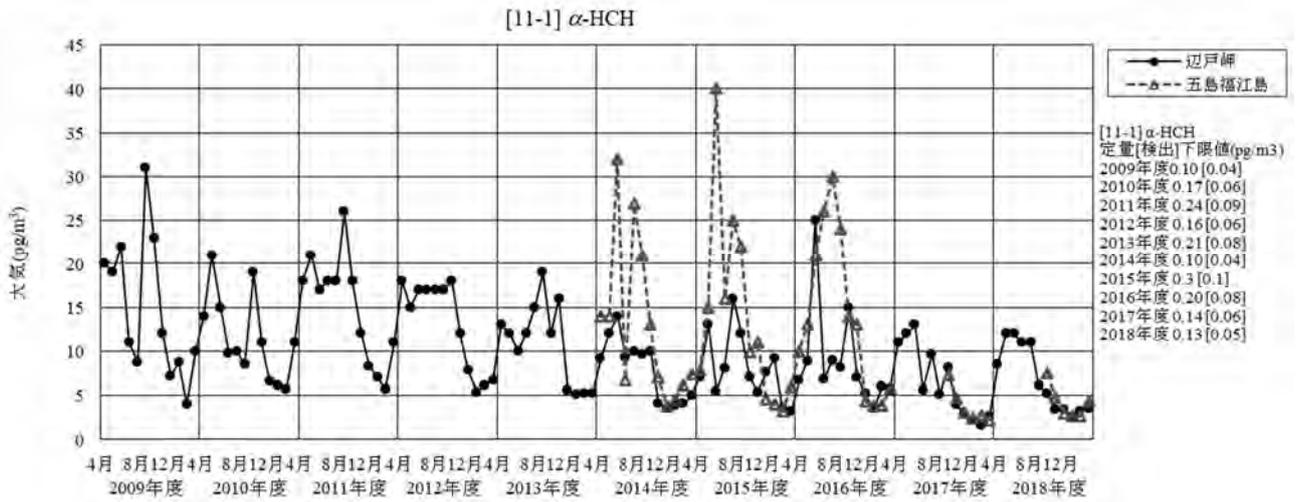


図10-1  $\alpha$ -HCHの経月変化

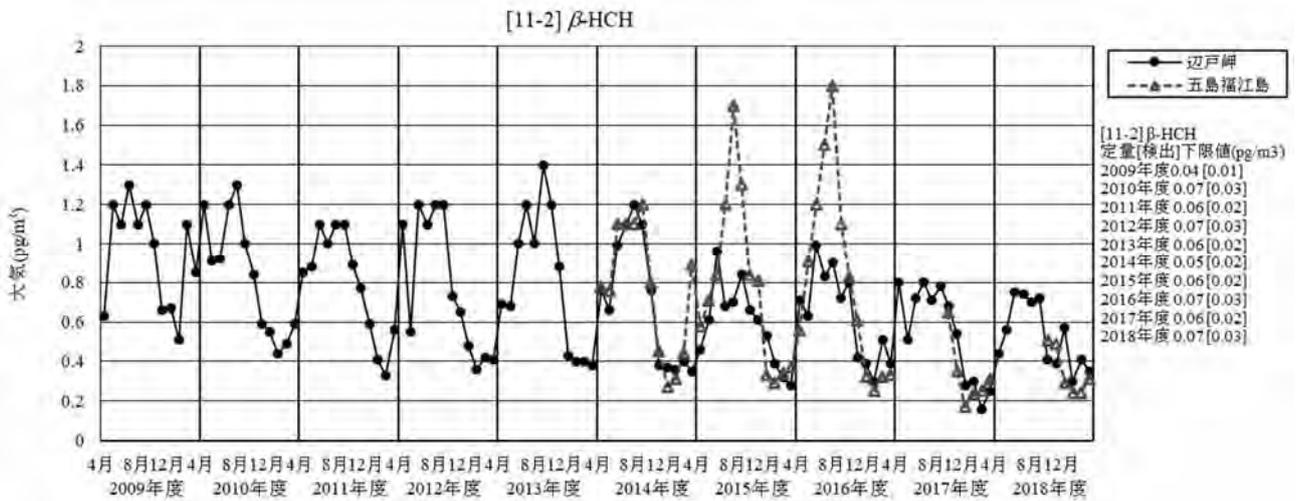


図10-2  $\beta$ -HCHの経月変化

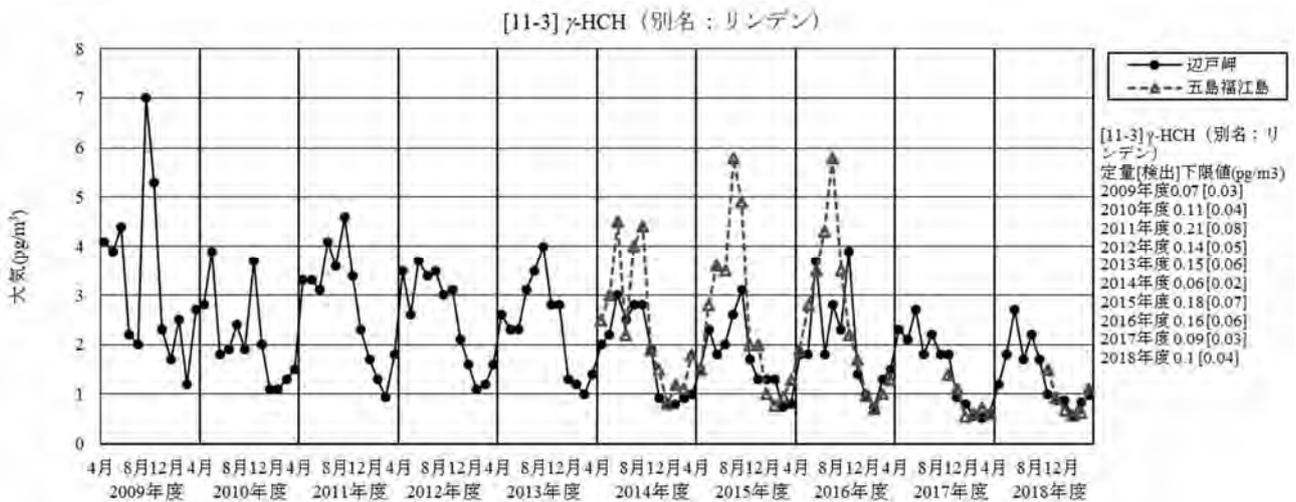


図10-3  $\gamma$ -HCH (別名：リンデン)の経月変化



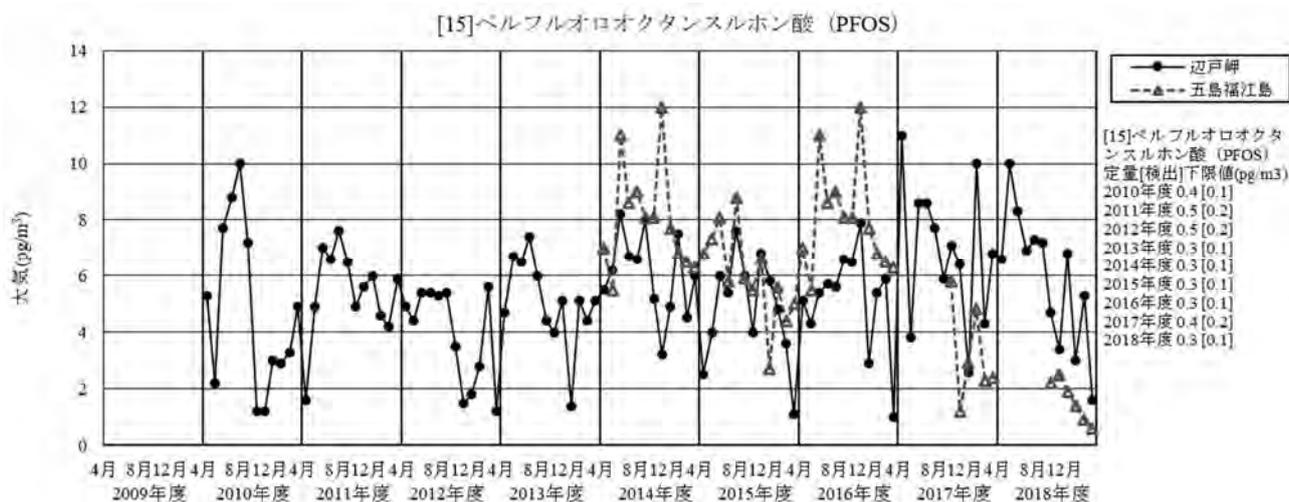


図12 ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS) の経月変化

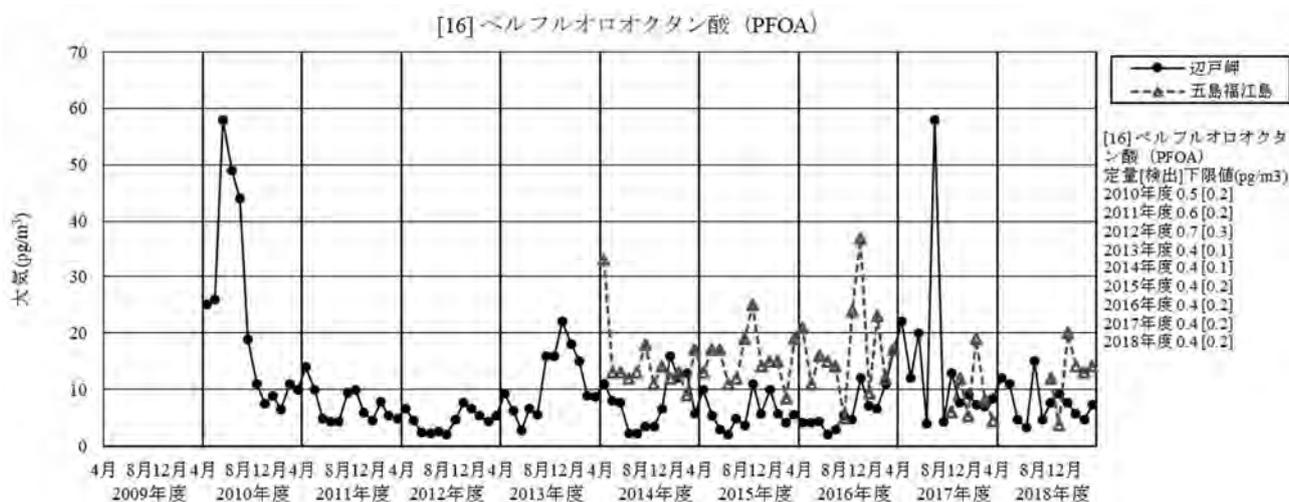


図13 ペルフルオロオクタタン酸 (PFOA) の経月変化

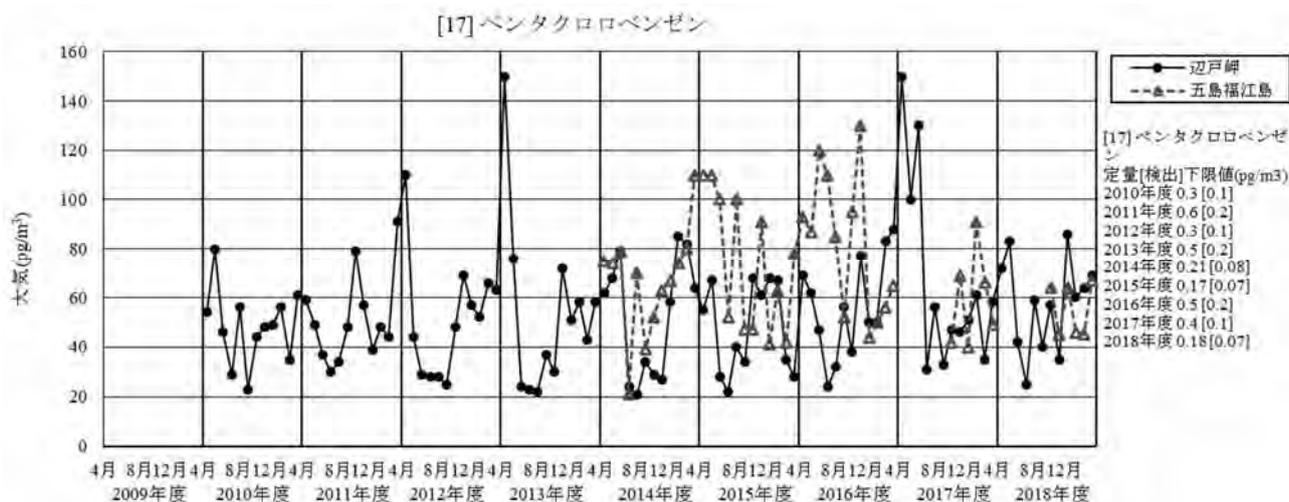


図14 ペンタクロロベンゼンの経月変化

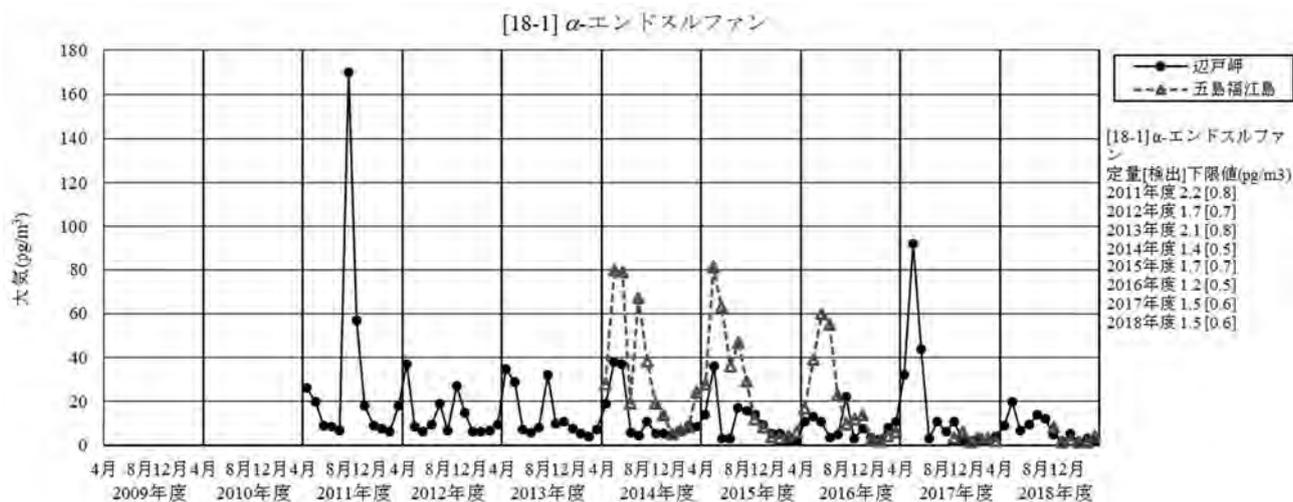


図15-1  $\alpha$ -エンドスルファンの経月変化

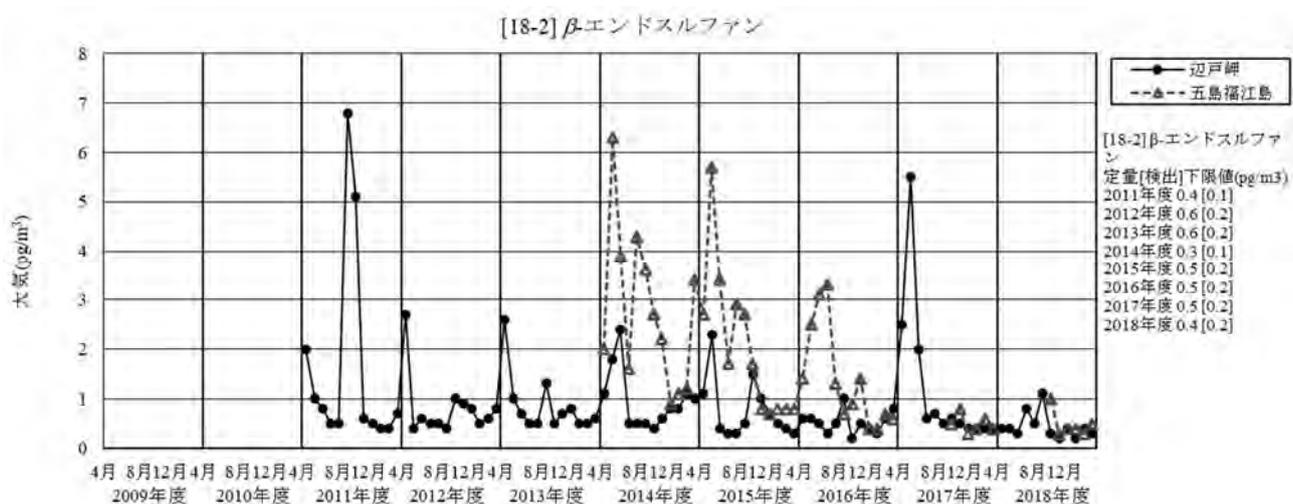
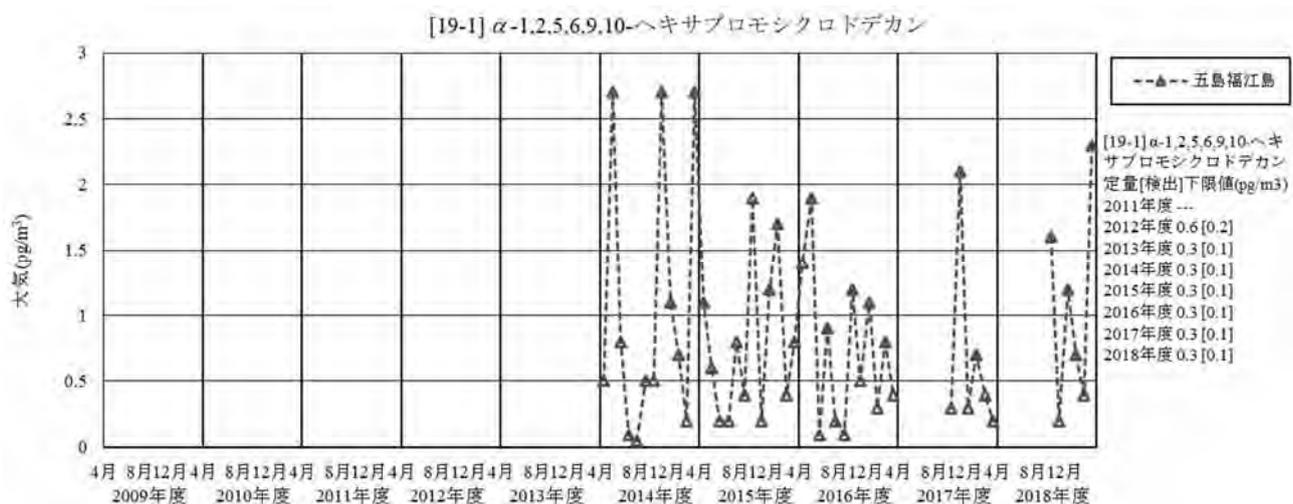


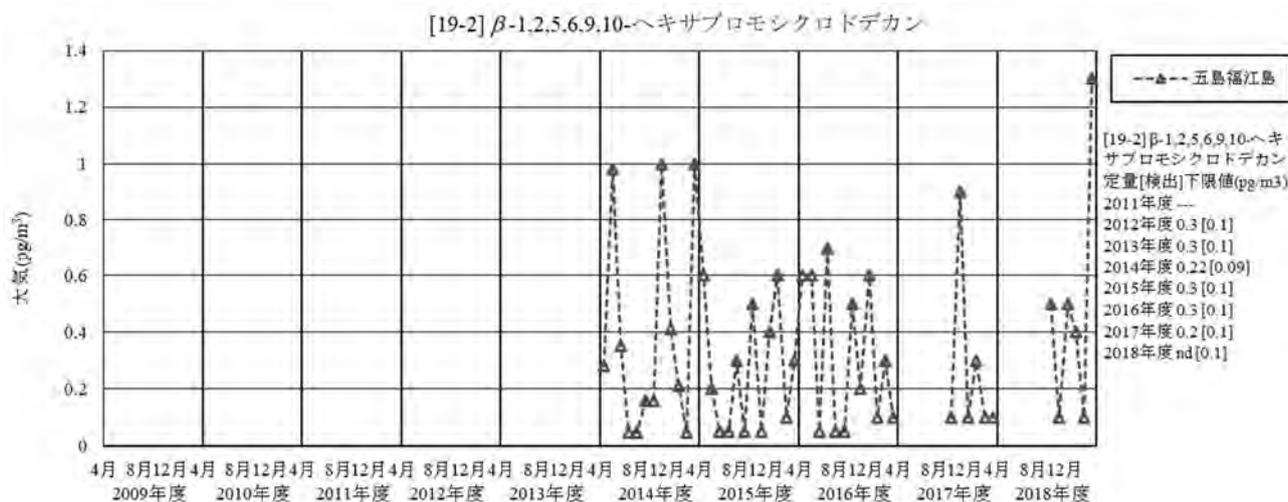
図15-2  $\beta$ -エンドスルファンの経月変化



(注1) 辺戸岬については全検体で不検出の割合が高くなったことから、図示していない。

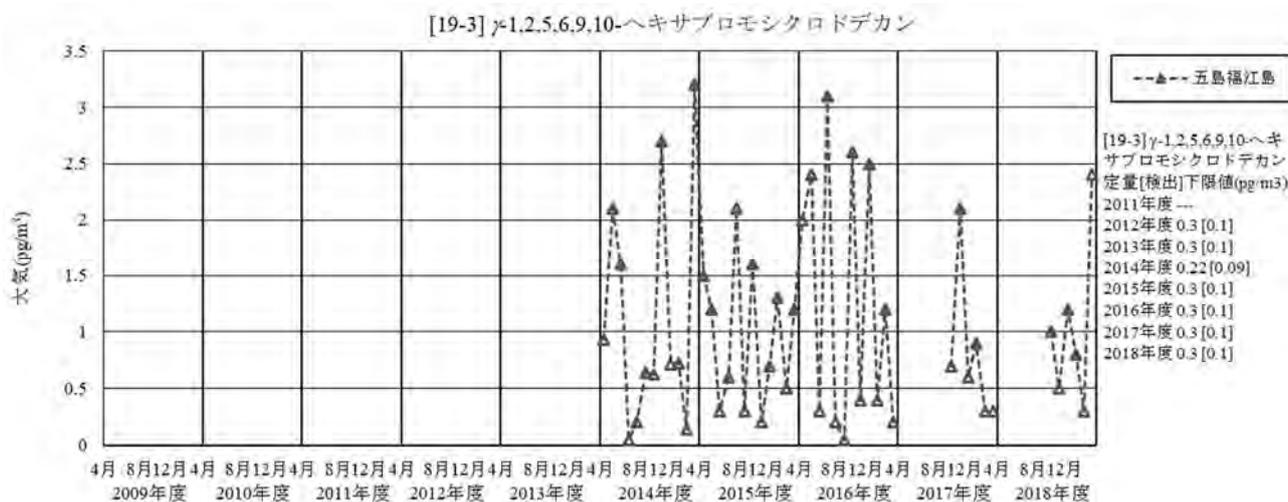
(注2) 月平均値が検出下限値未満であった月については、検出下限値の1/2の値を図示した。

図16-1  $\alpha$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモシクロデカンの経月変化



(注1) 辺戸岬については全検体で不検出の割合が高くなったことから、図示していない。  
(注2) 月平均値が検出下限値未満であった月については、検出下限値の1/2の値を図示した。

図16-2  $\beta$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの経月変化



(注1) 辺戸岬については全検体で不検出の割合が高くなったことから、図示していない。  
(注2) 月平均値が検出下限値未満であった月については、検出下限値の1/2の値を図示した。

図16-3  $\gamma$ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカンの経月変化

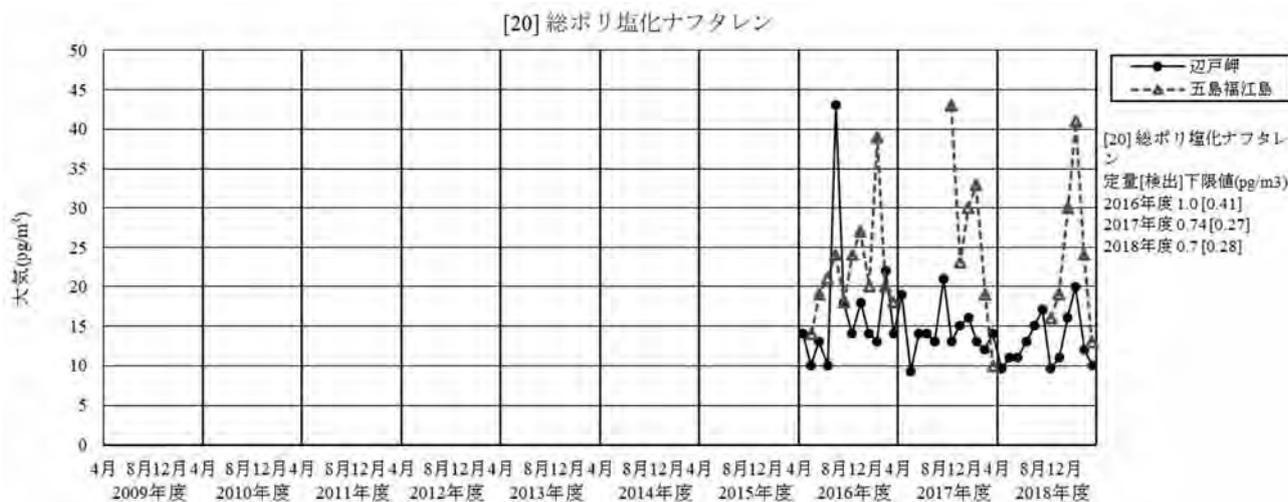


図17 総ポリ塩化ナフタレンの経月変化



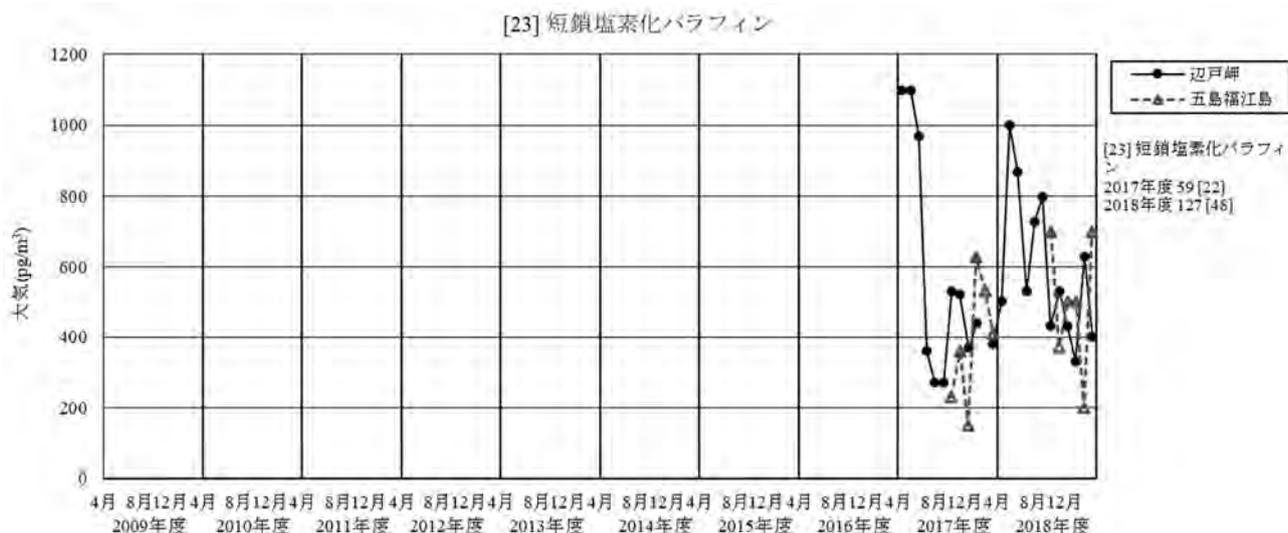


図20 短鎖塩素化パラフィンの経月変化

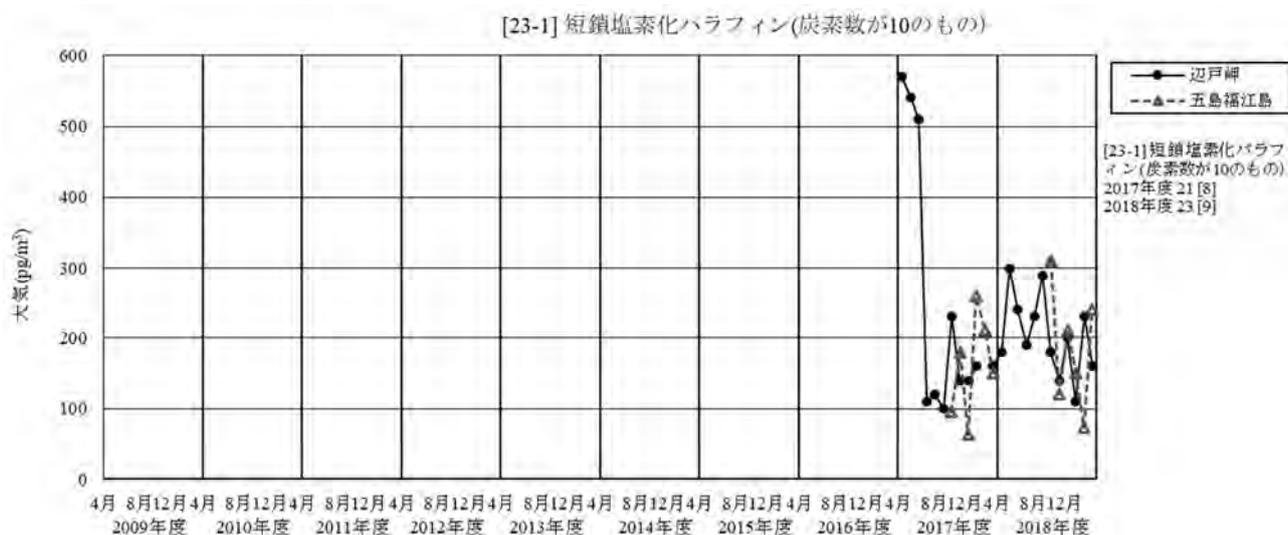


図20-1 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が10のもの)の経月変化

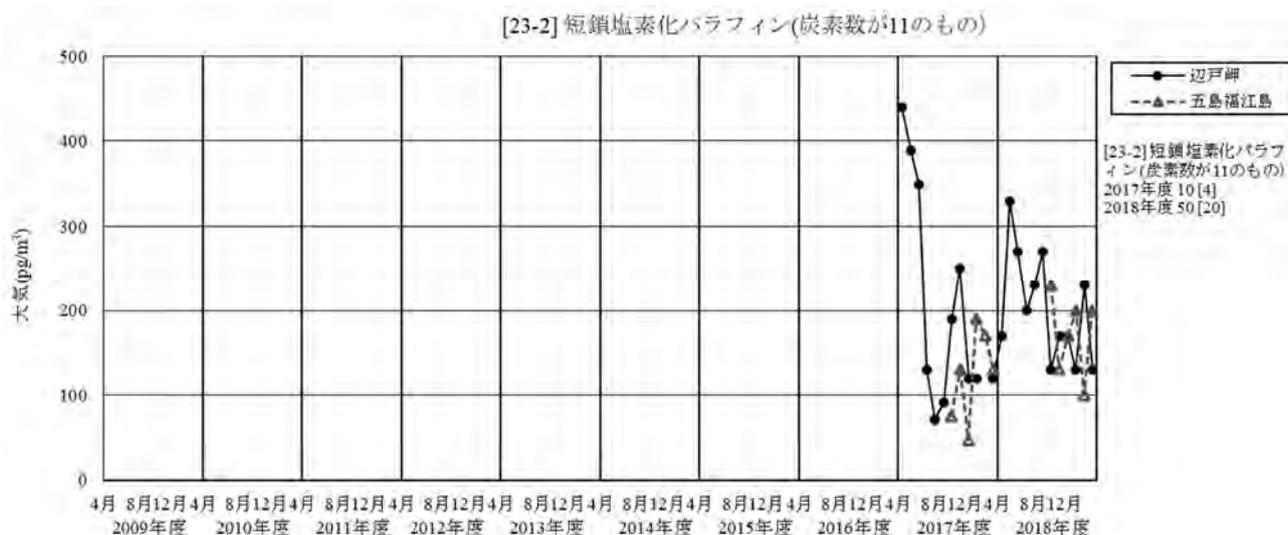


図20-2 短鎖塩素化パラフィン(炭素数が11のもの)の経月変化



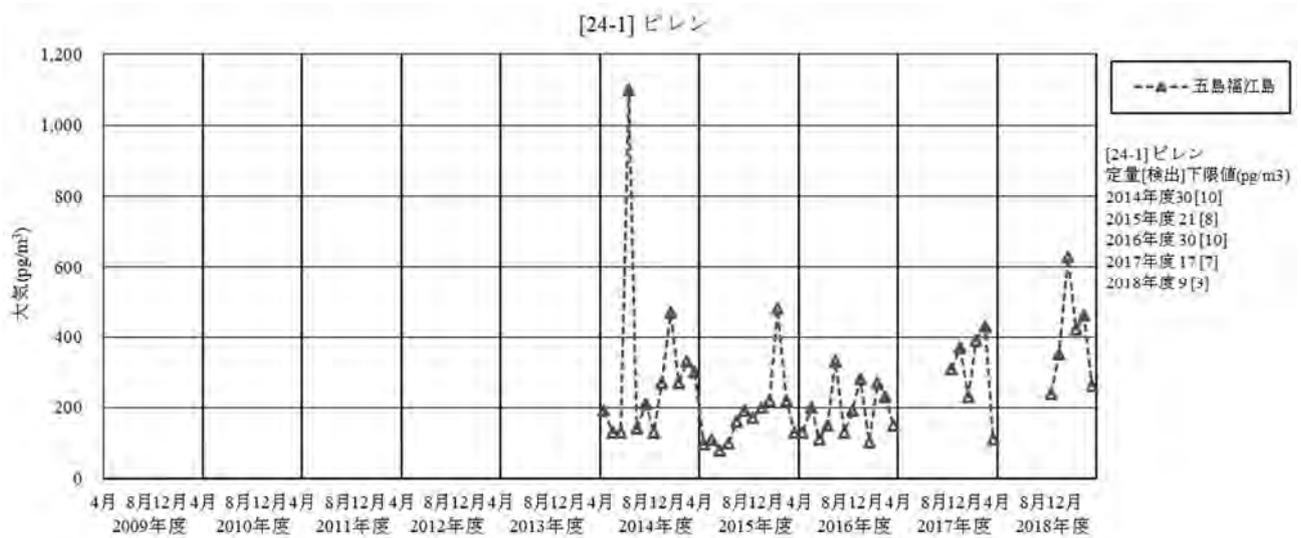


図21-1 ビレンの経月変化

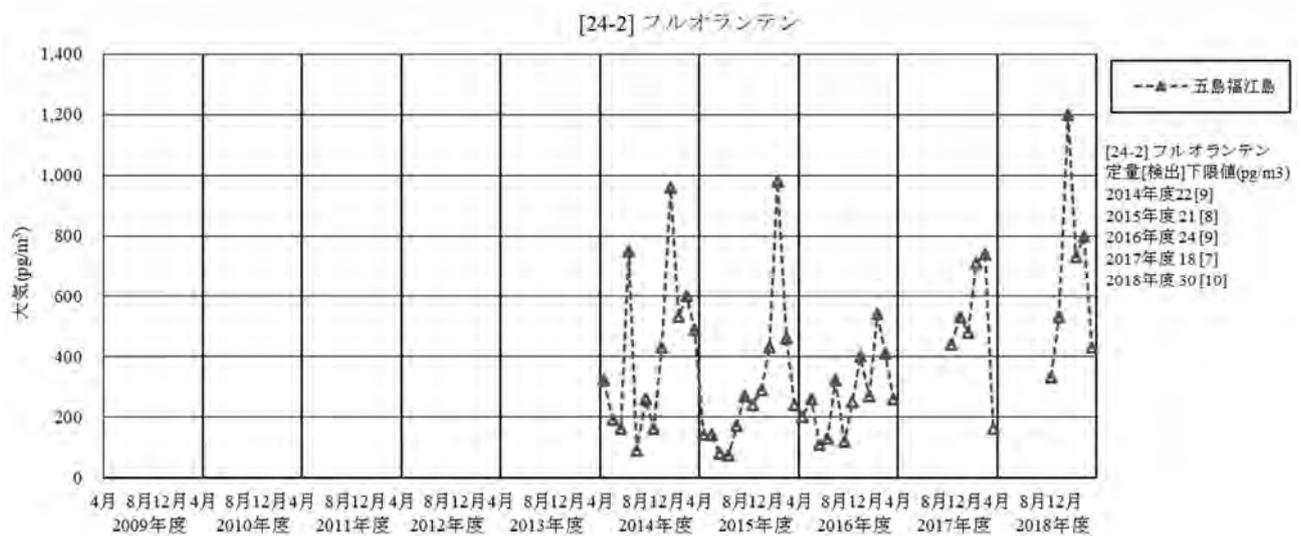
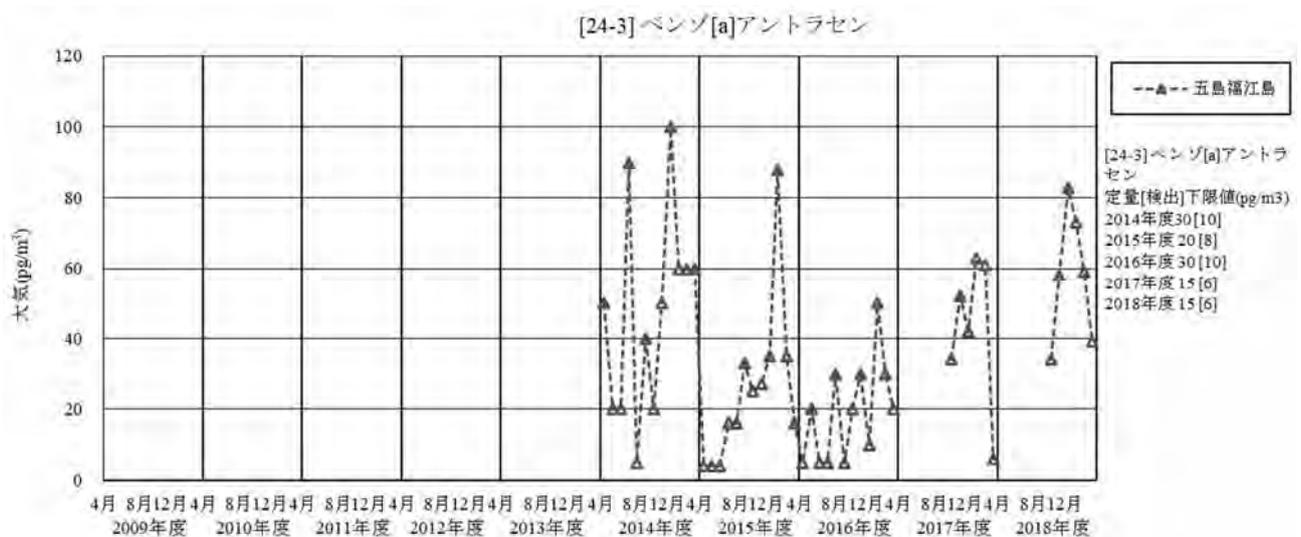


図21-2 フルオランテンの経月変化



(注) 月平均値が検出下限値未満であった月については、検出下限値の1/2の値を图示した。

図21-3 ベンゾ[a]アントラセンの経月変化

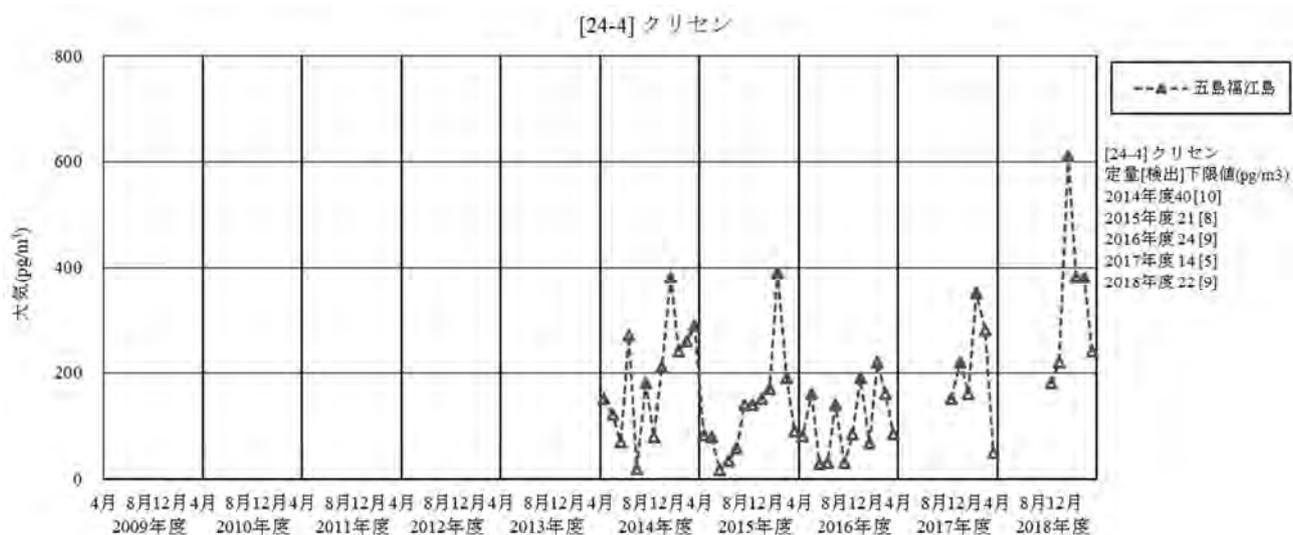
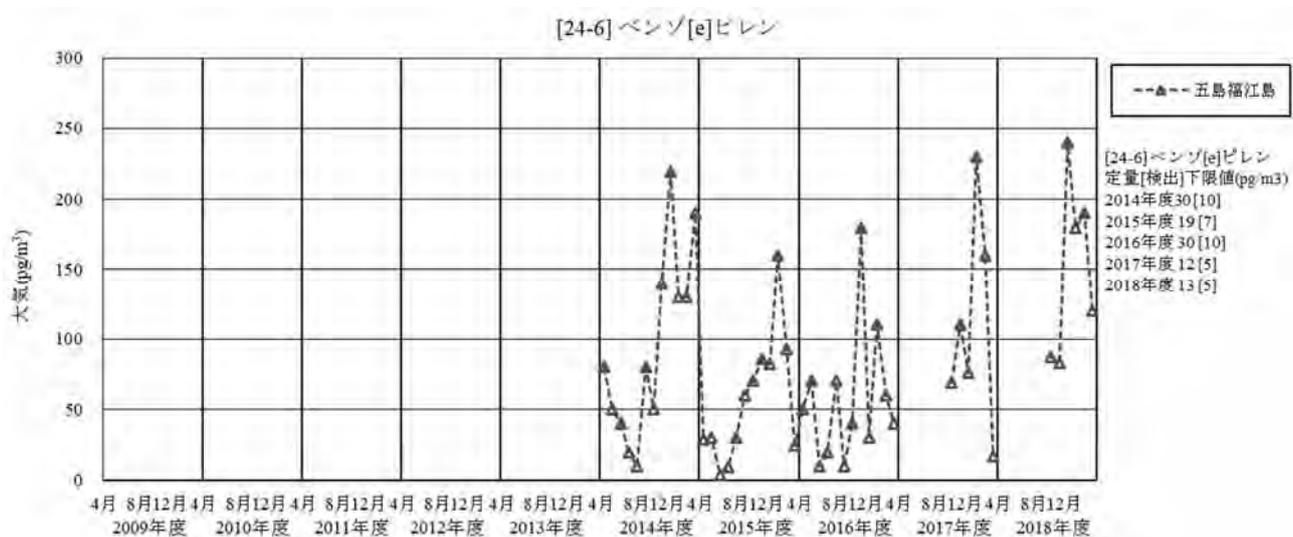
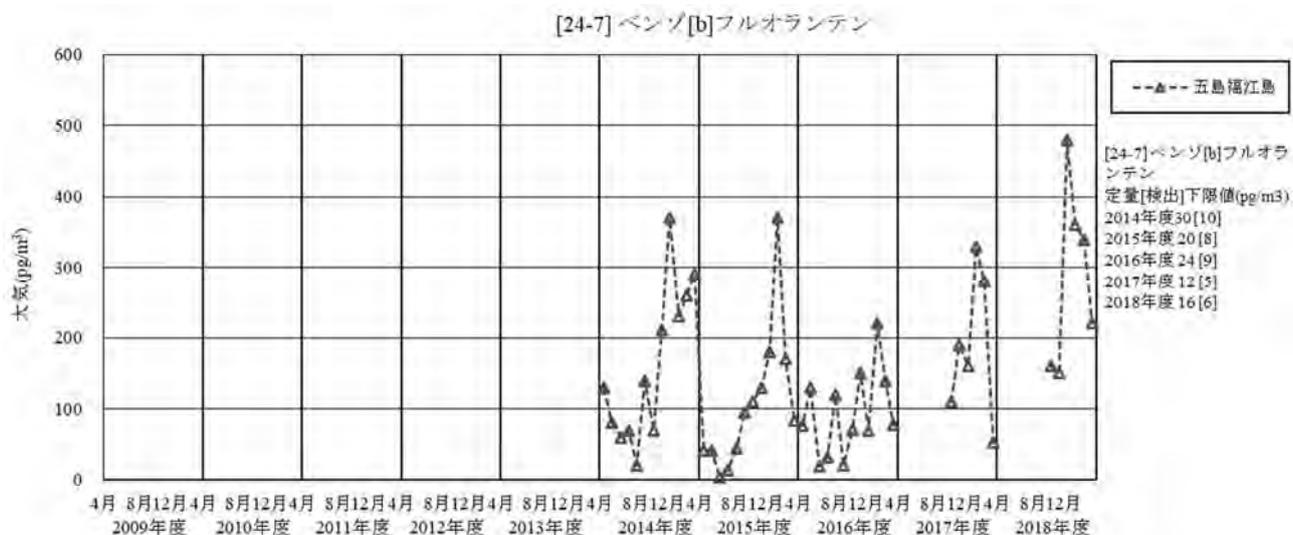


図21-4 クリセンの経月変化



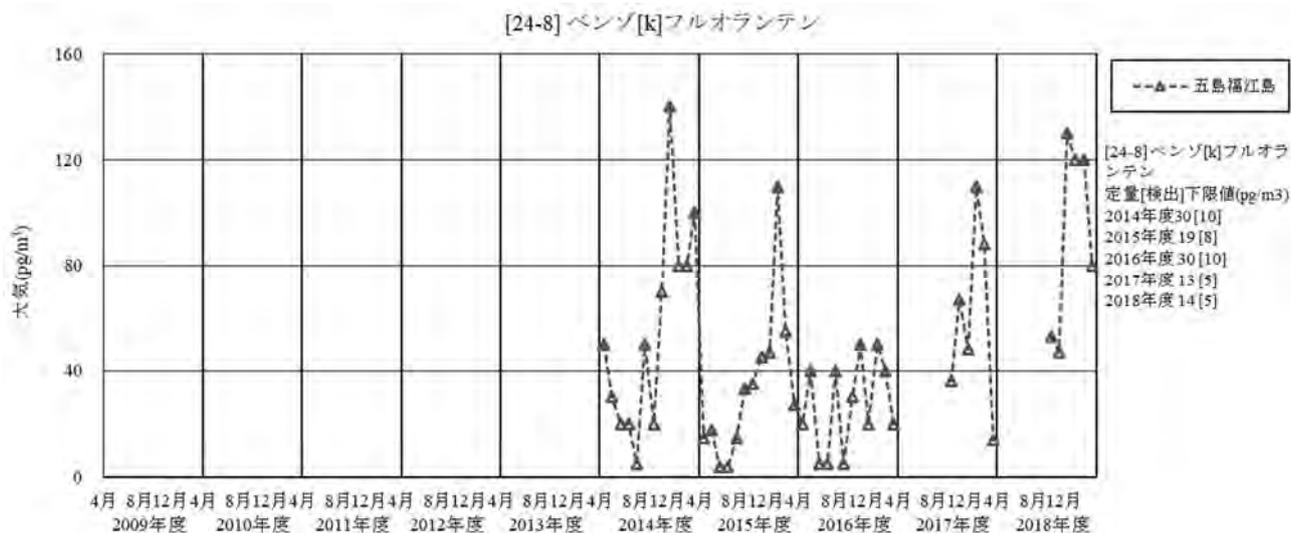
(注) 月平均値が検出下限値未満であった月については、検出下限値の1/2の値を图示した。

図21-5 ベンゾ[e]ピレンの経月変化



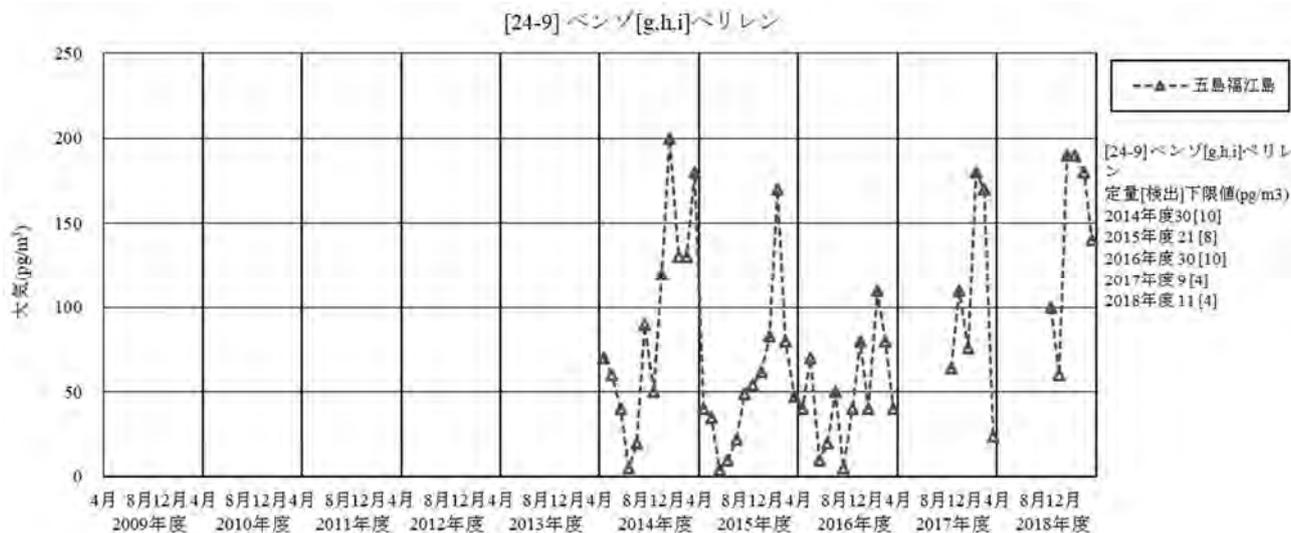
(注) 月平均値が検出下限値未満であった月については、検出下限値の1/2の値を图示した。

図21-6 ベンゾ[b]フルオランテンの経月変化



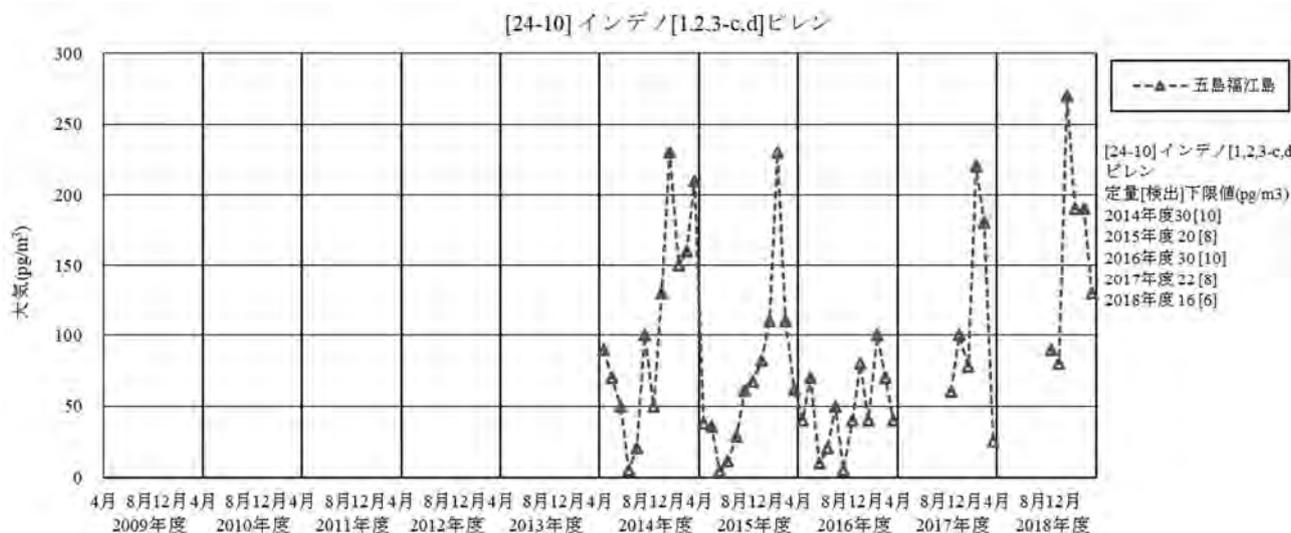
(注) 月平均値が検出下限値未満であった月については、検出下限値の1/2の値を图示した。

図21-7 ベンゾ[k]フルオランテンの経月変化



(注) 月平均値が検出下限値未満であった月については、検出下限値の1/2の値を图示した。

図21-8 ベンゾ[g,h,i]ペリレンの経月変化



(注) 月平均値が検出下限値未満であった月については、検出下限値の1/2の値を图示した。

図21-9 インデノ[1,2,3-c,d]ピレンの経月変化